高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２４年６月

徳山工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　目的 ・・ 2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
基準３　教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・237
基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・277
基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・364
基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・386
基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・450
基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・489

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名　徳山工業高等専門学校

（２）所在地　山口県周南市

（３）学科等の構成

学　科：
機械電気工学科，情報電子工学科，
土木建築工学科
専攻科：
機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，
環境建設工学専攻

（４）学生数及び教員数（平成２４年５月１日現在）

学生数：学　科６３１人
　　専攻科６８人
専任教員数：５７人
助手数：２人

２　特徴

・伝統，建学の精神，理念など

本校は，３つの複合学科および専攻より成り，それぞれの境界領域を含めた専門分野において基礎理論の習熟とともに実験実習に重点をおいた教育を行い，実技に明るく，総合的判断力に優れた実践的技術者の養成をめざしている。開学（昭和４９年）当初から，開発型教育に力を注いできており，ロボコンを始めとする各種コンテストや創造教育に係る受賞などで多くの実績を有している。なお，本科１年は混合学級制度が採用され，得意とする技術分野の異なる学生同士が交流し易い環境にある。

平成６年に「テクノ・リフレッシュ教育センター」を，さらに平成９年には高専と地場の企業との連携を行う「徳山高専テクノ・アカデミア」を創設し，地域の企業との共同研究などを通じ，実際の現場の問題を解決することによって，実践力のある技術者の育成に努めてきた。

・創造教育

高専が早期創造教育の可能な高等教育機関であるとの認識から，創造性育成のための教育方法の開発と実践を積極的に進めている。平成７年度からは機械電気工学科で，平成８年度からは情報電子工学科および土木建築工学科で創造演習の時間を新設し，学生の自発性，創造性育成の取り組みを開始した。創造教育では，自分自身で課題を見出し，自らの発想により答えをみつけ，新しいものを生み出す力を養成することを目的としている。

・専攻科教育

平成７年度に，専攻科を設置した。平成１５年度には工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定の本審査を受審し，以来，継続してプログラム認定されている。JABEEプログラムの修了に際しては，研究の成果をまとめ，世に問う経験を積むため，特別研究の成果について学協会での発表を修了要件として義務づけ，国際会議を含め毎年３０件程度の発表があり，優秀講演表彰なども受けている。さらにTOEICスコア420以上の取得と、情報関連等外部資格の取得を修了要件としている。カリキュラム上の特色は，専攻科１年次前期のインターンシップ（約３ヶ月），情報技術，英語力およびプレゼンテーション能力の向上に力を注いでいること，並びに実践的な開発型教育の充実にある。なかでも，専攻科１年次前期の「産業論」を起点とし「インターンシップ」および「総合演習」「総合実験」から構成されるデザイン能力の育成と，これらを補完する「経営管理」「経営工学」等のリベラルアーツ教育に特色がある。

・新しい取り組み

平成１９年度より「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」の取組みを開始し，本科・専攻科ともにデザイン能力の育成に努めるとともに，専攻科ではこれらを補完する形でリベラルアーツ教育を充実して総合的マネージメント能力の育成に努めている。平成２１年度には「英語力向上タスクフォースII」において英語力向上のための方策を検討し，英語授業への多読教材の導入や，海外研修助成制度による語学研修，海外の高等教育機関におけるインターンシップを推進して高い成果をあげている。平成２２年度より情報電子工学科において「高専―大学連携による組込みソフトウェア関連技術教育の高度化」事業を開始し，組み込みソフトウェアに関するカリキュラムやシラバスの改善に取組んでいる。

平成１４年度に開設したチャレンジショップ「高専夢広場」では，学生も参加して，「いんぐりっしゅ☆る～む」を継続して開催するとともに，平成２０年以降には「哲学カフェ」「英語多読教習所」「サイエンスアゴラ」などを新たに開催し，本校の活動について地域の理解と連携を深めている。

Ⅱ　目的

徳山工業高等専門学校の使命

教育目標

　世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

１　学習・教育目標

○ 準学士課程の学習・教育目標と具体的到達目標

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために

（Ａ１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

（Ａ２）国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・自らの目標を定め，外部試験を活用して，英語力のステップアップを図る

（B）「実践力のある」技術者をめざすために

（Ｂ１）情報技術をベースに，実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

（Ｂ２）自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

（C）「開発型」技術者をめざすために

（Ｃ１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち，ひとつの分野の定められた科目を修得する

（Ｃ２）課題を把握し解決する力を身につけ，感性・創造性を磨き養うこと

・創造系の科目を修得する

・創造演習発表会，卒業研究発表会などで発表を行う

○ 専攻科課程の学習・教育目標と具体的到達目標

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために

（Ａ１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

・学士を取得する

（Ａ２）国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・ＴＯＥＩＣにおいて４２０以上のスコアを取得する

（B）「実践力のある」技術者をめざすために

（Ｂ１）情報技術をベースに，実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

・情報関連等外部資格を取得する

（Ｂ２）自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

（C）「開発型」技術者をめざすために

（Ｃ１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち，ひとつの分野の定められた科目を修得する

・総合科目（２科目以上）及び総合演習の科目を修得する

（Ｃ２）課題を把握し解決する力を身につけ，感性・創造性を磨き養うこと

・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する

・国内外の学協会で発表を行う

２　養成しようとする技術者像

情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者

○本科卒業生のめざす技術者像と到達目標

自らの業務における技術的課題を解決できる技術者

○専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標

自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者

３　各学科／専攻で修得する技術

準学士課程と専攻科課程が１対１で対応しているため，双方のめざす技術者像も踏まえて，学科／専攻を通して修得する技術を明確に定めている。

○機械電気工学科／機械制御工学専攻

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」／

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」

○情報電子工学科／情報電子工学専攻

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」／

「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」

○土木建築工学科／環境建設工学専攻

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」／

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」

教育活動等の基本的な方針，教育目標等

１　教育，研究，社会との連携，国際交流等に関する目標

上述のような人材の育成を目標として，既成概念にとらわれずチャレンジ精神をもって教育・研究に取り組み，世界に認められる個性をもった教育界のオンリーワンをめざす。

２　業務運営の改善および効率化に関する目標

自己評価委員会を中心として，各部署の教育点検システム（計画-実施-評価-改善のサイクル）が機能していることを確認し、業務の継続的な改善を図る。また，毎年度各教員に年間職務の自己評価を行わせ，教育方法等の改善を図らせる。

３　財務内容の改善に関する目標

国立高等専門学校機構の定めた中期計画による効率化を踏まえ，従来業務に係る経費の削減を行うとともに，新規業務に対する戦略的な資金投入を行う。また，外部資金の積極的な導入を進め，総経費の５％程度を外部資金（知的財産の活用に伴う資金も含む。）により確保する。

４　社会への説明責任に関する目標

Webサイトの充実などによる可能な限りの情報公開，授業や卒業研究の成果の公開，シラバスの内容，授業評価の内容などの公開，教員の研究成果などの開示を通して，社会に対する説明責任能力を高める。

５　その他業務運営に関する重要目標

日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を継続するとともに，本校教育の高度化と教員の業績向上により国際的同等性を確保し，専攻科修了生の学位授与を実質的に可能とする。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校では，昭和４９年の開学時に「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，有為の人材を育成する」ことを目的に掲げ，現在に至るまで教育を行ってきた（資料１－１－①－１）。

資料１－１－①－１　本校の使命

徳山工業高等専門学校学則

第１章　目　　的

（目　的）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり，及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，有為の人材を育成することを目的とする。

出典：学生便覧

平成５年には，教育目標を

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

とし，めざすべき教育のねらいを明示した。平成１４年度にはそのねらいをより明確にするため，「世界に通用する」「実践力のある」「開発型」という３つの理念をそれぞれ２つに具体化し，学習・教育目標とした（資料１－１－①－２）。それと同時に，養成しようとする技術者像を

「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，
設計・開発を行う素養をもつ技術者」

と定めた（資料１－１－①－３）。

これらは本校の伝統や実績並びに社会の要求等を考慮しており，準学士課程と専攻科課程に共通した本校全体でめざすべき目標である。

平成１７年度には，準学士課程卒業生と専攻科課程修了生のめざす技術者像や到達目標をさらに明確にした（資料１－１－①－３）。基本的素養や自主性・自立性の到達度は準学士課程卒業生も専攻科課程修了生も変わりがなく，両者の差は，技術的課題への対応経験や訓練が社会でなされるか在学中になされるかの違いと位置づけている。これらの内容を，学習・教育目標に沿ってより具体的に定めたものを（資料１－１－①－４）に示す。

なお，この具体的到達目標は，準学士課程と専攻科課程を終えるとき，全員が到達する内容を示している。また，そのイメージを，（資料１－１－①－３）に併せて示した。

さらに，本校は準学士課程と専攻科課程が１対１に対応しているため，各学科／専攻を通し，修得すべき複合技術を定めている。また，準学士課程卒業生と専攻科課程修了生のめざす技術者像を踏まえ，学科と専攻でそれぞれ修得する技術も明確にしている（資料１－１－①－５）。

学習・教育目標と養成しようとする技術者像，それらを実現すべき具体的到達目標，並びに各学科／専攻で修得する技術の相互関係を（資料１－１－①－６）に示した。

学校教育法第１１５条には「深く専門の学芸を教授」し，「職業に必要な能力を育成」するという二つの具体的な目的が規定されている。これらの目的と，本校の学習・教育目標や養成しようとする技術者像との対応を示すと，次のようになる。

「深く専門の学芸を教授」

学習・教育目標：（Ａ１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

（Ｃ１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

養成しようとする技術者像：

・・・，それぞれ得意とする専門技術を生かして，・・・

「職業に必要な能力を育成」

学習・教育目標：（Ａ２）国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

（Ｂ１）情報技術をベースに，実体験を通して表現力を身につけること

（Ｂ２）自主性と自立性を養うこと

（Ｃ２）課題を把握し解決する力を身につけ，感性・創造性を磨き養うこと

養成しようとする技術者像：

情報技術をベースに，・・・，設計・開発を行う素養をもつ

以上のように，本校の学習・教育目標や養成しようとする技術者像は，学校教育法で定められている目的との関連を明確に意識して定められている。

資料１－１－①－２　学習・教育目標

学習・教育目標
Educational Goal

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

To educate the students to be future engineers with a world-class competitive edge, practical skills, and competence in research and development



徳山高専は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を、平成５年度から教育目標として掲げてきました。平成14年度にはその内容をさらに具体化し、次に示す６つの学習・教育目標にまとめました。左のイラストは、そのイメージをまとめたものです。

Tokuyama College of Technology has put "to educate the students to be future engineers with a world-class competitive edge, practical skills, and competence in research and development" forward as its educational goal since 1993. Based on the educational goal, our college set the following six concrete goals in 2002. The chart on the left illustrates how these goals are pursued in our college.

(A)「世界に通用する」技術者をめざすために
（A1）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
（A2）国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

(B)「実践力のある」技術者をめざすために
（B1）情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
（B2）自主性と自立性を養うこと

(C)「開発型」技術者をめざすために
（C1）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
（C2）課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

(A) In order to educate our students to be future engineers with a world-class competitive edge, we get them
(A1) to acquire basic knowledge to apply to interdisciplinary fields, and
(A2) to deepen their global understanding, cultivate their ethics for engineers, and improve their communicative ability.

(B) In order to educate our students to be future engineers with practical skills, we get them
(B1) to be able to utilize information technology and improve their presentation ability through practice and internship programs, and
(B2) to be independent.

(C) In order to educate our students to be future engineers with competence in research and development, we get them
(C1) to improve the ability to combine and organize their knowledge of various fields, and
(C2) to be able to analyze, address and solve problems and polish their sensibility and creativity.

—9—

出典：学校要覧

資料１－１－①－３　養成しようとする技術者像

育成しようとする技術者像
The Engineers Our College Aims to Send Out into Society

本校では、学習・教育目標の実現をめざして教育を行い、次のような技術者を育てようとしています。これは、「本科と専攻科に共通した」本校で育成しようとする技術者像で、平成14年度に定めたものです。

Trying to achieve our educational goal, our college has been training the students to be an engineer with the following abilities. The images of a desirable engineer with these abilities that our college aims to send out into society were defined for both undergraduate and advanced courses in 2002.

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者

Engineers who have a good command of information technology and good grounding in designing and developing anything by utilizing their strong compound technologies

学習･教育目標や育成しようとする技術者像を踏まえつつ、本科卒業生と専攻科修了生のめざす技術者像や到達目標を、平成17年度に明確にしました。自然科学系科目や基礎工学科目などの基本的素養や自主性・自立性の到達度は本科も専攻科も変わりがなく、両者の差は、技術的課題への対応経験や訓練が社会でなされるか在学中になされるかの違いだといえます。そのイメージを下のイラストにまとめています。

本科卒業生のめざす技術者像と到達目標

自らの業務における技術的課題を解決できる技術者

実地経験と具体的な業務に応じた学習により、専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと

Specific goal for undergraduate course students to achieve and the desirable engineers for them to become

Engineers who can solve technical problems in their work

Engineers who have basic knowledge and abilities through practical experiences at their work and can carry out tasks in the engineering field

専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標

自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者

技術者の行う諸活動（研究、技術指導、起業など）に必要な基本的な素養をもつこと

Specific goal for advanced course students to achieve and the desirable engineers for them to become

Engineers who can solve various technical problems in their specialized fields

Engineers who have basic knowledge and abilities to carry out various activities in the engineering field such as doing research, giving technical advice and instructions and starting a business



— 10 —

出典：学校要覧

資料１－１－①－４　具体的到達目標

具体的到達目標
Concrete Goals for the Students to Achieve

本科卒業生と専攻科修了生のめざす到達目標を、学習・教育目標に沿って、より具体的に定めました。この具体的目標は、準学士課程と専攻科課程を終えるとき、全員が到達する内容を示しています。

In line with our educational goal, our college has set more specific goals for undergraduate and advanced courses respectively. All the students are supposed to achieve the following goals when they have completed their undergraduate and advanced courses.

準学士課程卒業時
When You Have Completed the Undergraduate Course

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために
（A１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
（A２）国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
・自らの目標を定め、外部試験を活用して、英語力のステップアップを図る
（B）「実践力のある」技術者をめざすために
（B１）情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
・情報関連・実験の科目を修得する
（B２）自主性と自立性を養うこと
・卒業研究の科目を修得する
（C）「開発型」技術者をめざすために
（C１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
（C２）課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
・創造系の科目を修得する
・創造演習発表会、卒業研究発表会などで発表を行う



専攻科課程修了時
When You Have Completed the Advanced Course

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために
（A１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
・学士を取得する
（A２）国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
・TOEICにおいて400以上のスコアを取得する
（B）「実践力のある」技術者をめざすために
（B１）情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
・情報関連・実験の科目を修得する
・情報関連等外部資格を取得する
（B２）自主性と自立性を養うこと
・卒業研究の科目を修得する
（C）「開発型」技術者をめざすために
（C１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
・総合科目（２科目以上）及び総合演習の科目を修得する
（C２）課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
・国内外の学協会で発表を行う



—12—

出典：学校要覧

資料１－１－①－５　各学科／専攻で修得する技術

各学科／専攻で修得する技術
Technological Skills the Students Are Required to Master

本校は本科と専攻科が１対１に対応しているため、学科／専攻を通して修得する技術を定めています。また、本科卒業生と専攻科修了生のめざす技術者像も踏まえ、各学科と専攻で修得する技術を明確にしました。

Our college has three five-year undergraduate courses and each undergraduate course is followed by its corresponding two-year advanced course. The technological skills that the undergraduate and advanced course students are required to master in common have already been shown, in addition, on the basis of the images of a desirable engineer that our college aims to send out into society, we have specified the following as technological skills that the undergraduate and advanced course students are required to master respectively.



Technologies of mechatronic engineering

機械電気工学科

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」

Technological skills to design and produce machines controlled by computers

機械制御工学専攻

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」

Technological skills to design and develop machines controlled by computers

情報電子工学科

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」

Technological skills to design and build computer-based electronic telecommunications systems

情報電子工学専攻

「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」

Technological skills to design and develop various computer-based systems



Technologies of computer science and electronic engineering



Technologies of environmental and civil engineering

土木建築工学科

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」

IT-based skills to design and construct infrastructure and architectural space

環境建設工学専攻

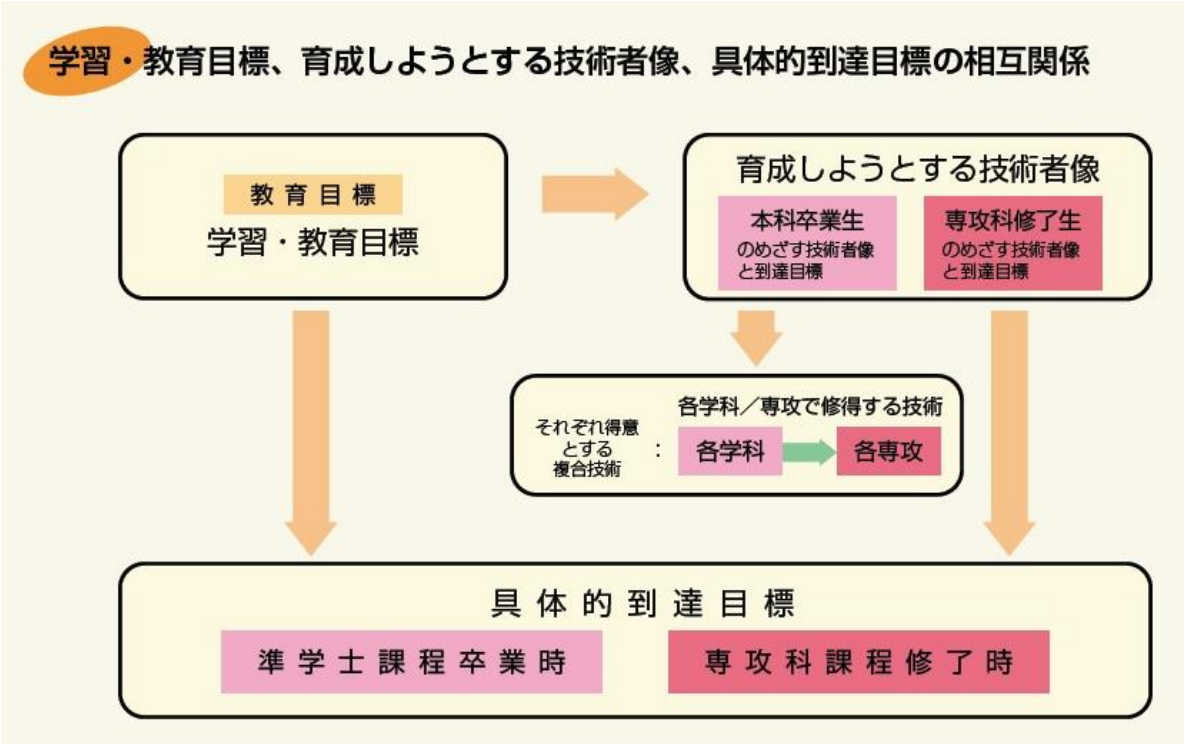
「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」

IT-based skills to design and develop infrastructure and architectural space

—11—

出典：学校要覧

資料１－１－①－６　学習・教育目標，養成しようとする技術者像および具体的到達目標の相互関係



出典：学校要覧

（分析結果とその根拠理由）

本校では，昭和４９年の開学以来，教育の基本方針は一貫して変わっていないが，平成５年に現在の教育目標を掲げることでめざすべき教育のねらいを定め，以後，学習・教育目標，養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術並びに準学士課程卒業時と専攻科課程修了時の具体的到達目標など，その内容をより明確に示してきており，全体像が定まっている。

また本校の学習・教育目標や養成しようとする技術者像は，高等専門学校の設立趣旨および学校教育法上の目的との対応が明確となっている。

以上のことから，本校は，高等専門学校としての目的，学科，専攻科ごとの目的を個性や特色に応じて明確に定め，その目的は学校教育法の定める目的から外れるものではない。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

学習・教育目標，養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術は，本校が作成する多くの出版物に明示されている。代表的な出版物として学生便覧（資料１－２－①－１）やシラバス（資料１－２－①－２）があり，全学生と非常勤を含む教職員全員（ただし，職員は基本的には各係に１冊）に，毎年配布し周知されている。また，専攻科履修要覧（資料１－２－①－３）や専攻科学生募集要項（資料１－２－①－４）にも同様に記載がされており，関係者にはこれらも配布している。さらに，これらの情報はすべて本校Webサイトに掲載し，公表している（資料１－２－①－５）。

資料１－２－①－１　学生便覧（学習・教育目標，養成しようとする技術者像部分）

２．学習心得

（１）学習・教育目標，育成しようとする技術者像

本校は　**「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」**
を，平成５年度から教育目標として掲げてきました。平成１４年度にはその内容をさらに具体化し，次に示す６つの学習・教育目標にまとめました。

（A）**「世界に通用する」**技術者をめざすために
　（Ａ１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
　（Ａ２）国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
（B）**「実践力のある」**技術者をめざすために
　（Ｂ１）情報技術をベースに，実体験を通して表現力を身につけること
　（Ｂ２）自主性と自立性を養うこと
（C）**「開発型」**技術者をめざすために
　（Ｃ１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
　（Ｃ２）課題を把握し解決する力を身につけ，感性・創造性を磨き養うこと

本校では，この学習・教育目標の実現をめざして教育を行い，次のような技術者を育てようとしています。

「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者」

これは，本校で育成しようとする本科と専攻科に共通した技術者像で，平成１４年度に定めたものです。

一方，本科と専攻科では修業年限が異なりますので，めざす技術者像や到達目標は自ずと異なってきます。本科卒業生と専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標を次に示します。

○ 本科卒業生のめざす技術者像と到達目標

「自らの業務における技術的課題を解決できる技術者」

実地経験と具体的な業務に応じた学習により，専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと

○ 専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標

「自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者」

技術者の行う諸活動（研究，技術指導，起業など）に必要な基本的素養をもつこと

－ 9 －

出典：学生便覧

資料１－２－①－２　シラバス（養成しようとする技術者像，学習・教育目標部分）

徳山高専の学習･教育目標

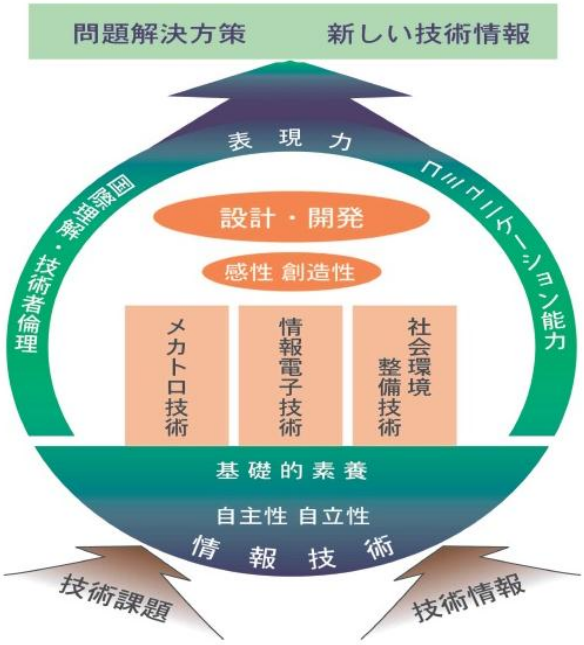
徳山高専は、**「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」**を、平成５年度から教育目標として掲げてきました。平成１４年度にはその内容をさらに具体化し、次に示す６つの学習・教育目標にまとめました。また、そのイメージをまとめたのが下のイラストです。

（A）**「世界に通用する」**技術者をめざすために
- （A1） **複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること**
- （A2） **国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと**

（B）**「実践力のある」**技術者をめざすために
- （B1） **情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること**
- （B2） **自主性と自立性を養うこと**

（C）**「開発型」**技術者をめざすために
- （C1） **複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること**
- （C2） **課題を把握し解決する力を身につけ、感性･創造性を磨き養うこと**

世界に通用する実践力のある開発型技術者



情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして設計・開発を行う素養をもつ技術者

－ 3 －

出典：シラバス

資料１－２－①－３　養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術

■学習・教育目標■

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

○専攻科課程終了時の到達目標

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために

（Ａ１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

・学士を取得する

（Ａ２）国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・ＴＯＥＩＣにおいて４２０以上のスコアを取得する

（B）「実践力のある」技術者をめざすために

（Ｂ１）情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

・情報関連等外部資格を取得する

（Ｂ２）自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

（C）「開発型」技術者をめざすために

（Ｃ１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

・総合科目（２科目以上）及び総合演習の科目を修得する

（Ｃ２）課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する

・国内外の学協会で発表を行う

■養成しようとする技術者像■

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、
設計・開発を行う素養をもつ技術者

各学科／専攻において得意とする複合技術

機械電気工学科／機械制御工学専攻
「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」
（メカトロ技術）

情報電子工学科／情報電子工学専攻
「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」
（情報電子技術）

土木建築工学科／環境建設工学専攻
「コンピュータを活用し、社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」
（社会環境整備技術）

－43－

出典：専攻科履修要覧

資料１－２－①－４　専攻科学生募集要項（目的，学習・教育目標部分）

徳山工業高等専門学校専攻科入学案内

１．専攻科の目的

本校専攻科(平成7年4月1日設置)では、高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた技術者に対し、さらに専門的な分野について精深かつより実践的な教授並びに研究指導を行っています。それらを通して深い専門的知識と表現力をはじめとする幅広い素養を身につけ、自ら課題を把握・分析し、解決の道を探ることができる感性並びに創造性豊かな人材を育てることをめざしています。

２．学習・教育目標

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

(A)「世界に通用する」技術者をめざすために

(A1)複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

・学士を取得する

(A2)国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・TOEICにおいて420以上のスコアを取得する

(B)「実践力のある」技術者をめざすために

(B1)情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

・情報関連等外部資格を取得する

(B2)自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

(C)「開発型」技術者をめざすために

(C1)複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

・総合科目(2科目以上)及び総合演習の科目を修得する

(C2)課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する

・国内外の学協会で発表を行う

－10－

出典：専攻科学生募集要項

資料１－２－①－５　学習・教育目標

学校案内
School Information

What is"高専"?
高専の教育体系
徳山高専の学習・教育目標
専攻科について
徳山高専Q&A
中期目標・中期計画
徳山高専環境への取組
校長メッセージ
学校紹介
その他
リンク集

緊急のお知らせ
高専夢広場
キャリア教育支援室
教職員紹介
産官学連携
教育研究支援センター
学校公開情報
オープンキャンパス
徳山高専を見て知ろう！学校見学会
図書館

What is "高専"？

徳山高専の学習・教育目標

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成



○ 準学士課程卒業時の到達目標

(A)「世界に通用する」技術者をめざすために
(A1)複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
・ 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

(A2)国際理解を深め、技術者としての倫理観と
コミュニケーション能力を養うこと
・ 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
・ 自らの目標を定め、外部試験を活用して、
英語力のステップアップを図る

(B)「実践力のある」技術者をめざすために
(B1)情報技術をベースに、
実体験を通して表現力を身につけること
・ 情報関連・実験の科目を修得する
(B2)自主性と自立性を養うこと
・ 卒業研究の科目を修得する

(C)「開発型」技術者をめざすために
(C1)複合分野にわたる知識を有機的に結びつける
設計能力を身につけること
・ メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、
ひとつの分野の定められた科目を修得する

(C2)課題を把握し解決する力を身につけ

○ 専攻科課程修了時の到達目標

(A)「世界に通用する」技術者をめざすために
(A1)複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
・ 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
・ 学士を取得する

(A2)国際理解を深め、技術者としての倫理観と
コミュニケーション能力を養うこと
・ 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
・ TOEIC において400以上のスコアを取得する

(B)「実践力のある」技術者をめざすために
(B1)情報技術をベースに、
実体験を通して表現力を身につけること
・ 情報関連・実験の科目を修得する
・ 情報関連等外部資格を取得する

(B2)自主性と自立性を養うこと
・ 卒業研究の科目を修得する

(C)「開発型」技術者をめざすために
(C1)複合分野にわたる知識を有機的に結びつける
設計能力を身につけること
・ メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、
ひとつの分野の定められた科目を修得する

出典：本校 Web サイト

学生に対しては，新年度当初に配布する出版物をもとに，周知に努めている。新入学生に対しては，入学時のオリエンテーションにおいて，本科は教務主事，専攻科は専攻科長が周知を図っている（資料１－２－①－６）。また，在学生に対しては，毎年度，始業式に行う学年別オリエンテーション並びに学科ホームルームにおいて，教務主事室および学科主任が周知を図っている(資料１－２－①－７)。なお，学年別オリエンテーションと学科ホームルームには教員全員が参加することになっており(資料１－２－①－７)，全教員への周知を図っている。

さらに，日頃から学習・教育目標に触れる機会をもつため，すべての教室に，目標と時計とが一体になった本校オリジナルのパネル（資料１－２－①－８）を掲示している。

これらの目的は，教職員（非常勤教員を含む）に対しては配布する印刷物やWebサイトにより周知しており，新任転任教職員には研修会（資料１－２－①－９）を開催し，重点的に説明を行っている。さらに教職員は，裏に学習・教育目標が印刷されている顔写真入りの名札（資料１－２－①－１０）を付けており，必要に応じて利用している。

資料１－２－①－６　新入学生オリエンテーション実施要領

平成24年度新入生オリエンテーション

日　時　：　平成24年4月5日(木)，6日(金)
場　所　：　教室・メディアホール

	4月　5日(木)	※メディアホールには筆記用具を持参。	
(1)	１年生合宿研修説明会 (学生主事)	11:50　～　12:40　(50分) 場 所 ： メディアホール (合宿研修説明会終了後は帰宅)	
	4月　6日(金)	※メディアホールには学生便覧、シラバス、情報モラル及び筆記用具を持参。	
(1)	クラスHR 1年1組 前川 直也 1年2組 柏倉 知秀 1年3組 米田 郁生	8:50～　9:40　(50分) (休憩 5分) 9:45～　10:35　(50分) 場 所 ： 教 室	1時限 2時限
		(休憩10分)	
(2)	教務主事 (田村 隆弘)	10:45　～　11:10　(25分) 場 所 ： メディアホール	3時限
(3)	学生主事 (佐賀 孝徳)	11:10　～　11:35　(25分) 場 所 ： メディアホール	
		(休憩 5分)	
(4)	一般科目主任 (一色 誠子)	11:40　～　12:05　(25分) 場 所 ： メディアホール	4時限
(5)	ｻﾃﾗｲﾄ運営委員会委員長 (小川 仁志)	12:05　～　12:15　(10分) 場 所 ： メディアホール	
(6)	教務係長 (大谷　幸)	12:15　～　12:30　(15分) 入学動機に関するアンケート調査・学科別授業説明	
		(休憩45分)	
(7)	情報処理センター長 (奥本　幸)	13:15　～　13:40　(25分) 場 所 ： メディアホール	5時限
(8)	図書館長 (上　俊二)	13:40　～　14:05　(25分) 場 所 ： メディアホール	
		(休憩 5分)	
(9)	学生相談室長 (長戸，三浦，小林，桑嶋)	14:10　～　15:00　(50分) 場 所 ： メディアホール	6時限
		(休憩10分)	
(10)	学科別オリエンテーション 担当：各学科主任	15:10　～　16:00　(50分) 場 所 ： 学科別教室	7時限
	機械電気工学科は，1年1組の教室　櫻本学科主任 情報電子工学科は，1年2組の教室　義永学科主任 土木建築工学科は，1年3組の教室　古田学科主任	1年生担当教員紹介 1年生担当教員紹介 1年生担当教員紹介	

出典：教務係資料

資料１－２－①－７　学科別オリエンテーション実施要領

平成２４年度始業式(4月5日)日程表

徳山工業高等専門学校

Ⅰ　合同HR(9:00～9:40)(8:50集合)

○　場　所：第２体育館

○　出席者：本科生・専攻科生全員、教員全員、関係職員

１．校長、教務主事、学生主事の話

２．新任教員、編入生、留学生の紹介

３．連絡事項（本日の予定について）

Ⅱ　学科HR(10:00～10:40)

○　場　所：ME/MC：第２体育館　ＩE/CE：メディアホール　　CA/EC：第１体育館

○　出席者：本科生・専攻科生全員、教員全員

１．主任の話（学科／専攻のめざすべき技術者像、当年度の目標、心構え、など）

２．再度、新任教員、編入生、留学生の紹介

３．進路状況について

４．教務関係や学生関係に関し、各学科の事情に合わせて内容を選び、話す

Ⅲ　本科はクラスHR(10:50～11:40)

・専攻科はオリエンテーション(10:50～15:00／終了後解散)

(専攻科担当：専攻科長、専攻幹事、教務係／内容は別紙参照)

○　場　所：本科／各ＨＲ　　専攻科／教室・管理棟２階大会議室

○　配布物：全員／学生便覧、学生証　　専攻科生／研究日誌、専攻科履修要覧

Ⅳ　本科1年生は合宿研修説明会(11:50～12:40／終了後解散

○　場　所：メディアホール　　**※1年生のオリエンテーションは4月6日に実施)**

○　参加者：１年生、４・５年の指導学生、学生主事、学生主事補、１年担任、学生係職員

Ⅴ　オリエンテーション(13:15～15:20)　※先生方もいずれかに出席をお願いします。

○　場　所：第２体育館に全員集合　学生主事の話の後

本科２～３年／第２体育館，本科４～５年／第１体育館に分かれて実施

○　所持品：学生便覧、シラバス、筆記具、研究日誌（5年生）

１．出席確認／クラス担任（１３：１５～１３：２０）　高橋主事補に報告

２．情報モラルについて（学生主事）（１３：２０～１３：５０）

本科４～５年は第１体育館に移動（出席確認／クラス担任）　高橋主事補に報告

３．教育方針ならびに教務関連について（１４：００～１４：３０）

○　担当：２～３年／教務主事補（中川）　４～５年／教務主事補（森崎）

４．学生生活について（１４：３０～１５：００）

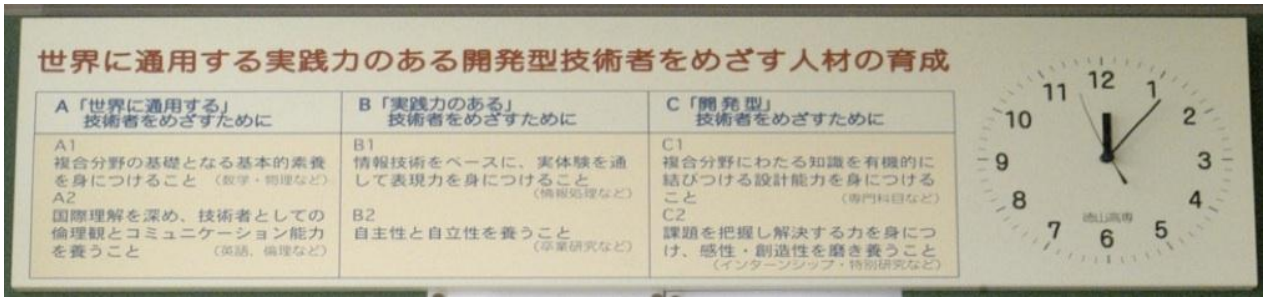
○　担当：２～３年／学生主事輔（小川）　４～５年／学生主事（佐賀）

５．キャリア教育支援室について（１５:００～１５：２０）

○　担当：２～３年／（ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）　４～５年／（ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）

出典：教務係資料

資料１－２－①－８　本校オリジナルの各教室掲示板



出典：教務係資料

資料１－２－①－９　新規採用教職員オリエンテーション

平成２３・２４年度新規採用教職員オリエンテーション実施要項

１．目　的　　独立行政法人国立高等専門学校機構徳山工業高等専門学校の教職員として必要な心構えを自覚させるとともに、業務遂行上の基礎知識及び認識すべき事項等を周知・理解させることを目的とする。

２．期　日　　平成２４年６月７日（木）

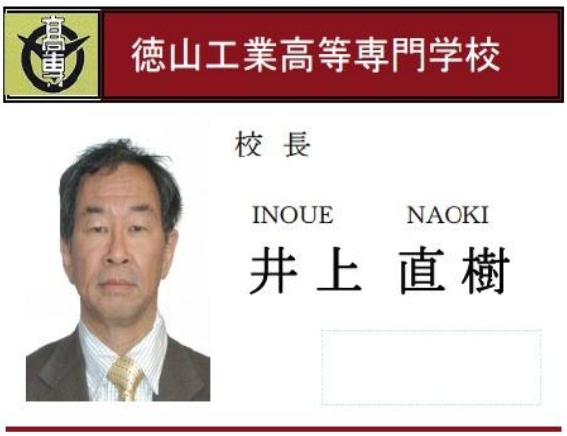
３．場　所　　管理棟１階小会議室

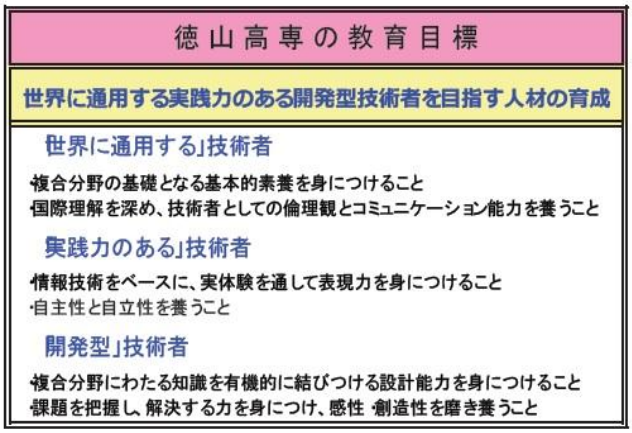
４．対象者　　平成２３年４月１日～２４年４月１日に採用された教職員

５．日程及び講師　　別紙日程表のとおり

出典：総務課資料

資料１－２－①－１０　学習・教育目標が記載されている教職員名札



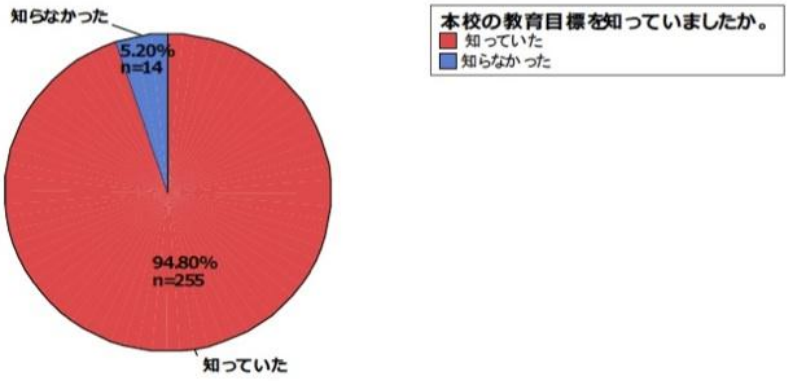


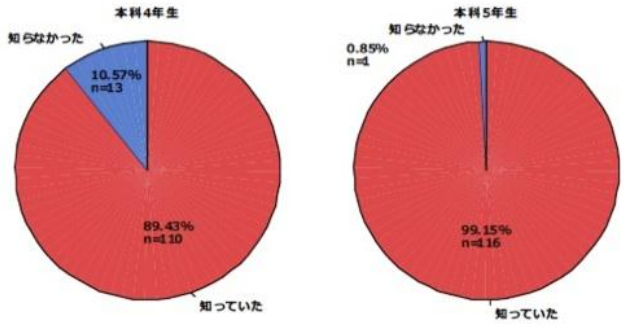
出典：教務係資料

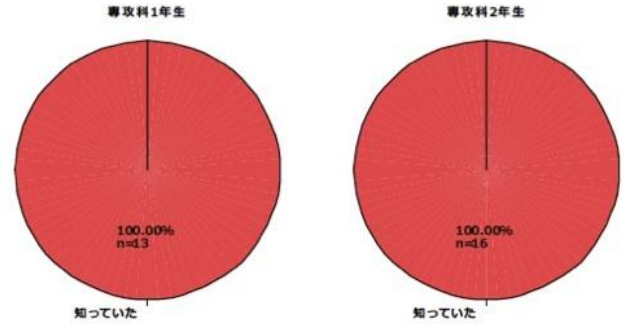
本校では，平成１４年度より５年おきに，本科４・５年生および専攻科生を対象にアンケートを実施している。平成１９年度のアンケートでは，始業式オリエンテーション，学校要覧やシラバス等の出版物，教室の時計付き掲示板により，約 95%の学生が本校の学習・教育目標を知ったことが明らかとなっており，本校の学習・教育目標の公開方法は効果的であると言える（資料１－２－①－１１）。なお，平成２４年度のアンケートを，現在，実施中である。

資料１－２－①－１１　平成１９年度アンケート結果

質問番号	質問（該当する選択肢の番号を回答欄に書いて下さい）
２－１	本校の教育目標「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を，このアンケート以前から知っていましたか。　(1) 知っていた　(2) 知らなかった







出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

本校が作成する多くの出版物やWebサイトに，学習・教育目標を始めとする一連の教育目的が記載・掲載され，本校の構成員に対してさまざまな方法で周知に努めている。平成１９年度に実施したアンケート調査において約 95%の学生が本校の学習・教育目標を知ったことが明らかとなっている。

以上のことから，本校では，目的が学校の構成員に周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

学習・教育目標，養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術は，本校が作成する多くの出版物に明示されている。就職先企業や進学先の大学・大学院など,学外に対しては代表的なものとして学校要覧（資料１－１－①－２）を配布している。その他，主として中学生を対象とした学校案内（資料１－２－②－１）や準学士課程学生（資料１－２－②－２）や編入学生（資料１－２－②－３），専攻科学生（資料１－２－②－４）の各募集要項にも入学案内として記載している。

また,これらの情報は，すべて本校Webサイトに掲載することによって，広く社会に公表している（資料１－２－①－５）。

資料１－２－②－１　学校案内（学習・教育目標部分）

学習・教育目標

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

本校の沿革

●昭和49年6月7日　徳山工業高等専門学校の開校が決定した。6月15日　第1回入学式を挙行。
●昭和54年3月16日　第1回卒業式を挙行。
●平成6年　創立20周年記念式典を挙行した。テクノ・リフレッシュ教育センター完成。
●平成7年4月1日　専攻科が設置された。
●平成9年3月17日　第1回専攻科修了式を挙行。
●平成11年　メディアホール完成。
●平成16年4月　独立行政法人国立高等専門学校機構「徳山工業高等専門学校」となった。
●平成16年5月　日本技術者教育認定機構から「設計情報工学」プログラムが、JABEE認定を受けた。
●平成16年　創立30周年記念式典を挙行した。

徳山高専の特徴

本校には、機械電気工学科、情報電子工学科、土木建築工学科の３学科があります。いずれも２つの分野にまたがる複合学科になっています。また、これらの学科の上に機械制御工学専攻、情報電子工学専攻、環境建設工学専攻の３つの専攻からなる専攻科があります。本校の特色を以下に示します。

●国際的に通用するJABEE認定校
●５年間または７年間の一貫教育
●複合教育のパイオニア
●実験、実習で実践的な技術者の育成
●創造性豊かな開発型技術者の育成
●混合学級を実施
●多くの教職員による少人数教育
●就職率ほぼ100%
●地域社会に貢献する高専

本　科
機械電気工学科
情報電子工学科
土木建築工学科

専攻科
機械制御工学専攻
情報電子工学専攻
環境建設工学専攻



Tokuyama College of Technology 02

出典：学校案内

資料１－２－②－２　入学案内（学習・教育目標部分）

徳山工業高等専門学校入学案内

１．本　校　の　概　要

本校は，中学校の卒業生に５年間の一貫した工業技術教育により，「豊かな教養と高度の技術や実践力を身につけた技術者を育成する」ことを目的とした高等教育機関です。卒業生には「準学士」の称号が与えられます。

また，平成１５年度から本校における「設計情報工学」プログラムが，国際的に通用する技術者教育プログラムとして，日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定されました。

JABEE認定に関する詳細は，本校ホームページをご覧ください。

アドレス　http://www.tokuyama.ac.jp

２．学習・教育目標ならびに本科における具体的到達目標

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために

（A1）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

○ 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

（A2）国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

○ 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

○ 自らの目標を定め，外部試験を活用して英語力のステップアップを図る

（B）「実践力のある」技術者をめざすために

（B1）情報技術をベースに実体験を通して表現力を身につけること

○ 情報関連・実験の科目を修得する

（B2）自主性と自立性を養うこと

○ 卒業研究の科目を修得する

（C）「開発型」技術者をめざすために

（C1）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

○ メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち，ひとつの分野の定められた科目を修得する

（C2）課題を把握し解決する力を身につけ，感性・創造性を磨き養うこと

○ 創造系の科目を修得する

○ 創造演習発表会，卒業研究発表会などで発表を行う

３．養成しようとする技術者像

本校では「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者」を養成することをめざしており，本科卒業生のめざす技術者像と到達目標を次のように定めています。

「自らの業務における技術的課題を解決できる技術者」

実地経験と具体的な業務に応じた学習により，専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと

－8－

出典：学生募集要項

資料１－２－②－３　編入学生募集要項（学習・教育目標部分）

３．学習・教育目標ならびに本科における具体的到達目標
「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために
（A1）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
○ 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
（A2）国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
○ 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
○ 自らの目標を定め，外部試験を活用して英語力のステップアップを図る
（B）「実践力のある」技術者をめざすために
（B1）情報技術をベースに実体験を通して表現力を身につけること
○ 情報関連・実験の科目を修得する
（B2）自主性と自立性を養うこと
○ 卒業研究の科目を修得する
（C）「開発型」技術者をめざすために
（C1）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
○ メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち，ひとつの分野の定められた科目を修得する
（C2）課題を把握し解決する力を身につけ，感性・創造性を磨き養うこと
○ 創造系の科目を修得する
○ 創造演習発表会，卒業研究発表会などで発表を行う

４．養成しようとする技術者像
本校では「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者」を養成することをめざしており，本科卒業生のめざす技術者像と到達目標を次のように定めています。
「自らの業務における技術的課題を解決できる技術者」
実地経験と具体的な業務に応じた学習により，専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと

出典：編入学生募集要項

資料１－２－②－４　専攻科学生募集要項（学習・教育目標部分）

徳山工業高等専門学校専攻科入学案内

１．専攻科の目的
本校専攻科(平成7年4月1日設置)では、高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた技術者に対し、さらに専門的な分野について精深かつより実践的な教授並びに研究指導を行っています。それらを通して深い専門的知識と表現力をはじめとする幅広い素養を身につけ、自ら課題を把握・分析し、解決の道を探ることができる感性並びに創造性豊かな人材を育てることをめざしています。

２．学習・教育目標
「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」
(A)「世界に通用する」技術者をめざすために
(A1)複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
・学士を取得する
(A2)国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
・TOEICにおいて420以上のスコアを取得する

(B)「実践力のある」技術者をめざすために
(B1)情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
・情報関連・実験の科目を修得する
・情報関連等外部資格を取得する
(B2)自主性と自立性を養うこと
・卒業研究の科目を修得する

(C)「開発型」技術者をめざすために
(C1)複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
・総合科目(2科目以上)及び総合演習の科目を修得する
(C2)課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
・国内外の学協会で発表を行う

出典：専攻科学生募集要項

（分析結果とその根拠理由）

本校が作成する多くの出版物やWebサイトに，学習・教育目標を始めとする一連の教育目的が記載・掲載され，中学生や編入生などに対しては「入学案内」等で積極的に説明している。また就職先企業や進学先の大学・大学院などには「学校要覧」等を配布している。

以上のことから，本校の目的は，社会に対して広く公開されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学習・教育目標，養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術や準学士課程卒業時と専攻科課程修了時の具体的到達目標など，めざしている教育方針が明確で具体性があり，それらの間に整合性がとれている。また，学校内外に対して，意識的に発信されている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準１の自己評価の概要

本校は，学則第１章第１条において，その目的を明文化している。平成５年度以来掲げてきた教育目標を，引き続き本校の教育目標とするにふさわしいと確認し，そのねらいをより明確にするため，最終的には平成１４年度にこれを教育理念とし，それに基づく６つの目標を設定した。そのめざすべきところは，情報技術をもとに，それぞれが得意とする複合分野で具体的な物を設計・開発できる能力を養うことにある。これらは本校の伝統や実績並びに社会の要求等を考慮しており，外部の客観的な評価も可能な具体性のあるものとなっている。すなわち「世界に通用する」「実践力のある」「開発型」という３つの理念がそれぞれ２つに具体化され，それを達成するために，開設されるすべての科目との関連がシラバス等で明示されている。さらに，平成１７年度には，準学士課程および専攻科課程での目標のさらなる明確化に取り組み，教育目標，養成しようとする技術者像および具体的到達目標の相互関係を明らかにした。また，これらは高等専門学校の設立趣旨および学校教育法上の目的との対応が明確となっており，その規定から外れるものではない。

教職員や学生に対しては，本校の学習・教育目標，養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術などについて，それぞれ積極的に周知を図っており，周知状況を調査するアンケート結果からも，これらが周知されている事を把握している。

また，本校の教育理念および教育目的は，学校要覧などの出版物や本校Webサイト等によって公開され，本校教職員や学生，社会一般に対して広く公表されている。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程における学科は学則に定められており，機械電気工学科，情報電子工学科，土木建築工学科の３つの複合学科で構成されている（資料２－１－①－１）。

機械電気工学科は「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術（メカトロ技術）」の修得をめざしており，それを実現するため，材料・エネルギー・情報・設計加工の４つの分野に実験・実習ならびに創造性を養う科目でカリキュラムを構成している（資料２－１－①－２，３）。

情報電子工学科は「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術（情報電子技術）」の修得をめざしており，それを実現するため，ソフトとハードのコンピュータ教育をベースに，情報処理システム・コンピュータ応用機器システム・情報通信システムの３つの分野に実験・実習並びに創造性を養う科目でカリキュラムを構成している（資料２－１－①－２，３）。

土木建築工学科は「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術（社会環境整備技術）」の修得をめざしており，それを実現するため，都市交通系・防災系・環境系・建築系の４つの分野に実験・実習並びに創造性を養う科目でカリキュラムを構成している（資料２－１－①－２，３）。

本校で養成しようとする技術者像は，「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者」であり，準学士課程では「自らの業務における技術的課題を解決できる技術者」をめざす技術者像，「実地経験と具体的な業務に応じた学習により，専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと」を到達目標としている。

資料２－１－①－１　学科の構成

第３章　学科，学級数，入学定員及び職員組織

（入学定員及び学級編制）

第７条　学科，学級数，入学定員及び学級編制は，次のとおりとする。

学　　科	学級数	入学定員
機械電気工学科	1	40人
情報電子工学科	1	40人
土木建築工学科	1	40人

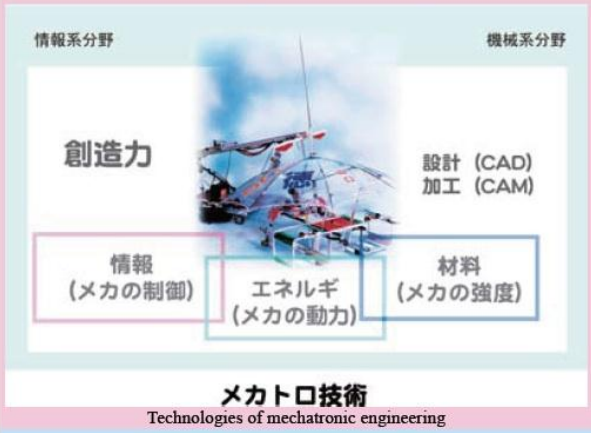
出典：本校学則

資料２－１－①－２　各学科／専攻で修得する技術

各学科／専攻で修得する技術
Technological Skills the Students Are Required to Master

本校は本科と専攻科が１対１に対応しているため、学科／専攻を通して修得する技術を定めています。また、本科卒業生と専攻科修了生のめざす技術者像も踏まえ、各学科と専攻で修得する技術を明確にしました。

Our college has three five-year undergraduate courses and each undergraduate course is followed by its corresponding two-year advanced course. The technological skills that the undergraduate and advanced course students are required to master in common have already been shown, in addition, on the basis of the images of a desirable engineer that our college aims to send out into society, we have specified the following as technological skills that the undergraduate and advanced course students are required to master respectively.



Technologies of mechatronic engineering

機械電気工学科

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」

Technological skills to design and produce machines controlled by computers

機械制御工学専攻

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」

Technological skills to design and develop machines controlled by computers

情報電子工学科

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」

Technological skills to design and build computer-based electronic telecommunications systems

情報電子工学専攻

「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」

Technological skills to design and develop various computer-based systems



Technologies of computer science and electronic engineering



Technologies of environmental and civil engineering

土木建築工学科

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」

IT-based skills to design and construct infrastructure and architectural space

環境建設工学専攻

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」

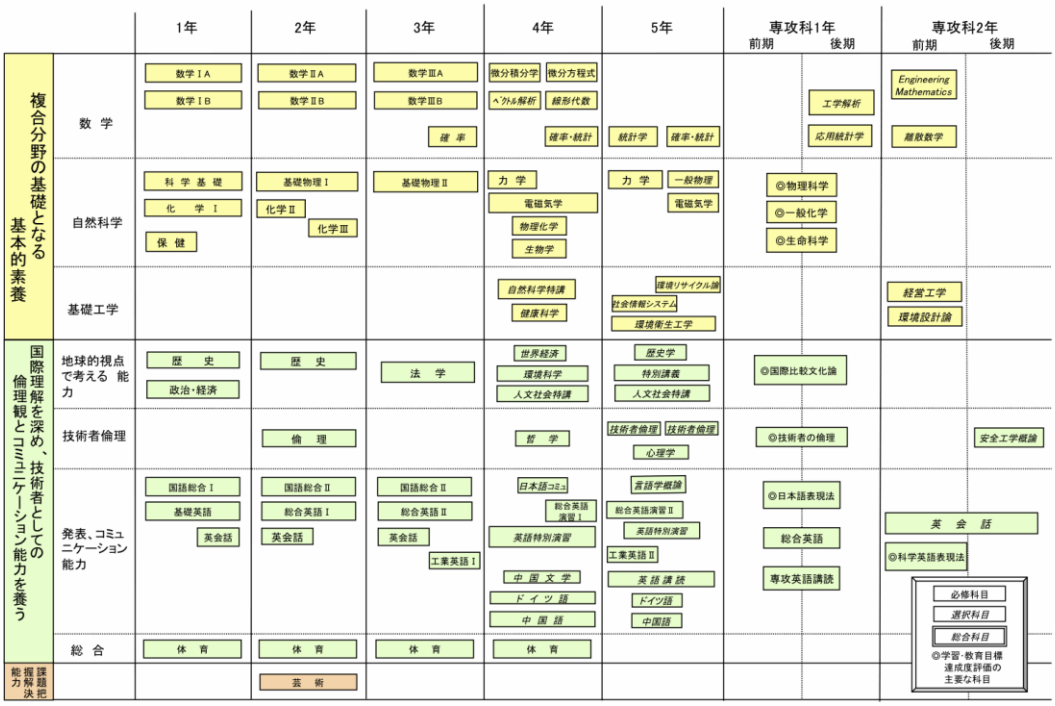
IT-based skills to design and develop infrastructure and architectural space

—11—

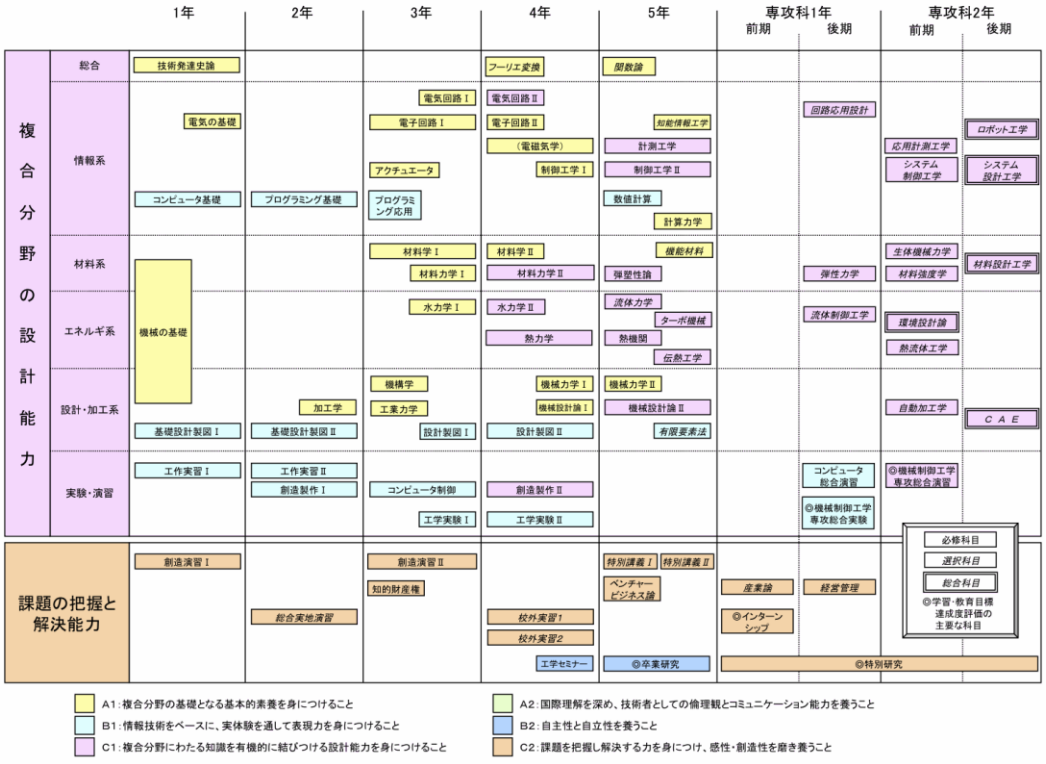
出典：学校要覧

資料２－１－①－３　授業科目系統図

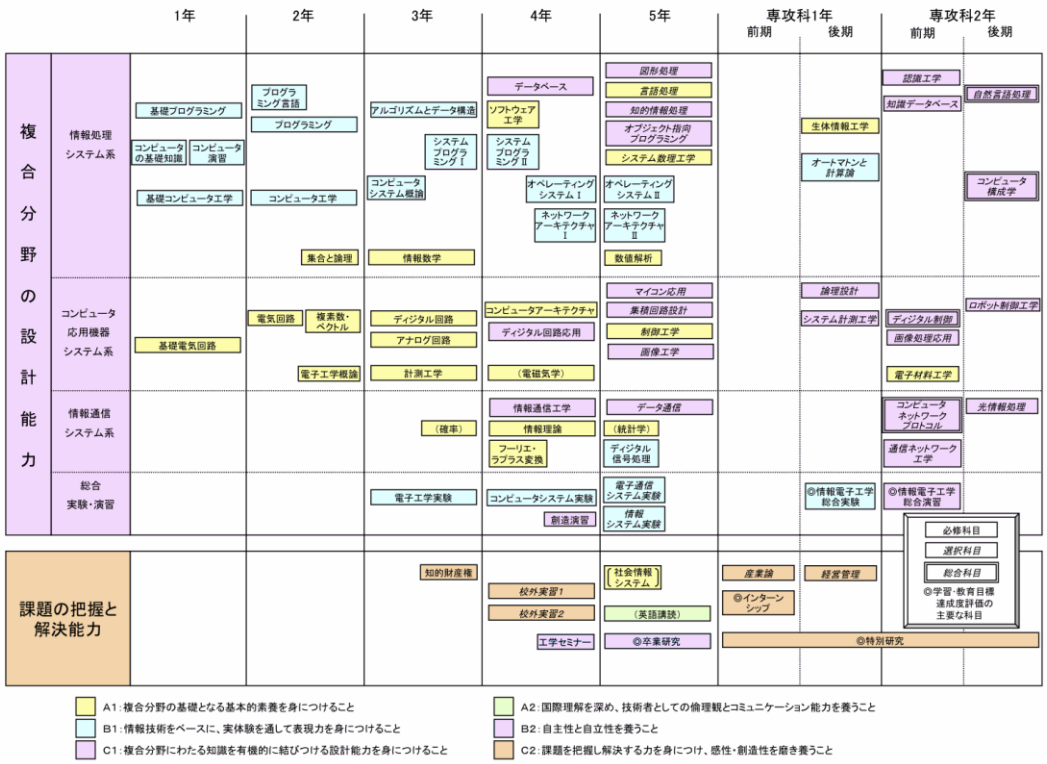
教養科目カリキュラム系統図



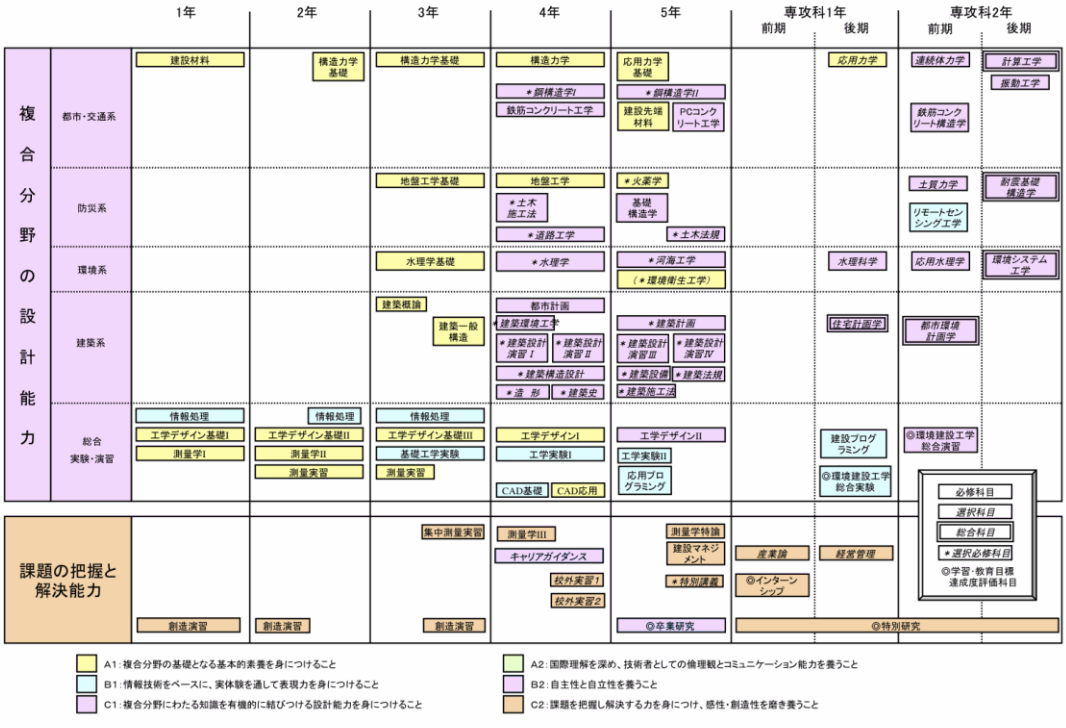
メカトロ技術（機械電気工学科／機械制御工学専攻）カリキュラム系統図



情報電子技術（情報電子工学科／情報電子工学専攻）カリキュラム系統図



社会環境整備技術（土木建築工学科／環境建設工学専攻）カリキュラム系統図



出典：シラバス

（分析結果とその根拠理由）

平成１９年度に実施した企業（268 社）のアンケート調査によれば，本校の学習・教育目標の中で最も「特に重要である」と思われた項目は，（Ｃ２）の「課題を把握し解決する能力を身につけ，感性，創造性を養う」で，それに続いて（Ｂ２）の「自主性と自立性を養う」が高いポイントを示した（資料２－１－①－４）。また，準学士課程卒業生に対するアンケート結果では，専門教育，卒業研究，情報処理関連教育の満足度が高い。これらの項目は企業の要求とも合致しており，本校の学習・教育目標が社会の要求も考慮したものになっていることを裏づけている（資料２－１－①－５）。また，本校の学習・教育目標に関して，企業からみた卒業生の達成度は６つの項目の全てにおいて４段階評価の３以上の評価が得られている（資料２－１－①－６）。

本校で行っている複合教育については，本校から学生を採用している企業の 76%が適切と評価している（資料２－１－①－７）。また，本校の卒業生に対する仕事の満足度（勤務成績）について，およそ 72 %の企業が満足していると回答している（資料２－１－①－８）。

なお，本校に対する求人倍率は 10 倍以上あり，就職希望者の就職率はほぼ 100%である。また，入学志願者については，少子化の影響はあるものの，３倍を超える倍率を維持している。

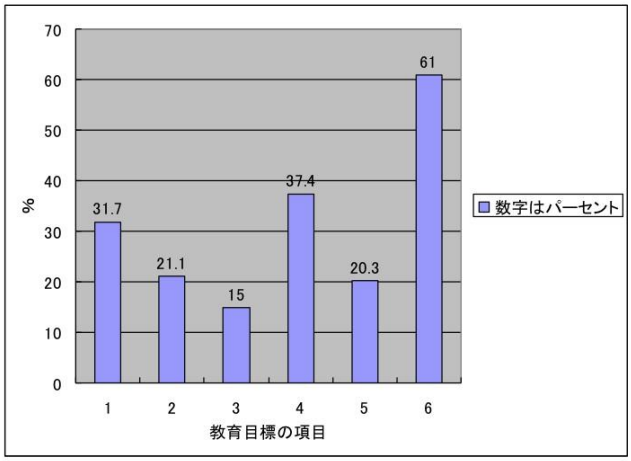
また，平成２２年度には，高度化改革検討ワーキンググループ（資料２－１－①－９）を設置し，本校に対する社会の要請や学科構成の適切性に関する検討を行っている。

これらのことは，本校準学士課程で行ってきた複合教育が社会の要請に応えていることを裏付け，学科の構成が，教育の目的を達成するために適切なものとなっていることを示す。

資料２－１－①－４　企業に対するアンケート結果

質問5-3　上記の本校の教育目標６項目の中で特に重要と思われる項目を挙げて下さい。
（複数選択可）

（アンケートに回答したすべての企業からの集計です。）



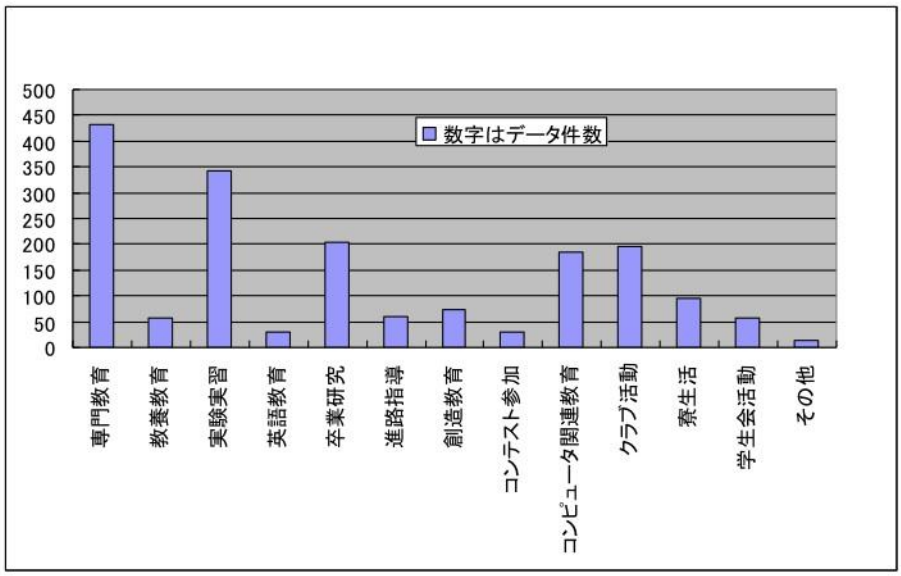
項目１．複合分野の基礎となる基本的素養を身につける
項目２．国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う
項目３．情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につける
項目４．自主性と自立性を養う
項目５．複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につける
項目６．課題を把握し解決する能力を身につけ、感性、創造性を養う

出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

資料２－１－①－５　準学士課程卒業生に対するアンケート結果

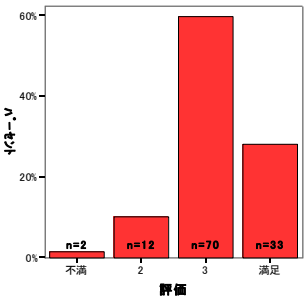
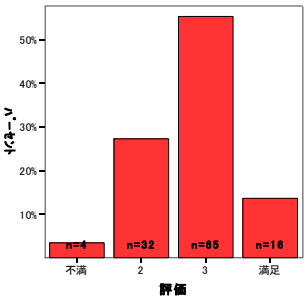
高専における教育でよかったと思われる点について当てはまるものを全て選んで下さい。

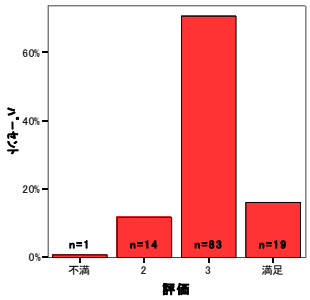
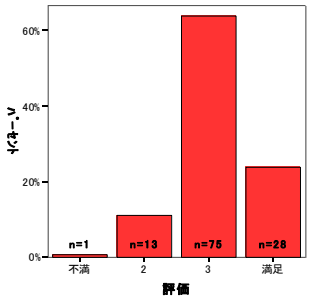
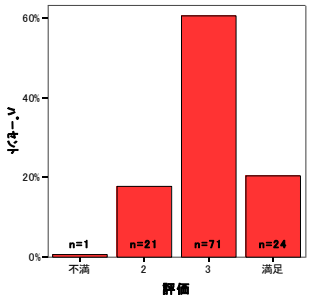
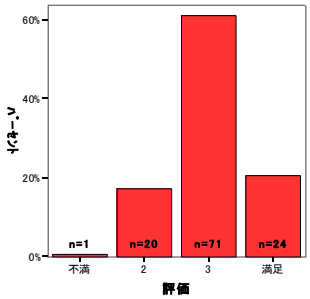
1.専門教育　2.教養教育　3.実験実習　4.英語教育　5.卒業研究　6.進路指導　7.創造教育
8.コンテスト参加　9.コンピュータ関連教育　10.クラブ活動　11.寮生活　12.学生会活動
13.その他



出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

資料２－１－①－６　企業から見た卒業生の達成度

本　　科	評価
（「世界に通用する」技術者をめざすために）	
項目１．複合分野の基礎となる基本的素養を身につける	
項目２．国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う	

（「実践力のある」技術者をめざすために）	
項目３．情報技術をベースに，実体験を通して表現力を身につける	
項目４．自主性と自立性を養う	
（「開発型」技術者をめざすために）	
項目５．複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力をにつける	
項目６．課題を把握し解決する能力を身につけ，感性，創造性を養う	

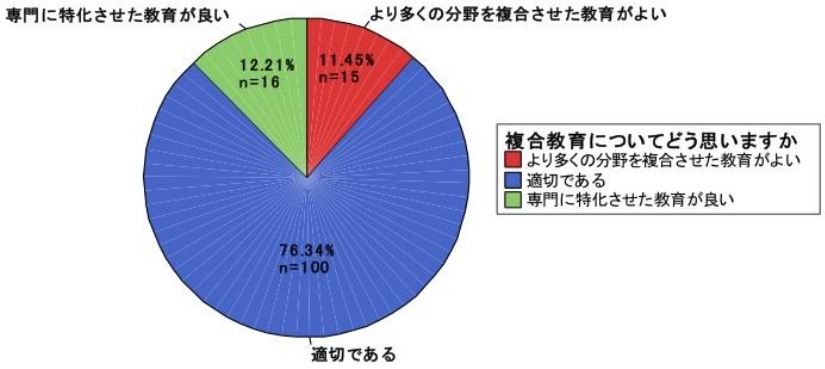
出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

資料２－１－①－７　企業に対するアンケート結果

４．徳山高専には３つの学科があり、それぞれが二分野にまたがる複合教育（機械と電気、情報と電子、土木と建築）をしております。このような徳山高専の複合教育についてどのようにお考えですか？ 選択肢からお選び下さい。

①より多くの分野を複合させた教育がよい　②適切である
③専門に特化させた教育が良い

（徳山高専から学生を採用している企業の回答です。）



出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

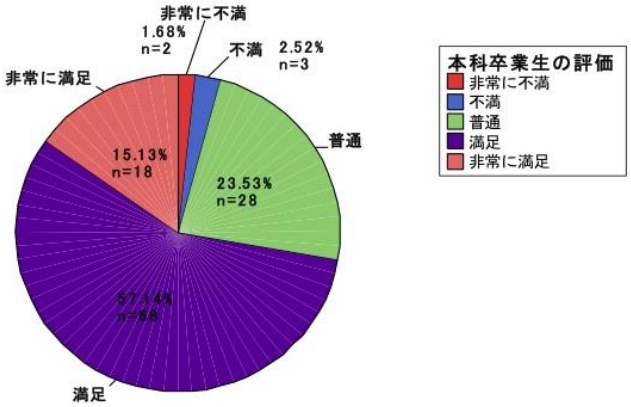
資料２－１－①－８　企業に対するアンケート結果

３．徳山高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生に対し、平均的な仕事に対する評価（勤務成績）について、選択肢からお選び下さい。

①非常に不満　②不満　③普通　④満足　⑤非常に満足

（徳山高専から学生を採用している企業の回答です。）

質問 3-1　徳山高専の本科卒業生



出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

資料２－１－①－９　高度化改革検討ワーキンググループの設置

高度化改革検討ワーキンググループの設置について

平成 22 年 2 月 23 日
校長　平野　千博

１．趣旨

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画（平成 21 年 4 月決定）は、各国立高専に対し、「産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、各高等専門学校がそれぞれの地域性や特色、立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、学科構成を見直し、地域の要請に即応した新分野の学科の設置や改組・再編・整備を適切に進めるとともに、地域や各高等専門学校の実情に応じ専攻科の整備・充実を行う」ことを求めている。

他方、本校本科の学科構成は、開校後 30 年以上もの間変更がなされておらず、現在及び今後の時代の進展、地域の要請、産業界における人材需要の変化、学生のニーズの変化等に対し、十分に対応できなくなる可能性が懸念される。

このような状況を踏まえ、本校を今後の社会の要請に対応できるより魅力的な高等教育機関とするため、地域の声を積極的に聴き、学科構成等を含め、本校の高度化を目指した改革について検討を行うこととする。

このため、本校に高度化改革検討ワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置して、本校の将来を見据えた議論を行い、必要な改革に関する全校的な議論の基となる提案をまとめることとする。

２．任務

WG は、平成 22 年度のできる限り早い時期を目途に、以下の事項について検討し、検討の結果を校長に報告するものとする。

（１）本校を取り巻く社会情勢の変化と今後の見通し
（２）現時点及び今後予想される本校に対する社会の要請
（３）本校の高度化を目指した改革についての提案

３．構成

WG は、校長の指名する委員長、副委員長および委員数名で構成する。また、必要に応じ、関係者を招請して意見を求めることができる。

４．庶務

WG の庶務は、総合企画室において行う。

出典：高度化改革検討ワーキンググループ諮問

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科課程における専攻は学則に定められており，機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，環境建設工学専攻の３つの複合分野で構成されている（資料２－１－②－１）。

機械制御工学専攻は「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術（メカトロ技術）」の修得をめざしており，それを実現するため，材料・エネルギー・情報・設計加工の４つの分野に総合的な実験や演習並びにインターンシップや特別研究などの科目でカリキュラムを構成している（資料２－１－①－２，３）。

情報電子工学専攻は「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術（情報電子技術）」の修得をめざしており，それを実現するため，ソフトとハードのコンピュータ教育をベースに，情報処理システム・コンピュータ応用機器システム・情報通信システムの３つの分野に総合的な実験や演習並びにインターンシップや特別研究などの科目でカリキュラムを構成している（資料２－１－①－２，３）。

環境建設工学専攻は「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術（社会環境整備技術）」の修得をめざしており，それを実現するため，都市交通系・防災系・環境系・建築系の４つの分野に総合的な実験や演習並びにインターンシップや特別研究などの科目でカリキュラムを構成している（資料２－１－①－２，３）。

本校で養成しようとする技術者像は，「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者」であり，専攻科課程では「自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者」をめざす技術者像，「技術者の行う諸活動（研究，技術指導，起業など）に必要な基本的な素養をもつこと」を到達目標としている。

本校ではそれぞれの複合技術に関して学科と専攻が１対１に対応して設置されており，準学士課程で培った複合技術をそのまま継承発展させることができる体制となっている（資料２－１－②－２）。

資料２－１－②－１　専攻科における専攻の構成

（目　的）

第30条　専攻科は，工業高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた技術者に対し，さらに専門的な分野について精深な教授を行い，自ら新分野を開拓できる能力を有する実践力のある開発型技術者を育成することを目的とする。

（修業年限及び在学期間）

第31条　専攻科の修業年限は，２年とする。ただし，４年を超えて在学することはできない。

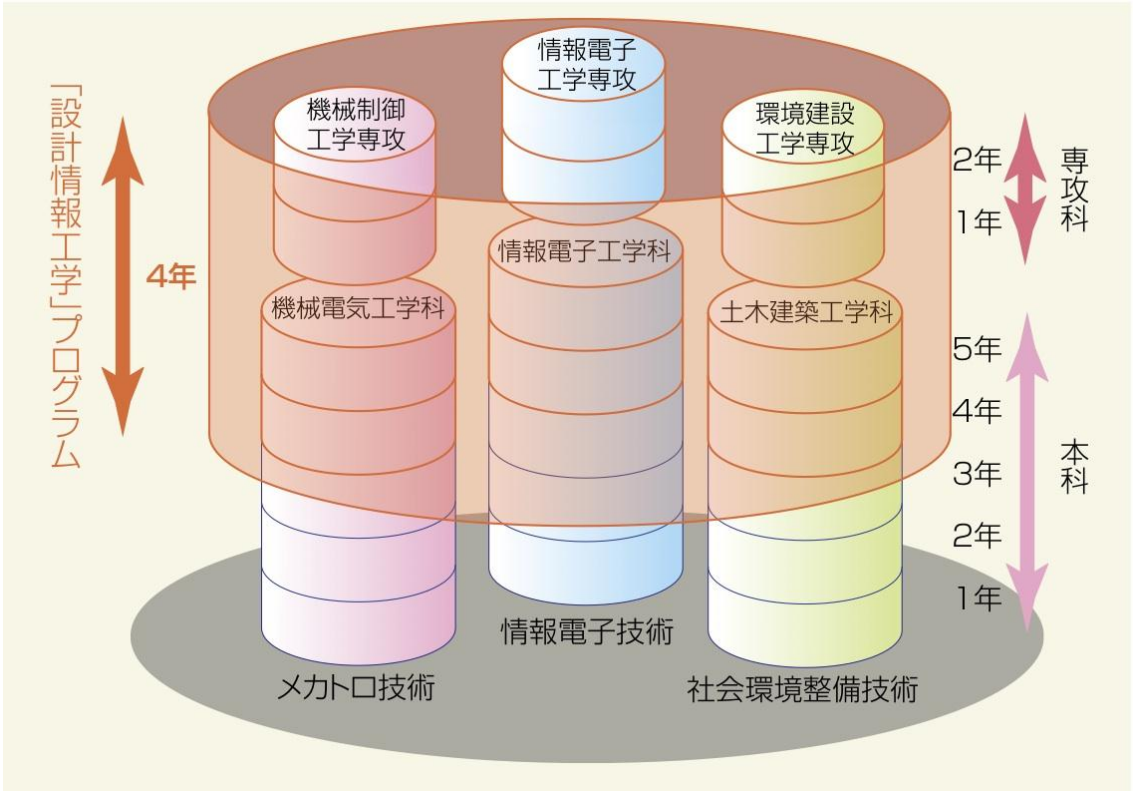
（専攻及び入学定員）

第32条　専攻科の専攻及び入学定員は次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
機械制御工学専攻	４名
情報電子工学専攻	４名
環境建設工学専攻	４名

出典：本校学則

資料２－１－②－２　専攻科の構成



出典：学校要覧

（分析結果とその根拠理由）

観点２－１－①で述べたように，平成１９年度に実施した企業（268 社）のアンケート調査結果によれば，本校の学習・教育目標の中で最も「特に重要である」と思われた項目は，（Ｃ２）の「課題を把握し解決する能力を身につけ，感性，創造性を養う」で，それに続いて（Ｂ２）の「自主性と自立性を養う」が高いポイントを示した。また，専攻科修了生に対するアンケート結果では，専門科目教育，特別研究・卒業研究，情報処理関連教育に対する満足度が高い（資料２－１－②－３）。これらの項目は企業の要求とも合致しており，本校の学習・教育目標が社会の要求も考慮したものになっていることを裏づけている。また，本校の学習・教育目標に関して，企業からみた卒業生の達成度は６つの項目の全てにおいて４段階評価の３以上の評価が得られている（資料２－１－②－６）。

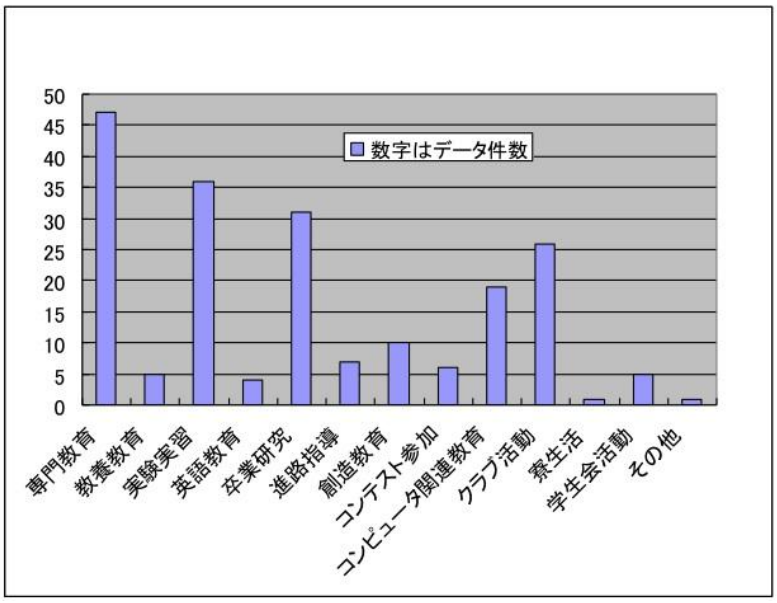
本校で行っている複合教育については，本校から学生を採用している企業の 76%が適切と評価している（資料２－１－①－７）。専攻によりいくぶん差はあるが，修了生の 54%の者が，本校の複合教育が就職して役立ったと回答している（資料２－１－②－５）。また，本校の修了生に対する仕事の満足度（勤務成績）について，およそ 81%の企業が満足していると回答している（資料２－１－②－６）。

これらのことは，本校専攻科で行ってきた複合教育が準学士課程と同様，社会の要請に応えていることを裏づけ，専攻科の構成が，教育の目的を達成するために適切なものとなっていることを示す。

資料２－１－②－３　専攻科修了生に対するアンケート結果

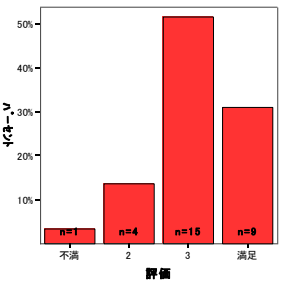
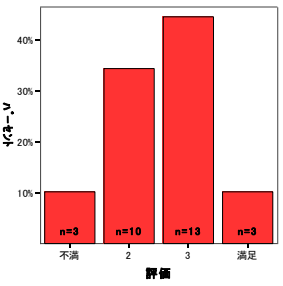
高専における教育でよかったと思われる点について当てはまるものを全て選んで下さい。

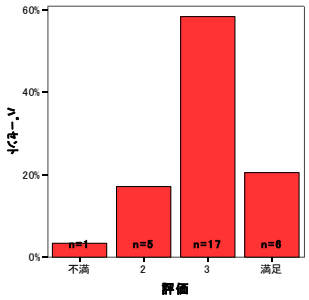
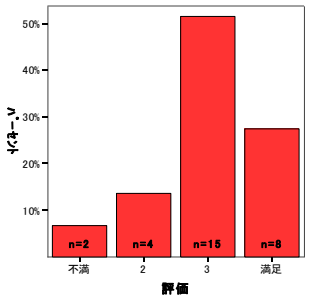
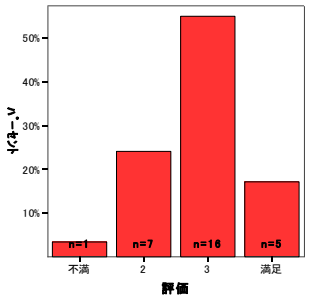
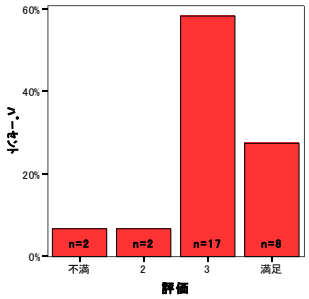
1.専門教育　2.教養教育　3.実験実習　4.英語教育　5.卒業研究　6.進路指導　7.創造教育
8.コンテスト参加　9.コンピュータ関連教育　10.クラブ活動　11.寮生活　12.学生会活動
13.その他



出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

資料２－１－②－４　企業から見た卒業生の達成度

専　攻　科	評価
（「世界に通用する」技術者をめざすために）	
項目１．複合分野の基礎となる基本的素養を身につける	
項目２．国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う	

（「実践力のある」技術者をめざすために）	
項目３．情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につける	
項目４．自主性と自立性を養う	
（「開発型」技術者をめざすために）	
項目５．複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につける	
項目６．課題を把握し解決する能力を身につけ、感性、創造性を養う	

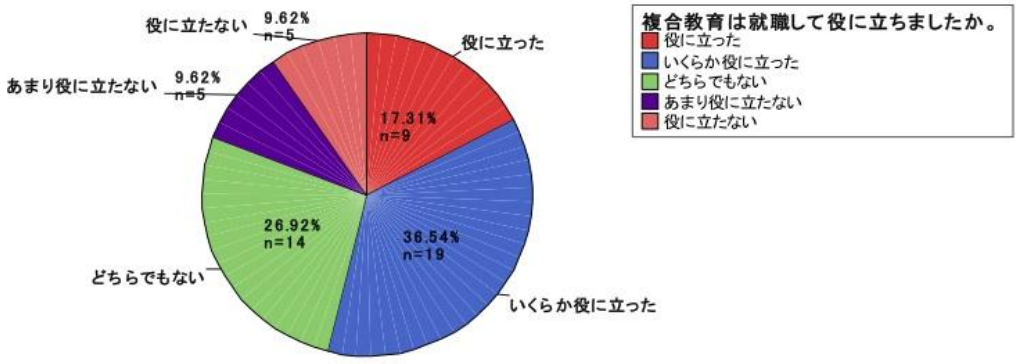
出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

資料２－１－②－５　専攻科修了生に対するアンケート結果

複合教育を受けたことが、就職して役に立ちましたか。（職場で重宝がられていますか。）

1.役に立った　2.いくらか役に立った　3.どちらでもない

4.あまり役に立たない　5.役に立たない



出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

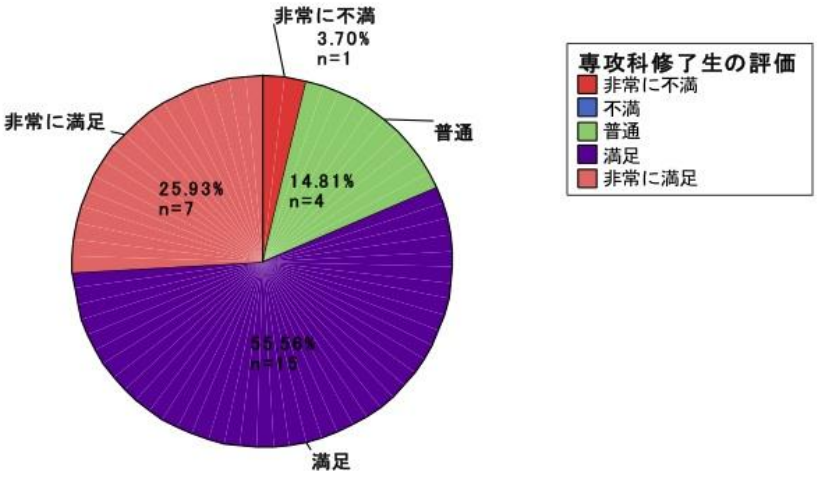
資料２－１－②－６　企業に対するアンケート結果

３．徳山高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生に対し、平均的な仕事に対する評価（勤務成績）について、選択肢からお選び下さい。

①非常に不満　②不満　③普通　④満足　⑤非常に満足

（徳山高専から学生を採用している企業の回答です。）

質問 3-2　徳山高専の専攻科修了生



出典：平成１９年度専攻科修了生・本科卒業生・企業アンケート報告書

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

全学的なセンターとして，情報処理センター，教育研究支援センターおよびテクノ・リフレッシュ教育センターが設置されている。

情報処理センター（資料２－１－③－１）は，全学生にアカウントを発行し，情報処理教育のために学生が自由に利用できるネットワーク端末を用意するなど，本校教育の基幹をなす情報処理技術の教育環境を提供している（資料２－１－③－２）。また，学内LANの充実や情報セキュリティの確保，各種ソフトウェアの開発などにより，全学的に利用しやすい情報管理システムの構築も行っており，情報処理教育環境の整備にも力を注いでいる。

教育研究支援センター（資料２－１－③－３）は，工作実習や工学実験，創造演習や創造製作，ロボコンや各種コンテスト，あるいは卒業研究や特別研究に欠かせない実験装置の製作など，本校教育の基幹をなす実践教育を支援しており，そのことを通して学生の技術レベルの向上や自主性を育てることに貢献している（資料２－１－③－４）。

テクノ・リフレッシュ教育センター（資料２－１－③－５）は，地域企業との共同研究や地域社会への学習支援などを行っているが，このセンターは，さらに徳山高専テクノ・アカデミア（地元企業の本校への支援組織）とも協調し，各種講習会や研究会，共同研究企画などの推進を図っている。テクノ・リフレッシュ教育センターの事業には学生も参加しており（資料２－１－③－６），テクノ・リフレッシュ教育センターは学生の就職活動や資格取得への支援も行っている。

資料２－１－③－１　情報処理センター規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校情報処理センター規則

（設置）

第１条　徳山工業高等専門学校における電子計算機による情報処理を推進することを目的として、徳山工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　情報処理教育の充実

(2)　センターの管理運営

(3)　校内ネットワークの管理運営

(4)　センターの予算の執行

(5)　その他必要な事項

（センター運営会議）

第３条　センターの運営を円滑に行うため、センター運営会議を置き、次に掲げる事項を審議する。

(1)　情報処理教育に関する基本的事項に関すること。

(2)　センターの管理運営に関する基本的事項に関すること。

(3)　校内ネットワークと関連機器の管理運用に関すること。

(4)　センターの予算に関すること。

(5)　その他必要な事項

出典：本校規則集

資料２－１－③－２　情報処理センターパソコン室の利用状況（授業）

情報処理センター パソコン室の利用状況（授業）

2012年度　前期

第１パソコン室

	月	火	水	木	金
1	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語 IE２ 山田,重村	Engineering Mathematics 専２ 飛車	関数論 ME５ 飛車	基礎工学実験 CA３ 島袋,上,橋本,田村,桑嶋	
2					
3	創造製作Ⅰ ME２ 櫻本,藤本,鈴木,北村,三浦				プログラミング IE２ 池田信,力
4					
5	環境衛生工学 CA４ 佐賀		フーリエ変換 ME４ 飛車		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの基礎知識 IE１ 杉村,柳澤
6	基礎設計製図Ⅱ ME２ 張間,三浦	基礎ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ IE１ 奥本,池田信	確率・統計 ME４ 飛車		
7				フーリエ変換 ME４ 飛車	基礎ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ IE１ 奥本,池田信
8					

第２パソコン室

	月	火	水	木	金
1	工学ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ CA４ 古田,西尾,田村	創造演習 CA４ 海田,桑嶋,平栗	情報処理 CA１ 田村,桑嶋	地形情報処理学 EC２ 工藤	環境衛生工学 CA５ 佐賀
2					
3	工学ﾃﾞｻﾞｲﾝ基礎Ⅲ CA３ 西尾,古田,目山,中川,平栗	CAD基礎 CA４ 原,古田,平栗	情報処理 CA３ 渡辺,島袋	音楽 本２ 古川	
4					
5	計算工学 EC２ 原	応用ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ CA５ 原	工学実験Ⅱ CA５ 工藤,佐賀,渡辺,中川,古田,西尾,平栗	工学ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ CA５ 原,古田	総合演習 専２ 西村,北村,森崎,原,古田,海田,熊野
6					
7			環境衛生工学 CA４ 佐賀		
8					

出典：本校Webサイト

資料２－１－③－３　教育研究支援センター規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校教育研究支援センター規則

（設置）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第１２条の規定に基づき、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは、技術職員の勤務場所との連絡を緊密に図り、本校の技術に関する専門的業務を組織的、かつ効率的に処理するとともに、技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（業務等）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　教育及び研究に伴う技術支援に関すること。

(2)　地域連携活動に伴う技術支援に関すること。

(3)　技術の習得、継承及び保存に関すること。

(4)　技術研修に関すること。

(5)　教育、研究の支援、その他の業務に関すること。

第４条　センターに、第一技術室（機械工作部門）、第二技術室（計測制御部門）及び第三技術室（ネットワーク部門）の３室を置き、各室は次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　第一技術室（機械工作部門）　機械工作・設計技術及びメカトロニクスに関する業務

(2)　第二技術室（計測制御部門）　土木計測技術及び情報制御技術に関する業務

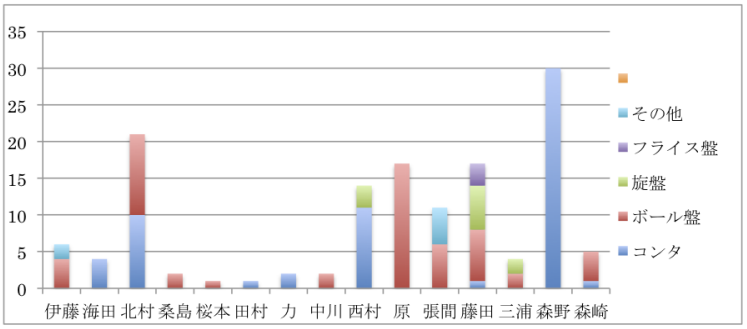
(3)　第三技術室（ネットワーク部門）　ネットワーク運用技術及びネットワーク設計に関する業務

出典：本校規則集

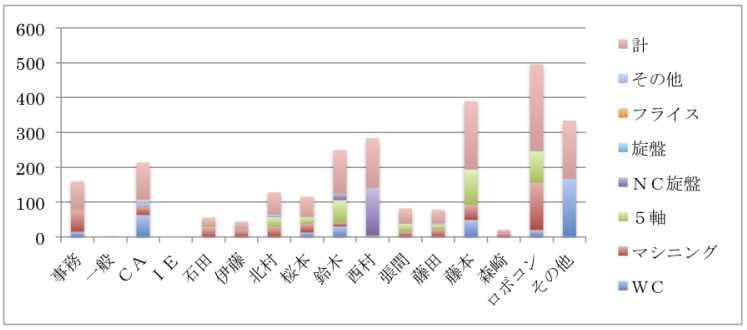
資料２－１－③－４　実習工場の利用状況（製作依頼，工作機械利用状況）

実習工場利用状況

１．工場使用時間



２．製作依頼



出典：教育研究支援センター資料

資料２－１－③－５　テクノ・リフレッシュ教育センター規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校テクノ・リフレッシュ教育センター規則

（目的）

第１条　徳山工業高等専門学校テクノ・リフレッシュ教育センター（以下「テクノセンター」という。）は、リフレッシュ教育等を中心とする人材育成事業及び学内外の共同研究等を推進することにより、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究の充実発展に寄与し、併せて地域社会に貢献することを目的とする。

（業務）

第２条　テクノセンターは、前条の目的達成のため次の業務を行う。

(1)　地域における民間団体等との協力、交流事業に関すること。

(2)　生涯学習並びにリフレッシュ教育を通じて、地域における人材育成事業の推進に関すること。

(3)　学内外の共同研究を充実発展させ、教育研究及び地場産業の発展に寄与すること。

(4)　高専・大学等の諸機関と情報交換、連絡協議に努め、そのネットワーク化に関すること。

(5)　徳山高専テクノ・アカデミア事業の推進に関すること。

(6)　その他テクノセンターの目的を達成するために必要な業務。

出典：本校規則集

資料２－１－③－６　テクノ・リフレッシュ教育センター事業への学生の参加状況

テクノ･センター行事学生参加人数

		H19		H20		H21		H22		H23	
事業名	講座等名	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科
テクノ･アカデミア総会									9		3
テクノ･アカデミア新春セミナー											8
産学交流会										14	13
テクノ･マーケット								29	36		32
テクノ･アカデミア人材養成講座	機械系CADの基礎と応用講座		4								
	二級建築士製図受験講座								4		
テクノ･アカデミア技術研修会	しゅうなん建築談議			12							
知的財産セミナー	知的財産セミナー		5								
	パテントマップ作成セミナー					16					

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター資料

（分析結果とその根拠理由）

情報処理センターは，情報処理教育のために学生が自由に利用できるネットワーク端末の提供を通して目標（Ｂ１）の実践力とｅ－Learningを通して目標（Ａ２）のコミュニケーション能力を，教育研究支援センターは，日々の活動を通して目標（Ｂ１）の実践力と（Ｂ２）の自主性・自立性を養うことを，テクノ・リフレッシュ教育センターは，地域との関わりを通して目標（Ｃ２）の開発力に主として関与している。

以上のことから，これらの全学的センターは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校における教育課程を検討する組織の相互関係は，教育点検システムとして概観できる（資料２－２－①－１）。このなかで，教育課程全体を企画・調整する役割は「総合企画室」が主として担っており，「ＦＤ委員会」が役割を一部分担している。また，その運営の方向づけと最終決定は，「運営委員会」が担っている。そこでの企画を受け，実際に審議を行っているのが準学士課程は「教務委員会」，専攻科課程は「専攻科委員会」であり，二つに共通する話題は「教務・専攻科合同委員会」並びに「科目間調整会議」で検討が行われる（資料２－２－①－２，３）。さらに，それを有効に展開するため，学内では「自己評価委員会」，「学習・教育レビュー室」が，学外関係者では「顧問会議」がチェックを行っている。また，「教育モニター制度」も定めている。

それぞれの委員会等の主な役割並びに委員構成を，委員会規則とともにまとめて次に示す。

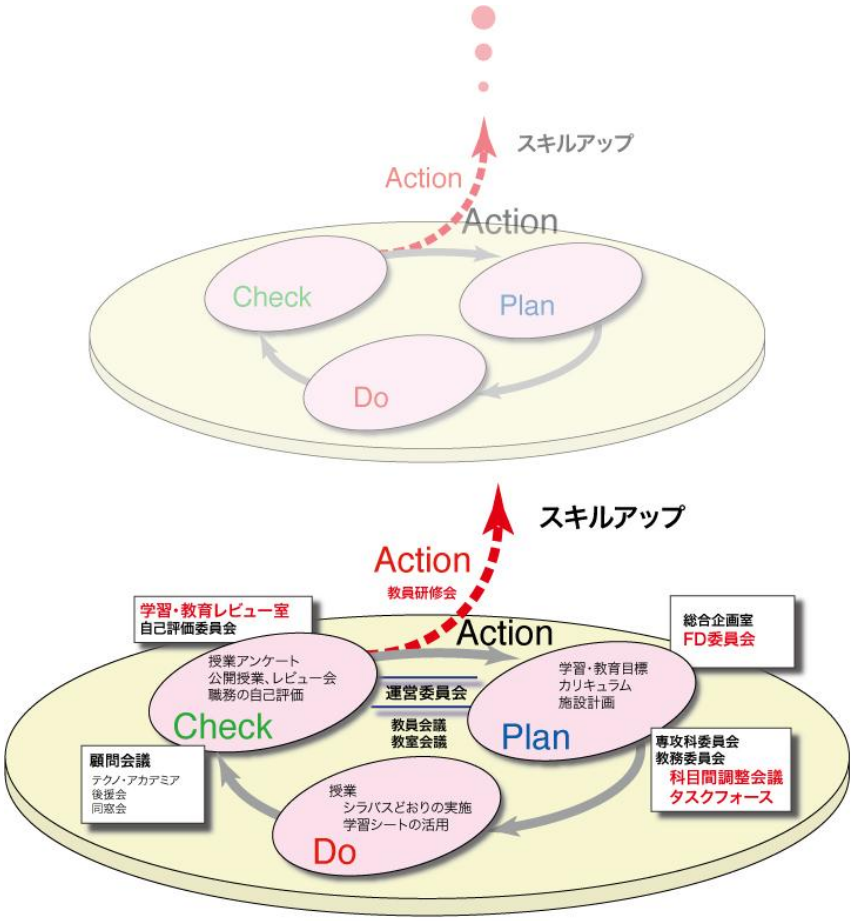
学内組織

- 「運営委員会」（教員１７名，事務職員３名，資料２－２－①－４）
  学校全体の運営の方向づけ
- 「総合企画室」（教員５名，事務職員２名，資料２－２－①－５）
  学校運営・教育研究に係る総合的な企画・調整

- 「ＦＤ委員会」（教員７名，事務職員３名，資料２－２－①－６）
  教職員のＦＤ活動を日常的に発展させる
- 「教務委員会」（教員９名，事務職員１名，資料２－２－①－７）
  教務に関する事項を審議
- 「専攻科委員会」（教員８名，事務職員１名，資料２－２－①－８）
  専攻科に関する教務・厚生補導に関する事項を審議
- 「自己評価委員会」（教員１０名，事務職員２名，資料２－２－①－９）
  教育内容の点検評価，教育点検システムに関する事項を審議
- 「学習・教育レビュー室」（教員５名，事務職員１名，資料２－２－①－１０）
  教育内容の点検評価，水準の向上提案
- 「顧問会議」（９名，資料２－２－①－１１）
  教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価の結果について提言
- 「教育モニター制度」（４名，資料２－２－①－１２）
  公開授業の評価

なお，各種委員会等会議開催回数一覧を資料２－２－①－１３に示す。

資料２－２－①－１　教育点検システム



出典：本校Webサイト

資料２－２－①－２　教務委員会議事録（抜粋）

Ｈ２３年度　第７回教務委員会議事概要

日　時　　平成２３年１１月３０日（水）　１６：１０～１６：５２
場　所　　専攻科棟３Ｆ講義室３
出席者　　教務主事、教務主事補（柏倉，杉村，中川）
　　教務委員　（大橋，鈴木，守川，目山），学生課長
欠席者　　教務主事補（森﨑）
陪　席　　教務係長

議　題
１．学則の一部改正について
池田教務主事から学則改正に至った経緯，改正理由及び改正内容について資料に添って説明がなされた。第５回教務委員会で既に了承されている改正内容に加えて，英語及び自然科学基礎科目について，科目及び単位の追加等の改正，情報電子工学科の授業内容の見直しによる科目及び単位の追加等の改正，土木建築工学科の開設科目の流れを分かり易くするために科目の並びを変更したこと及び所要の改正を行うことの説明がなされ，原案どおり了承された。

２．外部修得単位及び資格取得等による学修に係る単位修得の認定に関する規則の一部改正について
池田教務主事から海外語学研修による単位認定については，一般科目の特別学修単位として認定すること，及び特別学修単位認定申請書の提出期限を原則として１２月末から１月末に変更することが第５回教務委員会において了承されている。これに併せて同教務委員会で懸案となった英語に係る認定単位数の見直しについて，英語科に検討を依頼し，これを受けて英語科から提案された認定単位数に係る改正案が示された。また，本規則の改正については，平成２３年４月１日適用とし，英語の単位の改正については平成２４年４月１日施行としたいとの提案がなされ，原案どおり了承された。

出典：教務委員会議事録

資料２－２－①－３　専攻科委員会議事録（抜粋）

専攻科長から『設計情報工学』プログラム全体の流れとして、高専生の弱点でとされている教養に関する科目の一般教養科目（専攻１年での受講が多い）をできるだけ社会へ出る前の２年生後期に履修させるため、併せて学位申請関連専門科目について１０月の学位申請前に受講させるため、開講時期を変更したい旨の提案があり、協議の結果了承された。

（改正案）

①　「生命科学」（専門基礎科目（必修）；１年後期　担当、天内　２年前期へ
②　「技術者の倫理」（教養科目（必修）；１年通期　担当　小川　２年後期へ
　現在論議中のエンジニアデザインのプログラム改正に影響はない。
③　「国際比較文化論」（教養科目（必修）；１年後期　担当　柏倉　２年後期へ
④　「科学英語表現法」（教養科目（必修）；２年前期　担当　高橋　２年後期へ
　特別研究の Abstract を書く能力をつけさせたい。
⑤　「地形情報処理学」環境建設工学専攻　専門科目（選択）；２年後期　担当；工藤、２年前期へ

なお、専攻科履修要覧の改正と学則改正を運営委員会に付議することが確認された。

（２）　教養科目の必修化について（資料なし）

専攻科長から産業論（専攻科１年教養科目）を選択科目から必修科目に変更することが提案され、以下のとおり提案理由の説明があった。

本科目は専攻科１年生前期の唯一の選択科目であるが、地域の経営者等をオムニバス方式で講師に迎え、かつインターンシップ前のマナー講習も取り込んでいるカリキュラムでもあり全員を受講させたく、教養科目必修とする。

協議の結果、了承された。

出典：専攻科委員会議事録

資料２－２－①－４　運営委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校運営委員会規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条　校長は，本校の運営に関する重要事項について委員会の意見を聴く。
（構成）
第３条　委員会は，次の委員をもって構成する。
(1)　教務主事
(2)　学生主事
(3)　寮務主事
(4)　専攻科長
(5)　各学科主任
(6)　一般科目主任
(7)　図書館長
(8)　テクノ・リフレッシュ教育センター長
(9)　情報処理センター長
(10)　教育研究支援センター長
(11)　総合企画室長
(12)　学習・教育レビュー室長
(13)　学生相談室長
(14)　キャリア教育支援室長
(15)　自己評価委員長
(16)　事務部長
(17)　各課長

出典：本校規則集

資料２－２－①－５　総合企画室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校総合企画室規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に総合企画室を置く。
（目的）
第２条　総合企画室は，本校の運営・経営方針について，長期的視点から総合的に企画・立案することにより，本校の教育・研究活動及び経営基盤の強化を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　総合企画室は，次の業務を行う。
(1)　中・長期計画の企画・立案及び管理・評価に関すること。
(2)　教育・研究及び管理業務の総合調整に関すること。
(3)　対外的な業務（広報を含む。）の企画・立案及び調整に関すること。ただし、テクノ・リフレッシュ教育センターの業務に属することを除く。
(4)　その他前条の目的達成に必要な業務。

出典：本校規則集

資料２－２－①－６　ＦＤ委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

（設置）

第１条　徳山工業高等専門学校に，各部署で取り組まれている教員の資質・職務能力の向上のための活動(以下「ＦＤ活動」という。)に関するまとめ，周知及び方針等の策定を行うことにより，教育水準の質的向上を図ることを目的として，ＦＤ委員会(以下「委員会という。」)を置く。

（任務）

第２条　委員会は，次の事項を審議し，実施する。

(1)　ＦＤ活動の企画に関すること。

(2)　ＦＤ活動の実施に係る総合調整に関すること。

(3)　ＦＤ活動における対外的な連携に関すること。

(4)　ＦＤ活動のまとめ及び周知に関すること。

(5)　その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

出典：本校規則集

資料２－２－①－７　教務委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校教務委員会規則

制　　定　　昭和５２年４月１日
最終改正　　平成１６年４月１日

（設置）

第１条　徳山工業高等専門学校に、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　委員会は、校長の命を受け、教務に関する次の事項を審議する。

(1)　教育課程に関すること。

(2)　授業及び試験実施に関すること。

(3)　学校行事に関すること。

(4)　入学、進級、休学、復学、退学、再入学、転校及び卒業に関すること。

(5)　学生指導要録に関すること。

(6)　学生の課外教育に関すること。

(7)　学外実習に関すること。

(8)　見学旅行に関すること。

(9)　その他教務に関すること。

出典：本校規則集

資料２－２－①－８　専攻科委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校専攻科委員会規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校に専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は，専攻科における次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　教務に関すること。
(2)　厚生補導に関すること。
(3)　その他専攻科に関すること。

出典：本校規則集

資料２－２－①－９　自己評価委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校自己評価委員会規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校学則第１条の２の規定に基づき、自己点検・評価を行うため自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は、次の事項を審議し、実施する。
(1) 教員の年間職務の自己評価に関すること。
(2) 各組織の活動に関する点検・評価に関すること。
(3) 教育点検システムに関すること。
(4) その他校長が諮問する事項
２　委員会は、自己点検・評価に関する専門的事項を検討するため、関連する各種委員会等に付託することができる。

出典：本校規則集

資料２－２－①－１０　学習・教育レビュー室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学習・教育レビュー室規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学習・教育レビュー室（以下「レビュー室」という。）を置く。
（目的）
第２条　レビュー室は，本校の教育内容、教育手段及び学習環境等について恒常的に点検・評価し、その結果に基づく継続的な教育改善を行うことにより、本校教育の質の向上を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　レビュー室は，次の業務を行う。
(1)　シラバスの内容及び活用状況の評価に関すること。
(2)　学習シートの活用状況の評価に関すること。
(3)　公開授業に関すること。
(4)　試験等学習・教育目標の達成度評価方法の点検・評価に関すること。
(5)　その他前条の目的を達成するために必要な業務。

出典：本校規則集

資料２－２－①－１１　顧問規則（抜粋）

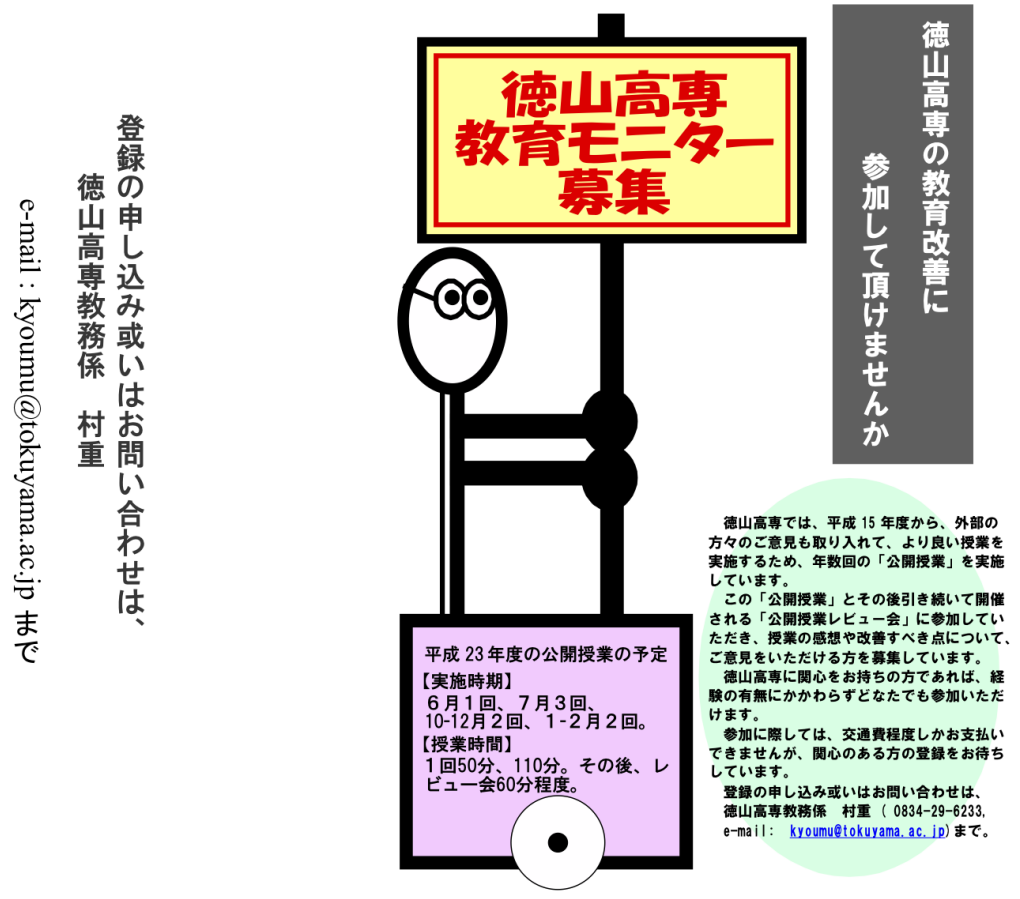
徳山工業高等専門学校顧問規則

制　　定　　平成１２年４月１日
最終改正　　平成１６年４月１日

（設置）
第１条　本校に、徳山工業高等専門学校学則第１条の２第４項の規定に基づき、自己点検・評価の結果について検証を行うため、顧問を置く。
（任務）
第２条　顧問は、校長の諮問に応じ、本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価の結果について意見を述べ、検証を行う。

出典：本校規則集

資料２－２－①－１２　教育モニター制度



出典：本校Webサイト

資料２－２－①－１３　各種委員会等会議開催回数一覧

各種委員会等会議開催回数一覧

連絡会・委員会名等	平成22年度	平成23年度	備　　考
教務主事（連絡会）	36	34	
学生主事（連絡会）	36	40	
寮務主事（連絡会）	23	24	
専攻科（連絡会）	31	31	
学科会議（一般科目）	20	18	
学科会議（機械電気）	18	21	
学科会議（情報電子）	21	19	
学科会議（土木建築）	18	19	
図書館（連絡会等）	4	3	
ﾃｸﾉ･ﾘﾌﾚｯｼｭ教育ｾﾝﾀｰ運営会議	9	10	
情報処理ｾﾝﾀｰ（連絡会等）	8	16	
総合企画室（ミーティング）	18	8	
学習・教育レビュー室（連絡会等）	9	11	
学生相談室（連絡会等）	28	27	
キャリア教育支援室（連絡会等）	16	16	
運営委員会	16	17	
教員会議	8	12	
教務委員会	8	14	
専攻科委員会	7	8	
厚生補導委員会	8	17	
学寮運営委員会	11	8	
自己評価委員会	2	12	
情報ｾｷｭﾘﾃｨ管理委員会		0	平成23.11.23新設
情報ｾｷｭﾘﾃｨ推進委員会		4	平成23.11.23新設
紀要編集委員会	1	1	
FD委員会	3	2	
知的財産委員会	7	2	
安全衛生委員会	12	10	
ハラスメント防止委員会	3	0	
サテライト運営委員会	2	1	
ﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	0	0	実働部隊の会合は多数
広報ﾒﾃﾞｨｱ管理委員会	0	0	実働部隊の会合は多数

出典：総合企画室資料

（分析結果とその根拠理由）

教育課程全体を企画調整し，有効に展開するため，「総合企画室」や「ＦＤ委員会」などが機能しており，その運営の方向づけと最終決定は，「運営委員会」が担っている。実際の運用にあたっては，「教務委員会」や「専攻科委員会」が審議し，そのチェック機能を「自己評価委員会」，「学習・教育レビュー室」や「顧問会議」などが担っている。

以上のことから，教育活動を有効に展開するための各種委員会などが適切に整備され，必要な活動が行われている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

科目間の連携は，まず，カリキュラムの設計にあたって「系統図」を作成することから始まる。そのためには，それぞれの科目の学習・教育目標に対する位置づけおよび相互の関連を明確にする必要がある。その検討は，大きなコンセプトを「教務委員会」並びに「専攻科委員会」で決め，その後，各学科で詳細を検討し，再度それを前述の委員会に持ち寄り，整合性をとる作業を数回繰り返して決定している。それをシラバスの冒頭に掲載（資料２－１－①－３）するとともに，各科目のシラバスにも関連科目の欄を設けて示した（資料２－２－②－１）。

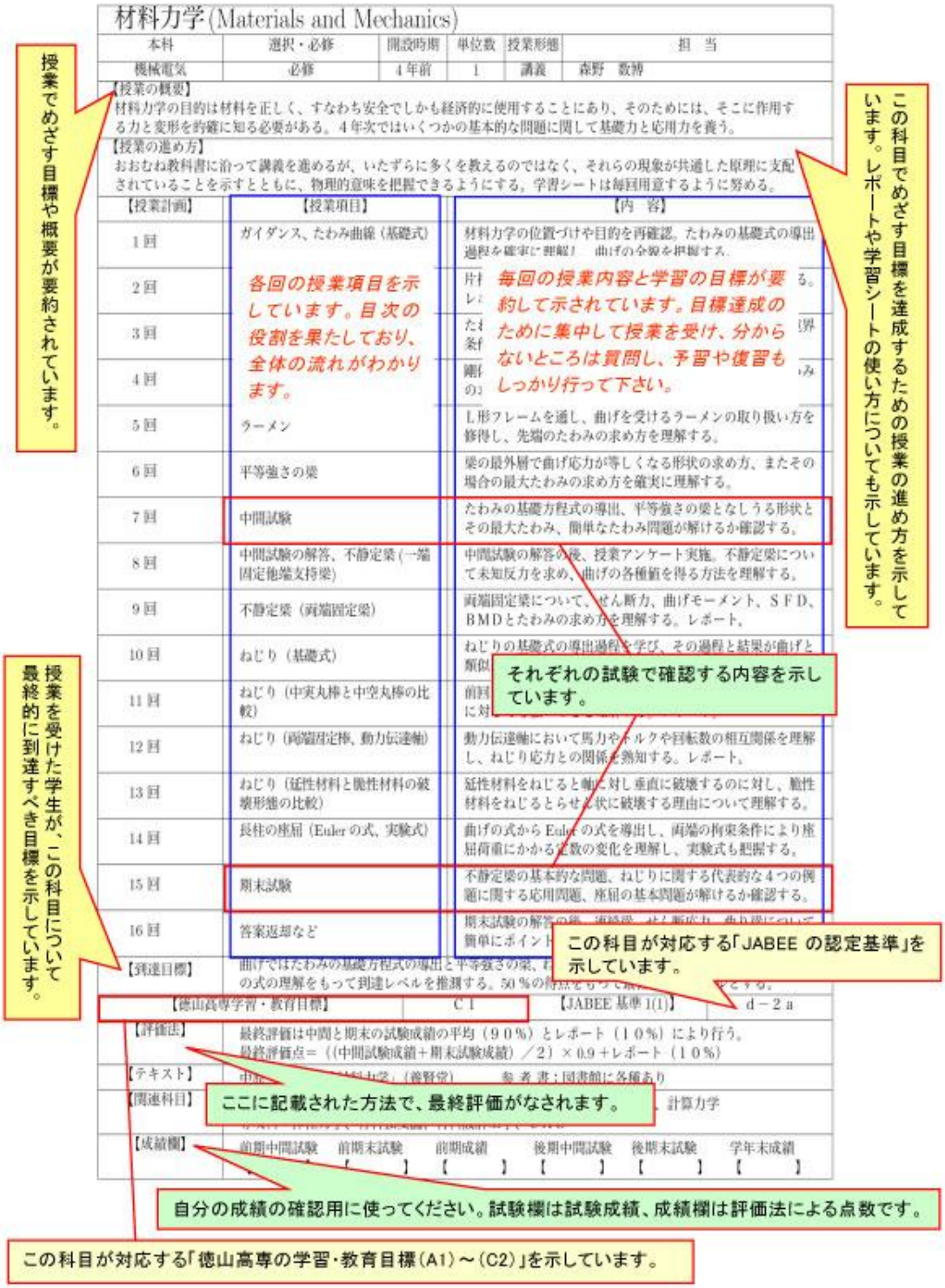
その系統図をベースに，各教員が具体的な授業内容を組み立てる。その際，公開されたシラバスも参考にし，連携がスムーズにかつ教育効果が上がるよう，授業内容の改善を図っている。平成１５年度からは公開授業（資料２－２－②－２，３）も実施されており，指導状況についても，教員相互が直接確認できるシステムもある。

また，各教員は，定期試験が終わるごとに担当科目の「学習指導連絡票」（資料２－２－②－４）を教務係経由でクラス担任に届け，クラス担任はそれらを参考に学生の指導を行うとともに，日常の指導を通じて得られた情報などを，月２回，定例的に開かれる各学科の教室会議で適宜報告している。必要な場合は週１回行われる「教務連絡会」あるいは「専攻科連絡会」で取り上げ，全学的な検討が必要な場合は「教務委員会」や「専攻科委員会」で審議・検討するなど，改善のための検討が日常的に行われている（資料２－２－①－２，３）。

また，カリキュラム改訂等の必要がある場合は「教務委員会」において検討することとしている。なお，特別な検討が必要とされる場合，アドホックなタスクフォースを設けることもある。平成２１年度は「英語力向上タスクフォースII」（資料２－２－②－５），「エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループ」（資料２－２－②－６）が設けられ，平成２２年度に１２項目の提言として答申された。そこでの答申を受け，専攻科修了要件の改正や教務委員会，専攻科委員会等での検討が始まった（資料２－２－②－７）。

さらに，教養科目や専門科目の科目間相互の内容や年次配当のさらなる整合性をとることを念頭に，「科目間調整会議」を設置し数学と物理に関して検討を行い，一般科目と専門科目の教員が連携して教養科目と専門科目の整合性をもったカリキュラムとしている（資料２－２－②－８）。

資料２－２－②－１　シラバスの解説



材料力学（Materials and Mechanics）

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
機械電気	必修	4年前	1	講義	森野　数博

【授業の概要】
材料力学の目的は材料を正しく、すなわち安全でしかも経済的に使用することにあり、そのためには、そこに作用する力と変形を的確に知る必要がある。４年次ではいくつかの基本的な問題に関して基礎力と応用力を養う。

【授業の進め方】
おおむね教科書に沿って講義を進めるが、いたずらに多くを教えるのではなく、それらの現象が共通した原理に支配されていることを示すとともに、物理的意味を把握できるようにする。学習シートは毎回用意するように努める。

【授業計画】	【授業項目】	【内　容】
1回	ガイダンス、たわみ曲線（基礎式）	材料力学の位置づけや目的を再確認。たわみの基礎式の導出過程を確実に理解！　曲げの全貌を把握する。
2回		片持ばりの問題を解く。
3回		境界条件
4回		剛体のつり
5回	ラーメン	L形フレームを通し、曲げを受けるラーメンの取り扱い方を修得し、先端のたわみの求め方を理解する。
6回	平等強さの梁	梁の最外層で曲げ応力が等しくなる形状の求め方、またその場合の最大たわみの求め方を確実に理解する。
7回	中間試験	たわみの基礎方程式の導出、平等強さの梁となしうる形状とその最大たわみ、簡単なたわみ問題が解けるか確認する。
8回	中間試験の解答、不静定梁（一端固定他端支持梁）	中間試験の解答の後、授業アンケート実施。不静定梁について未知反力を求め、曲げの各種値を得る方法を理解する。
9回	不静定梁（両端固定梁）	両端固定梁について、せん断力、曲げモーメント、ＳＦＤ、ＢＭＤとたわみの求め方を理解する。レポート。
10回	ねじり（基礎式）	ねじりの基礎式の導出過程を学び、その過程と結果が曲げと類似
11回	ねじり（中実丸棒と中空丸棒の比較）	前回に対
12回	ねじり（両端固定棒、動力伝達軸）	動力伝達軸において馬力やトルクや回転数の相互関係を理解し、ねじり応力との関係を熟知する。レポート。
13回	ねじり（延性材料と脆性材料の破壊形態の比較）	延性材料をねじると軸に対し垂直に破壊するのに対し、脆性材料をねじるとらせん状に破壊する理由について理解する。
14回	長柱の座屈（Eulerの式、実験式）	曲げの式からEulerの式を導出し、両端の拘束条件により座屈荷重にかかる定数の変化を理解し、実験式も把握する。
15回	期末試験	不静定梁の基本的な問題、ねじりに関する代表的な４つの例題に関する応用問題、座屈の基本問題が解けるか確認する。
16回	答案返却など	期末試験の解答の後、連続梁、せん断応力、曲り梁について簡単にポイント

【到達目標】　曲げではたわみの基礎方程式の導出と平等強さの梁、ねじりの式の理解をもって到達レベルを推測する。50％の得点をもって

【徳山高専学習・教育目標】　C１　【JABEE 基準1(1)】　ｄ－２ａ

【評価法】　最終評価は中間と期末の試験成績の平均（９０％）とレポート（１０％）により行う。
最終評価点＝（（中間試験成績＋期末試験成績）／２）×0.9＋レポート（１０％）

【テキスト】　中[illegible]材料力学（養賢堂）　参考書：図書館に各種あり

【関連科目】　[illegible]、計算力学

【成績欄】

前期中間試験	前期末試験	前期成績	後期中間試験	後期末試験	学年末成績
【　　】	【　　】	【　　】	【　　】	【　　】	【　　】

出典：本校Webサイト

資料２－２－②－２　公開授業の案内

平成２３年度 徳山工業高等専門学校 公開授業

第７回実施要領

学習・教育レビュー室

■公開授業

日時：　平成 24 年　1 月　13 日（金）10:45～12:30（3,4 時限）
科目：　機械電気工学科 2 年　　加工学
教員：　機械電気工学科　　伊藤　尚
場所：　情報処理センター　第 1 パソコン室
参加者
関連授業担当教員：　森野　数博　　（機械電気工学科）
学科内教員：　鈴木　厚行　　（機械電気工学科）
他学科教員：　西尾　幸一郎　　（土木建築工学科）
学外教育モニター：　藤本　賢司　様
琴山　素行　様

■レビュー会

日時：平成 24 年　1 月　13 日（金）12:35～（1 時間程度）
場所：管理棟 1F 小会議室（玄関脇）　司会進行　（エグザミナー）鈴木

審議項目

- 授業の進め方
- 学生の理解度
- 板書等の使い方
- 学生の参加意欲の向上のさせ方，など

■評価方法

公開授業参観中は公開授業評価チェックシートに気づいた点を記入

出典：学習・教育レビュー室資料

資料２－２－②－３　公開授業レビュー会結果

2011 年 1 月 13 日

公開授業レビュー会

日時：平成 24 年 1 月 13 日　12:35 ~13:10
場所：管理棟 1F 小会議室
出席者：藤本 賢司 様，琴山 素行 様，森野 数博 先生，西尾 幸一郎 先生
進行：鈴木厚行

内容：

担当者の感想

・ 前半盛り上がるところもあったが、時間が足りなくなり、学習シートの予定までは行けなかった。
・学生はまじめに取り組んでくれ、理解もしてくれたと思う。

授業で良かった点と悪かった点

藤本様
・前半と後半にアクセントがあり退屈しなかった。
・参加意欲も非常に高かった。
・まとめると素晴らしいものができるのでは。
・プレゼンはどんどんやられたらよいと思う。
・効果的にパソコンを使っていた。
・椅子の音が改善できたらよい。

琴山様
・生徒のプレゼンの仕方が下手であった。生徒はわからせる意識を持ったほうがよいのでは。
・プレゼンを聞いている生徒の態度が悪かった。関係のない画面を見ている生徒もいた。
・生徒の質問の声が聞こえない。先生もマイクを使用しないときは声が聞こえなかった。

森野先生
・学生からの質問が多くて良かった。
・学生のパワーポイントの内容はいまひとつであった。
・プレゼンに対する学生の質問については、加工法にもう少し焦点を当てるとよいと思うが、質問が多く出ているため、必ずしも加工法に焦点をあてなくてもよいかもしれない。バランスを取るともっとよくなると思う。
・前半と後半がうまく色分けして飽きさせない工夫がよい。
・答えられなかった質問は次の授業で回答させるのもよいかもしれない。ただし、質問しづらい雰囲気になってしまう恐れもあり、難しいところ。

西尾先生
・学生が積極的に参加し、質問が多いのが良かった。
・学生が質問に答えきれないときにどうするのか気になった。後で再調査させたり、教員がフォローしたりするといいかもしれない。あるいは、答えられないような質問は避けるように学生は質問内容を考える必要があると思う。
・パソコンで調べながらやっているのは良い。
・第 1 パソコン室は後ろから各パソコンの画面が見られるため、関係ない画面を見させないためには良いと思った。

出典：学習・教育レビュー室資料

資料２－２－②－４　学習指導連絡票のサンプル

学　習　指　導　連　絡　票

平成23年度 第 2 回

学　年	3	学　科 (クラス)	ME	教 科 名	材料学Ⅰ	担 当 者	西村　太志
授業実施日数　（　　／　　～　　／　　）　（　木曜日　5・6時限）　回×　時限							

１．クラス全般について

（１）授業態度（雰囲気、意欲など）について

クラスの雰囲気はとても良い

（２）その他（清掃、黒板消しなど）

問題なし

２．個人について

（１）授業中の態度が目につく学生（教科書が無、ノートを執らない、無駄話をする、居眠りをするなど）

特になし

（２）レポート、製図、小試験などについて（提出しない、遅れる、成績が芳しくない）

前期総合が欠点の学生

[redacted]

（３）特に指導の必要があると思われる学生

[redacted]

※ 学生個人名はぼかしてある。

出典：教務係資料

資料２－２－②－５　英語力向上タスクフォースIIの設置

英語力向上タスクフォース II の設置について

平成 21 年 7 月 8 日
校長　平 野　千 博

１．趣旨

本校は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を教育目標として掲げ、そのための学習・教育目標のひとつとして「技術者としてのコミュニケーション能力を養うこと」を掲げている。現在および将来に予想される技術の国際的展開の趨勢を考えると、「技術者としてのコミュニケーション能力」を構成するものの中で、英語による国際的なコミュニケーション能力は、不可欠の要素のひとつであることは明らかである。

本校においては、平成 14 年に英語力向上タスクフォースを設け、本校の学生の英語力を向上させる総合的な方策について検討し、その結果を踏まえて、現在の英語教育体制を整備した経緯がある。以来 7 年間を経過し、技術者が関わる業務はますます国際的な広がりを持つようになっている。

このような状況を踏まえ、現在の徳山高専における英語教育の目標等の有効性を確認し、今後本校がとるべき英語教育の目標等について検討するため、英語力向上タスクフォース II（以下「タスクフォース」という。）を設置する。

２．任務

タスクフォースは、平成 21 年度内を目途に、以下の諸点について検討し、検討の結果を校長に報告するものとする。

（１）現時点における英語力向上目標の達成度の評価
（２）現時点における英語力向上を目的とした方策の有効性の評価
（３）専攻科学生選抜における学校長推薦基準および専攻科修了要件のうち英語力に関する事項の妥当性の評価
（４）英語力向上のためにとるべき方策と達成目標についての提案
（５）その他英語力向上を図る上で必要な事項

３．構成

タスクフォースは、校長の指名する委員長および委員数名で構成する。必要に応じ、関係者を招請して意見を求めることができる。

出典：英語力向上タスクフォースII諮問

資料２－２－②－６　エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループの設置

エンジニアリング・デザイン教育プログラム
検討ワーキンググループの設置

平成 22 年 7 月 1 日
校　長　裁　定

１．趣旨

本校は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を教育目標として掲げ、そのための学習・教育目標のひとつとして「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること」すなわちエンジニアリング・デザイン能力の涵養を掲げている。

本校においては、平成 19 年度から「ものづくり技術者育成支援事業」による取組みを開始し、専攻科において「総合実験」「総合演習」を中心としたエンジニアリング・デザイン教育プログラムを整備した。しかしながらこの教育プログラムは平成 23 年度以降の JABEE 認定審査に盛り込まれることが決定されている国際的に通用するエンジニアリング・デザイン教育プログラムとしての観点を満たしたものとはなっていない。

このような状況を踏まえ、現在の本校におけるエンジニアリング・デザイン教育の方法等の有効性を確認し、今後、本校がとるべきエンジニアリング・デザイン教育プログラムについて検討するため、エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置する。

２．任務

WG は、平成 22 年度内を目途に、以下の諸点について検討し、検討の結果を校長に報告するものとする。

（１）国際的に通用する観点から、現時点における本校のエンジニアリング・デザイン教育プログラムの達成度の評価
（２）国際的に通用する観点から、今後、エンジニアリング・デザイン教育プログラムを確立するためにとるべき方策と目標についての提案
（３）その他、エンジニアリング・デザイン能力の向上を図る上で必要な事項

３．構成

WG は、校長の指名する委員長および委員数名で構成する。また、必要に応じ、関係者を招請して意見を求めることができる。

４．庶務

WG の事務は、学生課において行う。

出典：エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループ諮問

資料２－２－②－７　「英語力向上タスクフォースII」提言

7. 提言

「英語力向上タスクフォースⅡ」の答申として、以下のことを提言する。

- ○ 本科における卒業要件または進級要件の設置
- ○ 専攻科修了要件（TOEIC スコア 470 まで）および専攻科推薦資格（TOEIC スコア 380 まで）の段階的引き上げ
- ○ 現行カリキュラムの改正（本科 4･5 年生における英語未履修の防止）
- ○ 英語関連科目の抜本的見直し（専攻科「英語購読」など）
- ○ 英語関連教育プログラムに対する外部評価の実施
- ○ 英語関連科目担当教員に対する研修の実施
- ○ 習熟度別・少人数制授業の実施
- ○ 英語科教員（特に英語を母語とする外国人の専任教員）の増員
- ○ 短期語学研修の実施体制の改善
- ○ 海外提携校との交流の強化
- ○ 留学生と日本人学生との交流機会の増加
- ○ 英語教育に関わる教材・設備の整備

以上の提言を実現するために最も重要なことは、教職員全体による組織的な取組みである。したがって教員会議等において、本校の英語教育目標を教職員全員で再確認し、それを共有することが必要である。そこでは、「世界に通用する技術者」としてのコミュニケーション能力をどのようにとらえるかを議論し、具体的な目標を明確に設定する必要がある。

出典：英語力向上タスクフォースII答申

資料２－２－②－８　理科系科目間調整会議（抜粋）

理科系分野カリキュラム等検討

日　時：平成23年9月27日(木) 13:30～

場　所：小会議室

参加者：笠置(一般科目)、石田(ME)、鳥袋(CA)、杉村(IE)

議題

1. 3年生までの理科系科目のカリキュラムについて
現行 2、3年生で4単位を、1～3年生で、5単位にする。

1年生　通年1単位	2年生　2単位	3年生　　2単位
1年生　　2単位	2年生　2単位	3年生　前期1単位　*1)
1年生　前期1単位	2年生　2単位	3年生　前期1単位

*1) 後期は演習を入れることも可能。

上記を検討した結果、1年生に1単位を増やす方向で、具体的な案を物理担当者で作成し、10月14日以降に科目間調整会議(物理系)を開催することが確認された。

出典：理科系科目間調整会議議事録

（分析結果とその根拠理由）

教養科目や専門科目の科目間での整合性をとるため，「科目間調整会議」をはじめ，各会議が機能的に働き，教員間の連携が適切に行われている。非常勤教員と専任教員の連携のための懇談会や，公開授業制度など，教員間連絡ネットワーク組織が整備され，機能している。

以上のことから，一般科目および専門科目を担当する教員間の連絡が，機能的に行われている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における学習指導上の問題およびホームルーム運営計画に対しては，教務主事を中心とした「教務委員会」が，専攻科生については，専攻科長を中心とする「専攻科委員会」が専攻特別研究担当教員と協力しながら，クラス担任や専攻科幹事の支援を行っている（資料２－２－③－１）。

また，クラス担任については学年主任を中心とする「学年担任連絡会議」を行い，３主事と学年主任による「主事担任連絡会」を毎月開催している（資料２－２－③－２）。３～５年生については学科主任を中心とする「教室会議」も教育活動を円滑に実施するための支援体制として機能している。

生活面に関する問題では，本科生の場合，学生主事室または学生主事を中心とした「厚生補導委員会」が，専攻科生に関する問題は「専攻科委員会」が統括している（資料２－２－③－３，資料２－２－①－８）。なお，寮生の生活指導については，寮務主事を中心とした「学寮運営委員会」が機能しており，実務的には寮務係がクラス担任と連絡を保ちながら，学生指導を支援している（資料２－２－③－４）。さらに，学生の精神衛生上の問題や個人的な問題に対する相談を行う組織として，「学生相談室」が設置されている（資料２－２－③－５）。その他，学生の進路を支援

する全学的組織として，「キャリア教育支援室」が平成１６年１０月に設置された。本科生から専攻科生まで各学年に応じた，キャリア教育支援プログラムが制定され，実行されており，低学年からの段階的なキャリア形成の支援を行っている（資料２－２－③－６）。キャリア教育支援室が設置されたことにより，全学年にわたりクラス担任の負担が軽減された。

課外活動については，原則として全教員が顧問を務めており，必要に応じて，学生主事が中心となり，課外活動の指導に関する意見交換や調整を行うためのクラブ顧問会議や，クラブリーダー研修会（資料２－２－③－７，８）などを通して，顧問教員の支援を行っている。なお，主に後援会費によって，顧問教員の指導従事手当や引率旅費についての財政支援も行われている。また，平成１７年度からはクラブ活動引率のためのレンタカー利用（資料２－２－③－９）も可能となり，顧問教員の便宜が図られている。

これらの支援体制には，事務職員および技術職員５１名（非常勤職員を含む。）も含まれており，教員と緊密な協力体制を取りつつ，全校一体となって運営されている。

資料２－２－③－１　学級担任の手引き

学級担任の手引き

はじめに

高専の５年間は、中等教育から高等教育にわたり、学生の心身の発達・変化が著しい時代である。青年期から成熟した大人へと発達するこの時期は、身体的発達は最高の段階に達し、精神的な面でも、抽象的・論理的思考の発達が進み、社会的関心も本格的なものとなる。抽象的思考は内省的傾向や社会関心と結びつき、人生論的な思索や社会現象の理論的な把握へと関心が向いてくる。また、具体的な状況に束縛されることなく、自由に論理を展開し、みずみずしい感受性や憧れ、理想などを強く示し、自己の判断と責任で行動しようとする傾向が強いが、期待と不安、自信と劣等感、自己主張といった矛盾した感情をもつ学生も少なくないので、指導にあたってはこの点を十分配慮することが必要である。学生の自己矛盾や欠陥の意識は、新しい自己の生き方を確立しようとする動きの現れであり、このような動きなしには人格の発達は不可能であることを理解して、その発達を支援するという姿勢で指導にあたることが望まれる。学生の学校生活は、課外活動や学生会活動を除けば、ほとんどがクラスを単位として行われる。

本校では、１学年は学科の枠を取りのぞいた混合学級を編成することにより学生の学校への適応を図り、２～５学年は学科ごとのクラス編成を採っているが、いずれの学年においてもそれぞれのクラスの雰囲気が個々の学生に及ぼす影響は大きく、クラス運営は教育活動の根幹をなすものである。

クラス運営の中心となる学級担任は、学生にとって最も身近な教員であり、最も頼れる指導者・助言者・相談相手でもある。また、学校からの連絡や学生指導も学級担任を通じてなされることが多い。担任は学生に対する影響力が極めて大きいことを認識して指導にあたるべきであり、学生との信頼関係をいかに築けるかは重要な鍵となる。学級担任・クラス・学生それぞれに個性があるが、指導は学校の指導方針や諸規則の一定の枠の中で、適宜適切に行われなければならない。担任の任務の範囲に限界を設けることは難しいが、ここでは、学級担任の仕事として、本校で従来なされてきたことのうち基本的なものを列挙して参考に資することにする。なお、学級担任以外の教員も、授業その他を通じて、個々のクラス・学生を指導し影響力を及ぼす立場にあり、学級担任の仕事を理解し、クラス運営や学生の個人指導に全面的に協力すべきである。

出典：教務係資料

資料２－２－③－２　主事担任連絡会議事録（抜粋）

H23 年度　第７回主事・学年主任・担任代表連絡会　議事録

日時　　平成２４年２月１６日(木)　１６：１０－１６：５０

出席者　教務主事(池田)、学生主事(佐賀)、寮務主事(田村)、１年学年主任(大橋)、
２年学年主任(北村)、３年学年主任(小田)、４年担任代表(西村)、５年担任代表(島袋)
欠席者　なし

内容

1.　担任より(クラスの状況等)

1年(大橋)

・ [redacted]:進路変更の予定(現在私立高校に合格している)。

2 年(北村)

・ インフルエンザ1名:　後末試験4日間受験していない。対応検討中。

3 年(小田)

・ ME3 では進路変更予定者が4名いる。欠席が多い。試験を受けていない学生もいる。
・ IE3 には 1 名いる。授業にも出席。試験も受けている。
・ CA3 [redacted] 5 日間の欠席。
　⇒　古田教員(担任)より公認欠席にならないかとの相談あり。奨学金延長推薦基準(欠席)内であったことから公認とは認めず(教務主事)。
・ 朝 SHR は好評。
　⇒　やはり寒くなると、少し増加する傾向にあるように思われる(教務主事)。
　　長期休み明けが少し増加する傾向があった(北村教員)。
　　SHR に少し遅れても、授業には遅刻しないことので、朝 SHR は良いと思う(西村教員)。

4 年(西村)

・ 求人(企業)対応に追われている。
・ Hyper Q-U テストは普段気がつかない学生のことがわかってよい。
・ ME4 には進路変更予定が 3 名いる。進級が危ぶまれる学生も多い。

5 年(島袋)

・ [redacted]が数科目の試験に出席した。

出典：主事担任連絡会資料

資料２－２－③－３　厚生補導委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校厚生補導委員会規則

制　　定　　昭和５２年４月１日
最終改正　　平成１６年４月１日

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校に、厚生補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関する次の事項を審議する。
(1)　課外活動に関すること。
(2)　奨学に関すること。
(3)　入学料、授業料、寄宿料の減免及び授業料の徴収猶予に関すること。
(4)　個人指導に関すること。
(5)　集団指導に関すること。
(6)　規律保持に関すること。
(7)　保健衛生に関すること。
(8)　福利厚生に関すること。
(9)　その他厚生補導に関すること。

出典：本校規則集

資料２－２－③－４　学寮運営委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学寮運営委員会規則

制　　定　　昭和５２年４月１日
最終改正　　平成１６年４月１日

（設置）
第１条　この規則は、徳山工業高等専門学校学寮規則第６条第２項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。
（任務）
第２条　委員会は、校長の命を受け、学寮に関する次の事項を審議する。
(1)　入寮及び退寮に関すること。
(2)　寮生の福祉増進に関すること。
(3)　寮生の規律保持に関すること。
(4)　寮生の指導に関すること。
(5)　学寮の防災に関すること。
(6)　寮生の安全に関すること
(7)　学寮の給食業務に関すること。
(8)　その他学寮に関すること。

出典：本校規則集

資料２－２－③－５　学生相談室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学生相談室規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学生相談室（以下「相談室」という）を置く。
（目的）
第２条　相談室は、学生の抱える悩みについて相談に応じ、適切な助言を行い、もって学生の健全な育成を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　相談室は、次の業務を行う。
(1)　学生の抱える悩みに関する相談及び助言
(2)　悩みを抱える学生を持つ学級担任への支援
(3)　相談助言に関する調査研究
(4)　その他前条の目的達成に必要な事項

出典：本校規則集

資料２－２－③－６　キャリア教育支援室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校キャリア教育支援室規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）にキャリア教育支援室を置く。
(目的)
第２条　キャリア教育支援室は，低学年から専攻科まで一貫したキャリア教育支援プログラムに基づく継続的なキャリア教育支援を行うことにより，キャリア形成とキャリアプラン実現のためのサポート体制の充実・強化を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　キャリア教育支援室は，次の業務を行う。
(1)　キャリア教育支援プログラムの作成及びこれに基づく活動に関すること。
(2)　進学及び就職に関するデータベースの作成及び管理に関すること。
(3)　キャリアサポートブースの運用に関すること。
(4)　卒業生の状況把握・支援及び卒業生との連携に関すること。
(5)　その他前条の目的を達成するために必要な業務。

出典：本校規則集

資料２－２－③－７　クラブ顧問会議議事録

H24 第１回クラブ顧問会議議事概要

日　時：平成２４年５月１６日（水）１６：１０～
場　所：管理棟２F 大会議室
参加者：別添出欠表のとおり

議　事：
１．体育施設及び部室の使用について
佐賀学生主事から，以下のとおり要請があった。
・　体育施設を利用して活動を行った場合は，用具を片付けること。
・　近隣の高校で盗難の事案があるので，部室等の施錠，鍵の管理をしっかり行うこと。
・　ゴミの散乱等を防ぐため，外部使用に対しても連絡，注意を促すこと。

２．クラブ活動におけるレンタカーの使用要領について【資料】
佐賀学生主事から資料により説明があり以下のとおり審議された。
・　学生の同乗同意書について，年間等の提出にしてはどうかとの要望があったが，事案毎に保護者が把握できるよう毎回することとした。
・　４の 2)について，「走行距離が片道 200 キロメートルを超えるとき又は運転時間が連続５時間を超えるときは，代行運転手へ運転業務を委託するか，運転者を複数同乗させるか，若しくは，遠征先に宿泊すること。」と修正することとした。
なお，割り振られたレンタカーの使用回数に相当する金額の範囲内で，マイクロバスの代行運転手を委託することについて要望があり了承された。

３．高体連の大会参加のための公認欠席等について
佐賀学生主事から，以下のとおり要請があった。
・　試験週間及び試験期間に試合に参加する場合は，学級担任の押印を受けた保護者の同意書を対外試合許可願に添付すること。
※試験が受けられない場合は，許可できない。（インターハイ本戦，国体を除く。）
・　勝ち進めば授業日に試合がかかる場合でも，事前に公認欠席願を提出すること

出典：学生係資料

資料２－２－③－８　クラブリーダー研修会実施概要

平成２３年度クラブリーダー研修会　実施要項

実 施 目 的：クラブ顧問，部長等を対象に，クラブリーダーの養成を目的に開催する

特別講演講師：香田整形外科医院
院長　香田　和宏　氏

演　　題：「スポーツ傷害と外傷」

日　　時：平成２３年１２月１７日（土）
１４時から１５時３０分

場　　所：徳山工業高等専門学校
メディアホール

出典：学生係資料

資料２－２－③－９　レンタカー使用要領

平成 17 年 7 月 12 日
【平成 24 年 5 月 21 日改正】

クラブ活動におけるレンタカーの使用要領

１．クラブ遠征などに使用できるレンタカーは，本校と契約した営業所のワゴン車（８人又は１０人乗り）及び普通乗用車（５人乗り）とし，運転者は本校が契約した代行運転手又は本校自動車使用規則に定める車両運転適格者名簿に登載されている本校教員とする。

２．レンタカーの使用回数および経費について
1) 使用回数は全クラブで年間延べ６０回程度とし，年度末に次年度の希望回数を調査し，学生主事室で検討のうえ各クラブに割振る。その経費は公費負担とするが，各クラブに割り振られた使用回数を超えて使用する場合は，使用クラブの自己負担とし，学生係で精算するものとする。
2) 回数は１日 12 時間（原則午前８時から午後８時まで）を１回とし，遠征等で２日（一泊二日）使用する場合は，36 時間として２回にカウントする。
3) レンタカーを使用した場合，クラブ指導旅費のうち交通費分は支給しないが，燃料費，高速道利用料金などに係る経費は，別に後援会費から負担する。ただし，高速道利用に関しては，美祢 I.C 以西もしくは，大竹 I.C 以東に遠征する場合にのみ適用する。
4) レンタカーの年間使用回数は学生係で管理する.

３．鍵の受渡し等
1) 鍵の受渡し場所は，学生係（ただし，勤務時間外及び休日の場合は守衛所）とする。
2) 車両の受取り及び返却場所は，情報処理センター前の駐車場とする。

４．レンタカー使用時の注意事項
1) 使用する際は，１ヶ月前までに別紙「レンタカー使用届」を学生係に提出し，レンタカーの予約を確認したうえで以下の書類を取りまとめ，学生係に提出すること。
部活動指導業務従事計画書
旅行命令・依頼簿（備考欄に「レンタカー使用」と明記すること）
学生が同乗する場合は「クラブ活動における公用車への学生の同乗同意書」
2) 走行距離が片道 200 キロメートルを超えるとき又は運転時間が連続５時間を超えるときは，代行運転手へ運転業務を委託するか，運転者を複数同乗させるか，若しくは，遠征先に宿泊すること。
ただし，１日の総走行距離は 400 キロメートルを超えてはならない。
3) 当日やむを得ない事情により使用時間を超過する場合は，事前にレンタカー営業所へ連絡すること。
4) 万一，事故が発生した場合は，現場での必要な処置を講じた後，直ちにレンタカー営業所へ連絡するとともに，事故発生時の本校連絡網に従い連絡を行うこと。
5) レンタカー返却の際は，必ず燃料を満タンにすること。
6) 燃料費，高速道利用料金等の領収書は帰校後速やかに学生係に提出すること。

出典：学生係資料

（分析結果とその根拠理由）

教員が行う教育活動を支援するため，人的・物的・経済的な面からさまざまな方策が採られており，支援体制は十分に機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 時代に適合した複合学科を採用している
- 準学士課程と専攻科課程が１対１に対応している

- 教育課程全体を企画・調整する役割を総合企画室が主として担っている
- 英語力向上タスクフォースII，エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループや科目間調整会議が効果的に機能している
- 教育制度改善に係るさまざまな試みや，JABEE認定にともなう質的保証の積極的な取り組みがなされている

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程は，機械電気工学科，情報電子工学科，土木建築工学科の３つの複合学科で構成されており，専攻科課程は準学士課程と１対１に対応する３つの専攻，機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，環境建設工学専攻で構成されている。本校の教育の目的は，「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者」であり，学科／専攻の構成は，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

本校には，これらの教育を支援する全学的な施設として「情報処理センター」「教育研究支援センター」および「テクノ・リフレッシュ教育センター」が設置されており，本校の教育の目的を達成する上でそれぞれが重要な役割を果たしている。

教育課程全体を企画・調整する役割は総合企画室が主として担っており，ＦＤ委員会が役割を一部分担している。また，その運営の方向づけと最終決定は，運営委員会が担っている。実際に審議を行うのは，準学士課程は教務委員会，専攻科課程は専攻科委員会で，二つに共通する話題は教務・専攻科合同委員会並びに科目間調整会議で検討が行われる。さらに，それを有効に展開するため，学内では自己評価委員会，学習・教育レビュー室が，学外関係者では顧問会議がそれにあたっている。

教育活動を支援する体制としては，クラス担任の学生指導の支援を学生相談室やキャリア教育支援室が担っている。また，各学年のクラス担任のなかに代表をおき，クラス担任と３主事の意見交換ができる場を設けている。これらの支援体制には，事務組織も教員と緊密な協力体制を取りつつ，全校一体となって運営されている。

基準３　教員及び教育支援者

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

一般科目は主として，教養科目としての国語や英語の語学，数学，物理，化学，生物学などの理科系科目や，地理，歴史，政治経済学などの社会科学系科目によって構成され，それぞれの専門分野を担当する専任教員１５名および非常勤教員２０名が，学習・教育目標に沿って，各分野に適切に配置されている（資料３－１－①－１，２）。

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」の教育目的を達成するため，学生の国際感覚を養い，視野を広げるためにも選択科目の幅を広げ，２年生では，書道，工芸，美術，音楽などの芸術分野が選択できるように，また４，５年生では，西洋史，心理学，ドイツ語，中国語などの幅広い人文系や言語などの選択科目，専門科目の基礎をつかさどる生物学，物理化学，などの科目を配し（資料３－１－①－３），そのための教員が配置されている（資料３－１－①－１，２）。

英語教育においては，世界に通用する人材の育成として，国際感覚ある英会話教育のために，ネイティブスピーカー３名の非常勤教員による英会話教育等を実施している。

国語については，実践力のある技術者としての素養を養い，コミュニケーション能力を高めるために，４年生で日本語コミュニケーションの授業が行われている（資料３－１－①－３）。

専任教員と非常勤教員の教育連携を図るため，懇談会，非常勤教員向けの教育改善アンケート等を行っている（資料３－１－①－４）。

実践力のある開発型技術者の育成のためには，基礎科目として数学や物理学の充実が重要であり，一般科目の教員と専門科目の教員が相互に乗り入れ，系統的な授業がなされる工夫をしている。その一例として，数学および物理のカリキュラム系統図と講義内容を資料３－１－①－５に示す。

資料３－１－①－１　一般科目担当教員配置

（専任教員）

	氏名	専門分野	授業科目
社会	小川 仁志	公共哲学、政治哲学	倫理、法学、哲学
	柏倉 知秀	歴史	歴史、歴史学、ドイツ語
数学	荒谷 督司	数学	数学ⅡA、数学ⅢA、微分方程式、微分積分学
	米田 郁生	数学	数学ⅠA、数学ⅡB、数学ⅢA
	長廣 恭子	数学、物理	数学ⅠB、数学ⅢB
	原田 幸雄	数学	数学ⅡB、微分方程式
理科	大橋 正夫	固体化学	化学基礎、化学Ⅱ、物理化学
	天内 和人	発生情報遺伝学	生物基礎、生物学、化学Ⅲ
	笠置 映寛	科学教育、機能材料	一般物理、物理基礎、基礎物理Ⅰ、基礎物理Ⅱ、力学
英語	長戸 喜隆	英語文体論、英語教育法	総合英語Ⅰ(W)、総合英語Ⅱ(W)、英語特別演習、総合英語演習Ⅱ、人文社会特講Ⅰ(短編小説)
	国重　徹	英語教育、認知言語学	基礎英語R、総合英語Ⅰ(R)
	高橋　愛	アメリカ文学	基礎英語W、総合英語Ⅱ(R)、総合英語演習Ⅱ、人文社会特講Ⅱ(技術史)
国語	一色 毓子	日本近代文学	国語総合Ⅰ、日本語コミュニケーション
	谷本 圭司	中国文学	国語総合Ⅱ、中国文学
保健体育	前川 直也	コーチング科学、スポーツ心理学	保健、体育、健康科学

（非常勤教員）

番号	氏名	期間	学科等	本務
1	BLAYNE ANTHONY LUDWIG	通年	英語	民間等
2	JAMES PEREGRINE CHAMBERS	通年	英語	民間等
3	末永ｷｬﾘｰﾌｪｲｽ	通年	英語（公募）	なし
4	谷國晶洋	通年	英語	なし
5	中光義亮	通年	英語	私立大学教員
6	田中数恵	通年	英語	私立大学教員
7	中谷秀明	通年	体育	元高校教員
8	田中富美子	通年	体育	元高校教員
9	和田實	通年	体育	元高専教員
10	好村友江	通年	国語・日本事情	元私立大学教員
11	小川礼子	通年	政治経済	なし
12	山根勝	通年	日本史	元高校教員
13	佐伯喜誠	通年	芸術	なし
14	山田哲生	通年	芸術	民間等
15	佐古淳子	通年	芸術	元中学校教員
16	古川昭夫	通年	芸術	なし
17	秋吉康光	後期	数理科学	元高専教員
18	徳永彩理	通年	中国語	なし
19	荒谷容子	通年	心理学	なし
20	林由美	通年	日本語	なし

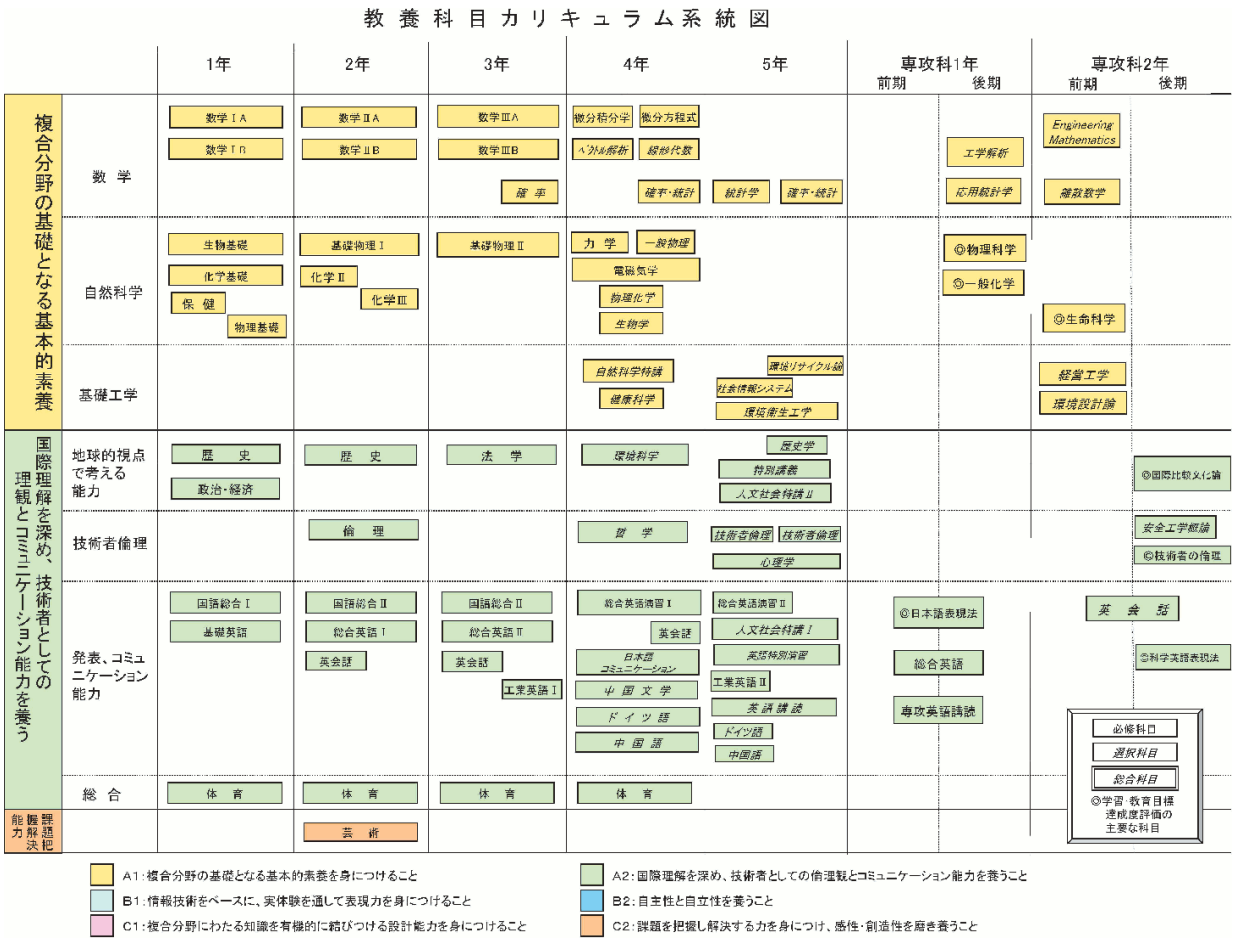
出典：総務課資料

資料３－１－①－２　一般科目担当教員の専門分野一覧

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授	長戸　喜隆	ヘミングウェイの小説の文体論	英語文体論 英語教育法	学生相談室長
教授 理学博士	大橋　正夫	二次電池正極活性物質の合成と特性	固体化学	図書館長補 総合企画室主務
教授 学術博士	天内　和人	生物の発生に関わるシグナル伝達系の機能解析	発生情報遺伝学	専攻科長
教授	国重　　徹	多読を活用した効果的な新英語学習法開発に関する研究	英語教育 認知言語学	寮務主事
教授	一色　誠子	室生犀星作品研究	日本近代文学	学科主任
嘱託教授	原田　幸雄	退化型の楕円および放物型偏微分方程式の解の正則性	数学	
准教授	谷本　圭司	中国宋代文学研究	中国文学	テクノ･リフレッシュ教育センター副センター長 情報処理センター参事
准教授 博士 (人間文化)	小川　仁志	コミュニティ論 リベラリズム論	公共哲学 政治哲学	学生主事補
准教授	柏倉　知秀	西洋中世史 ハンザ史	歴史	１年２組担任
准教授 博士(理学)	荒谷　督司	可換環の表現論	数学	寮務主事補 キャリア教育支援室 キャリアアドバイザー
准教授 博士(数学)	米田　郁生	幾何的モデル理論	数学	１年３組担任
准教授 博士(学術)	笠置　映寛	物理教育用実験教材の開発 磁性複合材料の高周波電磁気特性に関する研究	科学教育 機能材料	専攻科幹事（一般科目）
准教授	高橋　　愛	アメリカ文学における男性性の表象	アメリカ文学	教務主事補
准教授	前川　直也	スポーツ選手の競技力向上に関する研究 柔道選手の心理的適性	コーチング科学 スポーツ心理学	１年１組担任
講師	長廣　恭子	数学教育における物理的概念の導入 高専における数学教育の分析	数学 物理	テクノ･リフレッシュ教育センター参事 学習・教育レビュー室 エグザミナー

出典：本校 Web サイト

資料３－１－①－３　教養科目カリキュラム系統図



出典：シラバス

資料３－１－①－４　専任教員と非常勤教員の懇談会，教育改善アンケートの案内

平成２３年９月１日

非常勤講師の先生方へ

徳山工業高等専門学校
教務主事

教育改善へのご協力のお願い

先生方には、平素より本校教育に多大のご支援を賜りありがとうございます。
さて、後期（10／11）を迎えるにあたりまして、これまでの授業の状況等を把握し、今後の学習指導、教育改善に努めていきたいと考えております。そこで、非常勤講師の先生方にも忌憚の無いご意見をいただきたく、今年度も次のとおりご協力をお願いすることといたしました。

１．授業等に関するアンケートへのご協力のお願い
授業等に関するアンケート(別紙)を送付いたしました。先生方が普段感じられている事柄につきましてご回答をお願いいたします。

２．本校担当教員との懇談のご協力のお願い
アンケートへの記載内容やその他の事柄につきまして、別紙本校担当教員との懇談をお願いいたします。その際、アンケートのご提出をお願いいたします。前期終了科目ご担当の先生には、9／29・30 の答案返却の日にお願いいたします。

お忙しい折、大変ご面倒をおかけいたしますが、趣旨をご理解のうえ何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
ご不明な点がございましたら、本校教務係（0834-29-6233）までお願いいたします。

出典：教務係資料

資料３－１－①－５　数学および物理のカリキュラム系統図と講義内容

徳山高専数学系統図と講義内容（平成24年度）



必修科目
選択科目

講義内容　（抜粋、詳細はシラバス参照）

数学ⅠA

1. 2次関数のグラフ
2. 分数関数、無理関数
3. 分数不等式、無理不等式
4. 逆関数
5. 指数関数、対数関数
6. 三角比
7. 三角関数のグラフ
8. 加法定理
9. 三角方程式、不等式

教科書	新 基礎数学（大日本図書）
担当	米田郁生

数学ⅡA

1. 関数の極限
2. 導関数の公式
3. 三角関数の導関数
4. 対数関数の導関数
5. 平均値の定理
6. 関数の最大・最小
7. 接戦と法線
8. 曲線の凹凸
9. 定積分と不定積分

教科書	微分積分Ⅰ（大日本図書）
担当	荒谷督司

数学ⅢA

1. 置換積分・部分積分
2. 分数・無理関数の積分
3. 三角関数の積分
4. 面積・立体の体積
5. 曲線の長さ
6. 広義積分
7. 多項式による近似
8. 級数
9. テイラー展開

教科書	微分積分Ⅰ・Ⅱ（大日本図書）
担当	藤田・米田・荒谷

微分積分学

1. 偏導関数
2. 合成関数・全微分
3. 2変数関数の極値
4. 陰関数の極値
5. 2重積分
6. 極座標による2重積分
7. 2重積分の変数変換
8. 2重積分の広義積分
9. 2重積分の応用

教科書	微分積分Ⅱ（大日本図書）
担当	荒谷・橋本

微分方程式

1. 微分方程式の意味
2. 変数分離形
3. 同次形
4. 1階線形微分方程式
5. 完全微分方程式
6. 1階微分方程式の応用
7. 2階線形微分方程式
8. 定係数2階微分方
9. 線形でない2階微分

教科書	微分積分Ⅱ（大日本図書）
担当	荒谷・原田

数学ⅠB

1. 整式
2. 因数分解
3. 分数式、比例式
4. 実数、複素数
5. 2次方程式の解
6. 分数方程式・無理方程式
7. 等式の証明
8. 各種不等式
9. 不等式の証明
10. 点と直線

教科書	新 基礎数学（大日本図書）
担当	長廣恭子

数学ⅡB

1. 三角関数の加法定理
2. 円・楕円の方程式
3. 不等式と領域
4. 順列・組合せ
5. 等差数列、等比数列
6. 漸化式と数学的帰納法
7. 平面ベクトル
8. 空間ベクトル
9. 直線・平面・球の方程式

教科書	基礎数学・線形代数（大日本図書）
担当	原田・米田

数学ⅢB

1. 行列とその演算
2. 転置行列、逆行列
3. 掃き出し法
4. 行列式の性質と展開
5. クラーメルの公式
6. 線形変換
7. 固有値、固有ベクトル
8. 対称行列の対角化

教科書	線形代数（大日本図書）
担当	長廣・義永

ベクトル解析

1. 空間のベクトル
2. ベクトル関数
3. 曲線
4. 曲面
5. スカラー場とベクトル場
6. 発散と回転
7. グリーンの定理
8. 面積分
9. ガウスの発散定理
10. ストークスの定理

教科書	応用数学（大日本図書）
担当	飛車・小林

確率・統計

1. 順列・組合わせ
2. 確率・条件付き確率
3. 確率変数・平均・分散
4. 2項分布・分布
5. 連続型確率変数
6. 正規分布
7. 資料の整理
8. 母集団と標本
9. 母平均の区間推定

教科書	学科別：シラバス参照
担当	飛車・池田

応用統計学

1. 度数分布
2. 相関係数と回帰直線
3. 確率分布
4. 正規分布
5. X2分布、t分布など
6. 標本分布
7. 区間推定
8. 仮説検定
9. 母相関係数の推定

教科書	新統計入門（裳華房）
担当	飛車来人

工学解析

1. 関数とグラフ
2. 行列とその応用
3. 多項式とその応用
4. 関数とその応用
5. 常微分方程式の解法
6. 偏微分方程式とその応用
7. シミュレーションと制御入門

教科書	Octaveを用いた数値計算入門
担当	原　隆

離散数学

1. 基本的証明法
2. 整数の基本的性質
3. 合同式
4. 整数の暗号への応用
5. 有限体と拡大体
6. 符号
7. 有限体の誤り訂正符号への応用

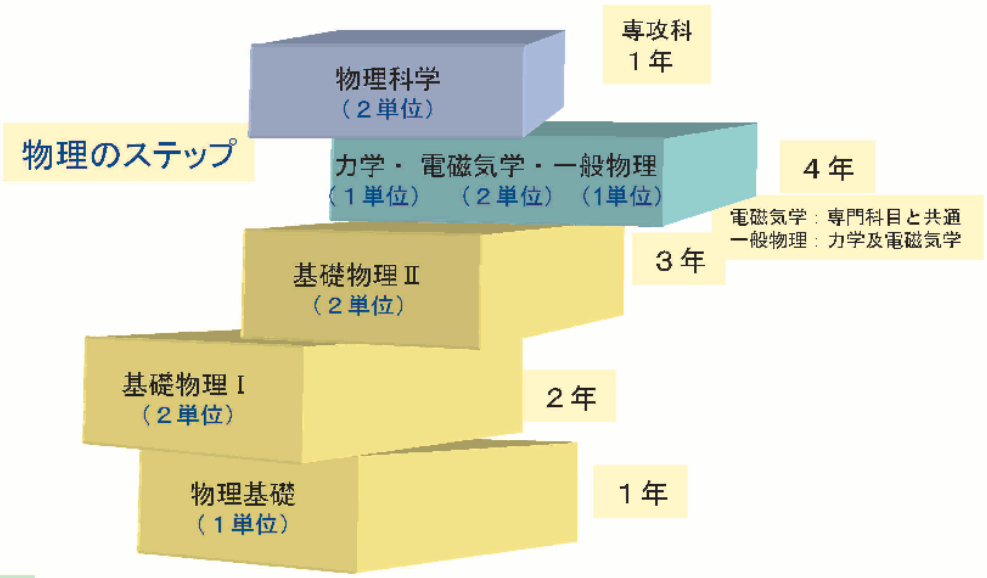
教科書	情報数学の基礎（サイエンス社）
担当	義永常宏

Engineering Mathematics

1. Fundamental concepts
2. Ordinary differential equations
3. Applications of differential equations
4. Linear differential equations
5. Applications
6. Multiple, line and surface integrals and integral theorems
7. Matrices

教科書	Advanced Mathematics for Engineering and Scientists (McGraw-Hill)
担当	飛車来人

徳山高専
物理系統図と講義内容
（平成24年度）



講義内容　（抜粋、詳細はシラバス参照）

物理基礎	
1. 速度・加速度 2. 自由落下運動 3. 放物運動 4. 力の合成・分解 5. いろいろな力 6. 運動の法則	
教科書	物理基礎（数研出版）
担　当	笠置映寛

基礎物理Ⅰ	
1. 速度・加速度 2. 自由落下運動 3. 放物運動 4. 力の合成・分解 5. 運動の法則 6. 剛体にはたらく力 7. 運動量保存の法則 8. 仕事 9. 運動エネルギー	10. 位置エネルギー 11. エネルギー保存の法則 12. ボイル・シャルの法則 13. 熱と仕事 14. 波の伝わり方 15. 重ね合わせの原理 16. 波の反射・屈折・回折 17. 音と音波 18. 光と光波
教科書	物理Ⅰ・Ⅱ（第一学習社）
担　当	笠置映寛

基礎物理Ⅱ	
1. 電場と導体 2. 電位 3. コンデンサー 4. オームの法則 5. 直流回路 6. ジュールの法則 7. 電磁誘導 8. 交流 9. 相互誘導・自己誘導	10. 交流回路 11. 電気振動 12. 真空放電と陰極線 13. 光電効果 14. X線とその粒子性 15. 原子の構造 16. 水素原子のエネルギー準位 17. 放射線とその性質 18. 核反応と核エネルギー
教科書	物理Ⅱ（第一学習社）
担　当	石田浩一・原田徳彦・笠置映寛

力学	
1. ニュートンの運動の法則 2. 運動の表し方（座標系） 3. 運動方程式 4. いろいろな運動 5. 運動量・角運動量 6. 仕事とエネルギー 7. 剛体と回転運動 8. 連続体の力学 9. 運動法則の一般化	
教科書	力学Ⅱ（大日本図書）
担　当	石田・笠置

電磁気学	
1. ガウスの定理 2. 電界と電位 3. 静電容量 4. 誘電体 5. 電流と抵抗 6. オーム・キルヒホッフの法則 7. 電磁誘導 8. インダクタンス 9. マクスウェルの方程式	
教科書	基礎電磁気学（電気学会）
担　当	北村・杉村

一般物理	
1. 力と運動 2. 運動の法則 3. 力学的エネルギー 4. 運動量・角運動量 5. 剛体の運動 6. 電場・電位 7. 電流と磁場 8. 電磁誘導 9. マクスウェルの方程式	
教科書	物理の基礎（東京教学社）
担　当	笠置映寛

物理科学	
1. 現代物理学の業績 2. 科学・技術・社会（STS） 3. 特殊相対性理論（1） 4. 特殊相対性理論（2） 5. 原子核と素粒子 6. 一般相対性理論 7. 量子力学（1） 8. 量子力学（2）	
教科書	現代物理学（裳華房）
担　当	笠置映寛

出典：シラバス

（分析結果とその根拠理由）

一般科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準第６条第２項第３号に定められた専任教員１４名の基準を上回る１５名により構成され，教育目的を達成するために工夫されたカリキュラムを実施するために必要な科目と関連の深い専門分野を持つ専任教員および非常勤教員が適切に配置されている。また，懇談会や，アンケートを用いた意見聴取などにより，専任教員と非常勤教員との教育の連携が図られている。

以上のことから，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校は「情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，設計・開発を行う素養をもつ技術者」を養成する三つの複合学科を有する。３学科合計で，専任教員４３名，非常勤教員１２名が配置され，充実している（資料３－１－②－１，２）。

教育の目的のうち，「実践力のある開発型技術者の育成」に対しては，各科目に専門分野が近い教員が授業を担当している。専任教員には，博士の学位を有するもの３７名のほか，技術士の資格を有するもの４名が含まれる（資料３－１－②－１）。民間企業で技術開発に従事していた経歴をもつ専任教員も１２名在籍している（資料３－１－④－９）。

実務や開発に詳しい徳山高専テクノ・アカデミア会員や技術士・一級建築士などを含む非常勤教員１２名（資料３-１-②-２）が授業を担当し，専任教員と連携しながら専門教育を行っている（資料３－１－①－４）。

資料３－１－②－１　専門科目担当教員配置（専任教員）

機械電気工学科

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授 博士(工学)	牧野　俊昭	乗り物の制振・静音化に関する研究 移動ロボットの運動制御	電子制御工学 運動制御	テクノ・リフレッシュ教育センター長
教授 博士(工学)	伊藤　　尚	先端材料の加工法や強度評価に関する研究 再生可能エネルギーを応用したものづくり教育	材料工学	教育研究支援センター長 ２年担任
教授 工学博士	藤田　重隆	三次元自由噴流のパッシブコントロール 有限長十字形ノズルから流出する三次元自由噴流	流体工学 流体機械	４年担任
教授 博士(工学)	櫻本　逸男	人工関節の機械高度化に関する研究 軟組織用試験機の開発	機械力学 電子制御	学科主任
教授 博士(工学)	西村　太志	低サイクル疲労に関する研究 ナノインデンテーション試験法の開発	材料工学	５年担任
准教授 理学博士	飛車　来人	弾性体と流体の数値的なシミュレーション 等角写像とリーマンの関数論	理論物理	図書館参事
准教授 博士(工学)	池田　光優	水・軽油乳化燃料の燃焼特性 ポリエチレンフィルムの溶解・燃焼挙動	熱工学	学生主事補
准教授 博士(工学)	張間　貴史	複数円形噴流の流れ場の制御 三次元自由噴流の流れ場の可視化	流体工学	キャリア教育支援室長
准教授 博士(理学)	北村 健太郎	地磁気計測・短波レーダーを用いた宇宙環境計測に関する研究	電磁場計測	寮務主事補 キャリア教育支援室キャリアアドバイザー
准教授 博士(理学)	三浦 靖一郎	科学技術教育のためのe-learning教材開発 磁性体薄膜における磁区構造のパターン形成	物性物理学 コンピュータ工学 科学技術教育	総合企画室主務 学生相談室相談員
准教授 博士(工学)	森崎　哲也	圧電素子を用いた非破壊検査技術とヘルスモニタリングシステムに関する研究	メカトロニクス	教務主事補
講師 博士(工学)	石田　浩一	うず電流変位計・うず電流非破壊検査 計算機ホログラムの光学情報処理への応用	応用物理	３年担任 テクノ・リフレッシュ教育センター参事
助教	藤本　　浩	定存波を用いたコンクリート柱の異常診断に関する研究	電子制御	情報処理センター参事
助教 博士(工学)	鈴木　厚行	強力超音波の応用に関する研究	超音波工学	専攻科幹事（機械制御） 学習・教育レビュー室エグザミナー

情報電子工学科

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授 工学博士	池田　信彦	ニューラルネットワーク理論	情報工学	３年担任
教授 博士(工学)	百田　正広	動画像処理による粒子像解析に関する研究	画像工学	２年担任 総合企画室主務
教授 博士(工学)	山田　健仁	ディジタル制御に関する研究	制御工学	４年担任
教授 博士(工学)	義永　常宏	オートマトン理論	情報工学	学科主任
教授 博士(工学)	奥本　　幸	実践的ソフトウェア工学教育に関する研究 画像認識に関する研究	情報工学	情報処理センター長
教授 博士(工学)	重村　哲至	計算機アーキテクチャ	計算機工学	５年担任
准教授	守川　和夫	教育用マイクロプロセッサに関する研究	計算機工学	図書館参事 テクノ・リフレッシュ教育センター参事
准教授	小林　明伸	楽器演奏時における楽譜情報処理に関する研究	情報工学	学習・教育レビュー室長 学生相談室相談員
准教授	高山　泰博	自然言語処理・文書処理に関する研究	言語情報学	
准教授 博士(工学)	原田　徳彦	FD-TD法による電磁界解析	応用物理	教務主事補
准教授 博士(工学)	新田　貴之	教育支援システムに関する研究	計算機工学	専攻科幹事（情報電子） 情報処理センター副センター長
准教授 博士(工学)	柳澤　秀明	プロセッサの設計自動化、ハードウェア設計、Webベース共同開発環境	情報工学	学生主事補
講師	杉村　敦彦	画像処理（２次元巡回型フィルタ）	デジタル信号処理	学習・教育レビュー室エグザミナー キャリア教育支援室キャリアアドバイザー
助教 博士(工学)	古賀　崇了	ソフトコンピューティング技術の応用に関する研究	ソフトコンピューティング	寮務主事補 テクノ・リフレッシュ教育センター参事
助手	力　　規晃	モデル生成型定理証明に基づく分散知識処理システムの研究	情報工学	情報処理センター副センター長

土木建築工学科

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授 工学博士	工藤　洋三	GISを活用した戦時中の市街地図の復元 基盤地図情報を活用した周南地域の防災マップ作成	岩石力学 土木材料学	図書館参事
教授 博士(工学) 技術士(建設)	原　　陸	構造物の動的耐荷力解析 鉄筋コンクリート構造の有限要素解析	構造力学 計算力学	総合企画室長
教授 博士(工学)	上　俊二	各種固化材を用いた地盤改良に関する研究 降雨時の斜面保護工法に関する研究	地盤工学	図書館長 寮務主事補
教授 博士(工学)	佐賀　孝徳	乱流境界層の組織構造に関する研究 乱流に形成される二次流れに関する研究	水工学	学生主事
教授 博士(工学)	橋本　堅一	部材の応力集中と材料の破壊 圧縮応力場のき裂の進展挙動	応用力学 破壊力学	5年担任
教授 博士(工学)	古田　健一	公的賃貸住宅利用システムに関する研究 大都市圏における持家需要特性に関する研究	建築計画	学科主任
教授 博士(工学) 技術士(建設)	田村　隆弘	軸力と曲げを受ける鉄筋コンクリート部材のせん断耐力 ひび割れを有する鉄筋コンクリート部材のせん断耐力	鉄筋コンクリート構造工学	教務主事
教授 博士(工学) 技術士(建設)	熊野　稔	中心市街地の再整備計画に関する研究 都市計画におけるポケットパーク、景観および都市緑化に関する研究	都市計画 環境デザイン	学習・教育レビュー室エグザミナー
教授 博士(工学)	渡辺　勝利	複断面開水路流れの乱流特性の解明と制御 植生を有する開水路乱流の内部構造	水理学 流体力学	総合企画室主務
准教授 技術士(建設)	目山　直樹	地方都市の都市計画と都市施設整備の関係性に関する研究 交通まちづくりに関する研究	都市計画 建築計画	3年担任 テクノ・リフレッシュ教育センター副センター長
准教授 博士(工学)	中川　明子	古代ギリシア建築の施工技術に関する研究 歴史的建造物の保存修復活用に関する研究	建築史 歴史的建造物の保存活用	教務主事補 キャリア教育支援室キャリアアドバイザー
准教授 博士(工学)	島袋　淳	環境・景観を考慮したコンクリートに関する研究	土木材料学	4年担任
助教 博士(学術)	西尾幸一郎	高齢者・障害者のための居住環境に関する研究	建築計画 建築環境工学	専攻科幹事(環境建設)
助教 博士(工学)	平栗　靖浩	屋外音響伝搬に関する研究 音による空間知覚に関する研究	建築環境学	学生主事補
助教 博士(工学)	海田　辰将	腐食した鋼構造物の維持管理に関する研究 腐食した鋼部材の板厚測定、載荷実験、有限要素解析	構造工学 鋼構造工学	2年担任 情報処理センター参事
助手	桑嶋　啓治	破砕性の卓越した土の力学特性 破砕性地盤における杭の支持力	地盤工学	テクノ・リフレッシュ教育センター参事 学生相談室相談員

出典：本校 Web サイト

資料３－１－②－２　専門科目担当教員配置（非常勤教員）

平成２４年度専門科目非常勤講師				
番号	氏名	期間	学科等	本務
1	江口賢和	通年	言語情報	元高専教員
2	村上忠昭	前期	火薬学	なし
3	坂本修	後期	建設マネジメント	民間等
4	村本充実	後期	建設マネジメント	民間等
5	長岡英樹	後期	建設マネジメント	民間等
6	井上浩	後期	知的財産権	民間等
7	阿部忠人	後期	知的財産権	民間等
8	河村志朗	後期	技術者倫理	民間等
9	山本美子	後期	技術者倫理	民間等
10	貞升孝昭	後期	技術者倫理	民間等
11	福冨弘幸	後期	技術者倫理	民間等
12	恒藤純子	後期	技術者倫理	民間等

出典：総務課資料

（分析結果とその根拠理由）

専門科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準第６条第３項に定められた専任教員２２名を大きく上回る４３名により構成され，教育目的に沿って実践的な開発型技術者の育成のために，学位はもとより，技術士などの技術者資格を有する者や，民間企業で実務や技術開発に従事していた者などが適切に配置されている。また専門科目担当教員のうち３５名が専任の教授および准教授であり，高等専門学校設置基準第８条で定められている基準を十分に満たしている。

教育目的を達成するために工夫されたカリキュラムを実施するために，必要な科目と関連の深い専門分野を持つ専任教員および非常勤教員が適切に配置され，懇談会やアンケートを用いた意見聴取などにより，専任教員と非常勤教員との教育の連携が図られ，機能している。

以上のことから，教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科の授業は，外国人教員１名を含む専任教員５０名および非常勤教員により実施されている。教員の専門研究分野と授業科目とは合致しており適切な配置である（資料３－１－③－１）。

非常勤教員は民間の実務経験者・技術者を中心に１８名が配置されている（資料３－１－③－２）。

教育目的に沿って教育課程を遂行するため，専攻科授業を担当する教員と特別研究を担当する教員の研究業績の基準を設けており，授業科目と密接な関連のある研究業績を有した教員が配置されている（資料３－１－③－３）。

資料３－１－③－１　専攻科担当教員配置（専任教員）

基礎教養科目教員名簿

職　名	教　員　氏　名 電話（e-mail）	授　業　科　目
教　授 理学博士	大　橋　正　夫 6367(oohasi@tokuyama.ac.jp)	一般化学、 電子材料工学、 英語講読、特別研究
教　授 学術博士	天　内　和　人 6248(amanai@tokuyama.ac.jp)	生命科学、産業論、 経営管理、安全工学概論、 英語講読、特別研究
教　授 文学修士	国　重　　徹 6253(kunisige@tokuyama.ac.jp)	英会話、英語講読
教　授 文学修士	一　色　誠　子 6228(issiki@tokuyama.ac.jp)	日本語表現法
准教授 博士（人間文化）	小　川　仁　志 6255(ogawa@tokuyama.ac.jp)	技術者の倫理、 安全工学概論
准教授 文学修士	柏　倉　知　秀 6250(kasiwaku@tokuyama.ac.jp)	国際比較文化論
准教授 博士（学術）	笠　置　映　寛 6256(kasagi@tokuyama.ac.jp)	物理科学
准教授 修士（人文科学）	髙　橋　　愛 6260(takahasi@tokuyama.ac.jp)	総合英語、科学英語表現法、 英語講読

機械制御工学専攻教員名簿

職　名	教員氏名 電話(e-mail)	授業科目
教　授 博士(工学)	牧野俊昭 6279(makino@tokuyama.ac.jp)	システム制御工学、システム設計工学、 ロボット制御工学、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	伊藤　尚 6272(itou@tokuyama.ac.jp)	自動加工学、コンピュータ総合演習、 環境設計論、英語講読、特別研究、
教　授 工学博士	藤田重隆 6280(fujita@tokuyama.ac.jp)	流体制御工学、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	櫻本逸男 6277(sakuramo@tokuyama.ac.jp)	生体機械力学 総合実験、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	西村太志 6270(nisimura@tokuyama.ac.jp)	材料強度学、 総合演習、英語講読、特別研究
准教授 理学博士	飛車来人 6283(hisha@tokuyama.ac.jp)	応用統計学、Engineering Mathematics、 英語講読、特別研究
准教授 博士(工学)	池田光優 (m-ikeda@tokuyama.ac.jp)	熱流体工学、 総合実験、英語講読、特別研究
准教授 博士(工学)	張間貴史 6286(harima@tokuyama.ac.jp)	総合実験、英語講読、特別研究
准教授 博士(理学)	北村健太郎 6271(kitamura@tokuyama.ac.jp)	総合実験、総合演習、英語講読、特別研究
准教授 博士(理学)	三浦靖一郎 6388(miura@tokuyama.ac.jp)	英語講読、特別研究
准教授 博士(工学)	森﨑哲也 6274(morisaki@tokuyama.ac.jp)	応用計測工学、総合実験、総合演習 英語講読、特別研究、
講　師 理学修士	石田浩一 6273(isida@tokuyama.ac.jp)	回路応用設計、英語講読、特別研究
助　教	藤本　浩 6373(fujimoto@tokuyama.ac.jp)	総合実験、英語講読、特別研究
助　教 博士(工学)	鈴木厚行 6276(a-suzuki@tokuyama.ac.jp)	総合実験、英語講読、特別研究

情報電子工学専攻教員名簿

職　名	教　員　氏　名 電話(e-mail)	授　業　科　目
工学博士	池　田　信　彦 6307(n-ikeda@tokuyama.ac.jp)	生体情報工学、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	百　田　正　広 6297(momota@tokuyama.ac.jp)	画像処理応用 英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	山　田　健　仁 6298(t-yamada@tokuyama.ac.jp)	制御工学、コンピュータ制御、 英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	義　永　常　宏 6299(yosinaga@tokuyama.ac.jp)	離散数学、オートマトンと計算論 英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	奥　本　　幸 6306(okumoto@tokuyama.ac.jp)	認識工学英語講読、特別研究
教　授 理学博士	大　橋　正　夫 6367(oohasi@tokuyama.ac.jp)	一般化学、電子材料工学 英語講読、特別研究
教　授 学術博士	天　内　和　人 6248(amanai@tokuyama.ac.jp)	生命科学、産業論、経営管理、安全工学 概論、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	重　村　哲　至 6304(sigemura@tokuyama.ac.jp)	コンピュータネットワークプロトコル 総合演習、英語講読、特別研究
准教授	守　川　和　夫 6309(morikawa@tokuyama.ac.jp)	コンピュータ構成学、総合実験
准教授 工学修士	高　山　泰　博 6301(takayama@tokuyama.ac.jp)	知識データベース、自然言語処理 英語講読、特別研究
准教授 博士(工学)	原　田　徳　彦 6310(n-harada@tokuyama.ac.jp)	光情報処理、通信ネットワーク工学 英語講読、特別研究
准教授 博士(工学)	新　田　貴　之 6314(nitta@tokuyama.ac.jp)	英語講読、特別研究 インターンシップ
准教授 博士(工学)	柳　澤　秀　明 6300(yanagisawa@tokuyama.ac.jp)	論理設計、総合実験 英語講読、特別研究
講　師 修士(工学)	杉　村　敦　彦 6296(sugimura@tokuyama.ac.jp)	システム計測工学
助　教 博士(工学)	古　賀　崇　了 6319(koga@tokuyama.ac.jp)	総合実験、総合演習 英語講読、特別研究

環境建設工学専攻教員名簿

職　名	教　員　氏　名 電話(e-mail)	授　業　科　目
教　授 工学博士	工　藤　洋　三 6327(kudou@tokuyama.ac.jp)	建設プログラミング、地形情報処理学、 英語講読、特別研究
教　授 博士(工学) 技術士(建設)	原　　隆 6325(t-hara@tokuyama.ac.jp)	計算工学、工学解析、総合実験、 総合演習、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	上　　俊　二 6321(ue@tokuyama.ac.jp)	土質力学、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	佐　賀　孝　徳 6336(saga@tokuyama.ac.jp)	水理科学、環境システム工学、 英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	橋　本　堅　一 6328(hashimoto@tokuyama.ac.jp)	連続体力学、建築生産論、耐震工学、 耐震基礎構造学、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	古　田　健　一 6337(furuta@tokuyama.ac.jp)	建築設計計画学、構造設計論、総合実験、 総合演習、英語講読、特別研究
教　授 博士(工学) 技術士(建設)	田　村　隆　弘 6324(t-tamu@tokuyama.ac.jp)	鉄筋コンクリート構造学、構造設計論 英語講読、特別研究
教　授 博士(工学) 技術士(建設)	熊　野　　稔 6333(kumano@tokuyama.ac.jp)	都市環境計画学、総合演習、 英語講読、特別研究
教　授 博士(工学)	渡　辺　勝　利 6326(watanabe@tokuyama.ac.jp)	応用水理学、英語講読、特別研究
准教授 技術士(建設)	目　山　直　樹 6334(meyama@tokuyama.ac.jp)	住宅計画学、英語講読、特別研究
准教授 博士(工学)	島　袋　　淳 6330(simabuku@tokuyama.ac.jp)	英語講読、特別研究
准教授 博士(工学)	中　川　明　子 6339(nakagawa@tokuyama.ac.jp)	総合実験、住宅計画学、 英語講読、特別研究
助　教 博士(学術)	西　尾　幸一郎 6329(nisio@tokuyama.ac.jp)	インターンシップ、英語講読、 特別研究
助　教 博士(工学)	海　田　辰　将 6331(kaita@tokuyama.ac.jp)	総合実験、総合演習、英語講読、 特別研究
助　教 博士(工学)	平　栗　靖　浩 6323(hiraguri@tokuyama.ac.jp)	建築環境設計論

出典：専攻科履修要覧

資料３－１－③－２　専攻科担当教員配置（非常勤教員）

平成２３年度専攻科講師（経営管理）				
番号	氏名	期間	学科等	本務
1	西祐司	後期	経営管理	民間等
2	徳原靖子	後期	経営管理	民間等
3	田中豊	後期	経営管理	民間等
4	笠原直樹	後期	経営管理	民間等
5	松岡健	後期	経営管理	民間等
6	山岡靖幸	後期	経営管理	民間等
7	貞木雅和	後期	経営管理	民間等
8	中谷健二	後期	経営管理	民間等
9	阿武一治	後期	経営管理	民間等

平成２４年度専攻科講師（産業論）				
番号	氏名	期間	学科等	本務
1	小野英輔	前期	産業論	民間等
2	宇野俊夫	前期	産業論	民間等
3	森田俊一	前期	産業論	なし
4	白神誠一	前期	産業論	民間等
5	藤本千鶴	前期	産業論	民間等
6	岩崎正明	前期	産業論	民間等
7	森野数博	前期	産業論	高専教員
8	久保田忠義	前期	産業論	民間等
9	川井康嗣	前期	産業論	民間等

出典：総務課資料

資料３－１－③－３　専攻科の授業科目および特別研究を担当する教員について

専攻科の授業科目及び特別研究を担当する教員について

１．専攻科を担当する教員は、大学設置基準による教授、准教授、講師又は助教の資格を有し、かつ、専攻科の学生を指導するに十分な資格・業績等があると認められる者の中から、専攻科長が推薦し、校長が指名する。

２．専攻科長は、推薦しようとする教員から次の書類を提出させるものとする。
(1) 専攻科担当教員に係る資格審査について（申請）別紙
(2) 専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書（様式１）
(3) 教育研究業績書（様式２）
（概要は、原則として、日本語で記入してください。外国語で記入する場合は、和訳を添付してください。）

３．校長は、新たに専攻科を担当する教員の指名を行う場合は、専攻科委員会の意見を徴し、これを行うものとする。

４．専攻科の開設授業科目を担当する教員は、次の一に該当する者とする。
(1) 開設授業科目（特別研究及び英語講読を除く。）と密接な関連がある研究業績を有し、推薦日現在において過去５年間で２編以上の学術論文がある者。
(2) 民間等において優れた研究歴等がある者。

５．専攻科の特別研究及び英語講読を担当する教員は、次の一に該当する者とする。
(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、推薦日現在において、過去５年間に３編以上の学術論文があり、過去１０年間に英文の学術論文がある者。
(2) 推薦日現在において、過去３年間に３編以上の学術論文があり、過去１０年間に英文の学術論文がある者。
(3) 民間等において優れた研究歴等がある者。

注１　学術論文とは、当該分野を代表する主要な学協会誌で、査読（員）が付いている論文あるいはこれに準ずる論文とする。
注２　上記４及び５にいう「研究歴等」とは、
(1) 技術士の資格（これに相当する資格を含む。）
(2) 特許
(3) 高度な経営経験
(4) 海外での業務経験
をいう。

附　則
この基準は、平成１４年７月９日から施行し、平成１４年４月１日から適用する。
附　則
この基準は、平成１８年３月１日から施行する。
附　則
この基準は、平成１８年６月２０日から施行する。
附　則
この基準は、平成１９年４月１日から施行する。

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の授業担当教員の基準と特別研究担当教員の研究業績の基準を設け，教員の専門性能力の研鑽と研究能力水準の維持向上に努めるとともに，教育課程は，教員の専門研究分野と授業科目とが合致するよう，適切な教員配置のもとに実施されている。

以上のことから，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

平成２４年度における本校の教員年齢構成表（資料３－１－④－１）によれば，５０歳以上が２９名とやや多くなっているものの，過去５年間で３０歳代の教員が１０名採用され，教員全体の平均年齢は47.6歳となっており，経験豊富な教員と若手教員とのバランスがとれている。全教員における女性教員数の割合は8.8%（５名）となっている。女性教員を積極的に採用することは本校中期計画（資料３－１－④－２）にも述べられており，平成２４年度には，女性教職員休養室を整備するなど，積極的な対応をしている（資料資料３－１－④－３）。

教員の採用は公募を基本としており（資料３－１－④－４，５），多様な経歴を持つ教員が，本校の将来計画をふまえ採用されるよう配慮がなされている。

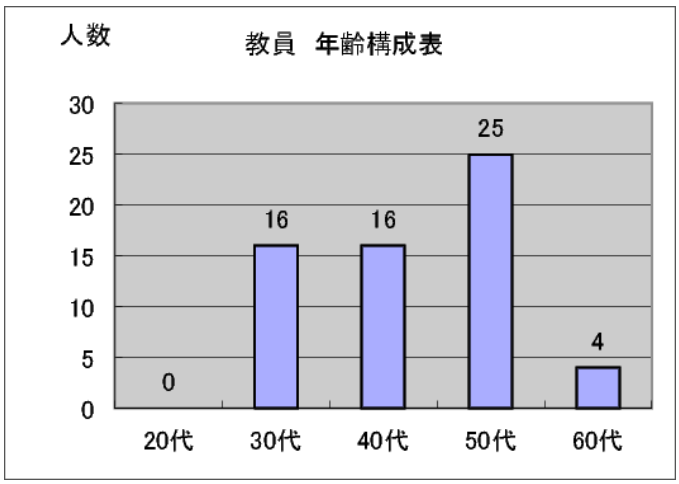
現在，学位を有する専任教員は４３名であり，全体の75.4%である。そのうち，一般科目教員は６名（資料３－１－①－２），専門科目教員は３７名（資料３－１－②－１）であり，専門学科に関しては86.1%となっている。他にも，専門学科には技術士の資格を有する教員が４名いる（資料３－１－④－６）。国際情勢や国際感覚を身につけるため，国際会議に参加する教員や，海外在住の経験をもつ教員も多い（資料３－１－④－７，８）。企業等での勤務経験をもつ専任教員が12名（資料３－１－④－９），専任外国人教員も１名おり（資料３－１－②－１），教員の多様化と国際化が図られている。

教員の教育や研究などの能力開発や改善については，１年単位でその年度の自己評価（年間職務の自己評価）を行っており，自己研鑽に努めている（資料３－１－④－１０）。また，学習・教育レビュー室が主体となって教員の公開授業を実施しており（資料３－１－④－１１），教員相互の評価によって，より良い授業をめざして自己研鑽に努めている。

「開発型」教育を行うため，多くの教員が地域からの依頼による各種委員や講師の経験を積んでおり（資料３－１－④－１２），技術相談や共同研究，受託研究を行っている（資料３－１－④－１３）。

他高専・技術科学大学との人事交流が制度化され，平成２３年度までに，出向・受入れ合計で，毎年２名以上の人事交流が実施されている（資料３－１－④－１４）。

資料３－１－④－１　教員の年齢構成表（平成２４年４月）



出典：総務課資料

資料３－１－④－２　女性教員の採用促進

③　女性教員の採用促進

（校長）

○　女性教員の採用を促進するため，女性の働きやすい職場環境の整備に努める。

出典：本校第２期中期計画

資料３－１－④－３　女性教職員休養室



出典：総務課資料

資料３－１－④－４　教員選考規則

徳山工業高等専門学校教員選考規則

（趣旨）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の採用及び昇任に係る選考（以下「選考」という。）については、法令等に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（選考方針）

第２条　校長は、定年退職(辞職を含む。)又は転任等により、欠員が生じる見込みとなったときは、本校の将来計画及び各学科の意向を踏まえ、運営委員会の議を経て、当該欠員の補充に係る教員の選考について、方針を定める。

（選考）

第３条　教員の選考は、原則として、公募とし、教員選考委員会（以下「委員会」という。）を開催しその結論を踏まえて、これを行うものとする。ただし、昇任については、本校内に適任者がいる場合は、これによらないことができる。

２　選考にあたっては、候補者の人格、健康、教授能力、教育業績、研究業績、学会活動及び社会的活動等を総合的に勘案するものとする。

３　選考に必要な書類は、次に掲げるものとする。

(1)　履歴書
(2)　著書・論文等一覧
(3)　著書・論文等の概要
(4)　著書・論文等の別刷
(5)　教育、学生指導及び管理運営事項等の業績調書
(6)　高専の教育、研究及び学生指導等に関する抱負
(7)　推薦書
(8)　その他必要とする書類

（委員会）

第４条　委員会は、校長及び選考の都度校長が指名する委員若干名をもって組織する。

２　委員会は、校長が主催する。

３　委員会の委員の任期は、当該選考の審議が終了するまでとする。

（事務）

第５条　この規則に係る事務は、総務課において処理する。

（その他）

第６条　この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し、必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、平成１４年７月９日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１８日から施行し、平成１９年４月１日から適用する。

出典：本校規則集

資料３－１－④－５　平成２４年度教員採用および昇任の流れ

平成２４年度採用教員及び昇任の流れ

採用について（平成２４年度採用）

１．土木建築工学科助教１名

・「平成２４年度教員選考方針（案）」が運営委員会［H24.7.14開催］において協議・承認。

・上記教員選考方針をもとに，教員公募［H23.7.15公募］開始。

・選考スケジュール

平成２３年　９月　９日　公募締切

平成２３年　９月１４日　第一次選考（書類選考：教員選考委員会）

平成２３年　９月２６日　第二次選考（模擬授業及び面接：教員選考委員会）

※同日，校長が採用内定について打診し，応諾の確認を行った。

昇任について（平成２４年度昇任）

１．平成２３年　６月２１日

各学科主任から推薦された候補者の中から，選考方針に従い，教授１名，准教授１名に昇任する者を選考した。

出典：総務課資料

資料３－１－④－６　技術士取得者一覧

技　術　士　取　得　者　一　覧

平成２４年５月１日現在

専任教員（４名）

氏　　名	年 齢	所 属 学 科	職 名	取 得 部 門	取得年
原　　隆	５７	土木建築工学科	教　授	建設部門	2002.4
田 村 隆 弘	５３	土木建築工学科	教　授	建設部門	2003.5
熊 野　　稔	５３	土木建築工学科	教　授	建設部門	2003.5
目 山 直 樹	４９	土木建築工学科	准教授	建設部門	1998.3
				道路	2002.3
				建設環境	2003.4

出典：総務課資料

資料３－１－④－７　専任教員の国際会議等への参加状況（平成２３年度）

氏　名	所　属 職　名	国際会議等名	開 催 地	期　間
田村　隆弘	土木建築工学科 教授	国際会議 ISEC6	スイス(チューリッヒ)	H23 6/20～26
古賀　崇了	情報電子工学科 助教	国際会議 FUZZ-IEEE2011	中国	H23. 6/26～7/1
鈴木　厚行	機械電気工学科 助教	学会発表（主催：International Congress on Ultrasonics)	ポーランド	H23. 9/1～13
古賀　崇了	情報電子工学科 助教	国際会議 IEEE ICIP	ベルギー	H23 9/9～16
森野　数博	機械電気工学科 教授	10th Int.Conf.on Fracture and Damage Mechanics	クロアチア	H23. 9/16～23
原　　隆	土木建築工学科 教授	ASEM2011 国際会議 IABSE-IASS 国際会議	韓国（ソウル)、イギリス（ロンドン)	H23. 9/18～26
森野　数博	機械電気工学科 教授	2nd Japan-China Joint Symp.on Fracture of EMS	中国	H23. 10/16～22
櫻本　逸男	機械電気工学科 教授	第４１回ニューロサイエンス学会年次講演会	アメリカ(ワシントン)	H23. 11/11～19
藤田　重隆	機械電気工学科 教授	国際会議 Experimental fluid mechanics 2011	チェコ　イチーン	H23. 11/19～27
張間　貴史	機械電気工学科 准教授	国際会議 Experimental fluid mechanics 2011	イチーン(チェコ共和国)	H23. 11/19～27
小田　和広	機械電気工学科 教授	国際会議	韓国（釜山）	H23. 11/20～23
荒谷　督司	一般科目 准教授	7-th JV Seminar on Commutative Algebra	ベトナム	H23. 12/9～18
髙橋　　愛	一般科目 准教授	127th MLA Convention	アメリカ（シアトル)	H24. 1/4～10
古賀　崇了	情報電子工学科 助教	国際会議 IWAIT2012	ベトナム	H24. 1/8～11
古賀　崇了	情報電子工学科 助教	国際会議 IMECS2012	中国	H24. 3/13～17

出典：総務課資料

資料３－１－④－８　専任教員の海外在住経験者一覧

専任教員(５名)　　平成２４年５月１日現在

氏　名	年齢	所属学科	職　名	在住国名	在住年数(年月)
小　川　仁　志	４１	一般科目	准教授	中国	１年２月
				中華民国	１年
				アメリカ	１１月
飛　車　来　人	４７	機械電気工学科	准教授	ドイツ	３２年７月
髙　山　泰　博	４９	情報電子工学科	准教授	アメリカ	１年
国　重　　徹	５０	一般科目	教　授	イギリス	２月
				アメリカ	１年１月
天　内　和　人	５１	一般科目	教　授	アメリカ	９年

出展：総務課資料

資料３－１－④－９　民間の職歴を有する教員一覧（平成２４年４月１日現在）

専任教員（１２名）

氏　名	年齢	所属学科	職　名	民間経験年数(年月)
小　川　仁　志	４１	一般科目	准教授	５年１１月
牧　野　俊　昭	５９	機械電気工学科	教　授	３２年
伊　藤　　尚	５７	機械電気工学科	教　授	２年
飛　車　来　人	４７	機械電気工学科	准教授	４年５月
森　崎　哲　也	３６	機械電気工学科	准教授	２年
藤　本　　浩	５２	機械電気工学科	助　教	３年１０月
鈴　木　厚　行	３５	機械電気工学科	助　教	１年５月
山　田　健　仁	５５	情報電子工学科	教　授	１４年
髙　山　泰　博	４９	情報電子工学科	准教授	２２年４月
古　田　健　一	５３	土木建築工学科	教　授	２年１１月
目　山　直　樹	４９	土木建築工学科	准教授	１８年
西　尾　幸一郎	３７	土木建築工学科	助　教	２年

出典：総務課資料

資料３－１－④－１０　教員の自己研鑽を促すための自己評価

平成２２年度の職務の自己評価について

本校においては、平成１２年度以来、各教員の業務について、毎年度、自己評価を行い、その概要を、本ホームページにおいて公開してきました。これは、各教員の自己研鑽を促し、本校の教育・研究水準の向上を図ること目的として、実施してきたものであり、それなりの成果を挙げてきているものと自負しています。

平成２２年度の職務に関する自己評価においては、以下の６項目について、その結果を数値化することにしました。

●教育活動
●校務
●クラブ活動指導
●研究活動
●地域貢献
●外部資金導入

各項目の数値化の考え方は、別記のとおりで、それぞれ、１０点を最高点としています。各項目の数値化の方法は一様ではなく、また、これが最善の方法であるとは限りませんが、各教員がそれぞれの項目について、自身の相対的な位置を確認し、自己研鑽の指標とするには十分であると考えています。

平成２２年度の自己評価において、各項目の１０点満点（または、上位10名）の教員は、以下のとおりです。

●教育活動

天内和人(GE)、一色誠子(GE)、原田幸雄(GE)、小川仁志(GE)、森野数博(ME)、牧野俊昭(ME)、飛車来人(ME)、張間貴史(ME)、森崎哲也(ME)、藤本　浩(ME)、鈴木厚行(ME)、百田正広(IE)、佐賀孝徳(CA)、田村隆弘(CA)、島袋　淳(CA)、西尾幸一郎(CA)

●校　務

天内和人(GE)、国重　徹(GE)、原田幸雄(GE)、牧野俊昭(ME)、杉村敦彦(IE)、 佐賀孝徳(CA)、田村隆弘(CA)、熊野　稔(CA)、西尾幸一郎(CA)、海田辰将(CA)

●クラブ活動の指導

長戸喜隆(GE)、小川仁志(GE)、森崎哲也(ME)、藤本　浩(ME)、小林明伸(IE)、杉村敦彦(IE)、佐賀孝徳(CA)、西尾幸一郎(CA)、海田辰将(CA)、国重　徹(GE)、藤田重隆(ME)、上　俊二(CA)、橋本堅一(CA)、目山直樹(CA)、島袋　淳(CA)

●研究活動

森野数博(ME)、北村健太郎(ME)、原　　隆(CA)、熊野　稔(CA)、海田辰将(CA)、大成博文(CA)、上　俊二(CA)、田村隆弘(CA)、小川仁志(GE)、牧野俊昭(ME)

●地域貢献

以下省略

出典：本校 Web サイト

資料３－１－④－１１　公開授業の実施例

平成２４年度 徳山工業高等専門学校 公開授業

第１回実施要領

学習・教育レビュー室

■公開授業

日時：　平成 24 年　5 月　31 日（木）　13:15～15:00（５，６時限）

科目：　土木建築工学科１年　　力と変形

教員：　土木建築工学科　　海田　辰将

場所：　土木建築工学科１年　　教室

参加者

関連授業担当教員：　工藤洋三　　（土木建築工学科）

学科内教員：　熊野　稔　　（土木建築工学科）

他学科教員：　森崎哲也　　（機械電気工学科）

学外教育モニター：　琴山　素行　様

■レビュー会

日時：平成 24 年　5 月　31 日（木）15:10～（1 時間程度）

場所：管理棟 1F 小会議室（玄関脇）　司会進行　（エグザミナー）熊野

審議項目

- 授業の進め方
- 学生の理解度
- 板書等の使い方
- 学生の参加意欲の向上のさせ方，など

■評価方法

公開授業参観中は公開授業評価チェックシートに気づいた点を記入

出典：学習・教育レビュー室資料

資料３－１－④－１２　地域の各種委員・講師の実績

平成23年度地域委員等一覧（認証評価用資料）

2012/5/18(総務係)

	学科名等	氏 名	依 頼 機 関	内　　容	勤務形態	期　間	手当等	備考
1	校 長	井上 直樹	(株)西京銀行	「山口県応援ファンド・はつらつ長州」寄附金選考委員	期間中1回 1回2～3時間	H23.12.1 ～ H24.3.23	無報酬	新規
2	一般科目	小川 仁志	周南市	周南市公民館運営審議会委員	年間2～3回 1回2時間	H21.12.4 ～ H23.11.30	1回5,900円	新規
3	一般科目	小川 仁志	周南市	周南市行政改革審議会委員	年間2回 1回3時間	H22.4.1 ～ H24.3.31	1回5,900円	継続
4	一般科目	前川 直也	(社)山口県柔道協会	山口県柔道協会国体競技団体運営責任者副主任	年間6日間 1日2時間	H23.4.1 ～ H24.3.31	無報酬	継続
5	一般科目	前川 直也	おいでませ！山口国体萩市実行委員会	第66回国民体育大会柔道競技役員（JBSコントロール委員）	6日間 1日8時間	H23.7.26 ～ H23.11.30	無報酬	新規
6	一般科目	前川 直也	中国四国学生柔道連盟	平成23年度中国四国学生柔道体重別選手権大会及び中国四国学生柔道体重別団体優勝大会審判員	3日間	H23.9.2 ～ H23.9.4	無報酬	新規
7	一般科目	前川 直也	北信越学生柔道連盟	第8回湊谷杯全国学生柔道体重別選手権大会審判員	2日間	H23.12.3 ～ H23.12.4	無報酬	新規
8	一般科目	大橋 正夫	防府市青少年科学館	夏休み特別企画「おもしろサイエンスinソラール2011」講師	2日間	H23.8.9 ～ H23.8.10	1日10,000円	継続
9	一般科目	天内 和人	(独)科学技術振興機構	研究成果最適展開支援プログラム専門委員	期間中6回 1回2～6時間	H23.5.12 ～ H25.3.31	1査読謝金2,000円	新規
0	一般科目	天内 和人	日本技術者教育認定機構	技術者教育プログラム認定・審査のための審査員	期間中5～6回、1回1時間30分～2時間	H22.9.24 ～ H23.4.30	無報酬	新規
1	一般科目	柏倉 知秀	周南市	周南市国民健康保険運営協議会委員	年間2～5回 1回2時間	H21.4.21 ～ H23.4.20	1回5,900円	新規
2	一般科目	柏倉 知秀	周南市	周南市国民健康保険運営協議会委員	年間2回 1回2時間	H23.4.21 ～ H25.4.20	1回5,900円	継続
3	一般科目	髙橋 愛	山口県	平成23年度男女共同参画フォーラム実行委員会委員	期間中5回 1回2時間	H23.6.17 ～ H23.12.31	無報酬	新規
4	機械電気	伊藤 尚	周南市立周陽中学校	平成23年度 周陽中学校地域教育協議会委員	年間2～3回 1回2時間	H23.6.27 ～ H24.3.31	無報酬	新規
5	機械電気	伊藤 尚	日本風力エネルギー協会	評議員	年間2回 1日2時間	H22.4.23 ～ H24.3.31	無報酬	新規
6	機械電気	岩本 英久	(有)メディカルアシストラボ	取締役（技術研究開発部門担当）	2月に1日 1日6時間	H23.4.1 ～ H24.3.31	無報酬	新規
7	機械電気	岩本 英久	公益社団法人アクティブベースくれ	理事	年2回 1回30分	H23.4.1 ～ H24.3.31	無報酬	新規
8	機械電気	岩本 英久	第1回高品位介護シンポジウム実行委員会	第1回高品位介護シンポジウム実行委員会委員	期間中8回 1回2～8時間	H23.9.30 ～ H23.11.25	無報酬	新規
9	機械電気	樫本 逸男	おいでませ！山口国体周南市実行委員会	第66回国民体育大会テニス競技会競技役員	6日間 1日8時間	H23.7.26 ～ H23.11.30	無報酬	新規
0	機械電気	藤田 重隆	(社)日本機械学会中国四国支部	商議員	年3回 1回2時間	H23.3.1 ～ H24.2.29	無報酬	新規
1	機械電気	藤田 重隆	おいでませ！山口国体山陽小野田市実行委員会	第66回国民体育大会競技役員（サッカー）	7日間 1日8時間	H23.7.26 ～ H23.11.30	無報酬	新規
2	機械電気	藤田 重隆	山口県	山口県自然環境保全審議会委員（温泉部会）	年3～4回 1回1～2時間	H21.8.27 ～ H23.8.31	1回9,200円	新規
					年3～4回			

以下省略

出典：総務課資料

資料３－１－④－１３　技術相談の実績

受託研究・共同研究・技術相談件数

区分＼年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
受託研究	1	1	5	2	7
共同研究	22	28	24	36	27
技術相談	105	119	101	117	115

出典：地域連携推進係資料

資料３－１－④－１４　他高専・技科大との教員人事交流の実績資料

高専・両技科大間教員交流制度実施要項

制定　平成１９年　４月２６日
一部改正　平成２１年　８月　４日
全部改正　平成２３年　２月　７日
一部改正　平成２４年　５月１０日
独立行政法人国立高等専門学校機構
国立大学法人長岡技術科学大学
国立大学法人豊橋技術科学大学

１．目的

この制度は，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「高専機構」という。）が設置する各国立高等専門学校（以下「高専」という。），長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学（以下「両技科大」という。）の教員を，他の高専又は両技科大のいずれかへ一定期間派遣し，教育研究活動に従事させることにより，教員の力量を高め，高専及び両技科大（以下「高専・両技科大」という。）における教育及び研究の向上を図るとともに，高専機構と両技科大との連携強化を通じた，高専・両技科大全体の活性化及び人事の流動性を確保することを目的とする。

２．派遣候補者の条件

高専の校長は毎年１名以上，両技科大の学長は若干名の次の条件を満たす教員を，派遣候補者として高専機構理事長（以下「理事長」という。）へ推薦するものとする。

①　派遣開始年度の４月１日時点の満年齢が５８才未満の者
②　高専教員については高専教員としての経験が，技科大教員については技科大教員としての経験が３年以上である者

３．派遣期間等

派遣期間は，原則として１年以上３年以内とし，派遣の開始時期は原則として４月とする。

４．派遣の決定

（１）受入を希望する高専を指定する場合
①　高専の校長は，派遣者の受入について，地区（独立行政法人国立高等専門学校機構の地区校長会議（高専機構規則第７６号）第２条に規定する地区をいう。以下同じ。）内の高専又は地区外の希望する高専とあらかじめ協議し，承諾を得た上で，７月１５日までに派遣候補者推薦書（様式１）を理事長に提出する。
②　理事長は，提出された推薦書を基に９月３０日までに派遣を決定する。

（２）高専・両技科大間の派遣及び受入を希望する高専を指定しない場合
①　高専・両技科大の長は，７月１５日までに派遣候補者推薦・受入希望調書（様式２）を理事長に提出する。

出典：総務課資料

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育目標を達成するため，目的に適った教員の配置がなされている。すなわち，「世界に通用する」教育を行うため，基本的素養を兼ね備えておく必要があることから，学校全体で学位の取得をめざしており，全教員の３／４を超える４３名が学位を取得している。

また，世界のレベルを知り，国際情勢や国際感覚を身につけるため，国際会議への参加や，海外在住の経験をもつ教員も多い。「実践力のある」教育を行うため，３８名の企業経験者（専任教員１２名，非常勤教員２６名）や，技術士（専任教員４名）および各種資格取得者がいる。「開発型」教育を行うため，多くの教員が地域からの依頼による各種委員や講師，共同研究や受託研究を行っている。

さらに，本校の将来計画をふまえ教員組織を多様化・活性化させるために，公募による教員の採用，外国人教員の採用，他高専・技術科学大学との人事交流を行っている。

以上のことから，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組みがなされているか。

（観点に係る状況）

教員の教育活動に関する定期的な評価体制の１つとして，学習・教育レビュー室による「授業アンケート」がある。「授業アンケート」は，各科目とも年２回（半期科目は，中間と学期末，通年科目は，前期末と学年末）実施され，集計結果は各教員に通知され授業改善に役立てられている（資料３－２－①－１）。さらに，内部教員と外部の教育モニター参加による「公開授業」が計画的に行われており，授業改善に役立てられている（資料３－１－④－１１）。

各教員は，自己評価委員会が定めた項目について「年間職務の自己評価」の提出が義務づけられている（資料３－２－①－２）。授業アンケート結果なども含めた自己評価の内容は，自己評価委員会によりチェックされ，校長が教員の採用計画等を立案する際の参考にしている。

これらの評価の結果を総合し，実施された教員組織の見直しの具体例として，土木建築工学科教員退職後の教員採用を，授業の大半を非常勤教員に依存し，専任教員の不足が認められた保健体育教員とした例を示す（資料３－２－①－２，３）。

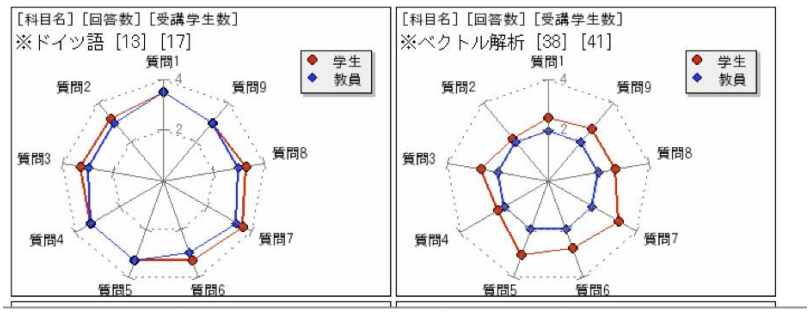
資料３－２－①－１　授業アンケート集計結果の例

授業評価アンケート集計結果

質問

1. 先生の言葉はよく聞き取れる。
2. 先生の説明は理解しやすい。
3. 授業の到達目標や毎回の説明は適切なレベル（難易度）である。
4. 先生の黒板やOHP等の使い方や書き方はわかりやすい。
5. 授業はシラバスの内容と一致している。
6. 先生は学生の参加意識を高めるようにしている。
7. 学習シートなどの副教材は有効に活用されている。
8. 授業は到達目標を満足できるよう工夫された構成（内容）である。
9. この科目に関する実力が身に付いた。（この科目の到達目標を達成した。）

一般科目



以下省略

出典：本校 Web サイト

資料３－２－①－２　年間職務の自己評価（保健体育教員：抜粋）

年間職務の自己評価について（平成 19 年度）

所属・職名［一般科目・准教授　　］
氏　　名［[redacted]　　］

０　基 本 方 針　０

本校では従来から研究に加え、教育に対する評価も強く求められています。一方、高専でも設置基準が改正され、教育・研究に対する自己評価が義務化され、外部評価も義務化の方向にあります。高等教育機関としての存在がガラス張りで問われることになったわけです。徳山高専が真の高等教育機関として機能するためには、学生の教育ならびにそれを支える研究活動が社会的に認められるものでなくてはなりません。そのため、本校に所属する教員は厳しい外部評価にも耐え得るように**「いい学生を育て」、「地域に貢献し」、「そのために日々の研鑽を積む」**、これら三つの観点に留意して職務に励むことが必要であります。われわれはこれらの目的に対応する次の３項目の自己評価を行っておくことが必要かと思われます。すなわち、**「学内での教育に対する評価」、「地域等への貢献に対する評価」、「論文等に対する評価」**がそれであり、１年間努力した内容を項目ごとに自己評価し、年ごとに向上するよう努力する必要があろうかと思われます。以下に年間職務の自己評価項目を示します。

別紙の評価基準を参考に，自分自身が努力してきたことや工夫したことなどを振り返りながら，各項目を１０点満点で評価して下さい。

Ⅰ　学内での教育に対する自己評価

１．教育活動

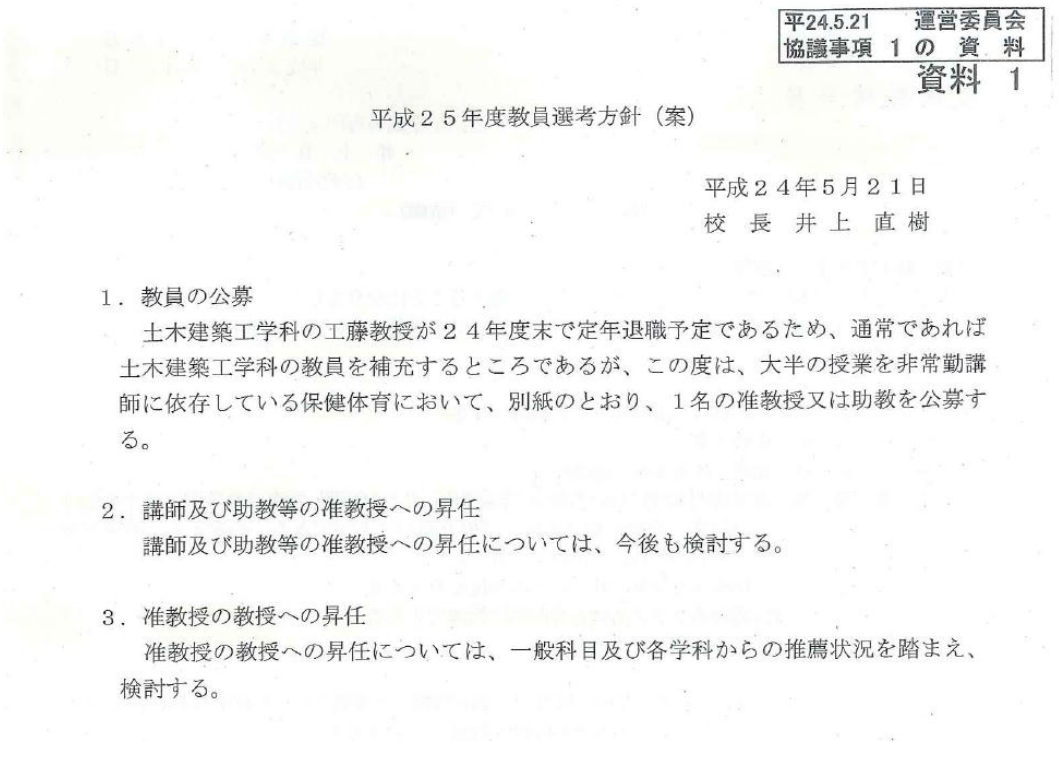
今年度に行った教育指導(授業等を含む)・学生相談・厚生補導，および正規の授業以外の教育活動（補習・学習相談，資格試験の受験指導，就職試験指導，学会発表論文指導，コンペ指導，弁論大会指導など）について，指導概要及びその効果はどうであったか記入して下さい。また，問題点や気付き，次年度に向けた取り組み等があればそれも記入して下さい。

教育活動等を総括しての自己評価点数	10点	努力内訳
授業関係（座学，実験・実習，演習，卒研等，レポート）		60%
正規の授業時間以外（補習・資格試験の受験指導，就職試験指導）		10%
学生相談（学習・生活・進路相談），厚生補導関係の指導等		30 %

概要欄（効果や問題点等を記入）
保健体育教員として、４学年全ての学生を対象に授業指導を行った。授業時間外においても、学生からの病気や怪我、部活動における練習方法等に関する相談が数多くあり、指導を行った。体育の授業で計約５５０名を専任教員一名で指導していくのは、様々な困難な点があり、また、学生の安全面等でも不安が残った。また、クラス担任として学生の様々な相談を受け、特に指導が必要な学生には時間をかけて指導を行った。

出典：自己評価委員会資料

資料３－２－①－３　教員組織の見直しの例



平24.5.21　運営委員会
協議事項 1の資料
資料 1

平成２５年度教員選考方針（案）

平成２４年５月２１日
校　長　井 上　直 樹

１．教員の公募
　土木建築工学科の工藤教授が２４年度末で定年退職予定であるため、通常であれば土木建築工学科の教員を補充するところであるが、この度は、大半の授業を非常勤講師に依存している保健体育において、別紙のとおり、１名の准教授又は助教を公募する。

２．講師及び助教等の准教授への昇任
　講師及び助教等の准教授への昇任については、今後も検討する。

３．准教授の教授への昇任
　准教授の教授への昇任については、一般科目及び各学科からの推薦状況を踏まえ、検討する。

出典：運営委員会資料

（分析結果とその根拠理由）

全教員の教育活動に関する定期的な評価は，学習・教育レビュー室と自己評価委員会により行う体制が整備され，「授業アンケート」や「公開授業」，「年間職務の自己評価」などを通して適切に行われている。評価結果が個人にフィードバックされると同時に，校長による各教員からの学校運営全般に対する意見聴取が行われており，教員の採用計画等に具体的に活かされている。

以上のことから，教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われている。また，教員組織の見直しにも活用されている。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

専任教員の採用および昇格に関する選考については，公募を原則とする教員選考規則（資料３－２－②－１）で定められており，所定の書類と面接結果をもとに，校長が指名した委員若干名により構成した教員選考委員会で審議し，採用者を決定することとなっている。平成２４年度は，土木建築工学科教員１名が公募により採用された（資料３－１－④－５）。

教員の採用は，全国の大学，高等専門学校，企業等に広く公募するほか，研究者人材データベース（JREC-IN）や本校Webサイトでも公募要項を公表している（資料３－２－②－２）。

なお，非常勤教員の採用についても，公募を原則とする任用に関する内規（資料３－２－②－３）が定められており，これに沿って選考が行われている。

資料３－２－②－１　徳山工業高等専門学校教員選考規則

徳山工業高等専門学校教員選考規則

（趣旨）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の採用及び昇任に係る選考（以下「選考」という。）については、法令等に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（選考方針）

第２条　校長は、定年退職(辞職を含む。)又は転任等により、欠員が生じる見込みとなったときは、本校の将来計画及び各学科の意向を踏まえ、運営委員会の議を経て、当該欠員の補充に係る教員の選考について、方針を定める。

（選考）

第３条　教員の選考は、原則として、公募とし、教員選考委員会（以下「委員会」という。）を開催しその結論を踏まえて、これを行うものとする。ただし、昇任については、本校内に適任者がいる場合は、これによらないことができる。

２　選考にあたっては、候補者の人格、健康、教授能力、教育業績、研究業績、学会活動及び社会的活動等を総合的に勘案するものとする。

３　選考に必要な書類は、次に掲げるものとする。

(1)　履歴書
(2)　著書・論文等一覧
(3)　著書・論文等の概要
(4)　著書・論文等の別刷
(5)　教育、学生指導及び管理運営事項等の業績調書
(6)　高専の教育、研究及び学生指導等に関する抱負
(7)　推薦書
(8)　その他必要とする書類

（委員会）

第４条　委員会は、校長及び選考の都度校長が指名する委員若干名をもって組織する。

２　委員会は、校長が主催する。

３　委員会の委員の任期は、当該選考の審議が終了するまでとする。

（事務）

第５条　この規則に係る事務は、総務課において処理する。

（その他）

第６条　この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し、必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、平成１４年７月９日から施行する。

附　則

この規則は、平成１９年４月１８日から施行し、平成１９年４月１日から適用する。

出典：総務課資料

資料３－２－②－２　教員の公募要項（例）

徳高専総庶第７４号
平成２４年 １ 月２０日

関 係 機 関 長 殿

徳山工業高等専門学校長
井　上　直　樹
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび本校では、下記の要領で教員を公募することになりました。
つきましては、関係者へ周知いただくとともに、適任者の推薦についてご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。

記

１．公　募　人　員　機械電気工学科　教授　１名
２．専　門　分　野　計算力学分野
３．担　当　科　目　弾性力学、弾塑性論、計算力学、ＣＡＥ、工学実験　など
専攻科の担当を含みます。また、担当科目は年度により変更があります。
４．応　募　資　格　高等専門学校における教育（学級担任、クラブ顧問、学寮での学生指導を含む。）および研究に理解と熱意を持って取り組むことができる、心身ともに健康な方で、次のいずれにも該当する者
(1) 博士の学位を有する者
(2) 高等専門学校の教育、研究、学生指導及び学校運営に理解と熱意のある者
(3) 上記専門分野および担当科目で教育や研究上の実績を有する者
(4) エンジニアリングデザイン教育（総合実験、総合演習など）に理解があり　それに対応した指導のできる者
その他
(1) 企業における経験を有する者あるいは海外在住１年以上の経験を有する者　が望ましい
５．応　募　期　限　平成２４年２月２０日（月）必着
６．選　考　方　法　(1) 一次選考　書類審査
(2) 二次選考　一次選考合格者に面接審査（健康診断書持参）
健康診断費用・旅費・宿泊費等は応募者本人の負担となります。
実施日時等詳細は、後日一次選考合格者に直接お知らせします。
７．採用予定時期　平成２４年４月１日
８．提　出　書　類　(1) 履歴書（教育研究経験についても記すこと。市販の履歴書に自筆で記入し、写真を貼付する。E-mail アドレスを記載のこと。）
(2) 推薦書１通（推薦者の氏名と連絡先を記入）
(3) 高等専門学校における教育、研究、学生指導に対する抱負（A4 判１枚）
(4) 研究業績一覧表（博士論文、特許等を含む。主要論文別刷り５編添付）
９．提出先及び問い合わせ先
〒745-8585　周南市学園台　徳山工業高等専門学校　総務課総務係
＊「機械電気工学科 教授 応募書類在中」と朱書し、書留とする。
＊応募書類は原則として返却しませんが、返却を希望する場合は切手を貼付した返信用封筒を同封してください。
＊学校紹介については、以下の URL にてご覧ください。
http://www.tokuyama.ac.jp/
＊ＴＥＬ　(0834)29-6206　　E-mail　soumu@tokuyama.ac.jp

出典：総務課資料

資料３－２－②－３　非常勤講師の採用基準

徳山工業高等専門学校非常勤講師の任用に関する内規

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の任用については、この内規の定めるところによる。

第２条　非常勤講師は、次の各号のすべてに該当する者とする。
（１）高等専門学校設置基準（昭和３６年８月３０日文部省令第２３号）に定められた講師以上の資格を有する者
（２）優れた見識を持ち、本校の教育方針に添った教育指導のできる者
（３）任用時において、年齢満７０歳未満の者
（４）健康で勤務に支障がない者

第３条　任用の期間は、１年以内とする。ただし、校長が必要と認めたときは、任用を更新することができる。

第４条　非常勤講師が担当できる授業時数は、週８時間以内とする。

第５条　非常勤講師（第３条ただし書きに定めるところにより更新しようとする者を除く。）の選考は、原則として公募によるものとし、選考委員会（以下「委員会」という。）が、これを行うものとする。
２　選考にあたっては、候補者の人格、健康、教授能力、教育業績、研究業績及びその他の活動等を総合的に勘案するものとする。

第６条　委員会は、校長及び校長が指名する委員若干名をもって組織する。
２　委員会は、校長が主宰する。
３　委員の任期は、当該選考の審議が終了するまでとする。

第７条　特別な事情により、この内規により難い場合には、校長は別段の取扱いをすることができる。

附　則
この内規は、平成１０年　４月　１日から施行する。
附　則
この内規は、平成１７年１２月１３日から施行する。

出典：総務課資料

（分析結果とその根拠理由）

専任教員の採用・昇任については，公募を原則とする教員選考規則が定められ，年度毎に適切に運用されている。採用や昇任に際しては，高等専門学校設置基準に示された職位に応じての資格を満たしていること，および模擬授業などにより教育面に関する考慮や評価も行っており，教育上の能力も判定されている。 非常勤教員の採用についても公募を原則とする内規が定められ，適切に運用されている。

以上のことから，教員の採用や昇格等に関する規定などが明確に定められ，適切に運用がなされている。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育活動に直接関わるのは，学生課および教育研究支援センターである（資料３－３－①－１，２）。事務職員，技術職員等の教育支援者は，学生課に課長補佐１名，教務係５名，学生係に４名，寮務係に３名の事務職員が配置されている。図書館に３名の職員（学生課兼務１名），情報処理センターに２名の技術職員(教育研究支援センターと兼務)，教育研究支援センターに１０名の技術職員が学生の勉学や実習等の支援を行うために配置されており，学生の教育を支援し教員を補佐する体制が整備されている（資料３－３－①－３）。この他に専門学科に２名の助手が配置されている（資料３－３－①－４）。

資料３－３－①－１　徳山工業高等専門学校事務分掌内規（抜粋）

第10条　学生課専門員は，次の事務をつかさどる。
(1)　キャリア教育支援室に関すること。
(2)　専攻科の入学者の選抜及び教務に関すること。
(3)　その他，学務に係る所掌事務のうち，重要な調査，企画及び連絡調整に関すること。
第11条　学生課教務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学生課の事務に関し，総括及び連絡調整すること。
(2)　入学者の選抜に関すること。
(3)　教育課程の編成及び授業並びに評価に関する企画・立案に関すること。
(4)　学生の入学試験改善のための基本方針の企画・立案に関すること。
(5)　学生の修学に関すること。
(6)　年間の授業計画及び年間行事計画に関すること。
(7)　学生の学籍に関すること。
(8)　学生の身分証明書，成績証明書及び卒業証書等に関すること。
(9)　学生の教科書，教具及び教材に関すること。
(10)　学生の校外実習及び工場見学に関すること。
(11)　学生便覧等刊行物に関すること。
(12)　研究生，科目等履修生及び聴講生に関すること。
(13)　教務に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(14)　その他，教務に関すること。
第12条　学生課学生係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学生の課外教育及び厚生事業に関すること。
(2)　学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(3)　学生の集会，掲示及び印刷物等に関すること。
(4)　学生の表彰及び懲戒に関すること。
(5)　課外活動施設及び厚生施設の管理に関すること。
(6)　日本スポーツ振興センターに関すること。
(7)　学生の旅客運賃割引証に関すること。
(8)　学生の保健衛生及び相談に関すること。
(9)　学生に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(10)　その他，学生の厚生補導に関すること。
第13条　学生課寮務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学寮の管理運営に関すること。
(2)　学生の入退寮に関すること。
(3)　寮生の寮生活に関すること。
(4)　寮費等の経理に関すること。
(5)　寮生の保健衛生に関すること。
(6)　学寮の委託業務に関すること。
(7)　学寮宿日直に関すること。
(8)　学寮の防災警備に関すること。
(9)　寮生の郵便物接受及び配布に関すること。
(10)　外国人留学生の受入等に関すること。
(11)　入学料，授業料の減免，猶予及び奨学金に関すること。
(12)　学寮及び留学生等に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(13)　その他，寮務及び留学生等に関すること。
第14条　学生課図書係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
(2)　図書館資料の閲覧，貸出等利用に関すること。
(3)　文献の交換及び複写に関すること。
(4)　図書の検索指導及び読書相談等に関すること。
(5)　紀要の編集及び発行に関すること。
(6)　寄贈図書に関すること。
(7)　図書に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(8)　その他，図書館に関すること。

出典：本校規則集

資料３－３－①－２　教育研究支援センター規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校教育研究支援センター規則

（設置）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第１２条の規定に基づき、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは、技術職員の勤務場所との連絡を緊密に図り、本校の技術に関する専門的業務を組織的、かつ効率的に処理するとともに、技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（業務等）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　教育及び研究に伴う技術支援に関すること。

(2)　地域連携活動に伴う技術支援に関すること。

(3)　技術の習得、継承及び保存に関すること。

(4)　技術研修に関すること。

(5)　教育、研究の支援、その他の業務に関すること。

第４条　センターに、第一技術室（機械工作部門）、第二技術室（計測制御部門）及び第三技術室（ネットワーク部門）の３室を置き、各室は次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　第一技術室（機械工作部門）　機械工作・設計技術及びメカトロニクスに関する業務

(2)　第二技術室（計測制御部門）　土木計測技術及び情報制御技術に関する業務

(3)　第三技術室（ネットワーク部門）　ネットワーク運用技術及びネットワーク設計に関する業務

２　センターは、必要に応じて各技術室を超えたプロジェクトを組織し、特別な業務に当たることができる。

（組織）

第５条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1)　センター長

(2)　技術長

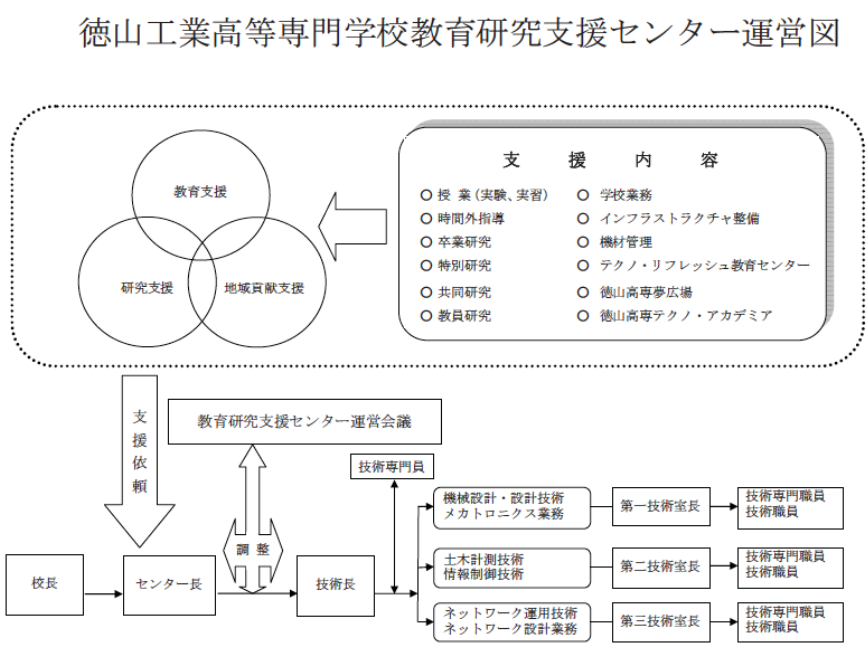
(3)　技術室長

(4)　技術専門職員

(5)　技術職員

出典：本校規則集

資料３－３－①－３　教育研究支援センター組織図



出典：教育研究支援センター資料

資料３－３－①－４　教職員現員

教職員現員

（平成24年5月1日現在）

区　分	教育職員								技術職員	事務職員	合計
	校　長	教　授	嘱託教授	特命教授	准教授	講　師	助　教	助　手			
現　員	1	25	1	3	23	3	6	2	10	41	115

出典：本校 Web サイト

（分析結果とその根拠理由）

事務職員，技術職員等の教育支援者が，教務係や学生係，寮務係，図書館，情報処理センター，教育研究支援センター，専門学科等に適切に配置されている。

以上のことから，事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 非常勤教員についても公募を行っている。
- 専攻科授業および特別研究を担当する教員に研究業績の基準を設け，教員の専門能力の研鑽と研究能力水準の維持向上に努めている。
- 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われている。また，教員組織の見直しにも活用されている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準３の自己評価の概要

養成しようとする技術者教育を行うため，各学科／専攻のカリキュラムを構成する３～４の分野別担当者は，いずれの学科／専攻においてもほぼバランスがとれており，教員が適切に配置されている。一般科目では「世界に通用する」分野を担当しているが，それを構成する各分野に教員が適切に配置されている。

専攻科では，専攻科を担当できる教員の資格基準が明確に定められており，４１名の専任教員が特別研究を担当可能な基準を満たしている。また，目的とする技術者教育が行えるよう，各分野の教員も適切に配置されている。

本校の教育目標を達成するため，目的に適った教員の配置がなされている。すなわち，「世界に通用する」教育を行うため，学位を取得し，国際会議に参加する教員や，海外在住の経験をもつ教員も多い。「実践力のある」教育を行うため，企業経験者や技術士および各種技術者資格取得者が揃っている。「開発型」教育を行うため，多くの教員が地域からの依頼による各種委員や講師の経験を積んでいる。また，共同研究や受託研究を行っている教員も多い。

教員採用は公募を基本としており，基準を設けて適切に行われ，昇格の基準も明確になっている。非常勤教員についても同じく公募が行われている。また，高専・両技科大教員交流制度，内地，在外研究員制度などを活用し，教員のブラッシュアップをめざし，積極的に交流を進めている。

教員の教育活動に関する定期的な評価は，学習・教育レビュー室と自己評価委員会により行う体制が整備され，「授業アンケート」や「公開授業」，「年間職務の自己評価」などを通して適切に行われ，教員組織の見直し等に具体的に活かされている。

事務職員，技術職員等の教育支援者が，図書館や情報処理センター，教育研究支援センター等に適切に配置されている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

（ａ）アドミッション・ポリシーの設定

本校のアドミッション・ポリシーは次のように明確に定められている。

【準学士課程入学者選抜・編入学者選抜】

入学者選抜の基本方針（アドミッション・ポリシー）は，本校の学習・教育目標（世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす）を達成できる能力をもった学生を入学させることであり，具体的には次のような人材を求めている。

・　数学や理科の基礎学力が身についている人
・　コミュニケーションの基礎を身につけ，信頼される技術者をめざしている人
・　勉学やクラブ活動などに意欲をもって取り組んでいる人
・　ものづくりが好きで，社会の発展に役立ちたいと考えている人

【専攻科課程入学者選抜】

入学者選抜の基本方針（アドミッション・ポリシー）は，本校の学習・教育目標（世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす）を達成できる能力をもった学生を入学させることであり，具体的には次のような人材を求めている。

・　複合分野の基礎となる基本的素養が身についている人
・　コミュニケーションの基礎や倫理観が身についている人
・　実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
・　ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

（ｂ）アドミッション・ポリシーの周知・公表

上記アドミッション・ポリシーは求める具体的な人物像をより明確にわかりやすく示すために，語句や表現等に関し従来のアドミッション・ポリシーに修正・加筆を行ったものであり，学生募集要項に記載している（資料４－１－①－１）。それらに加え，本校Webサイト（入試情報）にも掲載し，公開している（資料４－１－①－２）。

教職員にはそれらの募集要項を配布するとともに，教員会議や各学科教室会議等により，随時周知している（資料４－１－①－３）。

社会に対しては，準学士課程と専攻科課程の入試を主たる対象に，下記のように多くの機会を利用して，学生の受け入れ方針を説明している。４年次の編入学については請求に応じて募集要項の送付を行っている。

①準学士課程入試関係

1)中学校訪問（中学校前年度進学担当者等が対象）

・　前期の中間試験結果が出揃った７月上旬前後に，学生の出身中学校を教務主事および主事補の教員が訪問する
・　入学後の学習状況やクラブ活動等の状況をもとに前年度進学担当者等と懇談を行う
・　中学校側の進路指導や本校での学習・生活指導に役立てている（資料４－１－①－４）

2)中学校主催高校説明会（中学生，保護者，中学校教員が対象）
・　中学校からの要請により近隣高校と合同で開催される
・　３年生や保護者等に学校の概要や入試の状況等の説明を行っている（資料４－１－①－５）

3)校内見学会（中学生，保護者，中学校教員が対象）
・　８月と１１月の年２回，中学生を対象とした校内見学会を実施している（資料４－１－①－６）
・　中学校教員を対象に進路担当者意見交換会・進路担当者進学説明会を実施している。延べ約４０名の参加がある
・　中学生保護者を対象に入学試験Ｑ＆Ａを開催している。約１５０名の参加がある

4)進学説明会（中学校進学担当者が対象）
・　本校並びに県内，県外の中学校を対象として，本校の概要や学生募集要項の説明，入学までの諸手続き等の説明を行っている（資料４－１－①－７）

②専攻科入試関係

1)キャリアガイダンス（準学士課程学生対象）
・　５月下旬に，準学士課程学生を対象としたキャリアガイダンスで専攻科の進学に関する説明を行っている（資料４－１－①－８）

2)専攻科説明会（保護者対象）
・　１０月下旬あるいは１１月上旬の保護者会で，保護者を対象に約１時間，専攻科の説明会を開いている
・　配付資料をもとに，専攻科の概要や現況を中心に専攻科の紹介をしている（資料４－１－①－９）
・　例年，約５０名の保護者が参加している

3)専攻科説明会（準学士課程学生対象）
・　１２月中旬に，準学士課程学生を対象に約１時間，専攻科の説明会を開いている
・　配付資料をもとに，専攻科の概要や現況，JABEEや入学試験と専攻科の紹介をしている（資料４－１－①－１０）
・　例年，４年生を中心に４０～５０名の学生が参加している

（ｃ）アドミッション・ポリシー公開資料
・　学生募集要項・入学案内
・　編入学生募集要項・入学案内
・　専攻科学生募集要項
・　本校Webサイト

資料４－１－①－１　アドミッション・ポリシー

平成25年度
徳山工業高等専門学校専攻科学生募集要項

Ⅰ　選抜の基本方針

入学者選抜の基本方針（アドミッションポリシー）は、本校の学習・教育目標（10頁を参照）を達成できる能力をもった学生を入学させることです。具体的には、次のような人を求めています。

●複合分野の基礎となる基本的素養が身についている人
●コミュニケーション能力の基礎や倫理観が身についている人
●実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
●ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

出典：専攻科学生募集要項

資料４－１－①－２　アドミッション・ポリシー



出典：本校 Web サイト

資料４－１－①－３　アドミッション・ポリシーの一部改正

「徳山工業高等専門学校アドミッションポリシー」改正理由書

１．改正理由

準学士課程及び専攻科課程において，本校が求める学生像を，本校の学習・教育目標に沿って具体的に示すため。

２．改正日

平成２４年１月２４日

徳山工業高等専門学校アドミッションポリシー

平成２４年１月２４日

【準学士課程】

入学者選抜の基本方針（アドミッションポリシー）は，本校の学習・教育目標を達成できる能力をもった学生を入学させることです。

具体的には，次のような人を求めています。

・数学や理科の基礎学力が身についている人
・コミュニケーション能力の基礎を身につけ，信頼される技術者をめざしている人
・勉学やクラブ活動などに意欲をもって取り組んでいる人
・ものづくりが好きで，社会の発展に役立ちたいと考えている人

【専攻科課程】

入学者選抜の基本方針（アドミッションポリシー）は，本校の学習・教育目標を達成できる能力をもった学生を入学させることです。

具体的には，次のような人を求めています。

・複合分野の基礎となる基本的素養が身についている人
・コミュニケーション能力の基礎や倫理観が身についている人
・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

出典：運営委員会資料

資料４－１－①－４　中学校訪問記録

平成２３年度中学校訪問

月　日	訪問中学校		入学者数	訪問予定時刻	訪問者
７月２５日(月)	周南市	菊川	5	１０時００分	柏倉　知秀
７月２５日(月)	周南市	福川	7	１１時００分	柏倉　知秀
７月２６日(火)	岩国市	由宇	2	１４時００分	森﨑　哲也
７月２６日(火)	柳井市	柳井西	2	１５時３０分	森﨑　哲也
７月２８日(木)	周南市	桜田	6	１０時００分	杉村　敦彦
７月２８日(木)	周南市	秋月	3	１１時３０分	杉村　敦彦
７月２８日(木)	周南市	岐陽	5	１０時００分	森﨑　哲也
７月２８日(木)	周南市	住吉	4	１１時００分	森﨑　哲也
７月２９日(金)	光市	浅江	2	１０時００分	池田　信彦 米田　郁生
７月２９日(金)	光市	島田	3	１１時００分	池田　信彦 米田　郁生
８月　１日(月)	光市	光井	3	１３時００分	杉村　敦彦
８月　１日(月)	光市	附属光	7	１４時３０分	杉村　敦彦
８月　１日(月)	熊毛郡	平生	2	１６時００分	杉村　敦彦
８月　１日(月)	山口市	秋穂	2	１１時００分	中川　明子
８月　１日(月)	防府市	牟礼	2	１３時００分	中川　明子
８月　１日(月)	防府市	国府	2	１４時００分	中川　明子
８月　３日(水)	下松市	末武	18	１４時００分	池田　信彦
８月　３日(水)	周南市	熊毛	2	１５時３０分	池田　信彦
８月　５日(金)	周南市	太華	5	１４時００分	柏倉　知秀
８月　５日(金)	周南市	周陽	8	１５時００分	柏倉　知秀
８月　５日(金)	周南市	鹿野	2	１４時００分	森﨑　哲也
８月　８日(月)	岩国市	玖珂	2	１４時００分	柏倉　知秀
８月　８日(月)	岩国市	周東	2	１５時００分	柏倉　知秀
８月１０日(水)	山口市	平川	2	１４時００分	森﨑　哲也
８月１０日(水)	山口市	附属山口	3	１５時３０分	森﨑　哲也
27校		合計	101	入学者１３０名	

※麻里布中学校は日程調整がつかないため今回は訪問なし

出典：教務係資料

資料４－１－①－５　中学校主催進学説明会

平成23年度　中学校主催の進学説明会

	昨年	開催日	時間	学校名	担当者	回答済み	資料要求	開催場所
1	⑱	6/15(水)	10:00～10:20	大道中学校	杉村敦彦	回答済	50	大道中学校体育館
2	①	6/19(日)	11:45～12:00	平生中学校	池田信彦	回答済	103	平生中学校体育館
3	③	6/21(火)	13:55～14:10	牟礼中学校	藤田重隆	回答済	84	牟礼中学校体育館
4	②	6/21(火)	15:15～15:35	住吉中学校	森崎哲也	回答済	105	周南市市民館小ホール
5	⑥	7/1(金)	13:35～13:50	菊川中学校	柏倉知秀	回答済	2年 82 3年 50	菊川中学校体育館
6	⑦	7/1(金)	15:30～15:50	桜田中学校	柏倉知秀	回答済	2年 74 3年 64	桜田中学校体育館
7	⑩	7/4(月)	13:40～14:00	須々万中学校	杉村敦彦	回答済	53	須々万中学校体育館
8	④	7/4(月)	14:30～14:45	室積中学校	中川明子	回答済	80	室積中学校体育館
9	⑨	7/5(火)	10:35～12:20	福川中学校	森崎哲也	回答済	102	福川中学校体育館
10	⑧	7/5(火)	15:20～15:30	桑山中学校	森崎哲也	回答済	225	桑山中学校体育館
11		7/6(水)	12:00～12:20	浅江中学校	池田信彦	回答済		浅江中学校体育館
12	⑪	7/6(水)	15:40～15:55	富田中学校	柏倉知秀	回答済	195	新南陽社会文化ホール
13	⑫	7/6(水)	14:45～15:00	岐陽中学校	池田信彦	回答済	191	さくらホール
14	⑬	7/7(木)	15:30～15:40	太華中学校	池田信彦	回答済	101	太華中学校体育館
15	⑭	7/8(金)	10:35～10:50	周東中学校	中川明子	回答済	105	周東中学校体育館
16	⑯	7/8(金)	14:15～14:30	鹿野中学校	中川明子	回答済	2･3年 50	鹿野中学校ランチルーム
17	⑰	7/8(金)	14:30～14:45	周陽中学校	杉村敦彦	回答済	165	周陽中学校体育館
18		7/8(金)	PM (14:00～15:30	島田中学校	森崎哲也	回答済		
19	⑮	7/14(木)	PM	華陽中学校	柏倉知秀	回答済		華陽中学校体育館
20		11/7(月)	PM	和田中学校	池田信彦	回答済	2年	和田中図書館
							合計	

出典：教務係資料

資料４－１－①－６　校内見学会



平成２３年度　第２回校内見学会
実　施　概　要

１．実施日　平成２３年１１月１９日(土)

２．参加申込者数

生 徒	保護者	引率教員	合計
１５９	６９	１２	２４０

＝企画別内訳＝　(一般科目体験授業)

英語①	英語②	中国語	数学①	数学②	数学③	合　計
２８	４４	１１	３３	２４	１８	１５８

(専門学科体験講座)

機械電気工学科			情報電子工学科			土木建築工学科			合計
No.１	No.２	No.３	No.１	No.２	No.３	No.１	No.３	No.４	
１８	３７	９	１２	１９	２３	９	１２	２０	１５９
計６４人			計５４人			計４１人			

※午後からの参加者が１名いるため、一般科目体験授業の参加者数よりも１名多い。
ＩＥのNo.３を受講する。当日は、学生課で受付し授業会場へ案内する。

３．日　程

時　間	企　画　等			場　所	担　当　者
9:00～ 9:30	受　付			第２体育館	教務係
9:30～10:30	全体会（入学式）			第２体育館	教務主事
10:40～11:50	体験授業		英語①	１－１教室	長戸
			英語②	ＭＥ３教室	高橋
			中国語	ＩＣＴ教室	谷本
			数学①	ＭＥ４教室	荒谷
			数学②	１－３教室	米田
			数学③	１－２教室	長廣
12:00～13:30	昼　食			学食(希望者)	教務係
12:00～12:30	学科紹介		ＣＡ	メディアホール	学科主任，教務主事補
12:30～13:00			ＭＥ	メディアホール	学科主任，教務主事補
13:00～13:30			ＩＥ	メディアホール	学科主任，教務主事補
13:40～14:40	体験講座	ＭＥ	1 第4世代のあかり，LEDについて学ぶ	１－１教室	伊藤
			2 SolidWorksによる部品の作成と組み立て	MECAD室	藤田，西村，岩本，小田，飛車，張間，石田，藤本，三浦，鈴木
			3 明るさを感じるセンサを使いこなそう	ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ地域共同開発室	櫻本，北村，森崎
		ＩＥ	1 プログラムのしくみ	第１パソコン室	柳澤，義永，奥本，高山，古賀
			2 コンピュータのしくみ	ＩＥ電算機室	重村，守川，新田
			3 電子オルゴールのしくみ	ＩＥ実験室	小林，百田，池田，原田，杉村，山本，藤本
		ＣＡ	1 地盤工学入門講座	１－３教室	上，目山
			2 ※実施しない		
			3 構造工学橋梁講座	設計製作室	島袋
			4 建築入門講座	設計製作室	中川
14:50～	卒業式			各講座実施場所	各講座担当者

10:40～	進路担当者進学説明会	３階演習室	教務主事，学生課長
12:00～13:30	学寮見学	学生寮	寮務主事，主事補
10:00～14:00	キャリアサポートブース	サポートブース	ｷｬﾘｱ教育支援室
13:40～14:40	入学試験Ｑ＆Ａ	メディアホール	校長，教務主事，寮務主事，学生主事，学生課長

出典：教務係資料

資料４－１－①－７　進学説明会

平成２３年度進学説明会日程表

実施期日	開始時刻	会場 開催地区名 学校名	会場 参加校	説明者
10月25日(火)	１５：００	光市 島田中学校	島田中，浅江中，熊毛中，大和中，室積中	杉村敦彦 大谷　幸
10月26日(水)	１４：００	下関市 長成中学校	長成中，木屋川中	森﨑哲也 大谷　幸
10月27日(木)	１５：００	防府市 牟礼中学校	牟礼中，華陽中，富海中，佐波中，右田中	中川明子 兼本和枝
11月1日(火)	１５：００	岩国市 岩国中学校	岩国中，東中，川下中，灘中，麻里布中	杉村敦彦 兼本和枝
11月2日(水)	１５：００	山口市 小郡中学校	小郡中，秋穂中，宮野中，大内中，平川中	柏倉知秀 大谷　幸
11月7日(月)	１５：００	岩国市 玖珂中学校	玖珂中，周東中	森﨑哲也 大谷　幸
11月8日(火)	１５：００	山口市 山大附属山口中学校	附属山口中，徳地中，鴻南中，阿東東	中川明子 兼本和枝
11月9日(水)	１５：００	柳井市 柳井中学校	柳井中，平生中，柳井西中，田布施中，上関中	池田信彦 大谷　幸
11月10日(木)	１５：００	宇部市 東岐波中学校	東岐波中，桃山中	柏倉知秀 大谷　幸
11月11日(金)	１５：００	萩市 萩東中学校	萩東中，三見中	杉村敦彦 兼本和枝
11月15日(火)	１５：００	広島県大竹市 大竹中学校	大竹中　　（和木中）	池田信彦 大谷　幸
11月9日(水)	１５：００	周南市・下松市 徳山工業高等専門学校	翔北中，秋月中，下松中，末武中， 久保中，桑山中	柏倉知秀 兼本和枝
11月19日(土)	１０：４０	徳山工業高等専門学校	鹿野中，菊川中，岐陽中，桜田中， 周陽中，須々万中，住吉中，富田中， 福川中，和田中，附属光中，太華中	池田信彦 兼本和枝

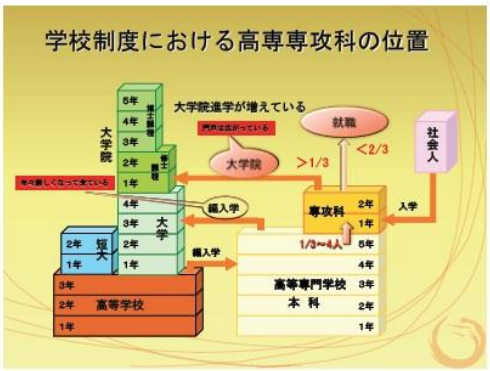
５７校（和木中を含む）

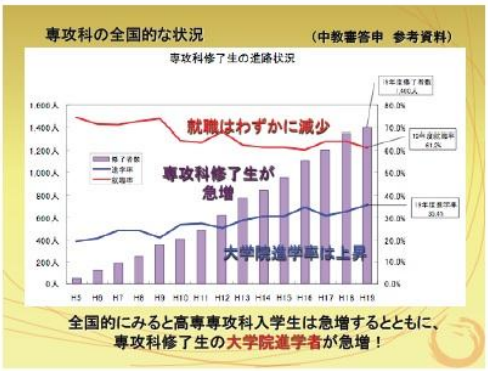
実施期日を検討のうえ，お近くの説明会場へご出席願います。
また，別途ご案内しました11月19日（土）開催の第２回校内見学会でも進学説明を行います。

出典：教務係資料

資料４－１－①－８　キャリアガイダンス（準学士課程学生対象）資料（抜粋）









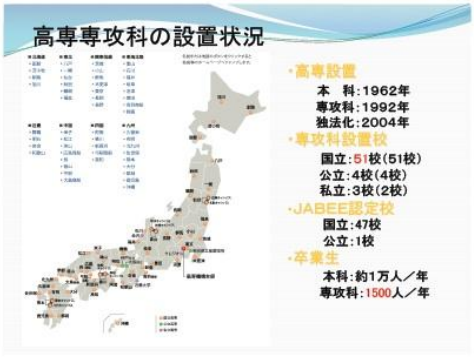


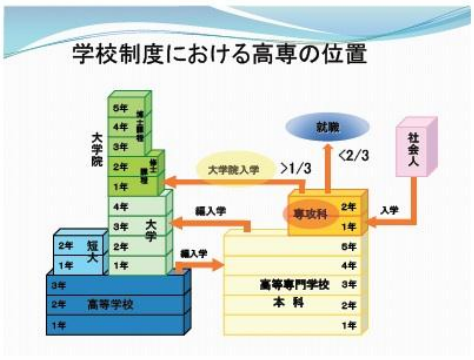


出典：説明会資料

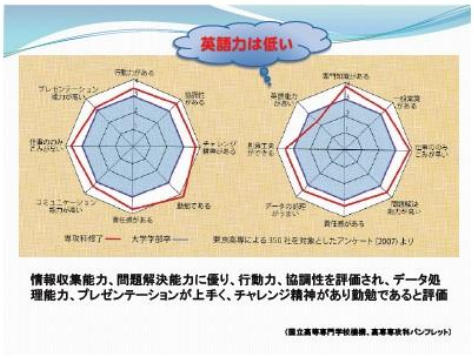
資料４－１－①－９　専攻科説明会（保護者用）資料









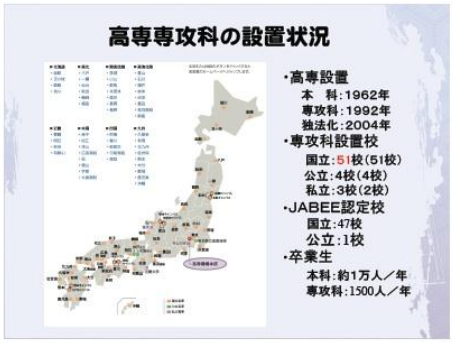


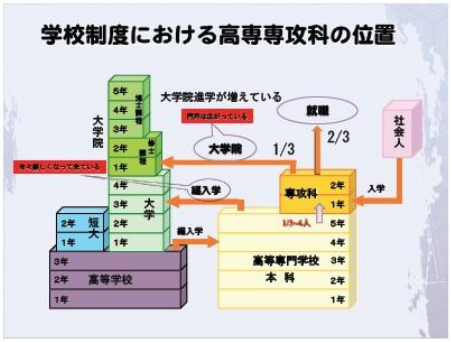


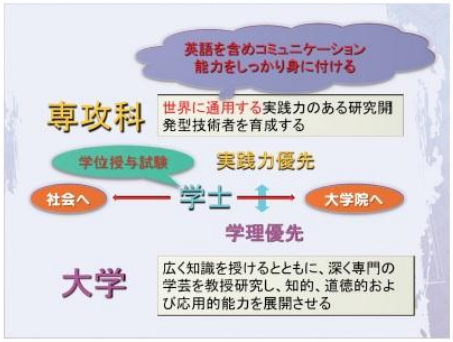
出典：説明会資料

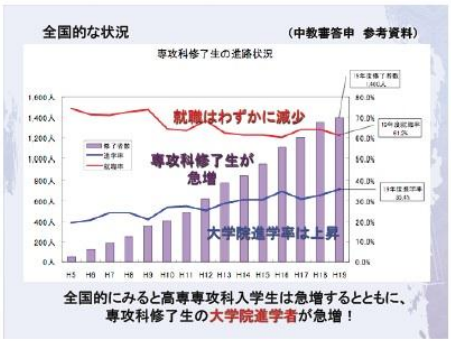
資料４－１－①－１０　専攻科説明会（（準学士課程学生対象）資料













出典：説明会資料

（分析結果とその根拠理由）

- 募集要項に，アドミッション・ポリシーが明確に示されている
- 教員に対する周知は，募集要項の配布や教員会議，各学科教室会議により随時行われている
- 学校要覧，学生募集要項・入学案内は中学校を中心に配布され，本校Webサイト，校内見学会等を通じても社会に対して広く公表している

以上のことから，本校のアドミッション・ポリシーは明確に定められており，学校の教職員に適切に周知され，将来の学生を含めた社会に理解されやすい形で公表されている。

観点４－２－①：　アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校のアドミッション・ポリシーにおける具体的人物像は，次のとおりである。

【準学士課程入学者選抜・編入学者選抜】

- 数学や理科の基礎学力が身についている人
- コミュニケーションの基礎を身につけ，信頼される技術者をめざしている人
- 勉学やクラブ活動などに意欲をもって取り組んでいる人
- ものづくりが好きで，社会の発展に役立ちたいと考えている人

【専攻科課程入学者選抜】

- 数学や理科の基礎学力が身についている人
- コミュニケーションの基礎を身につけ，信頼される技術者をめざしている人
- 勉学やクラブ活動などに意欲をもって取り組んでいる人
- ものづくりが好きで，社会の発展に役立ちたいと考えている人

上記の本校が求める人物像の各項目について，推薦選抜並びに学力選抜ごとに，準学士課程並びに専攻科課程においてどのように選抜方法を対応させているかを資料４－２－①－１に示す。また，それらの詳しい実施状況を以下に示す。このように，入学者選抜はアドミッション・ポリシーを反映して，適切に行われている。

（ａ）準学士課程１年次への入学試験

①推薦による選抜

- 中学校長から推薦のあった者に対して一般面接，適性面接および作文を課し，推薦書並びに調査書を併せて評価し，入学試験委員会で合格者を決定する（禁帯出：推薦書，調査書の配点の総合得点の表）
- クラブ活動等の特別活動を積極的に行い，活躍している者については，優先的に選抜している。なお，推薦基準は学生募集要項に明記している

②学力検査による選抜

- 学力検査による選抜は，学力試験の成績と調査書の成績の合計を基本データとして，入学成

績総合で判断している

・　数学の試験成績は２倍，英語と国語はそれぞれ１．５倍の傾斜配点を行っている。このことは，進学説明会等で説明することで，受験生および中学校に周知している（資料４－１－①－４～７）

（ｂ）準学士課程４年次への編入学試験

・　学力検査および面接を課し，編入学試験選考会議で合格者を決定している（禁帯出：編入学試験選考会議議事録）

（ｃ）専攻科課程への入学試験

①　推薦による選抜

・　高等専門学校長や短期大学長，専修学校長から定められた基準に基づいて推薦のあった者に対して行っている

・　推薦書・調査書・成績証明書並びに卒業研究計画書に基づく口頭試問および面接の結果をもとに，総合評価を行っている

・　合否の判定は，校長，専攻科長，教務主事，専攻科幹事，学科主任による専攻科入試選考会議で行っている（禁帯出：専攻科推薦入試選考会議議事録）

②　学力検査による選抜

・　学力検査（数学，英語，専門科目（６科目から３科目を選択））および面接を行い，調査書・成績証明書と併せて総合評価を行っている

・　合否の判定は，合格最低基準を設定し，専攻科入試選考会議で行っている。（禁帯出：専攻科学力入試選考会議議事録）

③　社会人特別選抜

・　所属する機関の長の推薦を受けた者に対し，推薦書・調査書・成績証明書等に基づく面接の結果をもとに，総合評価を行っている

・　合否の判定は専攻科入試選考会議で行うこととしている

資料４－２－①－１　アドミッション・ポリシーと入試選抜方法の対応

アドミッション・ポリシーと入試選抜方法の対応

○準学士課程

アドミッション・ポリシー	入試選抜方法の対応	
	推薦選抜	学力選抜
数学や理科の基礎学力が身についている人	数学と理科の適性面接と調査書で評価	数学の学力試験点を2倍にし、評価
コミュニケーション能力の基礎を身につけ、信頼される技術者をめざしている人	作文と一般面接で評価	国語と英語の学力試験点を1．5倍にし、評価
勉学やクラブ活動などに意欲をもって取り組んでいる人	調査書に記載された実績と一般面接で評価	調査書で評価
ものづくりが好きで、社会の発展に役立ちたいと考えている人	推薦書に記載された志望学科への適性や意欲を一般面接で確認・評価	調査書記載内容を確認

※推薦選抜評価方法：推薦書、調査書、一般面接、適性面接、作文の5項目の合計点で評価

※学力選抜評価方法：学力試験点と調査書（2・3年次の9科目）の合計点で評価

○専攻科課程

アドミッション・ポリシー	入試選抜方法の対応	
	推薦選抜	学力選抜
複合分野の基礎となる基本的素養が身についている人	推薦基準を高レベルに設定するとともに、口頭試問で評価	数学および専門基礎科目を試験科目とし、評価
コミュニケーション能力の基礎や倫理感が身についている人	TOEICスコア350を推薦基準に設定するとともに、面接で評価	TOEICスコア350以上を受験資格に設定
実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人	調査書や卒業研究計画書をもとに面接で評価	面接で評価
ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人	推薦書や卒業研究計画書をもとに面接で評価	面接で評価

※推薦選抜評価方法：推薦書、調査書、卒業研究計画書に基づく口頭試問、面接により総合評価

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

・　入学者の選抜は，準学士課程，専攻科課程とも推薦および学力試験で行っており，アドミッション・ポリシーの具体的な項目とそれらの選抜方法を対応させ，入学者を選抜している。

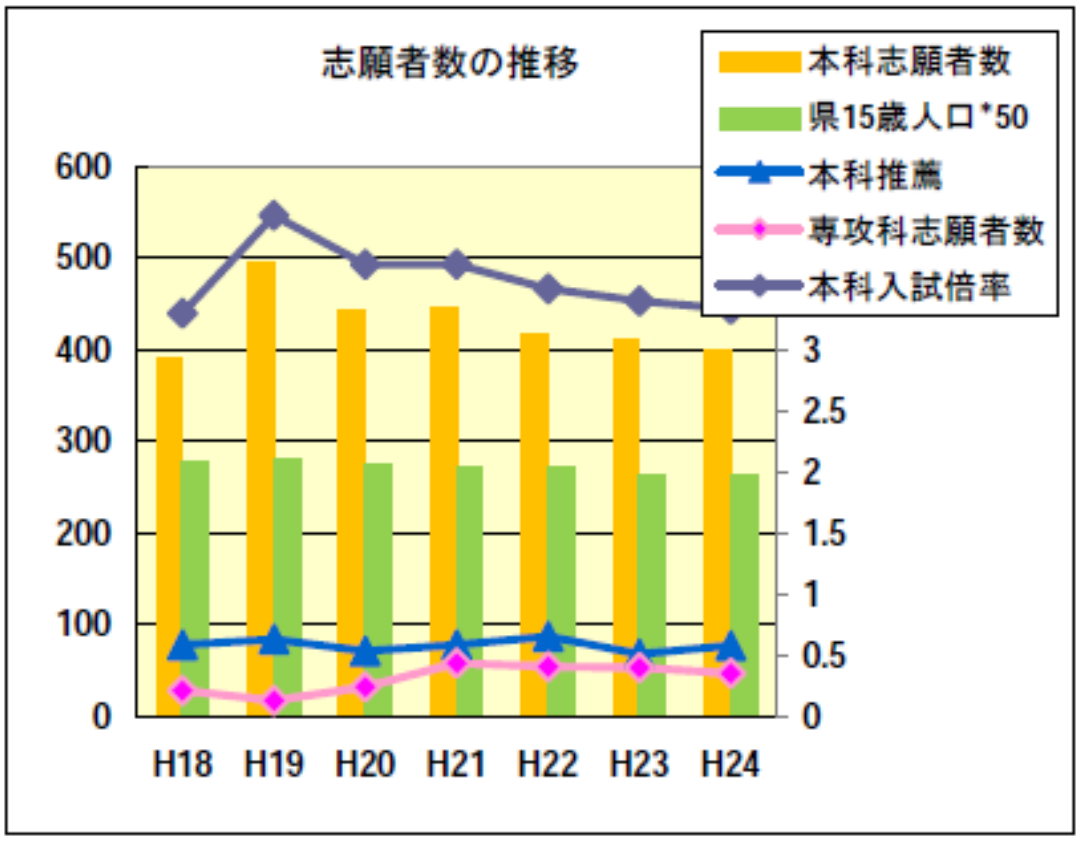
以上のことから，入学者選抜は，アドミッション・ポリシーに沿って，適切な学生の受け入れ方法が採用されており，適切に実施されている。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

- 平成１８年度以降の，準学士課程と専攻科課程の入試における，志願者数などのデータを資料４－２－②－１に示す。準学士課程では，倍率が次第に低下の傾向にある。これは山口県における１５歳人口の減少によるところが大きいと考えられる。１５歳人口に対する志願者数の割合（約3%）にはほとんど変化はなく，全国平均（約1.5%）を大きく上回っており，志願倍率は依然として３倍以上を維持している。また，推薦志願者数も約80名（定員は120名）と高レベルを維持している。専攻科課程の志願者数は，年々増加の傾向にあり、定員（12名）を大きく上回っている
- 資料４－２－②－２に，平成１８年度以降の準学士課程における留年，および専攻科課程における学位取得とJABEE認定プログラム修了の状況を示す。これからわかるように，平均留年率は3%以下と極めて低いレベルにある。また，専攻科課程修了者全員が学士の学位を取得している。またJABEE認定についても，専攻科課程修了生中１名を除き，ほぼすべての学生がJABEE認定プログラムを修了している。このことは，学生が本校の教育方針に合致し，適応していることを示す
- 資料４－２－②－３に，入学直後の定期試験と，その入学生の４年次学年末成績分布を，推薦による入学者，学力による入学者別に示している。どちらにおいても推薦による入学者の成績が学力による入学者の成績を上回っており，適切な推薦選抜が実施されていることがわかる
- 資料４－２－②－４に，学習到達度試験の状況を示している。これからも推薦による入学者がよい成績を収めていることがわかる。また，受験項目数が異なるため厳密ではないが，数学，物理ともに全国平均に比べ偏差値53～54と推測できる。このことより，特段優れているとは言えないまでも，数学，物理の基礎的素養を身につけた（アドミッション・ポリシーに沿った）学生が入学しているということができる
- 本校では，全学生を対象に本科１年から３年には英語能力テスト(ACE)を，４年から専攻科２年にはTOEIC IPテストを毎年実施している。これには学年ごとに目標点を設定している。資料４－２－②－５にその目標点と，平成２３年度に実施したACEとTOEICの平均スコアを示す。これからわかるように，ACEについては１年から３年の全ての学年において学年の60%以上，特に１，２年では80%以上の学生が目標点をクリアしている。これにより，英語力についてもその基礎を身につけた学生が入学しているといえる。４，５年については目標（学年の60%）達成には届かないものの，TOEICスコアの平均点は目標をクリアしている。専攻科については，資料４－２－②－６に，専攻科修了時のTOEICベストスコアの分布を示している。また資料４－２－②－７に，専攻科入学時におけるTOEICスコアの平均点を示す。これからも年々，専攻科入学生の英語力が向上していることが見てとれる。これは平成２１年度に「英語力向上タスクフォースⅡ」（資料４－２－②－８）を立ち上げ，これまでの英語教育を見直すとともに，英語力向上に真剣に取り組んできた成果と思われる。これらのことは専攻科課程においても，コミュニケーション能力の基礎（英語力）を身につけた学生が入学し，さらに改善され続けていることを示す

資料４－２－②－１　準学士課程と専攻科課程の入試志願者数などのデータ



出典：教務係資料

資料４－２－②－２　準学士課程の留年等状況と専攻科課程の学位取得・JABEEプログラム修了状況

留年者数(準学士課程)

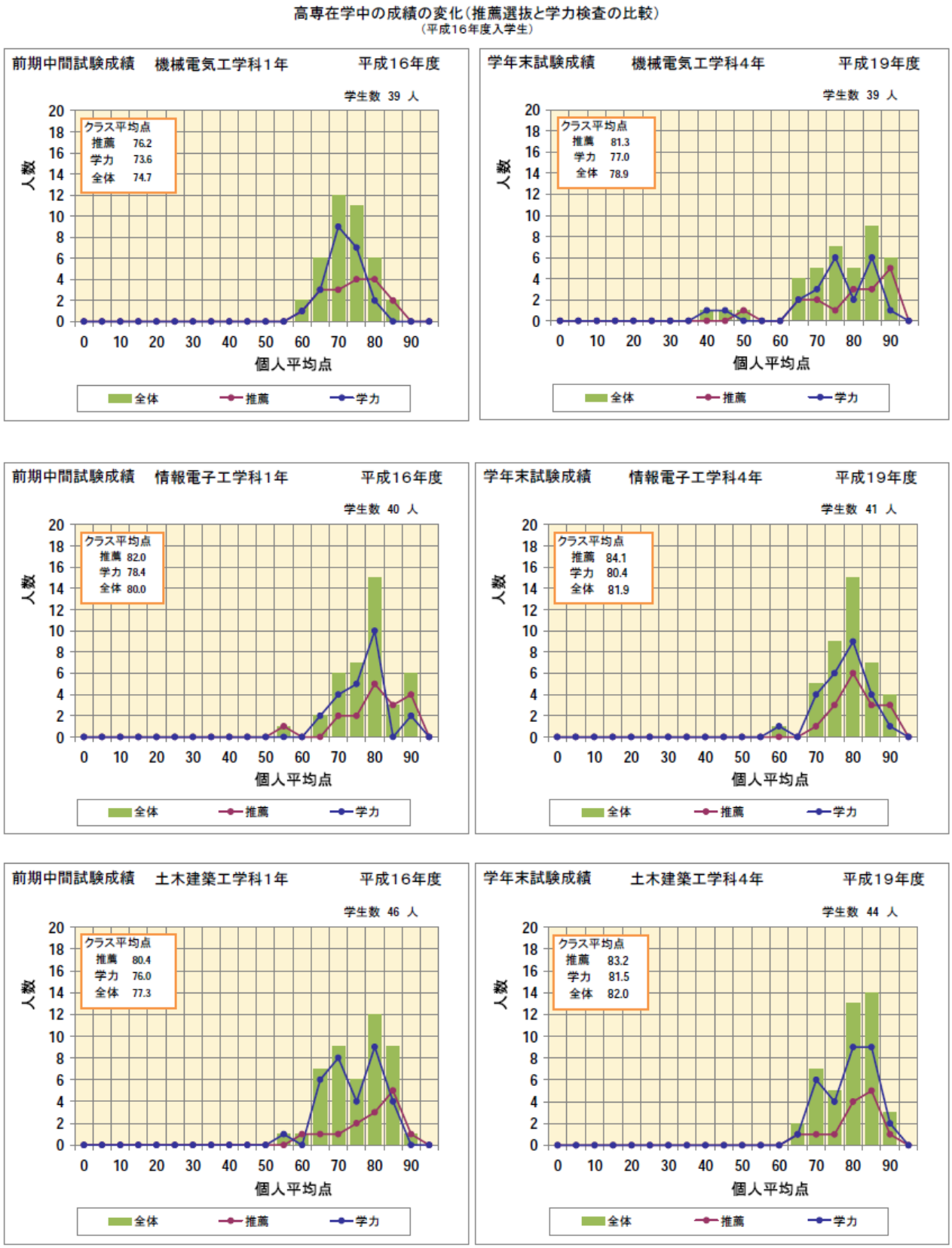
平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
6名	13名	8名	10名	13名	20名

専攻科課程における学位取得・JABEE認定プログラム修了状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
修了者数	25名	17名	17名	29名	40名	32名
学位取得者数	25名	17名	17名	29名	40名	32名
JABEE認定プログラム修了者数	25名	17名	17名	29名	40名	31名

出典：教務係資料

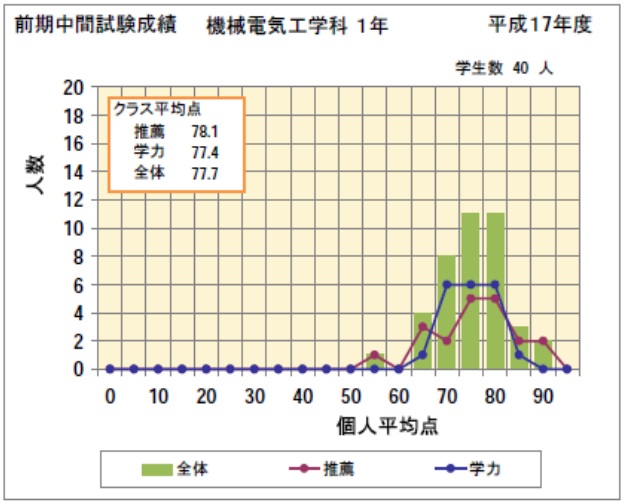
資料４－２－②－３　高専在学中の成績の変化

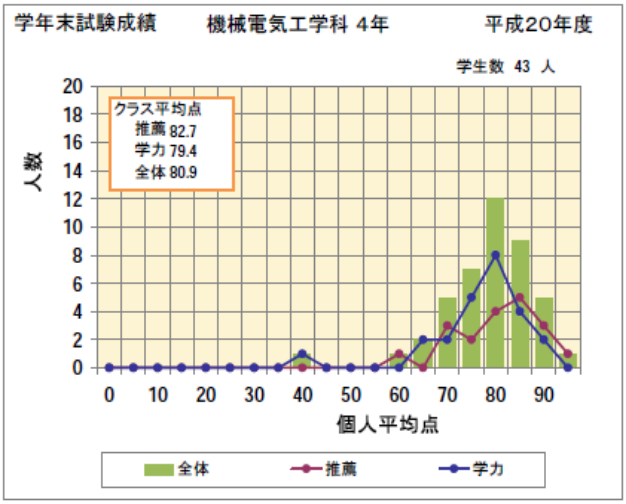


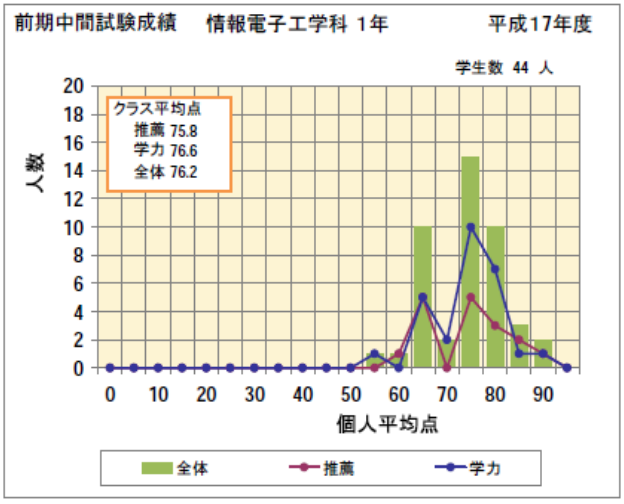
出典：教務係資料

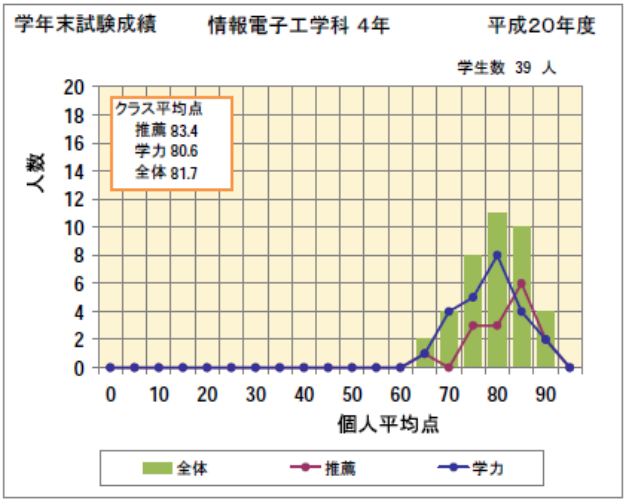
資料４－２－②－３　高専在学中の成績の変化

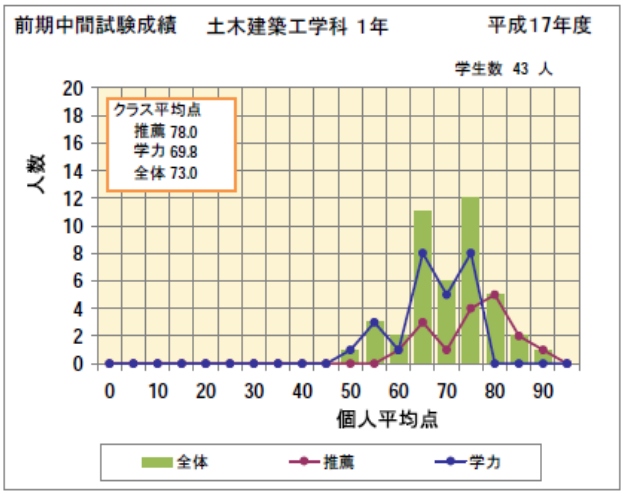
高専在学中の成績の変化（推薦選抜と学力検査の比較）
（平成17年度入学生）

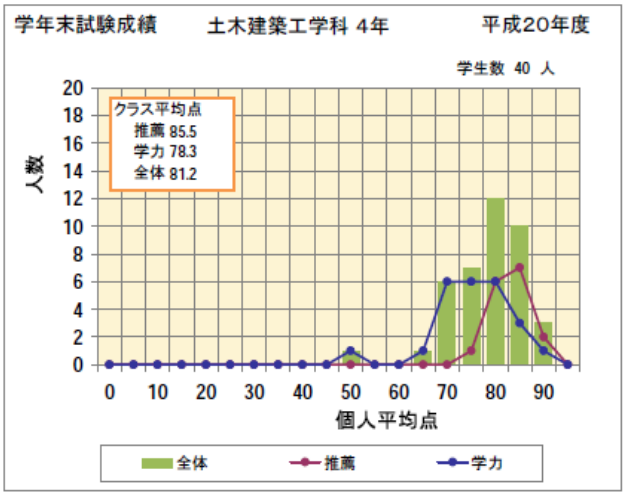






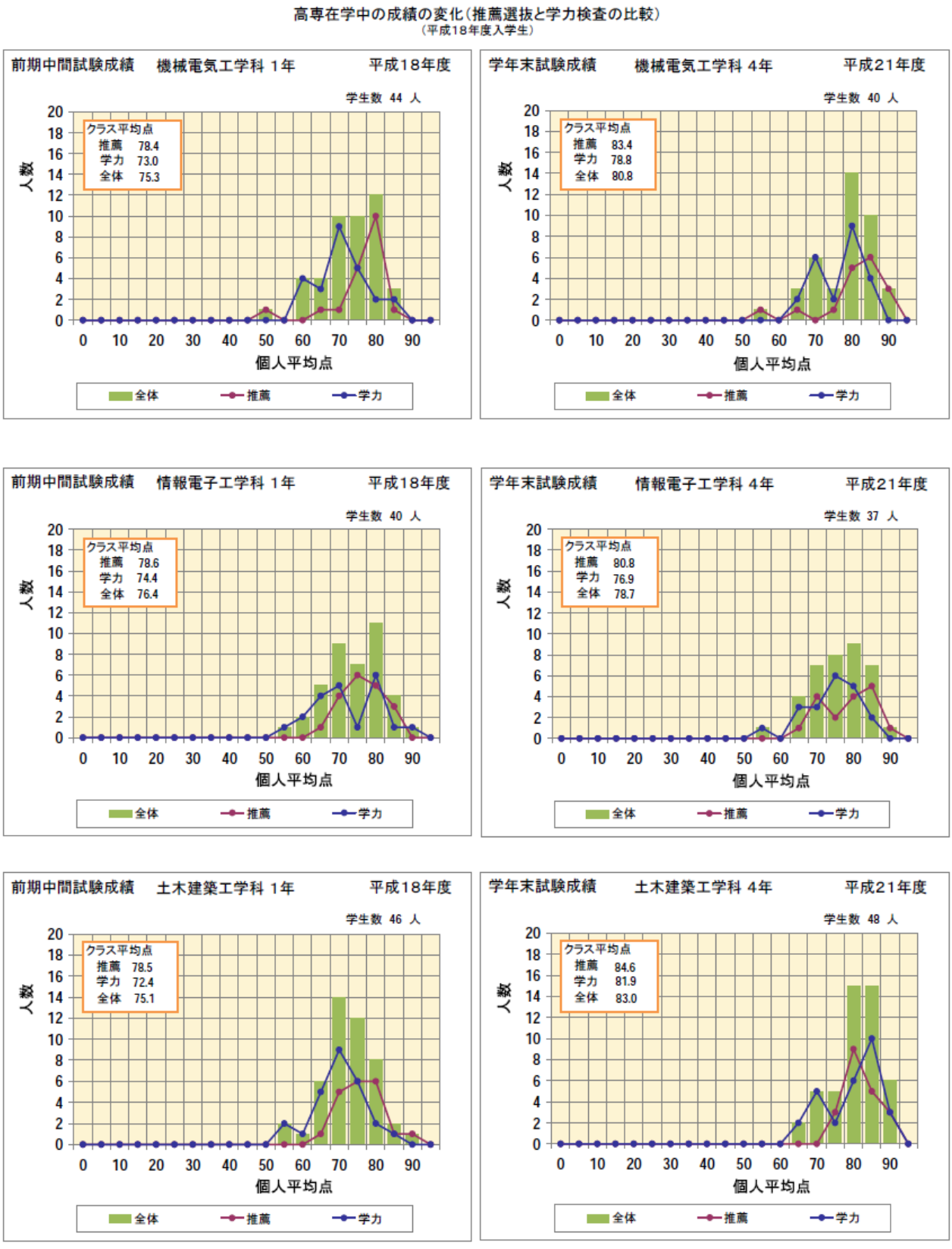






出典：教務係資料

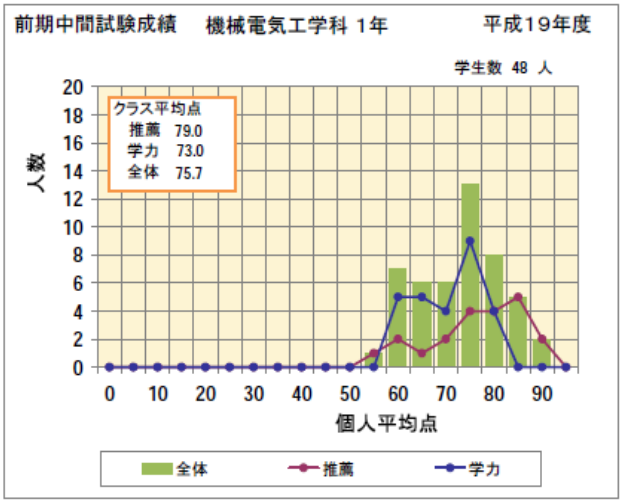
資料４－２－②－３　高専在学中の成績の変化

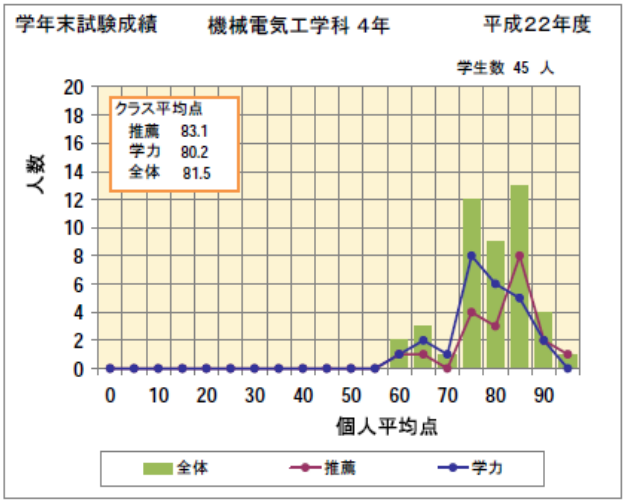


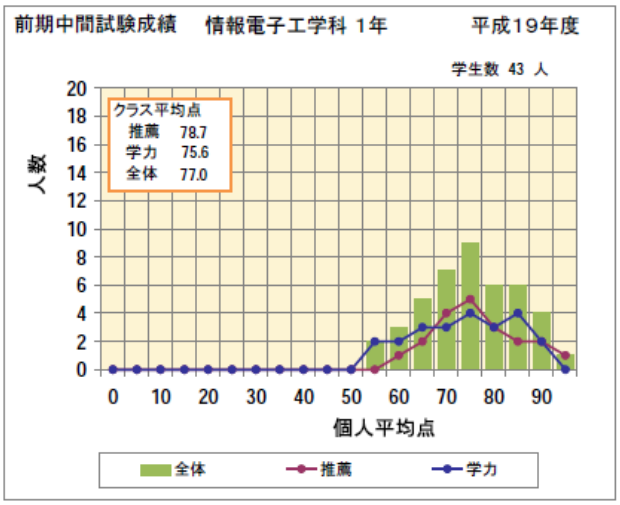
出典：教務係資料

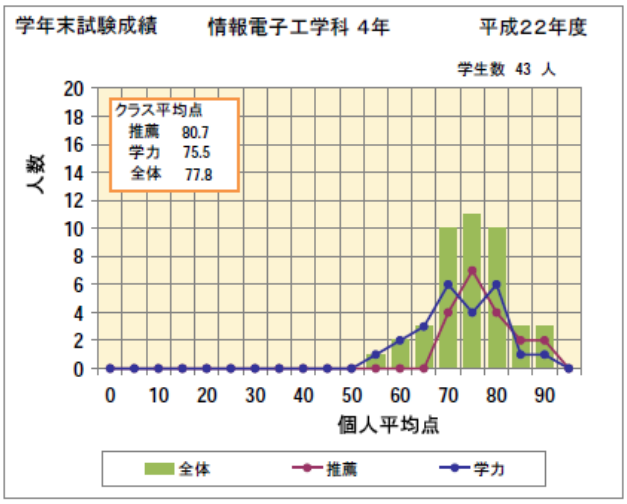
資料４－２－②－３　高専在学中の成績の変化

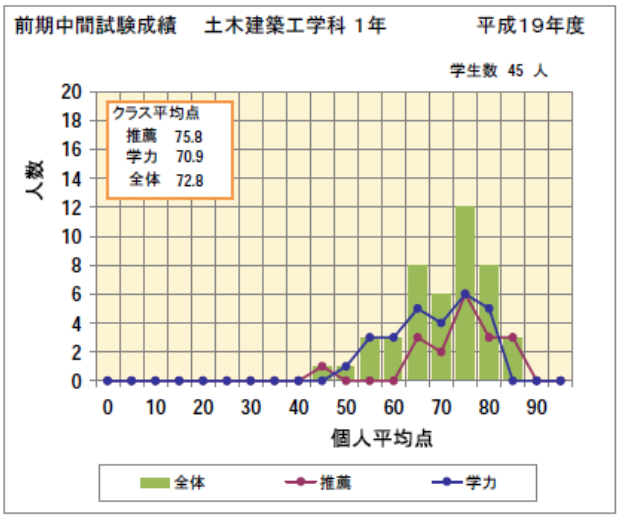
高専在学中の成績の変化（推薦選抜と学力検査の比較）
（平成19年度入学生）

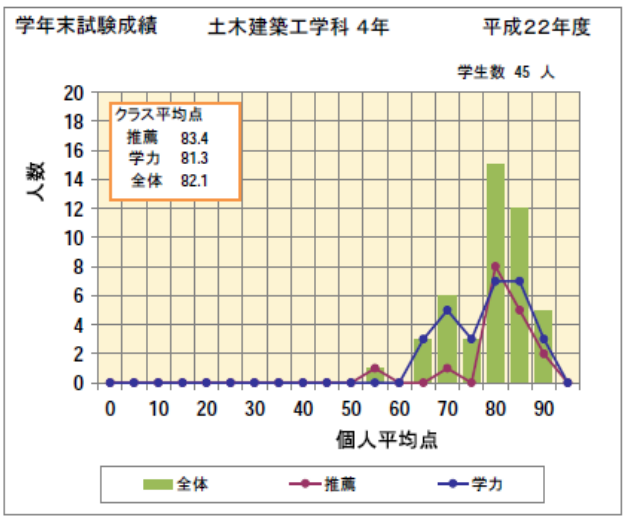






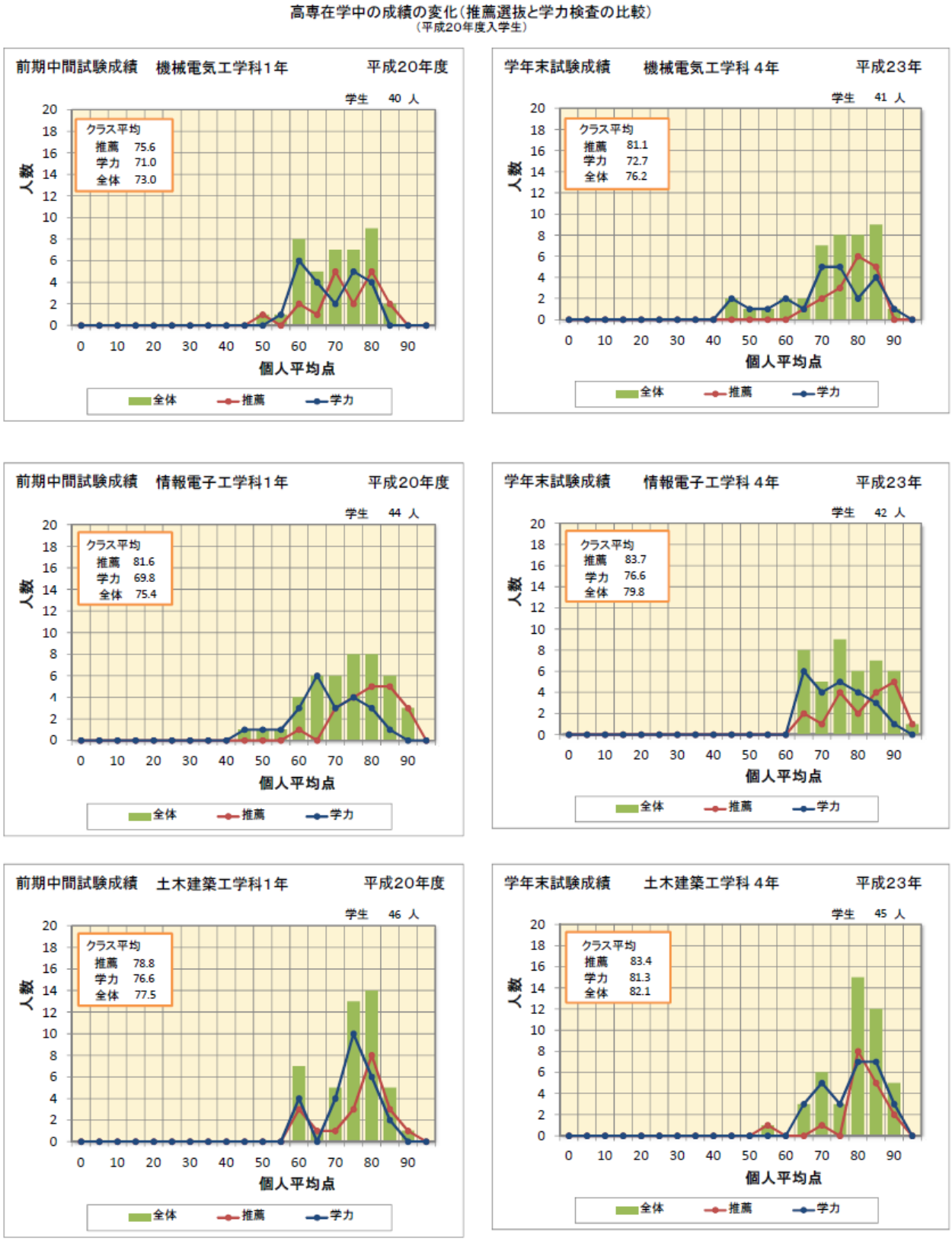






出典：教務係資料

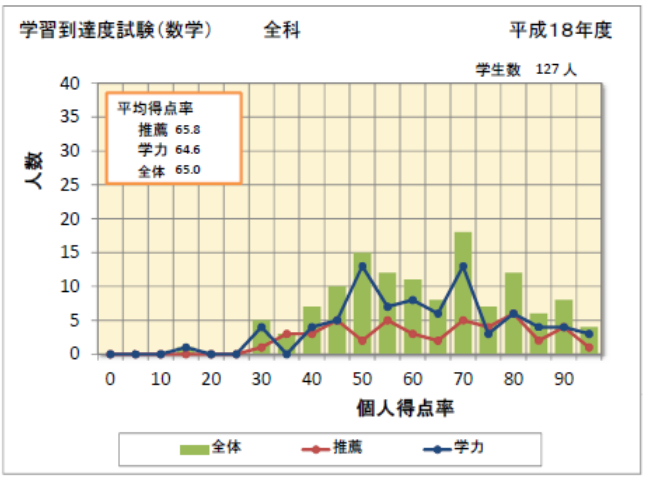
資料４－２－②－３　高専在学中の成績の変化

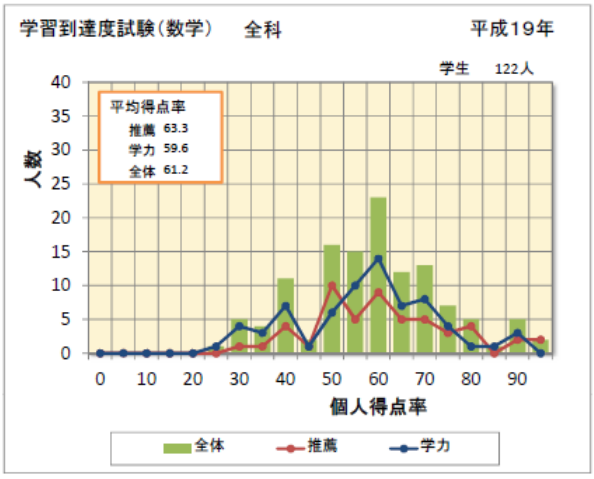


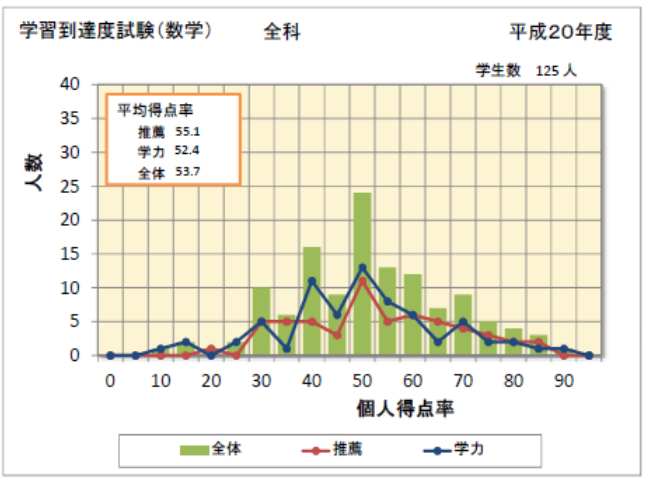
出典：教務係資料

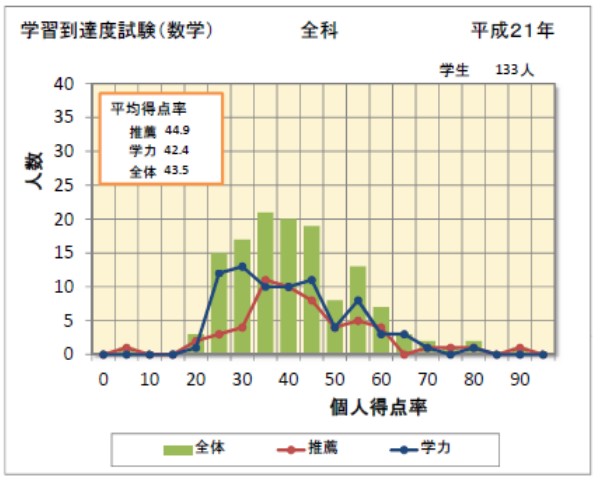
資料４－２－②－４　学習到達度試験（数学）の状況

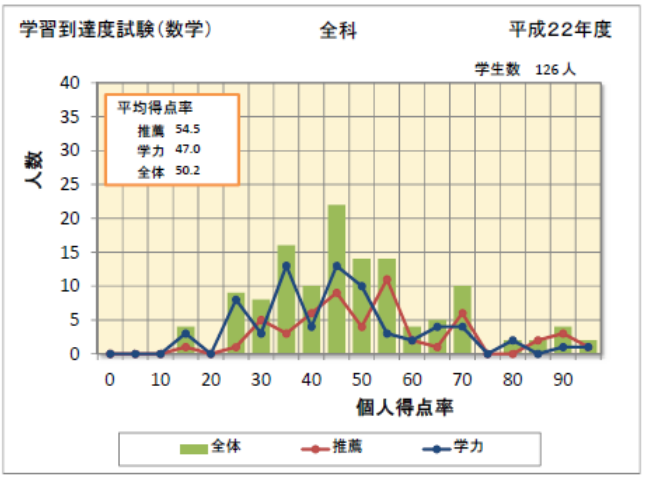
学習到達度試験(数学)　全学科

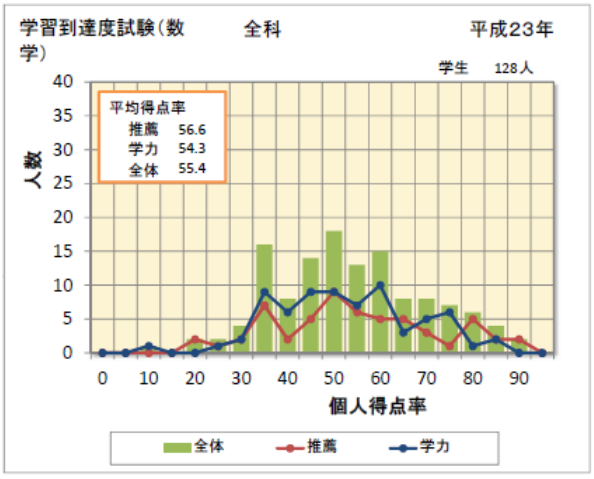








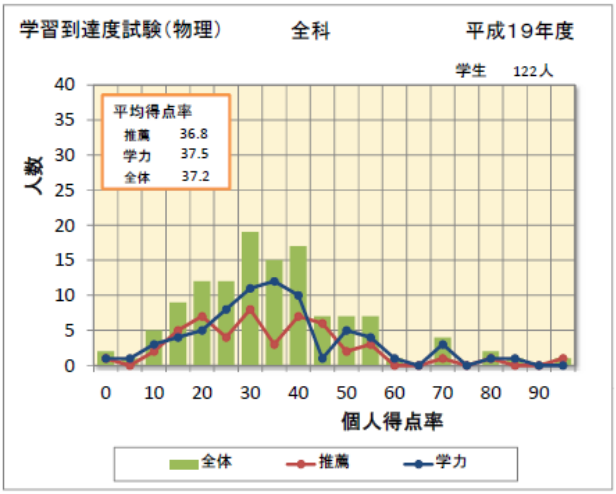


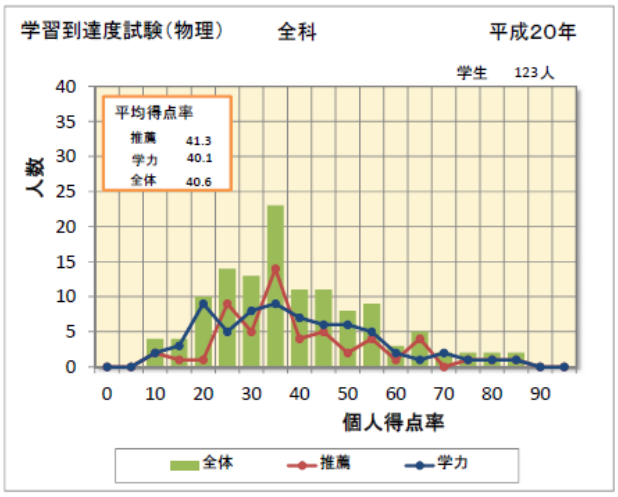


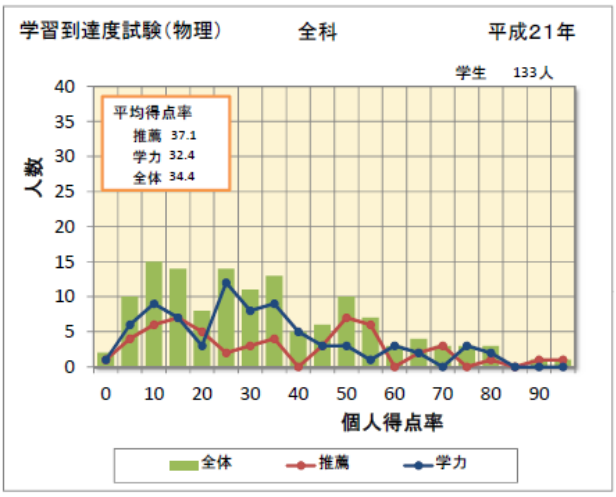
出典：教務係資料

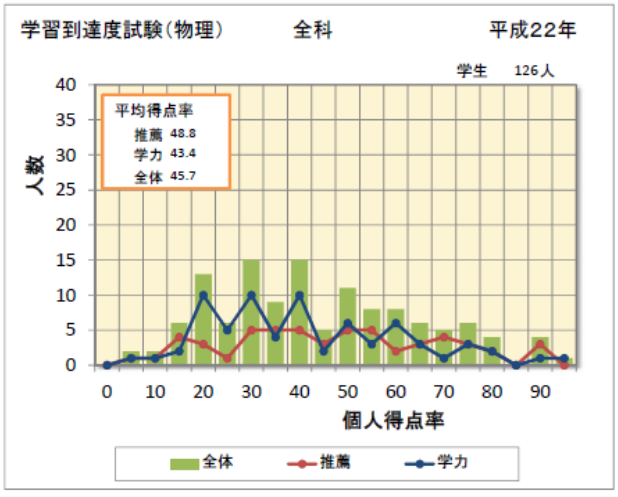
資料４－２－②－４　学習到達度試験（物理）の状況

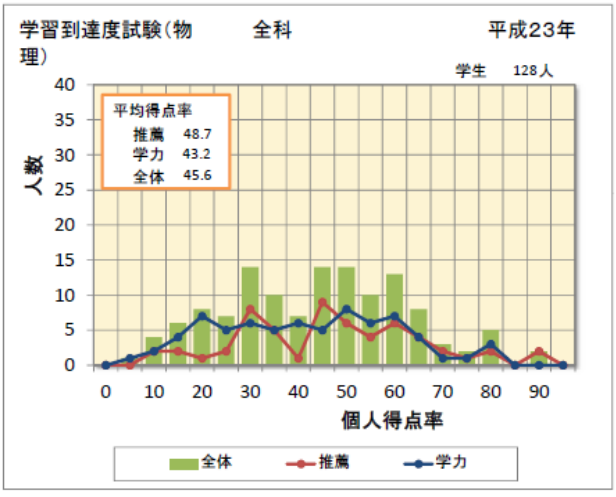
学習到達度試験(物理)　全学科









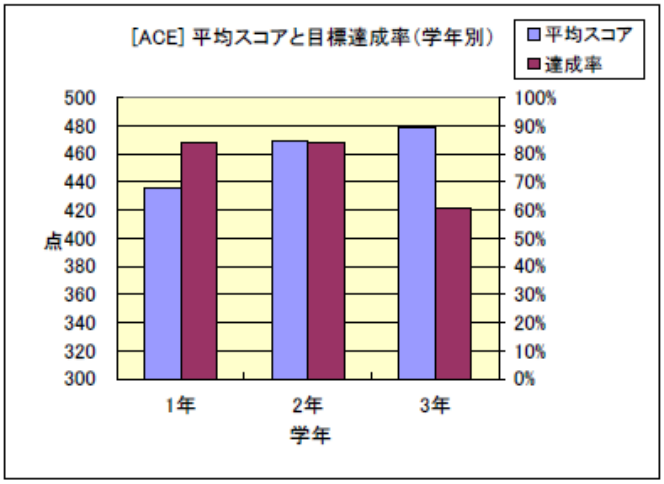


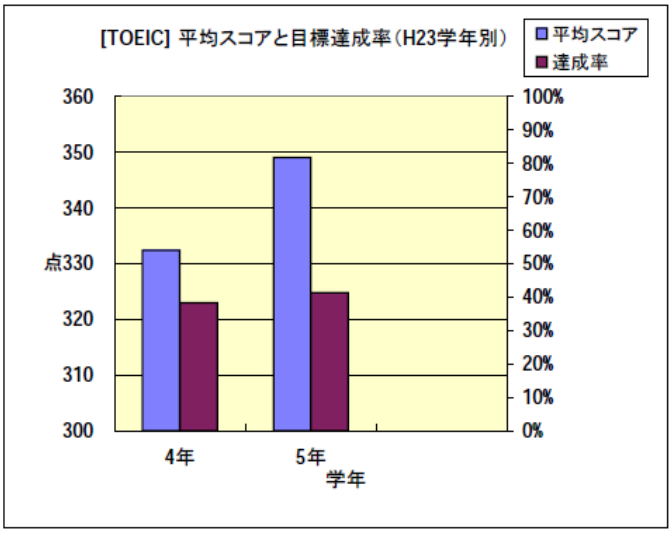
出典：教務係資料

資料４－２－②－５　ACEとTOEICのスコア（準学士課程）

学年ごとの英語資格スコア・取得目標（要 60%以上達成）

	TOEIC スコア	実用英検	工業英検	ACE
専攻科２年	470	２級	２級	参考(590)
専攻科１年	400	２級	３級	参考(540)
５年	350	２級	３級	参考(500)
４年	330	準２級	３級	参考(470)
３年	(310)	準２級	４級	450
２年	(290)	準２級	４級	420
１年	(250)	３級	４級	400

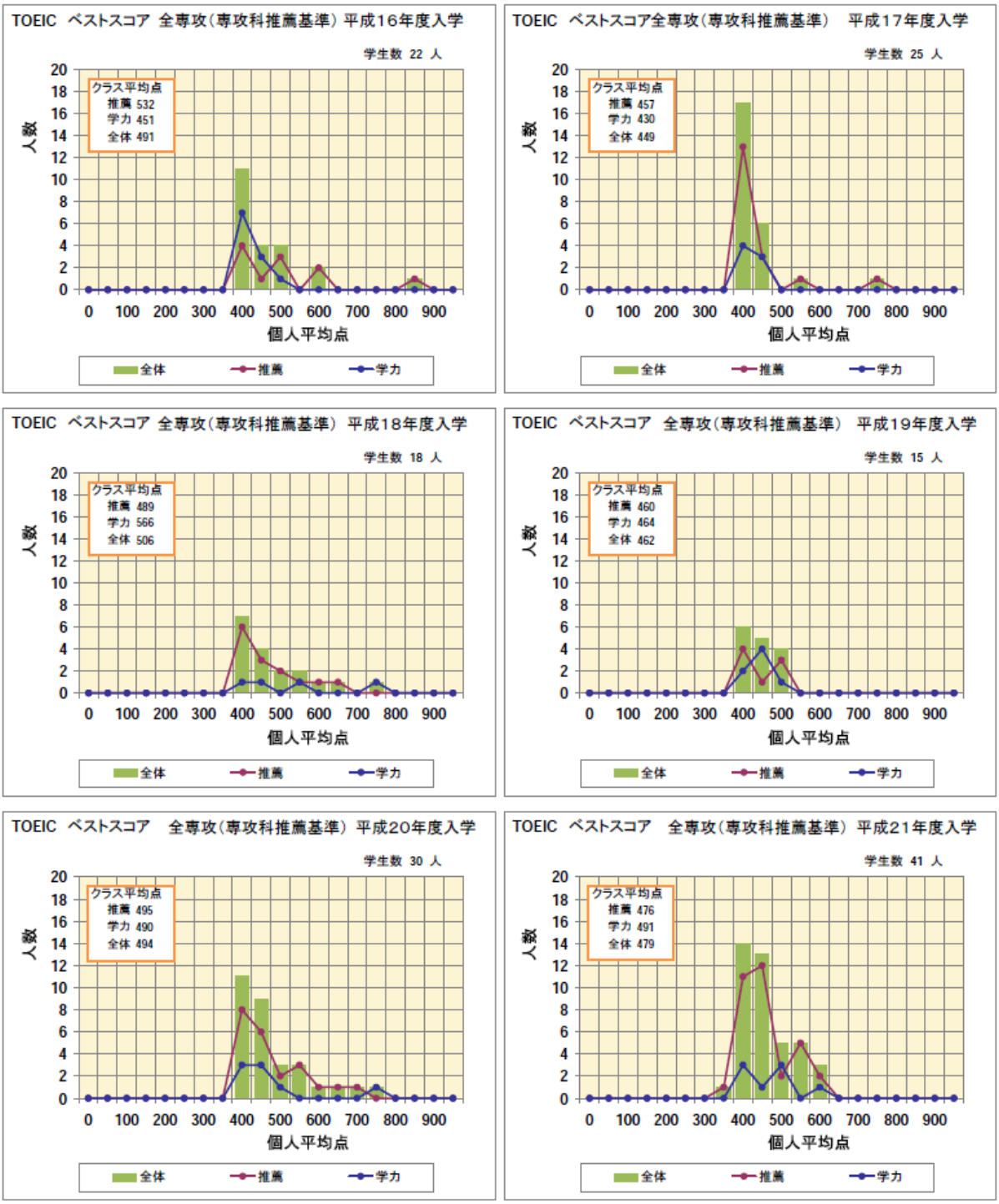




出典：教務係資料

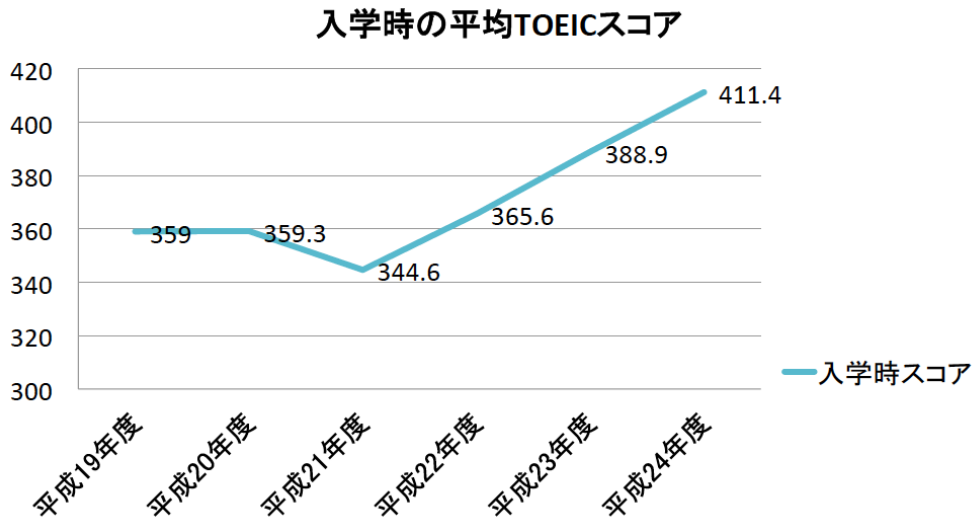
資料４－２－②－６　TOEICスコア（専攻科課程）

TOEIC　ベストスコア　全専攻
（専攻科推薦基準）



出典：教務係資料

資料４－２－②－７　専攻科入学時における TOEIC 平均スコア



出典：専攻科関連資料

資料４－２－②－８　英語力向上タスクフォース II の設置

英語力向上タスクフォース II の設置について

平成 21 年 7 月 8 日
校長　平 野　千 博

１．趣旨

本校は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を教育目標として掲げ、そのための学習・教育目標のひとつとして「技術者としてのコミュニケーション能力を養うこと」を掲げている。現在および将来に予想される技術の国際的展開の趨勢を考えると、「技術者としてのコミュニケーション能力」を構成するものの中で、英語による国際的なコミュニケーション能力は、不可欠の要素のひとつであることは明らかである。

本校においては、平成 14 年に英語力向上タスクフォースを設け、本校の学生の英語力を向上させる総合的な方策について検討し、その結果を踏まえて、現在の英語教育体制を整備した経緯がある。以来 7 年間を経過し、技術者が関わる業務はますます国際的な広がりを持つようになっている。

このような状況を踏まえ、現在の徳山高専における英語教育の目標等の有効性を確認し、今後本校がとるべき英語教育の目標等について検討するため、英語力向上タスクフォース II（以下「タスクフォース」という。）を設置する。

２．任務

タスクフォースは、平成 21 年度内を目途に、以下の諸点について検討し、検討の結果を校長に報告するものとする。

（１）現時点における英語力向上目標の達成度の評価
（２）現時点における英語力向上を目的とした方策の有効性の評価
（３）専攻科学生選抜における学校長推薦基準および専攻科修了要件のうち英語力に関する事項の妥当性の評価
（４）英語力向上のためにとるべき方策と達成目標についての提案
（５）その他英語力向上を図る上で必要な事項

３．構成

タスクフォースは、校長の指名する委員長および委員数名で構成する。必要に応じ、関係者を招請して意見を求めることができる。

出典：英語力向上タスクフォース II 諮問

（分析結果とその根拠理由）

実際に入学した学生がアドミッション・ポリシーに沿っていたかを，準学士課程については留年生数の状況や定期試験成績，学習到達度試験成績，英語一斉試験成績（ACEスコア）の状況，専攻科課程については学士・JABEE認定プログラムの取得状況やTOEICスコアの状況により検証している。その結果，準学士課程，専攻科課程ともに，ほとんどの学生は本校が求めるアドミッション・ポリシーに沿った学生であり，その選抜方法は適切であることを示している。推薦選抜と学力選抜の比較においても，入学後の成績において有意な差が認められることから，推薦選抜についてもアドミッション・ポリシーに沿って適切に実施されているといえる。

以上のことから，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が適切に実施されている。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われるなど，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

（ａ）入学定員と実入学者数

・　準学士課程においては過去６年間大幅に定員を超える，または下回る状況にない（資料４－３－①－１）

・　専攻科課程においては，定員を大幅に超える入学者を受け入れている（資料４－３－①－２）。これを改善するための取組として，推薦入試におけるTOEICスコア最低基準の設定や面接試験における採点方法の見直し，学力入試における合格最低点の見直し等を行ってきた（資料４－３－①－３）。これにより，徐々にではあるが定員の大幅な超過が改善されつつある

（ｂ）専攻科において，入学者が多いことに対する状況

①施設・設備

・　専攻科棟の講義室（２４名収容）３室に加え，テクノ・リフレッシュ教育センター多目的研修室，ICT教室，情報処理センターなど，大人数収容の施設が利用可能である

・　各研究室には，自由に使用できる机やパソコンなど，学習環境が整備されている

・　特別研究は，各指導教員のもとに配属され，教員とコミュニケーションがとれる形で実施している

②教員数等

・　専攻科生は，現在，１・２年生合わせて６８名（定員は２４名）在籍しているが，専攻科の授業を担当する資格のある専任教員は５０名であり，特別研究を指導する資格のある専任教員も４１名と十分な教員数を確保しており，教員の負担が過重になることはない

③修了要件と学位取得者

・　専攻科を修了するためには６６単位以上（必修単位４４単位（教養基礎科目１６単位，専門基礎科目８単位，専門科目２０単位），選択科目２２単位以上（専門基礎科目２単位，専門科目２０単位以上，専門科目のうち総合科目を４単位以上））を修得することが必要で，必修科目は必ず修得しなければならない（平成２４年度専攻科入学生）（資料４－３－①－４）

・　平成１８年度以降，専攻科生のすべてが専攻科を修了し，大学評価・学位授与機構から学士の認定を受けている。また１名を除き，その他の全員がJABEE認定プログラムを修了している（資料４－３－①－５）

資料４－３－①－１　学科別志願者状況の推移

学科別入学志願状況の推移

（　）女子内数

		機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	計
平成18年	志願者	114（3）	153（39）	123（41）	390（83）
	入学者	44（0）	40（10）	46（16）	130（26）
	倍　率	2.9	3.8	3.1	3.3
平成19年	志願者	181（0）	187（43）	128（40）	496（83）
	入学者	47（0）	43（12）	45（16）	135（28）
	倍　率	4.5	4.7	3.2	4.1
平成20年	志願者	142（2）	165（46）	135（56）	442（104）
	入学者	40（0）	43（14）	46（19）	129（33）
	倍　率	3.6	4.1	3.4	3.7
平成21年	志願者	144（3）	173（48）	130（44）	447（95）
	入学者	41（2）	42（13）	40（14）	123（29）
	倍　率	3.6	4.3	3.3	3.7
平成22年	志願者	137（2）	170（48）	111（30）	418（80）
	入学者	44（0）	46（12）	40（7）	130（19）
	倍　率	3.4	4.3	2.8	3.5
平成23年	志願者	133（5）	150（40）	129（40）	412（85）
	入学者	40（0）	44（14）	40（11）	124（25）
	倍　率	3.3	3.8	3.2	3.4
平成24年	志願者	127（2）	141（26）	132（40）	400（68）
	入学者	40（1）	40（6）	41（11）	121（18）
	倍　率	3.2	3.5	3.3	3.3

出典：教務係資料

資料４－３－①－２　専攻科志願者状況の推移

専攻科別入学志願状況の推移

（　）女子内数

		機械制御工学専攻	情報電子工学専攻	環境建設工学専攻	計
平成18年	志願者	6（0）	6（2）	16（3）	28（5）
	入学者	3（0）	4（2）	11（3）	18（5）
平成19年	志願者	6（0）	2（0）	9（2）	17（2）
	入学者	6（0）	2（0）	8（2）	16（2）
平成20年	志願者	5（0）	13（2）	14（1）	32（3）
	入学者	5（0）	13（2）	12（1）	30（3）
平成21年	志願者	15（0）	14（0）	29（3）	58（3）
	入学者	10（0）	10（0）	22（2）	42（2）
平成22年	志願者	17（0）	14（0）	23（3）	54（3）
	入学者	8（0）	8（0）	19（2）	35（2）
平成23年	志願者	11（0）	11（2）	31（8）	53（10）
	入学者	7（0）	4（1）	21（5）	32（6）
平成24年	志願者	15（0）	12（1）	20（4）	47（5）
	入学者	12（0）	10（1）	13（2）	35（3）

出典：教務係資料

資料４－３－①－３　専攻科入試委員会議事録（抜粋）

平成２３年度第２回専攻科入学試験委員会　議事概要

日　時　平成２３年　９月　１日(木)　１０：００～１０：４０
場　所　教室・管理棟３階　演習室
欠席者：佐賀学生主事，田村寮務主事，西尾専攻科幹事，奥本専攻科委員
配付資料
　　専攻科に係る推薦基準の一部改正について　・・・　資料１
　　専攻科入学者選抜方法の一部改正について　・・・　資料２

議　題
１．専攻科に係る推薦基準の一部改正について
　天内専攻科長より，資料１「専攻科に係る推薦基準」のうち，第１回専攻科入試委員会で提案のあった，ＴＯＥＩＣスコアを[redacted]に引き上げることについて，各科に持ち帰り審議した結果，４科とも反対はなかったとの説明があり，原案どおり了承された。

２．専攻科入学者選抜方法の一部改正について
　天内専攻科長から，今回の改正点について資料２により説明がなされた。
　入試選考会議の組織の見直しについて，選考会議の構成員に事務部長，学生課長を加えること，受験資格について，ＴＯＥＩＣスコアを[redacted]に引き上げること，語句の修正については問題なく了承された。
　学力検査による選抜について，合格最低点を[redacted]から[redacted]に変更することについては，機械電気工学科，土木建築工学科とも反対意見はなかったが，学科審議の行われていない情報電子工学科について，意見が求められた。情報電子工学科としては，基準が高くなると定員割れに対する懸念があるとの意見があったが，天内専攻科長から，今年度実施の試験結果によると，最低点を引き上げたとしても，不合格となる学生がいないこと，学業成績の評価においても６割を「可」としており，質の高い学生を入学させることで入学してからの指導の問題も少なくなる　との説明があり，種々検討した結果，原案どおり了承された。
　なお，定員割れを起こした場合の後期学力試験の実施方法については，改めて検討することとされた。

平成２３年度第３回専攻科入学試験委員会　議事概要

日　時　平成２３年１２月１６日(金)　１６：１０～１７：００
場　所　教室・管理棟３階　演習室
欠席者：島袋専攻科委員
配付資料
　　専攻科入学者選抜方法の一部改正について　・・・　資料１

議　題
１．専攻科入学者選抜方法の一部改正について
　天内専攻科長から，今回の改正点について資料１により説明がなされた。
　従来推薦及び学力による選抜における面接の評価については，３段階で評価を行っていたが，３段階では評価が行いにくく，特に秀でていない場合や，特に指導が必要な場合を除くと，２の「専攻科生として妥当である」となりがちである。５段階評価にすることで，従来よりも細やかな評価が可能になると思われるので，評価を５段階とし，３を「専攻科生として妥当である」とすることが提案された。
　これに対し，２以下の評価が付いた場合の取扱いについて質問がなされたが，従来も状況によっては，特別研究担当予定者に指導について質問をおこなったことがあること，また，評定平均の上位者が多数の場合はその必要性もなくなる場合もあるとの説明がなされ，評価方法の変更については，原案どおり了承された。

出典：専攻科入試委員会資料

資料４－３－①－４　専攻科修了要件

（1）専攻科の修了要件

本校専攻科を修了するためには**所定単位の修得が必要**です。まずここでは、科目履修に関係した二つの要件について説明しておきます。ひとつは、学則に従って所定の単位を修得しなければならないこと、他のひとつは、特別研究に関することがらです。特別研究の評価を受けるためには特別研究論文を提出し、特別研究発表会で発表を行うとともに、原則として、学協会において発表を行っておかねばなりません。

（2）修了のための修得単位

専攻科は、一般の大学と同じく**完全単位制**をとっています。専攻科を修了するためには学則に従って６６単位以上（必修単位４４単位（教養科目１６単位、専門基礎科目８単位、専門科目２０単位）、選択科目２２単位以上（専門基礎科目２単位、専門科目２０単位以上、専門科目のうち総合科目を４単位以上）を修得することが必要です（表１参照）。必修科目は必ず修得しなければなりません*（1科目でも必修科目を落としていると修了できません）*。

必修科目以外は選択科目です。選択科目の履修にあたっては学位授与申請に必要な科目、ならびにＪＡＢＥＥ認定に必要な科目や修得単位条件に注意が必要です。プログラム修了要件確認表を用い、シラバス等で授業内容を参考にし、履修する科目を選んで下さい。また、選択科目については履修届を提出しなければなりません。

なお、他の教育施設で修得した単位は、１６単位を超えない範囲で選択科目に振り替えることができます。

表１　履修単位の関連表

平成２４年度入学生

<table>
<tr><th colspan="2">開設科目の分類</th><th>開設単位</th><th colspan="2">修得単位</th><th>修得単位合計</th></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td>教養科目</td><td>１６</td><td colspan="2" rowspan="3">４４</td><td rowspan="6">６６以上</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td>８</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>２０</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択科目</td><td>教養科目</td><td>４</td><td>０</td><td rowspan="3">２２以上</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td>８</td><td>２</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>２８</td><td>２０</td></tr>
</table>

出典：専攻科履修要覧

資料４－３－①－５　学位取得者数と JABEE 認定プログラム修了者数の推移

専攻科課程における学位取得・JABEE認定プログラム修了状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
修了者数	25名	17名	17名	29名	40名	32名
学位取得者数	25名	17名	17名	29名	40名	32名
JABEE認定プログラム修了者数	25名	17名	17名	29名	40名	31名

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程

・　入学者定員と比して過不足のない優秀な学生が志願し，入学している

専攻科課程

・　入学者数が定員を大幅に超えてはいるが，施設・設備面，教員数等の面で支障はなく，学生の学業に対する不利益はない
・　平成１８年度以降，専攻科生全員が修了要件を満たし，専攻科課程を修了している
・　平成１８年度以降，専攻科課程修了生全員が学士を取得しており，十分な教育が行われている
・　平成１８年度以降，専攻科課程修了生１名を除き，その他の全員がJABEE認定プログラムを修了しており，十分な教育が行われている
・　定員超過に対する取り組みとして，推薦入試におけるTOEICスコア最低基準の設定や面接試験における採点方法，学力入試における合格最低点の見直し等の改善を行ってきた。これにより，徐々にではあるが定員の大幅な超過が改善されつつある

以上のことから，準学士課程では定員を大幅に超える，または大幅に下回る状況にはなっておらず，専攻科課程では，定員を大幅に超える入学者を受け入れているものの，十分な教育が実施されており，また，定員の大幅な超過を改善するための取組みが適切に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準４の自己評価の概要

アドミッション・ポリシーは，入試関係資料に示されている。教員に対する周知は，教員会議，各学科教室会議により随時行われており，中学校および社会一般に対しては，学校要覧，学生募集要項，入学案内の配布，学校訪問，Webサイト，校内見学会の開催を通じて公表している。

入学者の選抜は，準学士課程並びに専攻科課程とも推薦および学力試験で行っており，アドミッション・ポリシーに対応した選抜方法により入学者を選抜している。

また入学後の定期試験成績，学習到達度試験成績，英語一斉試験成績等の追跡調査を通して，アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかの検証を行っており，選抜方法等の改善に役立てている。

入学者数については，準学士課程において，定員に比して過不足のない優秀な学生が入学している。志願者数は減少の傾向にあるが，１５歳人口（中学校卒業生数）に対する志願者数の割合に変化はなく，高い倍率を維持している。また，推薦選抜における志願者数は安定しており優秀な学生が志願している。専攻科課程において，入学者数が定員大きく上回ってはいるが，学生の学業に対する不利益は全くなく，平成１８年度以降，専攻科課程の修了生は全員が学士を取得している。また専攻科課程の修了生１名を除き，その他の全員がJABEE認定プログラムを修了しており，十分な教育が行われている。更に，定員超過に対する取り組みとして，推薦入試におけるTOEICスコア最

低基準の設定や面接試験における採点方法の見直し等の改善を行っており，徐々にではあるが定員の大幅な超過が改善されつつある。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

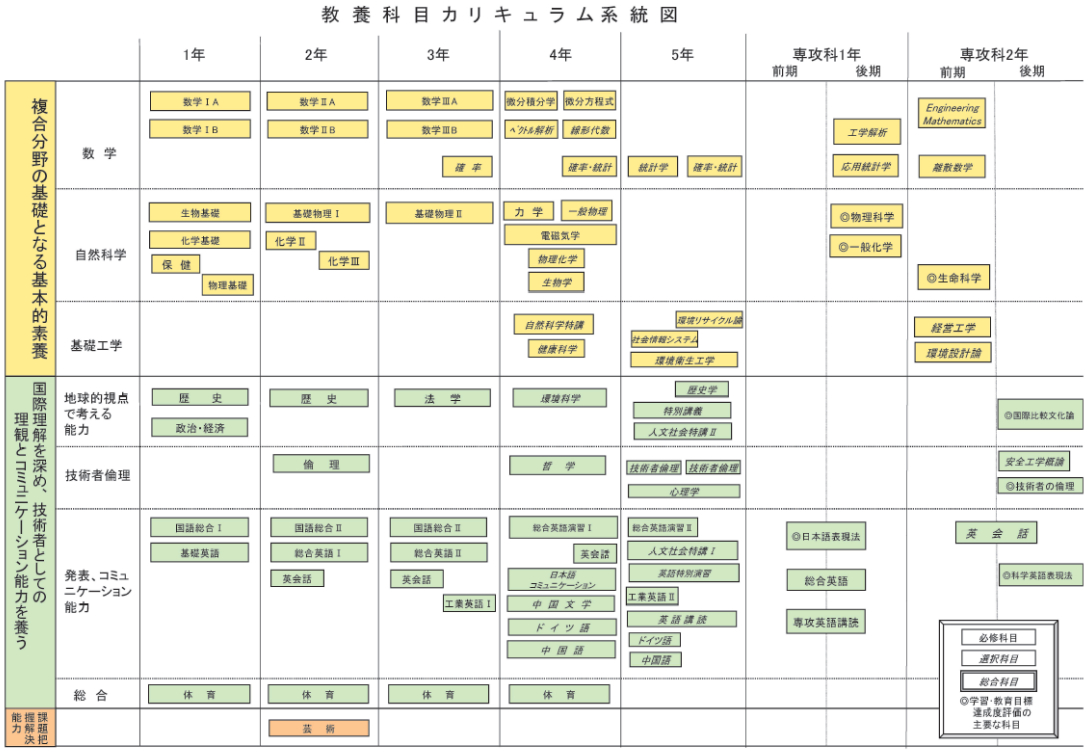
（ａ）教育課程の体系

- 本校では，専門３学科で準学士課程と専攻科課程が１対１に対応していることから，準学士課程における５年間の一貫性や整合性に留意するとともに，専攻科課程の２年間も考慮し，各学科/各専攻特有の複合技術をどのように修得させるかを念頭に置いて教育課程を編成し，学習・教育目標の達成をめざしている
- 科目間において整合性を考慮し，全ての一般教育科目および，専門教育科目の授業科目系統図を整理し，学生に提示するとともに，シラバスを年次更新し，講義内容の改訂を行っている（資料５－１－①－１，２）
- 科目間調整会議を設置して，数学，物理科目の調整を行うことで，教養科目と専門科目との整合性に留意した教育課程としている（資料５－１－①－３）

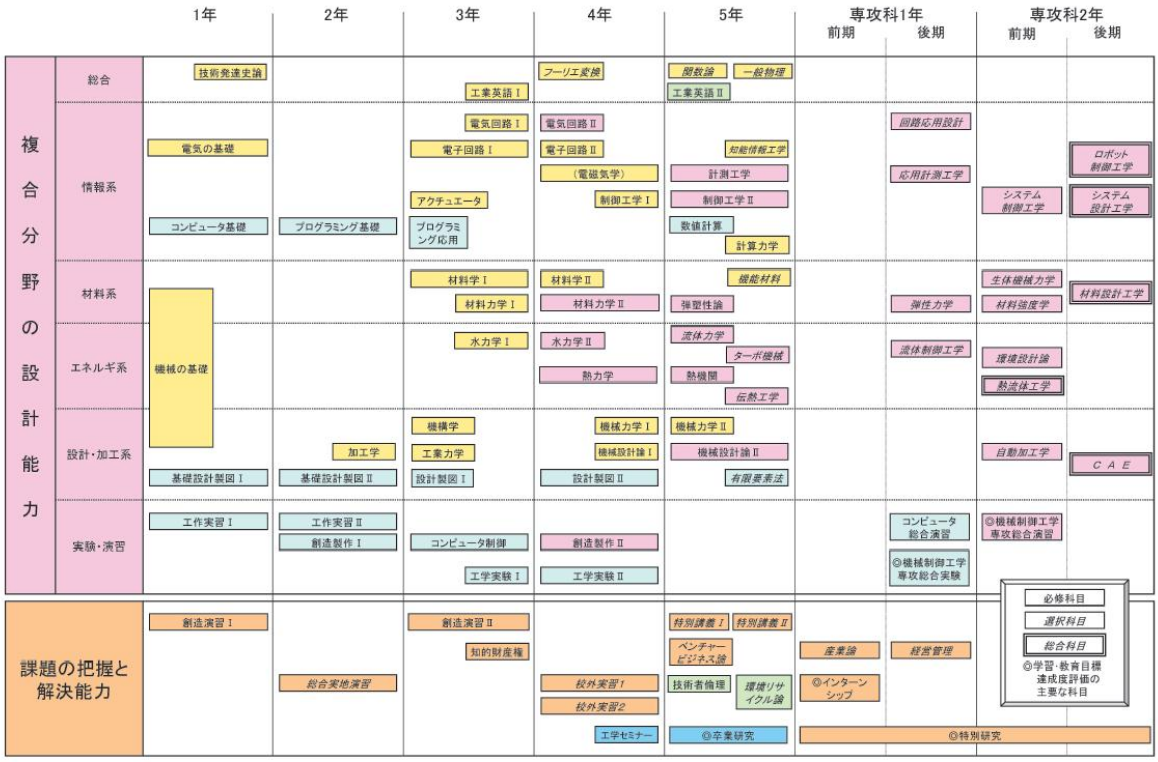
（ｂ）授業科目の妥当性

- 全専門学科の共通科目である数学，物理，化学･生物，国語，英語の系統図と講義内容，並びに各専門学科の創造系科目の系統図と講義内容を示し，科目ごとに，各学年で学習する内容を提示している（資料５－１－①－４）
- 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の関連を一般科目，および専門学科ごとに作成し，計４枚の系統図にまとめた（資料５－１－①－１）。その際，専攻科課程も含めて作成することで，複合技術を修得するための授業進行を明確に示している
- 各複合技術は複数の分野で構成されており（資料５－１－①－５），その分野ごとに学年進行にしたがって開設科目を定めている。その際，各分野に関連する共通科目や他の分野の専門科目の開設状況との整合性に留意している
- 各科目に対して学習・教育目標ごとに色分けすることで明示し，授業科目が教育目標を達成するように構成されていることを把握できるように配慮している（資料５－１－①－１）
- 各授業科目の講義内容を記載したシラバスに，教育目標のどの項目に対応しているか示している（資料５－１－①－６）

資料５－１－①－１　全授業科目カリキュラム系統図（教養科目，各学科／各専攻）

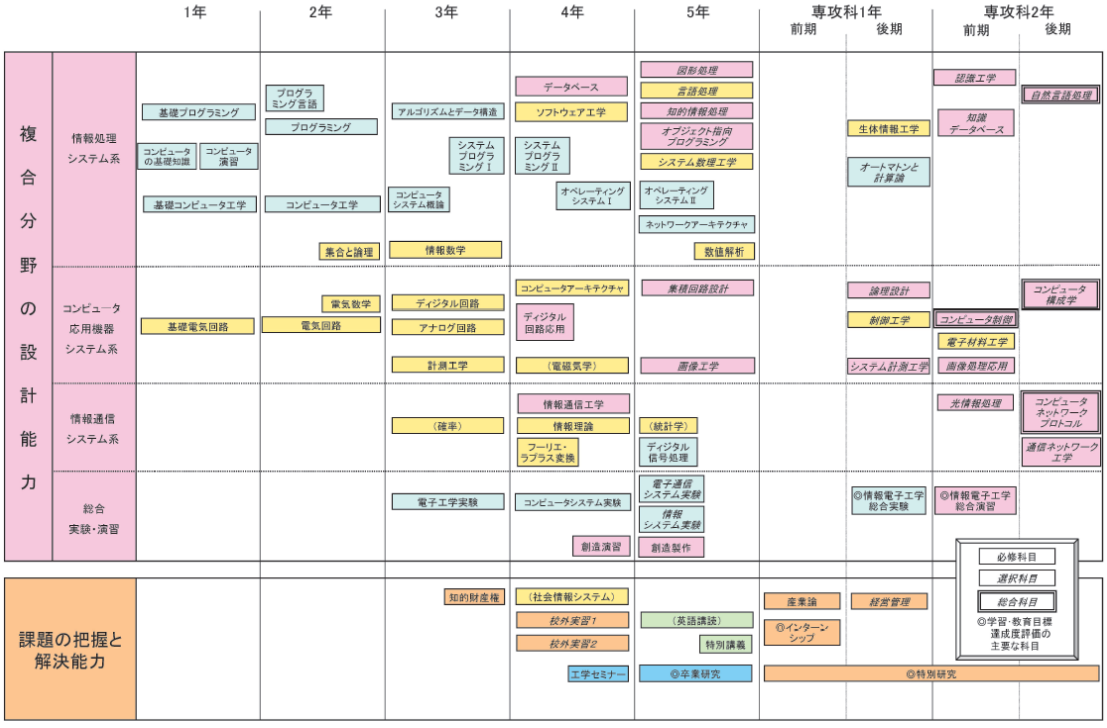


メカトロ技術（機械電気工学科／機械制御工学専攻）カリキュラム系統図



A1：複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
B1：情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
C1：複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
A2：国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
B2：自主性と自立性を養うこと
C2：課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

情報電子技術（情報電子工学科／情報電子工学専攻）カリキュラム系統図



A1：複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
B1：情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
C1：複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
A2：国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
B2：自主性と自立性を養うこと
C2：課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

社会環境整備技術（土木建築工学科／環境建設工学専攻）カリキュラム系統図



出典：シラバス

資料５－１－①－２　シラバス入力システム（シラバス編集フォーム）

シラバス編集フォーム

科目名　基礎電気回路

英名　Basic Electric Circuits

種別　履修単位　本科　情報電子工学科／情報電子工学専攻　1年

通年　単位数　2　必修　講義

授業計画の表示形式　有り　通年30回(試験4回)　更新

担当者名

山田健仁	小林明伸	藤本竜也

英語概要削除

【授業の概要】

電気現象を理解するための基本概念と、電気回路の基本構成要素となる抵抗、コイル、コンデンサの動作およびその利用法を理解させ、次年度以降の電気系科目を学習するための導入部とする。

授業の進め方では、授業形態を明記し、学習シート、レポート等について具体的にお書き下さい。

【授業の進め方】

座学の講義を基本とし、適宜演習や実験を行い理解を深める。また、適宜演習レポートを課す。

授業計画では、学習シート、レポート、演習、課題を実施する場合は
内容に明記して下さい。各試験には、確認する事項を明記して下さい。

【授業計画】	【授業項目】	【内 容】
1 回	電気とは	電気の源、電流、電位、電位差、電圧、電源など電気に関する基本事項を学習する。
2 回	オームの法則	オームの法則、電源と抵抗１個からなる回路の性質、電圧、電流の測定法について学ぶ。
3 回	実験	マルチメータの使用法を学び、これを用いて、電圧、電流、抵抗を測定する。
4 回	抵抗の直列接続	抵抗の直列接続の方法、合成抵抗の求め方を学ぶ。電圧降下、電位の意味を学習する。
5 回	抵抗の直列接続	抵抗を直列接続した回路において、各抵抗に加わる電圧（分圧）について学ぶ。
6 回	実験	抵抗の直列接続を含む回路の電圧、電流を測定して、オームの法則や電圧降下などの概念を確認する。
7 回	演習	種々の直列回路の解析の演習を行なう。
8 回	中間試験	テスターの使い方、抵抗の直列接続において、それらの性質や各部の電圧、電流を求める問題を出題する。
9 回	中間試験の解答と解説 抵抗の並列接続	中間試験の解答解説を行う。抵抗を並列接続した回路について合成抵抗、各抵抗に流れる電流（分流）について
10 回	抵抗の直並列接続	抵抗の直列接続、並列接続を混合した回路の解析法について学ぶ。
11 回	実験	抵抗の直並列接続、電流、電圧の測定。
12 回	演習	抵抗の直並列回路に関する演習をする。
13 回	電源の内部抵抗	電源に内部抵抗が存在する場合の性質について学ぶ。
14 回	実験および演習	内部抵抗を含む回路について実験と演習をする。
	期末試験	直並列回路、内部抵抗を含む電源を用いた回路の解析に関する問題を出題する。
15 回	答案返却など	答案用紙を返却し、解答と解説を行う。

出典：　本校 Web サイト（学内限定）

資料５－１－①－３　科目間調整会議議事録

理科系分野カリキュラム等検討

日　時： 平成 23 年 9 月 27 日 (木) 13:30～

場　所： 小会議室

参加者： 笠置 (一般科目)、石田 (ME)、島袋 (CA)、杉村 (IE)

議題

1. 3 年生までの理科系科目のカリキュラムについて
   現行 2、3 年生で 4 単位を、1～3 年生で、5 単位にする。

1 年生　通年 1 単位	2 年生　2 単位	3 年生　　2 単位
1 年生　　2 単位	2 年生　2 単位	3 年生　前期 1 単位　*1)
1 年生　前期 1 単位	2 年生　2 単位	3 年生　前期 1 単位

*1) 後期は演習を入れることも可能。

上記を検討した結果、1 年生に 1 単位を増やす方向で、具体的な案を物理担当者で作成し、10 月 14 日以降に科目間調整会議 (物理系) を開催することが確認された。

物理カリキュラム(案)

		1(前期)	1年(後期)	2年(前期)	2年(後期)	3年(前期)	3年(後期)	4年(前期)	4年(後期)	5年(前期)	5年(後期)	専1年(前期)	専1年(後期)	専2年(前期)	専2年(後期)
一般	ME		物理基礎	物理Ⅰ		物理Ⅱ		力学					物理科学		
	IE		物理基礎	物理Ⅰ		物理Ⅱ		力学					物理科学		
	CA		物理基礎	物理Ⅰ		物理Ⅱ		一般物理 (力学・電磁気)					物理科学		

物理基礎	運動の表し方	速度・加速度	落体の運動	放物運動	力の合成・分解	剛体にはたらく力	運動の法則								

物理Ⅰ	仕事	運動エネルギー	位置エネルギー	エネルギー保存の法則	運動量	ボイル・シャルルの法則	熱と仕事	円運動と単振動	万有引力	気体分子の運動	波の伝わり方	重ね合わせの原理	波の反射・屈折・回折	音と音波	
	光と光波														

物理Ⅱ	電場と導体	電位	コンデンサー	オームの法則	直流回路	ジュールの法則	電流と磁場	電磁誘導	交流	相互誘導・自己誘導	交流回路	電磁波	真空放電と陰極線	光電効果	
	X線とその粒子性	原子の構造	水素原子のエネルギー準位	放射線とその性質	核反応とエネルギー										

物理カリキュラム(現行)

		1(前期)	1年(後期)	2年(前期)	2年(後期)	3年(前期)	3年(後期)	4年(前期)	4年(後期)	5年(前期)	5年(後期)	専1年(前期)	専1年(後期)	専2年(前期)	専2年(後期)
一般	ME			基礎物理Ⅰ		基礎物理Ⅱ		力学					物理科学		
	IE			基礎物理Ⅰ		基礎物理Ⅱ		力学					物理科学		
	CA			基礎物理Ⅰ		基礎物理Ⅱ			一般物理 (力学・電磁気)				物理科学		

基礎物理Ⅰ	速度・加速度	自由落下運動	放物運動	力の合成・分解	運動の法則	剛体にはたらく力	運動量保存の法則	仕事	運動エネルギー	位置エネルギー	エネルギー保存の法則	ボイル・シャルルの法則	熱と仕事	波の伝わり方	
	重ね合わせの原理	波の反射・屈折・回折	音と音波	光と光波											

基礎物理Ⅱ	電場と導体	電位	コンデンサー	オームの法則	直流回路	ジュールの法則	電磁誘導	交流	相互誘導・自己誘導	交流回路	電気振動	真空放電と陰極線	光電効果	X線とその粒子性	
	原子の構造	水素原子のエネルギー準位	放射線とその性質	核反応とエネルギー											

出典：理科系科目間調整会議議事録

資料５－１－①－４　数学系統図と講義内容

徳山高専数学系統図と講義内容（平成24年度）



講義内容　（抜粋、詳細はシラバス参照）

数学ⅠA

1. 2次関数のｸﾞﾗﾌ
2. 分数関数、無理関数
3. 分数不等式、無理不等式
4. 逆関数
5. 指数関数、対数関数
6. 三角比
7. 三角関数のｸﾞﾗﾌ
8. 加法定理
9. 三角方程式、不等式

教科書	新 基礎数学（大日本図書）
担当	米田都生

数学ⅡA

1. 関数の極限
2. 導関数の公式
3. 三角関数の導関数
4. 対数関数の導関数
5. 平均値の定理
6. 関数の最大・最小
7. 接戦と法線
8. 曲線の凹凸
9. 定積分と不定積分

教科書	微分積分Ⅰ（大日本図書）
担当	荒谷督司

数学ⅢA

1. 置換積分・部分積分
2. 分数・無理関数の積分
3. 三角関数の積分
4. 面積・立体の体積
5. 曲線の長さ
6. 広義積分
7. 多項式による近似
8. 級数
9. テイラー展開

教科書	微分積分Ⅰ・Ⅱ（大日本図書）
担当	藤田・米田・荒谷

微分積分学

1. 偏導関数
2. 高次偏導関数・全微分
3. ２変数関数の極値
4. 陰関数の極値
5. ２重積分
6. 極座標による２重積分
7. ２重積分の変数変換
8. ２重積分の広義積分
9. ２重積分の応用

教科書	微分積分Ⅱ（大日本図書）
担当	荒谷・橋本

微分方程式

1. 微分方程式の意味
2. 変数分離形
3. 同次形
4. １階線形微分方程式
5. 完全微分方程式
6. １階微分方程式の応用
7. ２階線形微分方程式
8. 定数係数２階微分ｱ
9. 線形でない２階微分ｱ

教科書	微分積分Ⅱ（大日本図書）
担当	荒谷・原田

数学ⅠB

1. 整式
2. 因数分解
3. 分数式、比例式
4. 実数、複素数
5. ２次方程式の解
6. 分数方程式・無理方程式
7. 等式の証明
8. 各種不等式
9. 不等式の証明
10. 点と直線

教科書	新 基礎数学（大日本図書）
担当	長廣恭子

数学ⅡB

1. 三角関数の加法定理
2. 円・楕円の方程式
3. 不等式と領域
4. 順列・組合せ
5. 等差数列、等比数列
6. 漸化式と数学的帰納法
7. 平面ベクトル
8. 空間ベクトル
9. 直線・平面・球の方程式

教科書	基礎数学・線形代数（大日本図書）
担当	原田・米田

数学ⅢB

1. 行列とその演算
2. 転置行列、逆行列
3. 掃き出し法
4. 行列式の性質と展開
5. クラーメルの公式
6. 線形変換
7. 固有値、固有ベクトル
8. 対称行列の対角化

教科書	線形代数（大日本図書）
担当	長廣・義永

ベクトル解析

1. 空間のベクトル
2. ベクトル関数
3. 曲線
4. 曲面
5. スカラー場とベクトル場
6. 発散と回転
7. グリーンの定理
8. 面積分
9. ガウスの発散定理
10. ストークスの定理

教科書	応用数学（大日本図書）
担当	飛車・小林

確率・統計

1. 順列・組合わせ
2. 確率・条件付き確率
3. 確率変数・平均・分散
4. ２項分布・分布
5. 連続型確率変数
6. 正規分布
7. 資料の整理
8. 母集団と標本
9. 母平均の区間推定

教科書	学科別：シラバス参照
担当	飛車・池田

応用統計学

1. 度数分布
2. 相関係数と回帰直線
3. 確率分布
4. 正規分布
5. X2分布、t 分布など
6. 標本分布
7. 区間推定
8. 仮説検定
9. 母相関係数の推定

教科書	新統計入門（裳華房）
担当	飛車来人

工学解析

1. 関数とグラフ
2. 行列とその応用
3. 多項式とその応用
4. FFTとその応用
5. 常微分方程式の解法
6. 偏微分方程式とその応用
7. ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝと制御入門

教科書	Octaveを用いた数値計算入門
担当	原　隆

離散数学

1. 基本的証明法
2. 整数の基本的性質
3. 合同式
4. 整数の暗号への応用
5. 有限体と拡大体
6. 符号
7. 有限体の誤り訂正符号への応用

教科書	情報数学の基礎（サイエンス社）
担当	義永常宏

Engineering Mathematics

1. Fundamental concepts
2. Ordinary differential equations
3. Applications of differential equations
4. Linear differential equations
5. Applications
6. Multiple, line and surface integrals and integral theorems
7. Matrices

教科書	Advanced Mathematics for Engineering and Scientists (McGraw-Hill)
担当	飛車来人

出典：シラバス

資料５－１－①－５　各学科／専攻科紹介

機械電気工学科

― コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術者の育成 ―

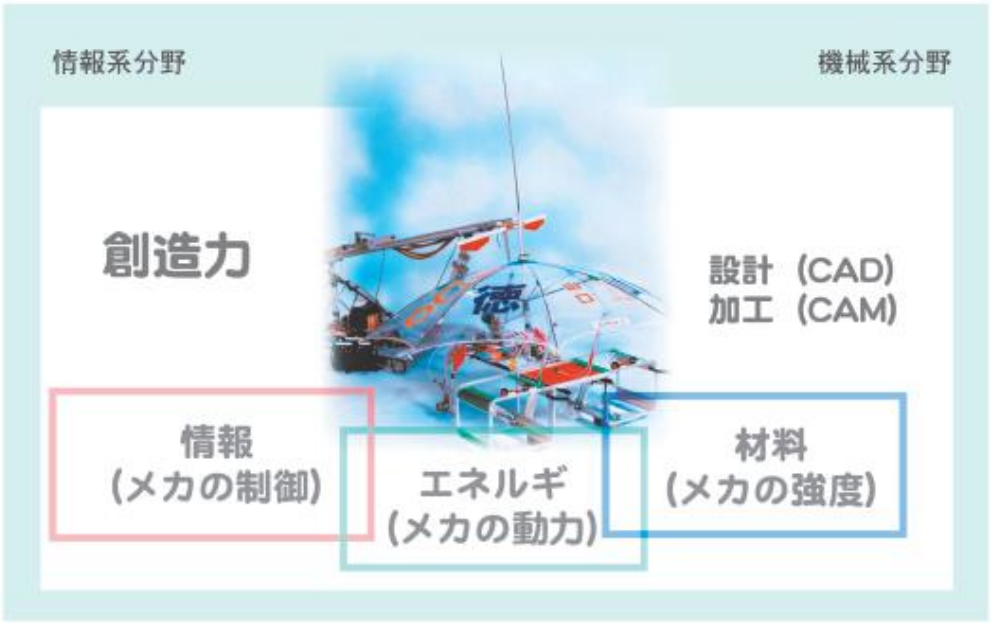
機械制御工学専攻

― コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術者の育成 ―

概　要

機械と電気はすべての産業の基盤となるものです。また、近年のコンピュータの普及に伴い、産業界においては、電子、情報、制御の知識を欠かすことはできません。現代の産業界においては、自動化、省力化をめざしたメカトロニクス（メカニクスとエレクトロニクスの合成語）が発展し、多機能で高性能化されたメカトロニクス製品が数多く生産されています。

機械電気工学科・機械制御工学専攻では、これらの現代社会に十分対応できる技術者、すなわちメカトロニクス技術者を育てることを目的としています。また，技術だけでなく現在では自ら考え創造する力も必要とされており、これに対応するための創造教育にも力を入れています。機械電気工学科のめざす複合技術は**「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」**であり、さらに機械制御工学専攻でめざすものは**「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」**です。すなわち本学科および本専攻では，これらの複合技術を活かして「**創造性豊かなメカトロニクスエンジニア**」を育てることをめざしています。



メカトロ技術

情報電子工学科

－ コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術者の育成 －

情報電子工学専攻

－ コンピュータを核とする多様なシステムを設計･開発する技術者の育成 －

概　要

コンピュータの急速な発展に伴い、その応用範囲は家電製品から大規模なシステムまで多岐に渡っています。その意味で今や、コンピュータは社会にとって必要不可欠なものとなっています。このような発展を技術面で支えているのがコンピュータ技術と電気電子・通信技術です。さらにコンピュータの**応用システム**も単純なものから複雑なものへと変わりつつあります。その一つである**情報処理システム**はコンピュータの多様な機能を人間が手軽に利用できるようなシステムをめざして、ヒューマンインタフェース技術が著しく進歩しています。**コンピュータ応用機器システム**もコンピュータの高性能化により多様化、高度化しつつあります。**情報通信システム**はマルチメディア通信をめざして、高速な総合通信ネットワークへと発展しつつあります。このような応用システムの設計・開発のためには、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの両面の技術と電気電子・通信技術に関する深い知識とシステムの総合的設計能力を有する技術者が必要です。

情報電子工学科・情報電子工学専攻はこのような能力をもつ**「コンピュータを核とした応用システムの設計・開発・企画に携わる情報技術者」**を育てることを目的としています。



土木建築工学科

― 情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術者の育成 ―

環境建設工学専攻

― 情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術者の育成 ―

概　要

我が国では、国土の重要な開発・発展のために、大規模な建設事業、例えば、長大橋梁、海底トンネル、高速自動車道、高速鉄道、海上空港、高層ビルなどの建設が高度の技術を用いて計画・実施されています。

土木建築工学科では、このような建設事業の遂行に必要な土木および建築技術の基礎理論を学習すると共に、実験や実習によって実務にすぐ役立つ技術が修得できる授業編成になっています。

建設技術の進歩に応ずるよう、コンピュータの利用方法を低学年から学習し、それを実際面に応用できるまで演習を実施しています。実験・実習および設計製図には多くの時間を充当し、**実践力のある技術者**を育てる目的に対して配慮されており、その一環として、学外での集中測量実習も行っています。1年次から3年次までは土木系科目、建築系科目および土木建築共通科目を構造系、環境系、計画系、および実践系の4系統に分けて学習し、土木工学と建築学の融合を図っていますが、4年次以降は希望進路に合わせて土木系か建築系を選択するカリキュラムになっています。

環境建設工学専攻では、さらに専門性を豊かにするために多様な選択科目を開設し、高度化する情報社会に対応しうる建設技術に深く関わる教育を行います。これらに加えて、総合実験、総合演習、特別研究等を通じて、自らの専門分野における問題発見とその解決能力を有する**実践力のある開発型技術者**の育成をめざします。



出典：シラバス

資料５－１－①－６　教育目標のシラバス対応（抜粋）

12 回	演習問題	三相交流回路に関する演習問題を行う。
13 回	過渡現象とは 直流電圧による過渡現象 （RL 直列回路）	過渡現象の概略を説明し、RL 直列回路に直流電圧（ステップ入力）を加えた場合について学ぶ。(学１０)
14 回	直流電圧による過渡現象 （RC 直列、RL 直並列）	RC の直列回路および RL 直並列回路に、直流電圧（ステップ入力）を加えた場合や取り去った場合について学ぶ。(学１１)
	期末試験	三相交流回路および過渡現象に関する理解を問う。
15 回	解答返却など	前期末試験の解答を行う。

【到達目標】	メカトロ関連の技術者として、記号法の計算、三相交流回路および過渡現象などの最小限の電気回路の概念と計算技術の習得を目標とする。		
【徳山高専学習・教育目標】	C1	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	d-2a
【評価法】	【中間試験】× 0.4 ＋【期末試験】× 0.4 ＋【学習シートの課題 20 点満点】		
【テキスト】	教科書：早川義晴・松下祐輔・茂木仁博、「電気回路 (1) 直流・交流回路編」(コロナ社) 阿部減一・柏屋英一・亀田俊夫、「電気回路 (2) 回路網・過渡現象編」(コロナ社) 関連図書：小郷寛、「交流理論」(電気学会) 小亀秀巳・石亀篤司、「基礎からの交流理論」(電気学会)		
【関連科目】	本科：電気の基礎（１年)、電気回路Ⅰ（３年)、電子回路Ⅰ（３年)、電子回路Ⅱ（４年)、電磁気学（４年) 専攻科：回路応用設計（１年)		

出典：シラバス

（分析結果とその根拠理由）

各学科の教育課程の内容は，それぞれの分野における複合技術の修得と，６つの学習・教育目標を満足するよう設計されており，到達目標が達成できるように工夫されている。教養科目と各専門分野で科目系統図を作成し，各科目の果たす役割を分かりやすく示している。

以上のことから，授業科目は，本校の教育目的に添って体系的に配置されており，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学習・教育目標を達成する上で，多様な学習機会を望む学生からのニーズや実践力・国際性を求める企業からの要請に応えるため，教育課程において，多様な教育機関での学習機会の提供，資格取得の推進，就業意識の醸成や国際性の涵養の取り組みが必要とされる。本校では，以下の幅広い教育に取り組んでいる。

（ａ）多様なニーズへの対応

・　徳山大学，広島大学総合科学部，グリフィス大学工学部，チェコ工科大学と学術協力協定を締結している（資料５－１－②－１）
・　徳山大学との単位互換制度を実施している（資料５－１－②－２）
・　外部資格取得など，特別学修による単位認定をしている（資料５－１－②－３）
・　２年次および４年次でのインターンシップを実施し，単位認定している（資料５－１－②－４，５）
・　海外研修奨学生制度を実施し，単位認定している（資料５－１－②－６）

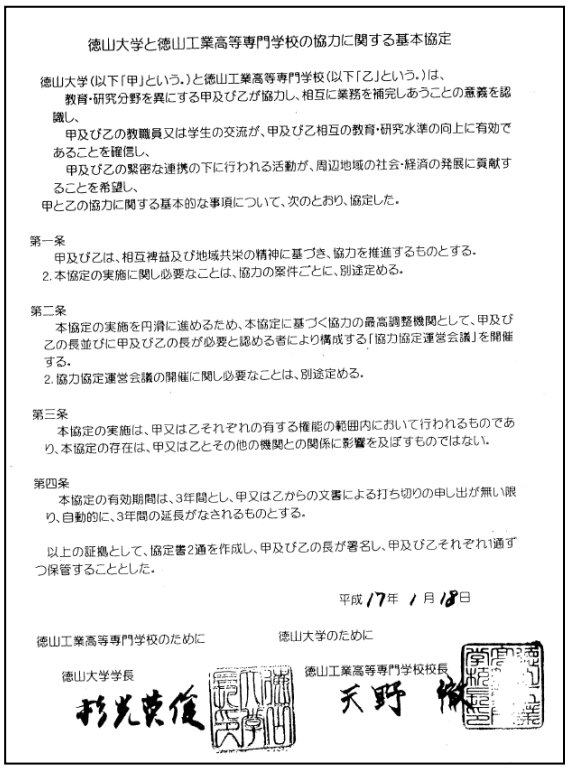
（ｂ）補充教育

・　学内外での教養科目関連の講座の開設を行っている（資料５－１－②－７）

（ｃ）国際的な技術者養成のための取り組み

・　世界で活躍できる技術者の養成は，多くの企業からの要請であり，本校では英語学習を世界に通用する基礎コミュニケーション能力向上策の一つとして位置づけ，英語教育を推進している（資料５－１－②－８）
・　本科１～３年生にはACE（Assessment of Communicative English），本科４，５年生と専攻科生にはTOEICを活用し，英語能力の向上と評価を行っている（資料５－１－②－９）
・　平成２２年度より，英語の授業改善の一環として英語多読・多聴のプログラムを授業内外で取り入れ，約3,000冊の多読用教材および，多聴用の英語教材を整備し，学生に提供し活用している（資料５－１－②－１０）
・　国際性を養成する一環として，英語以外の外国語授業（選択科目）として中国語，中国文学，ドイツ語を開講している（資料５－１－①－１）

資料５－１－②－１　協定書覚書



徳山大学と徳山工業高等専門学校の協力に関する基本協定

徳山大学（以下「甲」という。）と徳山工業高等専門学校（以下「乙」という。）は、
教育・研究分野を異にする甲及び乙が協力し、相互に業務を補完しあうことの意義を認識し、
甲及び乙の教職員又は学生の交流が、甲及び乙相互の教育・研究水準の向上に有効であることを確信し、
甲及び乙の緊密な連携の下に行われる活動が、周辺地域の社会・経済の発展に貢献することを希望し、
甲と乙の協力に関する基本的な事項について、次のとおり、協定した。

第一条
甲及び乙は、相互裨益及び地域共栄の精神に基づき、協力を推進するものとする。
2. 本協定の実施に関し必要なことは、協力の案件ごとに、別途定める。

第二条
本協定の実施を円滑に進めるため、本協定に基づく協力の最高調整機関として、甲及び乙の長並びに甲及び乙の長が必要と認める者により構成する「協力協定運営会議」を開催する。
2. 協力協定運営会議の開催に関し必要なことは、別途定める。

第三条
本協定の実施は、甲又は乙それぞれの有する権能の範囲内において行われるものであり、本協定の存在は、甲又は乙とその他の機関との関係に影響を及ぼすものではない。

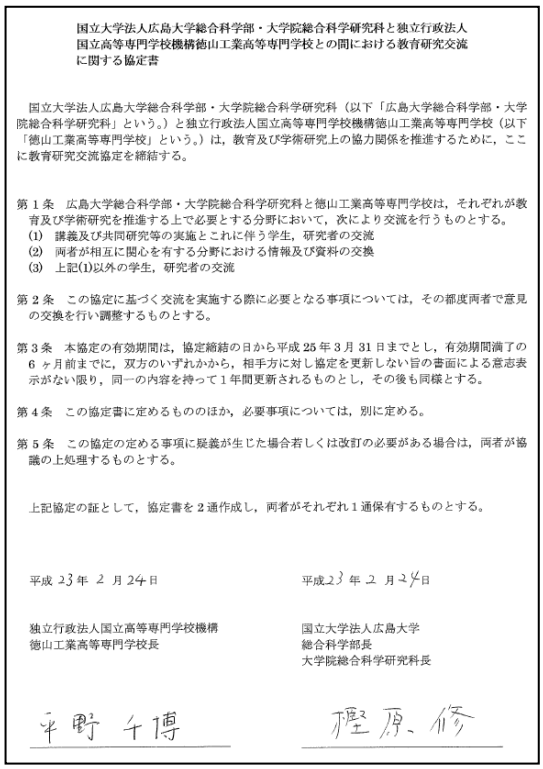
第四条
本協定の有効期間は、3年間とし、甲又は乙からの文書による打ち切りの申し出が無い限り、自動的に、3年間の延長がなされるものとする。

以上の証拠として、協定書2通を作成し、甲及び乙の長が署名し、甲及び乙それぞれ1通ずつ保管することとした。

平成17年 1月18日

徳山工業高等専門学校のために　　徳山大学のために

徳山大学学長　　徳山工業高等専門学校校長



国立大学法人広島大学総合科学部・大学院総合科学研究科と独立行政法人
国立高等専門学校機構徳山工業高等専門学校との間における教育研究交流
に関する協定書

国立大学法人広島大学総合科学部・大学院総合科学研究科（以下「広島大学総合科学部・大学院総合科学研究科」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構徳山工業高等専門学校（以下「徳山工業高等専門学校」という。）は，教育及び学術研究上の協力関係を推進するために，ここに教育研究交流協定を締結する。

第１条　広島大学総合科学部・大学院総合科学研究科と徳山工業高等専門学校は，それぞれが教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において，次により交流を行うものとする。
(1)　講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生，研究者の交流
(2)　両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
(3)　上記(1)以外の学生，研究者の交流

第２条　この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については，その都度両者で意見の交換を行い調整するものとする。

第３条　本協定の有効期間は，協定締結の日から平成25年3月31日までとし，有効期間満了の6ヶ月前までに，双方のいずれかから，相手方に対し協定を更新しない旨の書面による意志表示がない限り，同一の内容を持って１年間更新されるものとし，その後も同様とする。

第４条　この協定書に定めるもののほか，必要事項については，別に定める。

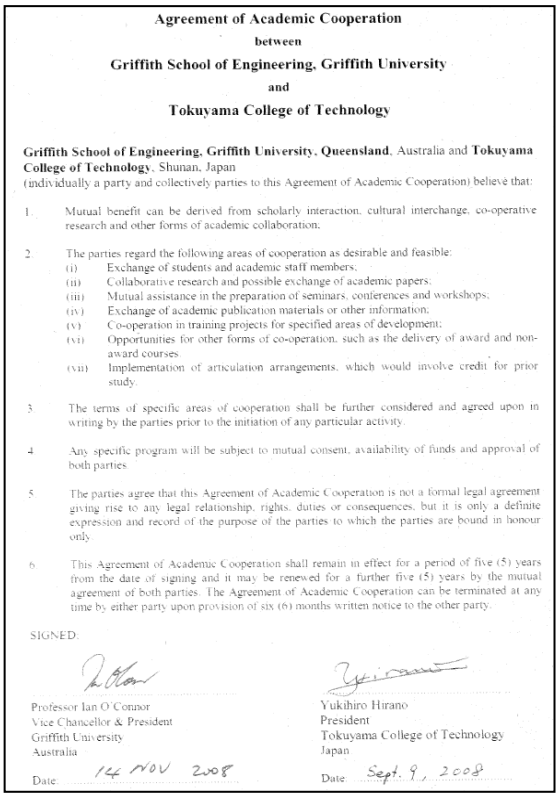
第５条　この協定の定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は，両者が協議の上処理するものとする。

上記協定の証として，協定書を２通作成し，両者がそれぞれ１通保有するものとする。

平成23年2月24日　　平成23年2月24日

独立行政法人国立高等専門学校機構
徳山工業高等専門学校長　　国立大学法人広島大学
総合科学部長
大学院総合科学研究科長

平野千博　　樫原修



Agreement of Academic Cooperation
between
Griffith School of Engineering, Griffith University
and
Tokuyama College of Technology

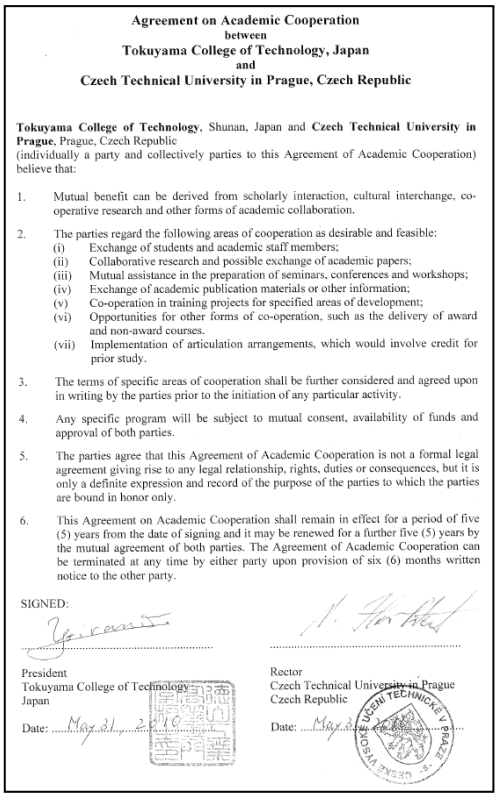
Griffith School of Engineering, Griffith University, Queensland, Australia and **Tokuyama College of Technology**, Shunan, Japan
(individually a party and collectively parties to this Agreement of Academic Cooperation) believe that:

1. Mutual benefit can be derived from scholarly interaction, cultural interchange, co-operative research and other forms of academic collaboration.
2. The parties regard the following areas of cooperation as desirable and feasible:
   (i) Exchange of students and academic staff members;
   (ii) Collaborative research and possible exchange of academic papers;
   (iii) Mutual assistance in the preparation of seminars, conferences and workshops;
   (iv) Exchange of academic publication materials or other information;
   (v) Co-operation in training projects for specified areas of development;
   (vi) Opportunities for other forms of co-operation, such as the delivery of award and non-award courses;
   (vii) Implementation of articulation arrangements, which would involve credit for prior study.
3. The terms of specific areas of cooperation shall be further considered and agreed upon in writing by the parties prior to the initiation of any particular activity.
4. Any specific program will be subject to mutual consent, availability of funds and approval of both parties.
5. The parties agree that this Agreement of Academic Cooperation is not a formal legal agreement giving rise to any legal relationship, rights, duties or consequences, but it is only a definite expression and record of the purpose of the parties to which the parties are bound in honour only.
6. This Agreement of Academic Cooperation shall remain in effect for a period of five (5) years from the date of signing and it may be renewed for a further five (5) years by the mutual agreement of both parties. The Agreement of Academic Cooperation can be terminated at any time by either party upon provision of six (6) months written notice to the other party.

SIGNED:

Professor Ian O'Connor
Vice Chancellor & President
Griffith University
Australia
Date: 14 NOV 2008

Yukihiro Hirano
President
Tokuyama College of Technology
Japan
Date: Sept. 9, 2008



Agreement on Academic Cooperation
between
Tokuyama College of Technology, Japan
and
Czech Technical University in Prague, Czech Republic

Tokuyama College of Technology, Shunan, Japan and **Czech Technical University in Prague**, Prague, Czech Republic
(individually a party and collectively parties to this Agreement of Academic Cooperation) believe that:

1. Mutual benefit can be derived from scholarly interaction, cultural interchange, co-operative research and other forms of academic collaboration.
2. The parties regard the following areas of cooperation as desirable and feasible:
   (i) Exchange of students and academic staff members;
   (ii) Collaborative research and possible exchange of academic papers;
   (iii) Mutual assistance in the preparation of seminars, conferences and workshops;
   (iv) Exchange of academic publication materials or other information;
   (v) Co-operation in training projects for specified areas of development;
   (vi) Opportunities for other forms of co-operation, such as the delivery of award and non-award courses.
   (vii) Implementation of articulation arrangements, which would involve credit for prior study.
3. The terms of specific areas of cooperation shall be further considered and agreed upon in writing by the parties prior to the initiation of any particular activity.
4. Any specific program will be subject to mutual consent, availability of funds and approval of both parties.
5. The parties agree that this Agreement of Academic Cooperation is not a formal legal agreement giving rise to any legal relationship, rights, duties or consequences, but it is only a definite expression and record of the purpose of the parties to which the parties are bound in honor only.
6. This Agreement on Academic Cooperation shall remain in effect for a period of five (5) years from the date of signing and it may be renewed for a further five (5) years by the mutual agreement of both parties. The Agreement of Academic Cooperation can be terminated at any time by either party upon provision of six (6) months written notice to the other party.

SIGNED:

President
Tokuyama College of Technology
Japan
Date: May 31, 2010

Rector
Czech Technical University in Prague
Czech Republic
Date: May 31, 2010

出典：各協定書覚書

資料５－１－②－２　協力協定運営会議議事録

徳山大学、徳山高専　第７回協力協定運営会議議事概要

日　時　　平成１７年１０月２７日（木）　１６：００～１７：００
場　所　　徳山高専２階会議室
出席者　【徳山大学】学　　長　　杉 光 英 俊
経済学部長　　岡 野 啓 介
福祉情報学部長　　青 木　　邁
学生支援ｾﾝﾀｰ長　　兼 重 宗 和（欠席）
図書・研究ｾﾝﾀｰ長　　中 谷 孝 久
ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ長　　安 斎 芳 高

【徳山高専】校　　長　　天 野　　徹（座長）
教務主事　　森 野 数 博
学生主事　　上　　俊 二
総合企画室長　　佐 賀 孝 徳
ﾃｸﾉ・ﾘﾌﾚｯｼｭ教育ｾﾝﾀｰ長　　原　　隆
事務部長　　野 中 章 彦

陪席者　（徳山大学：総務部長 藏田英孝、学生支援ｾﾝﾀｰ事務担当部長 北村武三
総務課長 藤岡正史）
（徳山高専：学生課長 空　俊雄、総合企画室事務係長 貞野 修一郎）

次　第

１．開会

２．議案審議
（１）協力案件について
①単位互換について……【資料１】
②「語学教育研究センター」について
③学園祭及びクラブ対抗駅伝等での交流について……【資料２】

（２）その他
①住所表示の変更について

３．閉会

出典：協力協定運営会議議事録

資料５－１－②－３　外部資格単位認定状況

特別学修単位取得一覧（５年生）

基準データ	氏　名	生年月日	所属学科	認定科目名	学年	単位数	外部修得科目名又は資格取得名等	備　考	学籍番号	出席番号	修得又は取得年月日	認定年度
			機械電気	専門特別演習	4	1	ＣＡＤ検定　２級		07135	33	平22年7月13日	平成22
			機械電気	一般特別演習	5	2	工業英検　３級		07135	33	平成23年6月29日	平成23
			機械電気	専門特別演習	5	1	危険物取扱者　乙種		07135	33	平成23年12月9日	平成23
			機械電気	専門特別演習	5	1	ボイラー技士　２級		07136	34	平成23年8月26日	平成23
			機械電気	一般特別演習	5	1	TOEIC(IP) 350～399	370	07136	34	平成23年12月22日	平成23
			機械電気	専門特別演習	5	1	ＣＡＤ検定　２級		07137	35	平成23年7月13日	平成23
			機械電気	一般特別演習	5	2	TOEIC(IP) 400～469	430	07137	35	平成23年7月24日	平成23
			機械電気	特別活動演習	4	1	キャリア学修		07138	36	平成23年2月25日	平成22
			機械電気	一般特別演習	5	2	TOEIC(IP) 400～469	425	07138	36	平成23年12月22日	平成23
			機械電気	専門特別演習	3	1	ボイラー技士　２級		07139	37	平成21年9月1日	平成21
			機械電気	専門特別演習	3	1	危険物取扱者　乙種		07140	38	平成21年8月10日	平成21
			機械電気	専門特別演習	3	1	ボイラー技士　２級		07140	38	平成21年9月1日	平成21
			機械電気	専門特別演習	4	1	ディジタル技術検定　２級制御部門		07140	38	平成22年6月27日	平成22
			機械電気	一般特別演習	4	2	TOEIC(IP) 400～469	445	07140	38	平成23年1月15日	平成22
			機械電気	専門特別演習	3	1	ボイラー技士　２級		07141	39	平成21年9月1日	平成21
			機械電気	専門特別演習	4	1	ディジタル技術検定　２級制御部門		07142	40	平成22年6月27日	平成22
			機械電気	一般特別演習	5	2	工業英検　３級		07144	42	平成23年12月13日	平成23
			機械電気	一般特別演習	5	2	TOEIC(IP) 400～469	430	07144	42	平成23年12月22日	平成23
			機械電気	外部修得科目	5	2	自治体学特論		07144	42	平成24年3月2日	平成23
			機械電気	専門特別演習	3	1	ボイラー技士　２級		07146	43	平成21年9月1日	平成21
			機械電気	専門特別演習	4	1	危険物取扱者　乙種		07147	44	平成22年12月9日	平成22
			機械電気	外部修得科目	5	2	自治体学特論		07147	44	平成24年3月2日	平成22
			情報電子	専門特別演習	4	1	情報処理技術者試験　基本情報技術者		07203	2	平成22年11月18日	平成22
			情報電子	特別活動演習	4	1	キャリア学修		07241	3	平成23年2月25日	平成22
			情報電子	一般特別演習	5	1	TOEIC(IP) 350～399	350	07241	3	平成23年12月22日	平成23
			情報電子	専門特別演習	5	1	情報処理技術者試験　基本情報技術者		07241	3	平成23年11月17日	平成23
			情報電子	外部修得科目	5	1	英文法基礎		07241	3	平成24年2月23日	平成23
			情報電子	一般特別演習	4	1	日本語検定　３級		07205	4	平成22年12月2日	平成22
			情報電子	外部修得科目	5	2	e－安全と人間工学		07205	4	平成23年10月3日	平成23

出典：教務係資料

資料５－１－②－４　インターンシップ実施状況（抜粋）

平成23年度インターンシップ参加者一覧

通番	学科	学年	学生氏名	実習期間	日数	区分	受入企業名	郵便番号	住　所	担当部署等
1	ME	4		8/22～8/26	5	実習1	トクヤマ	745-8648	周南市御影町1番1号	
2	ME	4		8/29～9/9	10	実習2	中国電力周南電力所	745-0851	周南市大字徳山字福田寺原4714	
3	ME	4		9/5～9/9	5	実習1	中国電力尾道電力所	722-0055	尾道市新高山3丁目1170-27	
4	ME	4		8/29～9/9	10	実習2	中国電力周南電力所	745-0851	周南市大字徳山字福田寺原4714	
5	ME	4		8/15～8/24	8	実習1	中国電力岡山電力所	700-0941	岡山市北区青江2丁目6-51	
6	ME	4		8/22～8/26	5	実習1	三菱化学水島事業所	712-8054	倉敷市潮通3-10	
7	ME	4		8/26～8/30	5	実習1	NHK山口放送局	753-8660	山口市中園町2-1	
8	ME	4		8/29～9/9	10	実習2	ダイキン工業	530-8323	大阪市北区中崎西2-4-12　梅田センタービル	
9	ME	4		8/22～8/26	5	実習1	トクヤマ	745-8648	周南市御影町1番1号	
10	ME	4		9/5～9/16	10	実習2	協和発酵バイオ	747-8522	防府市協和町1-1	
11	ME	4		9/5～9/16	10	実習2	協和発酵バイオ	747-8522	防府市協和町1-1	
12	ME	4		8/21～8/26	5	実習1	出光興産	745-0843	周南市新宮町1-1	
13	ME	4		8/30～9/2	4	実習1	日立製作所笠戸事業所	744-8601	下松市東豊井794	
14	ME	4		8/29～9/2	5	実習1	東ソー	746-8501	周南市開成町4560	
15	ME	4		9/5～9/16	10	実習2	三菱重工広島製作所	733-0036	広島市西区観音新町1丁目17-18	
16	ME	4		8/29～9/2	5	実習1	東ソー	746-8501	周南市開成町4560	
17	ME	4		9/5～9/9	5	実習1	武田薬品	743-8502	光市大字光井字武田4720	
18	ME	4		8/22～	10	実習2	コベルコ建機	731-0138	広島市安佐南区祇園3丁目12-4	
19	IE	4		8/16～8/26	10	実習2	富士電機株式会社	191-8502	東京都日野市富士町1番地	
20	IE	4		8/22～9/2	10	実習2	ソニーデジタルネットワークアプリケーション株式会社	141-0022	東京都品川区東五反田2-21-28	
21	IE	4		9/5～9/9	5	実習1	株式会社NTTネオメイト	734-0004	広島市南区宇品神田3-12-11	
22	IE	4		8/29～9/9	10	実習2	新立電機(株)	744-0002	下松市東海岸通り1-10	
23	IE	4		8/29～9/9	10	実習2	山口エヌエフ電子(株)	753-0001	山口市宮野上字堀山1568番地3	
24	IE	4		8/22～8/26	5	実習1	山口放送(株)	745-8686	周南市大字徳山5853番地の2	
25	IE	4		9/12～9/16	5	実習1	Kビジョン(株)	744-0075	下松市瑞穂町2-8-8	
26	IE	4		8/26～8/30	5	実習1	日本放送協会山口放送局	753-8660	山口市中園町2-1	
27	IE	4		8/29～9/2	5	実習1	キャノン株式会社	146-8501	東京都大田区下丸子3-30-2	
28	IE	4		8/22～8/26	5	実習1	株式会社KDDIテクニカルエンジニアリングサービス	160-0023	東京都新宿区西新宿4-33-4 住友不動産西新宿ビル4号館4F	
29	IE	4		9/12～9/16	5	実習1	株式会社宇部情報システム	755-8622	宇部市相生町8番1号　宇部興産ビル	
30	IE	4		9/12～9/16	5	実習1	株式会社宇部情報システム	755-8622	宇部市相生町8番1号　宇部興産ビル	
31	IE	4		8/27～9/7	10	実習2	株式会社日立情報制御ソリューションズ	110-0006	東京都台東区秋葉原6番1号　秋葉原大栄ビル	
32	CA	4		8/22～8/26	5	実習1	磯村一級建築士事務所	745-0036	山口県周南市本町1丁目14	
33	CA	4		8/22～8/29	5	実習1	㈱NTTファシリティーズ中国	730-0004	広島市中区東白島町14-15　NTTクレド白島ビル	
34	CA	4		8/31～9/8	7	実習1	大阪ガス㈱	541-0046	大阪市中央区平野町四丁目1番2号	
35	CA	4		8/22～9/2	10	実習2	㈱椎名英三建築設計事務所	157-0066	東京都世田谷区成城4-6-17	
36	CA	4		8/17～8/30	10	実習2	国土交通省山口河川国道事務所	747-8585	防府市国衙1丁目10-20	
37	CA	4		8/17～8/30	10	実習2	国土交通省山口河川国道事務所	747-8585	防府市国衙1丁目10-20	
38	CA	4		9/5～9/9	5	実習1	山口宇部空港ビル㈱	755-0001	山口県宇部市沖宇部625-17	

出典：教務係資料

資料５－１－②－５　インターンシップ報告会プログラム

平成23年度 機械電気工学科4年 インターンシップ報告会

日時：平成23年10月25日（火）15:00～

場所：ICT教室

集合：15:00 出欠確認　15:05 主任講話　　※発表5分、交替1分

	時刻	発表者	インターンシップ実施会社	評価	メモ
1	15:10		トクヤマ		
2	15:16		中国電力周南電力所		
3	15:22		中国電力尾道電力所		
4	15:28		中国電力周南電力所		
5	15:34		中国電力岡山電力所		
6	15:40		三菱化学水島事業所		
7	15:46		NHK山口放送局		
8	15:52		ダイキン工業		
9	15:58		トクヤマ		
	休憩				
10	16:10		協和発酵バイオ		
11	16:16		コベルコ建機		
12	16:22		協和発酵バイオ		
13	16:28		出光興産		
14	16:34		日立製作所笠戸工場		
15	16:40		東ソー		
16	16:46		三菱重工広島製作所		
17	16:52		東ソー		
18	16:58		武田薬品		

※発表の評価を10点満点で記入下さい。

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

IE4　インターンシップ報告会プログラム

日時　　平成23年10月18日（火）　7、8限
場所　　徳山高専、メディアホール
発表時間　1人：5分、2人8分

発表順	開始時刻	発表者	実習期間	日数	受入企業名
1	15:10		8月16日（火）～8月26日（金）	10	富士電機株式会社
2	15:17		8月22日（月）～9月2日（金）	10	ソニーデジタルネットワークアプリケーション株式会社
3	15:24		9月5日（月）～9月9日（金）	5	株式会社NTTネオメイト
4	15:31		8月29日（月）～9月9日（金）	10	新立電機（株）
5	15:38		8月29日（月）～9月9日（金）	10	山口エヌエフ電子（株）
6	15:45		8月22日（月）～8月26日（金）	5	山口放送（株）
7	15:52		9月12日（月）～9月16日（金）	5	Kビジョン（株）
8	16:10		8月26日（金）～8月30日（火）	5	日本放送協会山口放送局
9	16:17		8月29日（月）～9月2日（金）	5	キャノン株式会社
10	16:24		8月22日（月）～8月26日（金）	5	株式会社KDDIテクニカルエンジニアリングサービス
11	16:31		9月12日（月）～9月16日（金）	5	株式会社宇部情報システム
12	16:41		8月27日（土）～9月7日（水）	10	株式会社日立情報制御ソリューションズ

1. 発表者は、10月17日じゅうに、発表用のスライドを電子データで sigemura@tokuyama.ac.jp に送付のこと
2. 学校宛に、「校外実習報告書」を提出のこと（10月31日、までに重村に提出）
3. 山口県インターンシップ推進協議会「成果報告書」、「アンケート」の書式をダウンロードし記入後、提出（10月20日、重村に電子データで）

3.は協議会の仲介を受けたものだけ。

平成 23 年度　CA4　インターンシップ報告会プログラム

日時：平成 23 年 12 月 22 日（木）　13：00～17：00
場所：メディアホール

発表 7 分，質疑 3 分　計 10 分程度

○　開式の挨拶
○　報告会　13：05～

1．	（研修先：井森工業㈱）	13：05～13：15
2．	（研修先：㈱メガ　Méga　一級建築士事務所）	13：15～13：25
3．	（研修先：宇部興産機械㈱）	13：25～13：35
4．	（研修先：周南市上下水道局浄水課浄水係）	13：35～13：45
5．	（研修先：国土交通省　山口河川国道事務所）	13：45～13：55
6．	（研修先：㈱椎名英三建築設計事務所）	13：55～14：05
7．	（研修先：山口宇部空港ビル㈱）	14：05～14：15
休憩（10 分）		
8．	（研修先：周南市防災建設部建築課）	14：25～14：35
9．	（研修先：国土交通省　山口河川国道事務所）	14：35～14：45
１０	（研修先：周南市都市整備部都市政策課）	14：45～14：55
１１	（研修先：周南市防災建設部道路課）	14：55～15：05
１２	（研修先：宇部興産機械㈱）	15：05～15：15
１３	（研修先：大阪ガス㈱）	15：15～15：25
１４	（研修先：㈱あい設計広島支社）	15：25～15：35
休憩（10 分）		
１５．	（研修先：㈱徳本工務店）	15：45～15：55
１６．	（研修先：トヨタホーム㈱中国カンパニー）	15：55～16：05
１７．	（研修先：日本ハウス㈱）	16：05～16：15
１８．	（研修先：㈱和田材木店）	16：15～16：25
１９．	（研修先：㈲TIME）	16：25～16：35
２０．	（研修先：㈱NTT ファシリティーズ中国）	16：35～16：45
２１．	（研修先：磯村一級建築事務所）	16：45～16：55

○　閉式の挨拶

出典：各科担任資料

資料５－１－②－６　海外研修奨学生募集要項

平成２４年度徳山工業高等専門学校海外研修奨学生募集要項（案）

１　趣旨
徳山工業高等専門学校海外研修奨学金取扱要領に基づき、本校の学生がコミュニケーション能力の向上及び国際理解を深めるため海外研修を行う。

２　応募資格
次の各号に該当する者とする。
（１）徳山工業高等専門学校の本科又は専攻科に在学し、心身ともに健全であり、学業成績が優秀な者(外国人留学生を除く。)
（２）語学力の向上及び国際的教養を体得することに高い関心がある者

３　採用人員
１０名程度

４　奨学金
海外研修奨学金は、１人当たり１０万円を限度とする。
（旅行費用及びその他諸経費については別紙参照）

５　研修先及び研修方法
オーストラリア国シャフストン・インターナショナル・カレッジ　ブリスベン校に通学し、基本的にホームステイをしながら、月曜日から金曜日午前中までは英語研修を行い、金曜日午後及び土曜日は体験学習や見学会等を研修プログラムに基づき実施する。（研修プログラム等については別紙参照）

６　研修期間
平成２４年８月１９日（日）～９月１６日（日）（２９日間）

７　応募の受付
受付期間
平成２４年４月１０日(火)～５月８日(火)〔８：３０～１７：００〕
希望者は、海外研修奨学金申請書及び海外研修計画調書を、学生課教務係に提出する（申請書等は、学生課教務係で配付）

８　選考及び結果通知等
（１）選考は、教務委員会が行い、校長が決定する。
（２）選考結果は、平成２４年５月１１日（金）までに当該者に通知するとともに、別途、決定通知書を交付する。
（３）海外研修奨学生として決定した者は、決定通知から１５日以内に「誓約書」を校長に提出する。

９　留意事項
（１）この制度は、海外研修を行う者に対して、その経費の一部を補助するものであり万一、研修中に事故が生じたときのことを考慮し、各自必ず海外旅行保険に加入する。
（２）海外研修奨学生には、パスポートの取得方法やホームステイにおける注意事項等について、出発までに説明会を開催する。
（３）海外研修終了後、校長あてに海外研修報告書を提出する。また、海外研修報告会を実施することとなった場合には、研修成果の発表を行う。
（４）海外研修奨学生は、この海外研修を特別学修（一般特別演習）による単位として申請することができる。

出典：教務係資料

資料５－１－②－７　高専夢広場活動案内

哲学カフェ 2012

「哲学カフェ」とは、かた～いイメージのある哲学を、コーヒーでも飲みながら、気軽に楽しもうという企画です。日頃考えることのないような一見当たり前の問題について、「そもそも何で？」と改めて問い直すのです。思考力は鍛えられるし、話す力がつくし、何より面白い！
あなたもおしゃれなＢＧＭを聴きながら、小粋に自由や愛を語ってみませんか？ちょっと知的で、相当笑えるひと時をぜひご一緒しましょう。

ファシリテーター　小川仁志

【予定】　時間：１７：３０～１８：３０　　場所：徳山高専夢広場　周南市"ふれあいパーク「街あい」"内

第４８回　日程：４月１８日（水）　テーマ：自然災害とは何か？
第４９回　日程：５月９日（水）　テーマ：幸せな人生とは？
第５０回　日程：５月２３日（水）　テーマ：常識はどこまで正しいのか？
第５１回　日程：６月１３日（水）　テーマ：ＳＮＳとは何か？
第５２回　日程：６月２７日（水）　テーマ：天皇は必要か？
第５３回　日程：７月１１日（水）　テーマ：死刑は廃止すべきか？
第５４回　日程：１０月１０日（水）　テーマ：若者とは何か？
第５５回　日程：１０月２４日（水）　テーマ：アメリカとは何か？
第５６回　日程：１１月１４日（水）　テーマ：人間はどこまで確かなのか？
第５７回　日程：１２月１２日（水）　テーマ：どうしてクローン人間を禁止するのか？
第５８回　日程：１月９日（水）　テーマ：ところで文化って何だ？
第５９回　日程：１月２３日（水）　テーマ：なぜ人はアイドルが好きなのか？
第６０回　日程：２月２０日（水）　テーマ：日本人とは何か？

このほかにも特別版の哲学カフェを開催する場合には、別途告知します。

※予約不要、もちろん参加費無料です。

【問い合わせ先】徳山工業高等専門学校　小川研究室（℡0834-29-6255；E-メール ogawa@tokuyama.ac.jp）

英語多読教習所

会場：徳山高専夢広場（ふれあいぱーく「街あい」内）

開催日程

第 54 回：４月 16 日
第 55 回：５月７日
第 56 回：５月 21 日
第 57 回：６月４日
第 58 回：６月 18 日
第 59 回：７月２日
第 60 回：８月６日
第 61 回：８月 20 日
第 62 回：９月３日
第 63 回：10 月１日
第 64 回：10 月 15 日
第 65 回：11 月５日
第 66 回：11 月 19 日
第 67 回：12 月 17 日
第 68 回：１月７日
第 69 回：２月４日
第 70 回：２月 18 日
第 71 回：３月４日

問い合わせ先：徳山高専総務係　0834-29-6227
高橋愛（担当講師）　takahasi@tokuyama.ac.jp



「やさしい」と思って読める（和訳しないでも理解できる）レベルの英語をたくさん読むという英語多読は、英語力の向上に役立ちます。
英語での読書に一緒に挑戦しましょう！！！

いんぐりっしゅ☆る～む

Hello! What's new?

「いんぐりっしゅ☆る～む」とは、英語に興味のある人、英語が好きな人が金曜日の夕方、自由に英会話を楽しむための活動です。
毎回、ネイティブスピーカーの先生、徳山高専の学生、留学生、他校の生徒さん、市民の方々が参加して下さいますから、交流の輪を広げるいいチャンスです。
週末のひととき、ソフトドリンクを片手に、スナックをつまみながら、気軽に英語で何かを話してみたい人はどんどん来てくださいね。持参するものは何もありませんし、もちろん無料です。
みなさんと「いんぐりっしゅ☆る～む」でお会いできることを楽しみにしております。

担当：徳山高専英語科　国重　徹

◎時　　間：　17：30～18：30

◎場　　所：　徳山高専夢広場
（周南市"ふれあいパーク「街あい」"内）

◎問 合 せ：　徳山工業高等専門学校
国重研究室（℡0834-29-6253；
E-mail: kunisige@tokuyama.ac.jp）

位置図



【平成 24 年度「る～む」オープン予定日】

平成24年度回数	通算回数	日にち（曜日）
1回目	（通算287回目）	4月　6日（金）
2回目	（通算288回目）	4月　13日（金）
3回目	（通算289回目）	4月　27日（金）
4回目	（通算290回目）	5月　11日（金）
5回目	（通算291回目）	5月　18日（金）
6回目	（通算292回目）	5月　25日（金）
7回目	（通算293回目）	6月　22日（金）
8回目	（通算294回目）	7月　13日（金）
9回目	（通算295回目）	8月　31日（金）
10回目	（通算296回目）	9月　7日（金）
11回目	（通算297回目）	9月　14日（金）
12回目	（通算298回目）	9月　21日（金）
13回目	（通算299回目）	9月　28日（金）
14回目	（通算300回目）	10月　5日（金）
15回目	（通算301回目）	10月12日（金）
16回目	（通算302回目）	10月19日（金）
17回目	（通算303回目）	11月　2日（金）
18回目	（通算304回目）	12月　7日（金）
19回目	（通算305回目）	12月14日（金）
20回目	（通算306回目）	1月　11日（金）
21回目	（通算307回目）	1月　18日（金）
22回目	（通算308回目）	1月　25日（金）
23回目	（通算309回目）	2月　15日（金）
24回目	（通算310回目）	3月　1日（金）
25回目	（通算311回目）	3月　8日（金）

今年度は、10月５日（金）に記念すべき通算300回目を迎える予定です。この日は、盛大にパーティーを開いてお祝いをしたいと思いますので、みなさん是非参加して下さいね。お待ちしております！

サイエンスプチアゴラ２０１２

～毎回参加してエネルギー博士になろう！～



時間：14時～15時30分
開催場所：高専夢広場

年間予定

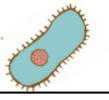
4月22日（日）	島根原発見学レポート・放射能ってなぁに？
6月24日（日）	原発ってどんなものなの？
8月26日（日）	あっついサマーがやってきた！～太陽光発電～
11月11日（日）	北風ぴゅーぴゅー！～風力発電～
1月20日（日）	お部屋でぬくぬく快適生活！～暖房の効率～
3月17日（日）	周南サイエンスアゴラ

"サイエンスアゴラ"とは、科学に興味のある方々が集まって身近な科学について考える会のことです！
徳山高専の生物同好会が運営しています。
毎回、講師の方にテーマに関する簡単な話をしていただき、それに関係することについて参加者で話し合う場になっています。
実験なども交えながらの話なので、楽しく気軽に科学について考えられると思います(^^)

どなたでも参加できますので、各回のテーマに興味がある方は是非ご参加ください！

※事前申し込み等は必要ありません。参加してみたい方は当日、時間までに夢広場にお越しください。

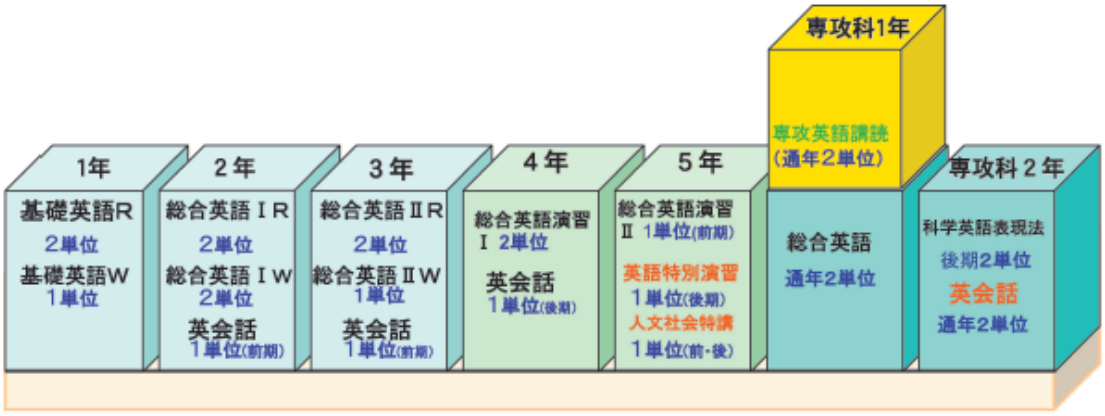
質問・問い合わせは biologisttot@gmail.com まで！



出典：高専夢広場 Web サイト

資料５－１－②－８　英語系統図

徳山高専 英語系統図と講義内容（平成24年度）



講義内容

黒字は一般科目
赤字は選択科目
緑字は専門科目

1年	2年	3年	4年	5年
基礎英語R	総合英語ⅠR	総合英語ⅡR	総合英語演習Ⅰ	総合英語演習Ⅱ
英語多読教材を用いて、直読直解の基礎力をつける。多聴や聴き読みも行う。	英語多読・多聴を通して直読直解の力をさらに養い、長さ・複雑さのある文章も読みこなせるようにする。	英語のfluencyを高めるためには、大量の英語のインプットとアウトプットが必要である。本授業では、多読・多聴教材を用いてその大量のインプットを目指すとともに、多書によりアウトプットの練習も行う。	「TOEIC対策テキスト」等を用いてスコアアップを目標に文法、語法、熟語、構文、リスニング、読解等の演習をする。	大学生用の総合テキストや視聴覚教材等を用いて、更なる英語力のアップを図る。
教科書：多読用教材	教科書：多読用教材	教科書：多読用教材	教科書：TOEIC対策テキスト等	教科書：大学生用テキスト等
担当：国重 徹	担当：国重 徹	担当：高橋 愛	担当：田中、谷國、中光	担当：長戸、高橋

基礎英語W	総合英語ⅠW	総合英語ⅡW
問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基礎的な英文法の学習をする。	1年次で修得した文法知識を、下記テキストを用いることにより、より実践的な英語力へと高める。	これまでに培って来た文法力や、構文力を活かしながら、英語を書く練習を通して、実際に使える英語のアウトプット能力を高める。
教科書：三訂新版SEED総合英語	教科書：FIRST YEAR ENGLISH冒険復刻・文法と読解のコア演習	教科書：BIG DIPPER Writing Course
担当：高橋 愛	担当：長戸喜陸	担当：長戸喜陸

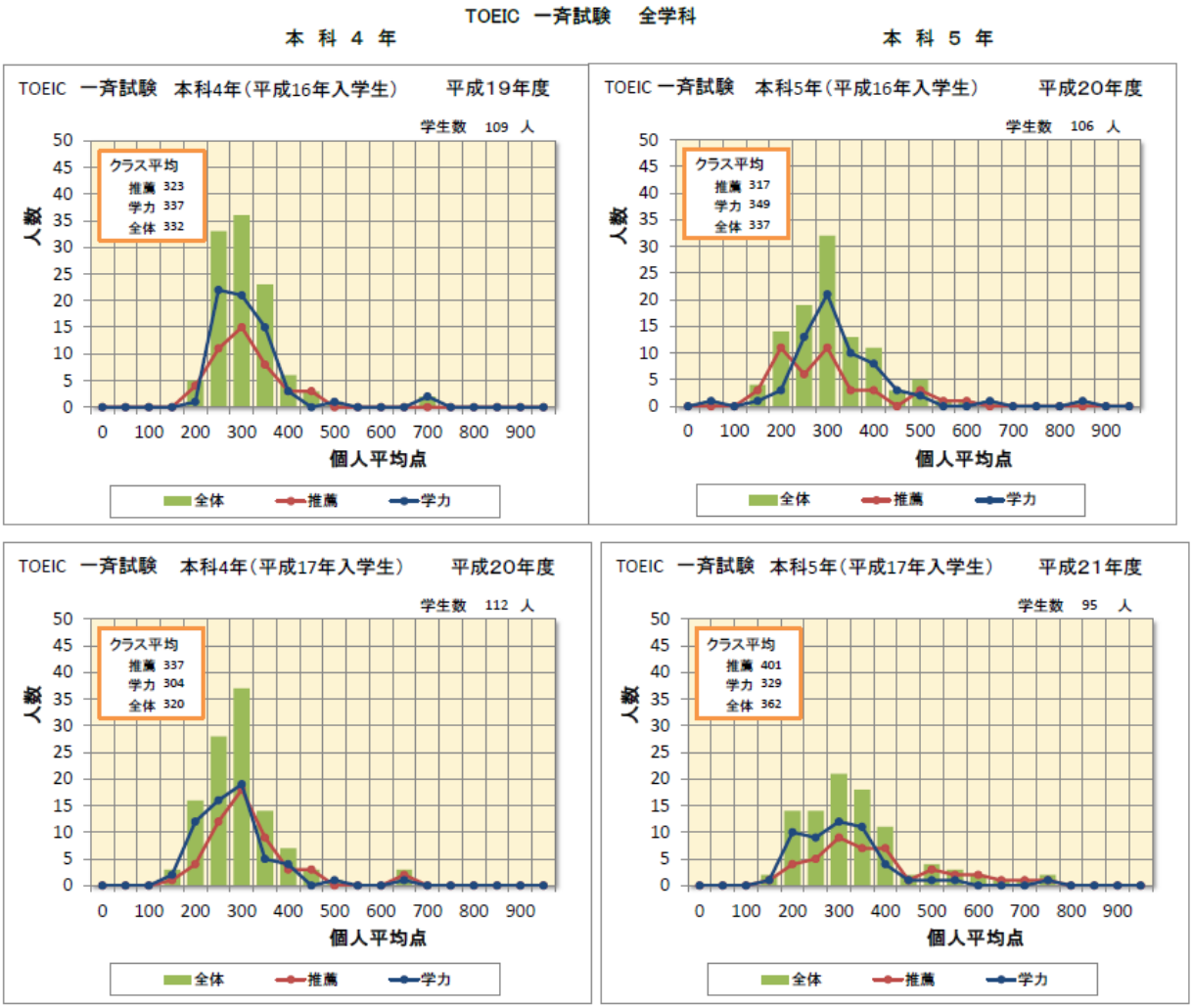
英語特別演習
英会話中級
教科書：New Alltalk 2
担当：Perry
英会話上級
教科書：New Alltalk 2
担当：Tony
総合英語上級
教科書：大学生用テキスト
担当：長戸喜陸

英会話	英会話	英会話	人文社会特講
基礎的英会話能力と文法力の基礎を養う。	聴き取り能力と発話能力の養成に加えて、実際に会話で使える語彙力や文法力の基礎的知識を与える。	これまでに修得した語彙・表現や構文を使いこなして、英語で積極的にコミュニケーションを取る練習を行う。	短編小説を読む 教科書：大学生用テキスト 担当：長戸喜陸 英語で読む技術史
教科書：New Crossroads	教科書：Jazz English Volume 2	教科書：New Alltalk 2	教科書：大学生用テキスト
担当：Tony, Perry	担当：Carrie	担当：Perry, Carrie, Tony	担当：高橋 愛

専攻科1年	専攻科1年	専攻科2年	専攻科2年
総合英語	専攻英語講読	科学英語表現法	英会話
全員が修了要件のスコア420をクリアできるように、リスニング力、文法力、速読力を総合的にレベルアップするためのトレーニングをする。大学用テキストを使用。	まず、一般科目教員により、専門英語のや科学技術英語の特徴などを全体で学ぶ。次に、専攻ごとに、専門分野に関する英文を輪読し、特別研究論文執筆に役立つよう専門的な論文の詳読を心がける。合わせてプレゼン能力の養成も図る。	与えられたテーマでの自由英作文を通して、英文の構成を学ぶとともに基礎的な英作文の力を養成し、簡潔明瞭な英文で論文アブストラクトを書けるようにする。	「世界に通用する」技術者に必要なコミュニケーション能力の養成に力を入れる。授業は全て英語で実施。英語によるディスカッション、シャドウイング、オーバーラッピング、発音練習などを徹底的に行う。
教科書：大学生用テキスト	教科書：専攻論文各種	教科書：大学生用テキスト	教科書：自主教材
担当：高橋 愛	担当：天内、国重、高橋、特別研究担当教員	担当：高橋 愛	担当：国重 徹

出典：シラバス

資料５－１－②－９　本科４，５年生 TOEIC スコアの年度推移



出典：英語科資料

資料５－１－②－１０　本校の多読授業風景



出典：関西多読新人セミナー資料

（分析結果とその根拠理由）

学生の多様なニーズや社会の動向等に対応するため，国内外の他大学との協定や単位互換，外部資格取得などによる単位認定やインターンシップの実施により，幅広い教育を展開している。また，補充教育により，広範な学習機会を与えている。

国際性涵養の一環として，授業内外で英語多読・多聴を取り入れることで，英語教育の充実を図り，成果を挙げてきている。

以上のことから，本校では学生の多様なニーズや社会の要請に配慮し，それに対応している。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

（ａ）授業形態のバランス

本校の学習・教育目標は（Ａ１）～（Ｃ２）と６項目あり，それを実現するため，それぞれ次のような授業形態をとっている（資料５－１－①－１）。

（Ａ１）「複合分野の基礎となる基本的素養」に関連する科目は，教養科目の全学年と専門学科の主として低学年において，修得する技術を構成する３～４分野すべてにおいて開設されており，講義形式で行われている。

（Ａ２）「国際理解や技術者倫理とコミュニケーション能力」に関連する科目は，教養科目の全学年で開設されており，講義や演習形式で行われている。

（Ｂ１）「情報技術をベースに，実体験を通しての表現力」に関連する科目は，どの学科も全学年で開設されており，多くの科目で実験・演習の形式が採られている。

（Ｂ２）「自主性・自立性」に関連する科目は，工学セミナーと卒業研究が該当しており，実験・演習科目である。

（Ｃ１）「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力」に関連する科目は，専門学科の主として高学年において，修得する技術を構成する３～４分野すべてにおいて開設されており，講義形式で行われている。

（Ｃ２）「課題を把握し解決する力」に関連する科目は，創造演習や校外実習などが該当しており，多くは演習科目である。

これらをまとめると，次のようになる。

- 学習・教育目標に適した授業形態がそれぞれとられている
- 専門科目ではどの学科も，実験・演習で行っている科目の割合が約４割を占めている
- 実験・演習形式で行っている科目は，どの学科も全学年でまんべんなく開設されている

（ｂ）学習指導法の工夫

（Ａ１）複合分野の基礎となる基本的素養の涵養

- 専攻科生がＴＡ（ティーチング・アシスタント）として１年生の数学演習を担当している。これは，初学年段階でのつまずき防止と授業で学習したことを演習で定着させることを目的としている。学習者の視点に近い指導は，初学者の質問を促し，技術者教育の基礎としての数学の基礎学力充実に貢献している（資料５－２－①－1）

（Ａ２）コミュニケーション能力の向上

- 平成２２年度より，英語の授業改善の一環として英語多読・多聴のプログラムを授業内外で取り入れ，現在，約3,000冊の多読・多聴用の教材を整備し，自由に英語担当教員の研究室および図書館で貸し出し可能となっている。ACE（本科１～３年対象）やTOEIC（本科４年～専攻科２年対象）スコアの上昇として，その成果が現れ始めている（資料５－１－②－９）
- 日本語コミュニケーションでは，実践・実作を通して，各自がコミュニケーション能力を向上させるための授業を実施している（資料５－２－①－２）

（Ｂ１）情報技術をベースに，実体験を通しての表現力の涵養

- 機械電気工学科では，電気・電子・情報系の科目に使用するＰＩＣ演習ボードを製作し，演習に活用している（資料５－２－①－３）
- 情報電子工学科では，低学年からのコンピュータ教育に利用するための教育用コンピュータを開発し，活用している（資料５－２－①－４）。また，高学年用に演習用マイコンボードを開発し，コンピュータシステム実験を実践している（資料５－２－①－５）
- 土木建築工学科では，電子図面作成に必要なＣＡＤ教育，企画書作成やプレゼンテーションを効率良く行うために必要なプログラム技術を演習中心で展開している（資料５－２－①－６）

資料５－２－①－1　ＴＡと数学演習の授業時間割（抜粋）



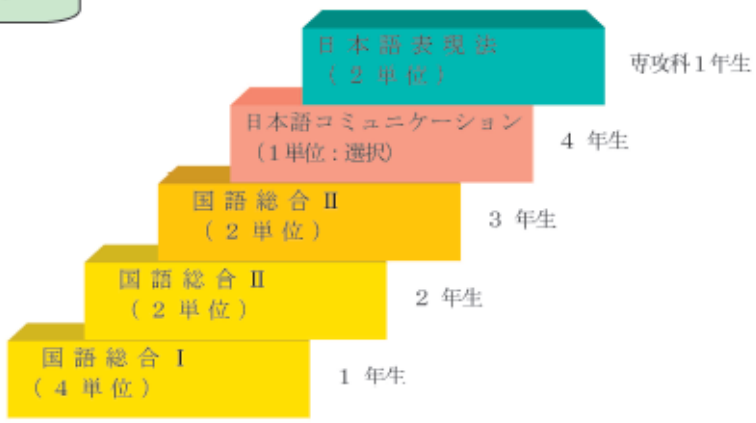
		月		曜		日			
		1	2	3	4	5	6	7	8
本科	一年一組	数学ＩＢ 長妻		国語総合Ⅰ 一色		化学基礎 化学 大橋		歴史 松倉	数学演習
	一年二組	保健 前川		化学基礎 化学 大橋		生物基礎 天内		基礎英語R ICT 国重	
	一年三組	数学ＩＡ 米田		保健 前川		数学ＩＢ 長妻		基礎英語W 高橋	
	二年機電	倫理 小川		創造製作Ⅰ 工場, ﾃｸﾉﾗﾎﾞ, ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ, 1ﾊﾟ 機械, 電気, 制御, 生物, 環境		国語総合Ⅱ 谷本	基礎設計製図Ⅱ 1ﾊﾟ 徳間, 三浦		
	二年情電	電気回路 応用実験 百田, 古賀		基礎物理Ⅰ 物理 笹雲		総合英語ⅠW 長戸	数学ⅡＢ 原田幸		
	二年土建	基礎物理Ⅰ 物理 笹雲		数学ⅡＢ 米田		建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論 桐野		総合英語ⅠW 長戸	
	三年機電	工業力学 藤田	数学ⅢＡ 藤田	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ応用 CAD 石田		創造演習Ⅱ CAD 有本, 鈴木	電子回路Ⅰ 櫛本		
	三年情電	情報数学 恵本		国語総合Ⅱ 谷本		アナログ回路 山田	確率 池田信		
	三年土建	水理学基礎 徳辺		工学ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ 製図室, 2ﾊﾟ 機械, 電気, 制御, 生物, 環境		総合英語ⅡR 高橋	構造力学基礎 工藤		
	四年機電	電気回路Ⅱ 櫛本		材料学Ⅱ 西村		力学 石田	創造製作Ⅱ CAD, ﾃｸﾉﾗﾎﾞ 牧野, 伊藤, 森崎		
	四年情電	微分積分学 荒谷		ベクトル解析 小林		コンピュータシステム実験 ICT 電気, 2ﾊﾟ 新田, 秋澤, 守川			
	四年土建	工学ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 製図室, 2ﾊﾟ 土木, 建築, 都市, 環境		水理学 佐賀		環境衛生工学 1ﾊﾟ 佐賀	道路工学Ⅰ 日山		
	五年機電	計測工学 13SC 森崎		工業英語Ⅱ 演習室 藤田, 飛車		卒業研究 ME全員			
	五年情電	ﾈｯﾄﾜｰｸｱｰｷﾃｸﾁｬ ICT 電気, 23SC 新田		統計学 23SC 池田信		英語講読 IE全員	卒業研究 IE全員		
	五年土建	総合英語演習Ⅱ 13SCW 長戸		卒業研究 CA全員		火薬学△ 村上 13SCW 建築施工法△ 西原 製図室		卒業研究 CA全員	
専攻科	専一機電			総合英語 1ﾊﾟ多目的 高橋		特別研究 特別研究拟当			
	専一情電					特別研究 特別研究拟当			
	専一建築					特別研究 特別研究拟当			
	専二機電	経営工学△ 1ﾊﾟ多目的 伊藤孝 宇部高専遠隔授業		離散数学 講義室2 義永		特別研究 特別研究拟当			TA
	専二情電					特別研究 特別研究拟当			
	専二建築					計算工学△ 2ﾊﾟ, 講義室1 原			

出典：平成２４年度前期授業時間割

資料５－２－①－２　日本語ミュニケーション

徳山高専　国語系統図と講義内容（平成２４年度）

国語のステップ



講義内容

（抜粋、詳細はシラバス参照）

※　教科書は、毎年度変更する。

国語総合Ⅰ（1年生）		国語総合Ⅱ（2年生）		国語総合Ⅱ（3年生）	
【講義概要】 「ことば」を用いたさまざまな表現形式を読み解くための、基本知識を習得していく。また、習得していく過程で、さまざまな視点からの読み取りを考えることを学んでいく。		【講義概要】 １年次の基礎的な学習を踏まえて、柔軟なものの見方・考え方ができるように、多くの文章や作品を読むことによって発展させていく。取り扱う文章と作品は、現代文を中心とする。		【講義概要】 「書く」「話す」「聞く（聴く）」といった表現力をつけるために必要な「考える力」を、様々な文章を正しく「読み」考えることで身につけていく。同時に、表現するために必要な基礎的事項をテキストを用いて学んでいく。	
教科書	高等学校　国語総合 （三省堂）	教科書	高等学校　標準現代文 （第一学習社）	教科書	国語表現Ⅱ （東京書籍）
担　当	一色誠子・好村友江	担　当	谷　本　圭　司	担　当	谷　本　圭　司

日本語コミュニケーション（４年生：選択）		日本語表現法（専攻科１年生）	
【講義概要】 日本語によるコミュニケーションの基礎を身につけることを目標におく。 講義を通じてコミュニケーションの知識を備え、まずは、人前で話すことになれるための簡単なトレーニングからはじめる。心身の準備が整ったところで、「パズセッション」「グループディスカッション」「ディベート」を繰り返し実践していく。		【講義概要】 論理的な思考に基づく日本語表現（記述力）を高めることを目標とする。論理力を高めるための準備段階として、文の構成や組み立ての分析・読解を実施し、論理的な文章を書くための基礎的な事項を理解することを求める。授業の終盤では、小論文の実作と添削を繰り返すことによって、論理的な日本語表現が身についているかを確認する。	
教科書	授業担当者作成資料	教科書	授業担当者作成資料
担　当	一　色　誠　子	担　当	一　色　誠　子

出典：シラバス

資料５－２－①－３　コンピュータ制御シラバス

コンピュータ制御 (Computer Control)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
機械電気	必修	3 年	2	演習	森崎　哲也 石田　浩一 藤本　浩 北村　健太郎

【授業の概要】
現在、機械電気工学関連分野で必須の自動制御（コンピュータ制御）をものづくりを通して学習し、創造的思考法を習得することを目的とする。創造物は、コンピュータ制御を行えるハードとソフト両面を含んだ作品とする。PIC プログラミングは、プログラミング応用と連携して行う。

【授業の進め方】
最初にコンピュータ制御に必要な基礎知識を創造基礎実験として行う。コンピュータには組込型のＰＩＣをもちいる。その後、自由な発想でものづくりを行う。そのためには、各自が選んだテーマについて、自ら責任を持ち積極的に行動し、必ず作品を完成させること。

【授業の概要】

授業は、以下のように進める。

1. オリエンテーション
　2 年次までの創造製作とプログラミング等の座学との関係を解説し、これからの授業について解説する。
2. 創造基礎実験
　プログラミング応用と連携し、ＰＩＣについての解説と、ＰＩＣを用いた各種自動制御について実験を行いながら学習する。
　内容は、ＰＩＣ－Ｃと自動制御に必要な関数と割り込みについてと、制御に必要なハードとしてリレー、モータ駆動ＩＣ、モータ等についてである。
3. 基礎制御マシン製作
　基礎実験を基に、基礎的は自動制御を行うマシンの製作を行う。このときマシンについては、学生すべて同一の規格の物を作製する。
4. 基礎制御マシン競技会
　マシンの完成度について競技会を行う。
5. 製作テーマ検討
　どのような自動制御マシンを作製するかを各自考える。
6. 自主製作・個別指導
　実際にマシンの製作を行う。マシンの製作に関しての技術指導を個別に行う。
　製作日誌に状況等を逐一記入しておく。
7. 中間検査
　マシンの出来具合の中間検査を行う。進んでいない学生に対して特に指導を行う。
8. 自主製作・個別指導
9. 最終検査
　最終的な検査を行う。
10. 製作したマシンを外部審査委員により審査する。
11. 最終報告書制作
　製作したマシンに対するＨＰを制作する。

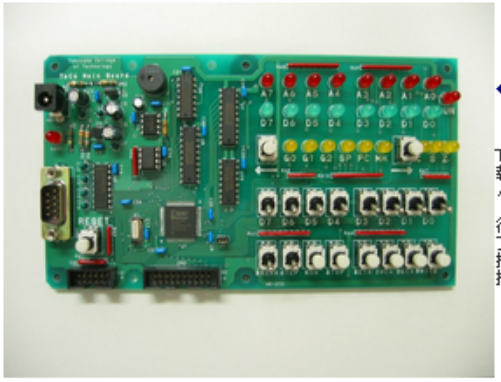
【到達目標】	自動制御に必須のコンピュータのハードとソフトの知識を身につける。その知識を生かして、実際のマシンを製作する。		
【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	
【評価法】	評価のためとして、基礎制御マシン試験（10%）、中間検査（10%）、最終検査（20%）、製作報告書（30%）、最終審査発表会（20%）、最終報告書 (CAD 含む) 作成（10%）を行う。評価点は各教官の評価点の平均点を用いる。 学年末評価＝基礎制御マシン試験× 0.1 ＋中間検査× 0.1 ＋最終検査× 0.2 ＋製作報告書× 0.3 ＋外部審査発表会× 0.2 ＋ＨＰ制作× 0.1 また、最終審査会において高い評価が与えられた場合、学年末評価に特別評価点として加点する。		
【テキスト】	後閑哲也：「電子工作のための PIC 活用ガイドブック」（技術評論社）		
【関連科目】	プログラミング基礎、応用、創造製作Ⅰ、Ⅱ		
【成績欄】	前期中間試験【　　】 前期末試験【　　】 前期成績【　　】 後期中間試験【　　】 後期末試験【　　】 学年末成績【　　】		

出典：シラバス

資料５－２－①－４　教育用コンピュータＴｅＣ

ホーム　TeC5のページ　最終更新日：2010年7月23日

教育用コンピュータ(TeC)のサイト
（徳山工業高等専門学校　情報電子工学科　TeC開発プロジェクト）



← 教育用コンピュータ TeC6

TeCとはTokuyama Educational Computerのことで、徳山高専　情報電子工学科が開発した、コンピュータの動作原理を基礎から学ぶためのコンピュータシステムです。

徳山高専　情報電子工学科では、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの全体像を理解し、自由自在にコンピュータシステムを扱える技術者を育成するための、学習システム(教材)の開発を推進しています。

このサイトについて

TeC5の情報はこちらへ(2003年度の教育用コンピュータの情報)

教育用コンピュータ(TeC5)の概要	関連情報
・TeC5の全資料 資料を更新しました。(2010_07_23)	・電子部品の基礎知識
	・XILINXのサイト
	・電子回路CADに関する情報
TeC関連論文・学会発表一覧	・パソコンの仕組み
講義事例紹介	・徳山工業高等専門学校
・2003年度の講義実施状況	・徳山高専情報電子工学科
・2004年度の講義実施状況	
TeCに関するQ&A	・IT教育支援協議会
・TeCに関するご質問と回答を掲載します。	
	・マイコン関連リンク集
HDL演習用としてのTeC(2007)	
・コンピュータシステム実験(VHDLによる回路設計) TeCをVHDLによる電子回路設計演習に使用した講義例の紹介です。 2004年度ではTeC5を使用しています。 2007年度ではTeC6を使用しています。以下の資料は、2007年度版に更新しています。	TeCの入手方法
・Xilinx WebPACK ISEの使用法 資料を2007版に更新しました。(2007_10_15)	・TeCの販売に関して
・Tec6の紹介(FPGA学習ボードとして) 資料を2007版に更新しました。(2007_10_15)	・TeCのカタログ
	著作権について

Since May 10, 2004

Copyright 2004 Department of Computer Science & Electronic Engineering (Tokuyama College of Technology)

出典：教育用コンピュータＴｅＣ　Web サイト

資料５－２－①－５　コンピュータシステム実験指導書

7

コンピュータシステム実験（後期）1回目：詳細のガイダンス

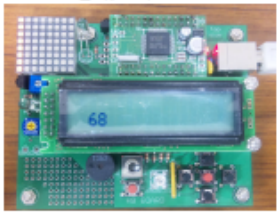
学生目標：システム開発とは何か？を説明できるようになる
実験で学習すべき事柄を考えることができる
他の授業科目に役立てるべき事項を考える

教員目標：実験手順などを交えて*具体的に開発することを紹介*し，
後期実験の全体像を明確に示す

8

導入事項：まずは，見た目から

- 下図の**ボードマイコン**を使用し，そのボードマイコンを動かすための「ソフトウェアを開発」する。



開発を行うことの例
・光を出す（出力）
・キー入力を行う（入力）
・特定条件で動作（処理）
・
・
・
・ミニゲーム

9

ボードマイコンの詳細

- 2011年度，教材の入れ替えを実施



2010年までのボードマイコン
重村先生が回路設計
並びにテキスト作成

2011年からのボードマイコン
小職研究室所属の卒研生が
卒業研究として再設計

10

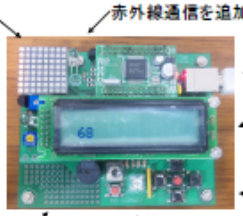
2010年度卒業研究生の成果

- 新ボードによる学習の思想は，
「興味を引く実験テーマを設定する」
  - 旧手法：体系づけられた課題＝単なるノルマになる
（学習を積み上げていく動機付けが弱い）
  - 新手法：積み上げていく課題の最終目標を見通せるようにする。そのための興味を引き，見通しの良く，楽しめるデバイスを搭載した。

背景：過去の授業では，「ミニゲームの作成」などの発展課題を楽しむ学生が多かったという現状有り。そこを到達点とするようにと，昨年の卒研生が指摘。ミニゲームが作りやすくなるような，ボードマイコンの改良を行っている。

11

旧ボードから，どこが変わったのか？



LCDの動作よりも理解が容易な，マトリクスLEDを追加して搭載

赤外線通信を追加

RS-232Cから USB接続へ

LCDの搭載は継承

キー配置を十字キーに変更。
決定キーを追加した。

プリント基板で作成し，ハードの可用性が向上
（実験中，ハードが壊れていて学習者が困らないようにする）

ブザーの搭載は，継承

赤色LEDを2個搭載から，フルカラーLEDを1つへ変更

12

学ぶべき内容は，今も昔も変わらない

プログラムを作っていて，その動作は楽しめる。
但し，下積みとなる内容は，何も変わらない。
修行部分は，心してかかるように！

- 基本的なアルゴリズムは，既修得のはず。
- C言語の最低限の使い方は，既修得のはず。
- ハードウェアの最低限の知識は，既修得のはず。

この3本柱が無いと，本実験は，辛い作業としか感じません。
そうならないように，ある程度の工夫はしますが，限界はあります。

出典：平成２４年度コンピュータシステム実験指導書

資料５－２－①－６　ＣＡＤ教育，プログラミング教育

CAD 基礎 (建築)(Basic CAD Practice (Architectural Theme))

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
土木建築	必修	4 年前	1	演習	古田健一 平栗靖浩

【授業の概要】
建築設計図を VectorWorks を用いて負担感なく自由に作成できるようになることを目的とし 演習をすすめる。演習の題材として建築物の図面を書けるようになるために、3 年次に 工学デザイン基礎 III で作成 した図面を用いる。

【授業の進め方】
作図方法が分からない時に自由に質問し、その場で解決しながら演習をすすめる。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1 回	演習課題 1 課題の説明と作図上の注意	課題の主旨説明と図面の用紙の大きさや縮尺、レイヤ構成に関する説明。[学習シート 01]
2 回	1 階平面図	演習 [学習シート 02]
3 回	2 階平面図	演習 [学習シート 03]
4 回	3 階平面図（または屋根伏図）	演習 [学習シート 04]
5 回	断面図 1	演習 [学習シート 05]
6 回	断面図 2	演習 [学習シート 06]
7 回	立面図（東、西）	演習 [学習シート 07]
8 回	中間試験	簡単な建築物の平面図などの作図が目標時間内できることを確認するための試験。
9 回	答案返却と解説 立面図（南、北）	演習 [学習シート 08]
10 回	演習課題 2 透視図の書き方の解説	第 2 課題の 3 次元作図機能の解説。[学習シート 09]
11 回	透視図作成（１）	演習問題 1[学習シート 10]
12 回	透視図作成（２）	演習問題 2[学習シート 11]
13 回	透視図作成（３）	演習問題 3[学習シート 12]
14 回	透視図作成（４）	演習問題 4[学習シート 13]
	期末試験	単純な構造物の平面図、立面図から 3 次元 CG の作成が目標 時間内できることを確認するための試験。
15 回	解答返却など	採点基準等解説。未完成課題の完成。

【到達目標】	建築物設計に必要な平面図、立面図、断面図、透視図が CAD で適切な時間で作成できることを目標とする。

【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	c-3

【評価法】	1）2回の試験結果を５０％、演習課題５０％で総合評価する。 2）学年末評価計算式 最終評価点＝（前期中間＋前期末＋演習課題 200 点満点）／４
【テキスト】	教科書 :VectorWorks2008 学習帳 (エクスナレッジ) 山野大星 / 福田一志
【関連科目】	CAD 応用 (建築) 4 年
【成績欄】	前期中間試験【　】　前期末試験【　】　前期成績【　】　後期中間試験【　】　後期末試験【　】　学年末成績【　】

応用プログラミング (Applied Programming for Civil Engineering)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
土木建築	必修	5 年前	1	講義	原　隆

【授業の概要】
１年～３年までの情報処理の応用として、各人が問題を設定し、プログラムを作成する。プログラムは Microsoft Visual Basic または Excel VBA によるアプリケーションとする。そのなかでプログラム技術を修得する。できあがったプログラムはドキュメントを添えて提出する。

【授業の進め方】
情報処理の演習として問題を設定する。そして、企画書とプレゼンテーションにより対象を明確にする。その後、これに対してプログラムを作成し、その中でプログラム技術を修得する。最後に、できあがったプログラムにドキュメントを添えて提出する。この一連の過程で問題解決の手法を修得する。１回から６回の基礎事項の確認に学習シートを利用する。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1 回	ガイダンス・情報倫理	講義の内容方針の説明とネットワーク利用上の注意事項の伝達 学習シート (1)Excel VBA コマンドボタンの復習 学習シート (2)、レポート (1)
2 回	コマンドボタン	Excel VBA コマンドボタンの復習 学習シート (2)、レポート (1)
3 回	ファイル処理	Excel VBA データの入出力の演習 学習シート (3)、レポート (2)
4 回	グラフィックス	Excel VBA グラフィックメソッドの復習 学習シート (4)、レポート (3)
5 回	メッセージボックス	Excel VBA メッセージボックスの使い方 学習シート (5)、レポート (4)
6 回	コンボボックス	Excel VBA コンボボックスの使い方 学習シート (6)、、レポート (5)、企画書の提出
7 回	プロジェクト計画発表	各自のプロジェクトのプレゼンテーションを行う
8 回	中間試験	第 2 回～第 6 回の内容でプログラミング作製
9 回	プロジェクト作成 (1)	各自でプロジェクトを実行
10 回	プロジェクト作成 (2)	各自でプロジェクトを実行
11 回	プロジェクト作成 (3)	各自でプロジェクトを実行
12 回	プロジェクト発表 (1)	プロジェクトの発表会を行う (1)
13 回	プロジェクト発表 (2)	プロジェクトの発表会を行う (2)
14 回	プログラムの手直しとドキュメント作成	プログラムとドキュメントを完成し提出
	期末試験	第 2 回～第 6 回の内容についての応用問題の試験
15 回	解答返却など	成績・授業評価・ファイルの整理

【到達目標】	プログラミングの手法を応用して各自のプログラムを完成させるとともに、その内容についてのプレゼンテーションができる

【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	c-3

【評価法】	1) 2回の試験および 5 回のレポート 40%、企画書 30% とプロジェクトの遂行能力 30% で評価 2) 学年末評価計算式 最終評価点 =2 回の試験 x0.75+5 回のレポート x0.25) × 0.4 ＋企画書内容× 0.3 ＋成果品× 0.3 3) 企画書、成果品についての評価 双方が完了しプレゼンテーションができる (100%) 双方またはいずれかがほぼ完成し、プレゼンテーションができる (80% 以上) 双方が完成し、プレゼンテーションが不十分 (70% 以上) 成果品は完成している (60% 以上)
【テキスト】	
【関連科目】	情報処理 (CA1) 情報処理 (CA2) 情報処理 (CA3) 専門科目 (CA1-CA5)

CAD 基礎（土木）(Fundamental CAD for Civil Engineering)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
土木建築	必修	4 年前	1	講義	原　隆

【授業の概要】
CALS/EC に必要な電子図面作成のために必要な基本事項を修得する。特に、ディジタルデータの変換と図面作製のための部品登録を中心に行う。
4 年後期から行う CAD 応用のための準備段階と位置づけている。

【授業の進め方】
授業は講義と演習を繰り返す。修得内容は学習シートで確認する。また、各時間についてのレポートを課す。学習シートおよびレポートは電子メールで提出する。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1 回	ガイダンス・情報倫理	講義の内容方針の説明とネットワーク利用上の注意事項の伝達　学習シート (1)
2 回	データの挿入	地形図、図面や数値データの読み込みと利用法の解説 学習シート (2)、レポート (1)
3 回	図面の計測	距離、座標、面積の計測法の修得 学習シート (3)、レポート (2)
4 回	曲線設置	道路の線形に用いられる曲線の設置法の修得 学習シート (4)、レポート (3)
5 回	Excel VBA によるデータ変換	SIMA 等に用いられるディジタルデータから CAD データの変換のプログラムを Excel VBA で作製する 学習シート (5)、レポート (4)
6 回	透視図	透視図を利用した形状外観の把握 学習シート (6)、レポート (5)
7 回	部品の作製・登録 (1)	CAD に用いる部品の製図と登録（鉄筋） 学習シート (7)、レポート (6)
8 回	中間試験	第 2 回～ 8 回に行った CAD データの利用法の修得を確認する。
9 回	部品の作製・登録 (2)	CAD に用いる部品の製図と登録（建枠） 学習シート (8)、レポート (7)
10 回	部品の作製・登録 (3)	CAD に用いる部品の製図と登録（踏板） 学習シート (9)、レポート (8)
11 回	部品の作製・登録 (4)	CAD に用いる部品の製図と登録（せき板等） 学習シート (10)、レポート (9)
12 回	応用製図 (1)	コンクリート型枠図の作成 (1) 学習シート (11)
13 回	応用製図 (2)	コンクリート型枠図の作成 (1) 学習シート (12)、レポート (10)
14 回	応用製図 (3)	側溝の作図 学習シート (13)、レポート (11)
	期末試験	CAD に使用する部品の作製、登録および利用法の修得を確認する。
15 回	解答返却など	成績・授業評価・ファイルの整理・不完全な答案の確認完了レポート (12)

【到達目標】	既存のデータを利用し、CAD 図面を書くことができることを目標とする。

【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	c-3

出典：シラバス

（分析結果とその根拠理由）

学習・教育目標に適した授業形態がとられ，カリキュラムが編成されている。専門科目ではどの学科も，実験・演習形式で行っている科目の割合が約４割を占めており，また，実験・演習形式で行っている科目は，どの学科も全学年でまんべんなく開設されている。学習・教育目標（Ａ１）（Ａ２）（Ｂ１）に関し，学習指導上の工夫がなされ，実践されている。

以上のことから，教育の目的に照らして授業形態のバランスは適切であり，学習指導法の工夫もなされている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

（ａ）シラバスの作成

- シラバスの全体像を紙媒体として配布し，各授業科目のシラバスは，Webサイト上に掲載し，学生がどこからでも参照できるようにしている。授業科目毎に授業内容のシラバスを紙媒体で配布している（資料５－２―②－１，２）
- 学習・教育目標や養成しようとする技術者像，具体的到達目標や各学科／専攻で修得する技術など，本校の教育理念をシラバスにまとめて示している
- 授業科目毎のシラバスは，Webサイト上で統一された書式に必要事項を記入するようにしており，統一した形式で表示，印刷出力できるようになっている（資料５－１－①－２）
- シラバスは，学習・教育レビュー室によりチェックを受け，必要な事項が適切に記入されていることを確認している
- 各試験結果を記入する欄や資格への道しるべ，JABEEに関する内容，授業時数や年間行事予定表など，学生生活に必要な事項を示し，学生に活用を促す工夫を行っている

（ｂ）シラバスの活用状況

- 年度当初の学年ごとに行われるオリエンテーションにおいて，新年度のシラバスを用いてその使い方について解説を行い，利用を促している（資料５－２－②－３）
- 授業科目の第１回目に担当教員がその授業のシラバスを配布し，コースガイダンスを行っている
- 学生が十分に活用しているとは言い難い状況にあるが，さまざまな機会にシラバスを活用するよう指導をしている（資料５－２－②－４）
- 教員は，作成したシラバスを学習・教育レビュー室でチェックを受け，また，学生への説明を行うことになっており，シラバスの重要性の認識は高い（資料５－２－②－５）

（ｃ）学修単位の表記と対応

- ４，５年の科目のほとんどに学修単位を導入しているが，学生便覧，シラバスに詳細に解説し，年度当初のオリエンテーションで説明している（資料５－２－②－６）。また，学修単位は，科目一覧などにおいて明示している（資料５－２－②－７）
- 学修単位を導入する上で，講義および演習の１単位授業時間を２５時間，実験，実習および実技の１単位授業時間を３０時間とすることで，日常生活での自学自習時間が無理なく確保できるように工夫している（資料５－２－②－６）

資料５－２―②－１　紙媒体シラバス（目次）

目　　次

１．はじめに ・・・

資料５－２－②－２　Web サイトのシラバス

シラバス

シラバスについて　H24(2012)年度

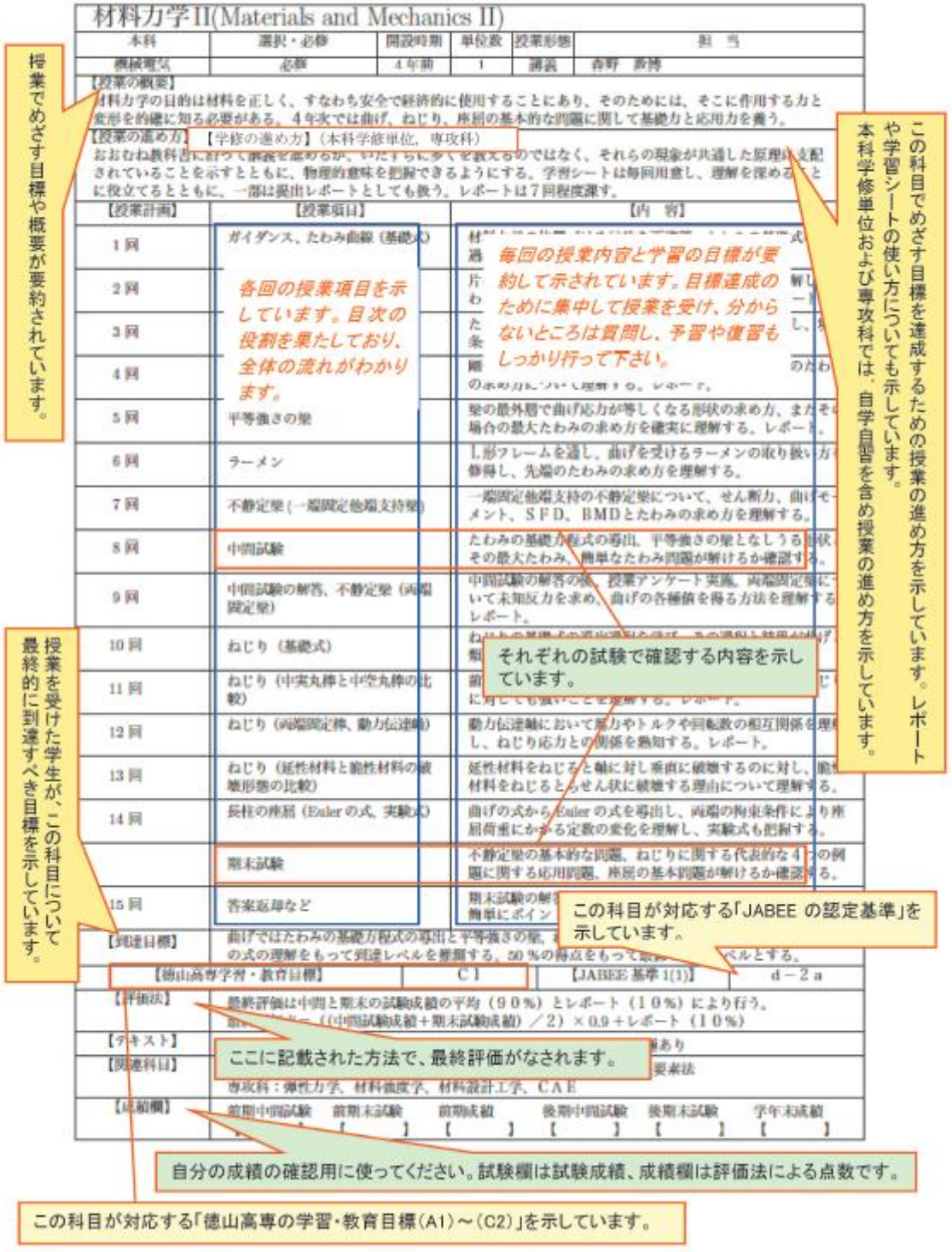
系統図
教養科目　機械電気工学科/機械制御工学専攻　情報電子工学科/情報電子工学専攻　土木建築工学科/環境建設工学専攻
数学系　物理系　化学生物系　国語系　英語系　創造系科目
(シラバスの解説)

本科	必修／選択	学年	(開設時期)　科目名		単位数
		1年	(通年)　基礎英語W	PDF	1
			(通年)　基礎英語R	PDF	2
			(通年)　化学基礎	PDF	2
			(通年)　国語総合 I	PDF	4
			(通年)　政治・経済	PDF	2
			(通年)　数学IA	PDF	3
			(通年)　歴史	PDF	2
			(通年)　生物基礎	PDF	2
			(通年)　体育	PDF	2
			(前期)　保健	PDF	1
			(前期)　数学IB(前期)	PDF	3
			(後期)　物理基礎	PDF	1
			(後期)　数学IB（後期）	PDF	3
		2年	(通年)　書道	PDF	2
			(通年)　数学IIB(ME2,IE2)	PDF	3
			(通年)　総合英語IW	PDF	2
			(通年)　美術	PDF	2
			(通年)　音楽	PDF	2
			(通年)　工芸	PDF	2
			(通年)　総合英語IR	PDF	2
			(通年)　数学IIA(前期)	PDF	3
			(通年)　国語総合 II	PDF	2
			(通年)　数学IIB（CA）	PDF	3
			(通年)　数学IIA(後期)	PDF	3
			(通年)　体育	PDF	2
			(通年)　歴史	PDF	2
			(通年)　倫理	PDF	2
			(通年)　基礎物理I	PDF	2
			(前期)　英会話	PDF	1
			(前期)　化学II	PDF	1
			(後期)　化学III	PDF	1
	必修	3年	(通年)　総合英語IIW	PDF	1
			(通年)　数学IIIA(CA3)	PDF	2
			(通年)　数学IIIA(IE3)	PDF	2
			(通年)　日本語	PDF	4
			(通年)　日本事情	PDF	2
			(通年)　総合英語IIR	PDF	2
			(通年)　法学	PDF	2
			(通年)　数学IIIA(ME3)	PDF	2
			(通年)　国語総合 II	PDF	2
			(通年)　数学IIIB　(IE3)	PDF	2

出典：本校 Web サイト

資料５－２－②－３　シラバスの解説

シラバスの解説



出典：シラバス

資料５－２－②－４　平成２３年度シラバスアンケート（学生結果）

シラバス活用度調査

学習教育レビュー室

■アンケート回収状況

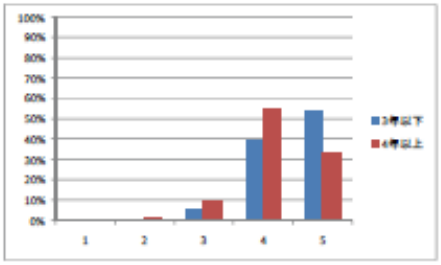
	本科	専攻科
回収数	618	60
学生数	648	66
回収率	95%	91%

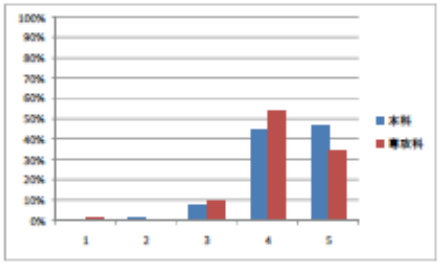
教員	
回収数	45
教員数	60
回収率	75%

【学生向けアンケート結果】

■あなたがシラバスを見る頻度を教えてください

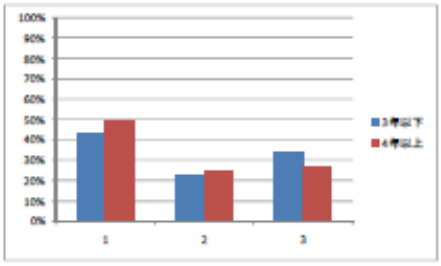
１．毎時間前　２．１日１回　３．週１回　４．定期試験前　５．全く見ない

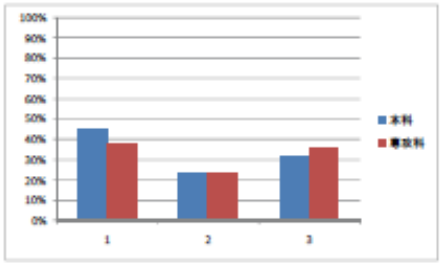




■シラバスは冊子としてあった方がよいと思いますか？

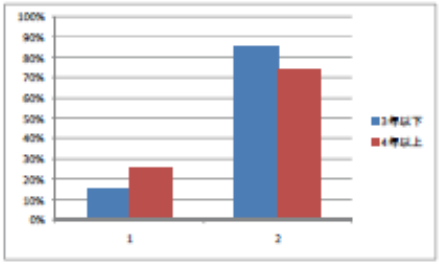
１．あった方がよい　２．ホームページ上に掲載されていればよい　３．冊子としてはいらないが、科目毎に配ってくれればよい

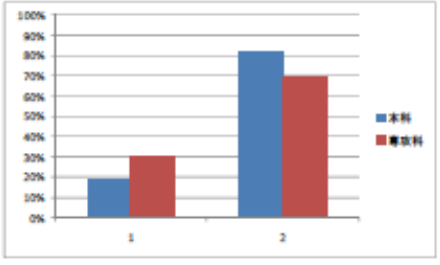




■シラバス冊子（学科共通版：始業前に配付）の巻末にある各学年の開設科目一覧を利用していますか

１．利用している　２．利用していない





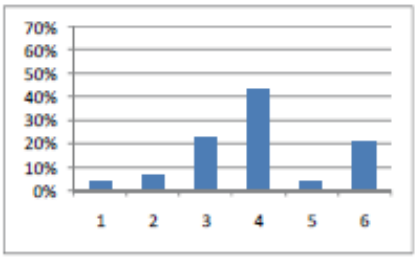
出典：学習・教育レビュー室資料

資料５－２－②－５　平成２３年度シラバスアンケート（教員結果）

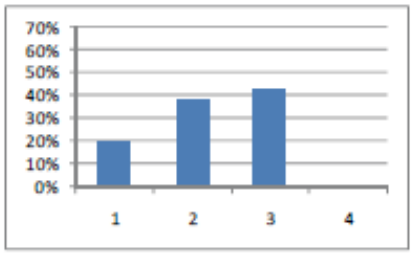
【教員向けアンケート結果】

問1：学生にシラバスを確認させる頻度を教えてください.
1：毎授業開始時，2：章毎(1ヶ月に1回程度)，3：定期試験前（年4回），4：年度初めに1回，5：全く確認させない，6：その他（問5で意見をお願いします）

問2：シラバスは冊子としてあった方がよいと思いますか？
1：あった方がよい　2：冊子としてはいらないが，科目毎に配ればよい，
3：ホームページ上に掲載されていればよい（冊子としてはいらない）　4：その他（問5で意見をお願いします）



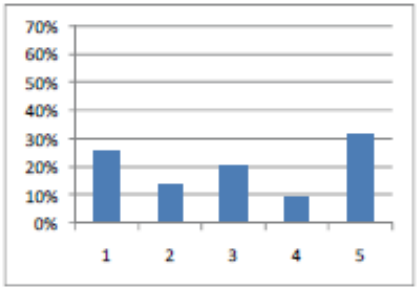
問1



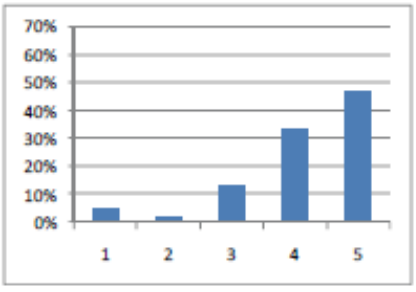
問2

問3：あなたがシラバスを書くときの各項目の重要度を５段階で答えください.

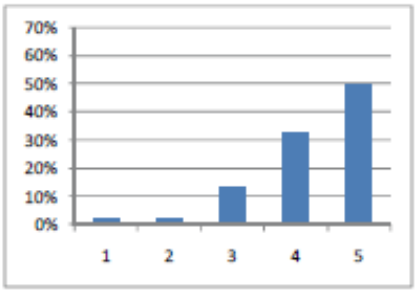
５段階評価，重要度が低い：１ → 重要度が高い：５



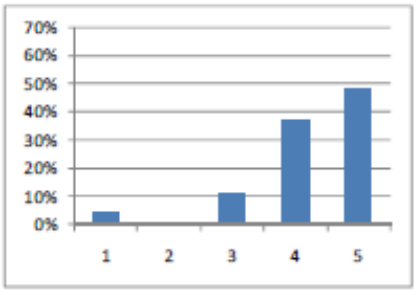
1．担当教員



2．授業の概要



3．授業の進め方



4．授業項目

出典：学習・教育レビュー室資料

資料５－２－②－６　学修単位と履修単位

学修単位と履修単位

本科の単位は「履修単位」と「学修単位」の二つに分かれます。これらは１単位の定義が次のように異なっています。

○ 履修単位

30 単位時間（1単位時間は 50 分：実質 25 時間）の履修で1単位

○ 学修単位

45 時間の学修を必要とする内容をもって1単位

これまで高専の授業科目はすべて「履修単位」でしたが、平成 17 年９月に高専設置基準の一部を改正する省令が公布され、大学や専攻科と同じ内容をもつ「学修単位」が 60 単位まで導入できるようになりました。本校では「学修単位」を導入するため平成 18 年度に学則の変更を行いましたが、平成 19 年度から４・５年次のほとんどの科目を「学修単位」とし、全面的に導入することにしました。

国際的に通用する「学修単位」の導入により、外国も含め他の高等教育機関との単位互換性が高まり、みなさんの円滑な移動もより確保されます。また、学校で受ける授業だけでなく、これまで高専では認められなかった**自学自習の時間も単位時間に加算**されることになりました。本校では、４・５年次のほとんどの科目を「学修単位」とし、自学自習の時間が実質的に確保できるよう、平成 18 年度（一部は 19 年度）よりカリキュラムを変更しました。「学修単位」を具体的に実施するにあたり、注意すべき点を次に示します。

１．導入内容

（１）講義及び演習で１単位とする授業時間：**25時間（100分＊15回）**

（２）実験、実習及び実技で１単位とする授業時間：**30時間（120分＊15回）**

（３）導入科目は４・５年次開講科目のうち、体育・工学セミナー・キャリアガイダンス・産業財産権・特別講義・卒業研究以外の科目が対象（＊印が該当科目）

２．自学自習時間の確保

○ 対象となる単位（法律上修得しうる最大単位（２年間で60単位）で考えた場合の概算）

60単位/２年間＝30単位/年・２学期＝15単位/年・半期　15**単位/５日＝３単位／日**

○ 自学自習に必要な時間

＜講義等：180分－100分＝80分　　実験等：180分－120分＝60分＞

・長期休暇も含めて考えた場合：　１日あたり　約90～100分（約１．５～２時間）

＜220～240分(80分＊３科目/日)＊５日＊１５週／（７日＊26週(半年)）＞

自学自習の習慣が身につくまで、当面の間は　**２時間の自学自習**　で実施する。

「学修単位」の導入により、１単位につき現行の30単位時間（実質25時間）から45時間と１．８倍の学修時間が必要となります。新たな技術を生み出し、厳しい国際社会のなかで生き残るため、これを契機に、**１～３年生も含め、自学自習の態勢を全員が確立し、本格的な実力養成**を図っていただきたいと思います。

出典：シラバス

資料５－２－②－７　学修単位の表示（抜粋）

別表第２（第１３条関係）
専門科目 機械電気工学科

授業科目		単位数	学年別単位数					備考
			１年	２年	３年	４年	５年	
必修科目	卒業研究	8					8	
	履修単位計	8					8	
必履修科目	機械の基礎	1	1					
	電気の基礎	1	1					
	技術発達史論	1	1					
	知的財産権	1			1			
※	技術者倫理	1					1	
	工業英語Ⅰ	1			1			
※	工業英語Ⅱ	1					1	
※	関数論	1					1	
※	確率・統計	1				1		
※	フーリエ変換	1				1		
	コンピュータ基礎	1	1					
	プログラミング基礎	2		2				
	プログラミング応用	1			1			
※	数値計算	1					1	
	電気回路Ⅰ	1			1			
※	電気回路Ⅱ	1				1		
	電子回路Ⅰ	2			2			
※	電子回路Ⅱ	1				1		
※	電磁気学	2				2		
	アクチュエータ	1			1			
※	制御工学Ⅰ	1				1		
※	制御工学Ⅱ	2					2	
※	計測工学	2					2	
	加工学	1		1				
	機構学	1			1			
	工業力学	1			1			
※	機械力学Ⅰ	1				1		
※	機械力学Ⅱ	1					1	
※	計算力学	1					1	
	材料学Ⅰ	2			2			
※	材料学Ⅱ	1				1		
	材料力学Ⅰ	1			1			
※	材料力学Ⅱ	2				2		
※	弾塑性論	1					1	
	水力学Ⅰ	1			1			
※	水力学Ⅱ	1				1		
※	熱力学	2				2		
※	熱機関	1					1	
※	機械設計論Ⅰ	1				1		
※	機械設計論Ⅱ	2					2	
	基礎設計製図Ⅰ	2	2					
	基礎設計製図Ⅱ	2		2				
	設計製図Ⅰ	1			1			
※	設計製図Ⅱ	2				2		

出典：学生便覧

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育目標の授業内容が分かるように，統一された形式でシラバスが作成され，学習・教育レビュー室でシラバスに関する種々のチェックが適切に行われている。

全学生に，毎年シラバスを配布し，シラバスの活用を促す様々な工夫や随時説明を行うなど啓蒙に努めている。

以上のことから，本校のシラバスは教育の理念に従って作成されており，教員は十分に重要性を認識し，学生への周知も工夫されている。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

（ａ）創造教育

・　高専の特徴は，高校年齢段階から自由度の高い，かつレベルの高い専門教育を行えることにある。この特質を最大限に活かした教育として創造教育の取り組みを進めている

・　機械電気工学科では，創造演習，創造製作，総合実地演習（２年次のインターンシップ），自己提案型卒業研究を創造系の科目と位置づけて，学年ごとに学生が発想する時間を設け，これを途切れなく行わせることで，発想力の向上に努めている（資料５－２－③－１）

・　情報電子工学科では，プログラミングを中心に位置づけ，学年ごとにプログラミング演習，コンピュータシステム実験，創造演習，創造製作，電子通信システム実験，情報システム実験を途切れなく行わせることで，発想力の向上に努めている（資料５－２－③－１）

・　土木建築工学科では，デザインコペティションを中心に据え，低学年での創造演習から高学年での実験・実習を行わせることで，発想力の向上に努めている（資料５－２－③－１）

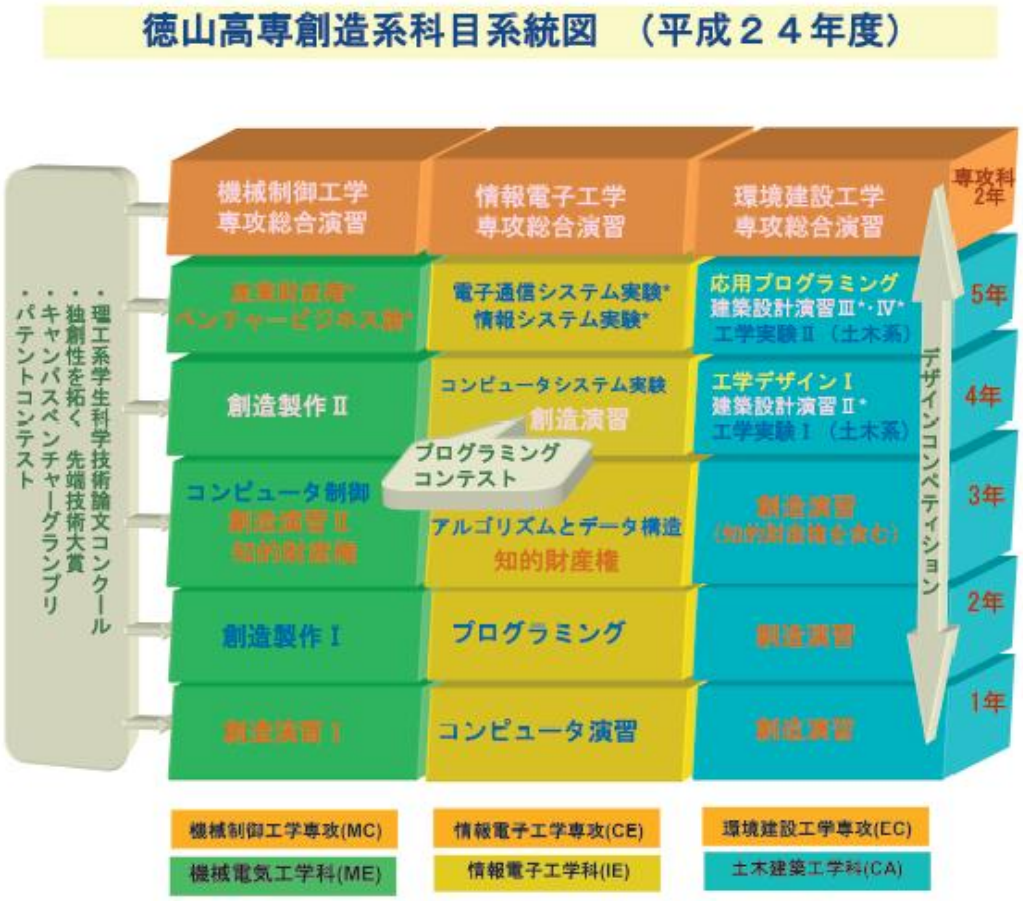
・　全国レベルの各種コンテストにおいて成果を挙げている（資料５－２－③－２）

（ｂ）インターンシップ

・　全学において，本科４年次にインターンシップを実施している（資料５－１－②－４）

・　機械電気工学科においては，本科２年次にもインターンシップを実施している

資料５－２－③－１　創造教育系統図



各科目名の色は本校学習教育目標のそれぞれに対応しています．
黄色：A1　青色：B1　ピンク色：C1　オレンジ色：C2
また，＊は選択科目を表しています．

この創造系科目では“**自分自身で課題を見出し，自らの発想により答えを見つけ，新しいものを生み出す力を養成すること**”を目的としています．

上記はその代表・典型的な科目です．

各科目の詳細についてはシラバスを参照して下さい．

上記のコンテストやコンペティションなどは学科・学年に関わらず，以下の各窓口を通じて，誰でも応募することができます．

・パテントコンテスト：　機械電気工学科　藤本　浩
・プログラミングコンテスト：　情報処理センター
・デザインコンペティション：　土木建築工学科　田村 隆弘

（注）上述のその他のコンクール等は自由に応募可能です．

出典：シラバス

資料５－２－③－２　各種コンテスト成果

（文化系）
全国高専第 22 回プログラミングコンテスト（主管：舞鶴高専）
大会期日：平成 23 年 12 月 21～23 日　会場：舞鶴市総合文化会館
大会結果：自由部門　「Let's クッ王　－レッツクッキング－」　敢闘賞
第 27 回中国地区高専英語弁論大会（主管：宇部高専）
大会期日：平成 23 年 11 月 4～5 日　会場：COCOLAND（ココランド）山口・宇部
大会結果：暗誦の部　2 位、スピーチの部　3 位
全国高専デザインコンペティション 2011（主管：釧路高専）
大会期日：平成 23 年 11 月 12～13 日　会場：釧路市観光国際交流センター
大会結果：環境デザインコンペティション部門　優秀賞
構造デザインコンペティション部門　審査委員特別賞
空間デザインコンペティション部門　入選
第 35 回全日本アンサンブルコンテスト山口県大会（大学の部）
（平成 23 年 12 月 18 日、山口県吹奏楽連盟主催、山陽小野田市）
サクソフォーン五重奏　銅賞、クラリネット四重奏　銀賞、管打楽器三重奏　銅賞
第 5 回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト（主管：岐阜高専）
大会期日：平成 24 年 1 月 28～29 日、会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
プレゼンテーション部門　特別賞（全国高等専門学校英語教育学会会長賞）
第３回３Ｄ－ＣＡＤプロダクトデザインコンテスト
（主催：日本工業大学、期日：10 月 16 日、会場：日本工業大学）
大会結果：テーマ部門　審査員特別賞、　自由デザイン部門　優秀賞
第２回ＪＰＭ学生コンテスト（主催：財団法人 日本賃貸住宅管理協会 東京支部、期日 10 月 25 日（火）、会場：ホテルグランドヒル市ヶ谷）
大会結果：SUUMO 賞（特別協賛会員賞）
周南まちづくりコンテスト 2011（主催：徳山大学、期日：１１月５日、会場：徳山大学）
大会結果：高校生部門　最優秀賞
大学・高専部門　優秀賞
第１回萬賞学生アイディアコンペティション（主催：全国陶器瓦工業組合連合会）
大会結果：銅賞
「段違い階段」デザインコンペティション（主催：株式会社杉原クラフト主催）
大会結果：佳作
第１９回衛星設計コンテスト（主催：日本機械学会等、期日：11 月 12 日、会場：東京一橋記念堂）
大会結果：日本航空宇宙学会賞（アイデアの部）

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

創造教育は平成７年度から取り組みを始め，継続的に改善を行っている。創造教育の成果を対外的なコンテストに応募したり，創造教育の成果として生まれたアイデアを実用化する上で必要な特許に関する教育を組み込んだりしている。

以上のことから，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用は十分行われている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

広い視野を持った優れた技術者を育てるためには，豊かな教養を身につけることと，専門知識や技術を修得するのに必要な学問的基礎を養うことが重要である。ＥＱ「こころの知能指数」が優れた人材は，組織を活性化し，目的の達成に貢献し，社会で活躍することが多く実証されていることから，本校では，ＥＱを伸ばす場であるクラブ活動，ホームルーム活動などに学校を挙げて積極的に取り組んでいる。また，１年生については，専門の授業科目を除いて学科の枠をはずした混合学級を実施することで，多感な世代の入学生に対して，高等専門学校の学習環境に早く適応できるよう配慮している。

（ａ）一般教育の充実

・　一般教育の充実を目指し，人文・社会系科目，自然科学系科目を多数開講している。また，教養の支柱となる，「倫理」「法学」「哲学」では，専任教員を配置している。更に，豊かな人間性を育む芸術系科目を選択必修として配置している（資料５－３－①－１，資料５－１－①－１）

（ｂ）ホームルーム活動

・　特別教育活動として，準学士課程１～３年生は毎週１回，ロングホームルームを行っており（資料５－３－①－２），年間３０回（１回は１単位時間）の授業回数を確保し，設置基準で定められている９０単位時間を満足している

・　ホームルームはクラス担任が中心になって運営するが，担任に一任するのではなく，キャリア教育支援室や学生相談室が人間性を涵養する上で各学年にふさわしい活動を計画し，全学的に取り組んでいる（資料５－３－①－２）

・　準学士課程１～４年生では，毎朝，ショートホームルームを実施し，学生の心身の健康状態に配慮し規則正しい学生生活を支えている（資料５－３－①－３）

（ｃ）学生相談室の設置

・　主として学生のメンタル面での問題に対応するために学生相談室を設置している。メンバーは教員４名と専任の看護師１名，外部の専門カウンセラー２名，精神科医１名で構成している（資料５－３－①－４）

（ｄ）クラブ活動の状況

・　クラブ顧問の決定に際しては，学生，教員の双方から希望を募り，マッチングを行うようにしている（資料５－３－①－５）

・　クラブ顧問には，原則，全教員を配当し，学生のクラブ活動を支援している。また，クラブ活動指導の日を定め，できる限りクラブ指導が行えるように配慮している（資料５－３－①－６）

・　高体連，高野連に加盟することで，準学士課程１～３年生が高校と同様な体育系クラブ活動が出来るように支援している

（ｅ）その他の課外活動（高専夢広場）

・　周南市街中に開設している高専夢広場においては，各種イベントを通じ，学生・教職員と地

域の人々との交流が図られ，人間性の涵養に役立っている（資料５－１－②－７，資料５－３－①－７）

資料５－３－①－１　一般科目一覧

別表第１（第１３条関係）
一般科目

※印は学則第１４条第２項に定める単位を示す。

授業科目			単位数	学年別単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必履修科目		国語総合Ⅰ	4	4					
		国語総合Ⅱ	4		2	2			
		歴史	4	2	2				
		倫理	2		2				
		政治・経済	2	2					
		法学	2			2			
		数学ⅠA	3	3					
		数学ⅠB	3	3					
		数学ⅡA	3		3				
		数学ⅡB	3		3				
		数学ⅢA	2			2			
		数学ⅢB	2			2			
	※	微分積分学	1				1		
	※	微分方程式	1				1		
	※	ベクトル解析	1				1		ME，IE
	※	線形代数	1					1	CA
		生物基礎	2	2					
		物理基礎	1	1					
		物理Ⅰ	2		2				
		物理Ⅱ	2			2			
	※	力学	1				1		ME，IE
	※	一般物理	1				1		CA
		化学基礎	2	2					
		化学Ⅰ	1		1				
		化学Ⅱ	1		1				
		体育	8	2	2	2	2		
		保健	1	1					
		芸術	2		2				
		基礎英語	3	3					
		総合英語Ⅰ	4		4				
		総合英語Ⅱ	3			3			
	※	総合英語演習Ⅰ	2				2		
	※	総合英語演習Ⅱ	1					1	
		英会話	3		1	1	1		
	履修単位計		76	25	25	16	9	1	ME，IE
							8	2	CA
選択科目	人文・社会	※ 日本語コミュニケーション	1				1		
		※ 哲学	1				1		
		※ 世界経済	1				1		
		※ 中国文学	1				1		
		※ 歴史学	1					1	
		※ 言語学概論	1					1	
		※ 心理学	1					1	
		※ 人文社会特講	2				1	1	
	外国語	※ ドイツ語	3				2	1	
		※ 英語特別演習	1					1	
		※ 中国語	3				2	1	
	自然科学	※ 生物学	1				1		
		※ 物理化学	1				1		
		※ 環境科学	1				1		
		※ 健康科学	1				1		
		※ 自然科学特講	1				1		
	開設単位計		21				14	7	
	履修単位計		5				3	2	
履修単位合計			81	25	25	16	12	3	ME，IE
							11	4	CA
特別活動			3	1	1	1			

注①　４学年では人文・社会領域から２科目または外国語領域から１科目選択し、自然科学領域から１科目選択する。
②　５学年では人文・社会領域から２科目または、人文・社会領域、外国語領域からそれぞれ１科目選択する。ただし、ドイツ語及び中国語は４学年で履修した科目を継続する場合に限り選択することができる。

ＭＥ：機械電気工学科　　ＩＥ：情報電子工学科　　ＣＡ：土木建築工学科

出典：学生便覧

資料５－３－①－２　ロングホームルーム実施計画表

平成24年度　前期HR実施計画表

学年		1年			2年			3年			備考
クラス		1組	2組	3組	ＭＥ	ＩＥ	ＣＡ	ＭＥ	ＩＥ	ＣＡ	
担任		前川直也	柏倉知秀	米田都生	伊藤尚	百田正広	海田辰将	石田浩一	池田信彦	目山直樹	
4月	5	始業（合同HR・学科HR・クラスHR）									
	12	クラス役員選出	学級役員選出	学級役員選出	役員選挙	学級役員選出	1分間スピーチ	役員選出	クラス役員決め等	進路調査 3年生の過ごし方	
	19	担任講話	クラスマッチ準備	クラス企画	自己申告表の記入	教員講話（高山）	クラスマッチ準備	担任の話 個人面談	担任の話／HR計画策定	技術者マインド①	
	26	クラスマッチ準備	担任講話	クラスマッチ準備	自己紹介	合宿研修企画準備	学習時間の管理・学生生活ノート	担任の話 個人面談	スポーツ（野球場・体育館）	技術者マインド②	
5月	10	担任講話	担任講話	クラス企画	高専生活の過ごし方（専攻科生のアドバイス）（メディアホール）			席替えと清掃	３年生の心構え	特別講話（防災）	
	17	キャリア教育支援室紹介（メディアホール）			クラス面談Ⅰ	担任の話	専門学習① 大震災	クラス企画	クラス企画	技術者マインド③	
	24	15:10～心電図検査（保健室）			クラス面談Ⅱ	将来の夢	専門学習②	社会の求める人材（メディアホール）			
	31	担任講話	担任講話	勉強会	クラス面談Ⅲ	クラス企画	工場見学予備学習	勉強会	勉強会	レクリエーション①	
6月	5	（木曜授業）前期中間試験に向けての諸注意									
	7	前期中間試験　（　６／７～１２　）									
	14	特別時間割　（ＨＲは実施しません）									
	21	高専生活の過ごし方（５年生のアドバイス）（メディアホール）			レクリエーション	スポーツ（グランド・体育館）	工場見学ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	キャリアプランの作成Ⅰ			
	28	席替え	席替え	席替え	スピーチ	クラス企画	工場見学振替授業	個人面談	将来に向けて	技術者マインド④	
7月	5	デートＤＶ講演会（学生相談室企画）（メディアホール）			担任指導	担任の話	工場見学HP作り（写真）	席替えと清掃	クラス企画	特別講話（講師未定）	
	12	後期クラスマッチ準備	クラスマッチ高専祭準備	クラスマッチ高専祭準備	前期末試験対策	期末試験勉強会	期末試験と夏休みの過ごし方	キャリアプランの作成Ⅱ			
	19	前期末試験に向けての諸注意									
	26	前期末試験　（　７／２６～８/２　）									
8月	2	前期末試験　（　７／２６～８/２　）									
	9	特別時間割　（終業合同ＨＲ及びクラスＨＲを実施）									

出典：教務係資料

５－３－①－３　ショートホームルーム実施要項

SHR の実施について

SHR を下記のとおり実施する。

記

1．目的
- 毎日の学生の健康・安全管理
- 学習の生活習慣の確立

2．実施形態
ア．実施日：　毎日（授業日）
イ．時間帯：　８：４０－４５
ウ．場所：　教室
エ．対象学年：　１～４年
オ．担当者：　クラス担任
※実施できない場合は１年は一般科目、２年以上は当該学科の教員が代行。
バックアップ体制は一般科目、各学科に一任。
カ．内容
- 出欠確認　（SHR 専用出欠簿・教務係保管）
- 諸連絡
- 健康状態のチェックと対応

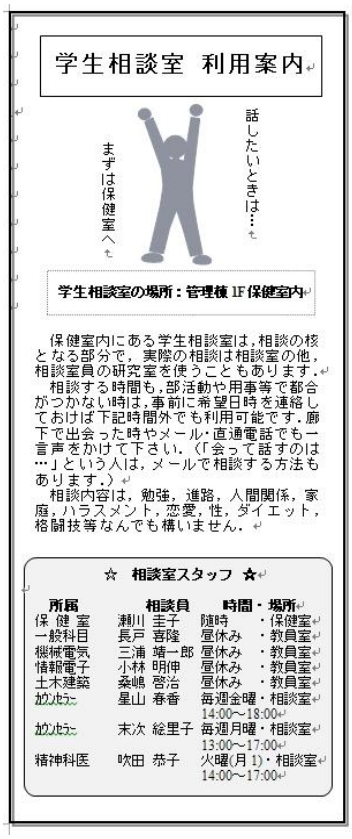
3．欠席等への対応
ア．学生の健康・安全チェックと生活習慣の確立に重点を置く。
イ．欠席者で、連絡のない学生については家庭等へ連絡をとり、本人の所在や欠席理由等を確認する。
ウ．出欠は当面担任や学科の生活習慣指導の対象に留め、特別活動の出欠には反映しない。

4．授業日課

[本科]		[専攻科]	
SHR	８：４０－　８：４５		
１時限	８：５０－　９：４０	１時限	８：５０－１０：４０
２時限	９：４５－１０：３５		
３時限	１０：４５－１１：３５	２時限	１０：４５－１２：３５
４時限	１１：４０－１２：３０		
５時限	１３：１５－１４：０５	３時限	１３：１５－１５：０５
６時限	１４：１０－１５：００		
７時限	１５：１０－１６：００	４時限	１５：１０－１７：００
８時限	１６：０５－１６：５５		

出典：学級担任の手引き

５－３－①－４　学生相談室案内



学生相談室 利用案内

まずは保健室へ

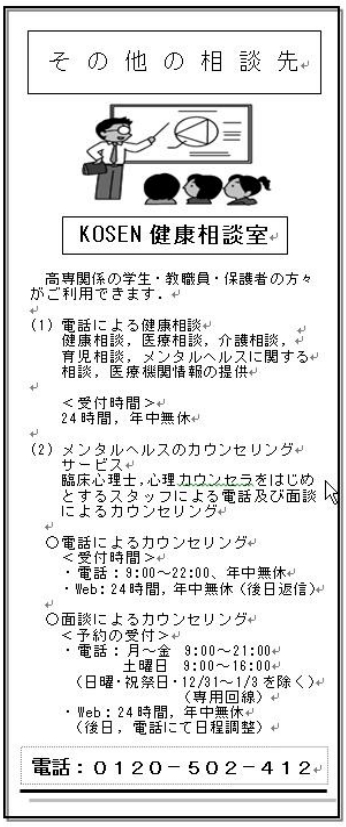
話したいときは…

学生相談室の場所：管理棟 1F 保健室内

保健室内にある学生相談室は，相談の核となる部分で，実際の相談は相談室の他，相談室員の研究室を使うこともあります．
相談する時間も，部活動や用事等で都合がつかない時は，事前に希望日時を連絡しておけば下記時間外でも利用可能です．廊下で出会った時やメール・直通電話でも一言声をかけて下さい．（「会って話すのは…」という人は，メールで相談する方法もあります．）
相談内容は，勉強，進路，人間関係，家庭，ハラスメント，恋愛，性，ダイエット，格闘技等なんでも構いません．

☆　相談室スタッフ　☆

所属	相談員	時間・場所
保 健 室	瀬川 圭子	随時　・保健室
一般科目	長戸 喜隆	昼休み　・教員室
機械電気	三浦 靖一郎	昼休み　・教員室
情報電子	小林 明伸	昼休み　・教員室
土木建築	桑嶋 啓治	昼休み　・教員室
カウンセラー	星山 春香	毎週金曜・相談室 14:00～18:00
カウンセラー	末次 絵里子	毎週月曜・相談室 13:00～17:00
精神科医	吹田 恭子	火曜(月1)・相談室 14:00～17:00



その他の相談先

KOSEN 健康相談室

高専関係の学生・教職員・保護者の方々がご利用できます．

(1) 電話による健康相談
健康相談，医療相談，介護相談，
育児相談，メンタルヘルスに関する相談，医療機関情報の提供

＜受付時間＞
24時間，年中無休

(2) メンタルヘルスのカウンセリング
サービス
臨床心理士，心理カウンセラをはじめとするスタッフによる電話及び面談によるカウンセリング

○電話によるカウンセリング
＜受付時間＞
・電話：9:00～22:00、年中無休
・Web：24時間，年中無休（後日返信）

○面談によるカウンセリング
＜予約の受付＞
・電話：月～金　9:00～21:00
土曜日　9:00～16:00
（日曜・祝祭日・12/31～1/3を除く）
（専用回線）
・Web：24時間，年中無休
（後日，電話にて日程調整）

電話：０１２０－５０２－４１２



学生のみなさん
こちらは学生相談室です

2012 年度版

Welcome!

相談室案内

編集・発行
徳山工業高等専門学校
学生相談室
(2012 年 4 月)

出典：学生相談室パンフレット

資料５－３－①－５　クラブ顧問調査

平成 23 年 12 月 7 日

各クラブ（同好会）部長

学生会体育局長・文化局長
学生主事室（担当主事補：柳澤秀明）

クラブ顧問希望調査について

各クラブにおかれましては，日常からの研鑽を積み，成果を残している所と存じます。
さて，本校においては，クラブ活動に関しまして，顧問教員として１名以上配置することが，徳山工業高等専門学校学生会会則第 31 条第２項に定められています。また，諸手続において，顧問教員の同意が必要であることは，既にご承知のことと存じます。
本希望調査は，**来年度のクラブ活動**において，各クラブが希望する顧問教員を調査し，顧問教員の割当の参考とさせて頂く資料となります。下記の注意事項に従って，希望する教員名を３名，記載して下さい。
今後のクラブ活動の活性化を期待します。

記

１．調査事項：
平成 24 年度のクラブ顧問として希望する教員名を挙げて頂く

２．回答者：
現クラブ部長（同好会含む）
注：バスケットボール部は，男子１クラブ，女子１クラブの男女別で回答を行う。

３．注意事項：
本調査は，来年度の活動において，配置する顧問教員を決定するために行います。そのため，来年度の新体制が確定している部活においては，その**新体制での部長と相談の上，現クラブ部長が回答**してください。また，希望の取得を行いますが，全クラブに対しての調整となりますので，全ての希望を満たすことは事実上不可能であることは，事前にご承知下さい。
回答無き場合は，部長不在（もしくは来年度の活動体制無し）で活動が見込まれないと見なして，顧問の割当を行わない（顧問の割当無し＝つまり廃部の対象）となりうるので，必ず期限内に回答すること。

４．提出先・日時：
平成 23 年 12 月 16 日（金）昼休みまでに，学生係へ本紙を提出

５．回答欄（回答者の属性，並びに，希望する教員名３名連記）

部活名：陸上　部・同好会

回答者：情報電子 学科　4 年　氏名：[redacted]

希望する教員名１：上 俊示

希望する教員名２：小田 和広

希望する教員名３：北村 健太郎

荒谷 智司

以上

出典：学生係資料

資料５－３－①－６　クラブ活動と顧問教員一覧

平成２４年４月１日

平成２４年度クラブ顧問教員

記

総　括	学生主事	佐賀　孝徳

局名	番号	クラブ名	連絡・代表者 / 顧問教員氏名			
体育局	1	陸上部	上　俊二	北村健太郎	荒谷 督司	目山　直樹
	2	バスケットボール部（男子） （女子）	原田　徳彦 新田　貴之	義永　常宏 山田　健仁	高山　泰博 中川　明子	
	3	バレーボール部	奥本　幸	国重　徹	天内　和人	佐賀　孝徳
	4	ソフトテニス部	西尾幸一郎	鈴木　厚行	熊野　稔	渡辺　勝利
	5	卓球部	長戸　喜隆	小林　明伸	米田　郁生	平栗　靖浩
	6	剣道部	柏倉　知秀	高橋　愛	牧野　俊昭	
	7	水泳部	杉村　敦彦	桑嶋　啓治	伊藤　尚	長廣　恭子
	8	硬式野球部	橋本　堅一	田村　隆弘	島袋　淳	桑嶋　啓治
	9	サッカー部	藤田　重隆	守川　和夫	張間　貴史	三浦靖一郎
	１０	バドミントン部	栁澤　秀明	古賀　崇了	笠置　映寛	**大橋　正夫**
	１１	ハンドボール部	池田　光優	重村　哲至	西村　太志	森﨑　哲也
	１２	テニス部	櫻本　逸男	百田　正広	池田　信彦	
	１３	アーチェリー部	海田　辰将	石田　浩一	目山　直樹	
	１４	柔道部	前川　直也	原　隆	古田　健一	
	１５	スキー・スノーボード同好会	天内　和人			
	１６	ダンス同好会	島袋　淳			

文化局	1	美術部	小川　仁志	鈴木　厚行		
	2	音楽部	古田　健一	米田　郁生		
	3	写真部	大橋　正夫	工藤　洋三	目山　直樹	
	4	吹奏楽部	小林　明伸	森﨑　哲也	古田　健一	
	5	文芸部	一色　誠子			
	6	メカトロシステム部	藤本　浩	西村　太志		
	7	ニューメディア部	力　規晃	重村　哲至	守川　和夫	高山　泰博
	8	茶道部	中川　明子	奥本　幸		
	9	英語に親しむ同好会(ELA)	国重　徹	小川　仁志		
	１０	囲碁同好会	飛車　来人			
	１１	伝統文化に親しむ同好会	長廣　恭子	谷本　圭司		
	１２	インターアクト同好会	張間　貴史	藤田　重隆	荒谷 督司	谷本　圭司
	１３	模型同好会	石田　浩一			
	１４	園芸同好会	一色　誠子			
	１５	生物同好会	天内　和人			

出典：学生係資料

資料５－３－①－７　夢広場イベント案内

徳山高専夢広場へようこそ

誰でもお気軽に参加ください

街と高専をつなぐ、商店街の夢広場。
学生、先生、地域の方々が一緒になって充実した時間を過ごしています。



哲学カフェ



留学生のふるさと展



パソコン若葉相談室

あなたのスキルアップをサポートするだけでなく、あなたにとって楽しく、充実した時間を過ごしていただける空間となることを私達は願っています。

そんな空間にあなたも訪れてみませんか？

開催中イベント

パソコン若葉相談室(水曜日)
あなたのパソコンスキルアップをお手伝いさせていただきます。
5月は16日・30日に開催します。

いんぐりっしゅるーむ(毎週金曜日)
お菓子をつまみながら、英語と触れ合ってみませんか？
5月は11日・18日・25日に開催します。

英語多読教習所(月2回月曜日)
読むことで身につく力がある。そんな体験を提供します。
5月は7日・21日に開催します。

哲学カフェ(月2回水曜日)
コーヒー片手におしゃれなBGMを聴きながら、小粋に「自由」や「愛」を語りましょう。
5月は9日・23日に開催します。

サイエンス・アゴラ(日曜日)
楽しく気軽に科学について考えてみませんか。
日程はこちら

公開講座

出典：高専夢広場 Web サイト

（分析結果とその根拠理由）

一般教育の充実のため，人文・社会系科目，自然科学系科目に専任教員を配置している。準学士課程１～３年生では，特別教育活動としてホームルームを年間３０単位時間行っており，そのなかで，キャリア教育支援室や学生相談室が各学年にふさわしい諸活動を計画し，実施しており，人間性の涵養に全学的に取り組んでいる。また，１～４年生には，毎朝，ショートホームルームを実施することで，学生生活を支援している。学生相談室による学生の指導・支援が，メンタル面において十分になされている。多数のクラブ活動を支援し，各クラブ顧問は教員，学生とのマッチングにより決めており，人間性の涵養に高い効果を上げている。高専夢広場で地域との連携を図り，人と人との交流から人間性の涵養に努めている。

以上のことから，教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等が図られるよう配慮されており，また，教育の目的に照らして，一般教育，生活指導，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されている。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

（ａ）評価・認定の規定と学生への周知方法

・　成績評価や進級・卒業認定規定は教務規則として定められており，学生便覧，本校Webサイトに開示されている（資料５－４－①－１，２）

・　学生には，毎年学生便覧が配布され，始業日のオリエンテーションにより教育方針や規定などを周知している。また，新入生には入学時のオリエンテーションで，学生便覧をもとに，教育方針，評価や規定について説明がなされている（資料５－４－①－３）

・　各科目の成績評価法はシラバスに明記されており（資料５－１－①－６），学生には各授業科目開始時に，シラバスをもとに各科目の評価法について説明がなされている

（ｂ）成績評価，進級認定，卒業認定

・　各科目の最終成績は，シラバスに記載された評価法により評価される（資料５－１－①－６）

・　成績評価に用いた資料は，定期試験の答案は原則としてすべての試験について全員分，レポートは代表的なものをファイルに保存し，第三者にも評価の状況がわかるよう，最近の３ヶ年分を資料室に保管している（資料５－４－①－４）

・　成績評価資料は，学習・教育レビュー室によりすべての科目についてチェックを受けている。さらに，試験問題の妥当性などに関し，教員間でピアレビューを行っている（資料５－４－①－５）

・　学生には，原則として試験が終了した翌週に答案が返却され，解答および解説によりチェックの機会が与えられ，採点の修正を可能としている（資料５－１－①－６）

・　再試験に関する規則を整備して学生に説明し，時間割に従って実施している（資料５－４－①－６，７）

・　再試験で評価を変更した場合は，保管している成績評価資料に追加・変更している

・　単位認定，進級認定は，学生便覧等に示された規定に従い，全教員が出席する学年修了

認定会議で審議の上，校長が行う（禁帯出：学年修了認定会議議事録）。卒業認定も同様に，卒業認定会議で審議の上，校長が行う（禁帯出：卒業認定会議議事録）。

資料５－４－①－１　進級，卒業認定規定

（７）　進級・卒業について

１．進　級

学年の課程修了を認定されたら次の学年に進級できますが，次のいずれかに該当した場合，留年となり，もう一度全ての科目の再履修（４・５年の特例科目を除く）が必要となります。

○ 学年末での累積不可単位が１０単位を超える。
○ 学年評価の全科目の平均点が５０点未満である。
○ ３学年以下の学生で特別活動を履修しなかった。
○ 遅刻等換算後の欠席日数が年間２５日を超えた。（欠席理由等による特例措置有）

２．卒　業

卒業は，卒業研究の科目を修得し，授業科目１６７単位以上（一般科目７５単位以上，専門科目８２単位以上）修得した場合にその要件を満たします。

出典：学生便覧

資料５－４－①－２　本校 Web サイトの学生便覧

学生便覧について

参照には、Get ADOBE READER が必要です。Acrobat Readerのダウンロードはこちらから。

目　次

1. 一般的な心得（PDF）
（１）学生の守るべきルールとマナー
（２）学生課事務室案内
（３）学級役員とその任務
（４）情報の伝達について
（５）学生証について
（６）各種証明書が必要なときは
（７）こんな時は届け出が必要
（８）いろいろな願い出
2. 学習心得（PDF）
（１）学習・教育目標，養成しようとする技術者像
（２）教育課程と科目履修について
（３）試験について
（４）成績評価について
（５）外部修得単位・資格取得等について
（６）遅刻，欠席，欠課，早退について
（７）進級・卒業について
（８）休学・復学・退学について
（９）校外実習について
（10）教育課程修了後の受験資格等について
3. 学生生活心得（PDF）
（１）学則・準則の遵守について
（２）日常の学生生活について
（３）通学について
（４）課外活動について
（５）各種施設・用具の使用について
（６）授業料等の免除について
入学料，授業料，寄宿料
（７）奨学金制度について
（８）保健衛生・学生相談について
（９）災害給付・補償制度について

出典：本校 Web サイト

資料５－４－①－３　始業式日程表

平成２４年度始業式(４月５日)日程表

徳山工業高等専門学校

Ⅰ　合同HR(9:00～9:40)(8:50集合)

○　場　所：第２体育館

○　出席者：本科生・専攻科生全員、教員全員、関係職員

１．校長、教務主事、学生主事の話

２．新任教員、編入生、留学生の紹介

３．連絡事項（本日の予定について）

Ⅱ　学科HR(10:00～10:40)

○　場　所：ME/MC：第２体育館　ＩE/CＥ：メディアホール　　CA/EC：第１体育館

○　出席者：本科生・専攻科生全員、教員全員

１．主任の話（学科／専攻のめざすべき技術者像、当年度の目標、心構え、など）

２．再度、新任教員、編入生、留学生の紹介

３．進路状況について

４．教務関係や学生関係に関し、各学科の事情に合わせて内容を選び、話す

Ⅲ　本科はクラスHR(10:50～11:40)

・専攻科はオリエンテーション(10:50～15:00／終了後解散)

（専攻科担当：専攻科長、専攻幹事、教務係／内容は別紙参照）

○　場　所：本科／各ＨＲ　　専攻科／教室・管理棟２階大会議室

○　配布物：全員／学生便覧、学生証　　専攻科生／研究日誌、専攻科履修要覧

Ⅳ　本科1年生は合宿研修説明会(11:50～12:40／終了後解散

○　場　所：メディアホール　　**※1年生のオリエンテーションは4月6日に実施)**

○　参加者：１年生、４・５年の指導学生、学生主事、学生主事補、１年担任、学生係職員

Ⅴ　オリエンテーション(13:15～15:20)　※先生方もいずれかに出席をお願いします。

○　場　所：第２体育館に全員集合　学生主事の話の後

本科２～３年／第２体育館，本科４～５年／第１体育館に分かれて実施

○　所持品：学生便覧、シラバス、筆記具、研究日誌（５年生）

１．出席確認／クラス担任（１３：１５～１３：２０）　高橋主事補に報告

２．情報モラルについて（学生主事）（１３：２０～１３：５０）

本科４～５年は第１体育館に移動（出席確認／クラス担任）　高橋主事補に報告

３．教育方針ならびに教務関連について（１４：００～１４：３０）

○　担当：２～３年／教務主事補（中川）　４～５年／教務主事補（森崎）

４．学生生活について（１４：３０～１５：００）

○　担当：２～３年／学生主事輔（小川）　４～５年／学生主事（佐賀）

５．キャリア教育支援室について（１５:００～１５：２０）

○　担当：２～３年／（ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）　４～５年／（ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）

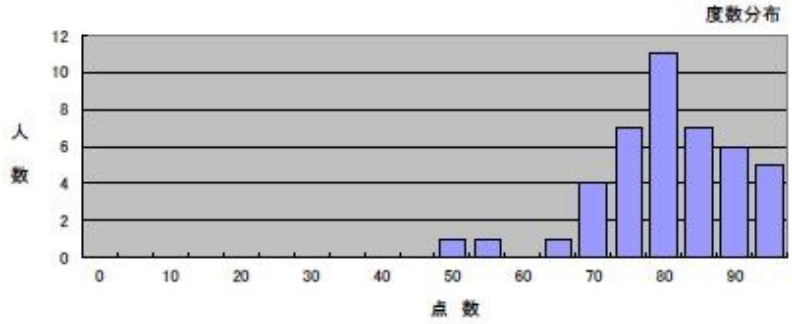
出典：教務係資料

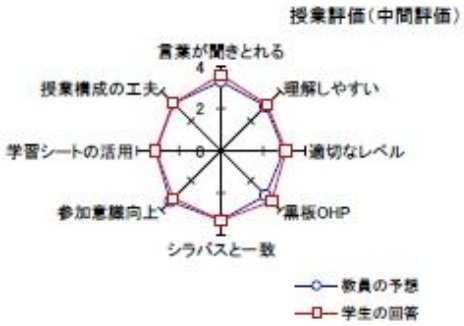
５－４－①－４　成績評価資料（総合評価部分抜粋）

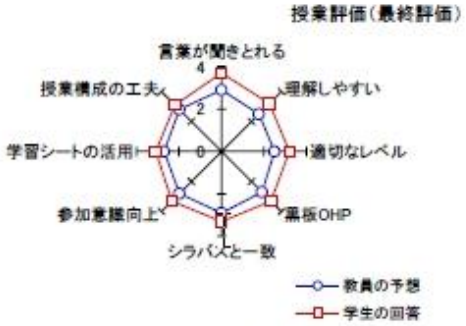
成績評価

科目名	基礎電気回路		必修	通年
			2単位	
学科	情報電子工学科		1年	
受講者数	講義回数	学生の総欠席時数	最終成績平均点	
44人	30回	10時間	82.5点	

徳山高専基準	優	良	可	不可
	80点以上	79点～70点	69点～60点	59点以下
人数	29	11	1	2







授業アンケート	中間評価		最終評価	
	アンケート平均点	学生自身の自己評価	アンケート平均点	学生自身の自己評価
教員の予想	3.2	3.3	2.7	2.6
学生の回答	3.3	3.3	3.3	3.2

特記
1）最終成績評価式
学年末評価＝（前期中間＋前期末＋後期中間＋後期末）／4（80%）＋レポート点（20%）

2）成績の分析及び本年度の授業自己評価
理解度が若干低い学生が見受けられるが、全体的にはうまくいった。不可の学生2名は、再三の指導（担任からの指導もあった）にもかかわらずレポートを提出しない学生である。

出典：成績評価資料

資料５－４－①－５　成績評価資料チェックシート

成績評価資料チェックシート

科目名：					学年学科（ｸﾗｽ）：		担当（責任）教員名：
レビ室	担教員	項目			内　　容		指摘事項
		①		内表紙	氏名　　（自筆記名）		
		②		シラバス			
		③		成績評価	集計表　　度数分布　　ﾚｰﾀﾞｰﾁｬｰﾄ		
					特記の内容		
		④		成績一覧表	科目名　　学科　　学年　　選択・必修		
					単位数　　受講者数　　期間		
					講義回数　　学生総欠席時数（長欠含まず）		
					⑤～⑩の成績一覧表		
					最終成績との関係（シラバスとの関係）		
					再試験の記入		
		⑤	a	試験１（後期末等）表紙			
			b	試験１の評価	集計表、度数分布、特記		
			c	試験１の問題・模範解答	タイトル・年度・担当教員、配点（試験問題に記入）		
			d	試験１の答案	高得点順に整理（ボーダーに付箋）		
		⑥	a	試験２（後期中間等）表紙			
			b	試験２の評価	集計表、度数分布、特記		
			c	試験２の問題・模範解答	タイトル・年度・担当教員、配点（試験問題に記入）		
			d	試験２の答案	高得点順に整理（ボーダーに付箋）		
		⑦	a	試験３（前期末等）表紙			
			b	試験３の評価	集計表、度数分布、特記		
			c	試験３の問題・模範解答	タイトル・年度・担当教員、配点（試験問題に記入）		
			d	試験３の答案	高得点順に整理（ボーダーに付箋）		
		⑧	a	試験４（前期中間等）表紙			
			b	試験４の評価	集計表、度数分布、特記		
			c	試験４の問題・模範解答	タイトル・年度・担当教員、配点（試験問題に記入）		
			d	試験４の答案	高得点順に整理（ボーダーに付箋）		
		⑨	a	再試験の表紙			
			b	再試験の問題・模範解答	タイトル・年度・担当教員、配点（試験問題に記入）		
			c	再試験の答案			
		⑩	a	その他の資料の表紙			
			b	その他の資料の解説	評価方法　　解説資料等		
			c	その他の資料の評価資料			
		⑪	a	学習シート等の副教材の表紙			
			b	学習シート等の副教材			
エグザミナー					評価	第１回確認日	
エグザミナー					評価	第２回確認日	
ピアレビュー 教員名 確認日					評価（１，２，３のいずれかに○印） １　適切である ２　優れている ３　改善が必要である		コメント欄（評価が２，３の場合）

＊「確認」欄の表現：○全て揃っている、△一部不備、×無い。
＊　評価　Ａ：合格　　Ｂ：修正・加筆の要求項目あり（担当教員の責任で修正しなくても良い）　Ｃ：不足項目あり（必加筆・修正）

出典：学習・教育レビュー室資料

資料５－４－①－６　再試験に関する規定

再試験に関する内規

教務規則第５条第２項の再試験について次のとおり定める。

１　再試験は，不可科目をもつ者に対して行う。

２　再試験による成績評価の最高は，60 点とする。

３　再試験を受けようとする者は，再試験受験願を教務係に提出しなければならない。

４　前項の再試験受験願の提出及び成績報告は，下表の期日を目安とし，その日程は別途通知する。

区　　分		受験願提出期限	成績報告期限
第４学年まで		３月２０日	４月１０日
第５学年	前期科目	８月末日	１０月末日
	後期科目	２月２０日	２月末日
	通年科目	２月２０日	２月末日

５　第５学年で，第４学年までの不可科目をもつ者に対して，次に定めるところにより再試験を行うことができる。

（１）前年度に再試験を受験した科目について，１回限り行うものとする。

（２）再試験を受けようとする者は，科目担当教員に受験の許可を得たうえで，再試験受験願を教務係に提出しなければならない。

（３）再試験受験願の提出及び成績報告は，下表の期日とする。

受験願提出期限	成績報告期限
４月末日	１０月末日

出典：学生便覧

資料５－４－①－７　再試験時間割

平成２３年度　再試験時間割（１～４年）

※下段は担当教員名（Pは非常勤講師）　　徳山工業高等専門学校

	3月26日（月）				3月27日（火）				3月28日（水）				3月29日（木）				3月30日（金）			
	9:00～	10:30～	13:00～	14:30～	9:00～	10:30～	13:00～	14:30～	9:00～	10:30～	13:00～	14:30～	9:00～	10:30～	13:00～	14:30～	9:00～	10:30～	13:00～	14:30～
一年一組	機械の基礎 １－１教室 伊藤			技術発達史論 １－１教室 鈴木			コンピュータ基礎 １－１教室 森崎													
一年二組		基礎電気回路 １－２教室 山田	コンピュータの基礎知識 １－２教室 杉村		数学ＩＢ １－３教室 長廣	歴史 １－３教室 柏倉			科学基礎 １－３教室	基礎英語Ｗ １－３教室		保健 １－３教室		国語総合Ｉ １－３教室		数学ＩＡ １－３教室				
一年三組		西洋建築史 １－３教室 中川							天内	高橋		前川		谷本		米田				
二年機電		創造製作Ｉ ＭＥ２教室 樫本	プログラミング基礎 ＭＥ２教室 小田/石田										化学Ⅱ ＩＥ２教室 天内							
二年情電		電気回路 ＩＥ２教室 百田		電気数学 ＩＥ２教室 百田			数学ⅡＡ ＩＥ２教室 荒谷	総合英語ＩＲ ＩＥ２教室 高橋				基礎物理Ｉ ＩＥ２教室 笠置/宮長		化学Ⅱ ＩＥ２教室 大橋	総合英語ＩＷ ＩＥ２教室 長戸					
二年土建	国語総合Ⅱ （9：00～） 一色教員室 一色		数学ⅡＢ ＣＡ２教室 米田									建築デザイン概論 ＣＡ２教室 熊野								
三年機電	材料力学Ｉ ＭＥ３教室 森野	材料学Ｉ ＭＥ３教室 西村		アクチュエータ ＭＥ３教室 藤本	基礎物理Ⅱ ＭＥ３教室 石田			プログラミング応用 ＭＥ３教室 石田	電気回路Ｉ ＭＥ３教室 藤本	コンピュータ制御 ＭＥ３教室 森崎	電子回路Ｉ ＭＥ４教室 樫本			総合英語ⅡＲ ＭＥ３教室 長戸						
三年情電		国語総合Ⅱ 一色教員室 コモンスペース						数学ⅢＡ ＩＥ３教室 米田									コンピュータシステム概論 ＩＥ３教室 柳澤			
三年土建		（10：00～） 一色			数学ⅢＢ １－３教室 長廣			建築一般構造 ＣＡ３教室 海田		数学ⅡＡ ＣＡ３教室 荒谷	水理学基礎 ＣＡ３教室 佐賀									
四年機電	材料力学Ⅱ ＭＥ３教室 森野	創造製作Ⅱ ＭＥ４教室 牧野/伊藤/森崎	微分方程式 ＭＥ４教室 荒谷	材料学Ⅱ ＭＥ４教室 西村			総合英語演習Ⅰ ＭＥ４教室 Ｐ中光	ドイツ語 ＩＥ４教室 柏倉	微分積分学 ＩＥ４教室 荒谷		機械力学Ⅰ ＭＥ４教室 樫本	電気回路Ⅱ ＭＥ４教室 樫本	力学 ＭＥ４教室 石田	電磁気学 ＭＥ４教室 北村	電子回路Ⅱ ＭＥ４教室 鈴木	機械設計論Ⅰ ＭＥ４教室 西村				
四年情電	情報理論 ＩＥ４教室 小林	ディジタル回路応用Ⅰ １－２教室 山田	ベクトル解析 ＩＥ４教室 小林	情報通信工学 ＩＥ４教室 原田徳	英語特別演習 ＩＥ４教室 高橋		総合英語演習Ⅰ ＩＥ４教室 Ｐ田中敦			電磁気学 ＩＥ４教室 杉村	ファーリュープラス定義 ＩＥ４教室 原田徳	物理化学 ＩＥ４教室 大橋					人文社会特講 ＩＥ４教室 前川			
四年土建						鉄筋コンクリート工学 （10：00～11：20） ＣＡ４教室 田村			一般物理 ＣＡ４教室 笠置	都市計画 ＣＡ４教室 熊野	土木施工法 ＣＡ４教室 Ｐ藤原	鋼構造学Ⅰ ＣＡ４教室 海田			総合英語演習Ⅰ ＣＡ４教室 高橋	建築史 ＣＡ４教室 中川		CAD応用（土木） 第２パソコン室 原	水理学 ＣＡ４教室 大成	

※前年度以前に履修した科目については，履修した年度における自分の学年の時間割を見ること。
時間割は変更する可能性があるので，受験の前日に必ず本校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞで最新の時間割を確認すること。
試験実施教室については，変更になる可能性があるので学生課前掲示を確認すること。
【再試験範囲】　別紙のとおり

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

成績評価や進級・卒業認定規定は教務規則に明確に定められており，学生便覧やWebサイトに明記され，学生にも周知が徹底されている。学生には，答案が返却され，解答および解説により成績評価に関する異議申し立ての機会が与えられている。各科目の最終評価はシラバスに記載された評価法で行われ，評価に用いた資料は，学習・教育レビュー室のチェック，およびピアレビューを受けた後，成績評価資料として資料室に保管されている。これらの成績をもとに，規定に従い，学年修了認定，卒業認定が当該認定会議において審議の上，決定される。

以上のことから，成績評価や進級・卒業認定規定が定められ，学生に周知されるとともに，規定に従い適切に実施されている。

＜専攻科課程＞

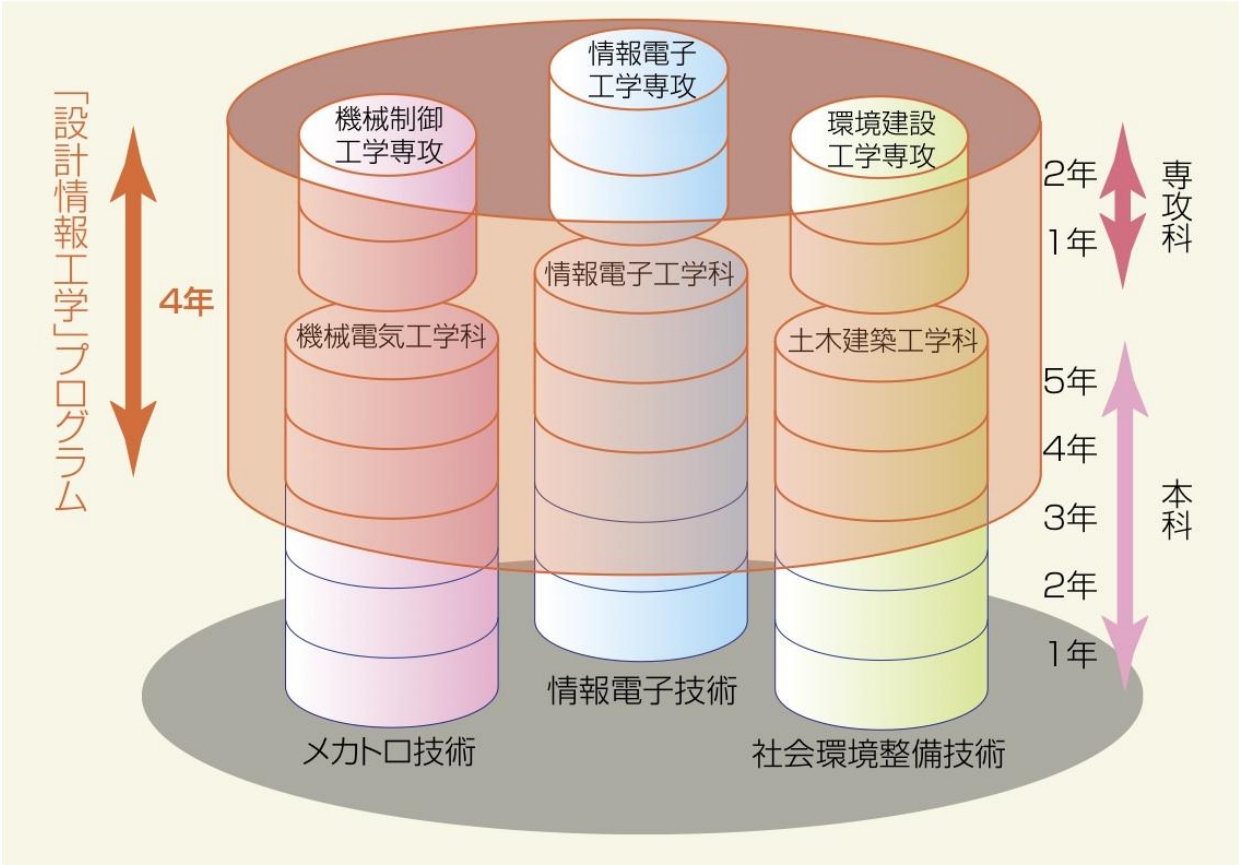
観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

本校では，専門３学科で準学士課程と専攻科課程が１対１に対応しており（資料５－５－①－１），各専攻科課程がめざす複合技術は，専攻科課程と準学士課程で本質的に共通である（資料５－１－①－５）。

専攻科課程では準学士課程で修得した基礎技術を踏まえ，さらに発展的な内容を修得し知識と技術力の総合化を図ることにより，専攻科でめざす技術者像を実現する（資料５－５－①－２）。準学士課程から専攻科課程に至る７年間のカリキュラム系統図ができており（資料５－１－①－１），教育課程は準学士課程との連携を確立したものとなっている。

資料５－５－①－１　専攻科の構成



出典：学校要覧

資料５－５－①－２　本科と専攻科で育成しようとする技術者像

本科と専攻科で育成しようとする技術者像

本校では、前のページに示した学習・教育目標の実現をめざして教育を行い、次のような技術者を育てようとしています。

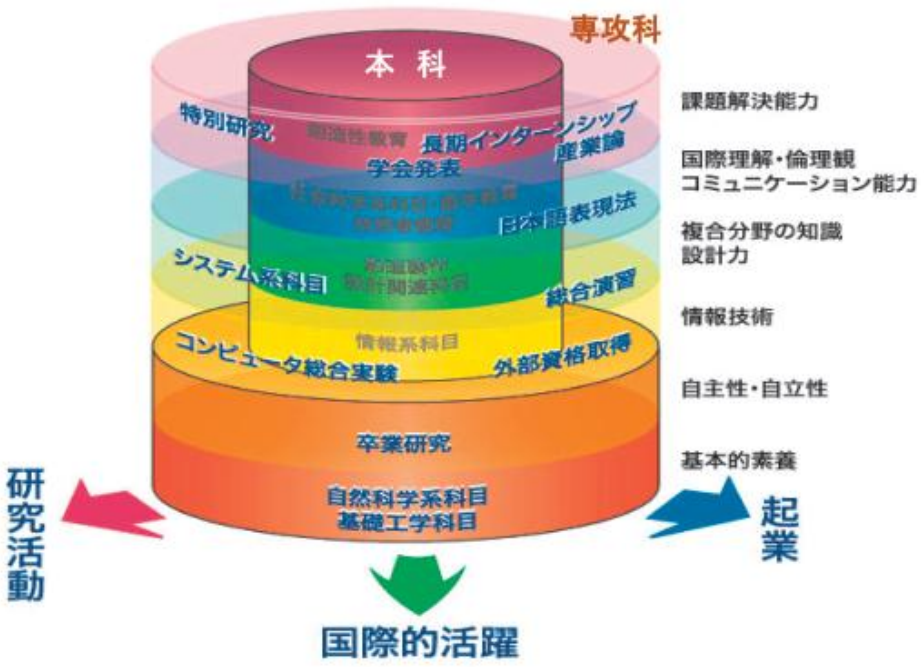
「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、
設計・開発を行う素養をもつ技術者」

これは、本科と専攻科に共通した本校で育成しようとする技術者像で、平成１４年度に定めたものです。

一方、本科と専攻科では修業年限が異なりますので、めざす技術者像や到達目標は自ずと異なってきます。しかし、それらはいずれも本校の学習・教育目標や先に述べた本科と専攻科に共通する技術者像を踏まえつつ、社会の要請に応えるものでなくてはなりません。平成１７年度にそれらを明確に定めました。また、そのイメージを下のイラストにまとめています。自然科学系科目や基礎工学科目などの基本的素養や自主性・自立性の到達度は本科も専攻科も変わりがなく、両者の差は、技術的課題への対応経験や訓練が社会でなされるか在学中になされるかの違いだといえるでしょう。

○ 本科卒業生のめざす技術者像と到達目標
「自らの業務における技術的課題を解決できる技術者」
実地経験と具体的な業務に応じた学習により、専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと

○ 専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標
「自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者」
技術者の行う諸活動（研究、技術指導、起業など）に必要な基本的な素養をもつこと



出典：シラバス

（分析結果とその根拠理由）

本校の場合，準学士課程と専攻科課程が１対１に対応しており，各専攻科課程が目指す複合技術は専攻科課程と準学士課程で本質的に共通である。そのため，カリキュラムも７年間一貫した設計となっている。

以上のことから，専攻科課程は準学士課程との連携と発展を考慮した教育課程となっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

- 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れを教養科目，および学科／専攻ごとに７年間を通した形で作成し，計４枚の系統図にまとめた（資料５－１－①－１）。その際，各専攻科課程がめざす複合技術を修得する流れをわかりやすく示している
- 各専攻科課程がめざす複合技術は複数の分野で構成されており（資料５－１－①－５），その分野ごとに学年進行にしたがって開設科目を定めている。その際，数学や物理など関連する共通科目や他の分野の専門科目の開設状況との整合性に留意している
- 専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標（資料５－５－①－２，資料５－５－②－１）を実現するため，特に専門科目については選択科目を広く開設している（資料５－１－①－１）
- 学習・教育目標（Ｃ１）の「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力」を身につけるため，複合技術を構成する各分野を総合的にまとめ，理解する科目として，「総合科目」を主として２年次後期に開設している（資料５－１－①－１）
- 平成１９年度より「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」の取組みを開始し，デザイン能力の育成に努めている。各専攻科課程がめざす複合技術に対して，準学士課程を含めた７年間にわたるすべての学習・教育の成果をまとめる科目として，１年次後期に「総合実験」，２年次前期に「総合演習」を開設している（資料５－１－①－１）

資料５－５－②－１：専攻科到達目標

本科と専攻科の具体的到達目標

これまでに学習・教育目標、本校全体で養成しようとする技術者像、本科卒業生・専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標を示してきましたが、それらを踏まえ、各学科／専攻で修得する技術をまとめると、次のようになります。

○メカトロ技術

機械電気工学科：　コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術

機械制御工学専攻：コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術

○情報電子技術

情報電子工学科：　コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術

情報電子工学専攻：コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術

○社会環境整備技術

土木建築工学科：　情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術

環境建設工学専攻：情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術

○専攻科課程修了時

(A)「世界に通用する」技術者をめざすために

(A1)複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

- **数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する**
- **学士を取得する**

(A2)国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

- **国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する**
- **TOEICにおいて420以上のスコアを取得する**

(B)「実践力のある」技術者をめざすために

(B1)情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

- **情報関連・実験の科目を修得する**
- **情報関連等外部資格を取得する**

(B2)自主性と自立性を養うこと

- **卒業研究の科目を修得する**

(C)「開発型」技術者をめざすために

(C1)複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

- **メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する**
- **総合科目（2科目以上）及び総合演習の科目を修得する**

(C2)課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

- **インターンシップ及び特別研究の科目を修得する**
- **国内外の学協会で発表を行う**

出典：シラバス

（分析結果とその根拠理由）

カリキュラムの内容は，各専攻科課程がめざす複合技術の修得と，６つの学習・教育目標に沿って設計されており，具体的到達目標が達成できるよう工夫されている。教養科目と，各専攻科課程が目指す複合技術ごとに計４枚の系統図を作成し，全体の流れと科目ごとの位置づけを明確に示している。

以上のことから，専攻科課程の授業科目は本校の教育目的に沿って適切に配置されており，準学士課程との一貫性が確保されるとともに，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程において，多様な学習機会を望む学生からのニーズや実践力・国際性を求める企業からの要請に応えるため，教育課程において，多様な教育機関での学習機会の提供，資格取得の推進，就業意識の醸成や国際性の涵養の取り組みに対応して幅広い教育を推進している。専攻科課程では，さらに，深い専門的知識と表現力をはじめとする幅広い素養と多面的思考力を見につけ，自ら課題を把握・分析し、解決の道を探ることができる感性並びに創造性豊かな人材を育てることをめざしている。このような人材を育てるため，７年間の教育に加え周辺地域の企業との連携により，確固とした教養と専門知識を身につけると同時に，それらの知識を実際に生かす方途を学生自らが体得できるように様々な学習機会を提供している。

（ａ）他の教育施設における単位の履修について，規定が定められている（資料５－５－③－１）

（ｂ）多様なニーズに対応するために以下の学外での教育機会を与えている。

・　他専攻の授業科目の履修を可能としている（資料５－５－③－２，３）
・　徳山大学との協力協定に基づく単位互換制度を実施している（資料５－１－②－２）
・　海外の高等教育機関における長期インターンシップを実施している（資料５－５－③－４）
・　海外研修奨学生制度を実施している（資料５－１－②－６）
・　高専機構主催で海外インターンシップの機会を提供している（資料５－５－③－５）
・　短期語学研修（ELICOS）の機会を提供している（資料５－５－③－６）

資料５－５－③－１：単位認定規則

15. 他の教育施設（大学等）の科目履修

（１）修得単位の専攻科単位への振り替え

他の教育施設で修得した単位は、１６単位を超えない範囲で、専攻科における選択科目（修得必要単位数２２単位以上）の修得単位として振り替えることができます。ただしその場合、本校の教育目標やＪＡＢＥＥ基準に対する位置づけが必要になる場合がありますので、注意して下さい。

（２）本校専攻科における科目単位の認定方法

本校専攻科は他の教育施設（大学等）での科目の履修がそのまま履修として扱えるわけではありません。他の教育施設で履修した科目及び単位の扱いに対しては、次のような規則があります。

他の教育機関において修得した科目及び単位の取扱いについて

１　科目及び単位の取扱い

専攻科に在籍する者が他の教育機関において修得した科目及び単位については、本取扱いの定めるところにより、「設計情報工学」プログラムの修得科目及び修得単位と見なすことができる。

２　申　請

１の取扱いを受けようとする者（以下「申請者」という。）は、様式１により、学校長に申請しなければならない。

３　対象となる科目及び単位

対象となる科目及び単位は、本科４年に相当する学年以上の学年において修得したもののうち、60 点以上の成績をもって修得したものとする。

４　取扱いの手順

１の取扱いは、専攻科委員会の審議を経て、学校長が行う。

専攻科委員会は、審議に当たって、必要と認める場合には、委員以外の者の出席を求めて、意見を聴取することができる。

専攻科委員会は、審議に当たって、必要と認める場合には、申請者に対し、資料の提出、口頭若しくは筆記による試験の受験等を求めることができる。

５　結果の通知

学校長は、１の取扱いを行った場合には、その旨を、また、１の取扱いを行わない場合にはその理由を、申請者に通知しなければならない。

６　この取扱いは、平成１９年４月１日から施行する。

出典：専攻科履修要覧

資料５－５－③－２　専攻科の科目履修制度

１．科目履修の手引き

（1）専攻科の修了要件

本校専攻科を修了するためには**所定単位の修得が必要**です。まずここでは、科目履修に関係した二つの要件について説明しておきます。ひとつは、学則に従って所定の単位を修得しなければならないこと、他のひとつは、特別研究に関することがらです。特別研究の評価を受けるためには特別研究論文を提出し、特別研究発表会で発表を行うとともに、原則として、学協会において発表を行っておかねばなりません。

（2）修了のための修得単位

専攻科は、一般の大学と同じく**完全単位制**をとっています。専攻科を修了するためには学則に従って６６単位以上（必修単位４４単位（教養科目１６単位、専門基礎科目８単位、専門科目２０単位）、選択科目２２単位以上（専門基礎科目２単位、専門科目２０単位以上、専門科目のうち総合科目を４単位以上）を修得することが必要です（表１参照）。必修科目は必ず修得しなければなりません*（1科目でも必修科目を落としていると修了できません）*。

必修科目以外は選択科目です。選択科目の履修にあたっては学位授与申請に必要な科目、ならびにＪＡＢＥＥ認定に必要な科目や修得単位条件に注意が必要です。プログラム修了要件確認表を用い、シラバス等で授業内容を参考にし、履修する科目を選んで下さい。また、選択科目については履修届を提出しなければなりません。

なお、他の教育施設で修得した単位は、１６単位を超えない範囲で選択科目に振り替えることができます。

表１　履修単位の関連表

平成２４年度入学生

<table>
<tr><th colspan="2">開設科目の分類</th><th>開設単位</th><th colspan="2">修得単位</th><th>修得単位合計</th></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td>教養科目</td><td>１６</td><td colspan="2" rowspan="3">４４</td><td rowspan="6">６６以上</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td>８</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>２０</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択科目</td><td>教養科目</td><td>４</td><td>０</td><td rowspan="3">２２以上</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td>８</td><td>２</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>２８</td><td>２０</td></tr>
</table>

出典：専攻科履修要覧

資料５－５－③－３　他専攻の科目履修

（他専攻の授業科目履修）

第12条　他の専攻で開設されている科目の履修を希望する学生は，あらかじめ指導教員の許可を得たうえで受講届（別紙様式第１号）を学生課へ提出しなければならない。これにより修得した単位は10単位を限度で当該専攻における単位として認定することができる。

出典：学生便覧

資料５－５－③－４：　オーストラリア・ワランゴン大学における長期インターンシップ

平成２３年度徳山工業高等専門学校
専攻科インターンシップ報告集

Internship in the University of Wollongong

Environmental Construction Engineering　1 grade　Suenaga Yuma

Place: The University of Wollongong

Period: From June 9th to September 5 th

Abstract

The University of Wollongong was established in 1951. The university provides a wide range of courses across nine faculties.

During my stay in Australia for about three months, I had learnt the finite element method, which is one of the ways to analyse structures, and matlab , which is a powerful tool to analyse structures.

During my internship, I had created two algorithms using Matlab based on the finite element method.

1.1 Outline

Some algorithms that I had created are as follows;

(A)An algorithm to seek degrees of freedom for any frames

(B)An algorithm to draw a bending moment diagram and to optimize designs of each beam for up to 5-number elements

1.2 Place

I went to the civil engineering building every day. It is shown in Photo. (1.1).



Photo. (1.1)

I had worked at the computer laboratory in this building. It is shown in photo. (1.2).



Photo. (1.2)

When the computer lab was closed, I went to the library or the lab near the library.

1.3 Algorithms

(A)The first algorithm

In general, there are three types of structures; frames, trusses and beams. The algorithm adopts frames because they cover structurally both trusses and beams.

The first algorithm can solve degrees of freedom for any frames and loads given.

$$Q + E = kD \qquad \cdots \quad (1.1)$$

where

E : Equivalent nodal loads

D : Global displacement

Q: Global loads

k : Global stiffness matrix

I created the algorithm to seek degrees of freedom at any given frames using Eq. (1.1) with Matlab.

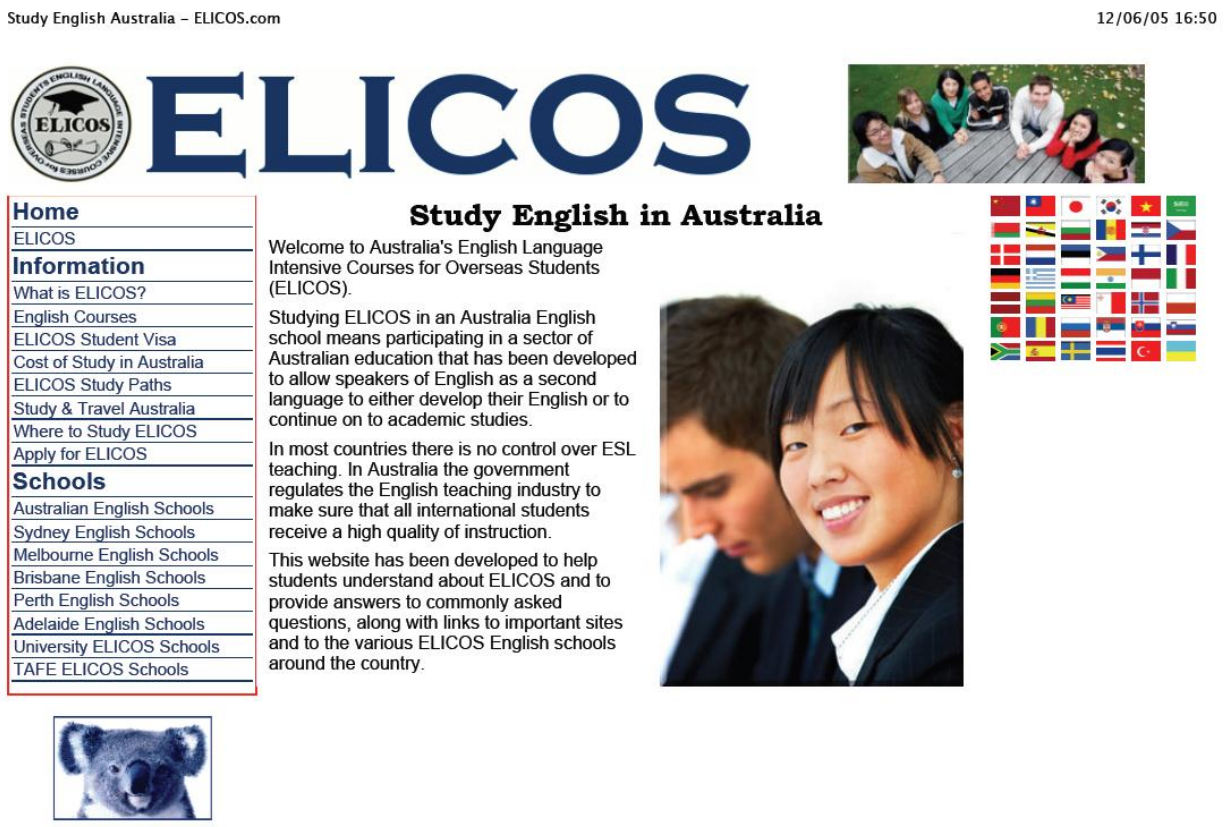
出典：専攻科インターンシップ報告集

資料５－５－③－５：高専機構主催海外インターンシップ



出典：高専機構主催海外インターンシップ案内

資料５－５－③－６：短期語学研修（ELICOS）



出典：短期語学研修（ELICOS）Web サイト

（分析結果とその根拠理由）

学生の多様なニーズに対応するため，他専攻の授業科目履修，他の教育機関における単位の履修方法について諸規定が定められている。海外を含める他大学等との協力協定や連携を行い，積極的に単位互換や学生の派遣，長期インターンシップや語学研修への派遣を行うことで，教育の幅を広げ効果を上げている。

以上のことから，本校では学生の多様なニーズや社会からの要請に配慮し，それに対応している。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

（ａ）授業形態のバランス

本校の学習・教育目標は（Ａ１）～（Ｃ２）と６項目あり，それを実現するため，次のような授業形態をとっている（資料５－１－①－１，資料５－５－③－２）。

（Ａ１）「複合分野の基礎となる基本的素養」に関連する科目は，教養科目の必修として物理科学，一般化学，生命科学が開設されており，数学は４科目が，基礎工学科目が５群から６科目以上選択できるように開講され，講義形式で行われている。

（Ａ２）「国際理解や技術者倫理とコミュニケーション能力」に関連する科目は，教養科目の必修として国際比較文化論，技術者倫理，安全工学概論，日本語表現法と科学英語表現法の科目が開設されている。

（Ｂ１）「情報技術をベースに，実体験を通しての表現力」に関連する科目は，各専攻で必修の総合実験と情報関連科目３科目以上選択できるように開設されている。

（Ｂ２）「自主性・自立性」に関連する科目は，準学士課程の卒業研究ですでに修得しているため，特定の科目は開設していないが，専攻科課程の特別研究も相当するものとなっている。

（Ｃ１）「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力」に関連する科目は，総合科目，総合演習を含め各専門科目がそれに該当しており，専攻科の中核を担っている。

（Ｃ２）「課題を把握し解決する力」に関連する科目は，産業論，経営管理，インターンシップや特別研究が主に該当し，専攻科の特徴を形づくる科目となっている。

これらをまとめると，次のようになる。

- 学習・教育目標を達成すべく，それらの科目が専攻科課程２年間にわたりバランスよく開設されている
- 専門科目では，実験・演習形式で行っている科目はどの専攻もほぼ共通であり，必修となっており，その割合は約５割を占めている

（ｂ）学習指導法の工夫

（Ａ２）コミュニケーション能力の向上

- 準学士課程での取り組みを基礎にさらなる英語能力の向上をめざし，TOEICを活用した授業展開や英語論文の読解力向上のため，英語専任教員および専門科目教員により専攻英語講読，科学英語表現法を開講している。さらにTOEICの専攻科課程修了時の目標点を設定し，全員がそのレベルを超えるように指導している（資料５－６－①－１，２）
- 少人数教育であり，どの科目もコミュニケーションをとりながら授業を進めることができる

（Ｂ２）自主性・自立性の向上

- 準学士課程における卒業研究や専攻科課程における特別研究を通し，自主性・自立性が培われている
- 専攻科生が本科学生の指導の補助をするＴＡに携わることにより，自主性・自立性が向上している

（Ｃ１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力

・　各専攻で，それぞれの分野で特徴的なものづくり技術者教育を推進するために，少人数，実践型授業として総合実験，総合演習を実施している（資料５－６－①－３）

（Ｃ２）課題を把握し解決する力

・　特別研究では個人指導を徹底しており，能力の向上に寄与している。また，学協会での発表を達成目標の一つとして設定する事で，課題の把握・解決能力を向上させている

資料５－６－①－１：専攻科英語力の充実

（2）基礎学力、特に英語力の充実（TOEIC）
「世界に通用する」技術者を目指す専攻科生にとって英語力は必要不可欠です。
TOEICを例に取って説明すると・・・

・大卒新入社員のTOEICの平均スコアは、約５５０です。
・スコア４７０は、（財）国際ビジネスコミュニケーション協会・TOEIC運営委員会によるTOEICスコア評価（最高レベルのA～最下レベルのEまでの５段階でのガイドライン）によると、「通常会話で最低限のコミュニケーションができる」というDレベル（最も下のレベルから２番目のスコア２２０～４７０）の中では高い場所に位置しますが、これではまだ実際の業務上は不十分です。実際の業務において英語でコミュニケーションを取るためには、最低でもスコア７３０（例：武田薬品の採用基準）は必要だと言われています。
・以上のことから、①専攻科修了までの目標（是非到達して欲しいレベル）、②英語力に関するJABEEプログラム修了要件（絶対にクリアしなければならない最低限のレベル⇒クリアできなければJABEEプログラムを修了できない条件）、③修了要件ではないが専攻科修了までに達成することを強く勧めるその他の目標、の３項目を以下のように定めます。

①目標：TOEICスコア６００以上（公開テストもしくはIPテスト）、実用英検２級以上、工業英検２級以上のレベルの英語力をつけること。
②JABEEプログラム修了要件：TOEICスコア４２０以上（公開テストもしくはIPテスト）を取得すること。
※平成24年度前に在学している者はTOEICスコア４００以上
③その他の目標：まず、実用英検準２級、工業英検３級を取得すること。

これらの目標を達成するために、専攻科では以下のことを行っています。

イ．読解力や聴解力の向上のために
・専攻英語講読（１年通年）
・英語のテキストを用いた専門授業
・多読・多聴の推奨

ロ．作文力やプレゼンテーション能力の向上のために
・特別研究論文や中間発表会前刷の英語での執筆の奨励
・特別研究発表会や中間発表会での英語による発表の奨励
・国際学会での発表の奨励
・科学英語表現法（２年後期）の開設⇒工業英検３級以上のレベル達成を目指す

ハ．コミュニケーション能力の向上のために
・総合英語（１年通年）の開設⇒最低TOEICスコア４２０以上のレベル達成を目指す
・英会話科目の開設（２年通年）
・海外インターンシップや海外語学研修の実施
・イントラネットを利用したTOEIC及び科学技術英語の自学自習用ソフトの開放及び授業での活用

出典：専攻科履修要覧

資料５－６－①－２：専攻科生 TOEIC スコアの推移

23年度専攻科TOEIC試験結果（2年）

氏名	以前	平成21年度第6回(2010年3/26)	平成22年度第1回(2010年5/22)	平成22年度第2回(2010年7/24)	平成22年度第3回(2010年9/24)	平成22年度11月SP	平成22年度第4回(2011年1/15)	平成22年度1月SP	平成22年度第5回(2011年2/26)		平成23年度第1回(2011年5/15)	平成23年度第2回(2011年7/24)	平成23年度第3回(2011年9/23)	平成23年度4回(2011年12/22)	平成23年度第5回(2012年2/5)
			390	440	410									400	
	420		360		460		385							395	
	315				340		375		410					330	420
		425	355	335	275		340				510			420	
	410				270										
		350	315	305	330		360		390	?	390			295	
			345	355	365		375		330		420			450	
			315	405	330										335
			350		335	415	290								
	510	465			485	545	545		605		600			605	620
		395	425		390		360		435					375	
	405				450		450							525	
			405		325									385	
	405	385	365	525	395		445		450					400	
		415			380		340		410		445		360	530	
		375	305	295	330		225		280		295	300		335	300
			370		390		475	475							
			330	385	315		375		350		425			265	
	450				360									360	
			385				310		350		450	335		275	
			370		320		375		375		405			285	
	385	325	295		265	345	345		415		340			310	
	405		325		390									215	340
			405		385										
	440		545		635			685							
		420	375		430		515						430		415
				395	365	440								345	
	380				330		345		370		410			210	
		345	305	360	365		350		430					315	
	675		785		740	880								830	
			235		230		315	395		?					
			555		375	445								475	505
			335				370	420	310						
			355	370	260		350		405					315	
			525		405			535	555					615	
	433.33	390	386	379.1	376.7	511.7	374.6	502	404.1		426.4	317.5	395	394.6	419

出典：英語科資料

資料５－６－①－３：総合演習シラバス（例）

機械制御工学総合演習 (Practice of Mechanical and Control Engineering)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
機械制御	必修	2年前	2	演習	西村太志 北村健太郎 森崎哲也

【授業の概要】
メカトロ技術を代表する教材として小型ヘリコプターを取り上げ、知識と技術を併せ持つ技術者を育成する。演習では、模型ヘリコプターを用いて行った総合実験で得た知識をベースに、薬剤散布用無人ヘリコプターを対象に、与えられた仕様（サイズ、ペイロード、重量、エンジン出力、制御方法等）のもとでの企画から設計までを一貫して理解するとともに、与えられたミッションを遂行するためのヘリコプターを設計する。

【学修の進め方】
まず実機の組立実習を通じて構造全体を理解し、次に商品開発の進め方を学んだ後、機体各部の設計方法について学ぶ。それをベースに具体的に機体各部の諸元を決定しつつ計画図を作成し、機体の外観図も作成する。本授業は、すでに学んだ個々のメカトロ技術の知識を総合化するため、常に予習復習を行うことが求められる。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1回	小型ヘリコプタ構造実習 産業用無人ヘリ概要、R50組立実習、産業用無人ヘリの構成	冒頭、総合演習の全体像を説明した後、パソコンの資料を用いて、1時間技術的な概要を説明。R50実機の構成を確認しながら組立実習
2回	商品開発の進め方、手順	商品コンセプトの決定、製品企画書の作成、試作機の製作、試作機の評価と改良設計、生産展開等の商品開発の進め方を学習し、商品開発の手順を明確にする
3回	概念設計（空力設計）	要求仕様を実現するために必要な主要諸元(全備重量、ローター径、エンジン出力など)の求め方を学習する
4回	概念設計（空力設計演習1）	R50を例として与えられたミッションを遂行するために必要なヘリコプターの主要諸元の決定に関する演習を行う
5回	概念設計（空力設計演習2）	設計課題を提示し、与えられたミッションを遂行するために必要なヘリコプターの主要諸元の決定に関する演習を行う
6回	基本設計（メインローター設計、テールローター設計）	マストやブレードの構造、加わる力、強度計算、材料選定方法、重量計算などについて学習する
7回	基本設計（動力伝達系設計、胴体構造設計）	ミッションやクラッチ、テールロータ駆動方法などの動力伝達系設計及び胴体構造設計について学習する
8回	基本設計（制御系設計）	メインローターからの反トルク変化に対するヨー軸姿勢制御コントローラの設計手法を学習する
9回	概念設計まとめ	設計課題に対する概念設計のプレゼン後、優れた設計二つを選び、それをベースに二グループにチームを編成
10回	機体諸元決定と計画図作成1	二つのチームごとに機体各部を役割分担（ロータ設計、動力伝達系設計、制御シミュレーション）して計画図を作成し、最終的に機体全体の組立図として3次元図にまとめる
11回	機体諸元決定と計画図作成2	〃
12回	機体諸元決定と計画図作成3	〃
13回	機体諸元決定と計画図作成4	〃
14回	機体諸元決定と計画図作成5	〃
15回	機体諸元決定と計画図作成6	〃
16回	報告会、まとめ	これまでにまとめた計画図や機体外観図の報告を行い、小型ヘリコプターの設計に関し、総合的に理解を深める。

【到達目標】	機体諸元を決定し、計画図ならびに機体外観図の作成を通じ、機械制御工学を構成する3つの系の基本的能力を確実に身につけるとともに、企画から設計まで一貫して理解できるようになることを目標にする。			
【徳山高専学習・教育目標】	C1	【ＪＡＢＥＥ基準1(1)】	d-2c、e、g	
【評価法】	□評価方法　・空力設計発表会（プレゼンテーション評価：質疑応答を含む）：25%　・最終発表会（プレゼンテーション評価：質疑応答を含む）：25%　・最終成果物（資料評価に貢献度も加味）：50% ※プレゼンテーション評価、資料評価とも関係した教員の平均で求める。			
【テキスト】	担当教員が随時プリントを準備し、配布する。			

出典：シラバス

（分析結果とその根拠理由）

学習・教育目標に適した授業形態がとられ，２年間のカリキュラムがバランス良く編成されている。特に必修科目が効果的に開設されており，実験・演習科目の割合もおよそ５割と，高度な実践力をもつ開発型能力を養うために，望ましい形になっている。学習・教育目標（Ａ２）（Ｂ２）（Ｃ１）（Ｃ２）に関し，学習指導上の工夫がなされている。

以上のことから，教育の目的に照らして授業形態のバランスは適切であり，学習指導法の工夫もなされている。

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

（ａ）シラバスの作成

- 専攻科課程のシラバスは，準学士課程のシラバスと一体となっており，カリキュラムの全体像を紙媒体として配布し，各授業科目のシラバスはWebサイト上に掲載することで，学生がどこからでも参照できるようにしている（資料５－２－②－２）。また，各年度の始めに専攻科履修要覧を紙媒体で配布している（資料５－６－②－１）。授業科目毎の授業内容のシラバスは，各授業において紙媒体でも配布している資料（資料５－２―②－１）
- 学習・教育目標や養成しようとする技術者像，各学科／専攻のカリキュラム系統図などの説明は準学士課程と同じなので，説明を省略する
- 各科目のシラバスの構成は，基本的には準学士課程のものと同じである（資料５－１－①－２）
- 達成目標や評価方法に関しては，専攻科履修要覧にまとめ明示している（資料５－６－②－２）

（ｂ）シラバスの活用状況

- 各年度の始業式で行われるオリエンテーションにおいて，当日配布するシラバスを用いてその使い方について解説を行い，利用を促している（資料５－４－①－３）
- 授業科目の第１回目には，担当教員が科目のシラバスを配布し，これを用いてコースガイダンスを行う
- シラバスの活用状況については，アンケートにより確認している（資料５－２－②―４）
- 教員は，作成したシラバスを学習・教育レビュー室でチェックを受け，また，学生への説明も随時行う

資料５－６－②－１　専攻科履修要覧目次

目　　次

項目		内容	頁
		はじめに	
1		科目履修の手引き	
	(1)	専攻科の修了要件	1
	(2)	修了のための修得単位	
	(3)	科目の単位と履修時間	2
	(4)	履修科目の登録	
	(5)	試験と単位の認定	
	(6)	出欠席と成績評価	
	(7)	修業年限	
	(8)	特別研究の評価方法	
	(9)	授業アンケートについて	3
	(10)	オフィスアワーについて	4
	(11)	その他	
2		学習・教育目標の達成方法	
	(1)	特別研究の重視・充実	5
	(2)	基礎学力、特に英語力の充実（TOEIC）	6
	(3)	教養の充実	8
	(4)	実践力と結びついた知識の総合化と創造力の育成	
	(5)	密度の濃いインターンシップの実施	9
	(6)	情報関連等外部資格の取得	10
	(7)	教育研究環境の整備	11
	(8)	企業との積極的な研究協力	
	(9)	学生の意識の啓発	
3		専攻科の学生生活	
	(1)	諸規則について	12
	(2)	連絡事項の伝達方法	
	(3)	車両通学について	
	(4)	喫煙について	13
	(5)	授業料免除、日本学生支援機構奨学金など	
	(6)	学生証・定期券など	
	(7)	図書館の利用	
	(8)	計算機ネットワーク	
	(9)	その他	14
4		徳山工業高等専門学校学則（専攻科関連抜粋）	15
5		徳山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程	17
6		開設科目	
		機械制御工学専攻開設科目と概要	19
		情報電子工学専攻開設科目と概要	25
		環境建設工学専攻開設科目と概要	29
7		専攻科の授業を担当する教員名簿	33
8		特別研究を担当する教員名および研究テーマ	37
9		「設計情報工学」プログラム	41
10		徳山高専の学習・教育目標	42
11		日本技術者教育認定制度	45
12		学習教育目標の達成度評価対象と評価方法及び評価基準	46
		徳山工業高等専門学校「設計情報工学」プログラムの履修等に関する規程	50
		学習教育目標とJABEE基準対応表	52
		プログラム修了要件確認表	54
13		学位（学士）の取得	56
14		就職・進学について	63
15		他の教育施設（大学等）の科目履修	65
		行事予定表	68
		専攻科棟周辺図面	70

出典：専攻科履修要覧

資料５－６－②－２　専攻科達成目標と評価方法

12. 学習・教育目標の達成度評価対象と評価方法及び評価基準

本校の学習・教育目標を達成するための評価方法及び評価基準は次のとおりです。各学習・教育目標に対し、それぞれ外部評価を取り入れている点が大きな特徴であり、客観的・総合的に実力を評価するシステムになっています。
(注) 達成度評価対象科目のうち、明朝体は本科開設科目、ゴシック体は専攻科開設科目。

学習・教育目標		達成度評価対象	各対象の評価方法と評価基準	総合評価方法及び評価基準
(A)		・大学評価・学位授与機構の学位(学士)審査 ・TOEIC	・修得単位及び学修成果の審査ならびに小論文試験に合格し、学士を取得すること。 ・TOEICスコア420をクリアすること。 *平成24年度前の在学生についてはTOEICスコア400	左記すべてを満足し、かつ下記の条件を満たすことをもって合格とする。 ・学士の取得 ・TOEICスコア420のクリア *平成24年度前の在学生についてはTOEICスコア400
	(A1)	・数　学 ベクトル解析 微分方程式 線形代数 微分積分学 確率・統計 関数論 ﾌｰﾘｴ・ﾗﾌﾟﾗｽ変換 数値解析 統計学 **応用統計学** **工学解析** **離散数学** Engineering Mathematics	左記の科目のうち、4科目以上を修得すること。 各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。	
		・物理科学	期末試験を80%、演習及びレポートを20%で評価し、60点以上を合格とする。期末試験の水準は、大学専門基礎教育の水準とする。	
		・一般化学	期末試験で評価し、60点以上を合格とする。	
		・生命科学	レポート提出1回。この内容に関して討論会を行い、レポートと発表の内容を合わせて20点で評価。試験は80点満点で評価。レポート・発表と試験の成績を合わせて100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	
		・基礎工学 (対象科目については別表に記載)	基礎工学として定める5群(設計・ｼｽﾃﾑ系科目群、情報・論理系科目群、材料・バイオ系科目群、力学系科目群、社会技術系科目群)の各群から最低1科目、合計6科目以上の修得をもって合格とする。 各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。	
	(A2)	**・国際比較文化論**	期末試験を90%、レポートを10%で評価し、60点以上を合格とする。	
		・技術者の倫理	原則として期末試験の成績で評価し、60点以上を合格とする。	
		・日本語表現法	小論文4回平均(80%)、小論文準備シート(10%)、確認テスト(10%)で総合評価し、60点以上を合格とする。	
		・科学英語表現法	アブストラクト作成を含む課題を5回課し、その平均が60点以上を合格とする。	

出典：専攻科履修要覧

（分析結果とその根拠理由）

専攻科のシラバスには，「学修の進め方」の記入欄を設け，１単位４５時間の学修単位に対応するようにしている。全学生に，毎年シラバス，および専攻科履修要覧を配布し，シラバスの活用を促す種々の工夫や随時説明を行うなど啓蒙に努めており，シラバスの活用度は準学士課程の学生と比べると高い。

以上のことから，専攻科課程ではシラバスと専攻科履修要覧が教育の理念に従って作成されており，教員に活用されるとともに，学生の活用もなされている。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

（ａ）総合演習・総合実験

・　「高度なものづくり」をなし得る能力を養うには，さまざま知識と経験が必要であり，特に本校がめざしている複合技術分野ではその必要性が大きいとの認識から，必修科目として１年次の後期に総合実験（資料５－６－③－１），２年次の前期に総合演習（資料５－６－①－３）を開設している

・　総合実験／総合演習では，平成１９年から３年間にわたり取り組んだ全学科／専攻の横断プロジェクト「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」をベースにそれぞれの複合技術分野を修得させる授業を展開している（資料５－６－③－１，資料５－６―③－２）

（ｂ）インターンシップ

・　「実践力」のある「開発型」技術者として成長するためには，現実の課題に取り組む訓練を積むことがきわめて重要であるとの認識から，１年次の前期に必修科目として，２ヶ月以上のインターンシップを行っている。受け入れ先は，企業，大学院が中心であるが，官公庁や海外大学での受け入れもある（資料５－６－③－３）

・　インターンシップ報告会を開催し，学生の達成感や，実習先企業からの評価を確認している。また，成果はインターンシップ報告集として刊行している（資料５－６－③－４）

（ｃ）その他インターンシップ

・　高専機構主催で海外インターンシップの機会を提供し，過去３年間に３名が参加している（資料５－５－③－５）

資料５－６－③－１　総合実験シラバス

機械制御工学総合実験 (Experiment of Mechanical & Control Engineering)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
機械制御	必修	1年後	2	実験	鈴木・桜本・張間・森崎・北村・藤本・新任

【授業の概要】
メカトロ技術の例として、小型ヘリコプタを用いた実験を行い、知識と技術を併せ持つ技術者を育成する。実験を通し、小型ヘリコプタのメカニズムと特性を理解するとともに、理論的考察を加えることで各部の寸法・形状・機能がどのようにして決まっているかを理解する。

【学修の進め方】
与えられたテーマの実験の計画、遂行、データ解析、成果レポートのまとめという一連の作業で進める。授業では各実験テーマに関連する理論から実験の遂行およびデータ解析までを行い、レポートの作成と考察は各自、授業時間外で行い、担当教員に提出する。最後に、総合実験報告会を行い、小型ヘリコプタの特性について総合的に理解する。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1回	ヘリコプタ概論Ⅰ	小型ヘリコプタを用いたメカトロ技術総合教育について、背景、目的、総合実験の概要、総合演習との関連などを理解し、全体像を把握する
2回	ヘリコプタ概論Ⅱ	ヘリコプタの歴史、システム構成と機構、飛行原理などの概要を学び、総合実験・演習を行うための基礎知識を身につける
3回	ヘリコプタの動力及び機器Ⅰ	模型エンジンの特性試験を行い、ヘリコプタ設計時におけるエンジンの選択方法について理解する
4回	垂直飛行時のローター空気力学	ホバリング飛行を重点に、垂直上昇、降下飛行時のローターの空気力学の基礎を単純運動量理論、単純翼素理論の範囲内で理解する
5回	垂直飛行時のヘリコプタの定常飛行性能	ヘリコプタのホバリング必要パワーについて理解し、その計算方法を演習を通して理解する
6回	前進飛行時のローターの空力性能	前進水平飛行時のローターの空力性能の基礎を単純運動量、単純翼素理論の範囲内で理解する
7回	模型ローターを用いたFORCE TEST	模型ローターを用いて、ホバリング時のローター推力T、トルクQ、回転数を計測し、T-Q特性を求める
8回	ヘリコプタの動力及び機器Ⅱ	サーボモーターの構造と原理を理解する
9回	ヘリコプタの構造・強度と材料選択Ⅰ	ヘリコプタ構造設計の留意点（疲労強度の理解）について解説し、遠心力と曲げを受ける片持ばりのひずみ計測を行う
10回	ヘリコプタの構造・強度と材料選択Ⅱ	回転ブレードのひずみ計測を行い、ブレードに生じる変動荷重について理解する
11回	ヘリコプタの振動Ⅰ	ヘリコプタの振動の特徴とローター固有振動数について理解する
12回	ヘリコプタの振動Ⅱ	Myklestad法による回転中のメインローターの固有振動解析を行い、実験による計測値と比較する
13回	ヘリコプタの飛行制御技術Ⅰ	ヘリコプタの姿勢制御について基礎的事項を理解するとともにシミュレータを用いた数値実験を行う
14回	ヘリコプタの飛行制御技術Ⅱ	ＰＩＤ制御を理解するため模型ヘリコプタのヨー軸安定化実験を行う
15回	総合実験発表会	これまでの実験結果の報告会を行い、小型ヘリコプタの特性について総合的に理解する
16回	まとめ	発表会で指摘された事項について再考し、報告する

【到達目標】	与えられた各テーマの目的を達成し、機械制御工学を構成する３つの系の基本的能力を確実に身に付ける。併せて、実験を主体的に行うことを通し、自主性・継続性を養う。		
【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準1(1)】	d-2b、g
【評価法】	各実験の評価はレポートおよび実験への取組み状況によって担当教員が定める。総合評価は、各実験評価の平均値および総合実験報告会のプレゼンテーション評価を合計し、６０点以上を合格とする。		
【テキスト】	担当教員が準備し、実験時に配布する。		
【関連科目】	すべての科目に関連している。特に、機械制御工学総合演習（専攻科２年）には直接関連しているので、実験の内容をよく理解すること。		
【成績欄】	前期中間試験【　】　前期末試験【　】　前期成績【　】　後期中間試験【　】　後期末試験【　】　学年末成績【　】		

環境建設工学総合実験（建築系）(Experiment of E. C. Engineering(Architectural Theme))

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
環境建設	必修	1年後	2	実験	古田健一・中川明子

【授業の概要】
講義や演習で学んだ知識を生きた教材の中で理解することを目的として、公営住宅空家の現地調査による空間体験で建築物のスケール感を体得する。さらに、その住宅の改修工事を想定して現場の実測調査（内部、外部の２回）をもとに現状図を作成し３Ｄモデルを作成の上ウォークスルー・シミュレーションまで行う。

【学修の進め方】
与えられたテーマの実測調査の計画、遂行、実測データ解析、成果レポートのまとめ、発表という一連の作業で進めていく。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1回	オリエンテーション	総合実験のテーマの説明とスケジュールの確認
2回	空家改修工事の概要説明	改修前図面・写真・工事実施図面・工事見積書をもとに机上予測
3回	現地調査の準備（１）	調査目的と調査項目の確認。提出レポートの要求内容の説明
4回	現地調査（１）	公営住宅空家の現場の実測調査
5回	調査結果の整理（１）	実測調査結果を整理し、レポート作成の準備
6回	CGソフトの操作演習（１）	２次元CGソフトの操作演習として、空家住戸部分図面の作成
7回	CGソフトの操作演習（２）	３次元CGソフトの操作演習として、空家住戸部分図面を立体化
8回	CGソフトの操作演習（３）	空家住戸部分ウォークスルー・シミュレーションの作成演習
9回	現地調査の準備（２）	改修前の現状の説明と調査概要の確認
10回	現地調査（２）	公営住宅空家改修予定住棟周辺の実測調査
11回	調査結果の整理（２）	実測値を整理し住棟の現状平面図・断面図の作成準備
12回	改修前現状図面の作成（１）	住棟の現状平面図・断面図の作成
13回	改修前現状図面の作成（２）	住棟の現状平面図・断面図をもとに３次元CGで立体化
14回	改修前現状図面の作成（３）	住棟のウォークスルー・シミュレーション実験データを作成
15回	成果品のプレゼンテーション	現状平面図・断面図とウォークスルー・シミュレーションの発表を行い、評価する
16回	まとめ	

【到達目標】	空間体験による建築物のスケール感の体得を目的とし建築設計での基本的能力を身に付ける。		
【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準1(1)】	d-2b,g
【評価法】	現地調査（１）、現地調査（２）の現状平面図・断面図が正確にできていること、成果品のプレゼンテーションが聴衆にうまく伝えられていることなどを総合的に評価する。		
【テキスト】	担当者が適宜準備する。		
【関連科目】	本科：工学実験Ⅰ・Ⅱ（建築系４，５年）、建築設計演習Ⅰ～Ⅳ（建築系４，５年目課程） 専攻科：環境建設工学総合演習（２年）		
【成績欄】	前期中間試験【　】　前期末試験【　】　前期成績【　】　後期中間試験【　】　後期末試験【　】　学年末成績【　】		

情報電子工学総合実験 (Experiment of Computer Science and Electronic Engineering)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
情報電子	必修	1年後	2	実験	守川和夫 柳澤秀明 古賀崇了

【授業の概要】
情報電子工学における理論を具現化する手法を実験を通じて体験することで、基礎的知識の確認と総合的な理解を深めることを目指す。ここでは、ハードウェア記述言語（VHDL）を用いた計算機システムの中核部分の作成を一連の実験テーマとして挙げ、実際に回路を作成する過程を通じ、ものづくりの意義とそこに求められる態度を体感してもらう。併せて、実験手法と課題の解決手法について理解する。

【学修の進め方】
与えられたテーマに対する実験の計画、実験手法の考察、実験の遂行、データの解析、成果レポートのまとめという一連の作業で進める。なお、実験の計画には、与えられたテーマの実験順を各自で立案することも含む。また、実験の遂行とデータ解析を行い、実験の計画、実験手法の考察、成果レポートのまとめについては各自で行い、成果レポートを担当教員に提出する。

【授業の概要】

各回の実験テーマの概要

第　１回　実験の概要と作成する CPU の解説
第　２回　開発ツール（ISE WebPack、ModelSim）の解説 (1)
第　３回　開発ツール（ISE WebPack、ModelSim）の解説 (2)
第　４回　基本的な CPU の設計 (1)
第　５回　基本的な CPU の設計 (2)
第　６回　基本的な CPU の設計 (3)
第　７回　アドレシング機構の仕組みと設計 (1)
第　８回　アドレシング機構の仕組みと設計 (2)
第　９回　ALU の拡張
第１０回　FPGA への回路の書き込み (1)
第１１回　FPGA への回路の書き込み (2)
第１２回　割込みの実装
第１３回　命令の拡張
第１４回　発表準備
第１５回　成果発表

【到達目標】	与えられた各テーマの目的を達成し、情報電子工学の実践能力を確実に身に付ける。併せて、実験の完遂までの過程を通して、ものづくりに必要な態度と洞察力を身に付ける。		
【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	d-2b,g
【評価法】	評価は、実験の計画性・完遂度 (40%)、成果発表 (20%)、成果レポート (40%) とする。		
【テキスト】	担当教員が資料を提示し、必要に応じて配布する。 参考図書：トランジスタ技術 SPECIAL　ロジック回路設計はじめの一歩　CQ 出版社		
【関連科目】	ディジタル回路（３年）、コンピュータアーキテクチャ（４年）、コンピュータシステム実験（４年）		
【成績欄】	前期中間試験【　】　前期末試験【　】　前期成績【　】　後期中間試験【　】　後期末試験【　】　学年末成績【　】		

環境建設工学総合実験（土木系）(Project Oriented Experiment (Civil Engineering Project))

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
環境建設	必修	1年後	2	実験	和多田　康男　原　隆　海田　辰将

【授業の概要】
講義や演習で学んだ知識を生きた教材の中で理解することを目的として、実際に行われる橋梁架設工事の施工について、模型製作、工場実習、現場見学を通して、施工現場の状況を把握する。そして、その中で、技術的な要点、問題点を抽出し、レポートする。

【学修の進め方】
(1) 模型製作、(2) 工場実習、(3) 現場見学により土木施工の実際と技術的課題を抽出し、分析する。
(1)～(3) の実習および調査を授業で行う。また、レポートを自学自習で行い、プレゼンテーションについてディスカッションし、理解を深める。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1回	オリエンテーション	総合実験のテーマの説明とスケジュールの確認
2回	橋梁模型の製作 (1)	設計図面をもとに 1/50 のプレートガーダーをケント紙で製作する。
3回	橋梁模型の製作 (2)	設計図面をもとに 1/50 のプレートガーダーをケント紙で製作する。
4回	橋梁模型の製作 (3)	設計図面をもとに 1/50 のプレートガーダーをケント紙で製作する。 作品提出
5回	工場実習 (1)	安全教育 レポート (1)
6回	工場実習 (2)	製作工程の見学 レポート (2)
7回	工場実習 (3)	溶接実習
8回	工場実習 (4)	溶接検査の実習 レポート (3)
9回	工場実習 (5)	工程管理、品質管理業務の見学 レポート (4)
10回	施工現場見学 (1)	安全教育・現地説明
11回	施工現場見学 (2)	工程管理・施工計画の説明
12回	施工現場見学 (3)	現地調査＆質疑
13回	施工現場見学 (4)	施工状況の見学 (1)
14回	施工現場見学 (5)	施工状況の見学 (2) レポート (5)
15回	プレゼンテーション＆ディスカッション	施工管理、品質管理、安全管理、施工計画等の気づき、改善点の提案
16回	まとめ	第 15 回の提案書の修正・提出

【到達目標】	橋梁工事の現場の現場管理、施工計画の手法を体験、修得する。		
【徳山高専学習・教育目標】	B1	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	d-2b,g
【評価法】	(1) 模型作品 (2) 工場実習の技術レポート 4 件 (3) 現場見学のレポート (4) 技術レポートのプレゼンテーションで評価する。配点は各 25%。(1)～(4) の各評価は正確さ、理解度、創意、表現力を各 25% で評価する。		
【テキスト】	原、和多田ほか「鋼構造学」（コロナ社）2007 資料は担当者が適宜準備する。		
【関連科目】	本　科：工学実験 II(CA4)、工学実験 III(CA5)（土木系）、鋼構造学 I(CA4)、鋼構造学 II(CA5)、構造力学(CA4)、土木施工法(CA4)、建設マネジメント(CA5)、工学デザイン I(CA4)、工学デザイン II(CA5) 専攻科：環境建設工学総合演習（EC2）		
【成績欄】	前期中間試験【　】　前期末試験【　】　前期成績【　】　後期中間試験【　】　後期末試験【　】　学年末成績【　】		

出典：シラバス

資料５－６－③－２　総合実験／総合演習の実施内容

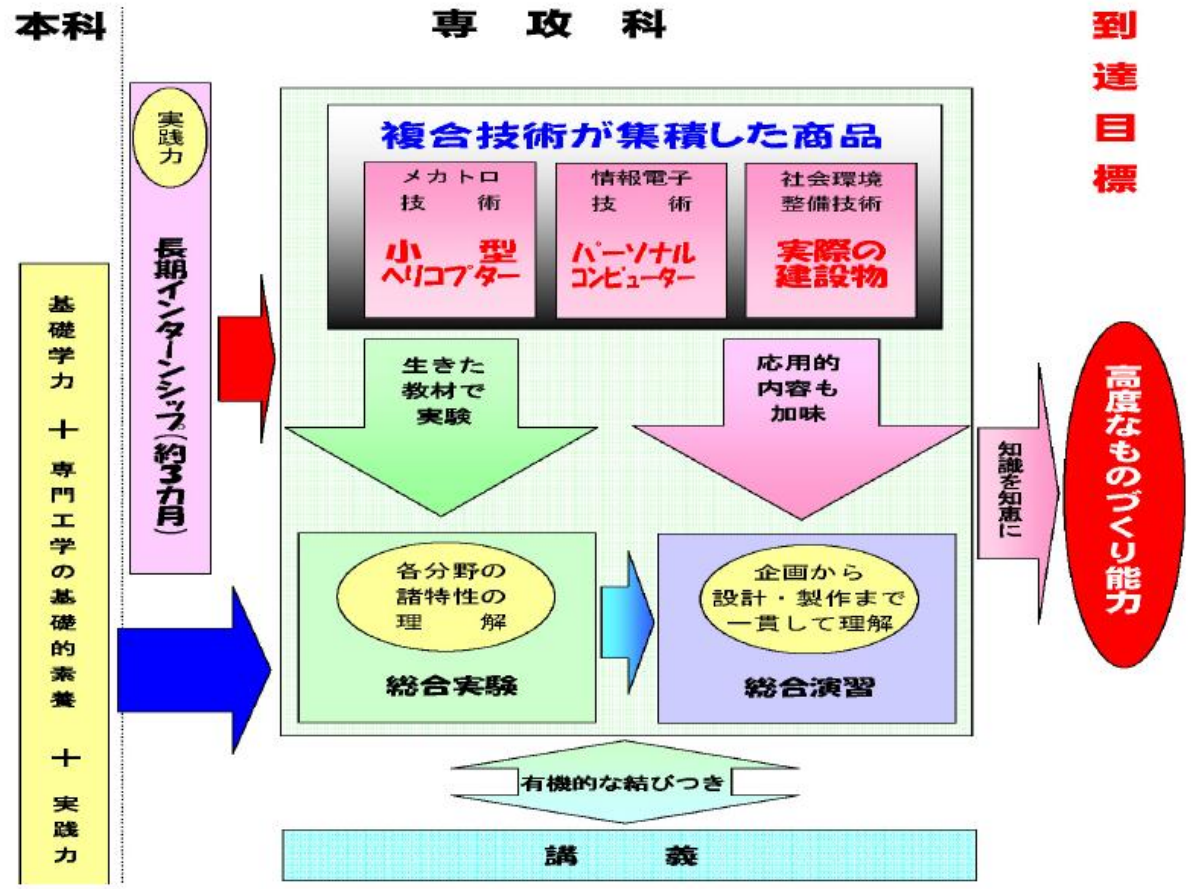


図２　プロジェクトの実施内容

出典：「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」成果報告書

資料５－６－③－３　専攻科インターンシップの概要

（5）密度の濃いインターンシップの実施

技術者として成長するためには、現実の課題に取り組む訓練を積むことがきわめて重要です。本校専攻科では１年前期にインターンシップを実施しています。企業等で課題に取り組むことにより、通用する知識を確認し、それらをブラッシュアップするとともに、不足している知識を知り、新たな課題を見出すことにもつながります。インターンシップをより有効に機能させるため、実習期間は２ヶ月から３ヶ月と長期にわたっています。概要を下記に示します。

① 目　　的

企業などでの長期にわたるさまざまな経験を通し、現実の課題に取り組む訓練を積むことにより、高専本科までに身につけた知識を確かめるとともに、それまでに学んだことを生かしつつさらに発展させ、課題を把握し解決する能力を身につけ、感性・創造性を養うことをめざす。また、社会が要求し期待する人物像を具体的に把握するなど、職業人としての技術者の心構えについても学ぶ。

② 実施内容

（1）対象学年：専攻科１年
（2）実施時期：研修期間は６月上旬から８月下旬までの２ヶ月以上とする。
　　事前準備として研修先との調整を行う期間を設ける。
（3）科目の位置づけ：必修６単位
（4）インターンシップ先：
　・企　業：徳山高専テクノ・アカデミアに加盟している企業その他
　・官公庁・大学院等：市役所、県庁、山口県産業技術センター、大学院（海外を含む）等
（5）担　当：受け入れ先への打診や依頼、調整や学生指導は、主として各専攻の専攻科幹事が特別研究指導教員と連携して行う。なお、全体のとりまとめは学生担当専攻科幹事が行い、実施責任者は専攻科長とする。
（6）テーマ：学生の希望をもとに受け入れ先と交渉し決定
（7）巡回指導：実習期間中は当該学生の所属する専攻の専攻科幹事ならびに特別研究担当教員が分担して、期間中最低1回巡回し、状況を把握するとともに、改善点があれば是正に努める。
（8）報告書：インターンシップ報告書と日誌を作成する。
（9）受け入れ先からの評価：学生の実習状況につき、評価書を学校に提出
(10) 評価法：報告書と企業からの評価書をベースに評価。
(11) 報　酬：原則として、無報酬

インターンシップ開始前に豊富な経験をもつ複数の実務経験者による講座「産業論」(マナー講習を含む）を開設します。経営の基本や産業構造のしくみ、技術者の資質や企業人としてどう生きるべきかなどについて学ぶことにより、就業意識を高めるよう、努めて下さい。

出典：専攻科履修要覧

資料５－６－③－４　専攻科インターンシップ報告集（目次）

平成23年度専攻科インターンシップ報告集　目次

			(ページ)
はじめに		校長　井上　直樹	1
実施概要			2

実施内容一覧

	学生氏名	派遣先	
機械制御工学専攻（7名）			
1	[redacted]	株式会社日立プラントメカニクス	3
2		日立交通テクノロジー株式会社笠戸事業所	7
3		地方独立行政法人山口県産業技術センター	11
4		ティーエスプレシジョン株式会社	15
5		ナカシマメディカル株式会社	19
6		東洋鋼鈑株式会社	23
7		マツダ株式会社防府工場	27
情報電子工学専攻（4名）			
1	[redacted]	株式会社日立プラントメカニクス	31
2		国際ソフトウェア株式会社	35
3		九州大学大学院システム情報科学府	39
4		奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科	43
環境建設工学専攻（21名）			
1	[redacted]	周南市役所	47
		アトリエ･コン･ブリオ	51
2		有限会社古居構造設計事務所	55
3		株式会社ソイル・ブレーン	59
4		パシフィックコンサルタンツ株式会社中国支社	63
		株式会社福山コンサルタント	67
5		中電技術コンサルタント株式会社	71
6		太平洋セメント株式会社	75
7		株式会社巽設計コンサルタント	81
8		財団法人山口県建築住宅センター	85
		株式会社安成工務店	89
9		公益財団法人文化財建造物保存技術協会九州事務所	93
10		University of Wollongong	97
11		株式会社トクヤマ	101
12		株式会社笹戸建築事務所	105

出典：専攻科インターンシップ報告集

（分析結果とその根拠理由）

総合実験／総合演習では，平成１９年から３年間にわたり取り組んだ全学科／専攻の横断プロジェクト「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」をベースに，それぞれの複合技術分野を修得させる授業を展開している。インターンシップは積極的に行われており，必修科目として２ヶ月以上を課し，企業からも高い評価を受けている。

以上のことから，創造性を育む教育，インターンシップの活用や知識の総合化をめざす工夫は十分行われている。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

（ａ）準学士課程の一般教育と専門教育を融合させた教養教育として，「技術者の倫理」「国際比較文化論」「産業論」「経営管理」「安全工学概論」を必修科目として配置し，専任教員，並びに学外の多彩な講師による授業を展開している（資料５－１－①－１）

（ｂ）コンタクトタイムノートにより，特別研究指導教員とのコンタクトタイムを確認している（資料５－７－①－１）

（ｃ）専攻科設置以来，専攻科の修了要件として学協会での発表を義務づけていたが，平成２３年度より専攻科修了時の達成目標へと変更した。学協会での発表は，JABEE「設計情報工学」プログラムの修了要件として義務づけている（資料５－７－①－２）

（ｄ）研究成果は，「特別研究論文集」としてまとめている（資料５－７－①－３）

（ｅ）特別研究の指導はその資格を満たした教員が対応し，テーマも適切である（資料５－７－①－４）

（ｆ）JABEE「設計情報工学」プログラムを修了することを推奨し，平成１８年度以降の専攻科修了生のうち，１名を除き，ほぼ全員がJABEE「設計情報工学」プログラムを修了している

（ｇ）専攻科１年次末と２年次始めに，他高専と共催（中国・四国地区高専，および山口県内高専）で特別研究中間発表会を行い，研究の進捗状況をチェックしている（資料５－７－①－５）

資料５－７－①－１　コンタクトタイムノート

開設年度: 平成 24 年度

特 別 研 究

研究日誌
コンタクトタイムノート

指導教員 ＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿ 専攻　年

氏 名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

コンタクトタイムノートの解説

■ コンタクトタイムとは

特別研究や卒業研究は、時間割に組まれている時間帯に所定の研究室で行うことが原則です。しかしながら、研究には、継続的な測定を伴う実験や、文献の調査、大量のデータ整理等が必要な場合もあり、研究室内や時間割の時間帯だけで行うことができないものがあります。

コンタクトタイムは、教員と密接に関わり合いながら研究に従事した時間です。したがって、時間割にある時間はもとより、それ以外の時間でも教員の指導や指示を受け、報告を行った場合もそれに該当します。その際、必ずしも教員がそばにいることに限定はされません。

なお、コンタクトタイムは、学生の特別研究、卒業研究の実質の実施時間を保証するものです。したがって、この時間数が、所定の時間（研究従事時間&コンタクトタイム集計表参照）を超えていない場合には、単位の修得が認定されません。

■ 研究従事時間とは

特別研究や卒業研究のために費やした時間すべてです。したがって、時間割にある時間も含めて、それ以外の時間帯や学校以外の場所での研究時間も記入してください。

■ 研究従事時間＆コンタクトタイム集計表について

集計表には、毎月の研究従事時間とコンタクトタイムの合計を記入し、それぞれ要修得学習時間に対する実績率を計算してください。（要修得学習時間は、別に専攻／学科ごとに示します。）

■ 研究日誌＆コンタクトタイム確認表の記入要領

各ページの確認表には、すでに年月日（曜日）が記入されています。この表に、日記のように毎日の研究従事時間とコンタクトタイムを両矢印で記入してください。また、研究内容＆コンタクトメモ欄には、その日の研究内容や教員との打ち合わせの内容をできるだけ具体的にメモしてください。

研究日誌＆コンタクトタイム確認表　４－１

平成 24（ 2012 ）年 4 月 1 日（日）	天気　晴れ	教員チェック欄	レ

研究内容&コンタクトメモ：
昨日行った実験の結果をデータ整理したところまで報告し、コメントを頂いた。
データ整理の続きを行った。
次の実験の準備を行った。

日　付　／　時　刻（該当する時間を両端矢印で分単位で記入）　／　1日合計時間
研究従事時間　計 4.5h
時　刻　0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計 2.5h

指導教員確認　印

今週の研究時間合計	20時間 30分
〃コンタクトタイム合計	12時間 30分

各ページの教員チェック欄と指導教員確認印に、教員のチェックと捺印をもらってください。

研究従事時間＆コンタクトタイム集計表

専攻／学科
氏名

月	要修得学習時間（A）	研究従事時間（B）	コンタクトタイム（C）	B／A（%）	C／A（%）
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
前期合計					
１０月					
１１月					
１２月					
1月					
2月					
3月					
後期合計					
学年合計					

＊ 時間は10進法表記
＊ 要修得学習時間
（要修得学習時間は別紙を参照して記入して下さい。後期分は後期時間割決定後にお知らせします。）

研究日誌＆コンタクトタイム確認表　４－１

平成 24（ 2012 ）年 4 月 1 日（日）　天気　教員チェック欄
研究内容&コンタクトメモ：
日付／時刻（該当する時間を両端矢印で分単位で記入）／1日合計時間
研究従事時間　計
時刻 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計

平成 24（ 2012 ）年 4 月 2 日（月）　天気　教員チェック欄
研究内容&コンタクトメモ：
研究従事時間　計
時刻 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計

平成 24（ 2012 ）年 4 月 3 日（火）　天気　教員チェック欄
研究内容&コンタクトメモ：
研究従事時間　計
時刻 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計

平成 24（ 2012 ）年 4 月 4 日（水）　天気　教員チェック欄
研究内容&コンタクトメモ：
研究従事時間　計
時刻 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計

平成 24（ 2012 ）年 4 月 5 日（木）　天気　教員チェック欄
研究内容&コンタクトメモ：
研究従事時間　計
時刻 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計

平成 24（ 2012 ）年 4 月 6 日（金）　天気　教員チェック欄
研究内容&コンタクトメモ：
研究従事時間　計
時刻 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計

平成 24（ 2012 ）年 4 月 7 日（土）　天気　教員チェック欄
研究内容&コンタクトメモ：
研究従事時間　計
時刻 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24　計 h/min
コンタクトタイム　計

今週の研究時間合計	時間　分
〃コンタクトタイム合計	時間　分

指導教員確認　印

出典：コンタクトタイムノート

資料５－７－①－２：「設計情報工学」プログラム修了要件

徳山工業高等専門学校「設計情報工学」プログラムの履修等に関する規程

（趣旨）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における「設計情報工学」プログラム（以下「プログラム」という。）の履修及び修了（以下「履修等」という。）に関し必要な事項を定める。

（プログラム構成）

第２条　プログラムを構成する科目は、徳山工業高等専門学校学則別表第１及び第２に掲げる科目のうち第４学年及び第５学年に配当された科目並びに別表第３に掲げる科目とする。

（履修対象期間）

第３条　プログラムの履修対象期間は、本科第４学年から専攻科第２学年までの４年間とする。

（履修対象者）

第４条　プログラムの履修対象者は、専攻科に入学したすべての学生とする。

２　本校以外の高等専門学校及び大学等（以下「他の高等教育機関等」という。）から本校専攻科に入学した学生に係る学修については、別に定める取扱いに基づき、他の高等教育機関等で修得した単位及び学習時間を認定する。

（修了要件）

第５条　プログラム修了要件は、次の各号のすべてを満たすものとする。

(1) 専攻科において６６単位以上、本科第４学年・第５学年を含めて１２８単位以上修得すること。

(2) 本科第４学年･第５学年を含めて、数学４科目以上、基礎工学５科目群（設計･システム系科目群、情報･論理系科目群、材料･バイオ系科目群、力学系科目群、社会技術系科目群）の各群から少なくとも１科目、合計６科目以上、情報関連科目３科目以上及び各専門工学で定めた科目（総合科目２科目以上を含む。）を修得すること。

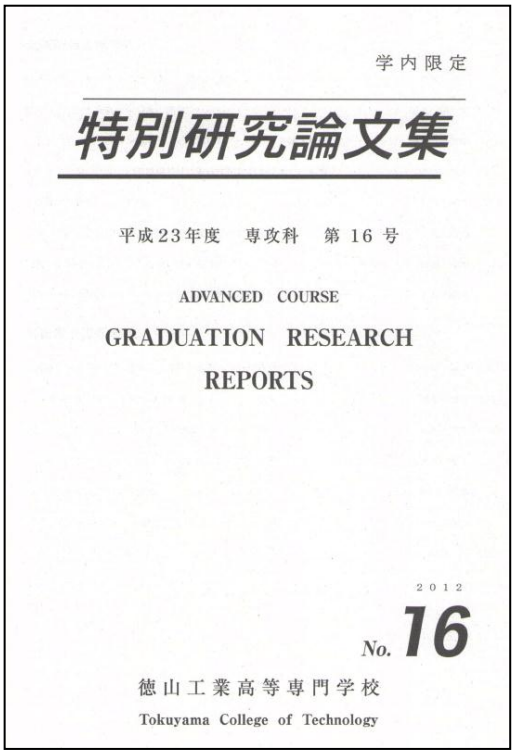
(3) 本科第４学年・第５学年を含めて、１,６００時間以上の学習時間を経ていること。そのうち、２５０時間以上の人文科学・社会科学等（語学教育を含む。）、２５０時間以上の数学・自然科学・情報技術及び９００時間以上の専門技術に関する学習時間を含むこと。

(4) TOEIC において４２０以上のスコアを取得し、情報関連等外部資格を取得し、学協会での発表を行うこと。

なお、情報関連等外部資格とは次に掲げるもの及びこれらと同等以上のものとして特に認められる資格をいう。

出典：専攻科履修要覧

資料５－７－①－３：特別研究論文集（目次）



学内限定

特別研究論文集

平成23年度　専攻科　第16号

ADVANCED COURSE

GRADUATION RESEARCH

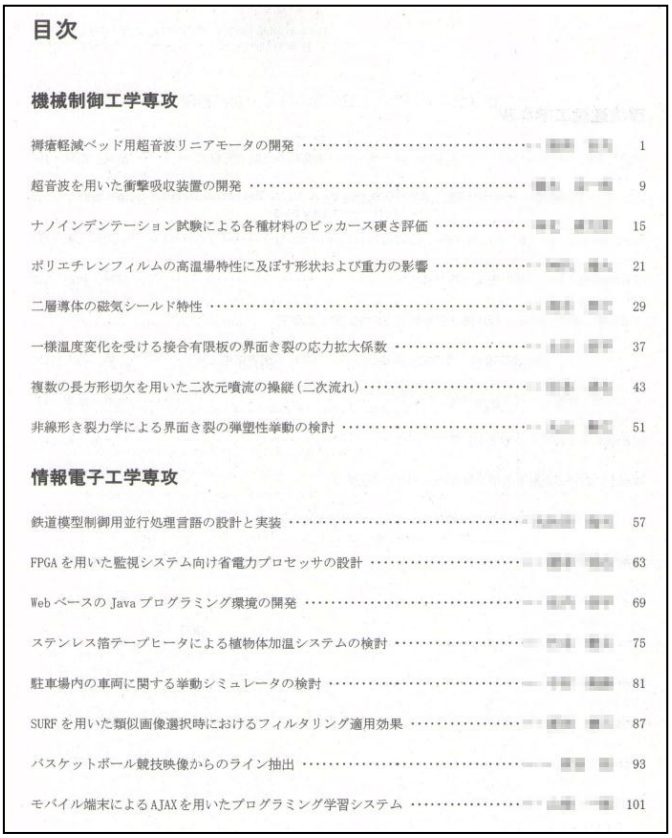
REPORTS

2012

No. 16

徳山工業高等専門学校

Tokuyama College of Technology



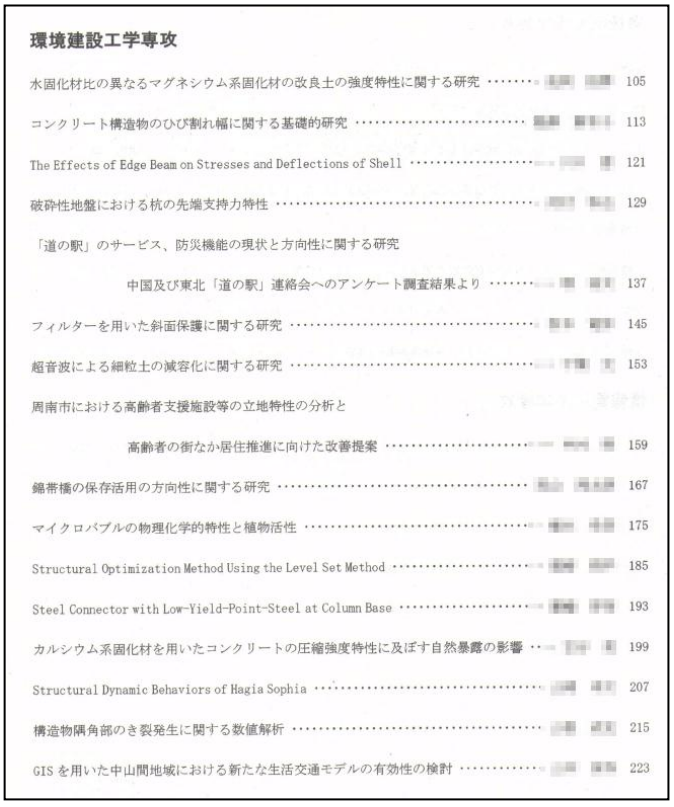
目次

機械制御工学専攻

摺痕軽減ベッド用超音波リニアモータの開発 …… 1
超音波を用いた衝撃吸収装置の開発 …… 9
ナノインデンテーション試験による各種材料のビッカース硬さ評価 …… 15
ポリエチレンフィルムの高温場特性に及ぼす形状および重力の影響 …… 21
二層導体の磁気シールド特性 …… 29
一様温度変化を受ける接合有限板の界面き裂の応力拡大係数 …… 37
複数の長方形切欠を用いた二次元噴流の操縦（二次流れ） …… 43
非線形き裂力学による界面き裂の弾塑性挙動の検討 …… 51

情報電子工学専攻

鉄道模型制御用並行処理言語の設計と実装 …… 57
FPGAを用いた監視システム向け省電力プロセッサの設計 …… 63
Webベースの Javaプログラミング環境の開発 …… 69
ステンレス箔テープヒータによる植物体加温システムの検討 …… 75
駐車場内の車両に関する挙動シミュレータの検討 …… 81
SURFを用いた類似画像選択時におけるフィルタリング適用効果 …… 87
バスケットボール競技映像からのライン抽出 …… 93
モバイル端末によるAJAXを用いたプログラミング学習システム …… 101



環境建設工学専攻

水固化材比の異なるマグネシウム系固化材の改良土の強度特性に関する研究 …… 105
コンクリート構造物のひび割れ幅に関する基礎的研究 …… 113
The Effects of Edge Beam on Stresses and Deflections of Shell …… 121
破砕性地盤における杭の先端支持力特性 …… 129
「道の駅」のサービス、防災機能の現状と方向性に関する研究
　中国及び東北「道の駅」連絡会へのアンケート調査結果より …… 137
フィルターを用いた斜面保護に関する研究 …… 145
超音波による細粒土の減容化に関する研究 …… 153
周南市における高齢者支援施設等の立地特性の分析と
　高齢者の街なか居住推進に向けた改善提案 …… 159
錦帯橋の保存活用の方向性に関する研究 …… 167
マイクロバブルの物理化学的特性と植物活性 …… 175
Structural Optimization Method Using the Level Set Method …… 185
Steel Connector with Low-Yield-Point-Steel at Column Base …… 193
カルシウム系固化材を用いたコンクリートの圧縮強度特性に及ぼす自然暴露の影響 …… 199
Structural Dynamic Behaviors of Hagia Sophia …… 207
構造物隅角部のき裂発生に関する数値解析 …… 215
GISを用いた中山間地域における新たな生活交通モデルの有効性の検討 …… 223

出典：特別研究論文集

資料５－７－①－４：特別研究テーマと指導教員一覧

平成23年度　専攻科特別研究発表会

平成24年2月24日（金）

機械制御工学専攻　（会場：テクノ2階　多目的室）
司会進行：専攻科幹事
発表時間：発表10分、質疑5分

指導教員

13:40-13:45	機械制御工学専攻　主任挨拶			
13:45-14:00	[redacted]	鈴木　厚行	MC	積層軽減ベッド用超音波リニアモータの開発
14:00-14:15	[redacted]	鈴木　厚行	MC	超音波印加時の金属の変形特性および衝撃特性について
14:15-14:30	[redacted]	西村　太志	MC	ナノインデンテーション試験による各種材料のビッカース硬さ評価
14:30-14:45	[redacted]	張間　貴史	MC	ポリエチレンフィルムの高温場特性に及ぼす形状および重力の影響
14:45-15:00	— 休憩 —			
15:00-15:15	[redacted]	石田　浩一	MC	二層導体の磁気シールド特性
15:15-15:30	[redacted]	小田　和広	MC	一様温度変化を受ける接合有限板の界面き裂の応力拡大係数
15:30-15:45	[redacted]	藤田　重隆	MC	複数の長方形切欠を用いた二次元噴流の操縦（二次流れ）
15:45-16:00	[redacted]	小田　和広	MC	非線形き裂力学による界面き裂の弾塑性挙動の検討

情報電子工学専攻　（会場：　管理棟3階　演習室　）
司会進行：専攻科幹事
発表時間：発表10分、質疑5分

14:10-14:15	情報電子工学専攻　主任挨拶			
14:15-14:30	[redacted]	重村 哲至	CE	鉄道模型制御用並行処理言語の設計と実装
14:30-14:45	[redacted]	柳澤 秀明	CE	FPGAを用いた監視システム向け省電力プロセッサの設計
14:45-15:00	[redacted]	柳澤 秀明	CE	WebベースのJavaプログラミング環境の開発
15:00-15:15	[redacted]	山田 健仁	CE	ステンレス箔テープヒータによる植物体加温システムの検討
15:15-15:25	— 休憩 —			
15:25-15:40	[redacted]	新田 貴之	CE	駐車場内の車両に関する挙動シミュレータの検討
15:40-15:55	[redacted]	百田 正広	CE	SURFを用いた類似画像選択時におけるフィルタリング適用効果
15:55-16:10	[redacted]	原田 徳彦	CE	バスケットボール競技映像からのライン抽出
16:10-16:25	[redacted]	柳澤 秀明	CE	モバイル端末によるAJAXを用いたプログラミング学習システム

環境建設工学専攻　（会場：　メディアホール　）
司会進行：専攻科委員(島袋先生　)
発表時間：発表15分、質疑5分

13:20-13:25	環境建設工学専攻　主任挨拶			
13:25-13:45	[redacted]	田村 隆弘	EC	コンクリート構造物のひび割れ幅に関する基礎的研究
13:45-14:05	[redacted]	上 俊二	EC	水固化材比の異なるマグネシウム系固化材の改良土の強度特性に関する研究
14:05-14:25	[redacted]	上 俊二	EC	破砕性地盤における杭の先端支持力特性
14:25-14:45	[redacted]	上 俊二	EC	フィルターを用いた斜面保護に関する研究
14:45-14:55	— 休憩 —			
14:55-15:15	[redacted]	上 俊二	EC	超音波による細粒土の減容化に関する研究
15:15-15:35	[redacted]	大成 博文	EC	マイクロバブルの物理化学的特性と植物活性
15:35-15:55	[redacted]	橋本 堅一	EC	カルシウム系固化材を用いたコンクリートの圧縮強度特性に及ぼす自然暴露の影響
15:55-16:15	[redacted]	橋本 堅一	EC	構造物隅角部のき裂発生に関する数値解析

環境建設工学専攻　（会場：　専門棟3階　設計製作室　）
司会進行：専攻科幹事
発表時間：発表15分、質疑5分

13:20-13:25	環境建設工学専攻　幹事挨拶			
13:25-13:45	[redacted]	原 隆	EC	Steel Connector with Low-Yield-Point-Steel at Column Base
13:45-14:05	[redacted]	原 隆	EC	The effect of edge beam on stress and deflection of shell
14:05-14:25	[redacted]	熊野 稔	EC	「道の駅」のサービス、防災機能の現状と方向性に関する研究 中国及び東北「道の駅」連絡会へのアンケート調査結果より
14:25-14:45	[redacted]	古田 健一	EC	奥南市における高齢者支援施設等の立地特性の分析と 高齢者の街なか居住推進に向けた改善提案
14:45-14:55	— 休憩 —			
14:55-15:15	[redacted]	原 隆	EC	Structural Optimization Method Using the Level Set Method
15:15-15:35	[redacted]	原 隆	EC	Structural Dynamic Behaviors of Hagia Sophia
15:35-15:55	[redacted]	古田 健一	EC	中山間地域における新たな生活交通モデルの有効性の検討

平成24年2月27日（月）

環境建設工学専攻　（会場：　専門棟3階　設計製作室　）
司会進行：専攻科幹事
発表時間：発表15分、質疑5分

10:00-10:05	環境建設工学専攻　主任挨拶			
10:05-10:25	[redacted]	中川 明子	EC	綿帯模の保存活用の方向性に関する研究

出典：専攻科資料

資料５－７－①－５：特別研究中間発表会

平成２４年度中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会開催要項

１．期　　間　　平成２４年４月２７日（金）～２８日（土）

２．会　　場　　高松テルサ
香川県高松市屋島西町 2366-1　Tel：087-844-3511

３．運　　営　　専攻科生研究交流会実行委員会
（香川高専詫間ｷｬﾝﾊﾟｽ専攻科生＋各高専専攻科生１名）

４．主 管 校　　香川高等専門学校詫間キャンパス

５．日　　程　　１日目　開会式　　１２時００分～１２時３０分
研究発表　１３時００分～１７時００分（予定）
情報交換会　１９時００分～２１時００分
２日目　研究発表　　９時００分～１３時００分（予定）
閉会式　　１３時３０分～１４時００分

６．研究発表　　発 表 者：専攻科学生
発表件数：１人１件
発表形態：口頭発表（発表時間は未定）又はポスター発表
発表部門：「機械部門」，「電気・電子部門」，「情報・制御部門」，
「土木・建築部門」，「物質化学部門」の５部門とする。
予稿及び発表言語：日本語又は英語とする。
予稿書式：Ａ４版２ページ（前年度の書式に準ずる。）PDF ファイルによる電子投稿方式とする。
予 稿 集：送付された予稿をもとに編集・製本する
運　　営：学生が主体となり全てを運営する
委員推薦：平成２４年１月中旬
参加申込：平成２４年１月３０日（月）～２月２４日（金）
予稿提出締切：平成２４年３月９日（金）１７時００分

７．情報交換会　日　　時：平成２４年４月２７日（金）１９時００分～２１時００分
場　　所：全日空ホテルクレメント高松（予定）
会　　費：５，５００円（予定）

８．宿泊場所　　高松市内のホテル

平成 23 年度山口県高等専門学校専攻科特別研究合同中間発表会 開催要項

1. 日時

平成 24 年 3 月 5 日（月）10 時～16 時

2. 会場・主管校

宇部工業高等専門学校

3. 日程

受付	(9:30～9:55)	マルチメディア学習室（図書館棟２階）
開会式	(10:00～10:10)	マルチメディア学習室
研究発表(午前の部)	(10:15～12:00)	教室・経営棟、視聴覚教室
１階教室（B－１１、B－１２）、２階教室（B－２１、B－２２）、視聴覚教室		
昼食・懇親会	(12:10～12:50)	食堂
研究発表(午後の部)	(13:00～15:30)	教室・経営棟、視聴覚教室
１階教室（B－１１、B－１２）、２階教室（B－２１、B－２２）、視聴覚教室		
閉会式	(15:45～15:55)	マルチメディア学習室（図書館棟２階）

4. 参加者　山口県三高専

専攻科 1 年生、

校長、専攻科長、担当教員

5. 研究発表

発表部門；「機械・電気・システム系」、「情報・電子・経営系」、「土木・建築・物質系」

発表者：山口県三高専専攻科 1 年生

発表形態：口頭発表（発表 10 分＋質疑応答 5 分）

評価；参加教員が評価を行い、後日結果送付。

出典：中国・四国地区高専および山口県内高専　合同中間発表会案内

（分析結果とその根拠理由）

教養に関する複数の科目を必修として実施している。コンタクトタイムの確認や，特別研究中間発表会の実施等によるきめの細かなチェックと，JABEE「設計情報工学」プログラムで学協会での発表を義務づけることにより，一定レベル以上の研究指導がなされ，成果が得られている。

以上のことから，専攻科にふさわしい教養教育や研究指導が適切に行われている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

- 専攻科の履修規定は学生便覧に掲載されている（資料５－８－①－１）
- 専攻科課程入学時のオリエンテーションにおいて，教育方針，成績評価，単位認定規定などを周知している（資料５－８－①－２）
- １単位の履修時間に関して，シラバスで解説し，学生に周知している（資料５－８－①―３）
- 学修単位（４年から専攻科２年生まで）最終学年である専攻科２年生において，自学自習時間のアンケート調査を実施し，ほとんどの学生で自学自習時間が確保されていることを確認している（資料５－８－①―４）
- 学習・教育目標の達成度評価対象と評価方法および評価基準を専攻科履修要覧にまとめ明示している（資料５－６－②－２）
- 専攻科の修了要件は専攻科履修要覧にまとめて解説されている（資料５－５－③－２）。修了は専攻科担当教員全員による「専攻科修了認定会議」で校長により認定される（禁帯出：専攻科修了認定会議議事録）
- 科目ごとの成績評価法はシラバスに掲載されている
- 成績評価は科目の担当教員により決定されるが，その根拠は成績評価資料として提出・保管され，学習・教育レビュー室によるチェック，およびピアレビューを受ける制度となっている。これは，準学士課程とまったく同じである

資料５－８－①－１：専攻科履修規定

徳山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

（趣　旨）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第37条第３項及び第39条の規定に基づき，本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定める。

（単位の計算方法）

第２条　各授業科目の単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

(2) 演習については，30時間の授業をもって１単位とする。

(3) 実験及び実習については，30時間の授業をもって１単位とする。

（履修方法）

第３条　専攻科に開設する授業科目の履修にあたっては，年度当初に受講科目履修届（別紙第１号様式）を所定の期日までに提出しなければならない。

（指導教員）

第４条　専攻科の学生は，各専攻の指導教員から授業科目の履修及び特別研究の指導を受けるものとする。

２　特別研究の指導については，専攻科委員会の承認を得て教育研究分野に関連のある他専攻の指導教員の指導を受けることができるものとする。

（試　験）

第５条　専攻科の試験は，定期試験及び追試験（以下「定期試験等」という。）とする。

２　定期試験は，各学期末に実施する。

３　追試験は，次の各号の一に該当する者のうち，追試験受験願（別紙第２号様式）を所定の期日までに提出し，その許可を得た者に対し実施する。

(1) 病気（医師の証明がある場合に限る。）

(2) 忌引

(3) その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合

（再履修）

第６条　定期試験等で不合格になった授業科目は，再履修することができる。

２　前項で定める再履修は，第３条の規定を準用する。

第７条　試験中の不正行為については，当該科目の評価は不可とし，第５条の適用は認めない。

（成績の評価）

第８条　授業科目の評価は，原則として当該科目担当教員が，定期試験の成績及び出席状況等平素の学業成績を総合して行うものとする。

２　特別研究の評価は，特別研究論文を提出し，特別研究発表会で発表を行った者に対して

行う。

３　前項の特別研究論文に関しては，原則として，学会又は協会における発表を前提とするものとする。

第９条　成績の評価は，優，良，可及び不可の評語をもってし，次の評点区分による。ただし，特別研究は評価区分を行わない。

評語	評　点　区　分
優	１００～８０
良	７９～７０
可	６９～６０
不可	５９～　０

第10条　各授業科目とも欠課時数が授業時数の１／５を超えるものに対しては，評価は行わない。この場合において，遅刻及び早退は，３回をもって欠課１回とする。

（単位の認定）

第11条　第９条の規定に基づき，優，良及び可に評価された授業科目については，当該科目を修得したものとして，単位を認定する。

２　不可科目については，当該学期内に再試験を実施することができる。ただし，評点の最高は６０点とする。

（他専攻の授業科目履修）

第12条　他の専攻で開設されている科目の履修を希望する学生は，あらかじめ指導教員の許可を得たうえで受講届（別紙様式第１号）を学生課へ提出しなければならない。これにより修得した単位は10単位を限度で当該専攻における単位として認定することができる。

（他の教育施設で履修した単位認定）

第13条　他の教育施設で修得した単位は，16単位を超えない範囲で，専攻科における授業科目の履修とみなし，単位の修得を認定することができる。

２　他の教育施設で修得した単位の認定は，別に定める。

（専攻科の修了）

第14条　専攻科課程の修了の認定は，学則及びこの規程に基づき，専攻科修了認定会議において審議の上校長が行う。

附　　則

この規則は，平成７年４月１日から施行する。

（中略）

附　　則

この規程は，平成18年４月１日から施行する。

出典：学生便覧

資料５－８－①－２：専攻科入学生オリエンテーション

【1 年生オリエンテーション II】(テクノ多目的、午後13時00分～)

(学生証、1年生は後日カードキーを発行、履修要覧、時間割、履修届配布)

①専攻科長　履修要覧概要説明

p.42「学習・教育目標」

p.1　専攻科修了要件

p.45　設計情報工学プログラム

p.49 設計情報工学プログラム修了要件

専攻科 HR(スケジュールは始業式オリエンテーションでアナウンス)

学生処分の方針(専攻科生の処分は、本科生の処分規定に準ずる. ただし軽微なこと(HR をさぼるとか‥)に関しては専攻科長の判断で処分する)

②笠置先生　教養科目「産業論(必)」「経営管理(必)」「経営工学(選)」「安全工学概論(必)」

英語学習に関する一般的注意事項　TOEIC スケジュール

海外長期インターンシプ希望者への CV 作成の指示(内田、波多野)

③鈴木先生　合同中間発表会、中四国交流会(平成25年度　大島商船)のスケジュール

特別研究に関する一般的注意事項(履修要覧参照)

④西尾先生　学生生活全般に関する一般的注意事項(履修要覧参照)

長期インターンシップ(その趣旨、手続き等の説明)

⑤新田先生　外部資格の取得等に関する一般的な事項(履修要覧参照)

情報セキュリティーに関する一般的注意事項

出典：専攻科資料

資料５－８－①－３：履修時間に関する解説

シラバスの解説

材料力学II(Materials and Mechanics II)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
機械電気	必修	4年前	1	講義	森野　数博

【授業の概要】
材料力学の目的は材料を正しく、すなわち安全で経済的に使用することにあり、そのためには、そこに作用する力と変形を的確に知る必要がある。４年次では曲げ、ねじり、座屈の基本的な問題に関して基礎力と応用力を養う。

【授業の進め方】【学修の進め方】（本科学修単位，専攻科）
おおむね教科書に沿って講義を進めるが、いたずらに多くを教えるのではなく、それらの現象が共通した原理は支配されていることを示すとともに、物理的意味を把握できるようにする。学習シートは毎回用意し、理解を深めることに役立てるとともに、一部は提出レポートとしても扱う。レポートは７回程度課す。

【授業計画】	【授業項目】	【内　容】
1回	ガイダンス、たわみ曲線（基礎式）	材料力学の目的、応力とひずみ、フックの法則、ヤング率、断面二次モーメント、たわみ曲線の基礎式
2回		片持ばりの曲げモーメント、SFD、BMDとたわみの求め方を理解する。
3回		種々の条件の片持ばりのたわみの求め方を理解する。
4回		種々の条件のたわみの求め方について理解する。レポート。
5回	平等強さの梁	梁の最外層で曲げ応力が等しくなる形状の求め方、またその場合の最大たわみの求め方を確実に理解する。レポート。
6回	ラーメン	L形フレームを通し、曲げを受けるラーメンの取り扱い方を修得し、先端のたわみの求め方を理解する。
7回	不静定梁（一端固定他端支持梁）	一端固定他端支持の不静定梁について、せん断力、曲げモーメント、SFD、BMDとたわみの求め方を理解する。
8回	中間試験	たわみの基礎方程式の導出、平等強さの梁となしうる形状、その最大たわみ、簡単なたわみ問題が解けるか確認する。
9回	中間試験の解答、不静定梁（両端固定梁）	中間試験の解答の後、授業アンケート実施。両端固定梁について未知反力を求め、曲げの各種値を得る方法を理解する。レポート。
10回	ねじり（基礎式）	ねじりの基礎式の導出過程を学び、その過程と結果を理解する。
11回	ねじり（中実丸棒と中空丸棒の比較）	前回の結果を用いて、中空丸棒が中実丸棒に対しても強いことを理解する。レポート。
12回	ねじり（両端固定棒、動力伝達軸）	動力伝達軸において動力やトルクや回転数の相互関係を理解し、ねじり応力との関係を熟知する。レポート。
13回	ねじり（延性材料と脆性材料の破	延性材料をねじると軸に対し垂直に破壊するのに対し、脆

授業でめざす目標や概要が要約されています。

各回の授業項目を示しています。目次の役割を果たしており、全体の流れがわかります。

毎回の授業内容と学習の目標が要約して示されています。目標達成のために集中して授業を受け、分からないところは質問し、予習や復習もしっかり行って下さい。

この科目でめざす目標を達成するための授業の進め方を示しています。レポートや学習シートの使い方についても示しています。
本科学修単位および専攻科では，自学自習を含め授業の進め方を示しています。

授業を受けた学生最終的に到達すべ

それぞれの試験で確認する内容を示しています。

生体情報工学 (Biological Information Engineering)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
情報電子	必修	1年後	2	講義	池田信彦

【授業の概要】
人間の脳の機能を解明し、それを医療等の工学的分野に応用することは現在の科学技術にとって大きな課題の一つである。また脳における情報処理メカニズムの解明はより柔軟な処理能力をもつコンピュータや人にやさしい装置を設計する上でも重要である。講義では、人間の情報処理機能に注目した典型的なニューラルネットワークモデルについて、適宜演習も取り入れながら解説する。

【学修の進め方】
＜講義の方針＞ノート講義とする。資料に従って説明を行う。また理解を深めるために、適宜演習を行う。演習については、レポートを期限までに提出する。学習シートは配布資料で代用する。
＜自学・自習の方針＞講義内容を復習し、理解を深める。十分な演習時間が確保できないため、演習時間の不足分やレポート作成については自学・自習で補う。

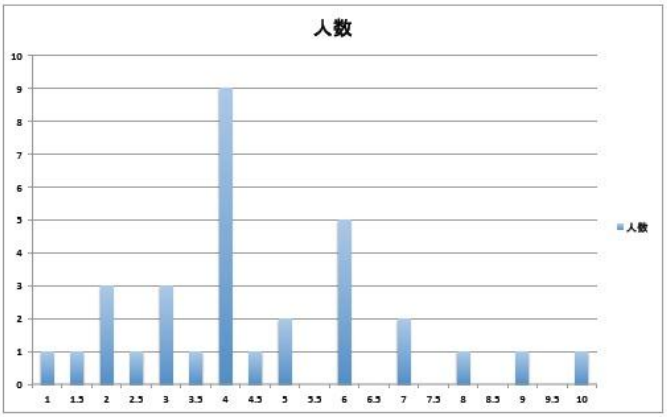
出典：シラバス

資料５－８－①－４　自学自習時間のアンケート結果（平成２４年度：専攻科２年生）

平成24年6月8日(金)アンケート実施

	2年生	1日	1週間
MC		4.5	32
		4	20
		4	20
		8	56
		3.5	21
		6	50
		5	30
CE		4	28
		3	21
		9	65
		3	22
EC		2	11
		7	49
		10	60
		6	50
		6	38
		4	28
		4	28
		7	50
		4	28
		4	28
		6	42
		5	30
		3	14
		6	42
		2	10
		2	12
		2.5	15
		4	30
		4	24
		1.5	10
		5	35
		1	10

自学自習時間／日	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	5.5	6	6.5	7	7.5	8	8.5	9	9.5	10
人数	1	1	3	1	3	1	9	1	2	0	5	0	2	0	1	0	1	0	1



自学自習時間／日:平均　4.55　時間
自学自習時間／週:平均　30.58　時間

出典：専攻科資料

（分析結果とその根拠理由）

成績評価や修了認定規定は専攻科の授業科目の履修等に関する規程に明確に定められており，学生便覧，専攻科履修要覧やWebサイト上に明記され，学生にもオリエンテーションや専攻科ホームルームにより周知されている。各科目の最終成績はシラバスに記載された評価法で行われ，評価に用いた資料は，学習・教育レビュー室のレビューを受けた後，成績評価資料として資料室に保管されている。これらの成績をもとに，専攻科修了認定会議において審議の上，修了が決定される。

以上のことから，成績評価や修了認定規定が定められ，学生に周知されるとともに，規定に従い適切に実施されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 準学士課程，専攻科課程の教育課程の整合性を実現するために「科目間調整会議」等の取り組みが行われ，教育課程が詳細に体系化されている
- 毎年，統一された形式で授業内容を見直したシラバスが作成され，チェックされている
- 成績評価資料が統一的な形式で作成され，学習・教育レビュー室でのチェック，およびピアレビューが実施されている
- クラス担任，クラブ顧問，学生相談室，キャリア教育支援室などに全教員が関わる体制となっており，学生の豊かな人間性涵養を図っている
- 英語力向上のため，客観的な評価指標としてACE，TOEICを導入するとともに，授業内外で多読・多聴の取り組みを進めている

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準５の自己評価の概要

＜準学士課程＞

教育課程は，各分野の複合技術の修得と，６つの学習・教育目標を満足するよう設計されており，具体的到達目標が達成できるように工夫されている。一般科目と各専門学科、専攻科課程も含めた授業科目系統図が作成されており，各科目の果たす役割を明確にしている。専門科目では，実験・演習形式で行っている科目が多く占め，実践力を養う上で望ましい形になっている。学習指導上では，基本的素養の涵養や国際性やコミュニケーション能力を養う科目で工夫がみられる。シラバスは統一した形式で作成され，授業内容の改訂が図られている。

成績評価や進級・卒業認定規定は明確に定められており，学生便覧や Web サイト上に明記するとともに，学生に周知している。各科目の最終成績は，シラバスに記載された評価法により評価され，評価に用いた資料は，学習・教育レビュー室の点検，およびピアレビューを経た後，資料室に３ヶ年分を保管されている。進級や卒業認定は定められた規定に基づき，当該認定会議において審議し，決定している。

学生指導ではクラス担任，クラブ顧問とともにキャリア教育支援室や学生相談室が大きく関与しており，各学年にふさわしい諸活動を年度当初に計画するなど，人間性の涵養に対し，全学的に取り組んでいる。

＜専攻科課程＞

専攻科課程は準学士課程と１対１に対応しており，それぞれの複合技術は両者で共通であることから，カリキュラムも７年間を見通して設計されている。学習・教育目標に対応する具体的到達目標をクリアするため，教養科目を充実するとともに，基礎学力，特に英語力を充実している。また，準学士課程で修得した基礎的科目を踏まえ，平成１９年から３年間にわたり取り組んだ全学科／専攻の横断プロジェクト「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」をベースにそれぞれの複合技術分野を修得させる演習科目・実験科目を展開している。また，個々の科目を総合化した科目を開設しており，実践力と結びついた知識の総合化を図っている。さらに，

高度な実践力をもつ開発型能力を養うため，２ヶ月以上の長期インターンシップを１年前期に必修科目として開設するとともに，特別研究を重視し，研究指導に注力している。

また，学生の多様なニーズに応えるため，他大学等と協力協定を結び，単位互換あるいはインターンシップや各種研修へ学生を積極的に派遣することで教育の幅を広げている。

成績評価や修了認定規定は明確に定められており，学生にも周知されている。成績の評価法や修了認定の方法は準学士課程とほぼ同じで，成績評価資料も同様に作成・管理されている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

準学士課程，専攻科課程とも，本校の６項目の学習・教育目標（Ａ１～Ｃ２）に沿って，具体的到達目標が定められている（資料６－１－①－１）。すべての科目のシラバスには，科目毎の到達目標と，それぞれが対応する６項目の学習・教育目標が明記され（資料６－１－①－２），単位修得の状況は，準学士課程では学年修了認定会議と卒業認定会議で，専攻科課程では修了認定会議で把握・評価している（資料６－１－①－３，４）（禁帯出：学年修了認定会議資料，卒業認定会議資料，専攻科修了認定会議資料）。

準学士課程では，６項目の学習・教育目標に対応する科目の修得に加え，（Ａ２）英語外部試験（「英語能力運用検定テストACE」（１～３年生）と「TOEIC IP」テスト（４～５年生）），（Ｃ２）発表における評価が導入されている。（Ａ２）に関しては，学年ごとの英語資格スコア・取得目標を定め，各学年に所属する学生の60%以上が達成することを目指し，全員が英語一斉試験を受ける機会を設けている（資料６－１－①－５）。（Ｃ２）に関しては，創造演習発表会や卒業研究発表会を開催し，評価している（資料６－１－①－６，７）。さらに（Ｂ１）に関しては，外部資格の取得を奨励し，単位の認定を行っている（資料６－１－①－８）。

専攻科課程では，６項目の学習・教育目標に対応する科目の修得に加え，（Ａ１）学士取得，（Ａ２）TOEICスコア，（Ｂ１）情報関連外部資格取得，（Ｃ２）インターンシップおよび特別研究，学協会での研究発表により，それぞれを評価している（資料６－１－①－９）。また専攻科生は，全員がJABEE「設計情報工学」プログラムの履修者であり，本校の６項目の学習・教育目標（Ａ１～Ｃ２）に対応したプログラムの修了要件が定められ,これによる評価も行っている（資料６－１－①－１０，１１）。

準学士課程の卒業および専攻科課程の修了時に，（Ａ～Ｃ）の３項目，および総合的に実力がついたかどうかを判断する材料として，学習・教育レビュー室が，本科卒業および専攻科修了時に学習達成度評価アンケートを実施している（資料６－１－④－１）。

資料６－１－①－１　準学士課程卒業時および専攻科課程修了時の具体的到達目標

具体的到達目標
Concrete Goals for the Students to Achieve

本科卒業生と専攻科修了生のめざす到達目標を、学習・教育目標に沿って、より具体的に定めました。この具体的目標は、準学士課程と専攻科課程を終えるとき、全員が到達する内容を示しています。

In line with our educational goal, our college has set more specific goals for undergraduate and advanced courses respectively. All the students are supposed to achieve the following goals when they have completed their undergraduate and advanced courses.

準学士課程卒業時

When You Have Completed the Undergraduate Course

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために
（A１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
（A２）国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
・自らの目標を定め、外部試験を活用して、英語力のステップアップを図る
（B）「実践力のある」技術者をめざすために
（B１）情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
・情報関連・実験の科目を修得する
（B２）自主性と自立性を養うこと
・卒業研究の科目を修得する
（C）「開発型」技術者をめざすために
（C１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
（C２）課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
・創造系の科目を修得する
・創造演習発表会、卒業研究発表会などで発表を行う



専攻科課程修了時

When You Have Completed the Advanced Course

（A）「世界に通用する」技術者をめざすために
（A１）複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
・学士を取得する
（A２）国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
・TOEICにおいて420以上のスコアを取得する
（B）「実践力のある」技術者をめざすために
（B１）情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
・情報関連・実験の科目を修得する
・情報関連等外部資格を取得する
（B２）自主性と自立性を養うこと
・卒業研究の科目を修得する
（C）「開発型」技術者をめざすために
（C１）複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
・総合科目（２科目以上）及び総合演習の科目を修得する
（C２）課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
・国内外の学協会で発表を行う



出典：学校要覧

資料６－１－①－２　シラバス（抜粋）

	期末試験	9～14回の授業内容についての理解の確認
15回	解答返却など	力と運動のまとめ
【到達目標】	力学に関する基本的な概念や原理･法則について理解し、これらの領域の具体的な事象について物理学的に考察することができる能力を身につける。 演習については、教科書､問題集の例題を理解し、教科書の節末問題、問題集の基本問題を60%以上解くことができる学力を身につける。	
【徳山高専学習・教育目標】	A1	【ＪＡＢＥＥ基準1(1)】
【評価法】	評価方法：試験成績（2回の試験の点数の平均）×0.8＋（演習およびレポート20点） なお、教科書の探究活動および発展課題の優秀なレポートについては、特別に評価し加点する。	
【テキスト】	『物理基礎』（数研出版）、アプローチドリル物理基礎①力と運動編（第一学習社）	
【関連科目】	化学基礎（1年）、生物基礎(1年)	
【成績欄】	前期中間試験【　　】 前期末試験【　　】 前期成績【　　】 後期中間試験【　　】 後期末試験【　　】 学年末成績【　　】	

出典：シラバス

資料６－１－①－３　学年修了認定および卒業認定（抜粋）

第12条　各学年における課程の修了の認定は，修了認定会議において審議のうえ，校長が行う。

２　次の各号のすべてに該当する者は，原則として課程の修了を認める。

(1) 学則に定める当該学年の所定の科目をすべて履修している者。

(2) 各学年末における累積不可単位数が10単位以内の者。

ただし，第５学年については修得した単位数の合計が167単位以上（そのうち，一般科目については75単位以上，専門科目については82単位以上とする。）であること。

累積不可単位数とは，当該学年までに履修すべき単位数から当該学年までに修得した単位数を差し引いた単位数をいう。

(3) 学年評価における全科目の平均点が５０点以上である者。

(4) 第３学年以下については，特別活動を履修した者。

(5) 第５学年については，卒業研究を修得した者。

(6) 欠席日数が原則として年間25日以内の者。ただし，遅刻及び早退２回を欠課１時間に，欠課７時間を欠席１日に換算して取り扱う。

３　学則に定める単位数をこえて修得した選択科目の単位数は，専門科目の不可単位数を補うことができる。

（留　年）

第13条　学年の課程修了を認定されない者は，原学年に留まる。この場合において，原学年で修得した単位はすべて無効となり，原学年の課程の再履修を必要とする。ただし，特別に認められた科目については単位の修得を認め，再履修を免除することができるものとする。

２　休学の場合を除き，引き続き２回原学年に留まることはできない。

（卒　業）

第14条　卒業の認定は，卒業認定会議において審議のうえ，校長が行う。

２　第５学年までの各学年の課程を修了した者で，授業科目を167単位以上（一般科目については75単位以上，専門科目については82単位以上とする。）修得した者は，原則として卒業を認める。

出典：教務規則

資料６－１－①－４　専攻科修了認定（抜粋）

（専攻科の修了）

第14条　専攻科課程の修了の認定は，学則及びこの規程に基づき，専攻科修了認定会議において審議の上校長が行う。

出典：専攻科の授業科目の履修等に関する規程

資料６－１－①－５　英語一斉試験

学年ごとの英語資格スコア・取得目標（要60%以上達成）

	TOEICスコア	実用英検	工業英検	ACE
専攻科2年	470	2級	2級	参考(590)
専攻科1年	400	2級	3級	参考(540)
5年	350	2級	3級	参考(500)
4年	330	準2級	3級	参考(470)
3年	310	準2級	4級	450
2年	290	準2級	4級	420
1年	250	3級	4級	400

出典：教務係資料

資料６－１－①－６　創造製作Ⅰ発表会要項（抜粋）

2012.1.30（月）テクノセンター

平成 23 年度　ME2 創造製作Ⅰ発表会　要項

14:10～17:30

14：10　準備時間 10 分
14：20　開会行事 10 分
　　開会宣言（司会）
　　審査員紹介（司会）4 名（実習工場の先生）
　　競技内容説明（司会）
　　選手宣誓（宣誓担当学生）
14：30　試合準備 10 分
14：40　予選 11 試合（44 名）
　　得点上位 14 名＋推薦 2 名の 16 名が決勝トーナメント 1 回戦進出
　　マシン紹介 15 秒（計 1 分）、試合 3 分、予備 1 分　計 5 分　55 分
15：35　休憩　5 分

15：40　決勝トーナメント 1 回戦 8 試合（16 名）8 名が 2 回戦進出　40 分
16：20　決勝トーナメント 2 回戦 4 試合（8 名）4 名が準決勝進出　20 分
16：40　決勝トーナメント準決勝 2 試合（4 名）2 名が決勝進出　10 分
16：50　決勝　1 試合　10 分
17：00　閉会行事　20 分
　　表彰（司会）3 名（プレゼンターは審査員）
　　競技部門 1 位、アイディア賞、創造製作大賞
　　閉会宣言（司会）.
17：20　＊連絡事項、講評など

司会：3 名（○○、○○、○○）
　役割：開会行事（競技説明を含む）、閉会行事、競技中の実況（計時を含む）
選手宣誓：1 名（○○）
競技委員：6 名（○○、○○、○○、○○、○○、○○）
　役割：競技事前準備、競技中のアイテムのセットなど

出典：創造製作Ⅰ発表会要項

資料６－１－①－７　卒業研究発表会プログラム

平成23年度　徳山高専　機械電気工学科5年生　卒業研究発表プログラム

メディアホール　平成24年2月22日（水）5時限（13:15）～

日付	時刻	座長	No.	氏名	所属	発表題目
22(水)	13:15			主任挨拶		
	13:20	○○ ○○	3	○○ ○○	○○	Xbee小型ひずみ計測装置の開発
	13:30		27	○○ ○○		引張りを受ける薄板の弾塑性解析
	13:40		40	○○ ○○		圧縮荷重を受ける接合板の応力拡大係数
	13:50		32	○○ ○○	○○	ラジカル窒化を施した球状黒鉛鋳鉄の高サイクル疲労強度に及ぼす欠陥寸法の影響
			44	○○ ○○		
	14:05		33	○○ ○○		高専における設計教育高度化のためのＰＢＬ型設計教育手法の検討
	14:15			休憩		
	14:25	○○ ○○	8	○○ ○○	○○	アルキメデスポンプの特性評価装置の開発と性能試験
			36	○○ ○○	○○	
			37	○○ ○○		
	14:45		26	○○ ○○	○○	教育用PIC-F18ボードとテキスト開発
			23	○○ ○○	○○	
	15:00		9	○○ ○○	○○	直径 25 mm のボルト締めランジュバン型振動子を用いたスクリュ型超音波モータの構成
	15:10		16	○○ ○○		超音波を用いた摩擦低減式衝撃吸収装置の開発
	15:20			休憩		
	15:30	○○ ○○	31	○○ ○○	○○	長方形噴流の発達に与えるノズル軸端形状の影響
	15:40		1	○○ ○○	○○	複数の長方形切欠を用いた二次元エアカーテンの製作
			20			
	15:55		12	○○ ○○	○○	直列に配置された円形ノズルから流出する乱流自由噴流の干渉

平成23年度　情報電子工学科卒業研究発表プログラム

2月6日（月）　10:50集合　　会場：メディアホール

番号	座長	時間	研究題目	発表者	時計係
1	小林	11:00-11:13	LabViewを用いた倒立振子制御手法の比較実験システム		義永研
2		11:14-11:27	マスターハンド（グラフィティVer.）の開発		
3		11:28-11:41	画像処理を用いた組込み監視システムの開発 ～画像取込み回路記述の作成～		
4		11:42-11:55	SINGLE BOARD マイコンを用いた自律型監視システムの構築		
5		11:56-12:09	ブラウザから利用可能なファイル一元管理システム		
6		12:10-12:37	フレキシブルシュート製作のための展開図作成システム		
			昼休み		
7	重村	13:15-13:28	多段階露出画像の統合による広ダイナミックレンジ画像の生成における有効露光域の決定方法の改良		原田研
8		13:29-13:49	スポーツプリンタからの信号変換器の改良		
9		13:50-14:03	音響信号におけるドラム音の音源同定		
10		14:04-14:17	楽曲データのビートトラッキング		
11		14:18-14:31	音声認識のアプローチによる演奏データからの音符列推定		
12		14:32-14:45	ピアノロールを用いた楽譜生成システムの開発		
			休憩15分		
13	百田	15:00-15:20	光センサを用いた鉄道模型用車両検知システムの開発		杉村研
14		15:21-15:24	C--コンパイラのMIPS32への移植		
15		15:35-15:48	インタラクティブなデジタルサイネージのための映像生成システムの構築に関する研究		
16		15:49-16:02	非写実的画像の自動生成とその客観・主観評価に関する基礎的研究		
17		16:03-16:16	KINECTを利用した人物感知・追跡型送風ファンシステムの開発		
			座長の先生方の講評		
18		講評後13分	その他の学生は退席		

プログラム（個人発表：15分・・・発表10分，質疑5分），共同発表：20分・・・発表12分，質疑8分）
10時45分：メディアホール集合・出欠，10時50分：主任挨拶（上先生）

1/31（火） 10:45～17:00

第1セッション　11:00～12:40	司会：　島袋　淳
1	高層ビル周囲に形成される流れ構造と流速分布特性
2	実物大試験に基づく木質ラーメン構造の強度分析に関する基礎的研究
3	集中測量実習におけるGPS活用プログラム
4	マグネシウム系固化材による関東ローム改良土の力学的特性に関する研究
5	家族と共に成長する集合住宅の設計
6	湯田温泉街の長期計画策定に関する研究
第2セッション　13:20～15:05	司会：　古田　健一
7	周南市の企業社宅の変容と都市形成との関係性に関する基礎的研究
8	冨永酒造を中心とした櫛ケ浜地区の活性化計画
9	知的障害者グループホームにおける温熱環境の実態調査
10	柔軟植生模型を有する開水路流れの乱流特性
11	RC部材における断面中央に軸方向鉄筋を配置した場合の効果に関する研究
12	浸漬試験による鋼材の腐食過程に対するマイクロバブルの影響
第3セッション　15:15～17:00	司会：　佐賀　孝徳
13	周南市の近代化遺産に関する研究～向道ダムについて～
14	一社一村運動の動向と評価及び方向性に関する研究
15	コンクリート部材における軸方向鉄筋の乾燥収縮ひび割れ抑制効果に関する研究
16	マグネシウム系コンクリートの圧縮強度特性に及ぼす竹チップの影響
17	不織布フィルターを用いた降雨時の法面浸食防止に関する研究
18	2次元レーザーを用いた腐食表面形状の実用的計測法に関する基礎的研究

出典：卒業研究発表会プログラム

資料６－１－①－８　資格取得による単位認定

別表　　特別学修による単位の認定について

外部修得科目名 又は取得資格名等		認定科目名 （開設外科目）	認定 単位数	一般科目	機械電気	情報電子	土木建築	備　考
実用英語技能検定（英検）	準２級	一般特別演習	1	○				上位級の単位のみ認定
	２級		2	○				
	準１級		3	○				
	１級		3	○				
工業英語能力検定（工業英検）	３級		2	○				上位級の単位のみ認定
	２級		3	○				
	１級		3	○				
ＴＯＥＩＣ	400～465		1	○				上位級の単位のみ認定
	470～595		2	○				
	600点以上		3	○				
日本漢字能力検定	２級		1	○				
	準１級		1	○				
日本語検定	３級		1	○				準２級を含む
	２級		1	○				準１級を含む
	１級		1	○				
日本語文章能力検定	準２級		1	○				
	２級		1	○				
実用数学技能検定（数検）	準２級		1	○				
	２級		1	○				
	準１級		1	○				
	１級		1	○				
学習到達度試験	総得点の８割以上		1	○				科目毎に１単位を認定
海外語学研修			2	○	○	○	○	
ＣＡＤ利用技術者試験	２級	専門特別演習	1		○		○	
	１級		1		○		○	
ボイラー技士	２級		1		○			
機械設計技術者	３級		1		○			
	２級		1		○			
	１級		1		○			
情報処理技術者試験								
基本情報技術者			1		○	○		
応用情報技術者			1		○	○		
ＩＴパスポート			1		○	○	○	
ＩＴストラテジスト			1		○	○		
ネットワークスペシャリスト			1			○		
データベーススペシャリスト			1			○		
システムアーキテクト			1		○	○		
情報セキュリティスペシャリスト			1			○		
ＩＴサービスマネージャ			1			○		
エンベデッドシステムスペシャリスト			1			○		
プロジェクトマネージャ			1			○		
システム監査技術者			1			○		
デジタル技術検定	２級		1		○	○		
	１級		1		○	○		

出典：学生便覧

資料６－１－①－９　専攻科特別研究発表会

平成23年度 専攻科特別研究発表会

平成24年2月24日（金）

機械制御工学専攻　（会場：テクノ2階 多目的室）
司会進行：専攻科幹事
発表時間：発表10分、質疑5分

指導教員

13:40-13:45	機械制御工学専攻 主任挨拶			
13:45-14:00	[redacted]	鈴木 厚行	MC	機種軽減ベッド用超音波リニアモータの開発
14:00-14:15	[redacted]	鈴木 厚行	MC	超音波印加時の金属の変形特性および衝撃特性について
14:15-14:30	[redacted]	西村 太志	MC	ナノインデンテーション試験による各種材料のビッカース硬さ評価
14:30-14:45	[redacted]	篠関 貴史	MC	ポリエチレンフィルムの高温導特性に及ぼす形状および重力の影響
14:45-15:00	― 休憩 ―			
15:00-15:15	[redacted]	石田 浩一	MC	二層導体の磁気シールド特性
15:15-15:30	[redacted]	小田 和広	MC	一様温度変化を受ける接合有限板の界面き裂の応力拡大係数
15:30-15:45	[redacted]	藤田 重雄	MC	複数の長方形切欠を用いた二次元複流の挿絵（二次流れ）
15:45-16:00	[redacted]	小田 和広	MC	非線形き裂力学による界面き裂の弾塑性挙動の検討

情報電子工学専攻　（会場：管理棟3階 演習室 ）
司会進行：専攻科幹事
発表時間：発表10分、質疑5分

14:10-14:15	情報電子工学専攻 主任挨拶			
14:15-14:30	[redacted]	重村	CE	鉄道模型制御用並行処理言語の設計と実装
14:30-14:45	[redacted]	横沢	CE	FPGAを用いた監視システム向け省電力プロセッサの設計
14:45-15:00	[redacted]	横沢	CE	WebベースのJavaプログラミング環境の開発
15:00-15:15	[redacted]	山田	CE	ステンレス管テープヒータによる植物体加温システムの検討
15:15-15:25	― 休憩 ―			
15:25-15:40	[redacted]	新田	CE	駐車場内の車両に関する挙動シミュレータの検討
15:40-15:55	[redacted]	百田	CE	SURFを用いた類似画像選択時におけるフィルタリング適用効果
15:55-16:10	[redacted]	原田	CE	バスケットボール競技映像からのライン抽出
16:10-16:25	[redacted]	横沢	CE	モバイル端末によるAJAXを用いたプログラミング学習システム

環境建設工学専攻　（会場：メディアホール ）
司会進行：専攻科委員(島袋先生)
発表時間：発表15分、質疑5分

13:20-13:25	環境建設工学専攻 主任挨拶			
13:25-13:45	[redacted]	上	EC	水酸化材比の異なるマグネシウム系酸化材の改良土の強度特性に関する研究
13:45-14:05		田村	EC	コンクリート構造物のひび割れ幅に関する基礎的研究
14:05-14:25		上	EC	破砕性地盤における杭の先端支持力特性
14:25-14:45		上	EC	フィルターを用いた斜面保護に関する研究
14:45-14:55	― 休憩 ―			
14:55-15:15	[redacted]	上	EC	超音波による細粒土の減容化に関する研究
15:15-15:35		大成	EC	マイクロバブルの物理化学的特性と植物活性
15:35-15:55		橋本	EC	カルシウム系酸化材を用いたコンクリートの圧縮強度特性に及ぼす自然暴露の影響
15:55-16:15		橋本	EC	構造物隅角部のき裂発生に関する数値解析

環境建設工学専攻　（会場：専門棟3階 設計製作室 ）
司会進行：専攻科事務
発表時間：発表15分、質疑5分

13:20-13:25	環境建設工学専攻 幹事挨拶			
13:25-13:45	[redacted]	原	EC	Steel Connector with Low-Yield-Point-Steel at Column Base
13:45-14:05		原	EC	The effect of edge beam on stress and deflection of shell
14:05-14:25		飯野	EC	「道の駅」のサービス、防災機能の現状と方向性に関する研究 中国及び東北「道の駅」連絡会へのアンケート調査結果より
14:25-14:45		吉田	EC	周南市における高齢者支援施設等の立地特性の分析と 高齢者の安全な歩行推進に向けた改善提案
14:45-14:55	― 休憩 ―			
14:55-15:15	[redacted]	原	EC	Structural Optimization Method Using the Level Set Method
15:15-15:35		原	EC	Structural Dynamic Behaviors of Hagia Sophia
15:35-15:55		吉田	EC	中山間地域における新たな生活交通モデルの有効性の検討

平成24年2月27日（月）

環境建設工学専攻　（会場：専門棟3階 設計製作室 ）
司会進行：専攻科事務
発表時間：発表15分、質疑5分

10:00-10:05	環境建設工学専攻 主任挨拶			
10:05-10:25	[redacted]	中川	EC	鋳幕機の保存活用の方向性に関する研究

出典：専攻科資料

資料６－１－①－１０　「設計情報工学」プログラム修了要件

徳山工業高等専門学校「設計情報工学」プログラムの履修等に関する規程

（趣旨）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における「設計情報工学」プログラム（以下「プログラム」という。）の履修及び修了（以下「履修等」という。）に関し必要な事項を定める。

（プログラム構成）

第２条　プログラムを構成する科目は、徳山工業高等専門学校学則別表第１及び第２に掲げる科目のうち第４学年及び第５学年に配当された科目並びに別表第３に掲げる科目とする。

（履修対象期間）

第３条　プログラムの履修対象期間は、本科第４学年から専攻科第２学年までの４年間とする。

（履修対象者）

第４条　プログラムの履修対象者は、専攻科に入学したすべての学生とする。

２　本校以外の高等専門学校及び大学等（以下「他の高等教育機関等」という。）から本校専攻科に入学した学生に係る学修については、別に定める取扱いに基づき、他の高等教育機関等で修得した単位及び学習時間を認定する。

（修了要件）

第５条　プログラム修了要件は、次の各号のすべてを満たすものとする。

(1) 専攻科において６６単位以上、本科第４学年・第５学年を含めて１２８単位以上修得すること。

(2) 本科第４学年･第５学年を含めて、数学４科目以上、基礎工学５科目群（設計･システム系科目群、情報･論理系科目群、材料･バイオ系科目群、力学系科目群、社会技術系科目群）の各群から少なくとも１科目、合計６科目以上、情報関連科目３科目以上及び各専門工学で定めた科目（総合科目２科目以上を含む。）を修得すること。

(3) 本科第４学年・第５学年を含めて、１,６００時間以上の学習時間を経ていること。そのうち、２５０時間以上の人文科学・社会科学等（語学教育を含む。）、２５０時間以上の数学・自然科学・情報技術及び９００時間以上の専門技術に関する学習時間を含むこと。

(4) TOEIC において４２０以上のスコアを取得し、情報関連等外部資格を取得し、学協会での発表を行うこと。

なお、情報関連等外部資格とは次に掲げるもの及びこれらと同等以上のものとして特に認められる資格をいう。

出典：専攻科履修要覧

資料６－１－①－１１　JABEE「設計情報工学」修了認定確認表（抜粋）

平成23年度JABEE修了要件確認表
機械制御工学専攻

H23「設計情報工学」プログラム終了認定会議
資料　1－1

		修了要件								
A1	(c-1)	数学4科目以上		○	○	○	○	○	○	○	○
	(c-2)	自然科学		○	○	○	○	○	○	○	○
	(d-1)	基礎工学(専門技術)5群6科目以上		○	○	○	○	○	○	○	○
	①	設計・システム系		○	○	○	○	○	○	○	○
	②	情報・論理系		○	○	○	○	○	○	○	○
	③	材料・バイオ系		○	○	○	○	○	○	○	○
	④	力学系		○	○	○	○	○	○	○	○
	⑤	社会技術系		○	○	○	○	○	○	○	○
A2	(a)	地球的視点		○	○	○	○	○	○	○	○
	(b)	技術者倫理		○	○	○	○	○	○	○	○
	(f)	発表・コミュニケーション能力		○	○	○	○	○	○	○	○
B1	(c-3)	情報技術3科目以上		○	○	○	○	○	○	○	○
	(d-2b)(g)	自主性・継続性、総合実験		○	○	○	○	○	○	○	○
B2	(g)	自主性・継続性		○	○	○	○	○	○	○	○
C1	(d-2a)	専門工学の知識と能力　合計10科目以上		○	○	○	○	○	○	○	○
		総合科目2科目以上		○	○	○	○	○	○	○	○
		材料系　1科目		○	○	○	○	○	○	○	○
		エネルギ系　1科目		○	○	○	○	○	○	○	○
		情報系　1科目		○	○	○	○	○	○	○	○
		設計・加工系　1科目		○	○	○	○	○	○	○	○
C2	(d-2c)(e)(g)	デザイン能力、自主性・継続性、総合演習		○	○	○	○	○	○	○	○
	(d-2d)	インターンシップ		○	○	○	○	○	○	○	○
	(h)(f)	総合性、コミュニケーション能力		○	○	○	○	○	○	○	○
		学士の取得		○	○	○	○	○	○	○	○
		TOEICスコア400		○	○	○	○	○	○	○	○
		情報関連外部資格		○	○	○	○	○	○	○	○
		学協会での発表		○	○	○	○	○	○	○	○
		専攻科修得単位62単位		○	○	○	○	○	○	○	○
		本科・専攻科4，5年修得単位124		130	128	129	132	131	129	129	129
		学習保証時間	1600	2328	2288	2308	2352	2352	2308	2308	2308
		人文・社会・語学	250	368	412	392	392	460	392	412	392
		数学・自然科学・情報技術	250	624	584	604	624	624	504	484	504
		専門技術	900	1336	1292	1312	1336	1244	1412	1412	1412
「設計情報工学」プログラム修了判定				合	合	合	合	合	合	合	合

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

本校の６項目の学習・教育目標（Ａ１～Ｃ２）に対し，具体的到達目標を定め，すべての科目のシラバスに，科目毎の到達目標と，それぞれが対応する６項目の学習・教育目標が明記されている。

準学士課程では，単位修得の達成状況を，学年修了認定会議と卒業認定会議で把握・評価している。専攻科課程では，各項目の科目修得に加え，すべての項目に外部評価が導入されており，６項目の目標それぞれに到達しているかどうかを単位修得，（Ａ１）学士取得，（Ａ２）TOEICスコア，（Ｂ１）情報関連外部資格取得，（Ｃ２）インターンシップおよび特別研究，学協会での研究発表により把握し，修了認定会議において評価している。

さらに，準学士課程の卒業および専攻科課程の修了時の学習達成度評価アンケートを加えて，総合的に達成状況を評価している。

以上のことから，教育目的に沿った形で，課程に応じて，卒業（修了）時に到達すべき目標が定められ，その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における,過去５年間の留年および退学の状況を学科別に見ると,例年，各学科とも留年・退学者数は数名に収まっている。学年別に見ると，１年生と５年生で少なく，２～４年生でやや多くなっている。３年生では，大学進学など，進路変更のために退学が多くなっているものと思われる。全体的には，学生の学校への定着率は高く，教育は適切に行われている（資料６－１－②－１）。各学年修了時に開催される学年修了認定会議，および卒業認定会議においては，単位修得,進級，卒業時の成績評価等は適切になされている（禁帯出：学年修了認定会議資料，卒業認定会議資料）。

準学士課程の学生の，６項目の学習・教育目標の達成状況を評価するため，単位修得状況に関して，２つの分析を行った。

分析（１）平成２３年度卒業生の科目修得に関する学生ごとの各項目の達成状況
（学生ごとの各項目の履修科目の平均点と修得率）
(資料６－１－②－２）

分析（２）平成２３年度卒業生の科目修得に関する科目ごとの各項目の達成状況
（５年間の履修科目の該当クラスにおける科目ごとの単位修得率）
(資料６－１－②－３）

分析（１）では，６項目に該当する各科目グループの中の履修科目の平均点，および修得率を示している。全学科中，１名の学生が１項目（Ａ１）で60点未満であり，２名の学生（４年次編入生）が１項目（Ｃ２）に履修がない（出身高校で履修済み）。しかしながら，全体的には平均点，修得率とも良好である（資料６－１－②－２）。

分析（２）の結果では，一部の科目に単位修得率が低い科目が見受けられるが，全体的に良好な成績である（資料６－１－②－３）。

（Ａ２）の到達目標に関して，平成２３年度の英語一斉試験の結果を見ると，平成２２年度と比較してACE，TOEICともにスコアが大きく向上している。１～３年生では，クラスの60％が目標点を超えるという到達目標を達成している。４～５年生では，到達目標を達成していないが，スコアの大幅な上昇がみられる（資料６－１－①－５，資料６－１－②－４）。（Ｃ２）の到達目標に関しては，各学科で卒業研究発表会を開催し，卒業論文集を発行しており，それらの内容から教育の効果が上がっていることを確認できる（資料６－１－②－５）。

さらに学修の成果を判断する材料の一つとして，平成２３年度の資格取得による特別学修単位認定の実績を示す（資料６－１－②－６）。

専攻科課程の学生の，６項目の学習・教育目標の達成状況を評価は，専攻科修了時に開催される修了認定会議において，単位修得，成績評価，外部評価等の確認，JABEE「設計情報工学」プログラム修了要件の確認も含め，適切になされている（禁帯出：専攻科修了認定会議資料）。

以下に，平成２３年度の修了生について，各外部評価項目の達成状況を示す。

（Ａ１）平成１９年度以降，すべての修了生が学士を取得している（資料６－１－②－７）

（Ａ２）平成２３年度の英語一斉試験の結果を見ると，１年生ではクラスの60％が目標点を超えるという目標を達成していないが，平成２２年度と比較してスコアが大幅にアップしてい

る（資料６－１－②－４）。平成１８年度以降，１名を除くすべての修了生が，JABEE修了要件（平成２３年度はTOEICスコア400以上の取得）を満足している（資料６－１－②－９）

（Ｂ１）平成１９年度以降，すべての修了生が情報関連等外部資格を取得している（資料６－１－②－９）

（Ｂ２）平成１９年度以降，すべての修了生が特別研究の発表を行い，論文集を刊行し，特別研究の単位を修得している（資料６－１－②－１０）

（Ｃ２）平成１９年度以降，すべての専攻科生がインターンシップを経験し，単位を修得している（資料６－１－②－１１）

（Ｃ２）平成１９年度以降，すべての専攻科生が国内外で学会発表を行っている（資料６－１－②－８，９）

資料６－１－②－１　過去５年間の留年・退学状況

留年者数（現学年に留置したもの）　（平成19年度～平成23年度）

	H19			
	ME	IE	CA	計
1年	0	1	0	1
2年	2	2	1	5
3年	0	0	1	1
4年	2	0	0	2
5年	0	0	1	1
計	4	3	3	10

	H20			
	ME	IE	CA	計
1年	0	1	0	1
2年	1	1	0	2
3年	1	0	0	1
4年	0	0	1	1
5年	0	1	0	1
計	2	3	1	6

	H21			
	ME	IE	CA	計
1年	0	0	0	0
2年	0	3	0	3
3年	4	0	0	4
4年	1	1	0	2
5年	0	0	0	0
計	5	4	0	9

	H22			
	ME	IE	CA	計
1年	0	0	0	0
2年	0	2	0	2
3年	2	2	0	4
4年	1	1	1	3
5年	0	0	0	0
計	3	5	1	9

	H23			
	ME	IE	CA	計
1年	0	0	1	1
2年	0	0	0	0
3年	2	0	0	2
4年	4	0	1	5
5年	0	1	0	1
計	6	1	2	9

ME：機械電気工学科
ＩＥ：情報電子工学科
CA：土木建築工学科

退学者数（留年退学者を含む）　（平成19年度～平成23年度）

	H19			
	ME	IE	CA	計
1年	0	0	1	1
2年	0	0	0	0
3年	1	2	2	5
4年	1	1	1	3
5年	0	0	0	0
計	2	3	4	9

	H20			
	ME	IE	CA	計
1年	2	0	1	3
2年	0	1	0	1
3年	1	1	1	3
4年	2	0	0	2
5年	0	0	1	1
計	5	2	3	10

	H21			
	ME	IE	CA	計
1年	0	0	0	0
2年	2	0	0	2
3年	2	2	0	4
4年	0	0	2	2
5年	0	3	0	3
計	4	5	2	11

	H22			
	ME	IE	CA	計
1年	0	0	0	0
2年	0	2	0	2
3年	0	2	0	2
4年	0	0	0	0
5年	0	0	0	0
計	0	4	0	4

	H23			
	ME	IE	CA	計
1年	0	1	2	3
2年	0	1	0	1
3年	4	0	0	4
4年	3	0	1	4
5年	0	0	0	0
計	7	2	3	12

（平成19年度～平成23年度）

	ME	IE	CA	合計	年平均
留　年	20	16	7	43	8.6
退　学	18	16	12	46	9.2
計	38	32	19	89	17.8
年平均	7.6	6.4	3.8		

	1年	2年	3年	4年	5年
留　年	3	12	12	13	3
退　学	7	6	18	11	4
計	10	18	30	24	7
年平均	2	3.6	6	4.8	1.4

出典：教務係資料

資料６－１－②－２　平成２３年度卒業生の科目修得に関する学生ごとの各項目の達成状況

（a）機械電気工学科卒業生

平成23年度　機械電気工学科　卒業生

	具体的到達目標の各項目												全科目修得率
	A1		A2		B1		B2		C1		C2		
	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	
[redacted]	83	100%	85	100%	86	100%	94	100%	85	100%	87	100%	100.0%
	87	100%	87	100%	86	100%	89	100%	85	100%	82	100%	100.0%
	84	98%	90	100%	90	100%	86	100%	86	100%	89	100%	99.6%
	85	100%	91	100%	91	100%	91	100%	80	100%	90	100%	100.0%
	74	93%	82	100%	79	100%	90	100%	78	92%	80	100%	97.4%
	81	100%	86	100%	86	100%	85	100%	87	100%	86	100%	100.0%
	72	91%	77	100%	77	93%	75	100%	76	100%	79	100%	97.3%
	85	100%	88	100%	85	100%	82	100%	81	100%	88	100%	100.0%
	75	98%	82	100%	79	100%	86	100%	73	91%	80	100%	98.1%
	90	100%	89	100%	89	100%	94	100%	90	100%	84	100%	100.0%
	74	93%	82	100%	82	100%	84	100%	76	92%	85	100%	97.4%
	72	93%	85	100%	81	100%	87	100%	69	92%	82	100%	97.6%
	82	98%	85	100%	85	100%	78	100%	84	100%	90	100%	99.6%
	63	75%	69	97%	67	86%	82	100%	62	77%	69	78%	85.4%
	81	98%	83	100%	80	93%	82	100%	86	100%	83	100%	98.4%
	89	100%	90	100%	86	100%	92	100%	92	100%	82	100%	100.0%
	71	86%	83	100%	73	86%	75	100%	77	91%	82	100%	93.8%
	73	95%	79	100%	79	100%	86	100%	78	100%	84	100%	99.2%
	72	90%	81	100%	78	100%	88	100%	71	100%	86	100%	98.4%
	65	86%	71	88%	80	100%	78	100%	64	92%	80	100%	94.3%
	70	95%	74	97%	81	100%	85	100%	70	91%	77	100%	97.2%
	95	100%	95	100%	91	100%	96	100%	95	100%	89	100%	100.0%
	82	100%	82	100%	83	100%	97	100%	82	92%	87	100%	98.6%
	77	98%	83	100%	82	93%	84	100%	77	100%	81	100%	98.4%
	76	91%	80	100%	79	93%	87	100%	72	85%	79	100%	94.7%
	90	100%	91	100%	92	100%	98	100%	93	100%	94	100%	100.0%
	72	93%	77	100%	79	86%	75	100%	64	69%	79	100%	91.3%
	87	100%	84	100%	88	100%	84	100%	87	100%	82	100%	100.0%
	82	98%	85	100%	82	100%	78	100%	76	92%	82	100%	98.2%
	80	100%	83	100%	82	100%	88	100%	78	100%	80	100%	100.0%
	58	70%	78	100%	76	93%	89	100%	62	85%	80	89%	89.5%
	69	86%	72	100%	72	91%	78	100%	67	83%	83	100%	93.5%
	84	100%	89	100%	88	100%	88	100%	86	100%	88	100%	100.0%
	75	95%	79	100%	78	93%	86	100%	74	100%	82	100%	98.0%
	82	100%	89	100%	85	100%	95	100%	82	100%	90	100%	100.0%
	79	98%	87	100%	82	100%	93	100%	81	100%	86	100%	99.6%
	73	93%	80	100%	77	93%	91	100%	72	92%	86	100%	96.2%
	94	100%	94	100%	90	100%	93	100%	95	100%	95	100%	100.0%
	87	100%	87	100%	89	100%	88	100%	88	100%	92	100%	100.0%
	80	95%	87	100%	80	93%	86	100%	81	100%	84	100%	98.0%
	84	100%	89	97%	81	100%	94	100%	75	100%	82	100%	99.5%
	76	95%	79	100%	78	86%	73	100%	74	92%	80	100%	95.5%
	82	100%	89	100%	79	100%	88	100%	83	100%	81	83%	97.2%
	73	93%	76	100%	79	100%	79	100%	67	92%	80	100%	97.4%

＊平均点は、各項目の履修科目全体の平均点を表す。

＊修得率は、各項目の履修科目数に対する修得科目数の割合を表す。

(b) 情報電子工学科卒業生

平成23年度　情報電子工学科　卒業生

	具体的到達目標の各項目												全科目修得率
	A1		A2		B1		B2		C1		C2		
	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	
	75	97%	80	98%	76	100%	94	100%	80	100%	87	100%	99.1%
	82	97%	84	100%	88	100%	89	100%	86	100%	82	100%	99.5%
	64	83%	66	84%	67	83%	86	100%	61	88%	64	100%	89.7%
	71	89%	78	100%	68	83%	91	100%	78	100%	63	100%	95.4%
	84	89%	91	100%	88	94%	90	100%	79	100%	92	100%	97.2%
	91	100%	92	100%	93	100%	85	100%	93	100%	87	100%	100.0%
	73	97%	78	97%	73	94%	75	100%	72	86%	77	100%	95.7%
	83	100%	86	100%	86	100%	82	100%	82	100%	73	100%	100.0%
	80	97%	84	100%	78	94%	86	100%	79	100%	81	100%	98.6%
	60	71%	70	90%	62	57%	94	100%	68	88%			
	79	94%	79	97%	80	100%	84	100%	82	100%	78	100%	98.5%
	79	100%	86	100%	78	94%	87	100%	75	100%	78	100%	99.1%
	84	100%	90	100%	80	94%	78	100%	80	100%	81	100%	99.1%
	78	100%	90	100%	90	100%	82	100%	87	100%	91	100%	100.0%
	73	97%	81	100%	75	100%	82	100%	72	100%	73	100%	99.5%
	71	94%	81	100%	73	94%	92	100%	72	100%	81	100%	98.1%
	73	94%	78	97%	77	89%	75	100%	81	100%	83	100%	96.7%
	83	100%	87	100%	80	100%	86	100%	81	100%	83	100%	100.0%
	83	100%	86	90%	82	100%	88	100%	80	100%			
	76	100%	82	100%	76	100%	78	100%	70	83%	73	100%	97.2%
	68	86%	71	88%	79	94%	85	100%	73	100%	66	100%	94.6%
	91	100%	94	100%	90	100%	96	100%	91	100%	85	100%	100.0%
	71	97%	86	100%	71	89%	97	100%	72	100%	86	100%	97.7%
	71	97%	75	97%	75	100%	84	100%	75	100%	77	100%	99.0%
	76	97%	77	100%	79	100%	87	100%	74	86%	82	100%	97.2%
	74	94%	81	100%	74	100%	98	100%	77	100%	78	100%	99.1%
	82	100%	88	100%	83	100%	75	100%	84	100%	79	100%	100.0%
	77	97%	80	100%	79	100%	84	100%	83	100%	78	100%	99.5%
	79	100%	82	100%	76	100%	78	100%	74	100%	76	100%	100.0%
	86	100%	85	100%	80	100%	88	100%	83	100%	84	100%	100.0%
	87	100%	85	100%	93	100%	89	100%	90	100%	89	100%	100.0%
	76	97%	73	94%	78	94%	78	100%	79	100%	73	100%	97.5%
	75	100%	82	100%	66	78%	88	100%	68	86%	69	100%	93.9%
	86	97%	80	97%	88	100%	86	100%	86	100%	81	100%	99.0%
	79	100%	89	100%	72	94%	95	100%	74	88%	77	100%	97.0%
	72	97%	79	97%	74	100%	93	100%	74	100%	82	100%	99.0%
	83	97%	87	100%	83	100%	91	100%	82	100%	80	100%	99.5%
	65	86%	76	97%	71	83%	93	100%	72	86%	78	100%	92.0%
	64	86%	77	100%	73	89%	88	100%	70	100%	76	100%	95.9%
	88	100%	91	100%	85	100%	86	100%	87	100%	76	100%	100.0%
	79	100%	83	100%	82	94%	94	100%	84	100%	80	100%	99.1%

＊平均点は、各項目の履修科目全体の平均点を表す。
＊修得率は、各項目の履修科目数に対する修得科目数の割合を表す。

（c）土木建築工学科卒業生

平成23年度　土木建築工学科　卒業生

[redacted]	具体的到達目標の各項目												全科目修得率
	A1		A2		B1		B2		C1		C2		
	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	平均点	修得率	
	81	100%	82	100%	89	100%	91	100%	88	100%	84	100%	100.0%
	75	100%	78	100%	76	100%	88	100%	76	100%	83	100%	100.0%
	86	100%	87	100%	95	100%	89	100%	87	100%	88	100%	100.0%
	83	100%	82	100%	85	100%	87	100%	89	100%	85	100%	100.0%
	69	97%	77	100%	83	100%	79	100%	77	100%	89	100%	99.5%
	66	90%	70	95%	82	100%	73	100%	65	85%	84	100%	95.1%
	67	90%	75	93%	78	100%	81	100%	62	92%	79	100%	95.9%
	86	100%	85	100%	92	100%	84	100%	91	100%	90	100%	100.0%
	86	100%	89	100%	92	100%	85	100%	90	100%	91	100%	100.0%
	81	100%	85	100%	92	100%	80	100%	84	100%	89	100%	100.0%
	89	100%	87	100%	91	100%	92	100%	91	100%	86	100%	100.0%
	71	97%	79	100%	81	88%	79	100%	69	92%	80	100%	96.2%
	78	100%	82	100%	88	100%	84	100%	81	100%	87	100%	100.0%
	80	100%	77	100%	89	100%	78	100%	82	100%	86	100%	100.0%
	75	100%	75	97%	87	100%	79	100%	75	100%	84	100%	99.4%
	70	97%	79	97%	81	100%	77	100%	72	100%	83	100%	99.0%
	83	100%	83	100%	95	100%	84	100%	87	100%	89	100%	100.0%
	87	100%	89	100%	92	100%	86	100%	89	100%	91	100%	100.0%
	72	100%	77	97%	89	100%	84	100%	76	100%	86	100%	99.4%
	80	100%	85	100%	84	100%	87	100%	85	100%	86	100%	100.0%
	64	86%	71	93%	83	100%	81	100%	69	94%	80	89%	93.8%
	77	100%	82	100%	90	100%	81	100%	84	100%	89	100%	100.0%
	66	87%	70	90%	87	100%	77	100%	73	94%	85	100%	95.1%
	85	100%	88	100%	96	100%	86	100%	89	100%	92	100%	100.0%
	79	100%	75	100%	85	100%	83	100%	69	100%	83	100%	100.0%
	78	100%	84	100%	89	100%	82	100%	77	100%	86	100%	100.0%
	74	100%	75	100%	83	100%	84	100%	76	100%	81	100%	100.0%
	80	100%	87	100%	92	100%	83	100%	81	100%	89	100%	100.0%
	78	100%	85	100%	85	100%	82	100%	81	100%	88	100%	100.0%
	85	100%	82	100%	94	100%	80	100%	87	100%	91	100%	100.0%
	86	100%	86	100%	91	100%	85	100%	90	100%	92	100%	100.0%
	67	87%	72	93%	79	88%	77	100%	73	94%	79	100%	93.6%
	93	100%	92	100%	97	100%	94	100%	91	100%	93	100%	100.0%
	74	95%	76	100%	85	100%	78	100%	74	88%	85	100%	97.1%
	87	100%	89	100%	89	100%	90	100%	90	100%	88	100%	100.0%
	77	100%	80	97%	93	100%	84	100%	83	94%	88	100%	98.4%
	67	92%	70	100%	85	100%	81	100%	75	100%	77	100%	98.7%
	76	100%	78	100%	84	100%	84	100%	76	100%	87	100%	100.0%
	78	100%	82	100%	88	100%	81	100%	81	100%	89	100%	100.0%
	77	100%	85	100%	93	100%	86	100%	86	100%	87	100%	100.0%
	85	100%	85	100%	89	100%	89	100%	88	100%	92	100%	100.0%
	81	100%	80	100%	88	100%	83	100%	83	100%	90	100%	100.0%
	84	100%	86	100%	90	100%	83	100%	82	100%	88	100%	100.0%
	70	95%	74	93%	85	100%	72	67%	69	94%	84	100%	91.4%

＊平均点は、各項目の履修科目全体の平均点を表す。
＊修得率は、各項目の履修科目数に対する修得科目数の割合を表す。

出典：成績分析資料（１）

資料６－１－②－３　平成２３年度卒業生の科目修得に関する科目ごとの各項目の達成状況

（a）機械電気工学科

平成23年度準学士課程　卒業時の具体的到達目標達成度

機械電気工学科卒業生

到達目標	授業科目	必履修選択	学年	単位	週時間数 前期	週時間数 後期	23年度単位修得率(N)	22年度単位修得率(W)
〈一般科目〉								
A1	数　学ⅠA	必履修	1	3	2	4	98	70
A1	化学基礎	必履修	1	2	2	2	100	89
A1	化　学Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	95
A1	保　健	必履修	1	1	2		100	100
A1	数　学ⅠB	必履修	1	3	4	2	98	70
A1	数　学ⅡA	必履修	2	3	2	4	92	90
A1	基礎物理Ⅰ	必履修	2	2	2	2	100	95
A1	化　学Ⅱ	必履修	2	1	2		98	98
A1	数　学ⅡB	必履修	2	3	4	2	100	95
A1	化　学Ⅲ	必履修	2	1		2	98	95
A1	数　学ⅢA	必履修	3	2	2	2	81	98
A1	数　学ⅢB	必履修	3	2	2	2	98	100
A1	基礎物理Ⅱ	必履修	3	2	2	2	81	98
A1	微分積分学	必履修	4	1	2		92	65
A1	力学	必履修	4	1	2		44	73
A1	微分方程式	必履修	4	1		2	93	95
A1	ベクトル解析	必履修	4	1		2	93	100
A1	生物学	選択	4	1		2	100	90
A1	物理化学	選択	4	1		2	100	100
A1	健康科学	選択	4	1		2	100	100
A2	基礎英語Ⅳ	必履修	1	1	1	1	98	77
A2	物理	必履修	1	2	2	2	100	95
A2	歴　史	必履修	1	2	2	2	96	75
A2	体　育	必履修	1	2	2	2	100	93
A2	基礎英語Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	89
A2	国語総合Ⅰ	必履修	1	4	4	4	100	98
A2	英 会 話	必履修	1	1		2	100	100
A2	国語総合Ⅱ	必履修	2	2	2	2	100	98
A2	歴　史	必履修	2	2	2	2	99	100
A2	倫　理	必履修	2	2	2	2	100	98
A2	体　育	必履修	2	2	2	2	100	100
A2	総合英語Ⅰ（R）	必履修	2	2	2	2	100	98
A2	総合英語Ⅰ（W）	必履修	2	2	2	2	94	95
A2	英 会 話	必履修	2	1	2		100	100
A2	総合英語Ⅱ（W）	必履修	3	1	1	1	98	100
A2	政治・経済	必履修	3	2	2	2	100	100
A2	国語総合Ⅱ	必履修	3	2	2	2	99	100
A2	体　育	必履修	3	2	2	2	98	100
A2	総合英語Ⅱ（R）	必履修	3	2	2	2	100	98
A2	英 会 話	必履修	3	1	2		100	100
A2	体　育	必履修	4	2	2	2	100	100
A2	総合英語演習Ⅰ	必履修	4	1		2	100	100
A2	環境科学	選択	4	1		2	75	100
A2	日本語コミュニケーション(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	哲学(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	中国文学(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	人文・社会特講Ⅰ(前期)	選択	4	2	2		100	100
A2	ドイツ語	選択	4	2	2	2	100	70
A2	中国語	選択	4	2	2	2	100	100
A2	英語特別演習(総合)	選択	4	2	2	2	100	100
A2	英語特別演習(ビジネス)	選択	4	2	2	2	100	100
A2	日本語コミュニケーション(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	哲学(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	中国文学(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	人文・社会特講Ⅰ(後期)	選択	4	2		2	100	100
A2	総合英語演習Ⅱ	必履修	5	1	2		100	82
A2	言語学概論(前期)	選択	5	1	2		100	100
A2	心　理　学(前期)	選択	5	1	2		100	100
A2	ドイツ語	選択	5	1	2		100	100
A2	中国語	選択	5	1	2		100	100
A2	歴史学	選択	5	1		2	100	100
A2	言語学概論(前期)	選択	5	1		2	100	100
A2	心　理　学(後期)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習(英会話中級)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習(英会話上級)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習	選択	5	1		2	100	100
O2	書道	必履修	2	2	2	2	100	71
O2	工芸	必履修	2	2	2	2	100	100
O2	音楽	必履修	2	2	2	2	100	100
O2	美術	必履修	2	2	2	2	100	100

〈専門科目〉								
A1	電気の基礎	必履修	1	1	1	1	100	91
A1	機械の基礎	必履修	1	1	2		100	91
A1	技術発達史論	必履修	1	1		2	94	73
A1	加工学	必履修	2	1		2	98	98
A1	電子回路Ⅰ	必履修	3	2	2	2	90	95
A1	アクチュエータ	必履修	3	1	2		75	90
A1	工業力学	必履修	3	1	2		96	73
A1	材料学Ⅰ	必履修	3	2	2	2	92	95
A1	機構学	必履修	3	1	2		96	100
A1	材料力学Ⅰ	必履修	3	1		2	88	77
A1	工業英語Ⅰ	必履修	3	1		2	85	96
A1	電気回路Ⅰ	必履修	3	1		2	90	80
A1	水力学Ⅰ	必履修	3	1		2	79	83
A1	フーリエ変換	必履修	4	1	2		100	98
A1	電子回路Ⅱ	必履修	4	1	2		100	100
A1	電磁気学	必履修	4	2	2	2	88	100
A1	材料学Ⅱ	必履修	4	1	2		100	98
A1	確率・統計	必履修	4	1	2		100	98
A1	制御工学Ⅰ	必履修	4	1		2	100	100
A1	機械力学Ⅰ	必履修	4	1		2	89	88
A1	機械設計製図	必履修	4	1		2	100	100
A1	開発論	必履修	5	1	2		100	100
A1	機械力学Ⅱ	必履修	5	1	2		100	97
A1	計測力学	必履修	5	1		2	100	100
A1	一般物理	選択	5	1		2	97	100
A1	機能材料	選択	5	1		2	100	100
A1	知能情報工学	選択	5	1		2	75	100
A2	技術者倫理	必履修	5	1	2		100	100
A2	工業英語Ⅱ	必履修	5	1	2		88	100
A2	環境リサイクル論	選択	5	1		2	95	100
B1	コンピュータ基礎	必履修	1	1	1	1	100	75
B1	基礎設計製図Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	95
B1	工作実習Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	100
B1	プログラミング基礎	必履修	2	2	2	2	100	95
B1	基礎設計製図Ⅱ	必履修	2	2	2	2	100	100
B1	工作実習Ⅱ	必履修	2	2	2	2	94	98
B1	創造設作Ⅰ	必履修	2	2	2	2	100	98
B1	設計製図Ⅰ	必履修	3	1	2		98	100
B1	プログラミング応用	必履修	3	1	2		69	98
B1	コンピュータ制御	必履修	3	2	2	2	90	98
B1	工学実験Ⅰ	必履修	3	1		2	96	95
B1	設計製図Ⅱ	必履修	4	2	2	2	100	98
B1	工学実験Ⅱ	必履修	4	8	3	3	100	100
B1	数値計算	必履修	5	1	2		100	100
B1	有限要素法	選択	5	1		2	100	98
B2	工学セミナー	必履修	4	1		2	100	100
B2	卒業研究	必履修	5	8	6	10	100	100
C1	電気回路Ⅱ	必履修	4	1	2		69	83
C1	材料力学Ⅱ	必履修	4	2	2	2	91	85
C1	熱力学	必履修	4	2	2	2	96	100
C1	水力学Ⅱ	必履修	4	1	2		100	95
C1	創造設作Ⅱ	必履修	4	2	2	2	96	100
C1	制御工学Ⅱ	必履修	5	2	2	2	91	100
C1	計測工学	必履修	5	2	2	2	100	100
C1	熱機関	必履修	5	1	2		100	100
C1	機械設計論Ⅱ	必履修	5	2	2	2	100	100
C1	弾塑性論	必履修	5	1	2		100	100
C1	流体力学	選択	5	1	2		100	83
C1	伝熱工学	選択	5	1		2	100	100
C1	ターボ機械	選択	5	1		2	100	100
C2	創造演習Ⅰ	必履修	1	1	1	1	94	57
C2	総合実地演習	選択	2	(2)		夏季後期	100	100
C2	創造演習Ⅱ	必履修	3	1	1	1	100	95
C2	知的財産権	必履修	3	1		2	96	93
C2	校外実習1	選択	4	(1)		夏季後期	100	100
C2	校外実習2	選択	4	(2)		夏季後期	100	100
C2	ベンチャービジネス論	選択	5	1	2		99	100
C2	特別講義Ⅰ（技術学）	選択	5	1		2	100	100
C2	特別講義Ⅱ（　　）	選択	5	1		2	100	100

(b) 情報電子工学科

平成23年度準学士課程　卒業時の具体的到達目標達成度

情報電子工学科5年

到達目標	授業科目	必履修選択	学年	単位	週時間数 前期	週時間数 後期	平成23年度単位修得率	前年度単位修得率
(一般科目)								
A1	数学ⅠA	必履修	1	3	2	4	95	84
A1	化学基礎	必履修	1	2	2	2	100	79
A1	化学Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	87
A1	保健	必履修	1	1	2		100	97
A1	数学ⅠB	必履修	1	3	4	2	98	69
A1	数学ⅡA	必履修	2	3	2	4	99	90
A1	基礎物理Ⅰ	必履修	2	2	2	2	95	86
A1	化学Ⅱ	必履修	2	1	2		98	88
A1	数学ⅡB	必履修	2	3	4	2	98	98
A1	化学Ⅲ	必履修	2	1		2	95	95
A1	数学ⅢA	必履修	3	2	2	2	88	100
A1	数学ⅢB	必履修	3	2	2	2	100	97
A1	基礎物理Ⅱ	必履修	3	2	2	2	100	87
A1	微分積分学	必履修	4	1	2		100	94
A1	力学	必履修	4	1	2		88	89
A1	微分方程式	必履修	4	1		2	95	100
A1	ベクトル解析	必履修	4	1		2	74	67
A1	生物学	選択	4	1		2	86	100
A1	物理化学	選択	4	1		2	100	100
A1	健康科学	選択	4	1		2	67	100
A2	基礎英語Ⅳ	必履修	1	1	1	1	94	82
A2	地理	必履修	1	2	2	2	95	82
A2	歴史	必履修	1	2	2	2	79	67
A2	体育	必履修	1	2	2	2	100	100
A2	基礎英語Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	80
A2	国語総合Ⅰ	必履修	1	4	4	4	100	97
A2	英会話	必履修	1	1		2	100	100
A2	国語総合Ⅱ	必履修	2	2	2	2	95	100
A2	歴史	必履修	2	2	2	2	93	95
A2	倫理	必履修	2	2	2	2	98	100
A2	体育	必履修	2	2	2	2	98	100
A2	総合英語Ⅰ(R)	必履修	2	2	2	2	95	90
A2	総合英語Ⅰ(W)	必履修	2	2	2	2	91	90
A2	英会話	必履修	2	1	2		100	100
A2	総合英語Ⅱ(W)	必履修	3	1	1	1	95	100
A2	政治・経済	必履修	3	2	2	2	100	100
A2	国語総合Ⅱ	必履修	3	2	2	2	100	100
A2	体育	必履修	3	2	2	2	100	100
A2	総合英語Ⅱ(R)	必履修	3	2	2	2	98	82
A2	英会話	必履修	3	1	2		100	100
A2	工業英語Ⅰ		3	1			100	100
A2	体育	必履修	4	2	2	2	98	100
A2	総合英語演習Ⅰ	必履修	4	1		2	100	100
A2	環境科学	選択	4	1		2	100	100
A2	日本語コミュニケーション(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	哲学(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	中国文学(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	人文・社会特論Ⅰ(前期)	選択	4	2	2		100	100
A2	ドイツ語	選択	4	2	2	2	92	97
A2	中国語	選択	4	2	2	2	100	100
A2	英語特別演習(総合)	選択	4	2	2	2	100	88
A2	英語特別演習(ビジネス)	選択	4	2	2	2	100	100
A2	日本語コミュニケーション(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	哲学(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	中国文学(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	人文・社会特論Ⅰ(後期)	選択	4	2		2	100	100
A2	総合英語演習Ⅱ	必履修	5	1	2		100	100
A2	言語学概論(前期)	選択	5	1	2		100	100
A2	心理学(前期)	選択	5	1	2		94	100
A2	ドイツ語	選択	5	1	2		100	100
A2	中国語	選択	5	1	2		100	100
A2	歴史学	選択	5	1		2	100	100
A2	言語学概論(前期)	選択	5	1		2	100	100
A2	心理学(後期)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習(英会話中級)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習(英会話上級)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習	選択	5	1		2	100	100
C2	書道	必履修	2	2	2	2	100	100
C2	工芸	必履修	2	2	2	2	100	100
C2	書道	必履修	2	2	2	2	100	100
C2	美術	必履修	2	2	2	2	100	100

(専門科目)								
A1	基礎電気回路	必履修	1	2	2	2	100	79
A1	電気回路	必履修	2	1	2	2	91	88
A1	集合と論理	必履修	2	1		2	98	100
A1	確率	必履修	3	1	1	1	100	97
A1	情報数学	必履修	3	2	2	2	100	100
A1	計測工学	必履修	3	2	2	2	100	100
A1	アナログ回路	必履修	3	2	2	2	100	95
A1	ディジタル回路	必履修	3	2	2	2	100	100
A1	社会情報システム	必履修	4	1	1	1	100	100
A1	フーリエ・ラプラス変換	必履修	4	1	2		56	78
A1	情報理論	必履修	4	2	2	2	98	94
A1	電磁気学	必履修	4	2	2	2	88	100
A1	コンピュータアーキテクチャ	必履修	4	2	2	2	93	81
A1	ソフトウェア工学	必履修	4	2	2	2	100	100
A1	統計学	必履修	5	1	2		100	100
A1	数値解析	必履修	5	1		2	100	89
A1	言語処理	選択	5	2	2	2	82	100
A1	システム数理工学	選択	5	2	2	2	100	100
A2	英語講読	必履修	5	2	2	2	100	100
A2	特別講義	必履修	5	1		2	100	100
B1	基礎コンピュータ工学	必履修	1	2	2	2	100	97
B1	コンピュータの基礎知識	必履修	1	1	2		100	87
B1	基礎プログラミング	必履修	1	3	3	3	100	79
B1	コンピュータ演習	必履修	1	1		2	100	100
B1	コンピュータ工学	必履修	2	2	2	2	96	100
B1	プログラミング	必履修	2	2	2	2	96	100
B1	プログラミング言語	必履修	2	1	2		92	100
B1	コンピュータシステム概論	必履修	3	1	2		100	92
B1	アルゴリズムとデータ構造	必履修	3	2	2	2	100	97
B1	電子工学実験	必履修	3	4	4	4	100	100
B1	システムプログラミングⅠ	必履修	3	1		2	93	5
B1	システムプログラミングⅡ	必履修	4	1	2		88	89
B1	コンピュータシステム実験	必履修	4	4	4	4	100	100
B1	オペレーティングシステムⅠ	必履修	4	1		2	72	94
B1	ディジタル信号処理	必履修	5	1	2		81	94
B1	オペレーティングシステムⅡ	必履修	5	1	2		96	100
B1	ネットワークアーキテクチャ	必履修	5	2	2	2	100	100
B1	電子通信システム実験	選択	5	2	4		95	100
B1	情報システム実験	選択	5	2	4		100	100
B2	工学セミナー	必履修	4	1		2	100	100
B2	卒業研究	必履修	5	10	6	14	100	100
C1	情報通信工学	必履修	4	2	2	2	94	94
C1	ディジタル回路応用Ⅰ	必履修	4	1	2		100	98
C1	データベース	必履修	4	2	2	2	100	100
C1	創造演習	必履修	4	1		2	100	100
C1	ディジタル回路応用Ⅱ	必履修	5	2			92	100
C1	集積回路設計	選択	5	2	2	2	100	100
C1	画像工学	選択	5	2	2	2	100	98
C1	図形処理	選択	5	2	2	2	100	100
C1	知的情報処理	選択	5	2	2	2	100	100
C1	オブジェクト指向プログラミング	選択	5	2		2	100	100
C2	知的財産権	必履修	3	1		2	100	100
C2	校外実習1	選択	4	1	通期後期		100	100
C2	校外実習2	選択	4	2	通期後期		100	100
	複素数・ベクトル	必履修	2	1			91	95
	電子工学概論	必履修	2	1			96	95
	データ構造	必履修	2	2				98

（c）土木建築工学科

平成28年度準学士課程　卒業時の具体的到達目標達成度

土木建築工学科卒業生

到達目標	授業科目	必履修選択	学年	単位	週時間数		23年度単位修得率(%)	22年度単位修得率(%)
					前期	後期		
(一般科目)								
A1	数　学Ⅰ A	必履修	1	3	2	4	98	80
A1	化学基礎	必履修	1	2	2	2	100	96
A1	化　学Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	98
A1	保　健	必履修	1	1	2		100	100
A1	数　学Ⅰ B	必履修	1	8	4	2	98	78
A1	数　学Ⅱ A	必履修	2	3	2	4	91	100
A1	基礎物理Ⅰ	必履修	2	2	2	2	96	100
A1	化　学Ⅱ	必履修	2	1	2		98	98
A1	数　学Ⅱ B	必履修	2	8	4	2	100	100
A1	化　学Ⅲ	必履修	2	1		2	98	100
A1	数　学Ⅲ A	必履修	3	2	2	2	100	98
A1	数　学Ⅲ B	必履修	3	2	2	2	98	94
A1	基礎物理Ⅱ	必履修	3	2	2	2	98	98
A1	微分積分学	必履修	4	1	2		89	84
A1	微分方程式	必履修	4	1		2	96	100
A1	一般物理	必履修	4	1			91	100
A1	線形代数	必履修	5	1			100	100
A1	生物学	選択	4	1		2	100	100
A1	物理化学	選択	4	1		2	100	100
A1	健康科学	選択	4	1		2	100	95
A2	基礎英語W	必履修	1	1	1	1	93	78
A2	地理	必履修	1	2	2	2	98	98
A2	歴　史	必履修	1	2	2	2	91	80
A2	体　育	必履修	1	2	2	2	100	96
A2	基礎英語R	必履修	1	2	2	2	100	91
A2	国語総合Ⅰ	必履修	1	4	4	4	100	98
A2	英　会　話	必履修	1	1		2	100	100
A2	国語総合Ⅱ	必履修	2	2	2	2	100	100
A2	歴　史	必履修	2	2	2	2	96	98
A2	倫　理	必履修	2	2	2	2	100	100
A2	体　育	必履修	2	2	2	2	100	100
A2	総合英語Ⅰ(R)	必履修	2	2	2	2	100	94
A2	総合英語Ⅰ(W)	必履修	2	2	2	2	100	89
A2	英　会　話	必履修	2	1	2		100	100
A2	総合英語Ⅱ(W)	必履修	3	1	1	1	100	100
A2	政治・経済	必履修	3	2	2	2	100	100
A2	国語総合Ⅱ	必履修	3	2	2	2	100	100
A2	体　育	必履修	3	2	2	2	100	100
A2	総合英語Ⅱ(R)	必履修	3	2	2	2	100	94
A2	英　会　話	必履修	3	1	2		100	100
A2	体　育	必履修	4	2	2	2	100	98
A2	総合英語演習Ⅰ	必履修	4	1		2	93	100
A2	環境科学	選択	4	1		2	100	100
A2	日本語コミュニケーション(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	哲学(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	中国文学(前期)	選択	4	1	2		100	100
A2	人文・社会特論Ⅰ(前期)	選択	4	2	2		100	100
A2	ドイツ語	選択	4	2	2	2	100	100
A2	中国語	選択	4	2	2	2	100	100
A2	英語特別演習(ビジネス)	選択	4	2	2	2	100	100
A2	英語特別演習(総合)	選択	4	2	2	2	71	71
A2	日本語コミュニケーション(後期)	選択	4	1		2	100	90
A2	哲学(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	中国文学(後期)	選択	4	1		2	100	100
A2	人文・社会特論Ⅰ(後期)	選択	4	2		2	100	100
A2	総合英語演習Ⅱ	必履修	5	1	2		95	100
A2	言語学概論(前期)	選択	5	1	2		100	100
A2	心　理　学(前期)	選択	5	1	2		100	100
A2	人文・社会特論Ⅱ(英語の歴史)	選択	5	1	2		100	100
A2	ドイツ語	選択	5	1	2		100	100
A2	中国語	選択	5	1	2		100	100
A2	歴史学	選択	5	1		2	100	100
A2	言語学概論(前期)	選択	5	1		2	100	100
A2	心　理　学(後期)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習(英会話中級)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習(英会話上級)	選択	5	1		2	100	100
A2	英語特別演習	選択	5	1		2	100	100
C2	書道	必履修	2	2	2	2	100	100
C2	工芸	必履修	2	2	2	2	100	100
C2	音楽	必履修	2	2	2	2	100	100
C2	書術	必履修	2	2	2	2	100	100

(専門学科目)								
A1	測量学	必履修	1	2	2	2	100	91
A1	工学デザイン基礎Ⅰ	必履修	1	2	2	2	100	100
A1	建設材料	必履修	1	2		2	100	100
A1	測量学Ⅰ	必履修	2	2	2	2	98	98
A1	測量実習	必履修	2	2	2	2	100	100
A1	工学デザイン基礎Ⅱ	必履修	2	2	2	2	100	98
A1	構造力学基礎	必履修	2	1		2	100	100
A1	測量実習	必履修	3	2	2	2	100	100
A1	地盤工学基礎	必履修	3	2	2	2	89	96
A1	水理学基礎	必履修	3	2	2	2	100	98
A1	工学デザイン基礎Ⅲ	必履修	3	2	2	2	100	100
A1	構造力学基礎	必履修	3	3	3	3	100	98
A1	建築概論	必履修	3	1			96	96
A1	建築一般構造	必履修	3	1		2	98	98
A1	構造力学	必履修	4	3	2	2	96	100
A1	地盤工学	必履修	4	2	2	2	91	88
A1	工学デザインⅠ	必履修	4	2	2	2	96	100
A1	ＣＡＤ応用（建築）	必履修	4	1		2	100	100
A1	ＣＡＤ応用（土木）	必履修	4	1		2	100	100
A1	建設先端材料	必履修	5	1	2		100	100
A1	応用力学基礎	必履修	5	1	2		95	94
A1	確率・統計	必履修	5	1		2	100	100
A1	環境衛生工学	選択	5	2	2	2	100	100
A1	火　薬　学	選択	5	1	2		100	100
A2	技術者倫理	必履修	5	1		2	100	100
B1	情報処理	必履修	1	2	2	2	100	89
B1	情報処理	必履修	2	1		2	95	100
B1	情報処理	必履修	3	2	2	2	100	100
B1	基礎工学実験	必履修	3	2	2	2	100	100
B1	ＣＡＤ基礎（建築）	必履修	4	1	2		100	100
B1	ＣＡＤ基礎（土木）	必履修	4	1	2		100	100
B1	工学実験Ⅰ（建築）	必履修	4	2		2	100	100
B1	工学実験Ⅰ（土木）	必履修	4	2		2	100	100
B1	応用プログラミング	必履修	5	1	2		100	98
B1	工学実験Ⅱ	必履修	5	1	2		100	100
B2	キャリアガイダンス	選択	4	1			97	100
B2	卒業研究	必履修	5	8	8	8	100	100
C1	鉄筋コンクリート工学	必履修	4	2	2	2	100	98
C1	都市計画	必履修	4	2	2	2	96	96
C1	水理学	選択	4	2	2	2	100	100
C1	道路工学	選択	4	2	2		100	100
C1	建築環境工学	選択	4	1	2		100	100
C1	鋼構造学Ⅰ	選択	4	2		2	87	92
C1	建築構造設計	選択	4	2			100	100
C1	建築設計演習Ⅰ	選択	4	1			100	100
C1	建築設計演習Ⅱ	選択	4	1			97	100
C1	造　形	選択	4	1			100	100
C1	土木施工法	選択	4	1			100	100
C1	建　築　史	選択	4	1			100	100
C1	プレストレストコンクリート工学	必履修	5	1	2		100	98
C1	工学デザインⅡ	必履修	5	2	2	2	100	100
C1	基礎構造学	必履修	5	1		2	100	98
C1	振動工学	必履修	5	1		2	92	94
C1	建築計画	選択	5	2	2	2	100	100
C1	鋼構造学Ⅱ	選択	5	2	2	2	100	84
C1	建築施工法	選択	5	1	2		100	100
C1	建築設計演習Ⅲ	選択	5	2	4		97	100
C1	河川工学	選択	5	2		2	100	94
C1	建築設計演習Ⅳ	選択	5	2		4	100	100
C1	建築設備	選択	5	1		2	93	100
C1	土木法規	選択	5	1		2	83	100
C1	建築法規	選択	5	1		2	100	100
C2	創造演習	必履修	1	1	2		100	100
C2	創造演習	必履修	2	1			100	100
C2	創造演習	必履修	3	1			100	100
C2	測量学Ⅲ	必履修	4	1	2		93	100
C2	校外実習１	選択	4	1	前期後期		100	100
C2	校外実習２	選択	4	2	前期後期		100	100
C2	測量学特論	必履修	5	1		2	96	100
C2	建設マネジメント	必履修	5	1		2	100	100
C2	特別講義	選択	5	1		2	100	100

出典：成績分析資料（２）

資料６－１－②－４　平成２２～２３年度の英語一斉試験の結果

ACE テストの結果　　平成２３年度は１２月２２日実施

	H23					H22				
クラス	受験者数	平均スコア	目標点	達成人数	率(%)	受験者数	平均スコア	目標点	達成人数	率(%)
1-1	41	442.0	400	35	85%	43	429.0	400	31	72%
1-2	42	432.0	400	34	81%	43	425.2	400	27	63%
1-3	40	434.0	400	34	85%	44	420.8	400	30	68%
1年全体	123	436.0	400	103	**84%**	130	425.0	400	88	**68%**
ME2	44	475.0	420	39	89%	41	430.6	420	24	59%
IE2	46	490.0	420	41	89%	46	436.2	420	25	54%
CA2	41	441.0	420	30	73%	40	410.4	420	13	33%
2年全体	131	469.6	420	110	**84%**	127	426.2	420	62	**49%**
ME3	44	481.0	450	27	61%	42	434.9	450	16	38%
IE3	44	485.0	450	32	73%	41	468.5	450	24	59%
CA3	40	469.0	450	19	48%	45	438.8	450	14	31%
3年全体	128	478.6	450	78	**61%**	128	447.0	450	54	**42%**
ME1	40	438.0	400	36	90%	44	430.6	400	34	77%
IE1	43	433.0	400	32	74%	46	444.7	400	35	76%
CA1	40	438.0	400	35	88%	40	396.1	400	19	48%

TOEIC IPテストの結果　平成２３年度は１２月２２日実施

	H23					H22				
クラス	受験者数	平均スコア	目標点	達成人数	率(%)	受験者数	平均スコア	目標点	達成人数	率(%)
ME4	41	315.2	330	16	39%	45	286.9	330	8	18%
IE4	40	349.3	330	17	43%	44	302.7	330	12	27%
CA4	47	333.0	330	16	34%	44	293.5	330	8	18%
4年全体	128	332.4	330	49	**38%**	133	294.3	330	28	**21%**
ME5	43	361.3	350	18	42%	36	341.5	350	15	42%
IE5	42	361.0	350	20	48%	37	314.2	350	12	32%
CA5	41	324.0	350	14	34%	41	299.1	350	6	15%
5年全体	126	349.0	350	52	**41%**	114	317.4	350	33	**29%**
MC1	7	538.6	400	7	100%	8	347.5	400	2	25%
CE1	4	468.8	400	3	75%	8	386.3	400	2	25%
EC1	19	406.1	400	6	32%	17	385.9	400	4	24%
専1全体	30	445.3	400	16	**53%**	33	376.7	400	8	**24%**
MC2	6	381.7	470	0	0%	8	418.1	470	3	38%
CE2	7	450.7	470	3	43%	9	455.0	470	4	44%
EC2	13	370.4	470	3	23%	20	344.8	470	2	10%
専2全体	26	394.6	470	6	**23%**	37	387.4	470	9	**24%**

出典：教務係資料

資料６－１－②－５　平成２３年度卒業研究論文集（目次）（抜粋）

（a）機械電気工学科卒業研究論文集

材　料　系

ラジカル窒化を施した球状黒鉛鋳鉄の高サイクル疲労強度に及ぼす欠陥寸法の影響 ……01-1
高専における設計教育高度化のための PBL 型設計教育手法の検討 ……02-1
再生可能エネルギー利用啓発のための PV システム開発 ……03-1
PIC 制御フルカラーLED 表示システムの開発 ……04-1
球状黒鉛鋳鉄の高サイクル疲労強度に及ぼす窒化層厚さの影響 ……05-1
ナノインデンテーション試験機による各種材料のビッカース硬度の評価 ……06-1
Xbee 小型ひずみ計測装置の開発 ……07-1
引張りを受ける薄板の弾塑性解析 ……08-1
圧縮荷重を受ける接合板の応力拡大係数 ……09-1

（b）情報電子工学科卒業研究論文集

目　　次

情報・通信システム

SINGLE BOARD マイコンを用いた自律型監視システムの構築 1
光センサを用いた鉄道模型用車両検知システムの開発 7
ニューラルネットワークによる顔表情認識に関する考察 15
プラスチック光ファイバを用いたファイバスコープの製作 19
ブラウザから利用可能なUNIX 統合環境 27
ニューラルネットワークによる文書分類に関する考察 33
ＩＣタグを用いた音声ゲームシステム 39
Twitter におけるフォロワのクラスタ分析 43
数学用視覚補助教材の試作 49
C--コンパイラのMIPS32 への移植 55
正規言語の視覚化 61
概念ベクトルを用いた検索結果の可視化手法に関する研究 67
マルチバイブレータにおける電荷分布のアニメーション表示 71
決定木学習を用いたTwitter ユーザに関するリツイートの規則性の抽出 79
SNS を利用した就職・転職支援システムの開発 83
画像処理による金属丸棒の認識アルゴリズム 91
画像処理を用いた組込み監視システムの開発　～画像取込み回路記述の作成～ 95
AC(Aho Corasick)法を用いた日本語表現の正規化 99
バスケットボールにおけるゾーンディフェンスのモデル化 103
確率的潜在意味解析の並列化に関する研究 109

（c）土木建築工学科卒業研究論文集

目　　次

	卒業研究テーマ	氏　名	ページ
1	高層ビル周囲に形成される流れ構造と流速分布特性		1
2	柔軟植生模型を有する開水路流れの乱流特性		9
3	家族と共に成長する集合住宅の設計		15
4	低水路側壁に粗度を有する複断面開水路流れの乱流特性		23
5	周南市の企業社宅の変容と都市形成との関係性に関する基礎的研究		29
6	集中測量実習におけるGPS活用プログラム		43
7	滑面開水路乱流における組織構造の水平分布特性		51
8	浸漬試験による鋼材の腐食過程に対するマイクロバブルの影響		57
9	マグネシウム系固化材による関東ローム改良土の力学的特性に関する研究		65
10	実物大試験に基づく木質ラーメン構造の強度分析に関する基礎的研究		73
11	開水路段落ち側壁付近の乱流構造		79
12	防災意識向上を目指した防災教育プログラムの実践と評価		85
13	周南市熊毛地域における生活交通の再編成に関する研究		101
14	２次元レーザーを用いた腐食表面形状の実用的計測法に関する基礎的研究		109
15	マグネシウム系コンクリートの圧縮強度特性に及ぼす竹チップの影響		117
16	RC部材における断面中央に軸方向鉄筋を配置した場合の効果に関する研究		123
17	湯田温泉街の長期計画策定に関する研究		129
18	周南市の近代化遺産に関する研究　～向道ダムについて～		137
19	一社一村運動の動向と評価及び方向性に関する研究		155
20	東日本大震災における石巻市・女川町の構造的被害に関する現地調査と考察		163

出典：平成２３年度卒業研究論文集

資料６－１－②－６　資格取得による単位認定実績（平成２３年度分抜粋）

特別学修単位認定管理簿

平成１６年４月～平成２４年３月

所属学科	学籍番号	学年	出席番号	氏　名	外部修得科目名又は資格取得名等	認定科目名	修得又は 取得年月日	単位数	認定年度
情報電子	[redacted]	2	[redacted]	[redacted]	TOEIC(IP) 350～399	一般特別演習	平成23年7月24日	1	平成23
情報電子		1			実用英検　準２級	一般特別演習	平成22年7月16日	1	平成22
情報電子		2			TOEIC(IP) 400～469	一般特別演習	平成23年7月24日	2	平成23
情報電子		2			情報処理技術者試験　基本情報技術者	専門特別演習	平成23年10月16日	1	平成23
情報電子		2			TOEIC(IP) 350～399	一般特別演習	平成23年7月24日	1	平成23
情報電子		1			日本語検定　３級	一般特別演習	平成22年12月2日	1	平成22
情報電子		2			実用英検　準２級	一般特別演習	平成23年2月25日	1	平成23
情報電子		1			日本語検定　３級	一般特別演習	平成22年7月9日	1	平成22
情報電子		2			TOEIC(IP) 470～599	一般特別演習	平成23年5月15日	3	平成23
情報電子		2			実用英検　準２級	一般特別演習	平成23年2月25日	1	平成23
情報電子		1			日本語検定　３級	一般特別演習	平成22年12月2日	1	平成22
情報電子		3			学習到達度試験(数学)	一般特別演習	平成23年1月13日	1	平成22
情報電子		3			学習到達度試験(物理)	一般特別演習	平成23年1月13日	1	平成22
情報電子		5			e一経営情報数学Ⅰ	外部修得科目	平成24年2月22日	2	平成23
情報電子		5			e一情報技術基礎Ⅱ	外部修得科目	平成24年2月22日	2	平成23
情報電子		5			英文法基礎	外部修得科目	平成24年2月23日	1	平成23
土木建築		2			実用英検　準２級	一般特別演習	平成23年2月25日	1	平成23
土木建築		2			実用英検　２級	一般特別演習	平成23年11月18日	2	平成23
土木建築		2			海外語学研修	一般特別演習	平成23年9月16日	2	平成23
土木建築		1			実用英検　準２級	一般特別演習	平成22年7月16日	1	平成22
土木建築		1			日本語検定　３級	一般特別演習	平成22年12月2日	1	平成22
土木建築		2			実用英検　準２級	一般特別演習	平成23年11月18日	1	平成23
土木建築		3			学習到達度試験(物理)	一般特別演習	平成23年1月13日	1	平成22
土木建築		4			TOEIC(IP) 730点以上	一般特別演習	平成23年12月22日	5	平成23
土木建築		4			情報処理技術者試験　基本情報技術者	専門特別演習	平成23年11月17日	1	平成23
土木建築		3			学習到達度試験(数学)	一般特別演習	平成24年1月12日	1	平成23
土木建築		3			学習到達度試験(物理)	一般特別演習	平成24年1月12日	1	平成23

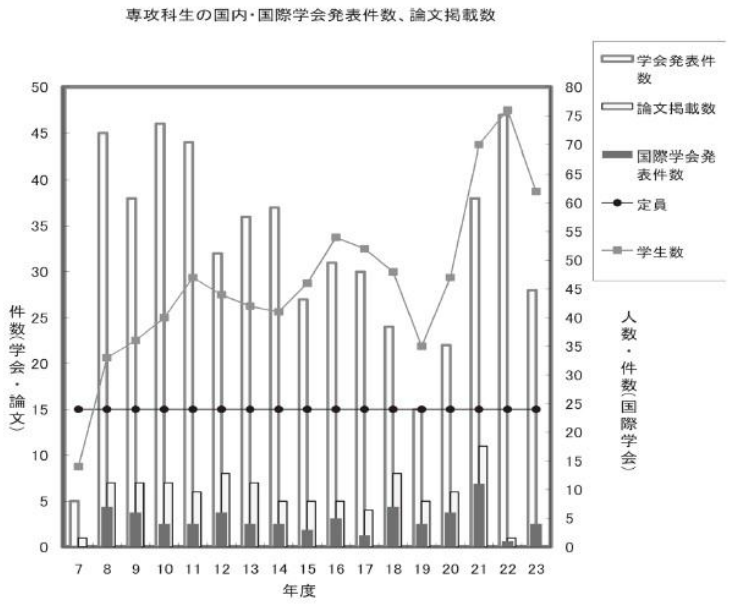
出典：特別学修による単位認定管理簿

資料６－１－②－７　過去５年間の学位取得状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
修了者数	25	17	17	29	40	32
学位取得者数	25	17	17	29	40	32

出典：教務係資料

資料６－１－②－８　専攻科生の国内・国際学会発表件数，論文掲載数



出典：専攻科履修要覧

資料６－１－②－９　平成２３年度専攻科修了生の国内・国際学会発表，外部資格取得状況

専攻	No.	TOEIC	学会発表		外部資格
機械制御		440	H23.3.9～3.11	日本音響学会2011年春季研究発表会	CAD利用技術者試験２級
		420	H23.3.9～3.11	日本音響学会2011年春季研究発表会	CAD利用技術者試験２級
		410	H23.9.29	日本機械学会九州支部宮崎講演会	CAD利用技術者試験２級
		510	H23.12.5～12.7	第49回燃焼シンポジウム	CAD利用技術者試験２級
		410	H23.10.22	平成23年度(第62回)電気情報関連学会中国支部連合大会	CAD利用技術者試験２級
		450	H23.7.18～7.19	日本機械学会 M&M2011材料力学カンファレンス	CAD利用技術者試験２級
		420	H23.3.8	日本機械学会　中国四国支部　第50期総会・講演会	CAD利用技術者試験２級
		405	H23.9.29	日本機械学会九州支部宮崎講演会	CAD利用技術者試験２級
情報電子		415	H23.10.22	平成23年度(第62回)電気情報関連学会中国支部連合大会	基本情報技術者試験
		620	H22.9.11～9.12	平成22年度電気関係学会北陸支部連合大会	応用情報技術者試験
		425	H23.3.14～3.16	電子情報通信学会2011年総合大会	応用情報技術者試験
		450	H23.10.22	平成23年度(第62回)電気情報関連学会中国支部連合大会	工事担任者試験DD第１種
		405	H24.1.27～1.28	第17回高専シンポジウムin熊本	工事担任者試験DD第１種
		525	H24.1.27～1.28	第17回高専シンポジウムin熊本	基本情報技術者試験
		410	H23.10.22	平成23年度(第62回)電気情報関連学会中国支部連合大会	工事担任者試験DD第１種
		未到達	H24.1.27～1.28	第17回高専シンポジウムin熊本	基本情報技術者試験
環境建設		425	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	2級土木施工管理技術検定
		450	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	福祉住環境試験3級
		450	H23.9.18～9.22	ASEM'11 PLUS	2級建築士
		405	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	2級土木施工管理技術検定
		415	H22.3.5～3.6	2010年度日本建築学会中国支部研究発表会	CAD利用技術者試験２級
		405	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	2級土木施工管理技術検定
		515	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	2級土木施工管理技術検定
		440	H22.3.5～3.6	2010年度日本建築学会中国支部研究発表会	2級建築士
		410	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	2級建築士
		430	H23.8.6～8.8	日本混相流学会年会講演会2011	2級土木施工管理技術検定
		880	H23.9.18～9.22	ASEM'11 PLUS	2級建築士
		430	H23.9.18～9.22	ASEM'11　PLUS	2級建築士
		555	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	2級土木施工管理技術検定
		420	H23.9.18～9.22	ASEM'11PLUS&日本建築学会中国支部研究発表会	CAD利用技術者試験２級
		405	H22.5.15	第62回平成22年度土木学会中国支部研究発表会	2級土木施工管理技術検定
		525	H22.3.5～3.6	2010年度日本建築学会中国支部研究発表会	2級建築士

出典：専攻科資料

資料６－１－②－１０　特別研究論文集

学内限定

特別研究論文集

平成23年度　専攻科　第16号

ADVANCED COURSE
GRADUATION RESEARCH
REPORTS

2012
No. 16

徳山工業高等専門学校
Tokuyama College of Technology

目次

機械制御工学専攻

振動軽減ベッド用超音波リニアモータの開発 …… 猪俣 百矢 1
超音波を用いた衝撃吸収装置の開発 …… 植木 栄一郎 9
ナノインデンテーション試験による各種材料のビッカース硬さ評価 …… 神北 真太郎 15
ポリエチレンフィルムの高温場特性に及ぼす形状および重力の影響 …… 神代 雄大 21
二層導体の磁気シールド特性 …… 清水 朋之 29
一様温度変化を受ける接合有限板の界面き裂の応力拡大係数 …… 土田 悠平 37
複数の長方形切欠を用いた二次元噴流の操縦（二次流れ） …… 松本 卓也 43
非線形き裂力学による界面き裂の伸塑性挙動の検討 …… 丸山 貴広 51

情報電子工学専攻

鉄道模型制御用並行処理言語の設計と実装 …… 大和田 陸司 57
FPGAを用いた監視システム向け省電力プロセッサの設計 …… 國本 将也 63
Webベースの Javaプログラミング環境の開発 …… 佐内 修平 69
ステンレス箔テープヒータによる植物体加温システムの検討 …… 竹本 優太 75
駐車場内の車両に関する挙動シミュレータの検討 …… 中村 勇勝 81
SURF を用いた類似画像選択時におけるフィルタリング適用効果 …… 新田 兼三 87
バスケットボール競技映像からのライン抽出 …… 原田 拓 93
モバイル端末によるAJAXを用いたプログラミング学習システム …… 山根 一郎 101

環境建設工学専攻

水固化材比の異なるマグネシウム系固化材の改良土の強度特性に関する研究 …… 池岡 紹夢 105
コンクリート構造物のひび割れ幅に関する基礎的研究 …… 稲津 貴和子 113
The Effects of Edge Beam on Stresses and Deflections of Shell …… 川口 恵 121
破砕性地盤における杭の先端支持力特性 …… 河村 和也 129
「道の駅」のサービス、防災機能の現状と方向性に関する研究
　中国及び東北「道の駅」連絡会へのアンケート調査結果より …… 堺 祐太 137
フィルターを用いた斜面保護に関する研究 …… 坂本 竜弥 145
超音波による細粒土の減容化に関する研究 …… 千葉 光 153
周南市における高齢者支援施設等の立地特性の分析と
　高齢者の街なか居住推進に向けた改善提案 …… 中村 明 159
錦帯橋の保存活用の方向性に関する研究 …… 西山 翔太朗 167
マイクロバブルの物理化学的特性と植物活性 …… 橋本 幸彦 175
Structural Optimization Method Using the Level Set Method …… 濱崎 翔平 185
Steel Connector with Low-Yield-Point-Steel at Column Base …… 廣幡 啓祐 193
カルシウム系固化材を用いたコンクリートの圧縮強度特性に及ぼす自然暴露の影響 …… 古谷 亮 199
Structural Dynamic Behaviors of Hagia Sophia …… 山岡 幸太 207
構造物隅角部のき裂発生に関する数値解析 …… 山根 成史 215
GIS を用いた中山間地域における新たな生活交通モデルの有効性の検討 …… 山本 英和 223

出典：平成２３年度特別研究論文集

資料６－１－②－１１　専攻科インターンシップ報告集

平成23年度専攻科インターンシップ報告集　目次

		(ページ)
はじめに	校長　井上　直樹	1
実施概要		2
実施内容一覧		
学生氏名	派遣先	
機械制御工学専攻（7名）		
[redacted]	株式会社日立プラントメカニクス	3
[redacted]	日立交通テクノロジー株式会社笠戸事業所	7
[redacted]	地方独立行政法人山口県産業技術センター	11
[redacted]	ティーエスプレシジョン株式会社	15
[redacted]	ナカシマメディカル株式会社	19
[redacted]	東洋鋼鈑株式会社	23
[redacted]	マツダ株式会社防府工場	27
情報電子工学専攻（4名）		
[redacted]	株式会社日立プラントメカニクス	31
[redacted]	国際ソフトウェア株式会社	35
[redacted]	九州大学大学院システム情報科学府	39
[redacted]	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科	43
環境建設工学専攻（21名）		
[redacted]	周南市役所	47
	アトリエ･コン･ブリオ	51
[redacted]	有限会社古居構造設計事務所	55
[redacted]	株式会社ソイル・ブレーン	59
[redacted]	パシフィックコンサルタンツ株式会社中国支社	63
	株式会社福山コンサルタント	67
[redacted]	中電技術コンサルタント株式会社	71
[redacted]	太平洋セメント株式会社	75
[redacted]	株式会社翼設計コンサルタント	81
[redacted]	財団法人山口県建築住宅センター	85
	株式会社安成工務店	89
[redacted]	公益財団法人文化財建造物保存技術協会九州事務所	93
[redacted]	University of Wollongong	97
[redacted]	株式会社トクヤマ	101

出典：専攻科インターンシップ報告集

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程においては，分析（１）および分析（２），その他の外部評価等から，平成２３年度卒業生の１名を除くすべての卒業生が本校の６項目の学習・教育目標（Ａ１，Ａ２，Ｂ１，Ｂ２，Ｃ１，Ｃ２）を達成しているといえる。

専攻科課程においては，すべての修了生が６項目の学習・教育目標（Ａ１，Ａ２，Ｂ１，Ｂ２，Ｃ１，Ｃ２）に対応する科目を修得し，また，１名を除くすべての修了生が，６項目の学習・教育目標に対応する外部評価を満足し，JABEE「設計情報工学」プログラムを修了している。

英語に関しては，到達目標に達していない学年もあるが，全体的に見ると教育の実績・効果は上がっている。卒業研究論文集や特別研究論文集に関しても，多くの国内外における学会での発表を行っており，成果が上がっている。

以上のことから，各学年や卒業（修了）時において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果は十分上がっている。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における進路状況は，この５年間の平均で，就職が進学に較べ１割程度多い。また卒業時における進路未決者は極少数である（資料６－１－③－１）。求人倍率は，10倍を超える高い水準が保たれている（資料６－１－③－２）。過去３年間，いずれの学科においても，専門分野に対応した就職先が選択されている（資料６－１－③－３）。進学先は本校専攻科が最も多く，次いで国立大学が選択されている。進学先の分野は99％が工学系となっている（資料６－１－③－４）。

専攻科課程における進路状況は，この５年間の平均で，就職と進学の割合がほぼ２対１となっている。修了時における進路未決者は，割合として３～12％となっているが，人数としては１～２人と極少数である（資料６－１－③－１）。求人倍率については，年度および各科で差があるものの，10倍を超える高い水準を維持している（資料６－１－③－２）。過去３年間，いずれの専攻においても，専攻分野に対応した就職先が選択されている（資料６－１－③－３）。進学先のほとんどは国公立大学の工学系大学院である（資料６－１－③－４）。

資料６－１－③－１　進路状況の経年変化

本科進路先											
年度	19		20		21		22		23		平均進学率 平均就職率
卒業学生数	120		128		123		120		125		
就職	75	62.5%	70	54.7%	61	49.6%	56	46.7%	71	56.8%	54.0%
進学	44	36.7%	55	43.0%	60	48.8%	61	50.8%	53	42.4%	44.3%
進路未決定	1	0.8%	3	2.3%	2	1.6%	3	2.5%	1	0.8%	1.6%

専攻科進路先											
年度	19		20		21		22		23		平均進学率 平均就職率
修了学生数	17		17		29		40		32		
就職	7	41.2%	11	64.7%	19	65.5%	25	62.5%	23	71.9%	61.2%
進学	8	47.0%	5	29.4%	8	27.6%	14	35.0%	8	25.0%	32.8%
進路未決定	2	11.8%	1	5.9%	2	6.9%	1	2.5%	1	3.1%	6.0%

出典：教務係資料

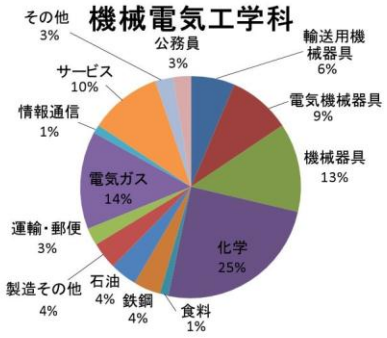
資料６－１－③－２　求人倍率の経年変化

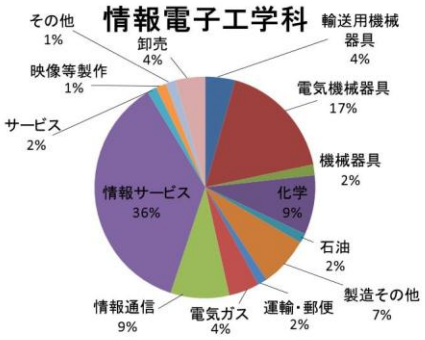
本科求人倍率						
年度	19	20	21	22	23	平均
機械電気	16	29	15	13	17	18
情報電子	25	20	21	12	16	19
土木建築	10	12	12	7	8	10

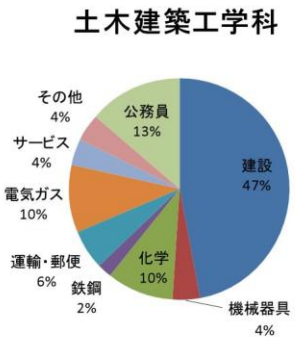
専攻科求人倍率						
年度	19	20	21	22	23	平均
機械制御	242	104	117	32	42	107
情報電子	159	295	25	47	48	115
環境建設	21	16	13	7	12	14

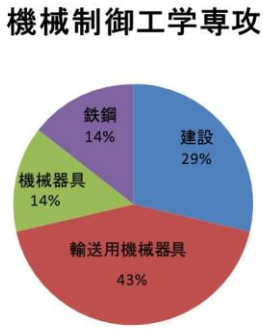
出典：教務係資料

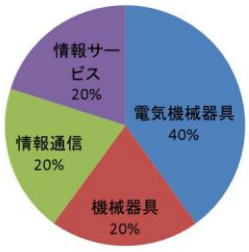
資料６－１－③－３　過去３年間の就職先の状況







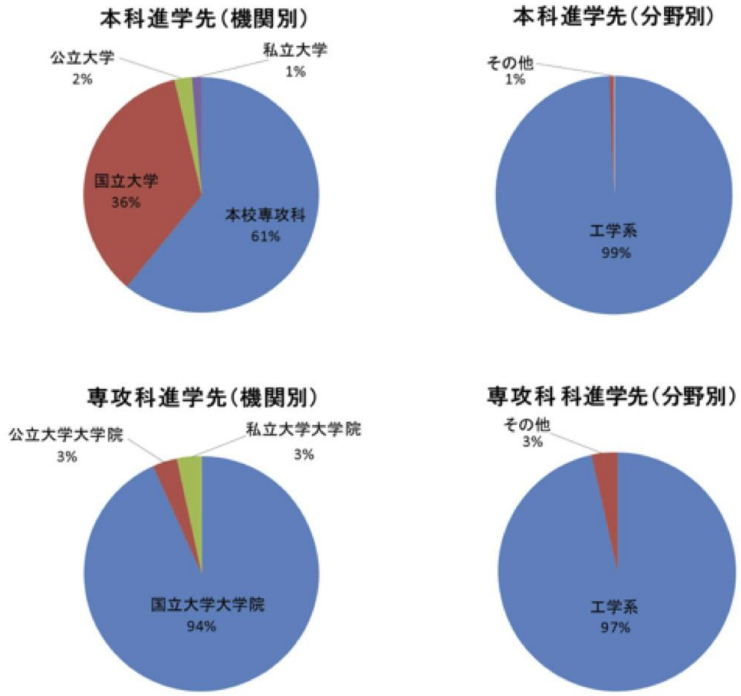






出典：教務係資料

資料６－１－③－４　過去３年間の進学先の状況



出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

本科卒業時，専攻科修了時において，ほとんどの卒業生，修了生は就職か進学のいずれかの進路が決定しており，未定者は極めて少数である。就職については，求人倍率が高い水準で維持されており，就職先には，各学科，各専攻の専門に対応する企業等が選択されている。また，進学においては，本科卒業生は本校専攻科，大学の工学部，専攻科修了生は工学系大学院へ進学している。

以上のことから，就職や進学といった卒業（修了）後の進路に関して，学生への進路指導が適切になされており，教育の成果が上がっている。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では，平成１６年度から本科卒業，専攻科修了時に，本校の学習・教育目標に対応する学習達成度評価アンケート調査を実施し，その集計結果を本校Webサイトで公開している（資料６－１－④－１）。

平成２３年度のアンケートでは，以下のような結果が得られている（資料６－１－④－２）。

準学士課程では，「世界に通用する技術者をめざすための実力」については，８割以上の卒業生が実力をつけることができたと評価している。「実践力のある技術者をめざすための実力」，「開発型技術者をめざすための実力」，「総合的な実力」については，９割以上の卒業生が実力をつけることができたと評価している。専攻科課程の達成度評価では，準学士課程のそれとほぼ同様であるが，“十分な実力がついた”の割合がいずれの質問項目においても高い。「世界に通用する技術者をめざすための実力」に関する評価では，準学士課程，専攻科課程とも“実力がついていない”の評価割合がやや高い。

学習達成度アンケート結果の経年変化（資料６－１－④－３）をみると，準学士課程では，「世界に通用する技術者をめざす実力」については，“実力がついていない”の評価の割合が他の質問項目に較べてやや高い。しかし，それは年度毎に緩やかに減少し，その減少分が“実力がついた”の評価の微増に繋がっている。その他の質問項目については，“実力がついた”，“十分な実力がついた”を合わせた評価が80～90%以上を占めている。専攻科課程においては，準学士課程の評価とほぼ同様であるが，準学士課程と比較して“十分な実力がついた”の評価の割合が高いことが認められる。

平成２４年度から，各学年における学習達成度を学生自身および教員が確認するために，「学習活動の記録」（資料６－１－④－４）の記入を開始した。本記録は，本校の学習・教育目標に対応する６項目の学習・教育目標の具体的達成度を４段階で評価する。また，当該年度の反省と次年度の目標，抱負等を記入することにより，学生の自立した学習活動を促すことが期待される。

料６－１－④－１　学習達成度評価アンケート項目

学習達成度評価アンケートの結果

学習・教育レビュー室では、今年度の卒業生および修了生に対し、学生自身の学習達成度評価アンケートを実施いたしました。以下に、実施アンケート項目を示します。

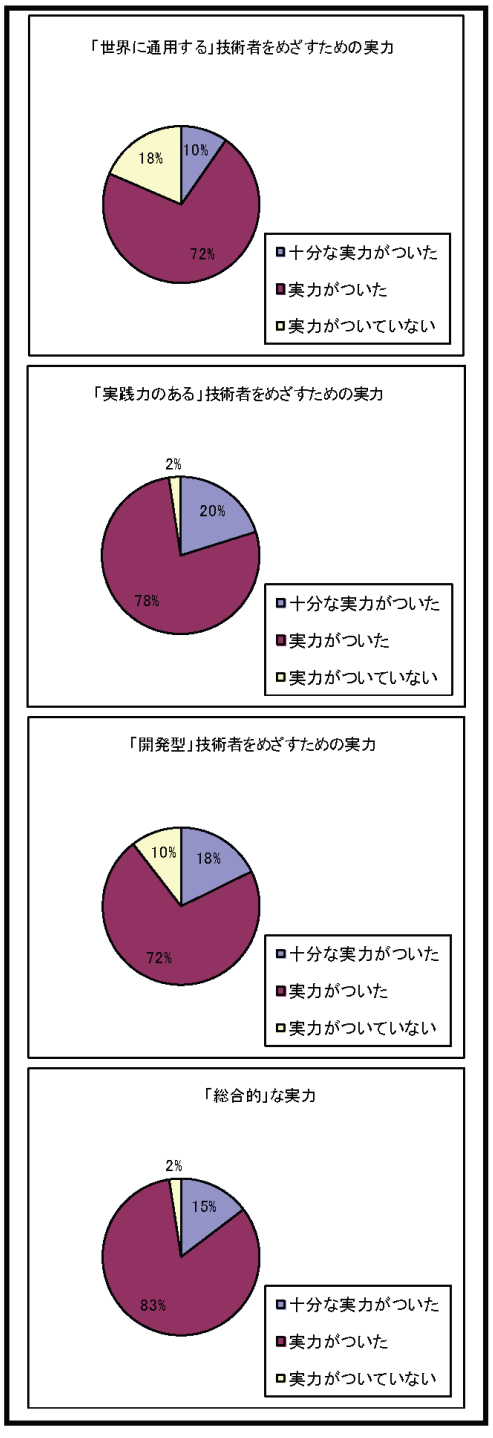
徳山高専では、多くの事を学んだと思います。皆さんが卒業（修了）するにあたり、徳山高専で用意したカリキュラムで、以下の期待した実力がついたと思いますか。

1.「世界に通用する」技術者をめざすための、実力がついたと思いますか。
　1．十分な実力がついた。　2．実力がついた。　3．実力がついていない。
2.「実践力のある」技術者をめざすための、実力がついたと思いますか。
　1．十分な実力がついた。　2．実力がついた。　3．実力がついていない。
3.「開発型」技術者をめざすための、実力がついたと思いますか。
　1．十分な実力がついた。　2．実力がついた。　3．実力がついていない。
4．総合的に、期待した実力がついたと思いますか。
　1．十分な実力がついた。　2．実力がついた。　3．実力がついていない。
5．徳山高専へのご意見をお願いします（自由記述）。

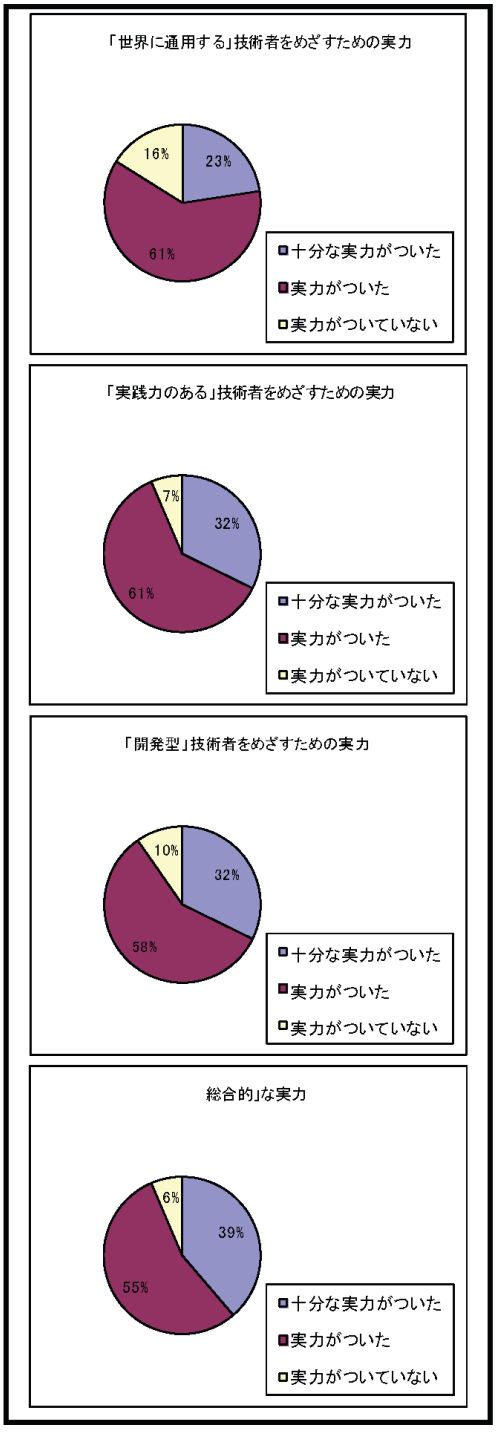
出典：本校Webサイト

資料６－１－④－２　平成２３年度学習達成度評価アンケート結果

本科卒業生



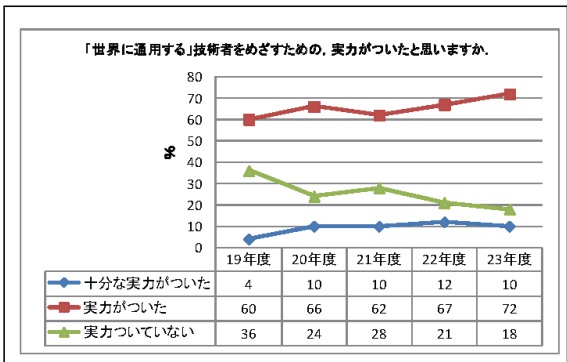
専攻科修了生



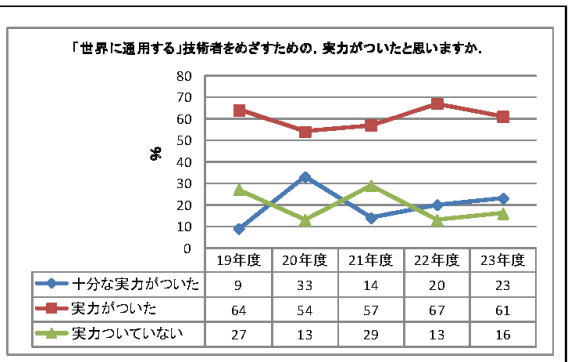
	本科（人）	専攻科（人）
４つの項目すべてに、「十分な実力がついた」と答えた学生	12／124	7／31
４つの項目すべてに、「実力がついていない」と答えた学生	2／124	2／31

出典：本校 Webサイト

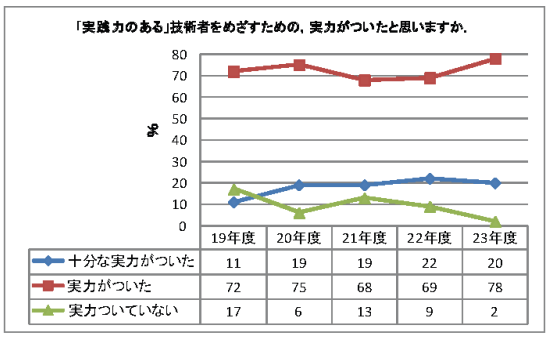
資料６－１－④－３　達成度アンケート結果の経年変化



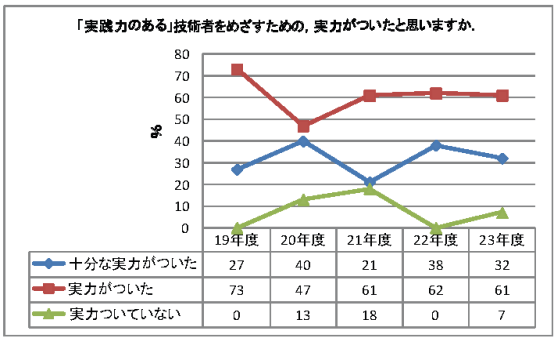
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	4	10	10	12	10
実力がついた	60	66	62	67	72
実力ついていない	36	24	28	21	18



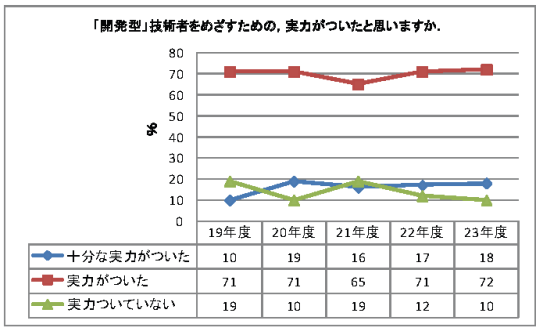
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	9	33	14	20	23
実力がついた	64	54	57	67	61
実力ついていない	27	13	29	13	16



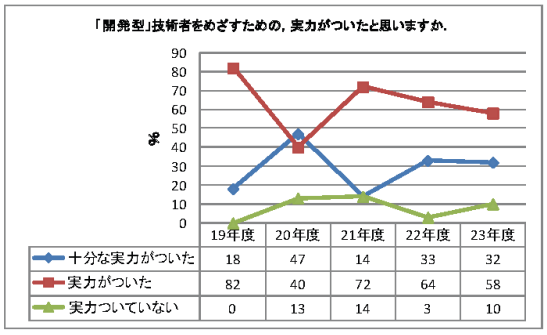
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	11	19	19	22	20
実力がついた	72	75	68	69	78
実力ついていない	17	6	13	9	2



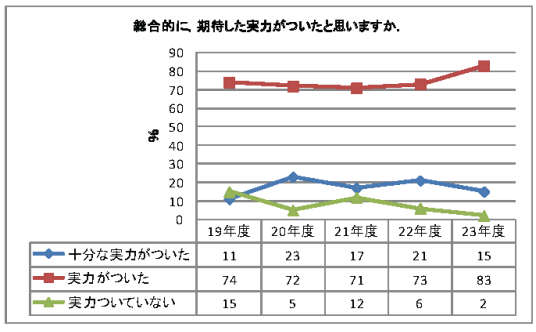
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	27	40	21	38	32
実力がついた	73	47	61	62	61
実力ついていない	0	13	18	0	7



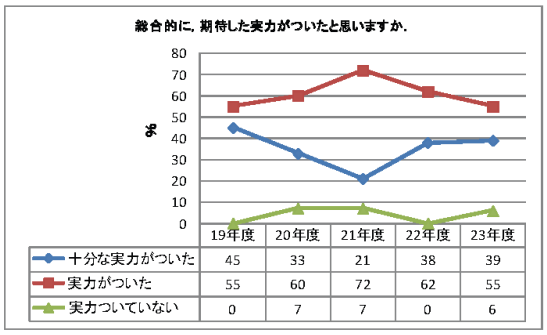
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	10	19	16	17	18
実力がついた	71	71	65	71	72
実力ついていない	19	10	19	12	10



	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	18	47	14	33	32
実力がついた	82	40	72	64	58
実力ついていない	0	13	14	3	10



	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	11	23	17	21	15
実力がついた	74	72	71	73	83
実力ついていない	15	5	12	6	2

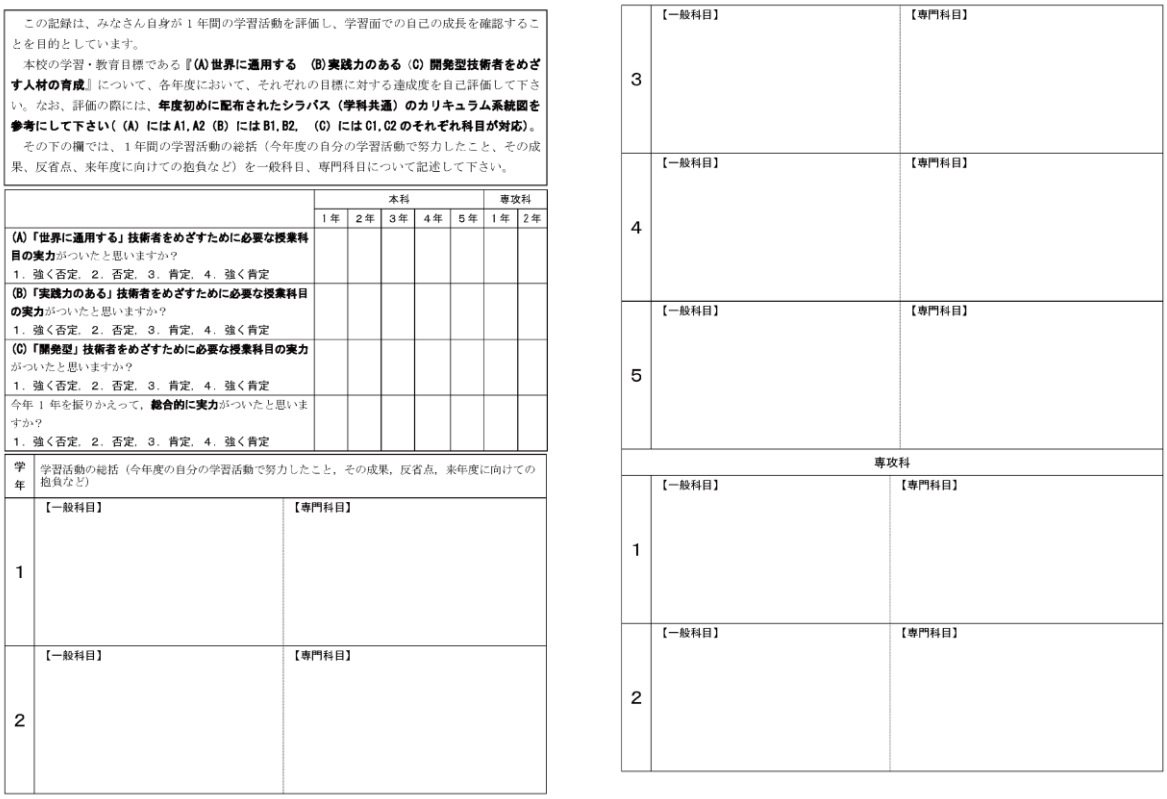


	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
十分な実力がついた	45	33	21	38	39
実力がついた	55	60	72	62	55
実力ついていない	0	7	7	0	6

準学士課程　　専攻科課程

出典：学習・教育レビュー室資料

資料６－１－④－４　学習活動の記録



この記録は、みなさん自身が１年間の学習活動を評価し、学習面での自己の成長を確認することを目的としています。

本校の学習・教育目標である『**(A)世界に通用する　(B)実践力のある（C）開発型技術者をめざす人材の育成**』について、各年度において、それぞれの目標に対する達成度を自己評価して下さい。なお、評価の際には、**年度初めに配布されたシラバス（学科共通）のカリキュラム系統図を参考にして下さい（（A）には A1, A2（B）には B1, B2,　（C）には C1, C2 のそれぞれ科目が対応）。**

その下の欄では、１年間の学習活動の総括（今年度の自分の学習活動で努力したこと、その成果、反省点、来年度に向けての抱負など）を一般科目、専門科目について記述して下さい。

	本科					専攻科	
	１年	２年	３年	４年	５年	１年	２年
(A)「世界に通用する」技術者をめざすために必要な授業科目の実力がついたと思いますか？ 1．強く否定，2．否定，3．肯定，4．強く肯定							
(B)「実践力のある」技術者をめざすために必要な授業科目の実力がついたと思いますか？ 1．強く否定，2．否定，3．肯定，4．強く肯定							
(C)「開発型」技術者をめざすために必要な授業科目の実力がついたと思いますか？ 1．強く否定，2．否定，3．肯定，4．強く肯定							
今年１年を振りかえって，**総合的に実力**がついたと思いますか？ 1．強く否定，2．否定，3．肯定，4．強く肯定							

学年	学習活動の総括（今年度の自分の学習活動で努力したこと，その成果，反省点，来年度に向けての抱負など）	
1	【一般科目】	【専門科目】
2	【一般科目】	【専門科目】
3	【一般科目】	【専門科目】
4	【一般科目】	【専門科目】
5	【一般科目】	【専門科目】
専攻科		
1	【一般科目】	【専門科目】
2	【一般科目】	【専門科目】

出典：学習活動の記録

（分析結果とその根拠理由）

本校で実施している卒業時，修了時の学習達成度アンケート調査結果から，学習・教育目標に対する卒業生，修了生の達成度の自己評価では，“実力がついた”ことを評価する割合が総じて高いことが認められる。

以上のことから，学習・教育目標達成のための適切な指導がなされ，教育の成果や効果が上がっている。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では平成１４年度から５年ごとに，全卒業（全修了）生や進路先等の関係者に対して，現状や本校への要望等に関する意見を聴取する取組みを実施している（平成２４年度分を実施中）。

平成１９年度に実施されたアンケート結果から，卒業生，修了生が本校において身に付けた学力

や資質がどのように生かされているかについて，就職先での仕事のやりがい，仕事における能力の発揮に関する自己評価の結果，および本校において受けた教育内容に関する評価として教育内容の満足度，複合教育の有益性に関する結果を示す。

【本科卒業生，専攻科修了生による評価】

① 職場における仕事のやりがいについて

職場における仕事のやりがいに関する評価（資料６－１－⑤－1）では，“とても感じる”，“わりと感じる”という肯定的な評価が，本科卒業生，専攻科修了生ともに80％を超えている。

② 仕事における能力の発揮について

職場における能力の発揮（資料６－１－⑤－２）については，本科卒業生，専攻科修了生とも“とても発揮している”，“わりと発揮している”が大半を占め，本科卒業生では86％，専攻科修了生については78％となっている。

③ 教育内容の満足度について

本科卒業生，専攻科修了生が，在学時に受けた教育に関する満足度（資料６－１－⑤－３）では，卒業生，修了生ともに，「専門科目教育」，「卒業研究・特別研究」，「情報処理関連教育」については，“満足のいく内容”だったとの評価をしている。これらに対して「教養科目教育」，「英語教育」については，他の項目と比べて評価が低く，どちらかといえば“不満”に相当する評価となっている。

④ 複合教育の有益性について

本校における複合教育が職場で役に立っているかに関する評価（資料６－１－⑤－４）では，本科卒業生については55％，専攻科修了生については54％が“役に立った”，“いくらか役に立った”と評価している。

次に，進路先の関係者からの卒業生，修了生に対する評価として，勤務成績，本校の学習教育目標に対応した卒業生，修了生の能力に対する評価結果とともに，本校の学習・教育目標の中でより重要度が高いと評価された項目に関する調査結果を以下に示す。

【進路先の関係者からの卒業生，修了生に対する評価】

① 勤務成績に関する評価

本科卒業生の勤務成績（資料６－１－⑤－５）については，“非常に満足”，“満足”の評価が72％を占めている。専攻科修了生についても，“非常に満足”，“満足”の評価が81％を占めている。

② 進路先の関係者からの卒業生，修了生の学習・教育目標の具体的項目に対応する能力の評価

卒業生の学習・教育目標の具体的項目に対応する能力の評価（資料６－１－⑤－６）については，Ａ２「国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力」のみ３（“ほぼ満足”）を下回る評価となっている，この他の項目についてはほぼ３の評価となっている。進路先の関係者の評価と本科卒業生の自己評価と比較すると，本科卒業生の自己評価の方が低い評価となっていることが認められる。

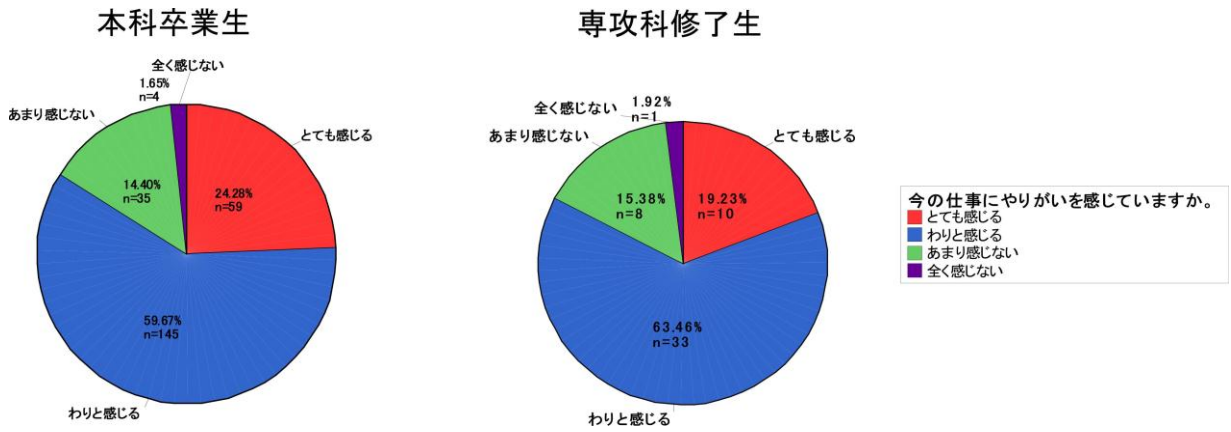
専攻科修了生に対する評価では，本科卒業生と同様に学習・教育目標のＡ２に関する評価

が低い値となっている。他の項目は，ほぼ同様な評価となっている。これらの評価と専攻科修了生の自己評価を比較すると，いずれの項目についても専攻科修了生の自己評価の方が低いことが認められる。

③　本校の学習・教育目標の中で重要と思われる項目について

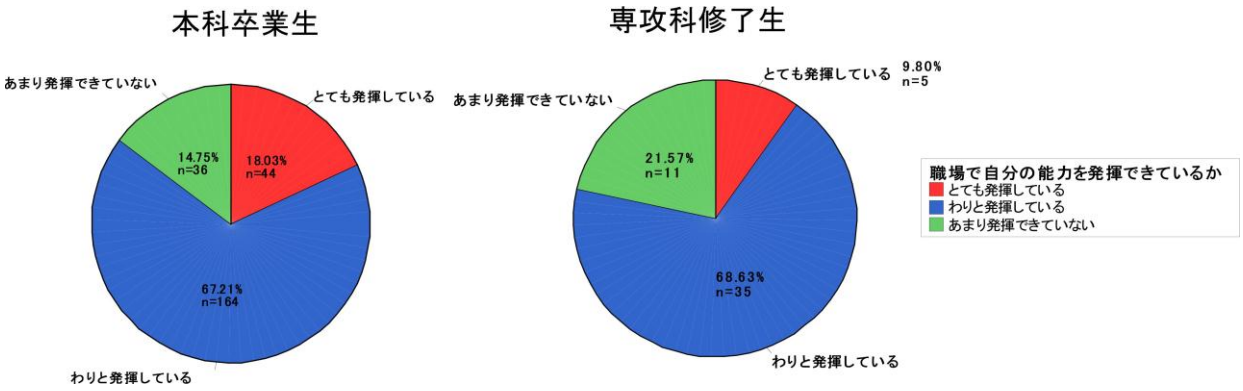
進路先の関係者が，本校の学習・教育目標の中で「特に重要である」と評価している項目としては，“課題を把握し解決する能力”（本校学習・教育目標のＣ２に相当），“自主性と自立性を養う”（本校学習・教育目標のＢ２に相当）の２つがあげられている（資料６－１－⑤－７）。これらの重要度の高い項目に関して，本科卒業生，専攻科修了生ともに良好な評価を得ていることが認められる（資料６－１－⑤－６）。

資料６－１－⑤－1　卒業生，修了生の職場における仕事のやりがい



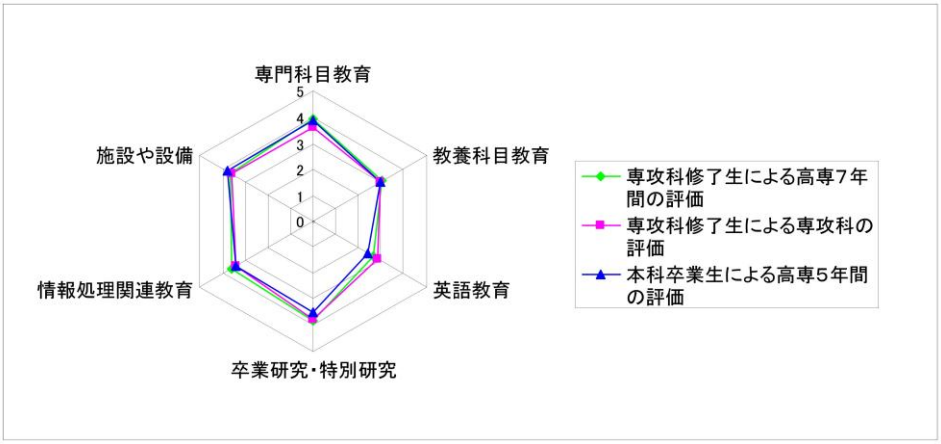
出典：平成１９年度　専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料６－１－⑤－２　卒業生，修了生の仕事における能力の発揮



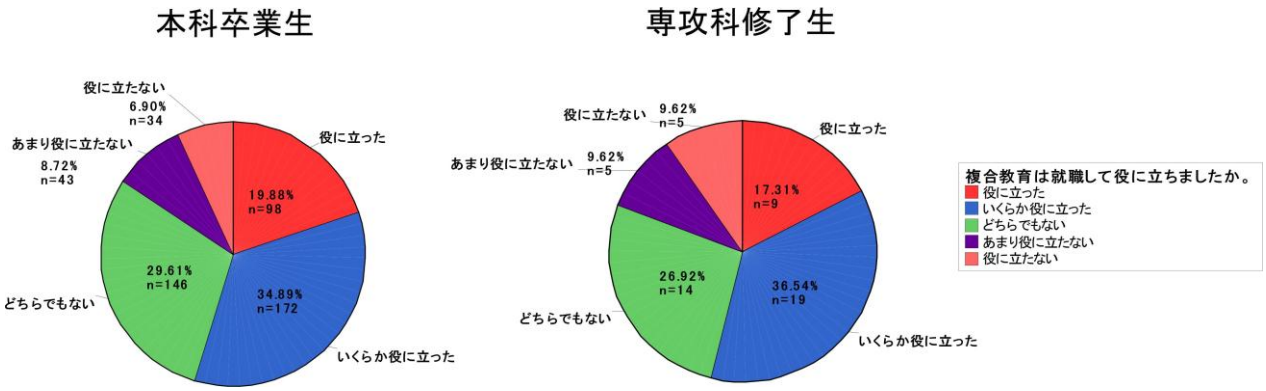
出典：平成１９年度　専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料６－１－⑤－３　在学時に受けた教育の満足度



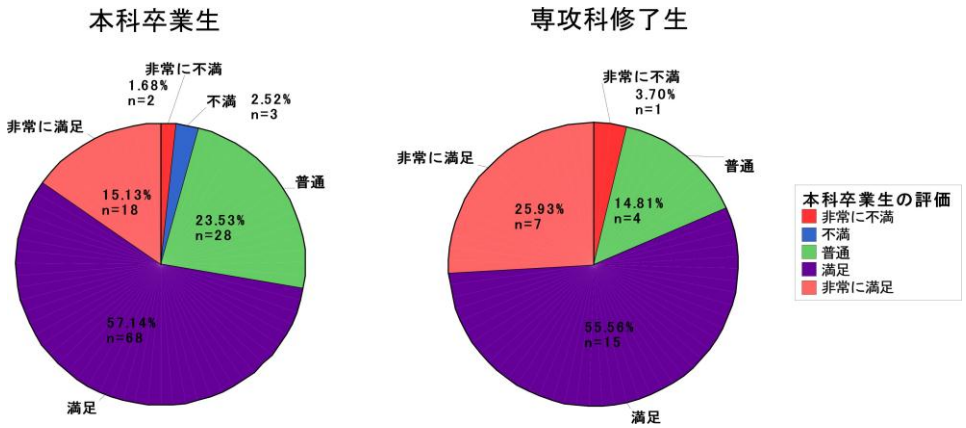
出典：平成１９年度　専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料６－１－⑤－４　複合教育の有益性



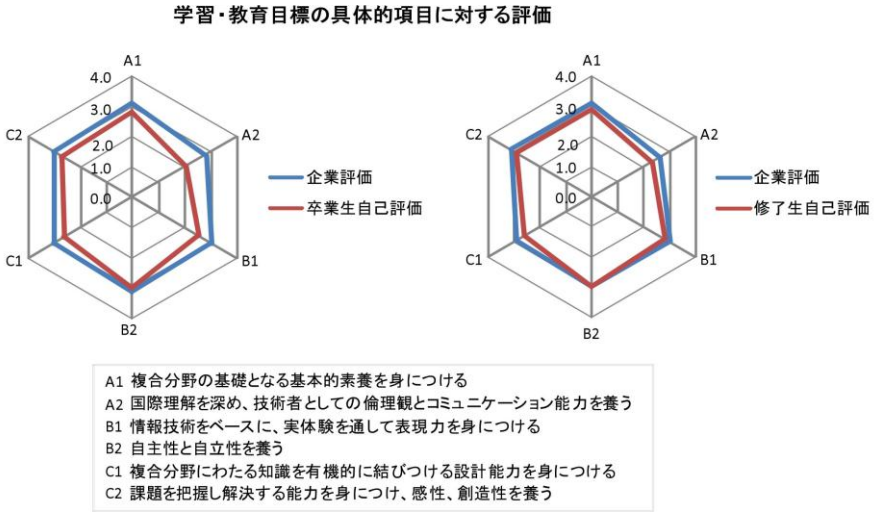
出典：平成１９年度　専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料６－１－⑤－５　卒業生，修了生の業務成績の評価



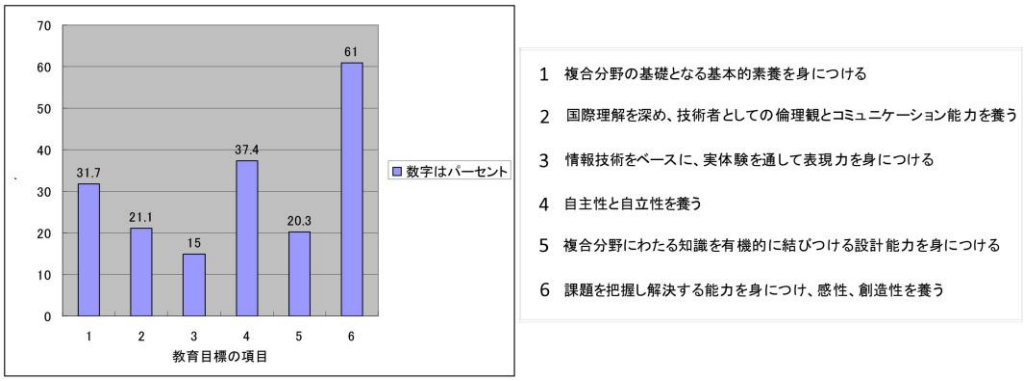
出典：平成１９年度　専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料６－１－⑤－６　本校の学習・教育目標に対応する能力評価



出典：平成１９年度　専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料６－１－⑤－７　本校の学習・教育目標における最重要項目



出典：平成１９年度　専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

（分析結果とその根拠理由）

本校では，平成１４年度から５年ごとに，全卒業（全修了）生や進路先等の関係者に対して，現状や本校への要望等に関する意見を聴取する取組みを実施している。また，以下のような理由から本校における教育の成果が上がっていると判断した。

- 平成１９年度に実施した調査から，本科卒業生，専攻科修了生ともに仕事にやりがいを持ち，自己の能力を発揮しながら業務に取り組んでいる様子が認められる。彼らの活躍には，本校で受けた複合教育における「専門科目」，「情報処理関連科目」，「卒業研究・特別研究」が役立っていることが推察される
- 本科卒業生，専攻科修了生に対する進路先の関係者からの評価では，業務成績については，本科卒業生，専攻科修了生のいずれも高く評価されている
- 本校の学習・教育目標に対応する能力については，Ａ２「国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う」についてはやや低い評価であるが，それを除く５つの項目について“ほぼ満足”と評価されている

・　本校の学習・教育目標の重要度の高いものとして，本校学習・教育目標のＢ２「自主性と自立性を養う」，Ｃ２「課題を把握し解決する能力を身につけ，感性，創造性を養う」に相当する項目があげられた。これらの項目については，卒業生，修了生ともに進路先の関係者から良好な評価を得ており，進路先の要望に対応できている

以上のことから，本校では，卒業（修了）生や進路先等の関係者から意見を聴取する取組みが定期的に実施されており，その結果から判断して，教育の成果や効果は十分に上がっている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　専攻科課程では，各項目の科目修得に加え，すべての項目に外部評価が導入されており，６項目の目標それぞれに到達しているかどうかを単位修得状況，（Ａ１）学士取得状況，（Ａ２）TOEICスコア，（Ｂ１）情報関連外部資格取得状況，（Ｃ２）インターンシップおよび特別研究，学協会での研究発表状況により把握し，修了認定会議において評価している。また，全員がJABEE「設計情報工学」プログラム履修者であり，平成１９年度以降，１名を除くすべての修了生がJABEE修了要件を満たし，専攻科を修了している
・　準学士課程，専攻科課程とも，適切な進路指導がなされ，大部分の卒業生，修了生は専門分野に相応しい進路（進学，就職）を選択している。また，進路先においても高い評価を得ている
・　学生による学習・教育目標の達成度評価が実施され，概ね良好な評価が得られている

（改善を要する点）

・　準学士課程では，単位修得の達成状況を，学年修了認定会議と卒業認定会議で把握・評価しているが，６項目の学習・教育目標それぞれの具体的到達目標の達成度についての分析・評価が十分にはされていない。今後，参考資料のような分析を継続的に行い，各到達目標の達成度を評価する必要がある
・　学生の学習達成度の自己評価および進路先の関係者からの能力評価において，学習・教育目標の「世界に通用する技術者をめざす実力」，Ａ２「国際理解を深め，技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う」の項目に関する評価が他の評価項目に比べてやや低い。この評価項目に関係する英語については，「英語力向上タスクフォースII」などによる英語教育改革によって成果が上げられつつあるが，それが達成度評価，能力評価に現れるよう，さらなる努力が必要である

（３）基準６の自己評価の概要

準学士課程，専攻科課程とも，本校の６項目の学習・教育目標（Ａ１～Ｃ２）に沿って，具体的到達目標が定められている。準学士課程においては，各項目の科目修得に加えて，（Ａ２）英語外部試験と（Ｃ２）発表評価が導入されており，概ね良好な達成度評価が得られている。専攻科課程においては，各項目の科目修得に加えて，すべての項目に外部評価が導入され，また，平成１９年度以降，１名を除くすべての修了生がJABEEプログラムを修了していることから，学習・教育目標を十分に達成しているといえる。

過去５年間の留年および退学者は少数で，全体的に学校への定着率は高い。また，ほとんどの卒

業生，修了生は，進路として各学科，各専攻の専門に対応する企業，あるいは大学，大学院を選択している。

学習達成度アンケート調査による，卒業生，修了生の自己評価では，学習・教育目標に対して“実力がついた”とする割合が総じて高い。さらに，卒業生，修了生および進路先の関係者へのアンケート調査では，本科卒業生，専攻科修了生ともに仕事にやりがいを持ち，自己の能力を発揮しながら業務に取り組んでいること，業務成績について高く評価されていることが明らかである。本校の学習・教育目標に対応する能力については，進路先の関係者が重要度の高いと評価する（Ｂ２）“自主性と自立性を養う”，（Ｃ２）“課題を把握し解決する能力”については，卒業生，修了生ともに良好な評価を得ている。

以上により，本校における教育の成果は上がっている。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学習を進める上でのガイダンスについては，準学士課程入学者に対する入学前の修学指導を始めとして，準学士課程の全学生にオリエンテーションを行い，自主的学習への方向づけを促進している（資料７－１－①－１～４）。

オリエンテーションの欠席者に対しては後日改めて呼び出して実施することにより，ガイダンスを徹底している（資料７－１－①－５）。

学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制について，準学士課程ではクラス担任が学生の修学上の相談・助言の中心を担っている。クラス全体に対してはクラスホームルームを利用して助言し，個人に対しては学生生活ノートや担任によるアンケートに基づいて指導している（資料７－１－①－６～８）。

一方，専攻科課程における学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制は，専攻科長および専攻科幹事が中心的な役割を担っており，主に専攻科ホームルームで行っている（資料７－１－①－９）。

学生相談室では，全学生に学習などの相談の受付について周知するとともに，準学士課程の新入生に対して「新入生アンケート」を実施している（資料７－１－①－１０～１５）。

全教員は，オフィスアワーを設定し，各教員室の前に掲示している。また，本校Webサイトにも公開することで，学生に周知している（資料７－１－①－１６）。

資料７－１－①－１　就学前ガイダンスの内容（抜粋）

平成２４年度新入生修学指導説明会進行要領　　（司会：柏倉主事補）

日　　時　　平成２４年３月２０日（火）
　　受　　付（第２体育館）　１２：３０～１３：３０
　　修学指導　　１３：３０～１５：２０
場　　所　　本校第２体育館

（中略）

１．高専の現状	池田教務主事	13:40～13:50
２．修学指導	英語（国重教員）	13:50～14:05
	国語（一色教員）	14:05～14:20
	数学（米田教員）	14:20～14:35
３．学生生活	佐賀学生主事	14:35～14:55
４．学寮（高城寮）生活について	田村寮務主事	14:55～15:10

出典：教務係資料

資料７－１－①－２　新年度オリエンテーションの内容

平成２４年度始業式(４月５日)日程表

徳山工業高等専門学校

（中略）

Ⅴ　オリエンテーション（13:15～15:20）　※先生方もいずれかに出席をお願いします。

○　場　所：第２体育館に全員集合　学生主事の話の後
　　本科２～３年／第２体育館，本科４～５年／第１体育館に分かれて実施

○　所持品：学生便覧、シラバス、筆記具、研究日誌（5年生）

１．出席確認／クラス担任（１３：１５～１３：２０）　髙橋主事補に報告

２．情報モラルについて（学生主事）（１３：２０～１３：５０）
　　本科４～５年は第１体育館に移動（出席確認／クラス担任）　髙橋主事補に報告

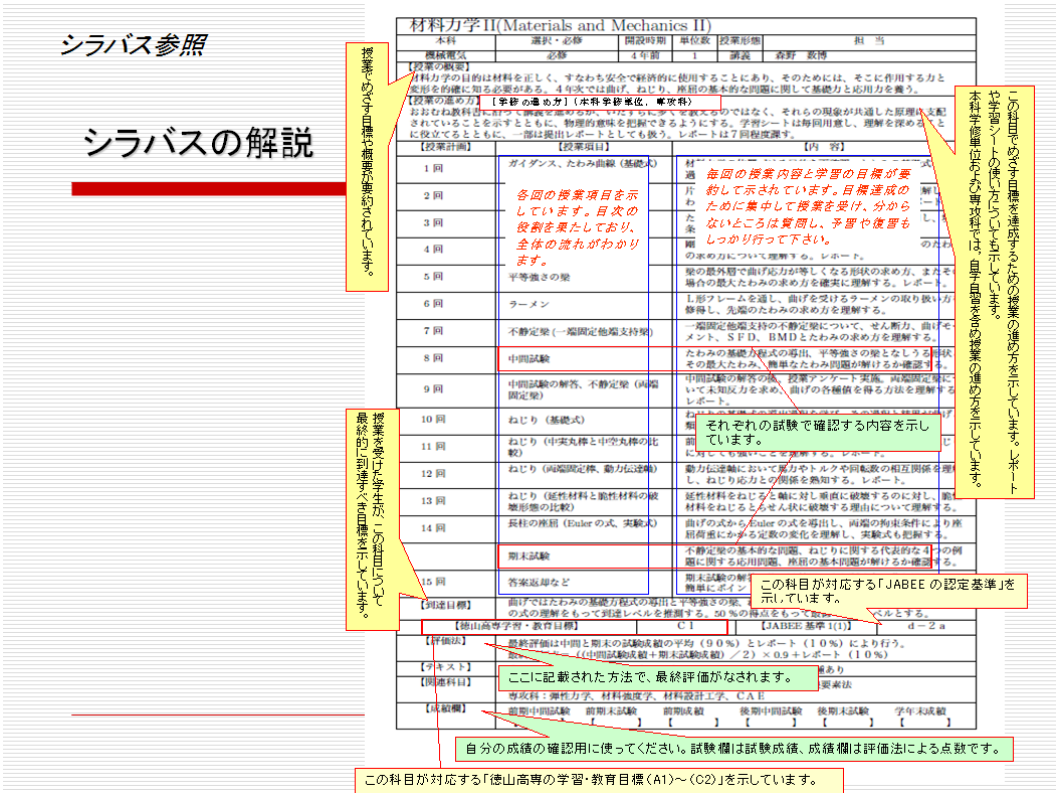
３．教育方針ならびに教務関連について（１４：００～１４：３０）
　○　担当：２～３年／教務主事補（中川）　４～５年／教務主事補（森﨑）

４．学生生活について（１４：３０～１５：００）
　○　担当：２～３年／学生主事輔（小川）　４～５年／学生主事（佐賀）

５．キャリア教育支援室について（１５:００～１５：２０）
　○　担当：２～３年／（ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）　４～５年／（ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）

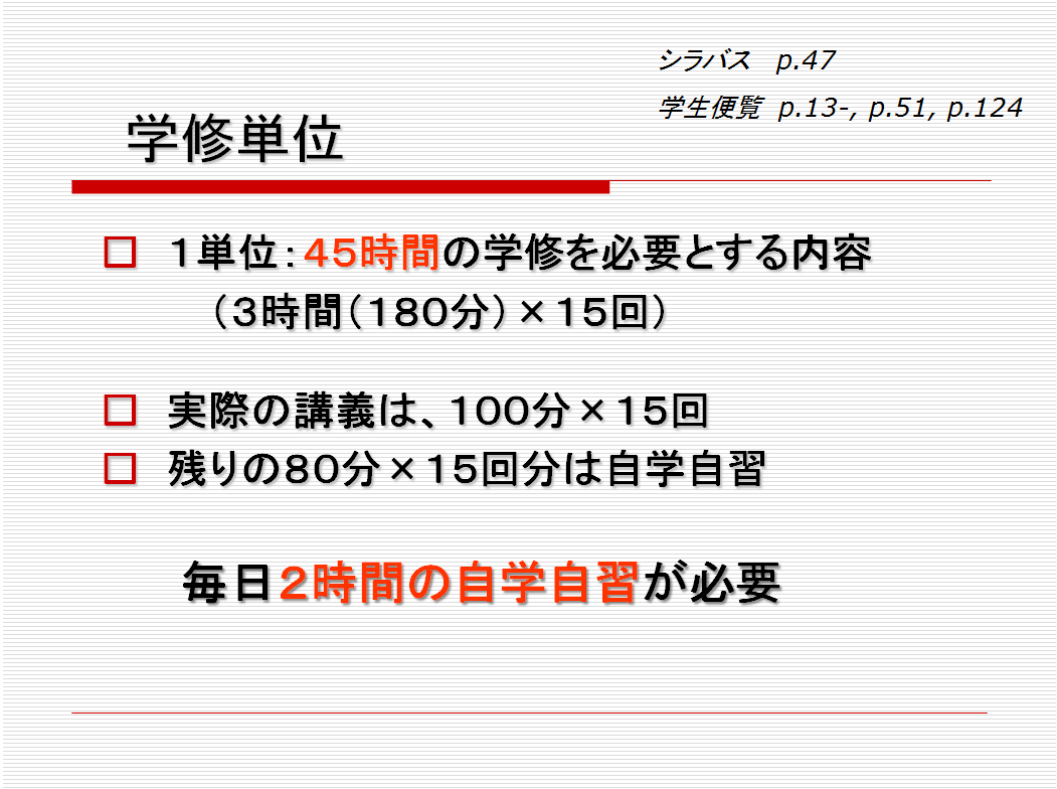
出典：教務係資料

資料７－１－①－３　新年度オリエンテーションの内容



出典：教務係資料

資料７－１－①－４　新年度オリエンテーションの内容



出典：教務係資料

資料７－１－①－５　オリエンテーション欠席者への実施

Subject: ４／５欠席者へのオリエンテーションの実施について

佐賀先生（情報モラル）
森﨑先生（教務主事室）
小川先生（学生主事室）
張間先生（キャリア教育支援室）

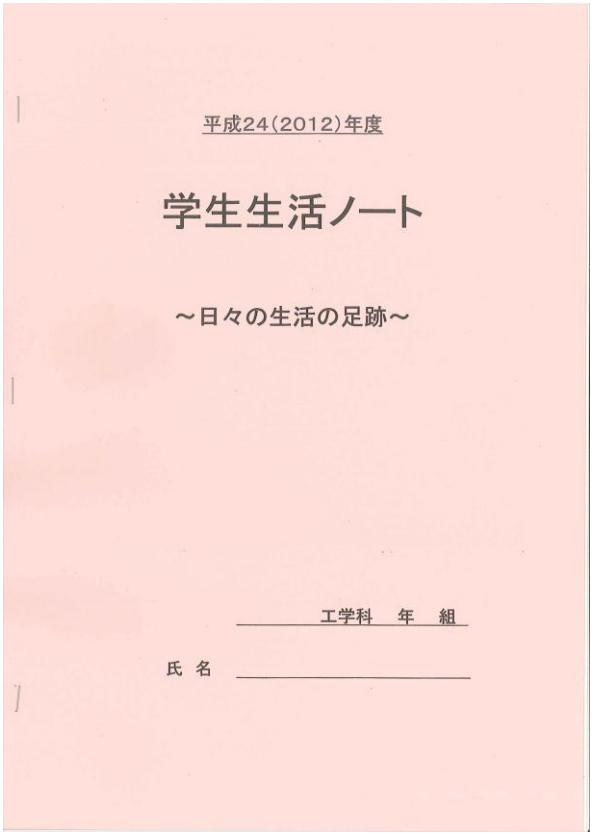
教務係　大谷です。
４／５欠席者へのオリエンテーションについて、下記日時で行いますので、よろしくお願いいたします。
受講者は３名（内、情報モラルのみ１名）です。

日　時　平成２４年４月１１日（水）　１６：１０～
場　所　教室管理棟３階演習室

****
徳山工業高等専門学校　学生課教務係
745-8585　周南市学園台
TEL : 0834-29-6232
FAX : 0834-29-6161
E-mail : kyoumu@tokuyama.ac.jp
****

出典：教務係資料

資料７－１－①－６　学生生活ノート

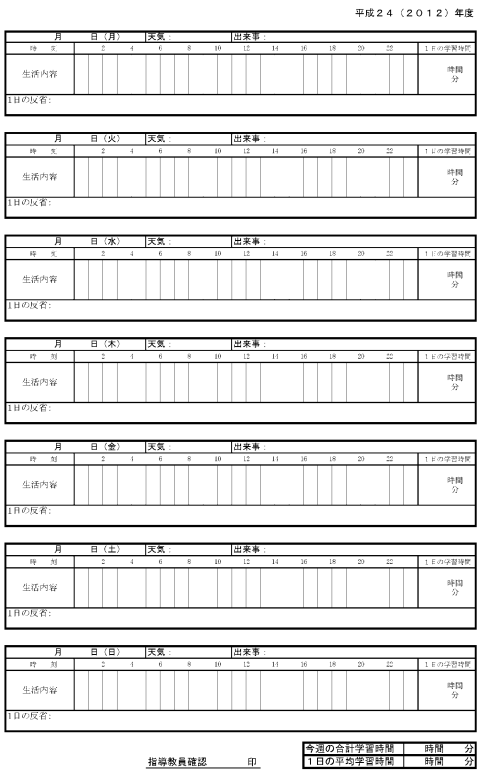

平成24(2012)年度

学生生活ノート

～日々の生活の足跡～

工学科　年　組

氏 名


平成２４（２０１２）年度

月　日（月）　天気：　出来事：　1日の学習時間

時　刻　2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22　時間 分

生活内容

1日の反省：

月　日（火）　天気：　出来事：　1日の学習時間

時　刻　2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22　時間 分

生活内容

1日の反省：

月　日（水）　天気：　出来事：　1日の学習時間

時　刻　2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22　時間 分

生活内容

1日の反省：

月　日（木）　天気：　出来事：　1日の学習時間

時　刻　2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22　時間 分

生活内容

1日の反省：

月　日（金）　天気：　出来事：　1日の学習時間

時　刻　2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22　時間 分

生活内容

1日の反省：

月　日（土）　天気：　出来事：　1日の学習時間

時　刻　2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22　時間 分

生活内容

1日の反省：

月　日（日）　天気：　出来事：　1日の学習時間

時　刻　2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22　時間 分

生活内容

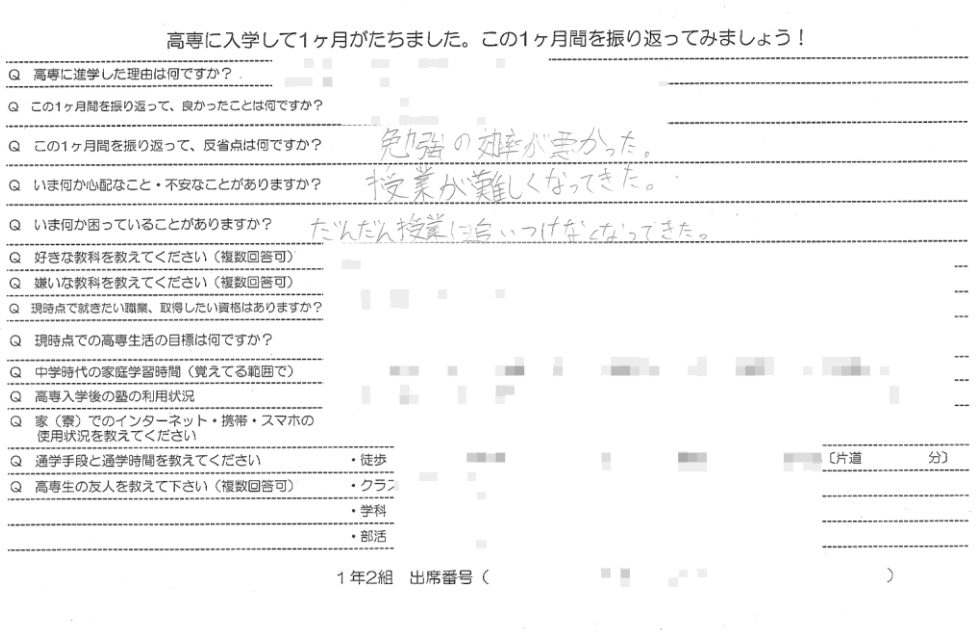
1日の反省：

指導教員確認　印

今週の合計学習時間	時間　分
1日の平均学習時間	時間　分

出典：教務係資料

資料７－１－①－７　担任によるアンケート


高専に入学して1ヶ月がたちました。この1ヶ月間を振り返ってみましょう！

Q 高専に進学した理由は何ですか？

Q この1ヶ月間を振り返って、良かったことは何ですか？

Q この1ヶ月間を振り返って、反省点は何ですか？　勉強の効率が悪かった。

Q いま何か心配なこと・不安なことがありますか？　授業が難しくなってきた。

Q いま何か困っていることがありますか？　だんだん授業に追いつけなくなってきた。

Q 好きな教科を教えてください（複数回答可）

Q 嫌いな教科を教えてください（複数回答可）

Q 現時点で就きたい職業、取得したい資格はありますか？

Q 現時点での高専生活の目標は何ですか？

Q 中学時代の家庭学習時間（覚えてる範囲で）

Q 高専入学後の塾の利用状況

Q 家（寮）でのインターネット・携帯・スマホの使用状況を教えてください

Q 通学手段と通学時間を教えてください　・徒歩　（片道　分）

Q 高専生の友人を教えて下さい（複数回答可）　・クラス

・学科

・部活

1年2組　出席番号（　）

※学生氏名等にはモザイクがかけてある。

出典：クラス担任資料

資料７－１－①－８　クラスホームルーム計画表

※ハイライトの部分は該当箇所を表す。

平成24年度　前期HR実施計画表

学年		1　年			2　年			3　年			備　考
クラス		1 組	2 組	3 組	ＭＥ	ＩＥ	ＣＡ	ＭＥ	ＩＥ	ＣＡ	
担任		前川直也	柏倉知秀	米田郁生	伊藤尚	百田正広	海田辰将	石田浩一	池田信彦	目山直樹	
4月	5	始業（合同HR・学科HR・クラスHR）									
	12	クラス役員選出	学級役員選出	学級役員選出	役員選挙	学級役員選出	1分間スピーチ	役員選出	クラス役員決め等	進路調査 3年生の過ごし方	
	19	担任講話	クラスマッチ準備	クラス企画	自己申告表の記入	教員講話（高山）	クラスマッチ準備	担任の話 個人面談	担任の話／HR計画策定	技術者マインド①	
	26	クラスマッチ準備	担任講話	クラスマッチ準備	自己紹介	合宿研修企画準備	学習時間の管理・学生生活ノート	担任の話 個人面談	スポーツ（野球場・体育館）	技術者マインド②	
5月	10	担任講話	担任講話	クラス企画	高専生活の過ごし方（専攻科生のアドバイス）（メディアホール）			席替えと清掃	３年生の心構え	特別講話（防災）	
	17	キャリア教育支援室紹介（メディアホール）			クラス面談Ⅰ	担任の話	専門学習① 大震災	クラス企画	クラス企画	技術者マインド③	
	24	15:10～心電図検査（保健室）			クラス面談Ⅱ	将来の夢	専門学習②	社会の求める人材（メディアホール）			
	31	担任講話	担任講話	勉強会	クラス面談Ⅲ	クラス企画	工場見学予備学習	勉強会	勉強会	レクリエーション①	
6月	5	（木曜授業）前期中間試験に向けての諸注意									
	7	前期中間試験　（　６／７～１２　）									
	14	特別時間割　（ＨＲは実施しません）									
	21	高専生活の過ごし方（５年生のアドバイス）（メディアホール）			レクリエーション	スポーツ（グランド・体育館）	工場見学ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	キャリアプランの作成Ⅰ			
	28	席替え	席替え	席替え	スピーチ	クラス企画	工場見学振替授業	個人面談	将来に向けて	技術者マインド④	
7月	5	デートＤＶ講演会（学生相談室企画）（メディアホール）			担任指導	担任の話	工場見学 HP作り（写真）	席替えと清掃	クラス企画	特別講話（講師未定）	
	12	後期クラスマッチ準備	クラスマッチ 高専祭準備	クラスマッチ 高専祭準備	前期末試験対策	期末試験勉強会	期末試験と夏休みの過ごし方	キャリアプランの作成Ⅱ			
	19	前期末試験に向けての諸注意									
	26	前期末試験　（　７／２６～８/２　）									
8月	2	前期末試験　（　７／２６～８/２　）									
	9	特別時間割　（終業合同ＨＲ及びクラスＨＲを実施）									

出典：教務係資料

資料７－１－①－９　専攻科ホームルームスケジュール（抜粋）

専攻科オリエンテーション　2012年4月5日(木)　1

専攻科 HR スケジュール

専攻科 HR　毎週木曜日　午後15時10分　テクノ多目的室

4月05日(木)　午後13時30分～「修了生講話」[redacted]

4月12日(木)　(集合写真撮影)　オーストラリア ELICOS 報告会、諸連絡事項

4月19日(木)　[redacted] 海外インターンシップ報告

午後16時15分～　交通安全講話

4月26日(木)　「学位授与制度」説明(天内)、学位申請手続きの説明(鈴木先生)

※学生氏名等にはモザイクがかけてある。

出典：専攻科資料

資料７－１－①－１０　学生相談室の紹介

２．学生相談室

私たちは毎日の生活の中で，いろいろなことについて悩み，不安を持って暮らしています。勉学のこと，就職・進学のこと，友人・家族との人間関係，異性との問題，生きる目的など…。自分で解決することも大切ですが，誰かに話をするだけで解決の糸口がみつかることも多いものです。あるいは一つのアドバイスが氷を溶かすきっかけになることもあります。悩みごとや困ったことがあるときは，気軽に学生相談室を訪ねてみてください。

学生相談室は，１階の「保健室」の中にあります。担当の先生方が皆さんの気持ちを親身になって聞き，相談内容については秘密を厳守しています。

相談室開設時間は次のとおりです。

毎週　　月・火・水・木　　昼休み及び放課後
また，毎週金曜日の午後には，専門のカウンセラーが相談に応じています。

出典：学生便覧

資料７－１－①－１１　学生相談室パンフレット（抜粋）

学生相談室　利用案内



学生相談室の場所：管理棟 1F 保健室内

保健室内にある学生相談室は，相談の核となる部分で，実際の相談は相談室の他，相談室員の研究室を使うこともあります．

相談する時間も，部活動や用事等で都合がつかない時は，事前に希望日時を連絡しておけば下記時間外でも利用可能です．廊下で出会った時やメール・直通電話でも一言声をかけて下さい．（「会って話すのは…」という人は，メールで相談する方法もあります．）

相談内容は，勉強，進路，人間関係，家庭，ハラスメント，恋愛，性，ダイエット，格闘技等なんでも構いません．

☆　相談室スタッフ　☆

所属	相談員	時間・場所
保 健 室	瀬川 圭子	随時　・保健室
一般科目	長戸 喜隆	昼休み　・教員室
機械電気	三浦 靖一郎	昼休み　・教員室
情報電子	小林 明伸	昼休み　・教員室
土木建築	桑嶋 啓治	昼休み　・教員室
ｶｳﾝｾﾗｰ	星山 春香	毎週金曜・相談室 14:00～18:00
ｶｳﾝｾﾗｰ	末次 絵里子	毎週月曜・相談室 13:00～17:00
精神科医	吹田 恭子	火曜(月 1)・相談室 14:00～17:00

出典：学生相談室資料

資料７－１－①－１２　学生相談室による新入生アンケート（抜粋）

平成２４年度新入生対象　学生相談室アンケート

このアンケートはあなた方に入学時の状況などをお聞きするものです。今後あなた方が心身共に快適な学生生活を送ることができるようサポートする際の参考資料にするものです。**答えたことがあなた方の成績や評価に影響を与えることは決してありません**から，ありのままを答えて下さい。あなた方の答えやプライバシーは，学生相談室が責任を持ってその秘密を守ります。

なお，このアンケートに答えていて私たち学生相談員，看護師さん，カウンセラーと話をしてみたくなった人はどうぞ遠慮なく学生相談室に来て下さい。学生相談室は，保健室の奥にあります。面接の予約者がないときには，いつでもすぐに相談をすることができますし，日時を予約していただいて後日改めて会うこともできます。お気軽にどうぞ。

また，私たち学生相談員の教官室や看護師さんのいる保健室に直接相談をしに来ていただいても，もちろんかまいません。

徳山工業高等専門学校学生相談室
（管理棟１階保健室奥）

次の各質問に対して，答えの中から当てはまるものを選んで**回答用紙**の記号を○で囲んで下さい。その他は，それぞれの指示に従って回答して下さい。

（中略）

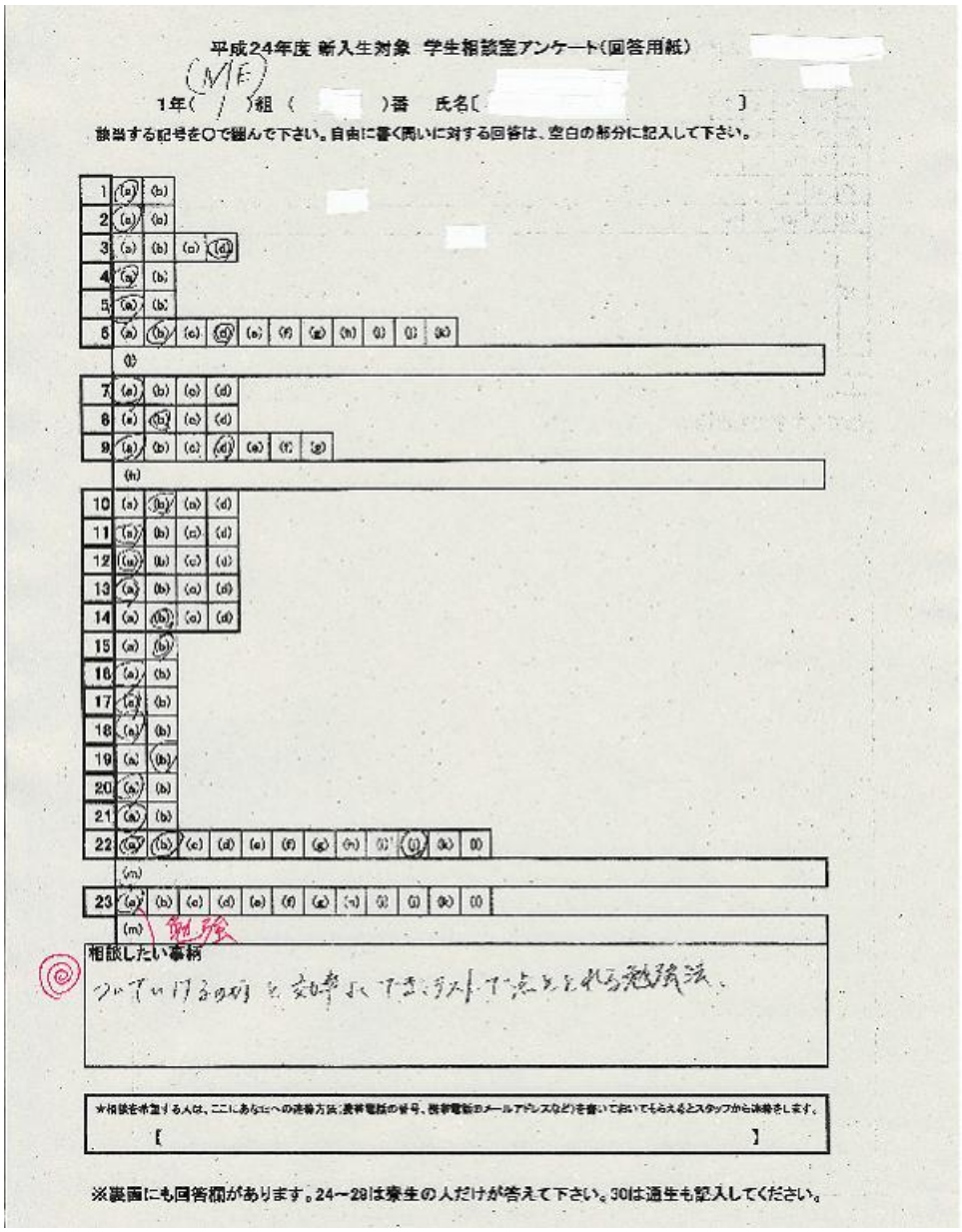
２２．学生相談室で相談できるとしたら，あなたは次のどのような内容について相談してみたいですか。該当するものすべての記号**（回答用紙内）**を○で囲んで下さい。

(a) 勉強のこと　(b) 今まで知らなかった人たちとの出会いに関すること　(c) 家庭のこと
(d) 自分の性格のこと　(e) 心の健康に関すること　(f) 体の健康に関すること　(g) 性に関すること
(h) 友人関係のこと　(i) 恋愛に関すること　(j) 徳山高専が自分に合っているかどうかに関すること
(k) 進学のこと　(l) 就職のこと　(m) その他（**回答用紙**の記入欄に具体的に書いて下さい）

２３．前問で挙げてある項目の中で，「今すぐ」あなたが相談をしたい事柄があれば，その記号をすべて○で囲み，具対的に詳しくその相談内容を**回答用紙**の記入欄に自由に書いてみて下さい。

出典：学生相談室資料

資料７－１－①－１３　学生相談室による新入生アンケート結果



平成24年度 新入生対象 学生相談室アンケート(回答用紙)

1年(/)組 ( )番 氏名[ ]

該当する記号を○で囲んで下さい。自由に書く問いに対する回答は、空白の部分に記入して下さい。

相談したい事柄

[ ]

※裏面にも回答欄があります。24～29は寮生の人だけが答えて下さい。30は通生も記入してください。

出典：学生相談室資料

資料７－１－①－１４　学生相談室による新入生アンケート結果

※ハイライト部分は学習に関する相談内容を示す。

氏名	性別	学科	学年	クラス	相談内容	備考
	男	ＭＥ	1	2組	徳山高専に入学できて満足していない、楽しみでない、	通学生
	男	ＭＥ	1	1組	勉強の意欲があまりない、	通学生
	男	ＭＥ	1	1組	数早く返せられるかどうか、	寮生
	男	ＭＥ	1	1組	ついて行けるか、放課よくテストで点を取れる勉強法	通学生
	男	ＭＥ	1	2組	特にない、	寮生
	男	ＭＥ	1	2組	勉強の意欲があまりない、	通学生
	女	ＭＥ	1	2組	自分の学科になじめるか、寮生活がとても不安である、	寮生
	男	ＭＥ	1	2組	第一志望校でない、勉強の意欲が全くない、	通学生
	男	ＭＥ	1	2組	勉強の意欲があまりない、	通学生
	男	ＭＥ	1	2組	寮暮から離れて少し寂しい、	寮生
	男	ＭＥ	1	2組	部活のこと、寮生活が少し不安、	寮生
	男	ＭＥ	1	2組	勉強の意欲があまりない、	通学生
	男	ＩＥ	1	2組	第一志望校でない、寮暮から離れて少し寂しい、	寮生
	男	ＩＥ	1	1組	第一志望校でない、	通学生
	男	ＩＥ	1	1組	寮暮から離れて少し寂しい、寮生活が少し不安である、	寮生
	女	ＩＥ	1	2組	徳山高専に入学できてあまり満足していない、	寮生
	男	ＩＥ	1	2組	徳山高専の生活はあまり楽しみでない、	通学生
	男	ＩＥ	1	1組	寮生活は少し不安、一人暮らしは少し寂しい、	寮生
	男	ＩＥ	1	1組	寮生活は少し不安、寮での先輩との関係について、	寮生
	女	ＩＥ	1	2組	第一志望校でない、	通学生
	男	ＩＥ	1	2組	寮生活は少し不安、一人暮らしは少し寂しい、自宅から通いたい、	寮生
	男	ＩＥ	1	2組	勉強の意欲が全くない、	通学生
	男	ＩＥ	1	2組	寮生活は少し不安、	寮生
	男	ＩＥ	1	2組	特にない、	寮生
	男	ＣＡ	1	1組	特にない、	寮生
	女	ＣＡ	1	2組	第一志望校でない、勉強の意欲があまりない、	通学生
	男	ＣＡ	1	2組	[illegible]	通学生
	男	ＣＡ	1	2組	[illegible]	寮生
	男	ＣＡ	1	2組	[illegible]	寮生
	女	ＣＡ	1	2組	[illegible]	寮生
	男	ＣＡ	1	2組	試験について行けるか心配、	通学生
	男	ＣＡ	1	2組	徳山高専の生活はあまり楽しみでない、	通学生
	男	ＣＡ	1	2組	第一志望校でない、	通学生
	男	ＣＡ	1	1組	寮生活はとても不安、	寮生
	男	ＣＡ	1	2組	第一志望校でない、	通学生
	男	ＣＡ	1	2組	勉強の意欲があまりない、	寮生
	男	ＣＡ	1	2組	寮生活は少し不安、	寮生
	男	ＣＡ	1	2組	第一志望校でない、徳山高専に入学できて全く満足していない、勉強への意欲は全くない、徳山高専の生活はあまり楽しみでない、	通学生
	女	ＣＡ	1	1組	特にない、	通学生

出典：学生相談室資料

資料７－１－①－１５　学生相談室による学習に関する相談件数

平成23年　相談件数(全員分)

	面接回数							相談室からの働きかけ	相談件数＊1	人数＊2
相談内容	学習	進路	家庭	対人	心身	その他	小計			
学生	23	18	2	34	36	92	205	21	226	73
教員	3	2	0	5	8	18	36	3	39	5
保護者	5	4	3	2	3	16	17	2	19	3
小計	31	24	5	41	47	126	258	26	284	81

平成22年　相談件数(全員分)

	面接回数							相談室からの働きかけ	相談件数＊1	人数＊2
相談内容	学習	進路	家庭	対人	心身	その他	小計			
学生	17	15	0	24	35	78	169	15	184	53
教員	2	2	0	6	5	15	30	2	32	4
保護者	4	5	2	3	8	10	32	3	35	5
小計	23	22	2	33	48	103	231	20	251	62

出典：学生相談室資料

資料７－１－①－１６　オフィスアワー一覧

徳山工業高等専門学校では学生の皆さんの相談に応えるために，オフィスアワーを設けています。日常の学習や生活面での相談事がある場合には，いつでも（オフィスアワーでなくても），遠慮なく，教員室を訪問してください。先生方が在室されていて，都合が悪くなければ皆さんの相談に応じてもらえます。

特にオフィスアワーでは，学生の皆さんが来室しやすいように，先生方が在室されていて相談に応じてもらえる時間帯を設定しています。勉強や研究の事ばかりでなく学生生活のあらゆる相談にお答えしますので，遠慮なく教員室を訪問してください。

また，オフィスアワーの時間に先生を訪問する際には特に必要ではありませんが，あらかじめ相談事項をメールしておくと，よりスムーズに問題解決ができるかもしれません。電子メールも利用してみてください。

教員名	曜日及び時間帯	場所
長戸喜隆	月～水　12:45～13:10，16:10～17:00	教員室
大橋正夫	火・水・木・金　12:30～13:15	教員室
天内和人	月～金　昼休み	教員室
国重　徹	水・木　昼休み	教員室
一色誠子	月・火・木・金　昼休み（この時間帯以外での対応については，事前に相談してください。）	教員室前コモンスペース
原田幸雄	水・金　12:30～13:10	教員室
谷本圭司	月・火・水・金　16:10～17:00	教員室前コモンスペース
小川仁志	月・火・金　16:00～17:00	教員室
柏倉知秀	月・金　昼休み	教員室
荒谷督司	月・火・金　16:00～17:00	教員室
米田郁生	木　昼休み	教員室
笠置映寛	月～金　12：30～13：00	教員室
髙橋　愛	火・水　16:10～17:00	教員室
前川直也	木　昼休み	教員室前コモンスペース
長廣恭子	月～金の昼休み及び月・火・金の放課後	教員室

教員名	曜日及び時間帯	場所
牧野俊昭	火～木　12:25～13:10	教員室
伊藤　尚	月～金　昼休み	教員室
藤田重隆	月～金　12:45～13:15	教員室
櫻本逸男	月～金　昼休み	教員室
西村太志	月　16:00～17:00	教員室
飛車来人	月～金　昼休み	教員室
池田光優	火　12:35～13:05，16:00～16:30	教員室
張間貴史	月～金　昼休み，放課後（木曜日を除く）	教員室
北村健太郎	月・火・水・金　昼休み	教員室
三浦靖一郎	火・水・金　12：30～13：00	教員室
森崎哲也	月～金　在室中いつでも可	教員室
石田浩一	月・水・金　16:10～17:00	教員室
藤本　浩	月・火・木　12:40～13:05	教員室
鈴木厚行	火・水　16:00～17:00	教員室

場所	曜日及び時間帯	場所
池田信彦	水・金　16:10～17:00	教員室
百田正広	水　昼休み，16:00～17:00	教員室
山田健仁	月・水・金　16:00～17:00	教員室
義永常宏	月・木　昼休み	教員室
奥本　幸	月～金　昼休み	教員室
重村哲至	月～金　昼休み	教員室
守川和夫	金　16:00～17:00	教員室前　IE研究室(4)
小林明伸	月～金　昼休み	教員室
髙山泰博	内地留学のためメールのみ受付(随時)	
原田徳彦	火　16:00～17:00	教員室
新田貴之	月　16:05～16:55	教員室/IE電算室
柳澤秀明	水　昼休み	教員室
杉村敦彦	水　16:00～17:00	教員室/IE実験室
古賀崇了	水　16:00～17:00	教員室/IE実験室
力　規晃	金　昼休み	教員室

場所	曜日及び時間帯	場所
工藤洋三	火 16:10～17:30	教員室
原　　隆	月・火・水・金　12:30～13:00	教員室
上　俊二	月～金　昼休み（必要に応じて時間設定可）	教員室
佐賀孝徳	月～金　昼休み（必要に応じて時間設定可）	教員室
橋本堅一	月・水　16:00～17:00	教員室
古田健一	月～金　昼休み	教員室
田村隆弘	月　16:00～17:00（但し会議を除く），月～木　昼休み	教員室
熊野　稔	月・火・水　16:05～16:55（必要に応じて時間設定可）	教員室
渡辺勝利	月・水・金　16:10～17:10	教員室
目山直樹	月・火・木・金　昼休み（必要に応じて時間設定可）	教員室
中川明子	月・火・木 昼休み，火　16:10～17:10 （必要に応じて時間設定可）	教員室
島袋　淳	月～金　昼休み	教員室
西尾幸一郎	月～金　昼休み，放課後	教員室
平栗靖浩	月～金　昼休み	教員室
海田辰将	月～金　昼休み，月～水の放課後	教員室
桑嶋啓治	月～金　昼休み	教員室

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

全学生に対して修学上のオリエンテーションを整備・実施している。学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も担任を中心に全教員により整備され，機能している。

学生相談室が，修学上の相談のある学生と直接面談をするだけでなく，該当教科担当の教員と学生の橋渡し役となることにより，相談・助言のネットワークを構築している。

以上のことから，学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されている。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

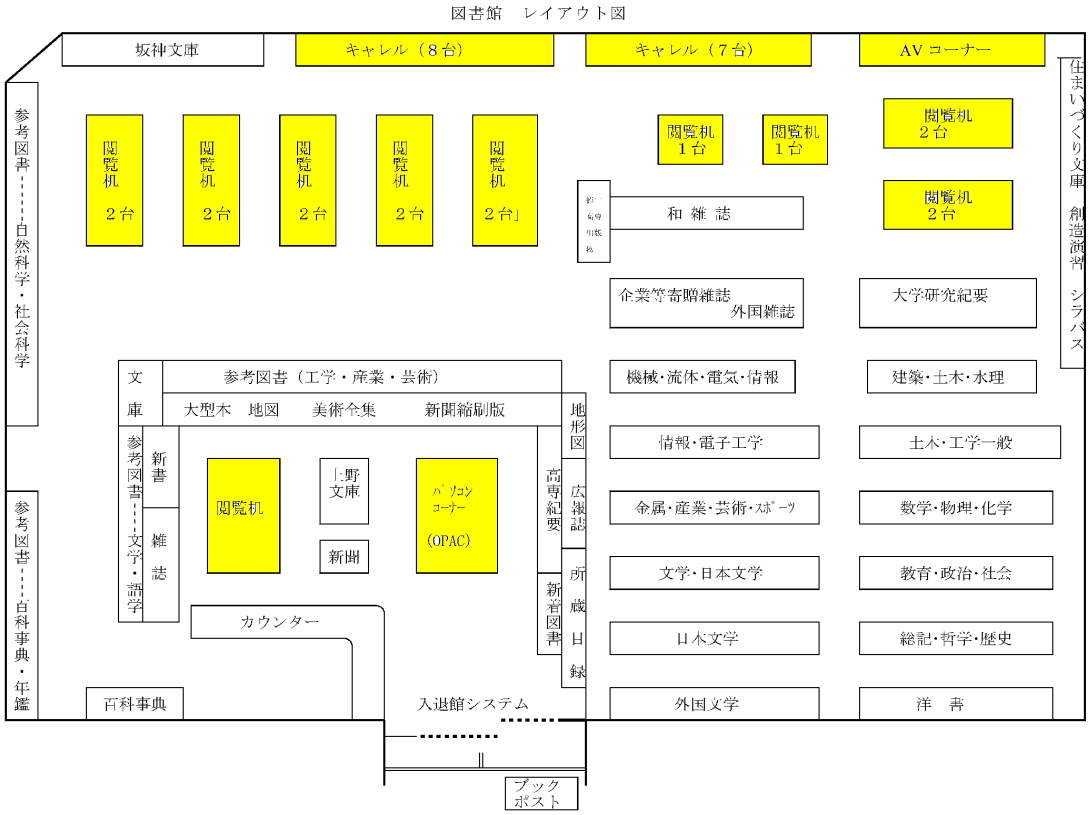
自主的学習や補習の場として図書館が整備され，効果的に利用されている（資料７－１－②－１，～３）。

その他の自主的学習や補習の場としては情報処理センターのパソコン室等が整備され，効果的に利用されている（資料７－１－②－４，５）。

さらに学生談話室が整備され，学生のコミュニケーションスペースとしてだけでなく，学習スペースとしても効果的に利用されている（資料７－１－②－６）。

資料７－１－②－１　図書館における自主的学習環境

※ハイライト部分は自主的学習のためのスペースを示す。



出典：学生便覧

資料７－１－②－２　図書館の開館時間

６．図書館の利用について

図書館を利用するには，次のようなきまりがあります。これらをよく理解して学習に活用し，また読書の楽しみを十分に味わってください。
利用についてわからないことや希望があれば，カウンターに遠慮なく申し出てください。

１．開館時間

平　　日　　９：００～１９：００
土 曜 日　　９：００～１２：００
ただし，夏季，冬季及び学年末の休業期間中は
平　日　　９：００～１７：００
土・日曜日　　休館

２．休館日

国民の祝日
年末年始
その他，校内行事及び業務上必要な日（開館カレンダーを参照してください）

出典：学生便覧

資料７－１－②－３　図書館の利用実績

図書館利用状況(平成19年～平成23年度)

項目 / 年度			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年間	入館者数	時間内	5,722	5,831	7,644	8,088	8,442
		時間外	1,378	1,556	1,614	1,380	1,747
		計	7,100	7,387	9,258	9,468	10,189
	貸出者数	計	945	1,027	1,388	1,314	1,206
	貸出冊数	計	1,996	2,014	2,572	2,522	2,185
	開館日数	年間	103	225	235	234	227
平均	入館者数(時間内)		73	33	39	40	42
	入館者数(時間外)		14	8	8	7	10
	貸出者数		9	5	6	6	5
	貸出冊数		19	9	11	11	10

(開館時間) 授業期間中　時間内:平　日　9:00~17:00
時間外:平　日　17:00~19:00
土曜日　9:00~12:00
休業期間中　時間内:平　日　9:00~17:00

※H21.7月～12月まで日曜時間外開館を中止(試行期間)
H22.1月から日曜時間外開館を中止し，土曜は12時で閉館。

出典：図書館資料

資料７－１－②－４　共通教室の設備

※ハイライト部分は該当箇所を示す。

(c) 主な共通教室一覧

名称	面積㎡	月	火	水	木	金
第1パソコン室	128	4／3	2／2	2／3	4／1	2／3
第2パソコン室	112	4／2	4／2	4／3	4／2	2／4
講義室1(専攻科)	35	／2	2／2	2／2	／	2／4
講義室2(専攻科)	35	2／	2／	2／2	2／	4／4
講義室3(専攻科)	35	／1	2／	2／	／2	4／4
ICT教室	84	／	1／3	1／2	1／2	2／2
メディアホール	181	／	／	2／	4／	／
物理実験室	84	4／	／2	2／	2／2	／
科学・生命科学実験室	84	2／2	2／2	4／	／	／
留学生ゼミ室(講義室)	14	／2	2／	2／		／4
多目的研修室	97	3／	／2	3／	2／3	／
CAD演習室	136	2／3	2／3	4／2	2／2	4／3
設計製作室	135	4／2	4／2	4／2	4／2	2／2
開発型電算室	122	3／3	3／3	4／2	4／2	2／2
第2スタジオ型演習室W	68	1／3	3／3	／2	2／2	／2
第1スタジオ型演習室E	58	2／	4／2	／2	4／2	2／2
演習室	69	2／	2／2	／	4／3	4／
第2スタジオ型演習室E	68	4／	2／	4／2	2／	4／
第1スタジオ型演習室CW	87	2／2	4／	4／	／	2／
電子工学実験室	136	／	1／3	3／3	2／2	4／4
第1スタジオ型演習室W	58	／			4／	4／

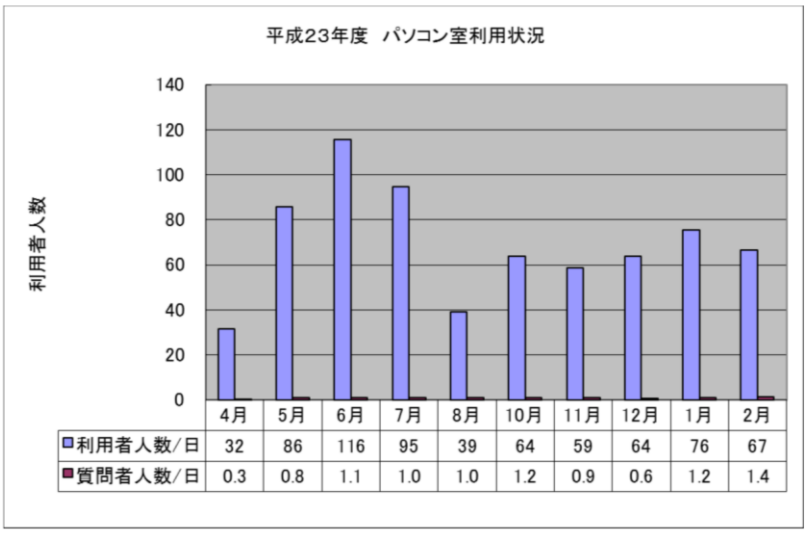
※（稼働状況　月曜日～金曜日のコマ数、午前／午後）

(d) 共通教室の主な設備

第1パソコン室	パソコン50台、プリンター2台、プロジェクター2台、音響設備、電動スクリーン2台、電動ブラインド
第2パソコン室	パソコン50台、プリンター2台、プロジェクター2台、音響設備、電動スクリーン2台、電動ブラインド
CAD演習室	パソコン51台、プロジェクター2台、音響設備、電動スクリーン2台
開発型電算室	パソコン50台、プロジェクター2台、音響設備、電動スクリーン、レーザープリンター2台

出典：総務課資料

資料７－１－②－５　第１・第２パソコン室の利用状況



出典：情報処理センター資料

資料７－１－②－６　学生談話室の利用状況





出典：学生係資料

（分析結果とその根拠理由）

各種自主的学習環境および厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

以上のことから，自主的学習環境および厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学習支援に関する学生のニーズは，学生の自主的学習を進める上での相談・助言体制と同様に，クラス担任や学生相談室による面談やアンケートによって汲み上げている（資料７－１－①－６，７，１４）。

汲み上げたニーズは担任間で共有されるだけでなく，全クラス担任学生指導連絡会や主事・学年主任・担任代表連絡会において報告され，学校全体で把握できる体制をとっている（資料７－１－③－１，２）。

資格試験や検定試験の実施は学生に周知され，補習教材の提供や補習授業が行われ，合格率の向上に寄与している（資料７－１－③－３～１７）。

合格者へのインセンティブとして各種資格取得による単位修得の認定制度を導入している（資料７－１－③－１８～２０）。

毎年実施する海外語学研修では，参加者に対して経済的な支援を行っている（資料７－１－③－２１～２３）。

資料７－１－③－１　全クラス担任学生指導連絡会

Ｈ２３年度　全クラス担任学生指導連絡会メモ

日　時　　平成２３年１１月２９日（火）　１６：１０～１７：３５
場　所　　教室・管理棟３Ｆ演習室
出席者　　教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，学生相談室長，１年～５年学級担任
　　教務主事補（柏倉，森﨑，杉村，中川），学生課長
欠席者　　１－３担任（米田），CA５担任（島袋）
陪　席　　学生課長補佐，学生（寮務）係長，教務係長

出典：学生課資料

資料７－１－③－２　主事・学年主任・担任代表連絡会

H24 年度　第１回主事・学年主任・担任代表連絡会　議事録【取扱注意】

日時　　平成２４年　5月１日（火）１６：１０－１８：００

出席者　田村教務主事、佐賀学生主事、国重寮務主事、柏倉１年学年主任、海田２年学年主任、
　　目山３年学年主任、藤田４年学年主任、橋本５年学年主任
　　（井上学校長）　　（　　）は欠席者

内容

出典：学生課資料

資料７－１－③－３　実用英検の案内および担当者

第１回実用英検のお知らせ

日時：６月１０日（日）　　［２次試験は７月８日（日）］
　　準１・準２級　　午前９時３０分集合
　　１・２・３級　　午後１時集合
　　一次試験は前期中間試験期間中に実施されます。申込みは計画的に！

受験料：１級　￥7500　準１級　￥6000　２級　￥3900
　　準２級　￥3400　３級　￥2300

締め切り：５月１５日（火）（一次試験免除者の締め切りも同じです）

申し込み先：高橋研究室（不在の場合は他の英語科の先生の研究室）

出典：英語科資料

資料７－１－③－４　実用英検の受験者数・合格者数

平成23年度第1回実用英検受験状況

	3級	準2級	2級	準1級
受験者数	0	2	0	0
合格者数	0	2	0	0

平成23年度第2回実用英検受験状況

	3級	準2級	2級	準1級
受験者数	2	12	5	0
合格者数	2	3	2	0

平成23年度第3回実用英検受験状況

	3級	準2級	2級	準1級
受験者数	1	10	17	2
合格者数	1	6	3	0

出典：英語科資料

資料７－１－③－５　工業英検の案内および担当者



出典：英語科資料

資料７－１－③－６　工業英検の対策問題（抜粋）

工業英検直前チェック

A. 次の単語の意味を答えなさい。

1）electron 「電子」electron が移動すること=電流が流れる (Electric current flows.)

cf. 「中性子」neutron 「陽子」proton　　2）quantity「量」←→（ quality ）「質」

3）nucleus reactor「原子炉」　（ power ）plant「発電所」 power failure「停電」

4）$l=2\ \pi\ r$　r は（ radius ）のことで、「半径」

5）carbon dioxide 「二酸化炭素」　　6）ammeter 「電流計」 *cf.* voltmeter

7）A times B equals C 「A（ × ）B=C」 8）be defined as ～ 「～と（ 定義 ）される」

9）物質の三態 (three states) を英語で 固体（ solid ）・液体（ liquid ）・気体 (gas)

固体 —liquified→ 液体 —evaporated→ 気体
固体 ←solidified— 液体 ←condensed— 気体

10）「一方向」と「反対方向」
one way ↔ the (opposite) way

11）insecticide 「殺虫剤」 herbicide 「除草剤」　　12) analysis「分析」と analyze「分析する」
「昆虫」+「殺す」　「植物」+「殺す」

その他、時事的な語彙にも注意〔earthquake, metabolic syndrome, disbled citizens「障害者」など〕

出典：英語科資料

資料７－１－③－７　工業英検の受験者数・合格者数

平成23年度工業英検合格状況

第87回工業英検　2011年5月29日実施				
	受験者数	合格者数	合格率	不合格者数
4級	11	11	100%	0
3級	23	3	13%	20
2級	1	0	0%	1
第89回工業英検工業英検2011年11月13日実施				
	受験者数	合格者数	合格率	不合格者数
4級	43	31	72%	12
3級	28	7	25%	21
2級	0	0	0%	0

出典：英語科資料

資料７－１－③－８　TOEIC IP 試験の案内および担当者



出典：英語科資料

資料７－１－③－９　TOEIC IP 試験の受験者数

平成23年度　TOEIC IPテスト受験者数一覧

平成23年5月15日	97名	
7月24日	61名	
9月23日	70名	
12月22日	310名	※4年生以上全員受験の日
平成24年2月5日	70名	

出典：英語科資料

資料７－１－③－１０　日本語検定の案内および担当者



平成24年度 第1回
日本語検定

本年度、第1回目の「日本語検定試験」が下記の要領で実施されます。【準会場受験】

日　時：6月15日（金）16時30分～
※ 試験時間は、60分
※ 専攻科生は、17時15分～

場　所：メディアホール

受検級：2級（上級II 大学生・社会人）
3級（中級I 高校生・大学生・社会人）

受検料：2級 4，700円，3級 3，200円
※団体受験割引料金

認定の基準：日本語検定リーフレット参照

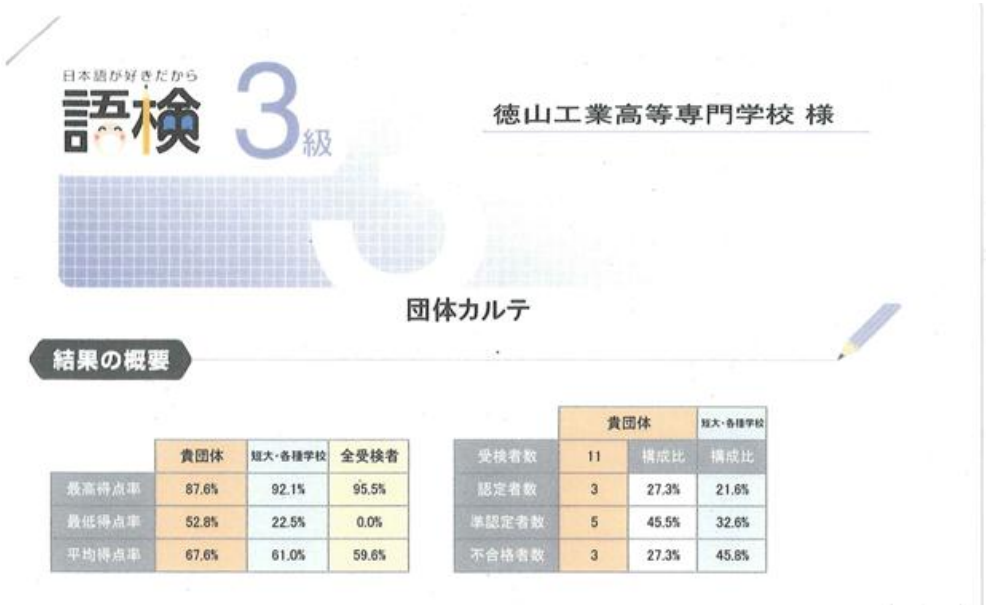
申込み締め切り：5月18日（金）13時
※受検料を添えて、申し込んでください

申込み先：一色教員室（管理棟2階）

※ 6月16日（土）の一般会場受験の申込みも受付けます
※ 合格者は、「特別学修による単位」が認定されます
（学生便覧p130～p134参照 / 別途申請必要）
※ 2級合格者は、受検料の補助があります（別途申請必要）
絶好のチャンスです。是非、チャレンジしてください!

出典：国語科資料

資料７－１－③－１１　日本語検定の受験者数・合格者数



日本語が好きだから 語検 3級

徳山工業高等専門学校 様

団体カルテ

結果の概要

	貴団体	短大・各種学校	全受検者
最高得点率	87.6%	92.1%	95.5%
最低得点率	52.8%	22.5%	0.0%
平均得点率	67.6%	61.0%	59.6%

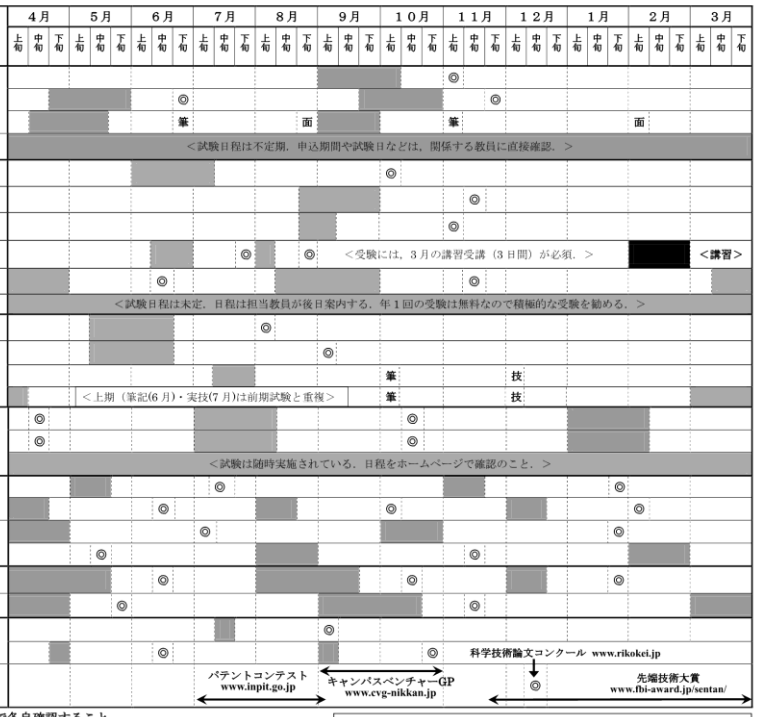
	貴団体		短大・各種学校
受検者数	11	構成比	構成比
認定者数	3	27.3%	21.6%
準認定者数	5	45.5%	32.6%
不合格者数	3	27.3%	45.8%

出典：国語科資料

資料７－１－③－１２　機械電気工学科の資格カレンダー

2012 年度(平成 24 年度)　機械電気工学科　国家試験・資格試験・検定試験・コンテスト等カレンダー

	資格・検定試験名	受験地	受験推奨学年	問合せ先
基礎	ラジオ音響技能検定（2～4 級）	※ 本校	1 後	実務技能検定協会 www.kentei.or.jp
	デジタル技術検定（2～4 級）	※ 本校	1 後	（実務マナー技能検定 1 級のみ東京にて面接試験）
	ビジネス実務マナー技能検定	※ 本校	3 後	
	実用数学技能検定（1～3 級）	※ 本校	1	日本数学検定協会 www.suken.net
機械	技術士補（機械部門）	広島・福岡	4	日本技術士会 www.engineer.or.jp
	機械設計技術者（3 級）	広島・福岡	4	(社)日本機械設計工業会 www.kogyokai.com
	高圧ガス製造保安責任者（乙種）	広島・福岡	3	高圧ガス保安協会 www.khk.or.jp
	ボイラー技士（2 級）	周南・山口	2 後	(財)安全衛生技術試験協会 www.exam.or.jp
	CAD 利用技術者 2D/3D（2 級）	光・宇部	2 後	(社)コンピュータソフトウェア協会 www.csaj.jp/cad
	SolidWorks 認定資格者	※ 本校	2 後	www.solidworks.co.jp
電力	エネルギー管理士	広島・福岡	4	(財)省エネルギーセンター www.eccj.or.jp
	第 3 種電気主任技術者	広島・福岡	2	電気技術者試験センター www.shiken.or.jp
	第 1 種電気工事士	広島・福岡	3	
	第 2 種電気工事士	徳山大学他	2	
情報	応用情報技術者試験（AP）	山口・広島	3 後	日本情報処理開発協会 情報処理技術者試験センター www.jitec.ipa.go.jp
	基本情報技術者試験（FE）	山口・広島	3 前	
	IT パスポート試験（IP）	山口・防府	2 前	
通信	第 1 級陸上無線技術士	広島	3 後	(財)日本無線協会 www.nichimu.or.jp
	第 1 級陸上特殊無線技術士	広島	3 前	
	電気通信主任技術者（第 1 種）	広島	4	日本データ通信協会 www.dekyo.or.jp
	電気通信工事担任者（A／D 種）	徳山大学	2 後	
語学	実用英語検定（2 級・準 2 級）	※ 本校	1	www.eiken.or.jp
	工業英語検定（3・4 級）	※ 本校	1	www.jstc.jp
その他	消防設備士	周南他	1 後	消防試験研究センター www.shoubo-shiken.or.jp
	危険物取扱者	周南他	1 後	
	コンクール・コンテスト	※ 本校	全	各種団体



・正確な「申込み期間」「試験日時」等は，各試験機関のホームページ等で各自確認すること．
・受験地が「※印」のものは，受験者人数により，受験地及び締切日が異なる場合もあるので注意すること．
・資格試験の内容については，試験主催団体 HP や図書館などの問題集等を参照すること．
・受験推奨学年は，その資格等の受験，または，勉強をはじめる学年の目安を示す．

：申込み期間　◎：試験日　筆：筆記　面：面接　技：実技

3 年生までに基礎の資格検定にできるだけ合格しておくことを推奨する．
3 年生後期からは，定期試験・就職・大学進学に有利な国家資格の受験を推奨する．
特に，**国が合格者の能力を保証**する国家資格は，社会的にも価値が高く，取得を推奨する．

出典：機械電気工学科資料

資料７－１－③－１３　機械電気工学科の実績

3）本科学生が取得可能な外部資格の周知および受験対策

学生の自主学習能力の向上や実力養成，そして，社会のニーズにあった能力を持った学生を育成するため，昨年度に引き続き資格カレンダーを用いて学生へ資格取得を推奨した．今年度機械電気工学科に所属する学生が取得した資格検定の合格者延べ人数は，2 級ボイラー技士(47 名)，乙種危険物取扱者（52 名），CAD 利用技術者検定(7 名)，機械設計技術者(3 名)，工業英検(53 名)の他，ラジオ音響技能検定(1 名)，ディジタル技術検定(27 名)，工事担任者(1 名)，電気工事士(9 名)，Solid Works CAD 検定(18 名)であった．なかでも，工業英検 3 級においては，学生が極めて優秀な成績を納め，文部科学大臣賞を受賞する成果を挙げた．文部科学大臣賞は，昨年度のディジタル技術検定 2 級制御部門に続き 2 年連続となった．今年度は，在籍する 1 年生から 4 年生の学生において，1 人当たり 1 個の専門系資格を取得している計算になり，昨年度より 0.2 個増加した．昨年度に課題にしていた学生が自発的に受験しやすい環境の整備は学内事情の関係もあってあまり進んでいないため，これについては来年度も課題としたい．

出典：機械電気工学科資料

資料７－１－③－１４　情報電子工学科の資格試験のための補講

2010.7.9

学生諸君へ

情報電子工学科

2010 夏 情報処理技術者試験受験対策講座の案内

以下の要領で、情報処理技術者試験の受験対策講座を開催します。奮ってご参加ください。

事前勉強　　各自、参考書を購入し事前に勉強しておくこと。
（3、4年生は、IE3 コンピュータシステム概論の教科書でよい）

日程　　下表の通り
場所　　IE 実験室（専門科目棟4階、変更の可能性あり）
参加方法　　下の申込書を８月９日（月）までに、IE電算室（山本）に提出すること。

	9月13日（月）	9月14日（火）	9月15日（水）
9:20 – 10:40	コンピュータ科学基礎 担当：力	コンピュータシステム 担当：高山	ネットワーク技術 担当：重村
10:50 – 12:10	データベース技術 担当：義永	システムの開発と運用 担当：柳澤	情報化と経営 担当：奥本
13:10 - 15:00	自由参加勉強会 担当：未定	自由参加勉強会 担当：未定	自由参加勉強会 担当：未定

情報処理技術者試験受験対策講座　受講申込書

学　年　：　＿＿　　氏　名　：　＿＿＿＿＿＿＿＿

受講希望　　（希望のコマに、○印を付けてください）
資料だけ希望（希望のコマに「資料」と書き込んでください。
資料は、該当講座終了後、IE電算室に取りに来てください。）

	9 月 13 日（月）	9 月 14 日（火）	9 月 15 日（水）
9:20 – 10:40			
10:50 – 12:10			

提出期限：8月9日（月）　提出先：IE電算室（山本）

出典：情報電子工学科資料

資料７－１－③－１５　情報電子工学科の資格試験の実績

		1年	2年	3年	4年	5年	合計
平成5年度	春			2	3	5	10
	秋			4	1	1	6
平成6年度	春			1	3	1	5
	秋		1	1	4		6
平成7年度	春					5	5
	秋	1	1	2	2	1	7
平成8年度	春			3	1	5	9
	秋			1	4	1	6
平成9年度	春			1	2	2	5
	秋			1	2	5	8
平成10年度	春		1	1	2	4	8
	秋			2	3	3	8
平成11年度	春		1	1	6	5	13
	秋		1	6	7	3	17
平成12年度	春		1		3	2	6
	秋		1	1	1		3
平成13年度	春			6	1	1	8
	秋	1		2	2		5
平成14年度	春			2	7	3	12
	秋		1	1	3		5
平成15年度	春		3	6	4	2	15
	秋		2	6	5	0	13
平成16年度	春		1	4	2	2	9
	秋		1	3	3	2	9
平成17年度	春				5	1	6
	秋	1	2	6	2	5	16
平成18年度	春			1	3	1	5
	秋	1	1	5	4	1	12
平成19年度	春			3	3	2	8
	秋		1	9	6	2	18
平成20年度	春			3	2	3	8
	秋		3	3	3	6	15
平成21年度	春				1	3	4
	秋		1	6	8	1	16
平成22年度	春		1	2	5	1	9
	秋	1		6	3	4	14
平成23年度	春			1	4	1	6
	秋		2	5	4	2	13
平成24年度	春		2	3	6	6	17
	秋						0

出典：情報電子工学科資料

資料７－１－③－１６　土木建築工学科の建築士資格への対応

工学セミナー(建築士コース)(Seminar in Engineering(Qualified Architect Course))					
本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
土木建築	必修	4 年	1	演習	西尾幸一郎、中川明子、古田健一(幹事)、熊野稔
【授業の概要】	本科卒業時に受験可能な2級建築士試験問題を解き、解答解説をする。				
授業の進め方	4つの学科試験科目を各5回に分け、分野ごとに演習問題を実施し、解答のうえ解説する。質問にはその場で答えながらすすめる。製図試験については木造とRC造を各1課題実施し総合評価する。				
【授業計画】	【授業項目】	【内　容】			
1回	オリエンテーション	2級建築士試験の出題傾向、合格率などの説明			
2回	学科Ⅰ(建築計画)①				
3回	学科Ⅱ(建築法規)①				
4回	学科Ⅲ(建築構造)①				
5回	学科Ⅳ(建築施工)①				
6回	学科Ⅰ(建築計画)②				
7回	学科Ⅱ(建築法規)②				
8回	学科Ⅲ(建築構造)②				
9回	学科Ⅳ(建築施工)②				
10回	学科Ⅰ(建築計画)③				
11回	学科Ⅱ(建築法規)③				
12回	学科Ⅲ(建築構造)③				
13回	学科Ⅳ(建築施工)③				
14回	学科Ⅰ(建築計画)④				
15回	学科Ⅱ(建築法規)④				
16回	学科Ⅲ(建築構造)④				
17回	学科Ⅳ(建築施工)④				
18回	学科Ⅰ(建築計画)⑤				
19回	学科Ⅱ(建築法規)⑤				
20回	学科Ⅲ(建築構造)⑤				
21回	学科Ⅳ(建築施工)⑤				
22回	製図①-1	木造の過去問題に挑戦(エスキス)			
23回	製図①-2	平面図1			
24回	製図①-3	平面図2			
25回	製図①-4	断面詳細図			
26回	製図②-1	RC造の過去問題に挑戦(エスキス)			
27回	製図②-2	平面図1			
28回	製図②-3	平面図2			
29回	製図②-4	断面詳細図			
30回	製図評価	提出された図面の評価を行う。			
【到達目標】	2級建築士試験に合格できる実力を身につけることを目標とする。				
【徳山高専学習・教育目標】		【JABEE 基準1(1)】			
【評価法】	1)毎回の演習を80%、製図課題20%で総合評価する。				
【テキスト】	教科書:二級建築士試験標準問題集〈平成24年版〉、建築技術者試験研究会 参考書:二級建築士(受験)学科総合対策〈平成24年版〉、建築技術者試験研究会				
【関連科目】	建築関連科目全般(1～5年)				

出典：土木建築工学科資料

資料７－１－③－１７　補講実績

補講週間(補習・講座等)受講者数

講座名等	担当教員	2011/10/3		2011/10/4		2011/10/5		2011/10/6		対象
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
ACEやTOEICのための語彙力・文法力・読解力養成集中講座	国重、高橋	48		29		20		29		全学年全学科
基礎物理Ⅱ	室長、笠置						2		2	3年(全学科)希望者
コンピュータ基礎補講	森崎	26		15		20		30		ME1希望者
資格試験向け勉強会	北村、三浦	0		0		0				ME2(希望者)
プログラミング基礎補講	小田、石田	11		4		11				ME2
機械設計技術者試験3級　基礎講座	小田	2		0		0		0		ME4,5の希望者
基礎電気回路補講	山田、小林		29		21		20			IE1(成績不良者,希望者)
電気回路補講	百田			1		3		1		IE2(成績不良者,希望者)
計測工学補講	百田			0		0		0		IE3(成績不良者,希望者)
確率補講	池田			5		4		4		IE3(希望者)
統計学補講	池田			6		7		7		IE5(再試験対象者)
数値解析	百田								42	IE5全員
工学デザイン基礎I	目山、中川	0	12	0	25	0	20	0	23	CA1希望者
工学デザイン基礎Ⅱ	中川、西尾	2	0	2	0	2	0	2	0	CA2希望者
工場見学	北村、櫻本							44	44	ME2全員
集中測量実習	CA教員	41	41	41	41	41	41	41	41	CA3全員
		130	82	103	87	108	83	158	152	

出典：教務係資料

資料７－１－③－１８　外部資格単位等による単位修得の認定に関する規則（抜粋）

（特別学修の単位の取扱）

第５条　前条の規定により認定された特別学修の単位の取り扱いについては，次のとおりとする。

(1) 進級認定及び卒業認定に算入できる特別学修の単位は，30単位を上限とする。

(2) 前条第３号から第５号により認定された単位については卒業認定には算入しない。

(3) 特別学修の単位は，一般科目の選択科目単位又は専門科目の選択科目単位として取り扱う。

(4) 認定された特別学修の単位は，特例措置として，原学年に留められた者も単位として認める。

（成績評価）

第６条　認定された特別学修に係る成績の評価は，「認定」とする。

（指導要録等の記載）

第７条　第４条の規定により特別学修を認定された場合，指導要録等の授業科目欄の記載については，特別学修認定科目を記載し，成績評価欄には，「認」と記載する。

（その他）

第８条　この規則によりがたい場合は，その都度教務委員会の議を経て，校長が定める。

出典：学生便覧

資料７－１－③－１９　外部資格単位等による単位認定別表

別表　　特別学修による単位の認定について

外部修得科目名 又は取得資格名等		認定科目名 （開設外科目）	認定 単位数	一般科目	機械電気	情報電子	土木建築	備　考
実用英語技能検定（英検）	準２級	一般特別演習	1	○				上位級の単位のみ認定
	２級		2	○				
	準１級		3	○				
	１級		3	○				
工業英語能力検定（工業英検）	３級		2	○				上位級の単位のみ認定
	２級		3	○				
	１級		3	○				
ＴＯＥＩＣ	400～465		1	○				上位級の単位のみ認定
	470～595		2	○				
	600点以上		3	○				
日本漢字能力検定	２級		1	○				
	準１級		1	○				
日本語検定	３級		1	○				準２級を含む
	２級		1	○				準１級を含む
	１級		1	○				
日本語文章能力検定	準２級		1	○				
	２級		1	○				
実用数学技能検定（数検）	準２級		1	○				
	２級		1	○				
	準１級		1	○				
	１級		1	○				
学習到達度試験	総得点の８割以上		1	○				科目毎に１単位を認定
海外語学研修			2	○				
ＣＡＤ利用技術者試験	２級	専門特別演習	1		○		○	
	１級		1		○		○	
ボイラー技士	２級		1		○			
機械設計技術者	３級		1		○			
	２級		1		○			
	１級		1		○			
情報処理技術者試験								
基本情報技術者			1		○	○		
応用情報技術者			1		○	○		
ＩＴパスポート			1		○	○	○	
ＩＴストラテジスト			1		○	○		
ネットワークスペシャリスト			1			○		
データベーススペシャリスト			1			○		
システムアーキテクト			1		○	○		
情報セキュリティスペシャリスト			1			○		
ＩＴサービスマネージャ			1			○		
エンベデッドシステムスペシャリスト			1			○		
プロジェクトマネージャ			1			○		
システム監査技術者			1			○		

外部修得科目名 又は取得資格名等		認定科目名 （開設外科目）	認定 単位数	一般科目	機械電気	情報電子	土木建築	備　考
デジタル技術検定	２級	専門特別演習	1		○	○		
	１級		1		○	○		
電気通信工事担任者	３種		1		○	○		
ＡＩ	２種		1		○	○		
	１種		1		○	○		
ＤＤ	３種		1		○	○		
	２種		1		○	○		
	１種		1		○	○		
ＡＩ・ＤＤ総合種			1		○	○		
電気工事士	２種		1		○	○		
	１種		1		○	○		
電気通信主任技術者	２種		1		○	○		
	１種		1		○	○		
電気主任技術者	３種		1		○	○		
ＣＧ検定	３級		1			○		上位級の単位のみ認定
	２級		2			○		
	１級		3			○		
危険物取扱者	乙種		1		○			
	甲種		1		○			
火薬類製造保安責任者	丙種		1				○	
	乙種		1				○	
	甲種		1				○	
福祉住環境コーディネーター	３級		1				○	
	２級		1				○	
	１級		1				○	
カラーコーディネーター	２級		1			○	○	
	１級		1			○	○	
色彩能力検定	２級		1			○	○	
	１級		1			○	○	
インテリアコーディネーター			1				○	
２級土木施工管理技術検定（学科試験）			1				○	
２級建築施工管理技術検定（学科試験）			1				○	
外部修得科目 （大学等における学修等）		外部修得科目名	修得 単位数	○	○	○	○	
ボランティア活動		特別活動演習	1	○	○	○	○	注１
スポーツ又は文化に関する分野における 活動で顕著な成果をあげたもの		特別活動演習	1	○	○	○	○	注２
キャリア学修（マイレージ）		特別活動演習	1	○	○	○	○	注３

※資格取得名の各学科欄に○が付してあるもののみ，対応する学科の認定科目となる。

注１，注２の特別活動演習の認定は，各々１単位を上限とする。

注３　マイレージの上限は５単位とする。

出典：学生便覧

資料７－１－③－２０　特別学修単位認定申請者（抜粋）

1／8

特別学修単位認定管理簿

平成１６年４月～平成２４年３月

所属学科	学籍番号	学年	出席番号	氏　名	外部修得科目名又は資格取得名等	認定科目名	修得又は取得年月日	単位数	認定年度	既卒	備　考
					TOEIC(IP) 350～399	一般特別演習	平成23年9月23日	1	平成23		355
					ボイラー技士　２級	専門特別演習	平成23年10月22日	1	平成23		
					自治体学特論	外部修得科目	平成24年3月2日	2	平成23		
					英文法基礎	外部修得科目	平成24年2月23日	1	平成23		
					ＣＡＤ検定　２級	専門特別演習	平成23年12月14日	1	平成23		
					キャリア学修	特別活動演習	平成24年2月24日	1	平成23		
					TOEIC(IP) 470～599	一般特別演習	平成23年6月28日	1	平成23		535 2単位取得済み
					危険物取扱者　乙種	専門特別演習	平成23年8月24日	1	平成23		
					電気工事士　２種	専門特別演習	平成23年9月2日	1	平成23		
					危険物取扱者　乙種	専門特別演習	平成23年12月9日	1	平成23		
					TOEIC(IP) 400～469	一般特別演習	平成23年12月22日	2	平成23		400
					機械設計技術者　３級	専門特別演習	平成24年1月19日	1	平成23		
					TOEIC(IP) 350～399	一般特別演習	平成23年12月22日	1	平成23		370
					自治体学特論	外部修得科目	平成24年3月2日	2	平成23		
					情報処理技術者試験　ＩＴパスポート	専門特別演習	平成23年11月17日	1	平成23		
					TOEIC(IP) 600～729	一般特別演習	平成23年5月29日	4	平成23		620
					ボイラー技士　２級	専門特別演習	平成23年12月14日	1	平成23		
					情報処理技術者試験　応用情報技術者	専門特別演習	平成23年8月15日	1	平成23		
					情報処理技術者試験　基本情報技術者	専門特別演習	平成23年11月17日	1	平成23		
					実用英検　準１級	一般特別演習	平成24年1月25日	3	平成23		
					危険物取扱者　甲種	専門特別演習	平成23年7月11日	1	平成23		
					TOEIC(IP) 470～599	一般特別演習	平成24年1月27日	3	平成23		490
					ボイラー技士　２級	専門特別演習	平成23年9月2日	1	平成23		
					TOEIC(IP) 400～469	一般特別演習	平成23年7月24日	2	平成23		430
					機械設計技術者　３級	専門特別演習	平成24年1月19日	1	平成23		
					危険物取扱者　乙種	専門特別演習	平成23年8月10日	1	平成23		

※平成２３年度は 202 件の申請。

※学生氏名にはモザイクがかけてある。

出典：教務委員会資料

資料７－１－③－２１　海外語学研修要領

徳山工業高等専門学校海外研修奨学金取扱要領

校　　長　　裁　　定
平成１４年　７月　６日制定
平成１５年４月１日一部改正
平成２３年２月１日一部改正

（目的）
第１条　この要領は、徳山工業高等専門学校の学生が、コミュニケーション能力の向上及び国際理解を深めるために行う海外研修を援助するための、「徳山工業高等専門学校海外研修奨学金」（以下「海外研修奨学金」という。）の適正な運用について，必要な事項を定めることを目的とする。
（奨学資金）
第２条　海外研修奨学金の資金は、徳山工業高等専門学校後援会からの寄附金をもって充てるものとする。
（資格）
第３条　海外研修奨学金を受ける者（以下「海外研修奨学生」という。）の資格は、本科又は専攻科に在学し、学業、人物ともに優れ、かつ語学力の向上及び国際的教養を体得することに高い関心がある者とする。
（海外研修奨学金の額）
第４条　海外研修奨学金は、海外研修奨学生１人当たり１０万円を限度とし、在学中１回限りとする。
（募集及び出願）
第５条　校長は、毎年度当該年度に係る海外研修奨学生の募集をするものとし、海外研修奨学金を受けようとする者は、別記様式の申請書及び計画調書を所定の期日までに、校長に提出しなければならない。
（選考等）
第６条　校長は、申請のあった者について、教務委員会の議を経て海外研修奨学生を決定するものとする。
第７条　海外研修奨学生として決定した者は、決定通知から１５日以内に別記様式の「誓約書」を校長あて提出しなければならない。
（海外研修奨学生の取消し等）
第８条　校長は、海外研修奨学生として決定した者が、海外研修の終了までに本校の信頼を著しく失墜させる行為を行った場合には、その決定を取り消し、既に海外研修奨学金を支給した場合は、全額を返還させるものとする。
（報告）
第９条　海外研修奨学生は、海外研修終了後１か月以内に別記様式の「海外研修報告書」を校長あて提出しなければならない。
（海外研修奨学金の事務）
第１０条　海外研修奨学金の事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第１１条　この取扱要領に定めるもののほか、この要領の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附則
この取扱要領は、平成１４年７月６日から施行し、平成１４年４月１日から適用する。
附則
この取扱要領は、平成１５年４月１日から施行する。
附則
この取扱要領は、平成２３年４月１日から施行する。

出典：教務委員会資料

資料７－１－③－２２　海外語学研修要領

平成２４年度徳山工業高等専門学校海外研修奨学生募集要項（案）

１　趣旨
徳山工業高等専門学校海外研修奨学金取扱要領に基づき、本校の学生がコミュニケーション能力の向上及び国際理解を深めるため海外研修を行う。

２　応募資格
次の各号に該当する者とする。
（１）徳山工業高等専門学校の本科又は専攻科に在学し、心身ともに健全であり、学業成績が優秀な者(外国人留学生を除く。)
（２）語学力の向上及び国際的教養を体得することに高い関心がある者

３　採用人員
１０名程度

４　奨学金
海外研修奨学金は、１人当たり１０万円を限度とする。
（旅行費用及びその他諸経費については別紙参照）

５　研修先及び研修方法
オーストラリア国シャフストン・インターナショナル・カレッジ　ブリスベン校に通学し、基本的にホームステイをしながら、月曜日から金曜日午前中までは英語研修を行い、金曜日午後及び土曜日は体験学習や見学会等を研修プログラムに基づき実施する。（研修プログラム等については別紙参照）

６　研修期間
平成２４年８月１９日（日）～９月１６日（日）（２９日間）

７　応募の受付
受付期間
平成２４年４月１０日(火)～５月８日(火)〔８：３０～１７：００〕
希望者は、海外研修奨学金申請書及び海外研修計画調書を、学生課教務係に提出する。
（申請書等は、学生課教務係で配付）

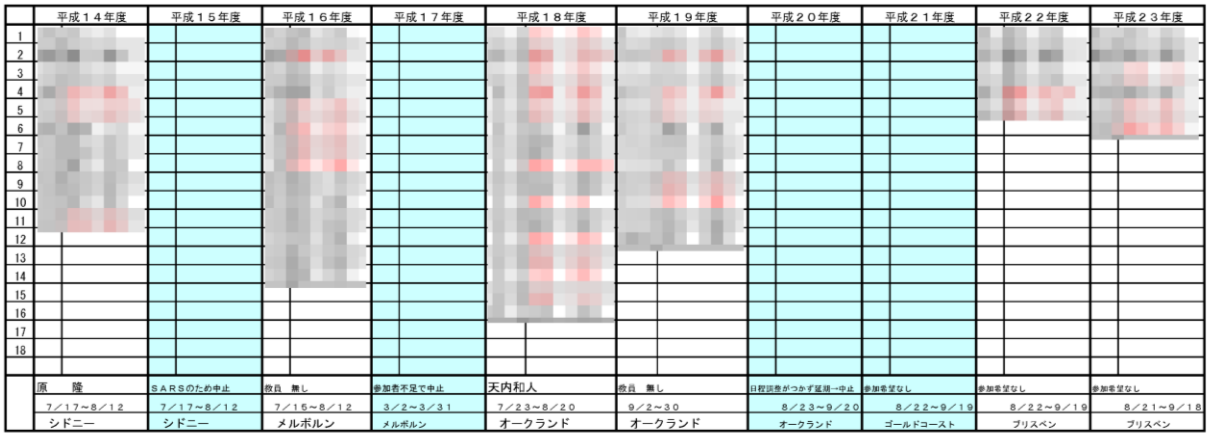
８　選考及び結果通知等
（１）選考は、教務委員会が行い、校長が決定する。
（２）選考結果は、平成２４年５月１１日（金）までに当該者に通知するとともに、別途、決定通知書を交付する。
（３）海外研修奨学生として決定した者は、決定通知から１５日以内に「誓約書」を校長に提出する。

９　留意事項
（１）この制度は、海外研修を行う者に対して、その経費の一部を補助するものであり、万一、研修中に事故が生じたときのことを考慮し、各自必ず海外旅行保険に加入する。
（２）海外研修奨学生には、パスポートの取得方法やホームステイにおける注意事項等について、出発までに説明会を開催する。
（３）海外研修終了後、校長あてに海外研修報告書を提出する。また、海外研修報告会を実施することとなった場合には、研修成果の発表を行う。
（４）海外研修奨学生は、この海外研修を特別学修（一般特別演習）による単位として申請することができる。

出典：教務委員会資料

資料７－１－③－２３　海外語学研修実績

語学研修参加者一覧



出典：教務委員会資料

（分析結果とその根拠理由）

学習支援に関する学生のニーズを，面談やアンケート調査によって適切に把握している。各種資格試験や検定試験の受験に対して，一般科目および各専門学科において学生に周知し，適切に支援を実施している。さらに，海外留学のための支援体制が十分整備され，機能している。

以上のことから，学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され，資格試験や検定試験受験，外国留学のための支援体制が整備され，機能している。

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生に対しては，クラス担任の他，留学生担当教員および学生のチューターを配置し，学習支援を行っている（資料７－１－④－１，２）。

留学生には特別の授業時間割で教育を行っている。これによって所属するクラスの授業だけでなく，日本語および日本文化に関係する授業や，準学士課程の１・２年次に開設されている専門科目の基礎を学ぶことができる（資料７－１－④－３）。

編入生に対しては，編入学前の学校の教育目標と，徳山高専の教育目標とのギャップを埋めるため，編入学試験直後の夏休み中に修学指導を実施している。修学指導では，編入学までに何を学習しておく必要があるかを説明している。また，修学指導実施前にアンケートを行い，修学指導時に適切な補習教材が提供できる体制を整えている（資料７－１－④－４，５）。

資料７－１－④－１　留学生指導教員

平成２４年度　校務分担一覧表

H24.4.1 現在

教務主事	田村 隆弘 H24.4.1~H26.3.31	教務主事補	髙橋　愛	森崎 哲也	原田 徳彦	中川　明子
学生主事	佐賀 孝徳 H24.4.1~H26.3.31	学生主事補	小川 仁志	池田 光優	栁澤 秀明	平栗 靖浩
寮務主事	国重　徹 H24.4.1~H26.3.31	寮務主事補	荒谷 督司	北村 健太郎	古賀 崇了	上　俊二
専攻科長	天内 和人 H24.4.1~H25.3.31	専攻科幹事	笠置 映寛	鈴木 厚行	新田 貴之	西尾 幸一郎
学科主任			一般科目 一色 誠子 H24.4.1~H26.3.31	機械電気工学科 櫻本 逸男 H24.4.1~H26.3.31	情報電子工学科 義永 常宏 H24.4.1~H26.3.31	土木建築工学科 古田 健一 H24.4.1~H26.3.31
図書館長	上　俊二	図書館長補	大橋 正夫			
		参　事	飛車 来人	守川 和夫	工藤 洋三	
ﾃｸﾉ・ﾘﾌﾚｯｼｭ教育ｾﾝﾀｰ長	牧野 俊昭 H24.4.1~H26.3.31	副ｾﾝﾀｰ長	(知的財産担当) 谷本 圭司	(産学公連携担当) 目山 直樹		
		参　事	長廣 恭子		守川 和夫	桑嶋 啓治
			石田 浩一	古賀 崇了		
情報処理センター長	奥本　幸	副ｾﾝﾀｰ長	(専攻科幹事) 新田 貴之	力　規晃		
		参　事	谷本 圭司	藤本　浩	海田 辰将	
教育研究支援センター長	伊藤　尚 H24.4.1~H26.3.31					
総合企画室長	原　隆 H24.4.1~H26.3.31	主　務	大橋 正夫 H23.4.1~H25.3.31	三浦 靖一郎 H24.4.1~H26.3.31	百田 正広 H24.4.1~H26.3.31	渡辺 勝利 H24.4.1~H26.3.31
学習・教育ﾚﾋﾞｭｰ室長	小林 明伸 H24.4.1~H26.3.31	ｴｸﾞｻﾞﾐﾅｰ	長廣 恭子 H23.4.1~H25.3.31	鈴木 厚行 H23.4.1~H25.3.31	杉村 敦彦 H24.4.1~H26.3.31	熊野　稔 H23.4.1~H25.3.31
学生相談室長	長戸 喜隆 H24.4.1~H26.3.31	相 談 員	三浦 靖一郎 H24.4.1~H26.3.31	小林 明伸 H24.4.1~H26.3.31	桑嶋 啓治 H24.4.1~H26.3.31	
キャリア教育支援室長	張間 貴史 H24.4.1~H26.3.31	ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	荒谷 督司 H23.4.1~H25.3.31	北村 健太郎 H24.4.1~H26.3.31	杉村 敦彦 H24.4.1~H26.3.31	中川 明子 H24.4.1~H26.3.31
学級担任			1　組	2　組	3　組	
1　年			前川 直也	☆柏倉　知秀	米田 郁生	☆印は学年主任
学級担任			機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	
2　年			伊藤　尚	百田 正広	☆海田 辰将	☆印は学年主任
3　年			石田 浩一	池田 信彦	☆目山 直樹	
4　年			☆藤田 重隆	山田 健仁	島袋　淳	
5　年			西村 太志	重村 哲至	☆橋本 堅一	
留学生指導教員			石田 浩一	池田 信彦	目山 直樹	
女子寮担当教員			中川 明子			

※任期について　□：２年任期　□：１年任期　□：任期の定め無し

※２年任期の職については、氏名の下に任期を記載

出典：総務課資料

資料７－１－④－２　平成２４年度留学生指導委託者（チューター）名簿

留学生指導委託者名簿

学科・学年	氏名	住所	備考
機械電気工学科3年			
情報電子工学科3年			
機械電気工学科4年			
土木建築工学科4年			

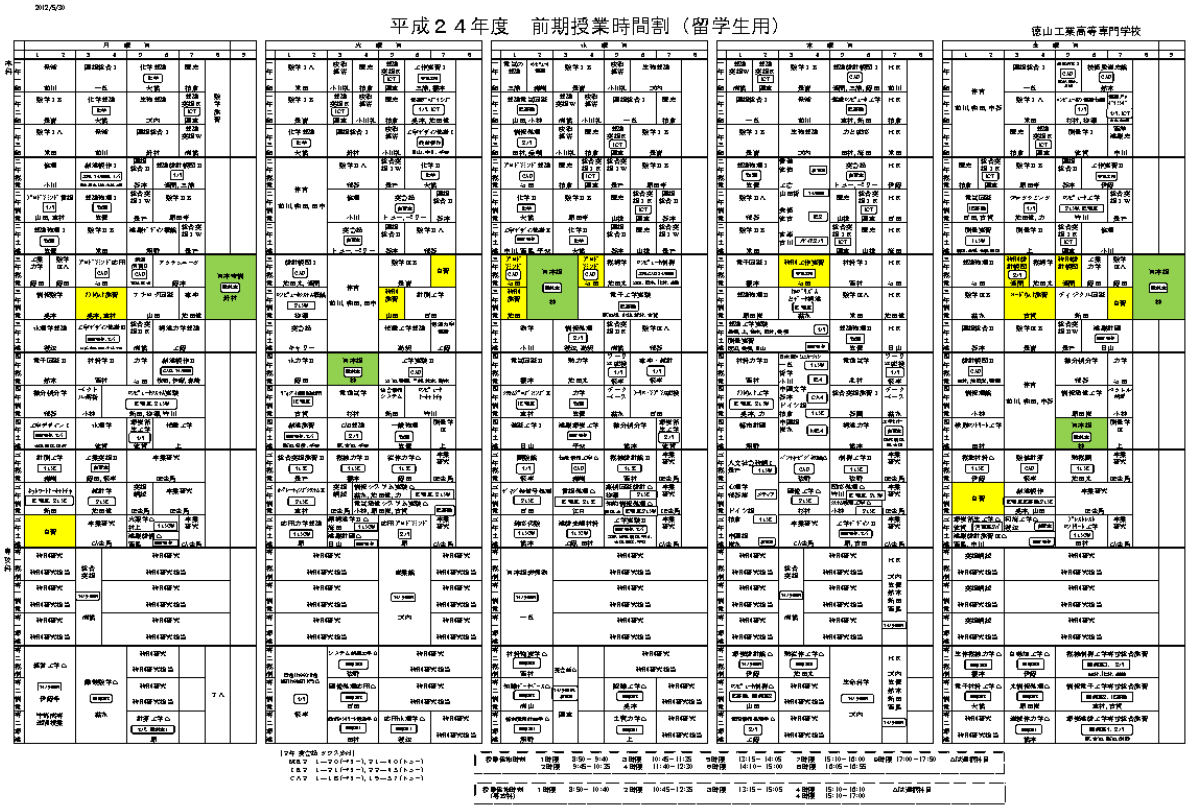
出典：学生課資料

資料７－１－④－３　留学生用時間割

※緑色は日本語および日本文化に関係する授業を表す。

※黄色は専門の基礎科目を表す。

平成２４年度　前期授業時間割（留学生用）



出典：教務係資料

資料７－１－④－４　編入生修学指導要項

４年次編入生修学指導要項

- 学生便覧、シラバス(共通)、アンケート等の送付
  １．送付日時：合格通知と同時に送付
  ２．送付内容：オリエンテーションの予定、アンケート、学生便覧、

- オリエンテーションの実施
  １．目　的：履修についてのオリエンテーションを行い、入学準備を行う

  ２．時　期：平成２３年８月１２日（金）１３：００

  ３．場　所：徳山工業高等専門学校　教室・管理棟１階小会議室

  ４．オリエンテーションの内容
  教務主事
  ・一般的な心得（校内のルールとマナー、事務手続き関係）
  ・学習心得（学習・教育目標、到達目標、科目履修、試験、進級・卒業要件、年間行事予定、時間割、「設計情報工学」プログラム、等）
  ・専攻科について
  ・シラバスの解説
  ・卒業後の進路（キャリア教育支援室、就職・進学状況）
  ・学生生活心得（学則違反、服装、アルバイト、通学関係、課外活動、授業料等の免除、奨学金制度、学生相談室）
  ・学生寮について

  数学科・英語科の話

  各学科主任・教務主事補
  ・学校生活について
  ・各専門学科の授業について、各学科／専攻で修得する技術ならびにそれを実現するためのカリキュラム系統図をベースに説明。一般科目の授業も含め、これからの対応方法について打ち合わせ

  ５．資　料
  ・学生便覧　　・シラバス（共通）　　・各科目資料（別途用意）

  ６．持参するもの
  ・筆記用具
  ・送付した資料一式（学生便覧、シラバス(共通)、等）

  ７．連絡先
  徳山工業高等専門学校　学生課教務係（Tel:0834-29-6232）

出典：教務係資料

資料７－１－④－５　編入生アンケート用紙

４年次編入生アンケート用紙

編入学科:
氏　　名:

質問1　オリエンテーションにおいて、特に聞きたい内容に○をつけてください（複数選択可）。

・一般的な心得　イ 校内のルールとマナー　　ロ 事務手続き関係
・学習心得
　イ 学習・教育目標　　ロ 到達目標　　ハ 科目履修　　ニ 試験　　ホ 進級・卒業要件
　ヘ 年間行事予定　　ト 時間割　　チ「設計情報工学」プログラム
・専攻科　・シラバスの解説　・ 学生寮
・卒業後の進路　イ キャリア教育支援室　　ロ 就職・進学状況
・学生生活心得
　イ 学則違反　　ロ 服装　　ハ アルバイト　　ニ 通学関係　　ホ 課外活動
　ヘ 授業料等の免除　　ト 奨学金制度　　チ 学生相談室
・一般科目の授業について、　イ 教養科目カリキュラム系統図
　ロ 数学等共通科目の系統図と講義内容
・各専門学科の授業について、　イ 各学科／専攻で修得する技術
　ロ それを実現するためのカリキュラム系統図

質問2　本校の3年次までに開設している科目で、学習していない科目（学習していない内容があればそれも含む）はどれですか。またそれは、高校で学ぶことは可能ですか。なお、科目や内容についてはシラバス（HP掲載）を参考にしてください。

質問3　本校の3年次までに開設している科目で、不安な科目はどれですか。また、その科目のどのようなところが不安ですか。科目や内容はシラバス（HP掲載）を参考にしてください。

質問4　その他、聞きたいこと、疑問点等ありましたら、以下の余白にお書きください。

以 上

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制が整備され，適切に実施されている。事前指導や補習を行い，徳山高専入学前の学校の教育目標と徳山高専の教育目標のギャップを埋め，スムーズに新しい環境に適応できるようにしている。

以上のことから，特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制が整備され，機能している。

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

課外活動に関する規定に基づいて，部および同好会が設立され，全教員がクラブ・同好会の顧問を担当している。（資料７－１－⑤－１～３）。

クラブ顧問会議を開催し，クラブ活動支援のための方策を議論している（資料７－１－⑤－４）。

学生会の自治活動や学生のクラブ活動に対して，学生会予算や後援会予算によって支援され，物品の購入，外部コーチの依頼，レンタカーによる遠征が可能になっている（資料７－１－⑤－５～８）。

クラブリーダーを育成し，クラブ活動をさらに活性化させるため，クラブリーダー研修会を年１回実施している（資料７－１－⑤－９，１０）。

学生会の自治活動やクラブ活動のために，学生会室および部室が整備されている（資料７－１－⑤－１１，１２）。

資料７－１－⑤－１　課外活動に関する規定（抜粋）

第６章　部及び同好会

（構　成）

第 31 条　部は，会員の同好者によって構成され設置される。

２　顧問教員は，校長の任命した教員１名以上とする。

第 32 条　各部には，互選による部長，副部長及び会計各１名をおく。

(1) 部長は，その部を代表し部活動の中心となる。

(2) 副部長は，部長を補佐し，部長に事故あるときは代行する。

(3) 会計は，部費の出納及び部に属する財産を管理する。

(4) 部長，副部長及び会計の任期は１年とし，毎年２月までに改選する。

（活　動）

第 33 条　部長は，当該局長を経て会長の示す日までに部員名簿及び年間事業計画書を総務局に，年間予算要求書を会計局に提出しなければならない。また，部員の入退部，年間活動計画書の変更が生じたら直ちにその旨を総務局に連絡する。

第 34 条　部長は，対外活動を行う場合には，所定の書類を顧問教員を経て学校長に提出し，その許可を受けなければならない。

第 35 条　部長は，対外活動終了後直ちに，その活動報告書を作成して校長に報告しなければならない。

第 36 条　各部の経費支出は，所定の請求書に必要書類を添えて顧問教員を経て会計局に提出する。

第 37 条　各部の年間経費支出額は，予算額を超えてはならない。なお，残額は，次年度に繰り越さないものとする。（学生会予備費に繰り入れる。）

（新設・廃止）

第 38 条　部の新設を行う場合は，その責任者が当該局長を経て，所定の書類に必要事項を記載して２月中に執行委員会に提出し，総会の議決，学校の承認を得た後に成立するものとする。

２　新設を行う場合の部員数は，１０名以上を必要とする。

第 39 条　次の各号に該当する場合は，評議委員会で審議し，部の活動停止，降格，廃止を命じられることがある。

(1) 予算運用の不正，物品の破損紛失の著しいとき。

(2) 部員数が１０名に満たなくなったとき。

第 40 条　学生会の部に準ずるものとして同好会をおくことができる。

２　同好会の新設を行う場合は，その責任者は構成人員，設立申請時期を定めず評議委員会で審議し，総会の承認を得た後に設立するものとする。

３　同好会は，原則として必要経費を請求することができない。

第 41 条　部又は同好会への所属は，原則として１人１部（同好会も含む。）制とする。

第 42 条　部又は同好会の加入及び脱退は，拘束されない。

出典：学生便覧

資料７－１－⑤－２　課外活動に関する組織図

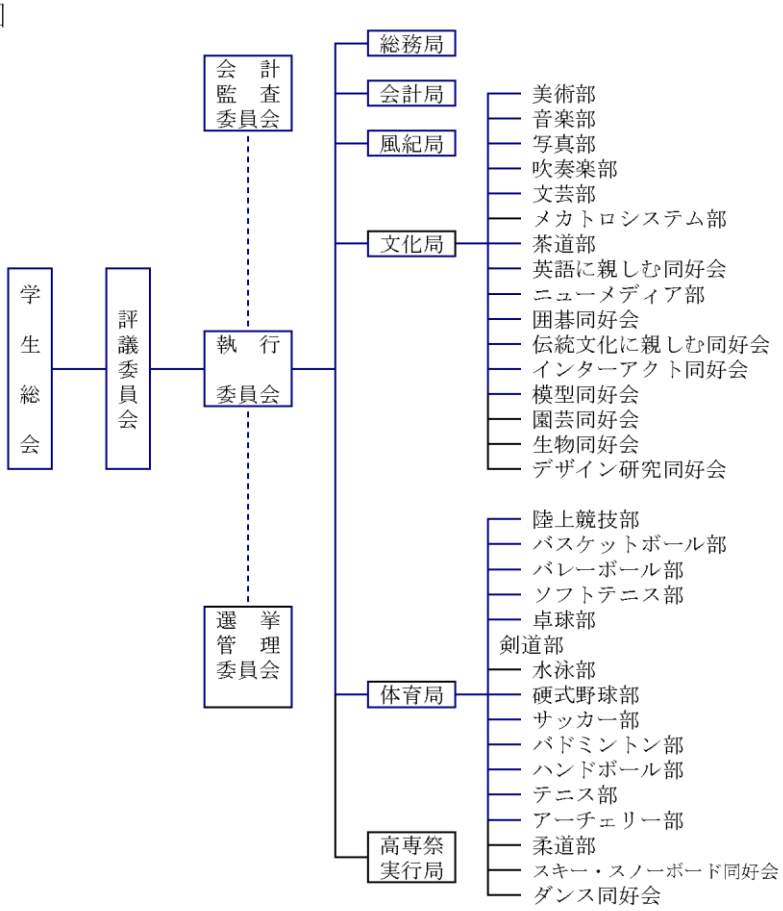
（４）課外活動について

課外活動時間は１９時までとし，事前に許可を得た場合を除いて１９時３０分には下校しなければなりません。

１．学生会活動

学生会は学生全員で構成される組織で，学生会会則では学生の自発的な活動を通して，その人間形成を助長し，高等専門教育の達成に資することを目的としています。学生会は図のような組織で構成されています。

組織図



出典：学生便覧

資料７－１－⑤－３　クラブ顧問一覧

平成２４年５月２３日

平成２４年度クラブ顧問教員

記

総　　括	学生主事	佐賀　孝徳

局名	番号	クラブ名	連絡・代表者 / 顧問教員氏名			
体育局	1	陸上部	**上　俊二**	北村健太郎	荒谷 督司	目山　直樹
	2	バスケットボール部（男子） （女子）	**原田　徳彦** **新田　貴之**	義永　常宏 山田　健仁	高山　泰博 中川　明子	
	3	バレーボール部	**奥本　　幸**	国重　　徹	天内　和人	佐賀　孝徳
	4	ソフトテニス部	**西尾幸一郎**	鈴木　厚行	熊野　　稔	渡辺　勝利
	5	卓球部	**長戸　喜隆**	小林　明伸	米田　郁生	平栗　靖浩
	6	剣道部	**柏倉　知秀**	高橋　　愛	牧野　俊昭	
	7	水泳部	**杉村　敦彦**	桑嶋　啓治	伊藤　　尚	長廣　恭子
	8	硬式野球部	**橋本　堅一**	田村　隆弘	島袋　　淳	桑嶋　啓治
	9	サッカー部	**藤田　重隆**	守川　和夫	張間　貴史	三浦靖一郎
	１０	バドミントン部	**柳澤　秀明**	古賀　崇了	笠置　映寛	大橋　正夫
	１１	ハンドボール部	**池田　光優**	重村　哲至	西村　太志	森﨑　哲也
	１２	テニス部	**櫻本　逸男**	百田　正広	池田　信彦	
	１３	アーチェリー部	**海田　辰将**	石田　浩一	目山　直樹	
	１４	柔道部	**前川　直也**	原　　隆	古田　健一	
	１５	スキー・スノーボード同好会	**天内　和人**			
	１６	ダンス同好会	**島袋　　淳**			

文化局	1	美術部	**小川　仁志**	鈴木　厚行		
	2	音楽部	**古田　健一**	米田　郁生		
	3	写真部	**大橋　正夫**	工藤　洋三	目山　直樹	
	4	吹奏楽部	**小林　明伸**	森﨑　哲也	古田　健一	
	5	文芸部	**一色　誠子**			
	6	メカトロシステム部	**藤本　　浩**	西村　太志		
	7	ニューメディア部	**力　　規晃**	重村　哲至	守川　和夫	高山　泰博
	8	茶道部	**中川　明子**	奥本　　幸		
	9	英語に親しむ同好会(ELA)	**国重　　徹**	小川　仁志		
	１０	囲碁同好会	**飛車　来人**			
	１１	伝統文化に親しむ同好会	**長廣　恭子**	谷本　圭司		
	１２	インターアクト同好会	**張間　貴史**	藤田　重隆	荒谷 督司	谷本　圭司
	１３	模型同好会	**石田　浩一**			
	１４	園芸同好会	**一色　誠子**			
	１５	生物同好会	**天内　和人**			
	１６	デザイン研究同好会	**平栗　靖浩**	中川　明子	西尾　幸一郎	海田　辰将

出典：学生係資料

資料７－１－⑤－４　平成２４年度第１回クラブ顧問会議議事概要

H24 第１回クラブ顧問会議議事概要

日　時：平成２４年5月１６日（水）１６：１０～
場　所：管理棟２F 大会議室
参加者：別添出欠表のとおり

議　事：
１．体育施設及び部室の使用について
佐賀学生主事から，以下のとおり要請があった。
・　体育施設を利用して活動を行った場合は，用具を片付けること。
・　近隣の高校で盗難の事案があるので，部室等の施錠，鍵の管理をしっかり行うこと。
・　ゴミの散乱等を防ぐため，外部使用に対しても連絡，注意を促すこと。

２．クラブ活動におけるレンタカーの使用要領について【資料】
佐賀学生主事から資料により説明があり以下のとおり審議された。
・　学生の同乗同意書について，年間等の提出にしてはどうかとの要望があったが，事案毎に保護者が把握できるよう毎回することとした。
・　４の 2)について，「走行距離が片道 200 キロメートルを超えるとき又は運転時間が連続５時間を超えるときは，代行運転手へ運転業務を委託するか，運転者を複数同乗させるか，若しくは，遠征先に宿泊すること。」と修正することとした。
なお，割り振られたレンタカーの使用回数に相当する金額の範囲内で，マイクロバスの代行運転手を委託することについて要望があり了承された。

３．高体連の大会参加のための公認欠席等について
佐賀学生主事から，以下のとおり要請があった。
・　試験週間及び試験期間に試合に参加する場合は，学級担任の押印を受けた保護者の同意書を対外試合許可願に添付すること。
※試験が受けられない場合は，許可できない。(インターハイ本戦，国体を除く。)
・　勝ち進めば授業日に試合がかかる場合でも，事前に公認欠席願を提出すること。
荒天等で予期せぬ順延があった場合についても，出来る限り速やかに教務係に連絡すること。

４．その他
・　佐賀学生主事から雨天の際，屋内の階段等でトレーニングをするクラブに対し，苦情があったが，安全の確保，大声を出さない等，他に迷惑がかからないよう注意して行う旨，要請があった。
・　１年の学年主任から，１年生について，前期中間試験が初めてのテストとなるのでテスト週間においては，部活よりテストを優先して欲しい旨要請があった。
また，兼部について学生会則には原則禁止と書いており，現状とは違うとの疑義があり，確認したところ，高体連種目の重複等を除き，学級担任及び顧問教員の判断，指導により認めても良いこととした。

出典：学生係資料

資料７－１－⑤－５　平成２３年度徳山工業高等専門学校学生会決算報告書

平成23年度徳山工業高等専門学校学生会決算報告書

総収入	5,430,604	比較増減(収入)	1,126,702
総支出	4,669,639	比較増減(支出)	△ 365,737
繰越	760,965	繰越	760,965

＜収入の部＞

項目	平成23年度予算	平成23年度決算	比較増減
繰越金	594,902	594,902	0
入会金	132,000	132,000	0
会費	2,596,000	2,600,000	4,000
後援会補助金	980,000	980,000	0
リサイクル費	0	148,905	148,905
高専祭ｽﾎﾟﾝｻｰ料	0	974,375	974,375
雑収入	1,000	422	△ 578
合計	4,303,902	5,430,604	1,126,702

＜支出の部＞

部局名	項目（部名）	平成23年度予算額（内訳）	平成23年度支出済額（内訳）	比較増減（内訳）
執行部	事務費	10,000	0	10,000
	高専祭費	1,300,000	1,206,672	93,328
	高専祭スポンサー費		974,375	△ 974,375
	執行長会議費	25,000	45,302	△ 20,302
	ユニフォーム購入費	200,000	200,000	0
	駅伝大会費	31,000	30,240	760
	高校野球応援費	60,000	42,435	17,565
	学生会活動費	50,000	40,928	9,072
	振込み手数料	5,000	4,200	800
	リサイクル費	50,000	12,300	37,700
	小計	1,731,000	2,556,452	△ 825,452
体育局	部費/遠征費			
	陸上部	171,000	171,000	0
	男子バスケットボール部	55,000	24,670	30,330
	女子バスケットボール部	76,000	75,789	211
	バレーボール部	209,000	209,000	0
	ソフトテニス部	91,000	91,000	0
	卓球部	231,000	231,000	0
	剣道部	81,000	81,000	0
	水泳部	84,000	84,000	0
	硬式野球部	304,000	304,000	0
	サッカー部	209,000	209,000	0
	バトミントン部	131,000	131,000	0
	ハンドボール部	97,000	97,000	0
	テニス部	126,000	126,000	0
	アーチェリー部	50,000	50,000	0
	柔道部	30,000	30,000	0
	小計	1,945,000	1,914,459	30,541
文化局	部費			
	美術部	48,000	47,998	2
	音楽部	36,000	34,640	1,360
	写真部	21,000	21,000	0
	吹奏楽部	28,000	28,000	0
	文芸部	12,000	4,090	7,910
	メカトロ部	63,000	63,000	0
	ニューメディア部	10,000	0	10,000
	茶道部	29,000	0	29,000
	小計	247,000	198,728	48,272
特別予算	予備費	380,902	0	380,902
	うちリサイクル引当金	252,675	0	252,675
	小計	380,902	0	380,902
合計		4,303,902	4,669,639	△ 365,737

※　平成23年度のユニフォーム購入費の該当クラブは、卓球部・野球部・ｻｯｶｰ部・女子ﾊﾞｽｹ部でした。

出典：学生会資料

資料７－１－⑤－６　クラブ活動におけるレンタカーの使用要領

平成 17 年 7 月 12 日
【平成 24 年 5 月 21 日改正】

クラブ活動におけるレンタカーの使用要領

１．クラブ遠征などに使用できるレンタカーは，本校と契約した営業所のワゴン車（８人又は１０人乗り）及び普通乗用車（５人乗り）とし，運転者は本校が契約した代行運転手又は本校自動車使用規則に定める車両運転適格者名簿に登載されている本校教員とする。

２．レンタカーの使用回数および経費について
1）使用回数は全クラブで年間延べ６０回程度とし，年度末に次年度の希望回数を調査し，学生主事室で検討のうえ各クラブに割振る。その経費は公費負担とするが，各クラブに割り振られた使用回数を超えて使用する場合は，使用クラブの自己負担とし，学生係で精算するものとする。
2）回数は１日 12 時間（原則午前８時から午後８時まで）を１回とし，遠征等で２日（一泊二日）使用する場合は，36 時間として２回にカウントする。
3）レンタカーを使用した場合，クラブ指導旅費のうち交通費分は支給しないが，燃料費，高速道利用料金などに係る経費は，別に後援会費から負担する。ただし，高速道利用に関しては，美祢 I.C 以西もしくは，大竹 I.C 以東に遠征する場合にのみ適用する。
4)レンタカーの年間使用回数は学生係で管理する.

３．鍵の受渡し等
1）鍵の受渡し場所は，学生係（ただし，勤務時間外及び休日の場合は守衛所）とする。
2）車両の受取り及び返却場所は，情報処理センター前の駐車場とする。

４．レンタカー使用時の注意事項
1）使用する際は，１ヶ月前までに別紙「レンタカー使用届」を学生係に提出し，レンタカーの予約を確認したうえで以下の書類を取りまとめ，学生係に提出すること。
部活動指導業務従事計画書
旅行命令・依頼簿（備考欄に「レンタカー使用」と明記すること）
学生が同乗する場合は「クラブ活動における公用車への学生の同乗同意書」
2）走行距離が片道 200 キロメートルを超えるとき又は運転時間が連続５時間を超えるときは，代行運転手へ運転業務を委託するか，運転者を複数同乗させるか，若しくは，遠征先に宿泊すること。
ただし，１日の総走行距離は 400 キロメートルを超えてはならない。
3）当日やむを得ない事情により使用時間を超過する場合は，事前にレンタカー営業所へ連絡すること。
4）万一，事故が発生した場合は，現場での必要な処置を講じた後，直ちにレンタカー営業所へ連絡するとともに，事故発生時の本校連絡網に従い連絡を行うこと。
5）レンタカー返却の際は，必ず燃料を満タンにすること。
6）燃料費，高速道利用料金等の領収書は帰校後速やかに学生係に提出すること。

出典：学生係資料

資料７－１－⑤－７　平成２３年度クラブレンタカー利用状況

H23．3．31現在

平成２３年度クラブレンタカー利用状況

局名	番号	クラブ名	代表顧問	要望	H23割当	使用回数	残回数
体育局	1	陸上部	上　俊二	6	5	5	**0**
	2	バスケットボール部（男子）	原田　徳彦	0	0	0	**0**
		バスケットボール部（女子）	新田　貴之	6	5	5	**0**
	3	バレーボール部	国重　徹	6	5	4	**1**
	4	ソフトテニス部	西尾幸一郎	0	0	0	**0**
	5	卓球部	長戸　喜隆	6	5	5	**0**
	6	剣道部	柏倉　知秀	6	5	4	**1**
	7	水泳部	杉村　敦彦	3	3	1	**2**
	8	硬式野球部	橋本　堅一	6	5	0	**5**
	9	サッカー部	藤田　重隆	6	5	3	**2**
	10	バドミントン部	柳澤　秀明	6	5	3	**2**
	11	ハンドボール部	重村　哲至	6	5	5	**0**
	12	テニス部	櫻本　逸男	4	4	3	**1**
	13	アーチェリー部	海田　辰将	6	5	5	**0**
	14	柔道部	前川　直也	0	0	0	**0**
	15	スキー・スノーボード同好会	天内　和人	3	3	2	**1**
	16	ダンス同好会	島袋　淳	0	0	0	**0**
文化局	1	美術部	小川　仁志	0	0	0	**0**
	2	音楽部	古田　健一	0	0	0	**0**
	3	写真部	大橋　正夫	0	0	0	**0**
	4	吹奏楽部	小林　明伸	0	0	0	**0**
	5	文芸部	一色　誠子	0	0	0	**0**
	6	メカトロシステム部	藤本　浩	2	2	2	**0**
	7	ニューメディア部	高山　泰博	0	0	0	**0**
	8	茶道部	中川　明子	0	0	0	**0**
	9	英語に親しむ同好会(ELA)	国重　徹	0	0	0	**0**
	10	囲碁同好会	飛車　来人	0	0	0	**0**
	11	伝統文化に親しむ同好会	長廣　恭子	0	0	0	**0**
	12	インターアクト同好会	張間　貴史	3	3	2	**1**
	13	模型同好会	石田　浩一	0	0	0	**0**
	14	園芸同好会	一色　誠子	0	0	0	**0**
	15	生物同好会	天内　和人	0	0	1	**-1**
回数計				75	65	50	15

※使用回数はレンタカー使用要領の2（下記参照）により1日を1回と数える。

２．レンタカーの使用回数および経費について
(1) 使用回数は全クラブ(２８クラブ）で年間延べ６０回程度とし，その経費は公費負担とする。
(2)回数は1日12時間（原則午前８時から午後８時まで）を1回とし，遠征等で２日（一泊二日）使用する場合は，36時間として2回にカウントする。また，この利用時間を超えて追加料金が必要となった際は，差額分を使用クラブの自己負担とし，学生係で清算するものとする。

出典：学生係資料

資料７－１－⑤－８　平成２４年度クラブコーチ謝金申請一覧

平成２４年度　クラブコーチ謝金　申請一覧

クラブ名	顧問教員氏名	コーチ氏名	フリガナ	謝金金額	支払先(予定)	備　考
陸　上	上　　俊二				上　顧問代理受理	
バスケットボール男女	原田　徳彦 新田　貴之				原田顧問代理受理	
バレーボール	国重　　徹				国重顧問代理受領	
卓　球	長戸　喜隆				長戸顧問代理受理	
卓　球	長戸　喜隆				長戸顧問代理受理	
硬式野球	田村　隆弘				田村顧問代理受理	
サッカー	藤田　重隆				藤田顧問代理受理	
バドミントン	柳澤　秀明				柳澤顧問代理受理	
アーチェリー	海田　辰将				海田顧問代理受理	
アーチェリー	海田　辰将				海田顧問代理受理	
アーチェリー	海田　辰将				海田顧問代理受理	
アーチェリー	海田　辰将				海田顧問代理受理	
柔　道	前川　直也				前川顧問代理受理	
美術部	鈴木　厚行				鈴木顧問代理受理	
写真部	大橋　正夫				大橋顧問代理受理	
吹奏楽	小林　明伸				小林顧問代理受理	
茶道部	中川　明子				中川顧問代理受理	
伝統文化に親しむ同好会	長廣　恭子				長廣顧問代理受理	
予備費				10,000		
			合　計	600,000		

出典：学生係資料

資料７－１－⑤－９　平成２３年度クラブリーダー研修会実施要綱

平成２３年度クラブリーダー研修会　実施要項

実 施 目 的：クラブ顧問，部長等を対象に，クラブリーダーの養成を目的に開催する

特別講演講師：香田整形外科医院
院長　香田　和宏　氏

演　　題：「スポーツ傷害と外傷」

日　　時：平成２３年１２月１７日（土）
１４時から１５時３０分

場　　所：徳山工業高等専門学校
メディアホール

出典：学生係資料

資料７－１－⑤－１０　平成２３年度クラブリーダー研修会参加者一覧

平成 23 年度クラブリーダー研修会「スポーツにおける傷害予防について」参加一覧

クラブ・同好会名	教　職　員	部　　員	部　　員
陸上部	上　俊二		
バスケットボール部（男子） （女子）	義永　常宏 新田　貴之		
バレーボール部	国重　徹		
ソフトテニス部	渡辺　勝利		
卓球部	長戸　喜隆		
剣道部	牧野　俊昭		
水泳部	杉村　敦彦		
硬式野球部	橋本　堅一		
サッカー部			
バドミントン部	柳澤　秀明		
ハンドボール部	大学リーグで不在		
テニス部	桜本　逸男		
アーチェリー部	海田　辰将		
柔道部	原　隆		

参加者数

顧問　13 名

部員　32 名

出典：学生係資料

資料７－１－⑤－１１　学生会室



出典：学生係資料

資料７－１－⑤－１２　部室の整備状況



出典：学生係資料

（分析結果とその根拠理由）

すべての学生の課外活動に対して管理組織，運営費および施設が整備され，機能している。

以上のことから，学生の部活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

生活および経済面に対しては，クラス担任制を整備し，クラス担任はクラスの学生の指導・相談・助言を行う中心として機能している。また，学生主事室および厚生補導委員会は指導を行い，学

生相談室は学生の相談に対応する（資料７－２－①－１～３）。

学生相談室を整備し，そのことを全学生に対して学生相談室案内および学生便覧で通知することにより，相談・助言を行う体制を整えている。また，ハラスメント防止委員会を設置し，各種ハラスメント防止の啓蒙を実施している。さらに，特に学生の心身に係る指導・相談・助言の場として保健室が機能している（資料７－２－①－４～８）。

経済的理由により修学が困難な学生に対しては，奨学金の斡旋，入学料および授業料の免除および徴収猶予，寄宿料免除の制度を整備している。また，そのことを全学生に学生便覧で案内したり，特に準学士課程新入生とその保護者に対しては，入学前の修学指導でも案内したりすることにより，これらの制度を機能させている（資料７－２－①－９～１１）。

資料７－２－①－１　クラス担任一覧

平成２４年度　校務分担一覧表

H24.4.1 現在

教務主事	田村 隆弘 H24.4.1~H26.3.31	教務主事補	髙橋　愛	森崎 哲也	原田 徳彦	中川　明子
学生主事	佐賀 孝徳 H24.4.1~H26.3.31	学生主事補	小川 仁志	池田 光優	栁澤 秀明	平栗 靖浩
寮務主事	国重　徹 H24.4.1~H26.3.31	寮務主事補	荒谷 督司	北村 健太郎	古賀 崇了	上　俊二
専攻科長	天内 和人 H24.4.1~H25.3.31	専攻科幹事	笠置 映寛	鈴木 厚行	新田 貴之	西尾 幸一郎
学科主任			一般科目 一色 誠子 H24.4.1~H26.3.31	機械電気工学科 櫻本 逸男 H24.4.1~H26.3.31	情報電子工学科 義永 常宏 H24.4.1~H26.3.31	土木建築工学科 古田 健一 H24.4.1~H26.3.31
図書館長	上　俊二	図書館長補	大橋 正夫			
		参　事	飛車 来人	守川 和夫	工藤 洋三	
ﾃｸﾉ・ﾘﾌﾚｯｼｭ教育ｾﾝﾀｰ長	牧野 俊昭 H24.4.1~H26.3.31	副ｾﾝﾀｰ長	（知的財産担当） 谷本 圭司	（産学公連携担当） 目山 直樹		
		参　事	長廣 恭子		守川 和夫	桑嶋 啓治
			石田 浩一	古賀 崇了		
情報処理センター長	奥本　幸	副ｾﾝﾀｰ長	（専攻科幹事） 新田 貴之	力　規晃		
		参　事	谷本 圭司	藤本　浩	海田 辰将	
教育研究支援センター長	伊藤　尚 H24.4.1~H26.3.31					
総合企画室長	原　隆 H24.4.1~H26.3.31	主　務	大橋 正夫 H23.4.1~H25.3.31	三浦 靖一郎 H24.4.1~H26.3.31	百田 正広 H24.4.1~H26.3.31	渡辺 勝利 H24.4.1~H26.3.31
学習・教育ﾚﾋﾞｭｰ室長	小林 明伸 H24.4.1~H26.3.31	ｴｸﾞｻﾞﾐﾅｰ	長廣 恭子 H23.4.1~H25.3.31	鈴木 厚行 H23.4.1~H25.3.31	杉村 敦彦 H24.4.1~H26.3.31	熊野　稔 H23.4.1~H25.3.31
学生相談室長	長戸 喜隆 H24.4.1~H26.3.31	相 談 員	三浦 靖一郎 H24.4.1~H26.3.31	小林 明伸 H24.4.1~H26.3.31	桑嶋 啓治 H24.4.1~H26.3.31	
キャリア教育支援室長	張間 貴史 H24.4.1~H26.3.31	ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	荒谷 督司 H23.4.1~H25.3.31	北村 健太郎 H24.4.1~H26.3.31	杉村 敦彦 H24.4.1~H26.3.31	中川 明子 H24.4.1~H26.3.31
学級担任			1　組	2　組	3　組	
1　年			前川 直也	☆柏倉　知秀	米田 郁生	☆印は学年主任
学級担任			機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	
2　年			伊藤　尚	百田 正広	☆海田 辰将	☆印は学年主任
3　年			石田 浩一	池田 信彦	☆目山 直樹	
4　年			☆藤田 重隆	山田 健仁	島袋　淳	
5　年			西村 太志	重村 哲至	☆橋本 堅一	
留学生指導教員			石田 浩一	池田 信彦	目山 直樹	
女子寮担当教員			中川 明子			

※任期について　□：２年任期　□：１年任期　□：任期の定め無し

※２年任期の職については、氏名の下に任期を記載

出典：総務課資料

資料７－２－①－２　厚生補導委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校厚生補導委員会規則

制　　定　　昭和５２年４月１日
最終改正　　平成１６年４月１日

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校に、厚生補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関する次の事項を審議する。
(1)　課外活動に関すること。
(2)　奨学に関すること。
(3)　入学料、授業料、寄宿料の減免及び授業料の徴収猶予に関すること。
(4)　個人指導に関すること。
(5)　集団指導に関すること。
(6)　規律保持に関すること。
(7)　保健衛生に関すること。
(8)　福利厚生に関すること。
(9)　その他厚生補導に関すること。
（構成）
第３条　委員会は、次の委員をもって構成する。
(1)　学生主事
(2)　学生主事補
(3)　一般科目及び各学科の教員のうちから各１名
(4)　学生課長
（任命及び任期）
第４条　前条に定める委員のうち、第３号による委員の任命及び任期は、次のとおりとする。
(1)　委員は校長が任命する。
(2)　委員の任期は１年とする。ただし、補欠を生じ任命された委員の任期は前任者の残任期間とする。
(3)　委員は再任を妨げない。
（委員長）
第５条　委員長には学生主事をもって充てる。
２　委員長に事故あるときは、あらかじめ指名された者がその任務を代行する。
（運営）
第６条　委員長は、必要に応じて委員会を招集し、これを主宰する。
第７条　委員長は、委員会で協議した事項を総括して校長に報告し、承認を受けなければならない。
（委員以外の者の出席）
第８条　委員会において必要があると認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

出典：本校規則集

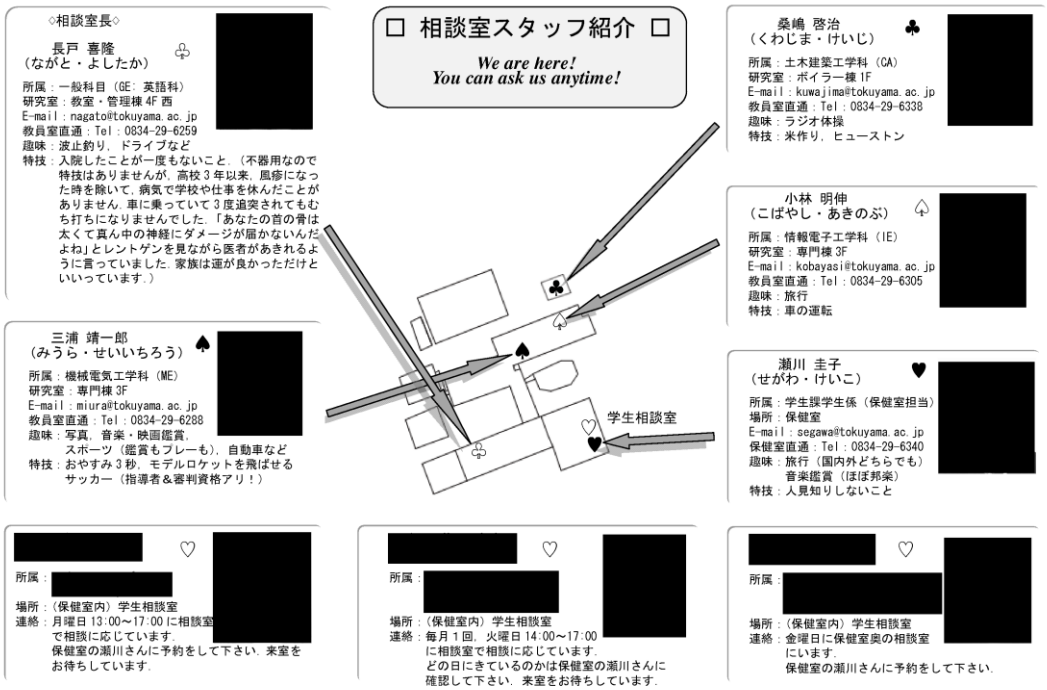
資料７－２－①－３　学生相談室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学生相談室規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学生相談室（以下「相談室」という）を置く。
（目的）
第２条　相談室は、学生の抱える悩みについて相談に応じ、適切な助言を行い、もって学生の健全な育成を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　相談室は、次の業務を行う。
(1)　学生の抱える悩みに関する相談及び助言
(2)　悩みを抱える学生を持つ学級担任への支援
(3)　相談助言に関する調査研究
(4)　その他前条の目的達成に必要な事項
（構成）
第４条　相談室に次の職員を置く。
(1)　室長
(2)　相談員　若干名
(3)　健康相談員
（室長）
第５条　室長は、教授又は准教授の中から校長が任命する。
２　室長は、相談室の業務を掌理する。
３　室長の任期は２年とし、再任を妨げない。
（相談員）
第６条　相談員は、原則として教授、准教授、講師又は助教の中から、校長が任命する。
２　相談員は、相談室の業務に従事する。
３　相談員の任期は２年とし、再任を妨げない。
（健康相談員）
第７条　健康相談員は、本校の看護師をもって充てる。
２　健康相談員は、相談員とともに学生の健康に関する相談業務に従事する。
（カウンセラーの協力）
第８条　室長は、業務の遂行にあたり、本校非常勤カウンセラーの協力を得ることができる。
（秘密保持）
第９条　相談室の職員は、その職務上知り得た個人的情報をみだりに他に漏らしてはならない。
（事務）
第１０条　相談室に関する事務は、学生課において処理する。
（雑則）

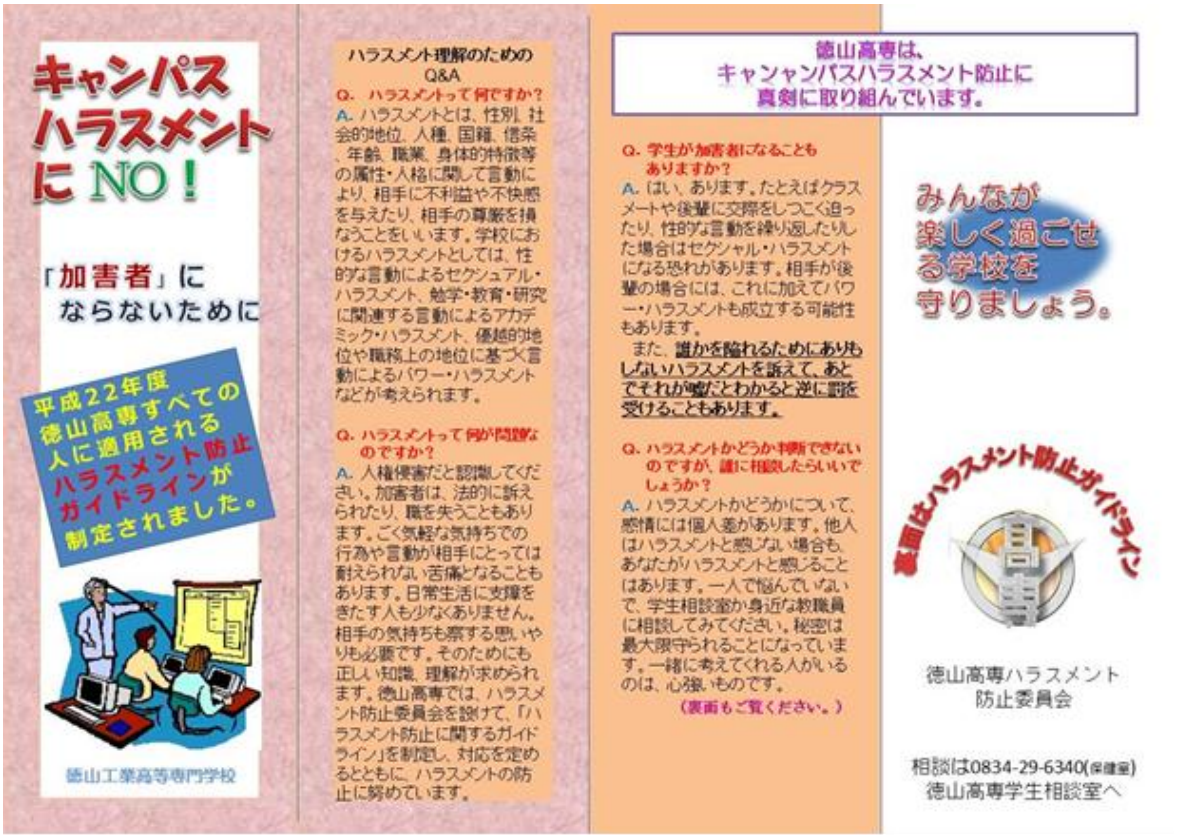
出典：本校規則集

資料７－２－①－４　学生相談室スタッフ紹介



出典：学生相談室資料

資料７－２－①－５　ハラスメント防止ガイドライン



出典：学生相談室資料

資料７－２－①－６　保健室の整備状況



出典：学生課資料

資料７－２－①－７　学生相談室の整備状況



出典：学生課資料

資料７－２－①－８　保健室・学生相談室での相談・対応事例

保健室での相談・対応事例

- 内科的理由（倦怠感，頭痛，腹痛，睡眠不足等）で来室した学生の中にも，話をしていくと対人関係の問題等が何件かあり，うち２名に関しては，非常勤カウンセラーとの連携を図った。
- 健康診断後に標準体重に近づけたいという相談があり、食生活や生活リズムの見直しを一緒に行った。また、短期目標を立て、経過を見ながら目標を達成できるようにサポートをした。
- 学生の保護者より対人関係の問題を抱える学生の相談があった。
- 対人関係の問題を抱える学生（寮生）の保護者からの相談があった。
- 保健室に来室して話を聞いた学生の事例を，学生相談室に挙げて，その後非常勤カウンセラーとの連携を図った。

出典：学生相談室資料

資料７－２－①－９　授業料等の免除および徴収猶予の取扱いに関する規則（抜粋）

独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料等の免除及び徴収猶予の取扱いに関する規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１０９号
制定　平成２４年３月１日

目次

第１章　総則（第１条－第３条）
第２章　授業料の免除（第４条－第８条）
第３章　入学料の免除（第９条－第１０条）
第４章　寄宿料の免除（第１１条－第１２条）
第５章　授業料及び入学料の徴収猶予（第１３条－第１５条）
第６章　補則（第１６条－第１９条）
附則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（機構規則第３５号）第１２条第２項の規定に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）が設置する高等専門学校（以下「学校」という。）における授業料，入学料及び寄宿料の免除並びに授業料及び入学料の徴収猶予(以下「授業料免除等」という。)の取扱いについて定める。

（適用範囲）

第２条　機構における授業料免除等は，他に特別の定めがある場合を除くほか，この規則の定めるところによる。

２　授業料免除等は，学校の学科及び専攻科の学生（聴講生，研究生又は科目等履修生を除く。）（以下「学生」という。）並びに学科又は専攻科に入学する者（聴講生，研究生又は科目等履修生として入学する者を除く。）（以下「入学者」という。）を対象とする。

（未決定期間内の徴収の猶予）

第３条　授業料免除等の申請に伴う許可，不許可が決定されるまでの間は，その申請に係る授業料，入学料又は寄宿料の徴収を猶予する。

出典：独立行政法人国立高等専門学校機構規則

資料７－２－①－１０　授業料等の免除・奨学金の案内

（６）授業料等の免除について

１．入学料免除

入学前１年以内において，学生の学資を主として負担している者（以下，学資負担者）が死亡し，又は風水害の災害を受けたため，入学料の納付が困難である場合には入学料の免除（全額又は半額）や徴収猶予をすることがあります。入学料免除の申請は入学手続き時に行ってください。

２．授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難な場合は，授業料の免除（全額又は半額）を申請することができます。ただし，学業成績が優秀な者に限られ，本人の申請により選考のうえ決定されます。

その他，学資負担者の死亡又は風水害等の災害を受け，授業料の納付が困難と認められる場合にも適用されます。

なお，授業料免除申請書の提出締切は，各期ごとに指定した日までです。

３．寄宿料免除

学生又は学資負担者が風水害等の災害を受け，納付困難と認められる場合は，寄宿料免除を受けることができます。その他死亡又は行方不明の場合も適用され，授業料免除に準じて選考します。

（７）奨学金制度について

１．日本学生支援機構

学業・人物ともに優秀で，かつ健康であり，経済的理由により学資の支弁が困難と認められる学生に対し，奨学金を貸与します。

（１）貸与月額

貸与月額は，学年・通学形態（自宅又は自宅外）により定められています。

（２）申請の手続

奨学生の募集は，４月に行います。申請希望者は，掲示等に従って学生係から書類の交付を受け，所定の期間内に手続をとってください。

（３）採否の決定

応募学生に対し，提出された書類，学業成績等について審査選考のうえ，日本学生支援機構に推薦し，日本学生支援機構が採否を決定します。

（４）奨学金の交付

奨学金は，奨学金振込口座届により本人の指定した銀行の口座に当月分が振込まれます。

（５）適格認定

奨学生は毎年１～２月に「奨学生継続願」をインターネットから学校に提出し，奨学生にふさわしい適格性を有するものであるかの認定を受けなければなりません。成績がふるわない場合，性行不良の場合は日本学生支援機構から廃止，警告，激励等の処置を受けることになります。

（６）奨学金の返還方法

卒業あるいは修了，又は貸与期間が満了したときは，貸与された奨学金は必ず返還しなければなりません。

－ 31 －

出典：学生便覧

資料７－２－①－１１　授業料免除実施状況

授業料免除実施状況

単位:人

年度	期	申請	学内全額免除	学内半額免除	超過全額免除申請	超過半額免除申請	超過免除申請結果	備考
18	前	69	33	6	0	13	0	
	後	55	28	13	0	0	0	
19	前	60	24	20	0	0	0	
	後	54	25	17	0	0	0	
20	前	69	30	13	0	0	0	
	後	60	26	14	0	0	0	
21	前	78	37	0	6	18	1	全額申請者→半額
	後	73	37	0	9	14	9	全額申請者→半額
22 4年以上	前	29	19	0	2	6	2	全額申請者→半額
	後	29	18	2	0	4	3	
23 4年以上	前	29	19	6	0	1	1	
	後	26	17	5	0	0	0	

出典：学生係資料

（分析結果とその根拠理由）

学生の生活に係わる指導・相談・助言を行う体制が一面的ではなく，担任，厚生補導委員会および学生相談室によって多面的に機能しており，学生支援のネットワークが形成されている。また，経済面に係わる支援体制も充実しており，支援実績も十分上がっている。

以上のことから，学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

クラス担任以外に，留学生担当教員および学生のチューター（留学生１人つき１名）を配置し，生活面の支援を行っている（資料７－１－④－１，２）。

留学生の生活の場である学寮では，留学生談話室，留学生専用シャワー室，イスラム教徒に配慮した補食室が整備してある。また，学寮のスタッフが留学生の生活面の支援を行っている（資料７－２－②－１～４）。

障害のある学生への対応については，過去５年間は具体的な実例がない。しかしながら，学生相談室に専門医およびカウンセラーを配置するとともに，関係教職員のＦＤ活動を実施し，対応できる体制を整えている（資料７－２－①－４，資料７－２－②－５）。

資料７－２－②－１　留学生専用談話室





出典：寮務係資料

資料７－２－②－２　留学生専用シャワー・洗濯室





出典：寮務係資料

資料７－２－②－３　留学生専用補食室



出典：寮務係資料

資料７－２－②－４　留学生が編入する際の手続きをまとめた資料

留学生の編入生が入学する際の諸手続きについて

Ｈ２３．１１．２４

１．迎え

事前に行われる留学生との面談の際に，出来るだけ平日の１５時までに徳山駅に到着するよう伝える。

迎えは，基本的に学級担任と在学留学生が行う。

２．市役所の手続き

○外国人登録証の住所変更及び国民健康保険証の交付

【市民課】において行う。

持参：パスポート，外国人登録証，旧国民健康保険証

※旧国民健康保険証は，市民課から区役所に返却を依頼することができる。

○国民年金の「学生納付特例制度」の申請（２０歳以上の場合）

【保険年金課】において行う。

東京において，同様手続きを行っていると思われるので，年金番号が必要。

２０歳未満の場合は，２０歳になった時点で郵送にて手続きを行なえるため，書類を持ち帰る。

３．生活用品の調達

必要な生活用品（布団，簡易な調理器具，当面の食事など）を調達する。

また，最寄りのスーパー，コンビニ，銀行及び郵便局の場所をレクチャーする。

４．入寮の手続き

寮務主事室において入寮に関する手続き及びルール等の説明を行う。

鍵の管理，施設の使用方法，食堂の利用・料金，学寮生活時間割など

【特段の事情がない限り，食堂を利用させる】

５．学校施設，学則及び教務規則等の案内

所属学科（主任，学級担任及び教務主事補等）において，学校施設の案内，諸規則の周知を行う。

６．在留期間の更新【必要な場合】

「留学」の在留期間は２年３ヶ月（または１年３ヶ月）なので，在留期間が満了する１ヶ月前までに更新申請を入国管理局に行う必要があるので，その際には，学生課において手続きを補助する。

必要な書類：在留期間更新許可申請書（本人記載３Ｐ，学校記載・押印２Ｐ）

↓入国管理局ＨＰより様式ダウンロード

http://www.immi-moj.go.jp/tetuduki/index.html

在学証明書（在学期間の明記されたもの），成績証明書　各１通

パスポート，外国人登録証

手数料納付書及び収入印紙４千円分（査証を受領する際持参）

※申請から一週間程度後に査証が発行される。

７．再入国許可の申請【必要な場合】

留学生が帰国する場合には，再入国許可を入国管理局に申請する必要がある。初めての場合は，学生課において手続きの方法を教示する。

必要な書類：再入国許可申請書（本人記載１Ｐ）

↓入国管理局ＨＰより様式ダウンロード

http://www.immi-moj.go.jp/tetuduki/index.html

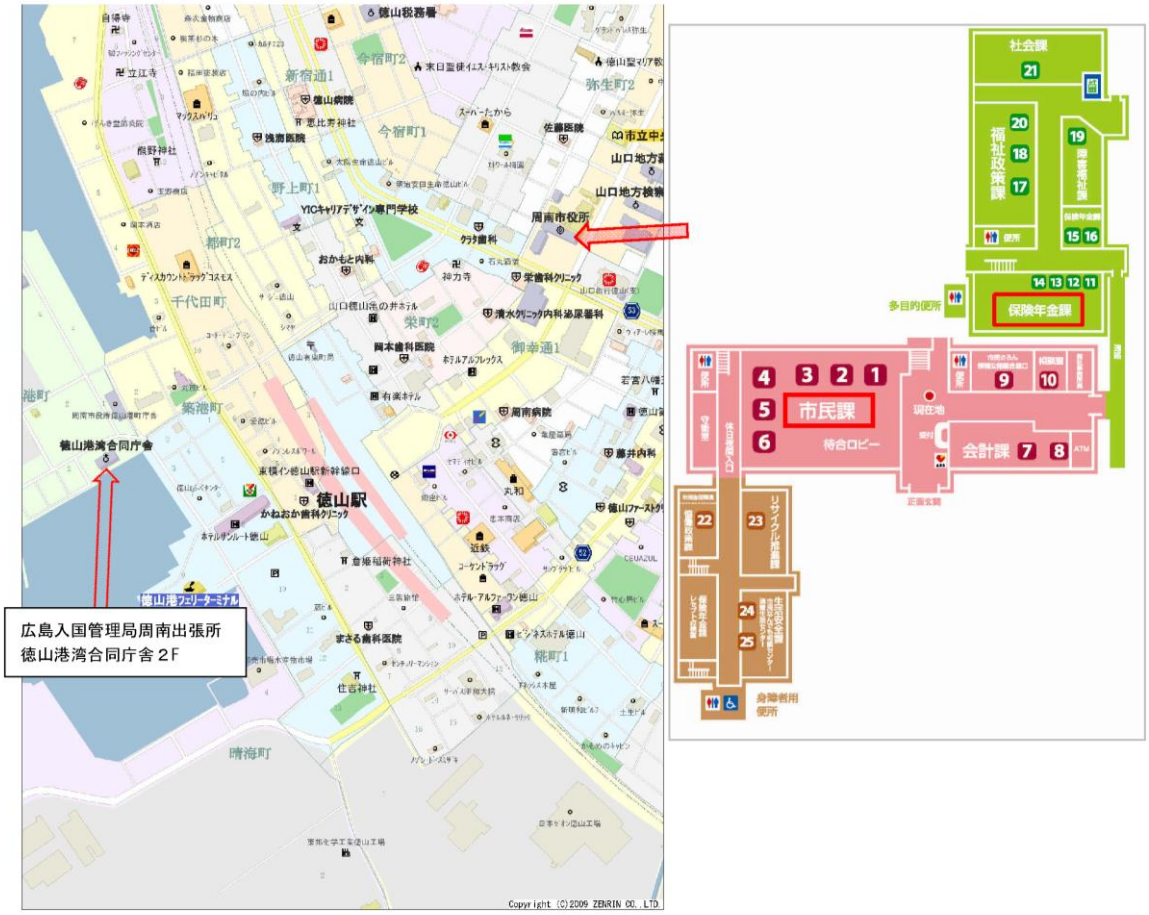
パスポート，外国人登録証

手数料納付書及び収入印紙３千円分（1 回限り）又は６千円分（在留期間満了まで有効）

※申請当日手続き完了

８．パスポート等の確認

パスポート（現在有効な査証部分を含む），外国人登録証，国民健康保険証及び年金手帳は，学生課で確認のうえ写しを保管する。



出典：学生課資料

資料７－２－②－５　障害をもつ学生対応のためのＦＤ活動

平成２２年度 FD 活動報告書（部署）

部署名：　学生相談室

■ 部署企画の活動

各部署において平成２２年度に実施された FD 活動（教員の資質向上のための活動、研修会、講演会など）について記入してください。件数が複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

活動名	FD 講演会開催　講演「若者とこころの病」（吹田恭子医師）
実施年月日	平成２３年３月１日
実施場所等	徳山工業高等専門学校メディアホール
参加対象・参加人数等	教職員約８０名
具体的内容（概略）	高専生の年代（１０代後半～二十歳過ぎ）までの若者が陥りやすいこころの不調、またはかかりやすいこころの病を具体例を交えて話された。プライバシーの問題があり、あまり立ち入った病状や治療効果などについてはやや具体性が欠けた。講演後質疑応答が行われた。

■ 他機関等の研修会・講演会等への派遣

他機関で実施された研修会や講演会へ、各部署から教員等を派遣された場合について記入してください。欄が不足する場合は追加して記入してください。

研修会名等	実施期日	実施場所	派遣教員
独立行政法人日本学生支援機構主催　『障害学生修学支援事例研究会』	平成 22 年 8 月 30 日	東京国際交流館	CA 桑嶋啓治
平成２２年度 中国・四国工学教育協会高専教育部会教員研究集会にて「発表番号 4. 徳山高専学生相談室の取り組み」として事例発表	平成 22 年 11 月 26 日	ピュアリティまきび（岡山市）	GE 長戸喜隆
「第７回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会」出席	平成 23 年 1 月 27・28 日	東京オリンピック記念青少年総合センター	GE 長戸喜隆 ME 三浦靖一郎 学課 瀬川圭子

22

出典：本校 Web サイト

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては，施設面はもちろん，留学生担当教員，学生のチューターのサポートネットワークが形成され十分機能している。また，障害をもつ学生への支援体制も整えている。

以上のことから，特別な支援が必要と考えられる学生に対する生活支援等が適切に行うことの出来る状況が整っており，必要に応じて支援が行われている。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生寮が設置・整備されており，適切な管理体制の下に運営されている（資料７－２－③－１～４）。

寮の規則，寮内の自治組織が規定され，機能している（資料７－２－③－５，６）。

寮生生活時間割の中に自習時間が設定されている。また，集中して勉強ができるよう，自習室を貸し出している。さらに，定期試験前には勉強会を行っている。（資料７－２－③－７～１１）。

休講や体調不良による残寮については，各自のキーボックスにメモを置くことで把握している。登校後の寮内巡視は寮務主事室が行い，寮内環境の点検や残寮者への対応を実施している（資料７－２－③－１２，１３）。

資料７－２－③－１　高城寮の設置状況



出典：本校 Web サイト

資料７－２－③－２　高城寮の入寮状況，施設・設備の整備状況

徳山高専　高城寮

トップページ
寮の目的
寮の概要・施設・設備など
寮生活の内容
学寮経費
寮の献立

寮の概要・施設・設備など

○学寮は、現在男子寮（収容定員は120名）および、女子寮（収容定員は24名）があります。
○高城寮はRC造4階建ての寮で、居室は個室と2人部屋があります。
○学寮には 食堂・浴室・洗濯・乾燥室ほかの施設があります。
○寮内無線LANあり
○全室エアコン完備





談話室



コモンスペース



留学生談話室



会議室



浴室



洗濯場

出典：本校 Web サイト

資料７－２－③－３　学寮規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学寮規則

（趣旨）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下本校という。）学則第 53 条第２項の規定に基づき，学寮の管理運営について定め，その円滑かつ適正な運営を図るものとする。

（目的）

第２条　本校の学寮は，学生の修学に便宜を供与し，かつ，その人間形成を助長して，教育目標の達成に資することを目的とする。

（名称及び構成）

第３条　本校の学寮は，高城寮と称する。

２　高城寮に，男子寮及び女子寮を置く。

（遵守事項）

第４条　学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は，本規則及び本規則に基づき定められた諸規則を守り，相互に敬愛啓発して自己及び共同生活の向上充実に務めなければならない。

（所管）

第５条　学寮の管理運営に関する事項は，校長の命を受けて，寮務主事が掌理する。

（女子寮担当教員）

第６条　女子寮の運営等に関し，寮務主事補の業務を分掌させるため，女子寮担当教員を置き，校長が任命する。

２　女子寮担当教員の任期は１年とし，再任を妨げない。

（運営委員会）

第７条　学寮の管理運営に関する事項を調整審議するため，学寮運営委員会を置く。

２　学寮運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は，別に定める。

（入寮）

第８条　学寮に入寮できる者は，本校の正規の課程を履修する学生とする。

２　入寮を希望する者は，別に定める保護者連署の「入寮願」及び「身上調書」を寮務主事を経て校長に提出するものとする。校長は，入寮希望者を選考のうえ，入寮を許可する。選考に関する必要な事項は別に定める。

３　入寮の時期は，原則として学年の始めとし，入寮許可期間は，入寮した日の属する年度の末日までとする。

４　前項の許可期間が満了した後，引き続き入寮を希望する者は，改めて第２項により入寮許可を受けなければならない。

（退寮及び懲戒）

第９条　疾病その他の理由により共同生活に適さないと校長が認めた者は，寮務主事において，帰宅を指導し，又は寮から退去させる等の措置をとることができる。

２　寮務主事は，本校の規則に違反し，又は学生の本分に反する行為のあった寮生に対し，教育上又は学寮内の安全若しくは秩序を守るために必要があるときは，学寮運営委員会で審議のうえ，校長の許可を得て，これを懲戒する。この規定に基づく懲戒は，訓告，停寮及び退寮勧告とする。

３　校長は，前項に該当する寮生に対し，寮務主事及び学寮運営委員会の意見を聴

出典：本校規則集

資料７－２－③－４　学寮運営委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学寮運営委員会規則

制　　定　　昭和５２年４月１日
最終改正　　平成１６年４月１日

（設置）
第１条　この規則は、徳山工業高等専門学校学寮規則第６条第２項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。
（任務）
第２条　委員会は、校長の命を受け、学寮に関する次の事項を審議する。
(1)　入寮及び退寮に関すること。
(2)　寮生の福祉増進に関すること。
(3)　寮生の規律保持に関すること。
(4)　寮生の指導に関すること。
(5)　学寮の防災に関すること。
(6)　寮生の安全に関すること
(7)　学寮の給食業務に関すること。
(8)　その他学寮に関すること。
（構成）
第３条　委員会は、次の委員をもって構成する。
(1)　寮務主事
(2)　寮務主事補
(3)　女子寮担当教員
(4)　１年・２年の学級担任から１名
(5)　３年から５年の学級担任から１名
(6)　学生課長
（任命及び任期）
第４条　前条に定める委員のうち、第４号及び第５号による委員の任命及び任期は、次のとおりとする。
(1)　委員は校長が任命する。
(2)　委員の任務は１年とする。ただし、補欠を生じ任命された委員の任期は前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。
２　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。
（運営）
第６条　委員長は、委員会を招集し、議長となる。
第７条　委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告し、承認を受けなければならない。
（委員以外の者の出席）

出典：本校規則集

資料７－２－③－５　寮生心得（抜粋）

寮 生 心 得

寮生は学寮規則を遵守するほか,次の各項によって秩序ある生活をしなければならない。

１．日　　課

(1) 日課時間

日課時間は共同生活の基本となるべきものであるので，寮生はつぎの時間表によって行動すること。

区　　分		時　　間	
		平　　日	休　業　日
起　　床		※７：１０	※８：００
朝 点 呼		※７：２０	※８：１０
清　　掃		７：２０～７：４０	
朝　　食		７：３０～８：２０	７：４０～８：４０
登校終了		※８：３０	
昼　　食		１２：１０～※１３：１０	１２：００～１３：００
夕　　食		１８：００～１９：３０	
入　　浴		１７：００～２２：００（２２：１０施錠）	
門限	女子	２０：００	
	男子	２１：３０	２２：００
夜点呼	女子	※２０：００	
	男子	※２１：３０	※２２：００
自習時間		２０：００～２３：３０	
消　　灯		※２３：３０	

（※印はチャイム放送）

(2) 消灯・延燈について

消灯時間（チャイム）は、ガス栓の施錠や公共場所の消灯等の点検と、寮生が各自の居室に戻り就寝の準備を行うことを促すものである。従って、これ以後、他人の部屋を訪問してはならない。また、これ以後、廊下や隣室に音声が漏れないように過ごすこと。

試験勉強のために延燈する場合は，試験開始２週間前から午前１時まで，試験中は午前２時まで延燈ができる。

出典：学生便覧

資料７－２－③－６　寮生会会則（抜粋）

徳山工業高等専門学校寮生会会則

第１章　総　　則

（名　称）

第１条　本会は徳山工業高等専門学校寮生会と称する。

（目　的）

第２条　本会は学寮規則第９条の規定により、寮務主事の指導監督のもとに規律ある共同生活を営み、自主的な寮生活を送り、寮生相互の親和をはかり、健全な学習環境を作ることを目的とする。

（構　成）

第３条　本会の会員は、徳山工業高等専門学校寮生全員をもって構成する。

（運営機関）

第４条　第２条の目的達成のため、本会につぎの機関をおく。

(1)　寮生総会
(2)　寮議会
(3)　役員会
(4)　階室会
(5)　監査委員会
(6)　選挙管理委員会

第２章　寮 生 総 会

（地　位）

第５条　寮生総会（以下「総会」という）は、本会の最高議決機関とし、寮生会長がこれを召集する。

（定期総会）

第６条　定期総会は年２回とし、４月および１０月に開催するものとする。

（臨時総会）

第７条　臨時総会は、つぎの場合開催することができる。

(1)　会員の３分の１以上の要求があったとき。
(2)　寮議会が必要と認めたとき。
(3)　役員会が必要と認めたとき。

（総会の召集）

第８条　総会の召集は、原則として５日前までに寮生会長が日時・場所・議題を掲示によって行わなければならない。

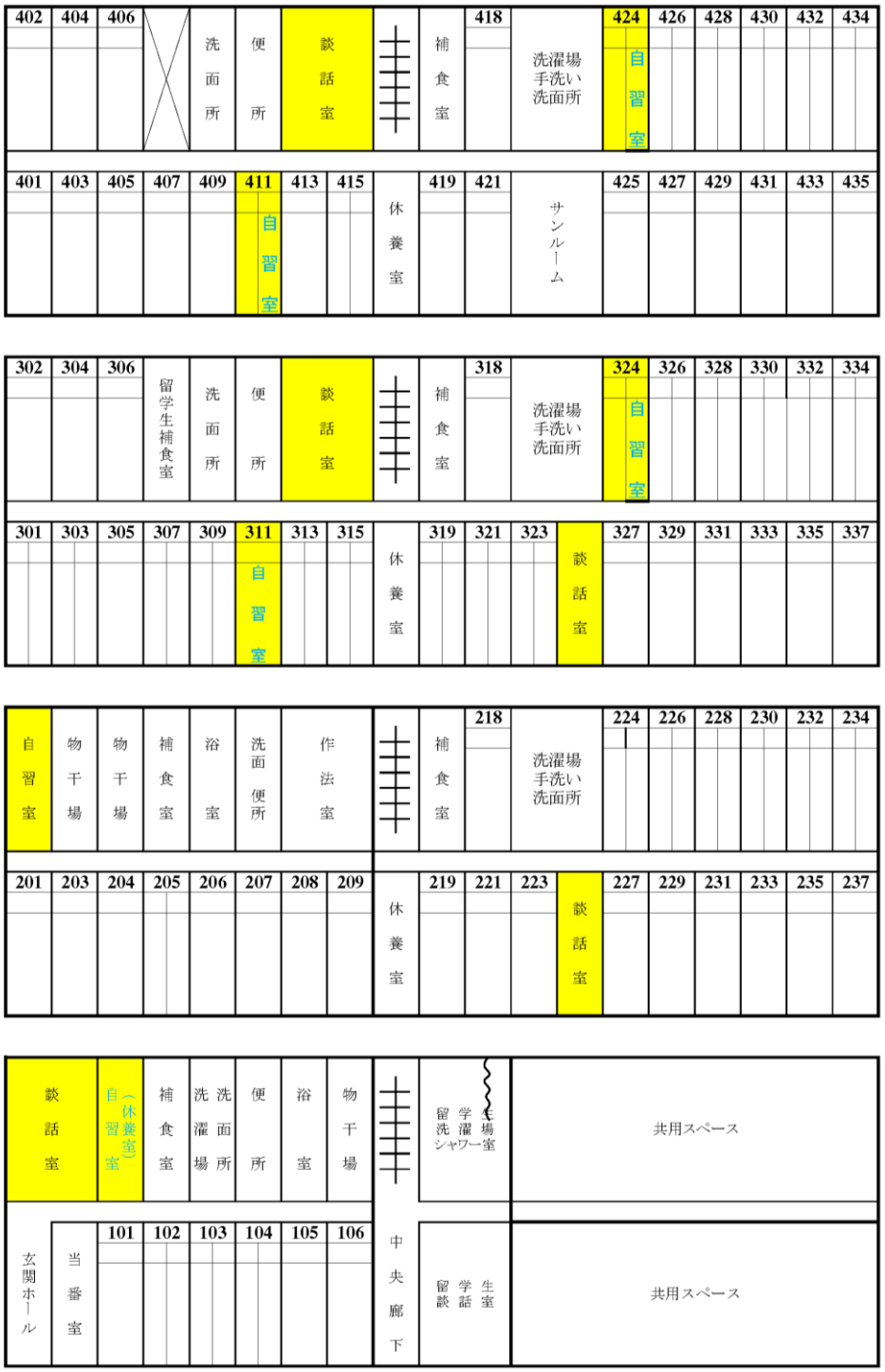
（総会の議決事項）

第９条　総会において議決を要する事項はつぎのとおりである。

(1)　会則の制定および改廃。
(2)　予算・決算の承認および当期の活動報告、次期の活動計画。

出典：学生便覧

資料７－２－③－７　自習室・談話室の整備状況



面積　談話室：29㎡　自習室：14㎡

＊ 自習室として食堂も使用している。

机の数　：　自習室各2台
利用時間：　23時30分まで

出典：寮務係資料

資料７－２－③－８　自習室内の掲示

自習室

＜利用上の注意事項＞

・自習室の鍵の管理は居室の鍵の管理に準じます.
　外出の際などはキーボックスに戻すこと.
・自習室を自習以外の目的（集会場所・荷物置き）などで
　使用してはいけません.
・自習室に布団を持ち込んではいけません.
・自習室の机等に傷をつけたり落書きをしないようにしましょう.
・自習室の交代の際は次の利用者が気持ちよく使えるように
　清掃してから引き渡すようにしましょう.

自習室の利用状況は毎朝教員が確認します.
以上の事項が守れない場合には，自習室の提供を中止する場合があります.

出典：寮務係資料

資料７－２－③－９　自習室の利用状況

自習室使用簿

327号室

月 日	学科・学年	居室	氏　名	使用時間	備考
5/20				20:00～23:30	
5/27				20:00～1:00	
6/5				20:00～1:00	
6/21				20:00～23:30	
7/8				20:00～23:30	
7/15				〃　～　〃	
7/22				〃　～　〃	
7/29				〃　～　〃	
				～	
				～	
				～	

出典：寮務係資料

資料７－２－③－１０　日課表における自習時間

高城寮日課表

	平　日	休　業　日
起　床	7:10	8:00
朝　点　呼	7:20	8:10
掃　除	7:20～7:40	
朝　食	7:30～8:20	7:40～8:40
登　校　完　了	8:30	
昼　食	12:10～13:10	12:00～13:00
夕　食	18:00～19:30	
入　浴	17:00～22:00	
門限・夜点呼	男子　21:30	男子　22:00
	女子　20:00	女子　20:00
自　習　時　間	20:00～21:30	
	22:00～23:30	
消　灯	23:30	

(2010. 6. 1～)

出典：寮務係資料

資料７－２－③－１１　勉強会出欠表

出席→○　欠席→(各自)
遅れた→△

勉強会出欠		5/21	5/22	5/23	5/24												
1年																	
ME 4名		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		カゼ	○	○	○												
		○	○	○	用事												
IE 7名		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	△	○												
		○	○	○	○												
CA 6名		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
2年																	
ME 3名		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
IE 9名																	
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
					○												
CA 5名		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○														
3年																	
ME 8名		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○		○												
		○	○	○	○												
IE 7名																	
		○	○	○	○												
			○	○	○												
		○	○	○	○												
		○															
CA 5名					○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												
		○	○	○	○												

出典：寮務係資料

資料７－２－③－１２　キーボックスメモ

寮生がキーボックスへメモを置く。

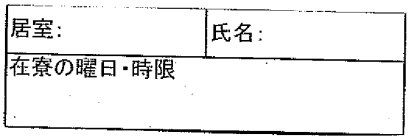
休講等



病欠

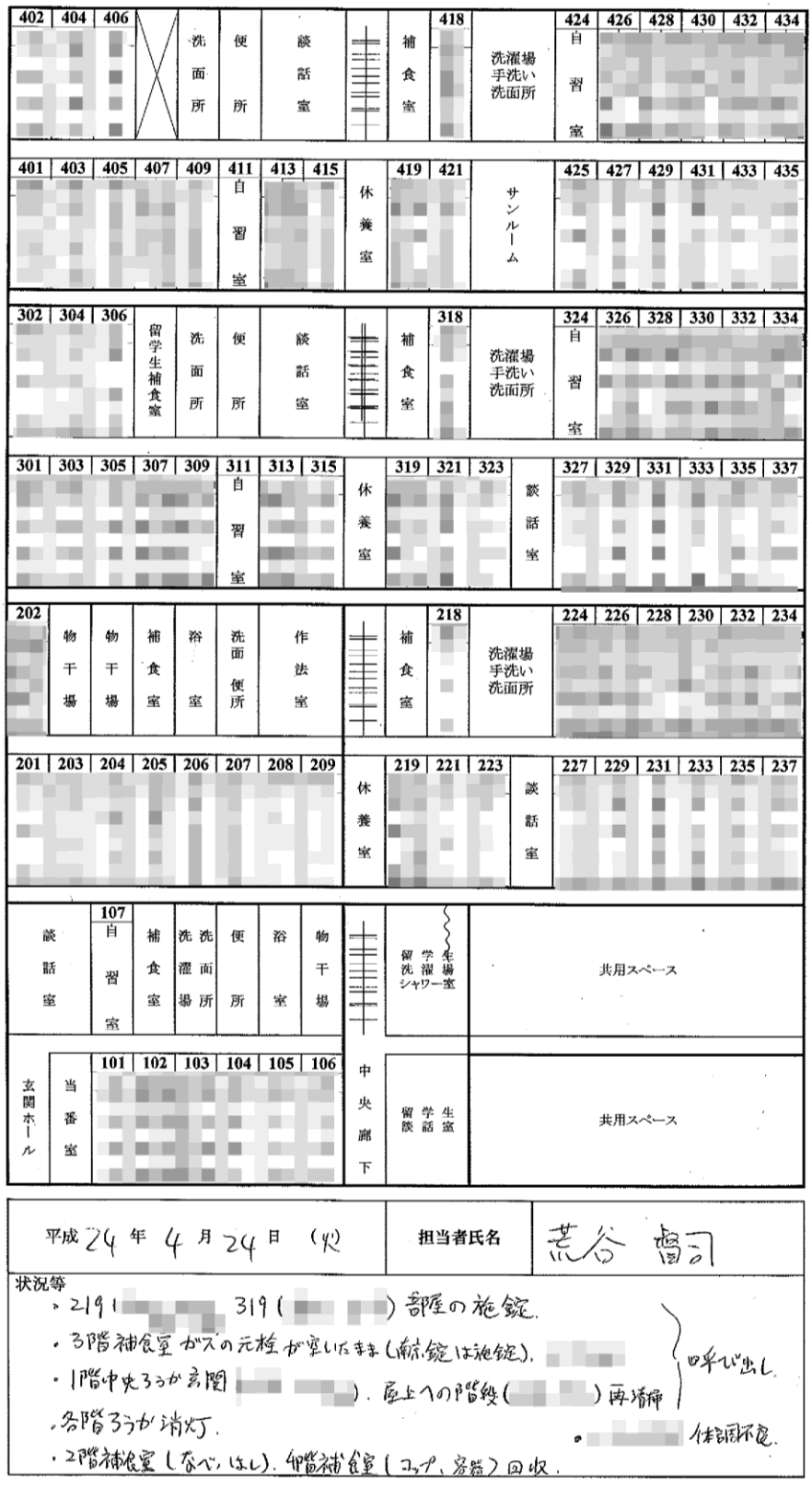


選択科目等で在寮の場合、事務室側へ貼っておくメモ。



出典：寮務係資料

資料７－２－③－１３　寮務巡回当番表



出典：寮務係資料

（分析結果とその根拠理由）

寮務主事を中心とするスタッフおよび寮生会が協力して，生活面においても勉学の面においても寮を有効な場としている。

以上のことから，学生寮が学生の生活および勉学の場として有効に機能している。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

全学科共通にサポートするキャリア教育支援室を設置し，キャリア教育支援プログラムの実施を通して機能している。キャリア教育支援室の活動やキャリア支援プログラムの内容を学生に周知徹底するため，新入生に対しては５月にキャリア教育支援室紹介を，４年生に対しては５月と１０月に講座やプログラムのガイダンスを，また専攻科１年生に対しては，１０月にプログラムのガイダンスを実施している（資料７－２－④－１～３）。

キャリア教育支援室が実施するキャリア教育支援プログラムや進路支援セミナーは，すべてキャリア教育支援室のWebサイトおよびクラス掲示によって周知している。また，プログラムに対する学生の感想は，キャリア学習履歴管理システム（通称：きゃりＰｉ）によって集積し，キャリア教育支援室スタッフおよびクラス担任が閲覧できる環境を整備している（資料７－２－④－４，５）。

クラスごとのキャリア教育や，進路指導を実施するクラス担任および専攻科担当教員との連携をはかるため，各種情報交換会や懇談会を実施するとともに，保護者に対してもその内容を周知している（資料７－２－④－６～９）。

各学科では，就職支援のための企業訪問を実施しており，ほぼ100％の就職率および進学率を達成している（資料７－２－④－１０，１１）。

資料７－２－④－１　キャリア教育支援室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校キャリア教育支援室規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）にキャリア教育支援室を置く。
（目的）
第２条　キャリア教育支援室は，低学年から専攻科まで一貫したキャリア教育支援プログラムに基づく継続的なキャリア教育支援を行うことにより，キャリア形成とキャリアプラン実現のためのサポート体制の充実・強化を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　キャリア教育支援室は，次の業務を行う。
(1)　キャリア教育支援プログラムの作成及びこれに基づく活動に関すること。
(2)　進学及び就職に関するデータベースの作成及び管理に関すること。
(3)　キャリアサポートブースの運用に関すること。
(4)　卒業生の状況把握・支援及び卒業生との連携に関すること。
(5)　その他前条の目的を達成するために必要な業務。
（組織）
第４条　キャリア教育支援室は，次の各号に掲げる職員をもって組織する。
(1)　室長
(2)　キャリアアドバイザー　若干名
(3)　事務主査
(4)　その他校長が任命する者
（室長）
第５条　室長は，本校の教員の中から校長が任命する。
２　室長は，キャリア教育支援室の業務を掌理する。
３　室長の任期は２年とし，再任を妨げない。
(キャリアアドバイザー)
第６条　キャリアアドバイザーは，本校の教員の中から校長が任命する。
２　キャリアアドバイザーの任期は２年とし，再任を妨げない。
（事務主査）
第７条　事務主査は，本校の事務系職員の中から校長が任命する。
（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか，キャリア教育支援室の運営に関し必要な事項は，別は定める。

附　則
１　この規則は，平成１６年１０月１日から施行する。
２　この規則の施行後，最初に任命される第５条第１項及び第６条第１項の職員の任期は，第５条第３項及び第６条第２項の規定にかかわらず，平成１８年３月３１日までとする。
附　則（平成２１年２月１２日制定）

出典：本校規則集

資料７－２－④－２　キャリア教育支援プログラム

平成２４年度キャリア教育支援プログラム

【徳山工業高等専門学校　キャリア教育支援室作成】

1．このプログラムは，学生への進路支援活動とキャリア教育活動の目標と具体的な活動項目を，学年毎に示すものです。学生が，有意義な学生生活を送るための動機付けを行い，本校の教育目標を達成して，的確な進路を見いだすことを支援するもので，教員の相互理解と協力のもとに計画・実施します。

2．色つき項目：キャリア教育支援室が計画実施する項目のうち，　は，クラス全員を対象とした企画，　は，希望者を対象とした企画です。

3．色無し項目：キャリア教育支援室以外で行う指導項目です。

	本科					専攻科		会議等
学年	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	１年生	２年生	
目標	高専生活の過ごし方をアドバイス・学びの楽しさを育む	キャリアガイダンス・将来の夢を見つめる	キャリアガイダンス・高専生活を振り返り，将来を考える	キャリアアップ・進路セミナー，進路を具体的に選択する	進路確定・高専生活のまとめと船出の準備	キャリアアップ・進路セミナー，進路を具体的に選択する	進路確定・専攻科生活のまとめと船出の準備	
４月	新入生オリエンテーション（教務，学生主事，各専門科，学生相談室）	オリエンテーション（教務・学生主事室，キャリア教育支援室）／クラス別ＨＲにおける生活指導　（担任）	オリエンテーション（教務・学生主事室，キャリア教育支援室）／クラス別ＨＲにおける生活指導　（担任）	オリエンテーション（教務・学生主事室，キャリア教育支援室）／クラス別ＨＲにおける生活指導，インターンシップに関する説明（担任）	オリエンテーション（教務・学生主事室，キャリア教育支援室）／進路ガイダンス（担任）	進路ガイダンス（専攻科）	進路ガイダンス（専攻科）	キャリア教育支援室会議／５年、４年担任・専攻科との懇談会
５月	(5/17) (HR) キャリア教育支援室紹介	(5/10) (HR) 講話③「高専生活の過ごし方（専攻科生のアドバイス）」	(5/24) (HR) 講話④「社会の求める人材」	キャリアガイダンス⑦／就職活動の流れ／編入学受験の流れ／情報検索について／各種講座ガイダンス	個人面接対策	インターンシップ事前教育「マナー講習」（専攻科）	個人面接対策	キャリア教育支援室会議
６月	(6/21) (HR) 講話①「高専生活の過ごし方（5年生のアドバイス）」		(6/21) (HR) キャリア・ガイダンス④ キャリアプランの作成Ⅰ					キャリア教育支援室会議／就職・進学懇談会
	（保護者会）保護者対象のキャリアガイダンス							
７月			(7/12) (HR) キャリアガイダンス⑤ キャリアプラン作成Ⅱ	（7／　）インターンシップ事前教育「マナー講習」及び「ガイダンス」				キャリア教育支援室会議
10月		(10/11) (HR) キャリアガイダンス①職業興味検査（VPI）学科別	(10/18) （HR） キャリアガイダンス⑥きゃりＰｉへ入力 インターンシップ報告を聞く	進路支援セミナーガイダンス インターンシップ報告会 Webでの SPI試験		進路支援セミナーガイダンス Ｗｅｂでの ＳＰＩ試験		キャリア教育支援室会議／４年担任・専攻科との懇談会
11月	(11/15) (HR) 講話②「本校顧問による講話」	(11/8) (HR) キャリアガイダンス②VPI検査結果と職業情報研究		セミナー①／自己分析、就活・進活メンタル		セミナー①／自己分析、就活・進活メンタル		キャリア教育支援室会議
12月		(12/13) (HR) キャリアガイダンス③VPI検査結果分析／きゃりPiへの入力		セミナー②／履歴書作成講座 講話⑥進路支援講演会「卒業生のキャリア体験談」(12/8) セミナー③④／エントリーシートⅠⅡ		セミナー②／履歴書作成講座 講話⑥進路支援講演会「卒業生のキャリア体験談」(12/8) セミナー③④／エントリーシートⅠⅡ		キャリア教育支援室会議／進路支援懇談会
１月			(1/24) (HR) 講話⑤社会で活躍している卒業生の講話（学科別）	セミナー⑤／電話 セミナー⑥／添え状 セミナー⑦／グループディスカッション対策，面接対策	講話⑦「社会人準備講話」（１月中旬）	セミナー⑤／電話 セミナー⑥／添え状 セミナー⑦／グループディスカッション対策，面接対策	講話⑦「社会人準備講話」（１月中旬）	キャリア教育支援プログラム策定会議／進路支援懇談会
２月				個人面接対策		個人面接対策		キャリア教育支援室会議
３月			編入生オリエンテーション					キャリア教育支援室会議

出典：キャリア教育支援室資料

資料７－２－④－３　プログラムの実施状況

年度	プログラム名	種類	開催日	対象学年
2011	キャリアガイダンス（4年生対象）【2011年度】	巣立ち支援	2011/05/25	4
2011	キャリアプランの作成（3年生）【2011年度】	巣立ち支援	2011/06/23	3
2011	職業興味検査（VPI）【2011年度】	巣立ち支援	2011/10/13	2
2011	【4年生】進路支援セミナーガイダンス【2011年度】	巣立ち支援	2011/11/04	4, 専1
2011	【専攻科1年】「進路支援セミナー第1回」就活・進学メンタル【2011年度】	巣立ち支援	2011/11/14	専1
2011	【4年生】「進路支援セミナー第1回」就活・進学メンタル【2011年度】	巣立ち支援	2011/11/16	4, 専1
2011	【専攻科1年】「進路支援セミナー第2回」履歴書の美しく見える書き方講座【2011年度】	巣立ち支援	2011/11/28	4, 専1
2011	【4年生】「進路支援セミナー第2回」履歴書の美しく見える書き方講座【2011年度】	巣立ち支援	2011/11/30	4, 専1
2011	【専攻科1年】「進路支援セミナー第3回」エントリーシートの書き方講座Ⅰ【2011年度】	巣立ち支援	2011/12/05	専1
2011	卒業生によるキャリア体験談【2011年度】	巣立ち支援	2011/12/10	4, 専1
2011	【4年生】「進路支援セミナー第3回」エントリーシートの書き方講座Ⅰ【2011年度】	巣立ち支援	2011/12/14	4, 専1
2011	【専攻科1年】「進路支援セミナー第4回」エントリーシートの書き方講座Ⅱ【2011年度】	巣立ち支援	2011/12/19	専1
2011	【4年生】「進路支援セミナー第4回」エントリーシートの書き方講座Ⅱ【2011年度】	巣立ち支援	2011/12/21	4, 専1
2011	【4年生】「進路支援セミナー第5回」各種問い合わせ等の「電話応対」講座【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/11	4, 専1
2011	社会人準備講話（5年生・専攻科2年生対象）【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/13	5, 専2
2011	【専攻科1年】「進路支援セミナー第5回」各種問い合わせ等の「電話応対」講座【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/16	専1
2011	【4年生】「進路支援セミナー第6回」書類に同封する「添え状」の書き方講座【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/18	4, 専1
2011	卒業生講話（3年生対象）【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/19	3
2011	【専攻科1年】「進路支援セミナー第6回」書類に同封する「添え状」の書き方講座【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/23	専1
2011	【4年生】「進路支援セミナー第7回」グループディスカッション，面接対策講座【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/25	4, 専1
2011	【専攻科1年】「進路支援セミナー第7回」グループディスカッション，面接対策講座【2011年度】	巣立ち支援	2012/01/30	専1
2011	SPI	巣立ち支援	随時受付	4, 専1
2011	専攻科、大学、大学院　説明会	巣立ち支援	随時受付	4, 5, 専1

出典：キャリア教育支援室資料

資料７－２－④－４　キャリア教育支援室ホームページ



出典：本校 Web サイト

資料７－２－④－５　キャリア学習履歴管理システム（きゃりＰｉ）



出典：キャリア教育支援室資料

資料７－２－④－６　担任等との連携

平成２３年度　「４年生担任・専攻科との懇談会」議事録

日　時：5月6日金曜日　１７：１５～１８：００　　場　所：１階会議室
出席者：西村（ME４担任），重村(ＩＥ４担任)，橋本（ＣＡ４担任），西尾(専攻科)事)，
キャリア教育支援室

【議題】

１．４年生、専攻科１年生対象「キャリア教育支援プログラム」について
１）本年度のプログラムについて、日程と内容を説明した
２）例年の様子なども、担任と専攻科幹事に伝えた
３）

２．４年生「キャリア教育支援プログラム」について
日　時：5月２５日水曜日　１６：１０～１７：３０
場　所：メディアホール
内　容：１．卒業後のこと・・・今からどう考えていく？！（担当：支援室／一色）
２．就職試験の流れ（担当：支援室／一色）
３．大学進学と編入学試験（教務主事補／中川主事補）
４．専攻科進学とその後について（天内専攻科長）

３．学生の状況に関する情報交換
１）各学科から、現在の学生の状況と就職希望と進学希望の割合の報告があった
２）専攻科生の動向についても、現時点での就職希望と進学希望の割合について報告があった

４．その他
特になし

出典：キャリア教育支援室資料

資料７－２－④－７　担任等との連携

平成２３（２０１１）年度　キャリア教育支援プログラム策定会議　／　進路支援懇談会　議事録

日 時：平成２４（２０１２）年3月６日火曜日　卒業・修了認定会議終了後（１４：３０～１５：３０）
場 所：メディアホール
出席者：池田、佐賀、田村、天内、国重、櫻本、山田、上、長戸、大橋、高橋、米田、北村、守川、目山、小田、髙山、古田、西村、重村、橋本、義永、島袋、石田、新田、西尾、前川、柏倉、伊藤、百田、海田、笠置、張間、キャリア教育支援室
欠席者：藤田

【 議 題 】

１．本年のキャリア教育支援室の活動状況について［報告］　資料１：実施状況詳細

１）「キャリア教育支援プログラム」実施状況について、キャリア教育支援室から説明があった。

２．平成２４（２０１２）年度の「キャリア教育支援プログラム(案)」について［審議］

資料２：プログラム一覧

１）今年度の状況をふまえて、来年度のプログラム実施時期について審議をした。
２）１年生～３年生のプログラムはHR時間を使用するため、教務主事室、担任、学生相談室、キャリア教育支援室で事前に話し合い、全体のバランスをとる必要があるとの意見が寄せられた。
⇒3月９日１０時３０分～教務主事室において、教務主事、１年生～３年生担任（来年度の学主任）、学生相談室長、キャリア教育支援室長（新旧）で調整することになった。

３．その他（お知らせ等）

１）きゃりＰｉ活用について
（1）HRでの活用事例として、1月２６日（木）に1年2組で実施した“きゃりｐｉ活用＊”について、支援室から報告があった。
＊きゃりＰｉ内のポートフォリオに、１年間の活動記録や感想を打ち込む

２）面接練習用ビデオ機材について
（1）面接で苦戦する学生が増えていることから、練習時にビデオ撮影をして学生に自身の様子を自覚させ改善に結びつけるために、面接練習時にビデオ撮影をすることをことにした旨、支援室からお知らせがあった。
（2）ビデオ機材は、キャリアサポートブースに保管。サポートブースでの使用に限る。
（3）撮影した映像は、学生にアドバイスをした後消去する。

４．学生のキャリア教育に関しての意見交換

出席者から、次の意見が寄せられ意見交換をした。
１）HRの予定は詰まっている状態だが、将来のことを考えるきっかけを作るのであれば、１年生の後半にもう一つプログラムを設定してもよいのではないか。
２）年度はじめのオリエンテーションで、キャリアモデルを示し、“ロールモデルの学生見える化”をしてもよいのではないか。
３）現実を見て考えさせることも必要だが、夢も語ることのできるプログラムがあってもよいのではないか。
４）学校で作成している履歴書・エントリーシート（徳山高専様式）の、項目の順番を見直してはどうか。
（書き手側としては既存の順番でよいが、読み手側としては志望動機を一番に見たい）

【本会議の内容と構成員について(説明)】

１．「キャリア教育支援プログラム策定会議」　※次年度の進路支援プログラムの策定を行う会議
構成員：１年生～５年生クラス担任代表、専攻科長・幹事、教務主事室、学生主事室、寮務主事室、学生相談室、キャリア教育支援室

２．「進路支援懇談会」　※キャリア教育支援プログラムおよび進路関係の情報の確認をする会議
構成員：１年生～５年生クラス担任、各学科主任、専攻科長、教務主事、学生主事、寮務主事、学生相談室長、キャリア教育支援室

出典：キャリア教育支援室資料

資料７－２－④－８　後援会総会次第

総　会　資　料
平成２３年 ７ 月 ２ 日

平成２３年度徳山工業高等専門学校
後　援　会　総　会　次　第

日　時　　平成２３年 ７ 月 ２ 日（土）　１３：００～
場　所　　徳山工業高等専門学校　メディアホール

次　第

１．開　　会
２．会長挨拶
３．校長挨拶
４．議長選出
５．議案審議
（１）平成２２年度決算（案）について　…資料１，２，３
（２）監査報告
（３）役員の退任について　…資料４
（４）役員の選出について　…資料５
一、会長・副会長の承認
二、理事・監事の委嘱
（５）平成２３年度予算（案）について　…資料６
６．議長解任
７．そ の 他
（１）教務主事室より　…資料７
（２）学生主事室より　…資料８
（３）キャリア教育支援室から　…資料９
（４）就職・進学状況について　…資料 10
（５）預り金収支報告について　…資料 11
８．閉　　会

※別添資料
徳山工業高等専門学校後援会会則　…資料 12

出典：後援会総会資料

資料７－２－④－９　後援会総会資料

後援会総会参考資料　　2011/07/02

１．キャリア教育支援室について

キャリア教育支援室は、学生の〈キャリア形成〉と、〈キャリアプラン〉の実現を支援しているところです。

具体的には・・・。

（1）学生の〈キャリアプラン〉を実現する方法を示し、様々な形で支援・教育しています。

（2）学生に、自分自身の〈キャリア〉について積極的に考えてもらうために、本科１年生から専攻科２年生までの全学生を対象にした「キャリア教育支援プログラム」を作成し、実施しています。
（キャリア教育支援プログラム一覧参照）

（3）キャリア教育支援プログラムだけでなく、学生のみなさんが、自ら意欲的に学ぶ姿勢を引き出し、社会の中で自分自身にどれだけの価値があるかを探しそれを確信する３つの「キャリア育成プログラム」を準備しています。

３つのキャリアプログラム
- その① 感性・表現力育成プログラム
- その② 社会性育成プログラム
- その③ 巣立ちの準備支援プログラム

（4）頑張ってきたこと（成果）を一年ごとに自身で容易に確かめることができる環境（キャリア ICカードを用いた「キャリア学習履歴管理システム」（愛称：きゃりＰｉ）を用意しています。

1）きゃり Pi では、キャリア教育支援プログラムへの参加申込みのほか、「プログラムを受講ごと」「積極的にチャレンジしたこと（各種コンテスト参加、クラブ活動、学生会・寮生会活動、各種イベントの企画運営など）」にマイルがたまり、集約したマイルをキャリア学修単位に換えることができます。　⇒マイレージ制と呼んでいます。

2）きゃりＰｉの中には、学生自身の歩みを記録する「ポートフォリオ」の機能もあります。

3）前年度の成績と出欠席の状況の確認、求人情報・進学情報の検索機能もあります。

２．「キャリア」とは？

現在、キャリア（career）は、職歴という意味で使われることが多くあります。しかし、それだけではないのです。本当の意味は、かなり深いのです!

もともとは、競馬場で馬車が走るときにできる轍を意味していました。そこから、出発点からゴールまでのコース（道筋）という意味で使われようになりました。それが、太陽が毎日通る道筋、日の出から日没までの道筋を意味し、さらに、人が生まれて死ぬまでの道筋に例えられるようになったのです。

このような解釈をたどり、
「（職業を中心とした）生き方のプロセス」を指すようになりました。これが、〈キャリア〉ということばの意味です。

３．「キャリア教育」とは?

「すでに今まで歩んできた自分のキャリ（道筋）について振り返り、これからのキャリアを自分で意識して歩んでいくために勉強してみよう！」・・・これがキャリアの勉強、すなわち「キャリア教育」です。

キャリア教育には、「高専での勉強（一般科目＆専門科目＋部活動等）」「世の中での次分の役割とそれを実現する方法を考える」「自分が納得できる生き方をするための勉強＝人生の勉強、生きる道筋を造るための勉強」が含まれます。

----------☆----------

キャリア形成とキャリアプランの実現は、「こうなりたい自分」を“想像すること”と“考える”ことから始まります。

出典：後援会総会資料

資料７－２－④－１０　企業訪問件数

平成23年度就職対策に係る企業訪問一覧表

学　科	月日	訪問先企業等	所在地
機械電気工学科	4月14日	日本オイルシール(株)	東京都
	4月14日	日本海洋掘削	東京都
	4月14日	日新製鋼本社	東京都
	4月15日	東芝エレベーター	東京都
	6月16日	東芝エレベーター	東京都
	6月16日	日本海洋掘削	東京都
	6月16日	日新製鋼本社	東京都
	6月17日	ジェイペック	東京都
	6月17日	日本オイルシール(株)	東京都
	7月27日	コベルコ建機	広島市
	7月28日	三菱ビルテクノ	東京都
	7月29日	新興プランテック	東京都
	9月20日	日新製鋼堺製造所	大阪府
	9月21日	日新製鋼大阪製造所	大阪府
	9月21日	新日鉄広畑製鉄所	姫路市
	9月22日	三菱電機通信機製作所	尼崎市
	10月26日	ディスコ桑畑工場	西条市
	10月27日	三菱化学水島工場	水島市
	10月28日	田辺三菱製薬本社	大阪市
	12月7日	日新製鋼本社	東京都
	12月8日	東芝エレベーター	東京都
	12月8日	三菱電機ビルテクノ	東京都
	12月8日	三菱電気システムサービス	東京都
	12月9日	日本海洋掘削	東京都
	12月9日	ジェイペック	東京都
	1月11日	田辺三菱製薬大阪本社	大阪府
	1月12日	京セラ野洲工場	京都府
	1月13日	新興プランテック	東京都
	1月13日	NOK	東京都
	1月13日	日新製鋼市川製造所	東京都
情報電子工学科	9月6日	日東電工(株)豊橋事業所	豊橋市
	9月7日	アイシン・コムクルーズ(株)	名古屋市
	9月7日	日本システム開発(株)名古屋本社	名古屋市
	9月15日	(株)東芝	東京都
	9月16日	(株)富士通ゼネラル	川崎市
	9月16日	(株)富士通エフサス	川崎市
	9月16日	(株)日立アドバンストデジタル	横浜市
	9月16日	富士通(株)	川崎市
	12月8日	(株)KDDIﾃｸﾆｶﾙｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｻｰﾋﾞｽ	東京都
	12月9日	(株)NTTデータ・フロンティア	東京都
	12月9日	オムロンフィールドエンジニアリング(株)	東京都
	12月20日	(株)富士通九州システムズ	福岡市
	12月26日	リコーテクノシステム(株)	広島市
	12月26日	(株)エネルギア・コミュニケーションズ	広島市
	3月27日	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	豊田市
	3月27日	アイシン・エンジニアリング(株)	刈谷市
	3月28日	デンソーテクノ(株)	大府市
	3月28日	(株)トヨタコミュニケーションシステム	名古屋市
土木建築工学科	8月4日	(株)NIPPO西日本管理支社	広島市
	9月21日	建築資料研究所/日建学院	東京都
	11月28日	(株)NIPPO	東京都
	11月28日	ライト工業(株)	東京都
	11月29日	東洋建設(株)	東京都
	12月13日	建築資料研究所/日建学院	東京都
	1月27日	採用・就職担当者意見交換会	山口市
	3月14日	国家公務員採用試験制度説明会	広島市
	3月30日	(株)横河ブリッジホールディングス	東京都
	3月30日	三建設備工業(株)	東京都
	3月30日	前田道路(株)	東京都

出典：学生課資料

資料７－２－④－１１　就職先・進学先一覧

平成２２年度　就職・進学状況　　平成２３年３月末現在

学　科	機械電気工学科					情報電子工学科					土木建築工学科				
	男子	女子	合計	県内就職	人数	男子	女子	合計	県内就職	人数	男子	女子	合計	県内就職	人数
在学生	**39**	**1**	**40**			**28**	**10**	**38**			**30**	**17**	**47**		
就職	27	0	27			20	7	27			9	9	18		
進学その他	13	1	14			8	3	11			21	8	29		
就職先	(株)IHIエアロスペース･エンジニアリング				1	アイシン・コムクルーズ(株)				1	(株)鹿島クレスウエスト				1
	宇部マテリアルズ(株)			宇部市	1	出光興産(株)			周南市	1	産機設計(有)				1
	NOK(株)				1	宇部興産(株)			宇部市	1	三建設備工業(株)				1
	関西電力(株)				1	(株)宇部情報システム			宇部市	1	シマダ(株)			山口市	1
	(株)カンセツ				1	NTTコムウェア西日本(株)				1	(有)しらい			周南市	1
	(株)きんでん				1	(株)NTTデータ				1	中国電力(株)				1
	呉興業(株)				1	大阪シーリング印刷(株)				1	東海旅客鉄道(株)				1
	(株)ジーエス･ユアサコーポレーション				1	オムロンフィールドエンジニアリング(株)				1	東京電力(株)				1
	西部石油(株)			山陽小野田市	1	関西電力(株)				1	東ソー(株)			周南市	1
	武田薬品工業(株)			光市	1	(株)KDDIテクニカルエンジニアリングサービス				1	西日本高速道路(株)				2
	田辺三菱製薬工場(株)				1	(株)KOUZIRO			柳井市	1	西日本旅客鉄道(株)				1
	中国電力(株)				2	コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)				1	(株)美建築設計事務所			宇部市	1
	(株)デザインネットワーク				1	ダイキン工業(株)				1	前田道路(株)				1
	東海旅客鉄道(株)				1	中国電力(株)				1	ライト工業(株)				1
	東京電力(株)				1	東ソー・ハイテック(株)			周南市	1	若築建設(株)				1
	(株)東芝社会システム社				1	東洋ヒューム管(株)			山口市	1	岩国市			岩国市	1
	東洋鋼鈑(株)			下松市	1	日電工業(株)				1	周南市			周南市	1
	(株)トクヤマ			周南市	1	日本ゼオン(株)徳山工場			周南市	1					
	TOTO(株)				1	日立交通テクノロジー(株)			下松市	1					
	日本モレックス(株)				1	(株)日立国際電気				1					
	日本ゼオン(株)			周南市	2	富士通(株)				1					
	(株)日立国際電気サービス				1	富士通関西中部ネットテック(株)				1					
	(株)日立製作所				1	(株)富士通九州システムズ				1					
	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所				1	(株)フリーピット				1					
	周南市			周南市	1	ミヨシ油脂(株)				1					
						(有)森板金製作所			萩市	1					
						安川コントロール(株)				1					
進学先	徳山高専専攻科				7	徳山高専専攻科				4	徳山高専専攻科				21
	（うち１名就職進学）					東北大学経済学部				1	京都工芸繊維大学工芸科学部				1
	東北大学工学部				1	山形大学工学部				1	長岡技術科学大学工学部				1
	千葉大学工学部				1	宇都宮大学工学部				1	徳島大学工学部				1
	長岡技術科学大学工学部				1	筑波大学情報学群				1	熊本大学工学部				2
	岡山大学工学部				1	豊橋技術科学大学　知識情報工学系				1	徳山高専研究生				2
	山口大学人文学部				1	山口大学工学部				1					
	宮崎大学工学部				1	専門学校				1					

専攻科

専攻	機械制御工学専攻					情報電子工学専攻					環境建設工学専攻				
	男子	女子	合計	県内就職	人数	男子	女子	合計	県内就職	人数	男子	女子	合計	県内就職	人数
在学生	**10**	**0**	**10**			**10**	**0**	**10**			**18**	**2**	**20**		
就職	7	0	7			5	0	5			12	1	13		
進学その他	3	0	3			5	0	5			6	1	7		
就職先	(株)サンテック			周南市	1	(株)KDDIテクニカルエンジニアリングサービス				1	時盛建設(株)			光市	2
	千代田化工建設(株)				1	(株)日立プラントメカニクス			下松市	1	三浦工業(株)				1
	日新製鋼(株)				1	富士通(株)				1	洋林建設(株)			周南市	1
	(株)日立製作所				1	(株)山武				1	山口県			山口市	1
	日立交通テクノロジー(株)			下松市	1	リコーテクノシステムズ(株)中国支社				1	山口県警察			山口市	1
	三菱重工業(株)				2						岩国市			岩国市	1
											周南市			周南市	1
											光市			光市	1
											防府市			防府市	2
											広島市				2
進学先（大学院）	岡山大学大学院自然科学研究科				1	筑波大学大学院システム情報工学研究科				1	長岡技術科学大学大学院工学研究科				1
	九州大学大学院総合理工学府				2	神戸大学大学院システム情報学研究科				1	東京工業大学大学院総合理工学研究科				1
						神戸大学大学院経済学研究科				1	名古屋工業大学大学院社会工学専攻				1
						九州大学大学院統合新領域学府				1	京都大学大学院工学研究科				1
						広島市立大学				1	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科				1
											九州工業大学大学院工学府				1
											徳山高専研究生				1

出典：後援会総会資料

（分析結果とその根拠理由）

従来の学科ごとの進路指導に，キャリア教育支援室による全学科・全学年対象のサポートが加わることにより，進路に関する質の高いサポートが提供できている。キャリア学習履歴管理システムに入力されたキャリア教育支援プログラムに対する学生の感想から，プログラムに組み込まれている各種講座を受講した学生が高い満足度を持っていることが分かる。

以上のことから，就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学生の学習および生活に対する支援が，クラス担任および学生相談室からの適切なニーズの汲み上げだけでなく，教務・学生・寮務の各主事室との情報共有によって適切に実施されている。

従来の学科ごとの進路指導に，キャリア教育支援室による全学科・全学年対象のサポートが加わることにより，進路に関する質の高いサポートが提供できている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準７の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスを全学生に対して整備・実施している。

学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制は，クラス担任および学生相談室を中心に整備されている。

資格試験や検定試験，外国留学のための支援体制は，十分機能している。

留学生，編入学生に対しては，事前指導や補習を行い，本校の環境に適応できるようにするための学習支援を提供している。

課外活動に対する支援体制は充実している。

学生の生活，経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制は，クラス担任および学生相談室を中心に多面的に機能し，支援実績も十分上がっている。

留学生に対しては，施設面だけでなく，留学生担当教員，チューターの複数のサポートネットワークが形成され，十分機能している。また，障害をもつ学生への支援体制も整えている。

学生寮は，寮務主事を中心とするスタッフおよび寮生会が協力して，生活および勉学のための有効な場としている。

進路指導については，従来の学科ごとの指導に，キャリア教育支援室による全学科・全学年対象のサポートが加わることにより，支援のネットワーク化が進み，質の高いサポートが提供できている。また，キャリア教育支援プログラムに組み込まれている各種講座に対して，学生は高い満足度をもっている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

平成１６年４月に独立行政法人化され，本校の教育内容を達成するために国から譲り受けた財産として次に掲げる施設・設備を承継し，維持保全に努めながら有効に活用すると共に，教育環境の整備に向けた保守・整備を計画的に行っている。

校舎については，施設配置図（資料８－１－①－１）のとおりである。

校舎改修工事に合わせ順次，耐震補強を図り，平成２３年度の専門科目棟(東)改修により，すべての建物の耐震補強が完了し，校舎および学生寄宿舎には，エアコンが設置されている。

主たる施設の収容数等は，(b)各学年別教室一覧および(c)主な共通教室一覧に示すとおりである。

施設の利用案内については，本校Webサイト（資料８－１－①－２）で学内外に紹介している。

主な共通教室は，授業時間割（資料８－１－①－３）に基づき一週間に８コマから26コマ授業で使用されるほか，講演会等に活用されている。

実習工場は，学生の工作実習等で使用しており，旋盤等の機械・器具を使用することから，利用者の安全確保のため，初めて利用する１年生には，実習工場の利用方法等の説明（資料８－１－①－４）を行い，さらに「実験実習安全必携」（資料８－１－①－５）を配布して安全確保の徹底を図っている。

教室・管理棟玄関，学生玄関および福利厚生センター等には段差解消スロープを設置し，車椅子での利用を可能とするとともに，教室・管理棟や専門科目棟にはエレベーターを設置し，障がいのある学生等の利用者が円滑に利用することができる。また，身障者用トイレも設置している（資料８－１－①－６）。

専門科目棟屋上には，太陽光発電のための60ｋｗ太陽光パネルを設置のほか，廊下や外灯の照明をLED電球に順次交換し，人感センサーを設置するなど，省エネルギー対策を行っている。さらには，学生会の協力のもとゴミの分別収集や節電への取組（資料８－１－①－７）に努めており，光熱水量については，対前年度と比較検討を行い，省エネルギーに対する意識の啓発を行うなど，環境面への配慮に取り組んでいる。

（ａ）主な建物（資料８－１－①－１）および内訳

・教室・管理棟（１～４年生教室，物理実験室，化学・生命科学実験室，ICT 教室，演習室，教員室，事務室等）
・専門科目棟（実験室，CAD 演習室，設計製作室，開発型電算機室，第１・第２スタジオ型演習室，教員室等）
・図書館（閲覧室，書庫，事務室，保健室，学生談話スペース等）
・専攻科棟（実験室，講義室，教員室等）
・テクノ・リフレッシュ教育センター（研究室，多目的研修室等）

・情報処理センター（第１・第２パソコン室等）
・実験実習棟（実験室，工作室，機械工場等）
・メディアホール（視聴覚室，機器室）
・体育施設（第一・第二体育館，剣道場，柔道場，プール，庭球場，野球場，陸上競技場等）
・学生寄宿舎（男子寮，女子寮，食堂，浴室，談話室，補食室，事務室等）
・福利厚生センター（食堂，集会室，研修室等）
・合宿研修施設（研修室，宿泊室，教員室等）

（ｂ）各学年別教室一覧

名　称	面積(㎡)	収容数	クラス等
教　室	９０	４０	１年１組
教　室	９０	４１	１年２組
教　室	９０	４１	１年３組
教　室	９０	４０	機械電気２年
教　室	９０	４３	情報電子２年
教　室	９０	３７	土木建築２年
教　室	９０	４１	機械電気３年
教　室	９０	４７	情報電子３年
教　室	９０	４７	土木建築３年
教　室	９０	４４	機械電気４年
教　室	９３	４３	情報電子４年
教　室	９０	４３	土木建築４年

（ｃ）主な共通教室一覧

名　　称	面積(㎡)	収容数	月	火	水	木	金
第１パソコン室	１２８	５０	４／３	２／２	２／３	４／１	２／３
第２パソコン室	１１２	５０	４／２	４／２	４／３	４／２	２／４
講義室１（専攻科）	３５	２５	－／２	２／２	２／２	－／－	２／４
講義室２（専攻科）	３５	２４	２／－	２／－	２／２	２／－	４／４
講義室３（専攻科）	３５	２２	－／１	２／－	２／－	－／２	４／４
ICT 教室	８４	４８	－／－	１／３	１／２	１／２	２／２
メディアホール	１８１	１４４	－／－	－／－	２／－	４／－	－／－
物理実験室	８４	５４	４／－	－／２	２／－	２／２	－／－
化学・生命科学実験室	８４	５４	２／２	２／２	４／－	－／－	－／－
留学生ゼミ室（講義室）	１４	５	－／２	２／－	２／－	－／－	－／４
多目的研修室	９７	５４	３／－	－／２	３／－	２／３	－／－
CAD 演習室	１３６	５０	２／３	２／３	４／２	２／２	４／３

設計製作室	１３５	６０	４／２	４／２	４／２	４／２	２／２
開発型電算機室	１２２	５０	３／３	３／３	４／２	４／２	２／２
第１スタジオ型演習室 CW	８７	５６	２／２	４／－	４／—	－／－	２／－
第１スタジオ型演習室 E	５８	４０	２／－	４／２	－／２	４／２	２／２
第１スタジオ型演習室 W	５８	５４	－／－	－／－	－／－	４／－	４／－
第２スタジオ型演習室 E	６８	４８	４／－	２／－	４／２	２／－	４／－
第２スタジオ型演習室 W	６８	４８	１／３	３／３	－／２	２／２	－／２
電子工学実験室	１３６	５２	－／－	１／３	３／３	２／２	４／４
演習室	６９	５４	２／－	２／２	－／－	４／３	４／－

※（稼働状況　月曜日～金曜日のコマ数，午前／午後）

（ｄ）共通教室の主な設備

・第１パソコン室　パソコン 50 台，プリンター２台，プロジェクター２台，音響設備，電動スクリーン２台，電動ブラインド
・第２パソコン室　パソコン 50 台，プリンター２台，プロジェクター２台，音響設備，電動スクリーン２台，電動ブラインド
・講義室１（専攻科）　スクリーン，プロジェクター，テレビ，ビデオ，OHP
・講義室２（専攻科）　スクリーン，プロジェクター，テレビ，ビデオ，OHP，CS・BS チューナー，パソコン１台，モニターテレビ５台，ブルーレイディスク
・講義室３（専攻科）　スクリーン，プロジェクター，テレビ，ビデオ，OHP
・ICT 教室　実験台，音響設備，プロジェクター，電動スクリーン
・メディアホール　LAN モジュラーコンセント付きデスク，DVD プレーヤー，VHS ビデオデッキ，スライド式ホワイトボード，電動ブラインド，プロジェクター，電動スクリーン
・物理実験室　プロジェクター，電動スクリーン，電流計 12 台，電圧計 12 台，比電荷測定器２台，直流電源６台，ノートパソコン 12 台，はく検電器 12 台，誘導コイル，電子天秤，力学台車 20 台
・化学・生命科学実験室　実験台（水栓，ガス，コンセント付き）７台，ドラフトチャンバー２台，流し台，オートクレーブ，危険物保管庫２台，薬品庫，プロジェクター，電動スクリーン，分光光度計，真空計，キセノン光源，上皿天秤，顕微鏡，純水製造装置，電気定温乾燥機，ガスクロマトグラフ
・多目的研修室　遠隔講義システム（プロジェクター２台，カメラ，スピーカー２台，スクリーン２台他）音響設備，電動スクリーン，プロジェクター，ワイヤレスアンプ，OHP
・CAD 演習室　パソコン 51 台，プロジェクター２台，音響設備，電動スクリーン２台
・設計製作室　プロジェクター２台，音響設備，電動スクリーン２台
・開発型電算機室　パソコン 50 台，プロジェクター２台，音響設備，電動スクリーン，レーザープリンター２台
・第１スタジオ型演習室 E　プロジェクター，音響設備，電動スクリーン

・第１スタジオ型演習室Ｗ　プロジェクター，音響設備，電動スクリーン
・第２スタジオ型演習室 Ｅ　プロジェクター２台，液晶ディスプレイ２台，音響設備，電動スクリーン２台
・第２スタジオ型演習室Ｗ　プロジェクター２台，音響設備，電動スクリーン２台
・電子工学実験室　ノートパソコン 27 台，プロジェクター，電動スクリーン，音響設備，オシロスコープ 20 台，ファンクションジェネレータ 13 台，直流電源装置 40 台
・演習室　電動スクリーン，プロジェクター，OHP，音響設備，レコードプレーヤー，DVD プレーヤー，ビデオデッキ，レーザーディスク，CD プレーヤー

（ｅ）施設の整備（工事・営繕関係）一覧

昭和50年　3月	本校舎，寄宿舎，体育館等(第1期工事竣工)
昭和51年　3月	専門科目棟，実験実習棟，電子計算機室，図書館等(第2期工事竣工)
昭和52年　3月	陸上競技場，野球場工事竣工
昭和57年　3月	福利厚生施設，柔道場工事竣工
平成　3年　3月	寄宿舎の一部を改修し，女子寄宿舎を設置
平成　6年　3月	女子寄宿舎を増設
平成　6年　6月	校内緑化，校内道路等拡幅，陸上競技場等改修工事竣工
平成　6年11月	テクノ･リフレッシュ教育センター工事竣工
平成　9年　3月	専攻科棟新営工事竣工
平成11年　7月	視聴覚棟(メディアホール)新営工事竣工
平成11年　8月	太陽光発電設備を設置
平成13年　3月	渡り廊下新営その他工事
平成17年　3月	教室･管理棟校舎外壁改修工事
平成18年　3月	校舎空調設備改修工事
平成20年　3月	教室･管理棟，図書館，情報処理センター耐震改修工事，玄関前道路拡幅
平成22年　2月	専門科目棟(西)耐震改修工事
平成22年　3月	実験実習棟改修工事，校内埋設配管更新
平成24年　3月	専門科目棟(東)耐震改修工事

（ｆ）主要な備品資産明細一覧

①一般科目

１）全自動Ｘ線回折装置（リガク RINT-Ultima）

・試料にＸ線を照射して分析・構造を解明する装置

・主な用途：研究用―層状チタン酸塩の合成。教育用－情報電子工学総合演習

②機械電気工学科

１）制御教育実習システム（オークママシニングセンター VR-40A）

・自動工具交換付金属加工機械

・主な用途：授業，実習

２）コンピュータ制御セラミックス試験機（３点４点曲げ試験治具付き）

・高温および室温下におけるセラミックおよび金属材料の機械的特性解析

・主な用途：卒業研究，特別研究

３）複合負荷精密材料試験機（島津オートグラフ AG-100KNES）

・金属材料の引っ張りおよびねじり強度を測定する試験機

・主な用途：教育用－共析鋼の低サイクル疲労寿命の関係（卒業研究）工学実験，
研究用－ラジカル窒化を施した高強度鋼の疲労特性と延性の関係

４）電磁環境計測システム（米国アジレン社，新川電機）

・低周波から高周波まで各種のシールド材料の遮蔽効果を計測し LSI 基板から放出される電磁波評価が可能

・主な用途：教育用－工学セミナー，卒業研究
研究用－専攻科総合実験，鋼板の渦電流探傷，導体板の速度測定

５）極表面性状分析装置

・ナノメートルオーダーでの材料表面の分析（材料極表面の機械的性質の計測，形状測定および元素分析）が可能な装置

・主な用途：研究用－卒業研究，特別研究
外部からの観察依頼への対応

６）ワイヤ放電加工機

・直径 0.2 ㎜の黄銅製ワイヤを電極とし，放電による熱で金属を溶かし加工する工作機械

・主な用途：授業および実習，研究（教員研究，卒業研究，特別研究）やロボコンの製作依頼，校内見学会のデモ

７）立形マシニングセンタ（オオクマ(株)MU-400VA）

・自動工具交換装置を備え，５つの制御軸（Ｘ，Ｙ，Ｚ，Ａ，Ｃ軸）を持った複雑形状の部品を効率よく高精度に加工可能なフライス盤

・主な用途：授業および実習，研究（教員研究，卒業研究，特別研究）やロボコンの製作依頼，校内見学会のデモ

８）CNC フライス盤（大阪機工(株)VM5Ⅲ）

・３つの制御軸（Ｘ，Ｙ，Ｚ軸）を持ち，高剛性の主軸で加工範囲も広く，大物の加工に適した NC フライス盤

・主な用途：授業および実習，研究（教員研究，卒業研究，特別研究）やロボコンの製作依頼

９）小型マシニングセンタ（FUNUC　ROBODRILLα-T21iFa）

・自動工具交換装置を備え，３つの制御軸（Ｘ，Ｙ，Ｚ軸）を持った電子基板の穴あけなど

小物の加工に適したNCフライス盤

・主な用途：授業および実習，研究（教員研究，卒業研究，特別研究）やロボコンの製作依頼

③土木建築工学科

１）三軸圧縮試験機（九州丸東）

・粘土や砂の圧密せん断特性や土の強度変形特性を調べる試験機

・主な用途：研究用―卒業研究，特別研究

２）分割型圧密試験機（マルイ NIS-232-1-65-5）

・分割された試料に対する経時的な層別圧密挙動および間隙水圧の変化を計測する試験機

・主な用途：研究用―卒業研究，特別研究

３）レーザー流速計（DISA55X シリーズ）

・流速測定および流れの可視化をする装置

・主な用途：研究用―卒業研究，特別研究

４）ドップラー流速計（ダンテックエレクトロニクス社）

・流速測定および流れの可視化をする装置

・主な用途：研究用―卒業研究，特別研究

５）サーボアクチュエータ式負荷装置（JT トーシ社）

・５本のサーボアクチュエータと 10 本の油圧ジャッキによりさまざまな構造試験，振動試験を行う装置

・主な用途：研究用―卒業研究，特別研究，共同研究

６）トリプル異種連立複合型材料試験システム（島津）

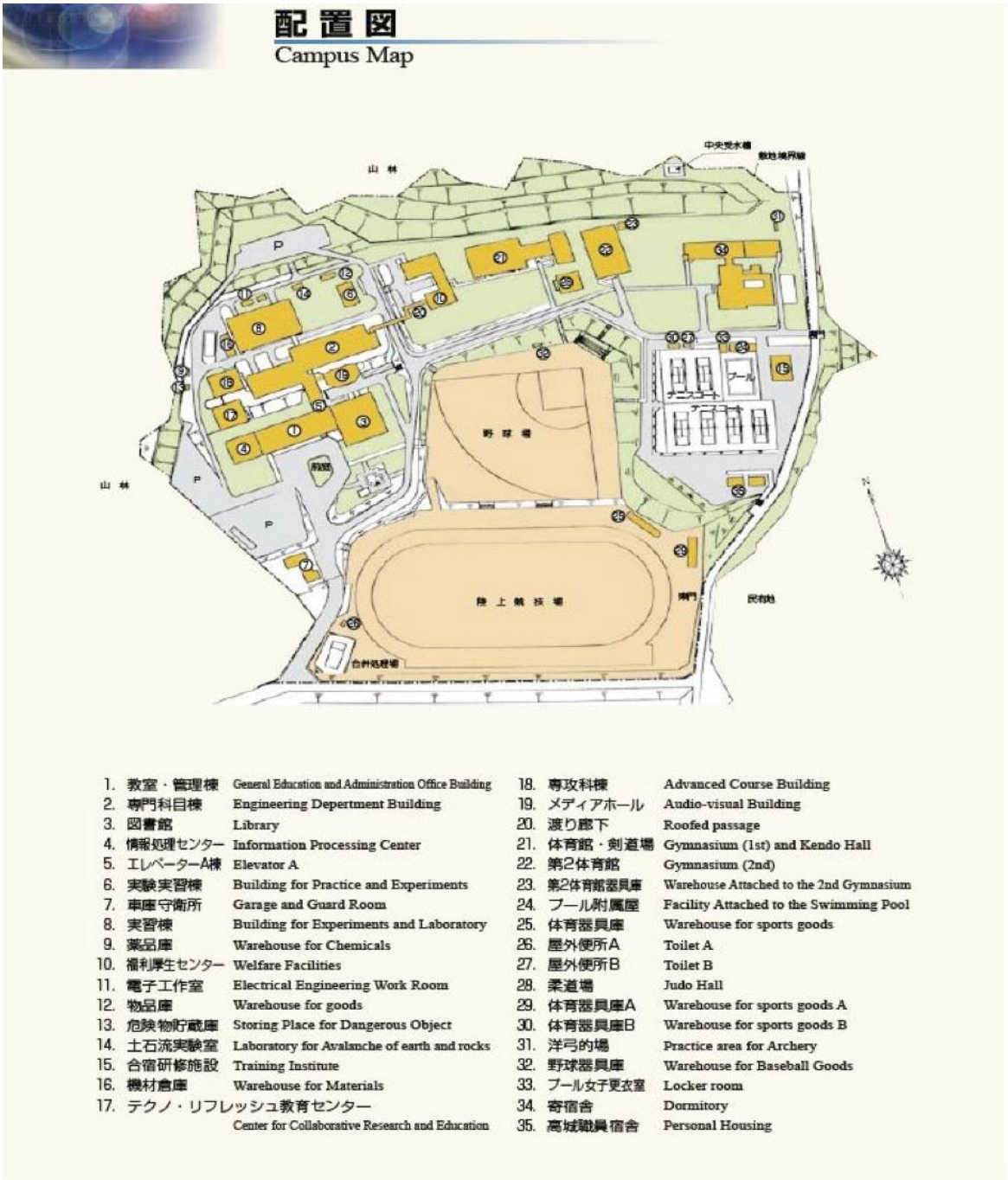
・試験力 2,000ｋＮの万能試験機，試験力 1,000ｋＮの圧縮曲げ試験機，動的試験力 10ｋＮおよび静的試験力 12ｋＮの疲労試験機で構成

・主な用途：教育用－コンクリートの強度試験，鉄筋の引張試験（工学実験）

研究用－カルシウムおよびマグネシウム固化剤ベースの構造部材の開発，鉄筋コンクリートおよび木材の曲げ試験，亀裂部材の強度試験

（資産台帳搭載価格 1,000 万円以上を計上）

資料８－１－①－１　施設配置図



出典：学校要覧

資料８－１－①－２　学内施設の利用案内

学内施設
Facilities

- キャンパスマップ
- 図書館
- 情報処理センター
- テクノセンター
- 学寮
- 施設の開放について
- 周辺地図
- オリジナルマット

緊急のお知らせ









教育研究支援センター

学校公開情報

オープンキャンパス
徳山高専を見て知ろう！学校見学会





施設の開放について

授業・学生の課外活動に支障のない限り、
学校施設の開放（有料）をしています。
（使用時間は原則１９時まで）

1. 講演会又は研究会等に使用するとき
2. 各種試験等で使用するとき
3. 球技大会や運動会等に使用するとき

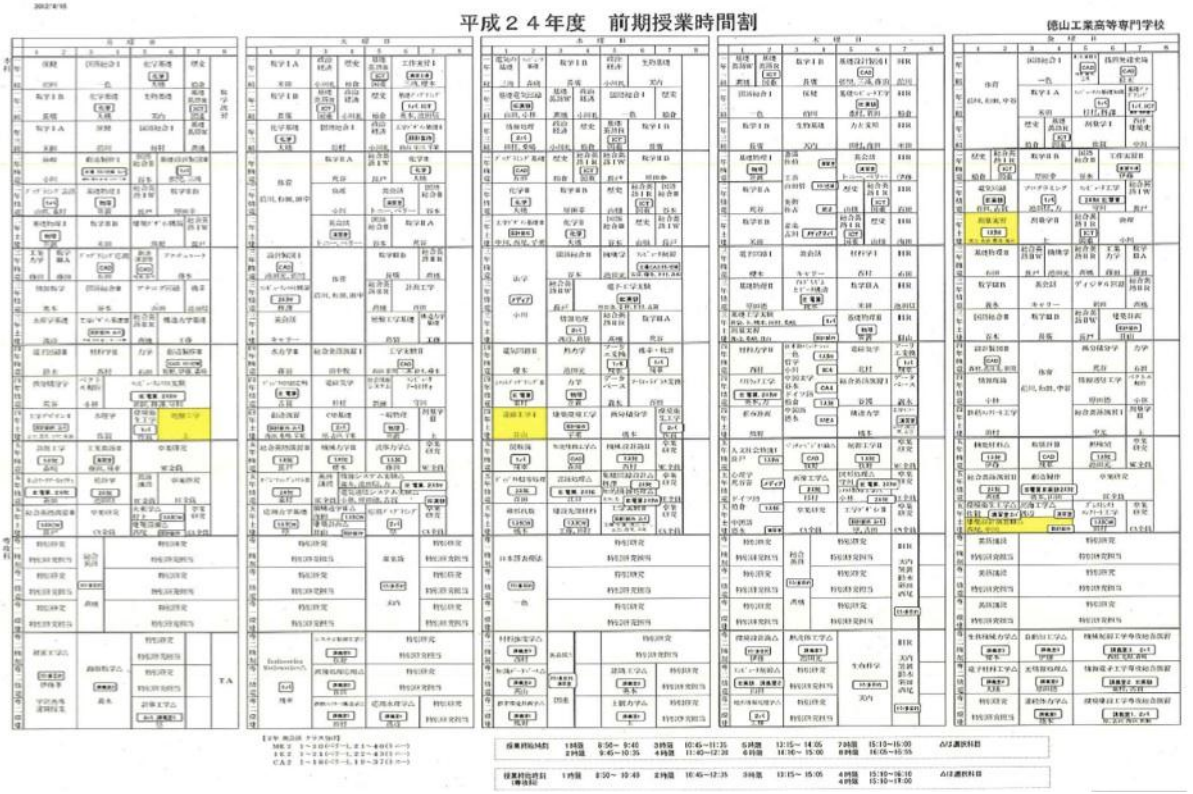
開放している施設は、以下の通りです。
（使用料は１時間あたりの単価）

貸付対象	規格	単価（税込み）円	備考
体育館	全面	800	
	半面	400	
武道場	全面	500	
	半面	250	
グランド	全面	1000	夜間照明料は施設毎に積算し加算
	半面	500	
野球場	1面	1000	
テニスコート	1面	400	
教室・会議室等	50m^{2}未満	300	１室毎に積算　冷暖房費は貸付単価の50%を加算
	50-100m^{2}未満	500	
	100-150m^{2}未満	800	
	150-200m^{2}未満	1000	
	200-300m^{2}未満	1500	
	300m^{2}以上	2000	

光熱水費（冷暖房費及び夜間照明を除く）を含む

出典：本校Webサイト

資料８－１－①－３　平成２４年度前期授業時間割



出典：教務係資料

資料８－１－①－４　安全のしおり

安全のしおり

２０１２

徳山工業高等専門学校
教育研究支援センター
実　習　工　場

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

はじめに

実習工場は、機械電気工学科の工作実習、創造製作、土木建築工学科の工学実験、留学生の実習、学内ロボコンやＮＨＫロボコンの製作の場としてまた卒業研究、教員研究における製作依頼や製作の場としても広く利用されている。

実習工場には機械設備や切削工具、電気設備等危険なものが多くあるので平素から安全に留意し、自分自身はもとより、他人にも**怪我をさせない**よう十分注意しなければならない。これからも災害等が発生しないよう安全に作業してもらうため「**安全のしおり**」を作成した。

実習工場で作業するときは必要なところを一読し、**整理・整頓・清掃・清潔**を維持して**安全第一**で作業すること。

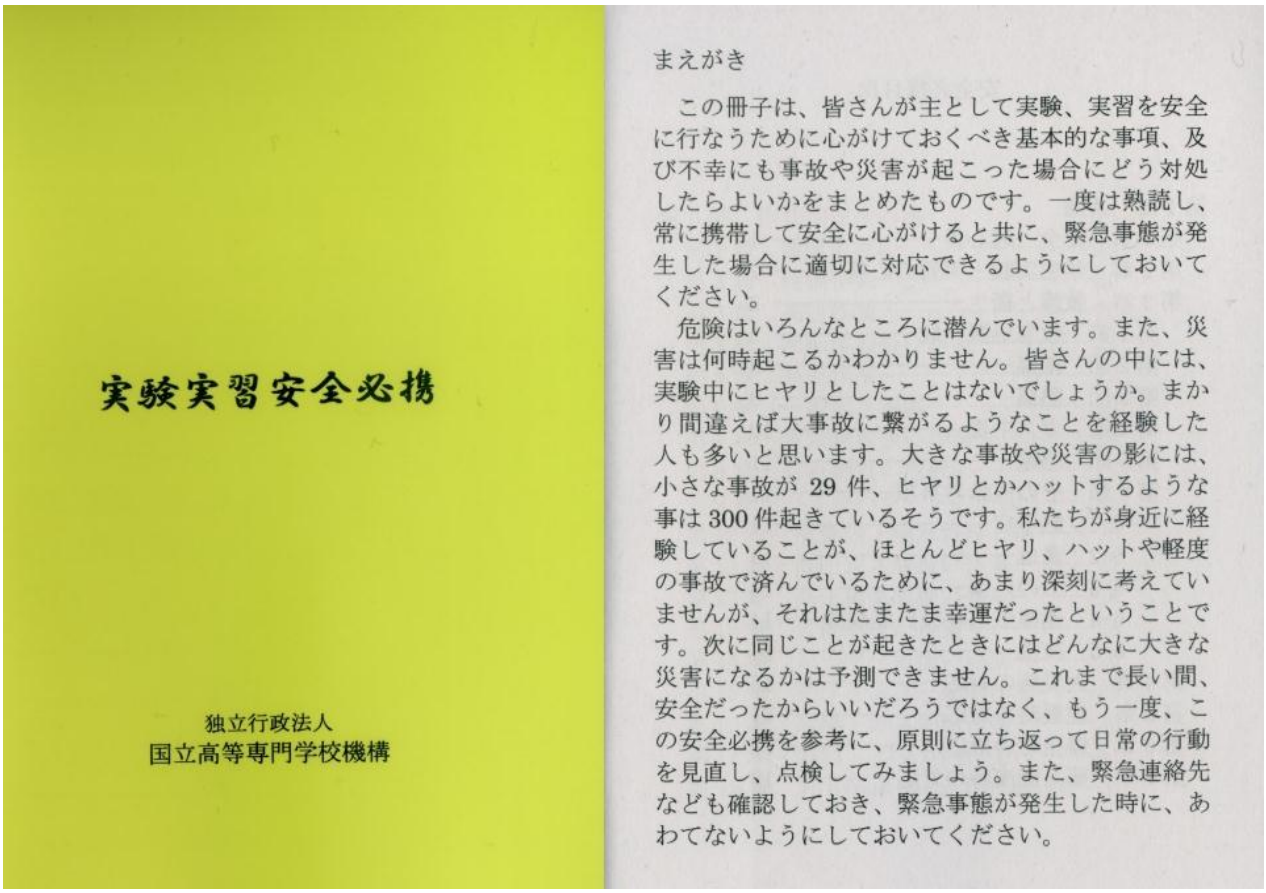
平成２４年４月

機械電気工学科教授　桜本逸男
教授　伊藤　尚
教育研究支援センター
第一技術室長　中村金良
第一技術室員　石川善丈
第一技術室員　井本琢哉
第一技術室員　黒田浩晟
第一技術室員　西山芳明

1

出典：実習工場資料

資料８－１－①－５　実験実習安全必携



実験実習安全必携

独立行政法人
国立高等専門学校機構

まえがき

この冊子は、皆さんが主として実験、実習を安全に行なうために心がけておくべき基本的な事項、及び不幸にも事故や災害が起こった場合にどう対処したらよいかをまとめたものです。一度は熟読し、常に携帯して安全に心がけると共に、緊急事態が発生した場合に適切に対応できるようにしておいてください。

危険はいろんなところに潜んでいます。また、災害は何時起こるかわかりません。皆さんの中には、実験中にヒヤリとしたことはないでしょうか。まかり間違えば大事故に繋がるようなことを経験した人も多いと思います。大きな事故や災害の影には、小さな事故が 29 件、ヒヤリとかハットするような事は 300 件起きているそうです。私たちが身近に経験していることが、ほとんどヒヤリ、ハットや軽度の事故で済んでいるために、あまり深刻に考えていませんが、それはたまたま幸運だったということです。次に同じことが起きたときにはどんなに大きな災害になるかは予測できません。これまで長い間、安全だったからいいだろうではなく、もう一度、この安全必携を参考に、原則に立ち返って日常の行動を見直し、点検してみましょう。また、緊急連絡先なども確認しておき、緊急事態が発生した時に、あわてないようにしておいてください。

出典：実験実習安全必携

資料８－１－①－６　バリアフリーマップ



出典：総務課資料

資料８－１－①－７　ゴミの分別収集や節電への取組

風紀局（局長　　）

●活動内容
- 環境リサイクル活動（分別チェック、談話室・柔道場前・無記名ゴミの分別）
- 節電への取り組み（電力データの集計・管理・掲示）

●ポイント
- ある程度の人数が必要な作業なので、できるだけ全員が集まる日にやること
- 環境委員との連絡を、確実にとれるようにすること
- 電力データの集計等は、一人でやらないこと

●反省・気づき
- メンバーに学科のバラつきが無かったため、人数が揃わず、活動できないことが多々あった
- 環境委員の意識をもう少し高めたかった。

- ✓ 守衛室横の自販機周辺へのゴミ放置（缶）が以前からの懸案事項で残っています。この対策を考えましょう。
- ✓ 返却ゴミ置き場として、改修工事終了後に金網箱（旧燃えるゴミ入れ）を転用します。
- ✓ 環境委員との連絡体制は重要です。環境委員をうまく使う方法を考えましょう。
- ✓ 自転車の施錠徹底を引続き検討してください。（交通問題対策委員長）
- ✓ 電力メータの計測漏れが減らせるように、環境委員と協力しながら頑張りましょう。
- ✓ 各クラスの電力使用量を定期的に掲示して、節電への意識を高めましょう。
- ✓ リサイクルゴミが貯まったら、学生課に業者への引き渡しを依頼して下さい。
- ✓ エコキャップは下関市の業者に送る必要がありますので、定期的に整理して送って下さい。

出典：学生会資料

（分析結果とその根拠理由）

最近の施設改修工事として，平成２０年３月に教室・管理棟，図書館，情報処理センター耐震改修工事，平成２２年２月に専門科目棟（西）耐震改修工事，および平成２４年３月には専門科目棟（東）耐震改修工事を行い，省エネルギーおよび安心・安全に配慮した耐震改修を実施し，共用スペース等の有効活用を図り，校内の環境保全，ユニバーサルデザインの導入により教育環境が大いに改善された。

また，本校の教育・研究環境の充実のためには，維持保全および施設整備事業を鋭意行っていくことが必要であり，設置後３０年を経過している基幹設備の老朽化改善対応を計画的に実施しなければならない。

これらの改善改修を計画的に実施するため，今後，「キャンパスマスタープラン」を作成し施設整備事業に係る予算要求を行っていく必要がある。

以上のことから，本校の施設・設備については，高等専門学校設置基準に定める基準を満たし，整備されており有効に活用され，バリアフリー化や環境面への配慮がなされている。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

情報処理センター内に第１パソコン室および第２パソコン室が整備されており，授業に一週間それぞれ26コマと31コマ利用されている。平成２３年度におけるパソコン室の利用人員はのべ40,484名（資料８－１－②－１）となっている。

（ａ）学内ネットワークは，平成１９年度より基幹，支線ともに１Gbpsに高速化している。また，平成２３年度までの校舎改修において，スイッチ群を格納する専用のEPS室を設けた。これにより，従来校舎の各所にあったスイッチ類が集約され，保守・管理作業が容易になった。

（ｂ）外部とのネットワークに関しては，安定した外部接続を確保するために以下のように２形態の回線接続を行っている。

① YSN（やまぐち情報スーパーネットワーク）を介しての山口大学との接続。

回線速度：100Mbps

利用目的：SINETを介してインターネットと接続。宇部高専との遠隔授業など。

② エネルギアコミュニケーションズが運営するCCCN回線と接続。

回線速度：30Mbps

利用目的：CCCNを介してインターネットと接続。YSN停止時の非常用回線として運用。

（ｃ）平成１４年に導入したメールサーバ用アンチウィルスソフトに加えて，平成１９年７月からスパムフィルターを導入した。これらにより，学外からのメールを介してのウィルスの進入を防御することができるようになり，かつ，学内からのウィルスメールも送付することができなくなった。なお，これまでに送られてきているウィルスに関しては，全て駆除されている（資料８－１－②－２）。

（ｄ）学内の全教職員および学生は，情報処理センターのWebサイトから，パソコン用ウィルス駆

除ソフトをダウンロードできるようになっており（資料８－１－②－３），平成１７年１０月に，Mac OSX用およびUNIX用のSophos Anti-Virusを，平成２２年１０月にはWindows７にも対応するSymantec Endpoint Protectionを完備した。これにより，全てのOSについての対応が可能となった。

（ｅ）平成２３年度，情報セキュリティ管理規程の制定を受け，情報セキュリティ管理体制を確立した。併せて，情報セキュリティ推進規程，情報セキュリティ教職員規程，情報セキュリティ利用者規程を制定した（資料８－１－②－４）。

（ｆ）平成２１年１２月に行われた高専機構とマイクロソフト（株）の包括ライセンス契約により，各種OSやアプリケーションソフトウェアなど，教育・研究のためのIT環境が充実した。

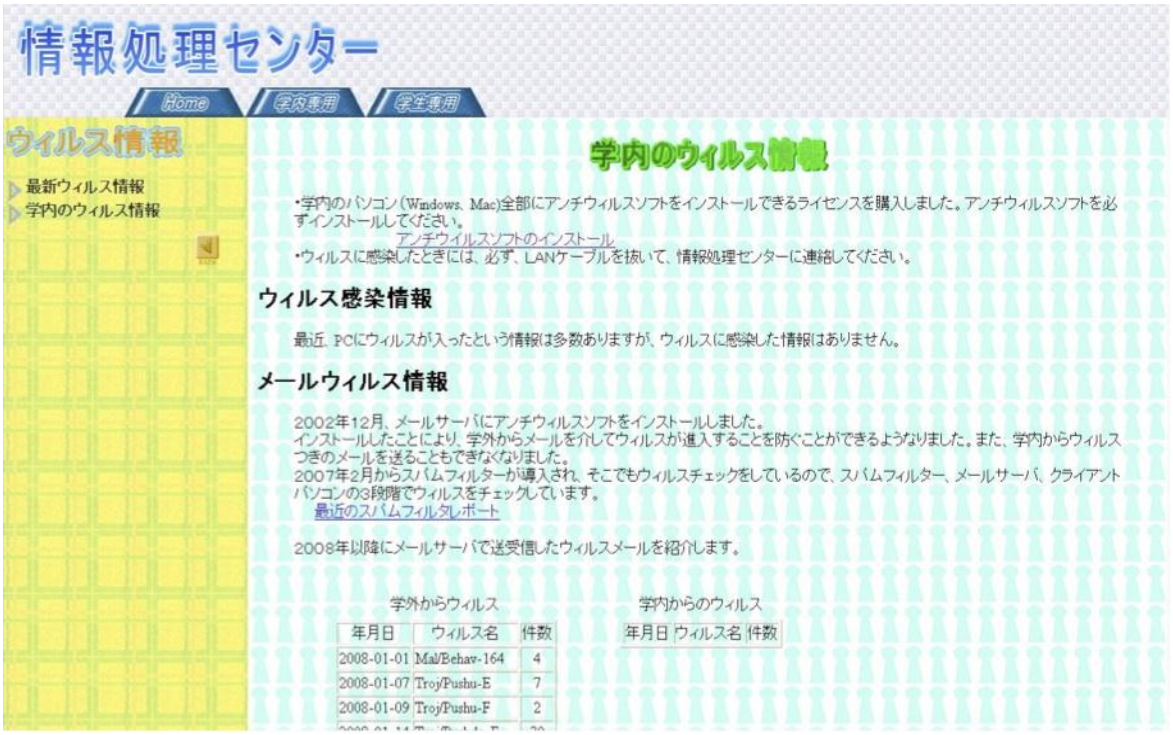
資料８－１－②－１　平成２３年度パソコン室のべ利用者人数

2011年度 パソコン室(Windows)のべ利用者人数統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ME	818	1049	1285	1886	1005	170	757	883	504	517	638	97	9609
IE	506	769	437	689	601	896	1495	808	696	638	518	206	8259
CA	1828	2866	2091	2251	1281	337	1930	2857	2486	2228	2356	105	22616
合計	3152	4684	3813	4826	2887	1403	4182	4548	3686	3383	3512	408	40484

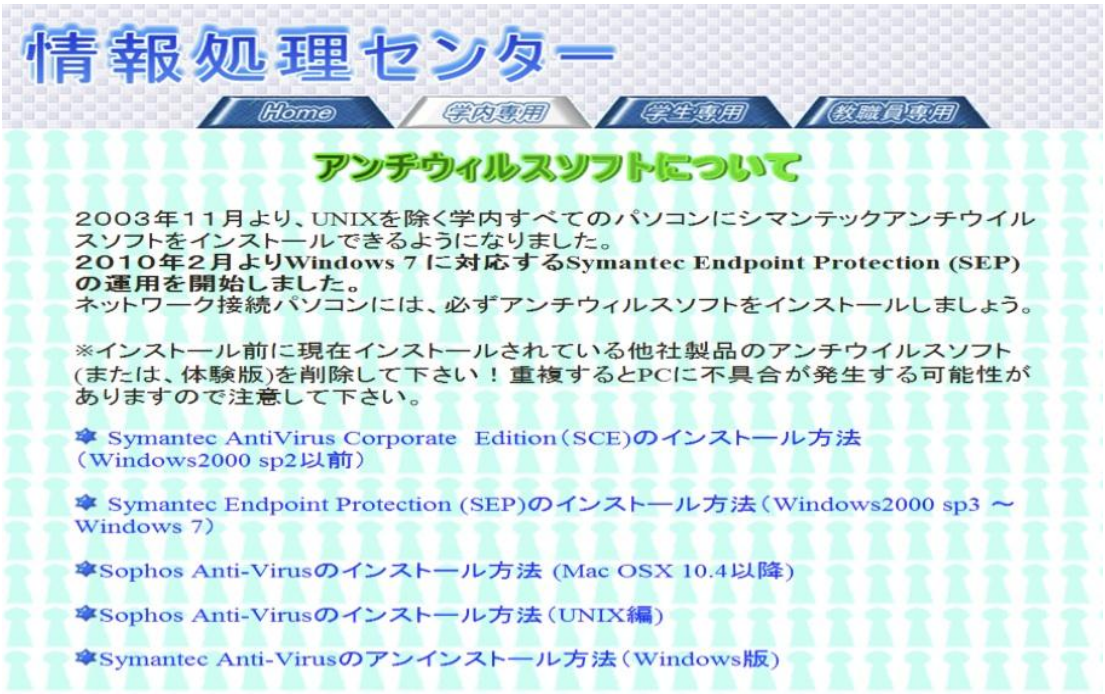
出典：情報処理センター資料

資料８－１－②－２　学内のウィルス情報について



出典：本校 Web サイト

資料８－１－②－３　アンチウィルスソフトについて



出典：本校Webサイト

資料８－１－②－４　情報セキュリティ管理規程（抜粋）

徳山工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程

（目的）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。以下「対策規則」という。）に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項及び管理的事項を定めることにより，情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

２　情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については，別に定める情報セキュリティ推進規程による。

（定義）

第２条　この規程における用語の定義は，この規程で定めるものを除き，対策規則別表及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号）の定めるところによる。

（適用範囲）

第３条　この規程を適用する情報資産の範囲は，本校が扱う情報及び情報システムとする。なお，紙媒体の情報の管理については，本校の法人文書管理規程によるものとする。

２　本校の情報システムの範囲は，別表１のとおりとする。

出典：本校規則集

（分析結果とその根拠理由）

インターネット利用を含め，学生のネットワーク利用状況は良い。また，学生寮にもネットワークを整備しており，学生の需要を満たしている。ネットワークのセキュリティを確保するために，スパムフィルタやアンチウイルスソフトを導入するなど，ソフトウェア面からの対策は充足されている。学生・教職員のニーズを満たす点では，校内 LAN，外部接続とも十分である。

以上のことから，情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されている。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

図書館の閲覧室には，約 37,000 冊の図書と 340 種の雑誌などが，専門分野ごとに系統的に整備・分類（資料８－２－①－１－１～５）され，創造教育や外部資格取得関係の図書は，独立コーナーに利用しやすく配架してある（資料８－２－①－２）。閲覧室には，検索用のパソコン８台，視聴覚資料用の AV 機器を４組設置している。

平成２３年度は，本科生 8,567 名，専攻科生 835 名，教職員等 791 名が図書館を利用しており，貸出冊数は 2,185 冊となっている。（資料８－２－①－３－１～３）

平成７年１月から，図書館の一般開放を開始し，図書館ホームページでは OPAC を公開しているほか，平成１５年７月からは山口県内横断検索にも参加している。

時間外開館は平日 17:00～19:00 および土曜日 9:00～12:00 となっている。

また，図書館システムは平成７年度の校内ネットワークの整備に伴い，インターネットによる検索が可能となった。さらに，平成１０年３月には更新（丸善・PUBLIS）され，入退館システム（伊藤伊・ILAS）も導入した。図書の発注，受入，蔵書点検，貸出，雑誌の受入，製本，廃棄，貸出，文献複写の依頼・受付等，全て前述の図書館システムで処理している。所蔵雑誌は図書館が集中管理しているので，散逸することなく製本がスムーズにでき文献の依頼に対しても迅速に対応できる。昭和５５年度から情報電子工学科の協力により，内部開発による電算化をすすめ，平成８年に学内 LAN が整備されたことに伴い，新システムを導入し業務の電算化をほぼ完了している。

図書館システムに関しては，長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システムを平成２３年１１月に更新した。

資料８－２－①－１－１　図書館蔵書数

徳山工業高等専門学校図書館蔵書数（平成24.5.1現在）

総計

区分		和書	洋書	計
総記		9,023	624	9,647
哲学		2,185	479	2,664
歴史		4,718	199	4,917
社会科学		5,354	185	5,539
自然科学		10,721	2,365	13,086
技術	技術,工学,工業	3,672	813	4,485
	建設工学,土木工学	4,998	578	5,576
	建築学	4,163	300	4,463
	機械工学,原子力工学	3,236	428	3,664
	電気工学,電子工学	6,160	846	7,006
	海洋工学,船舶工学,兵器	61	0	61
	金属工学,鉱山工学	596	60	656
	化学工業	279	13	292
	製造工業	54	2	56
	家政学,生活科学	41	1	42
	小　計	23,260	3,041	26,301
産業		577	30	607
芸術		2,408	55	2,463
言語		3,354	928	4,282
文学		10,667	1,027	11,694
合　計		72,267	8,933	81,200

出典：図書係資料

資料８－２－①－１－２　図書館蔵書数（一般科目）

一般科目

区分		和書	洋書	計
総記		266	65	331
哲学		260	26	286
歴史		994	30	1,024
社会科学		439	83	522
自然科学		937	274	1,211
技術	技術,工学,工業	57	2	59
	建設工学,土木工学	17	0	17
	建築学	8	1	9
	機械工学,原子力工学	6	1	7
	電気工学,電子工学	14	1	15
	海洋工学,船舶工学,兵器	4	0	4
	金属工学,鉱山工学	4	2	6
	化学工業	6	0	6
	製造工業	8	0	8
	家政学,生活科学	0	0	0
	小　計	124	7	131
産業		95	1	96
芸術		203	14	217
言語		1,279	534	1,813
文学		1,355	75	1,430
合　計		5,952	1,109	7,061

出典：図書係資料

資料８－２－①－１－３　図書館蔵書数（機械電気工学科）

機械電気工学科

区分		和書	洋書	計
総記		668	1	669
哲学		9	0	9
歴史		23	0	23
社会科学		40	2	42
自然科学		191	27	218
技術	技術,工学,工業	337	45	382
	建設工学,土木工学	40	1	41
	建築学	4	0	4
	機械工学,原子力工学	287	58	345
	電気工学,電子工学	314	5	319
	海洋工学,船舶工学,兵器	1	0	1
	金属工学,鉱山工学	71	3	74
	化学工業	16	2	18
	製造工業	2	0	2
	家政学,生活科学			0
	小　計	1,072	114	1,186
産業		15	0	15
芸術		5	0	5
言語		32	1	33
文学		1	0	1
合　計		2,056	145	2,201

出典：図書係資料

資料８－２－①－１－４　図書館蔵書数（情報電子工学科）

情報電子工学科

区分		和書	洋書	計
総記		563	143	706
哲学		10	0	10
歴史		1	1	2
社会科学		64	5	69
自然科学		430	144	574
技術	技術,工学,工業	92	10	102
	建設工学,土木工学	2	0	2
	建築学	3	0	3
	機械工学,原子力工学	7	0	7
	電気工学,電子工学	518	84	602
	海洋工学,船舶工学,兵器	0	0	0
	金属工学,鉱山工学	1	0	1
	化学工業	1	1	2
	製造工業	1	0	1
	家政学,生活科学	0	0	0
	小　計	625	95	720
産業		2	1	3
芸術		27	1	28
言語		32	1	33
文学		1	0	1
合　計		1,755	391	2,146

出典：図書係資料

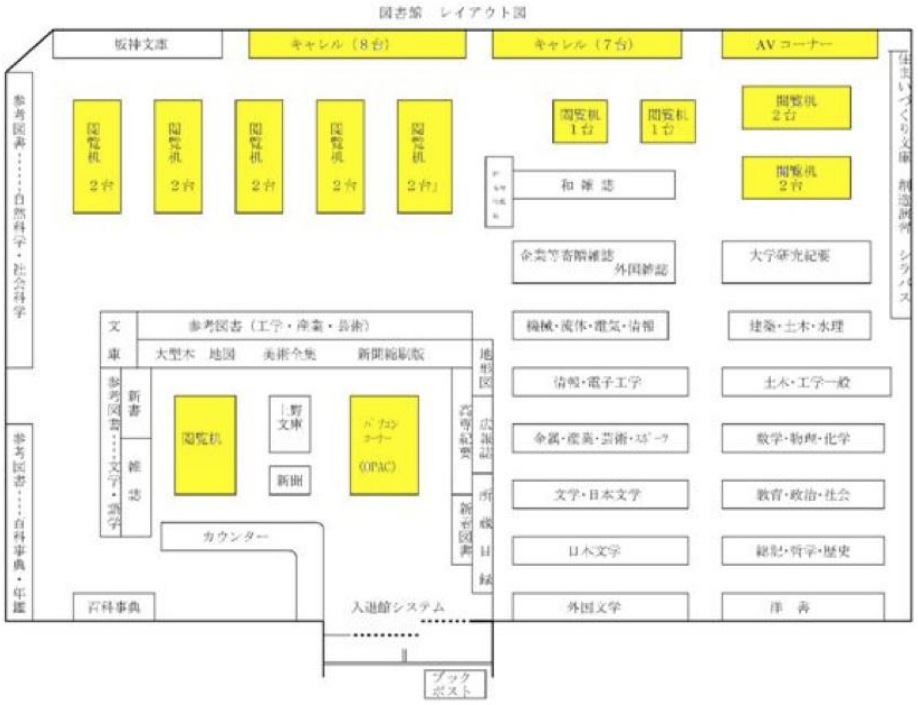
資料８－２－①－１－５　図書館蔵書数（土木建築工学科）

土木建築工学科

区分		和書	洋書	計
総記		56	1	57
哲学		13	1	14
歴史		39	1	40
社会科学		192	3	195
自然科学		332	28	360
技術	技術,工学,工業	214	27	241
	建設工学,土木工学	1,099	48	1,147
	建築学	568	10	578
	機械工学,原子力工学	51	63	114
	電気工学,電子工学	20	3	23
	海洋工学,船舶工学,兵器	2	0	2
	金属工学,鉱山工学	4	0	4
	化学工業	5	0	5
	製造工業	0	0	0
	家政学,生活科学	4	0	4
	小　計	1,967	151	2,118
産業		31	0	31
芸術		33	0	33
言語		45	1	46
文学		4	0	4
合　計		2,712	186	2,898

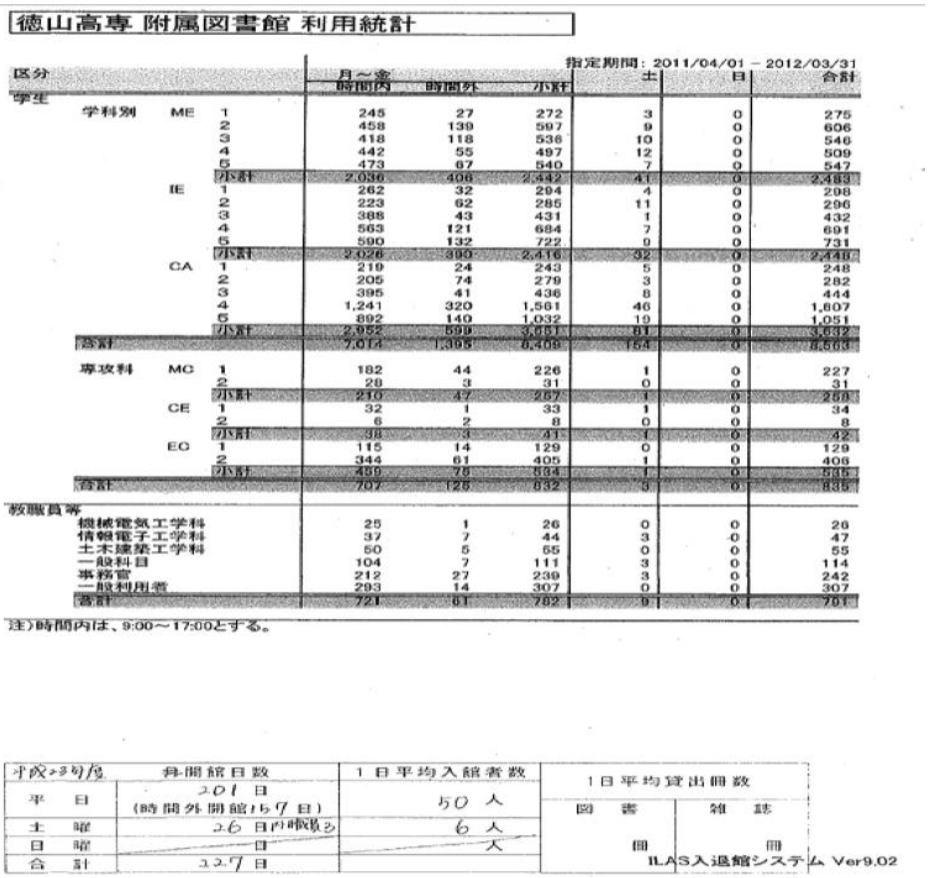
出典：図書係資料

資料８－２－①－２　　図書館レイアウト図



出典：図書係資料

資料８－２－①－３－１　図書館利用統計



徳山高専 附属図書館 利用統計

指定期間：2011/04/01 － 2012/03/31

区分			月～金 時間内	月～金 時間外	月～金 小計	土	日	合計
学生								
	学科別	ME 1	245	27	272	3	0	275
		2	458	139	597	9	0	606
		3	418	118	536	10	0	546
		4	442	55	497	12	0	509
		5	473	67	540	7	0	547
		小計	2,036	406	2,442	41	0	2,483
		IE 1	262	32	294	4	0	298
		2	223	62	285	11	0	296
		3	388	43	431	1	0	432
		4	563	121	684	7	0	691
		5	590	132	722	9	0	731
		小計	2,026	390	2,416	32	0	2,448
		CA 1	219	24	243	5	0	248
		2	205	74	279	3	0	282
		3	395	41	436	8	0	444
		4	1,241	320	1,561	46	0	1,607
		5	892	140	1,032	19	0	1,051
		小計	2,952	599	3,551	81	0	3,632
	合計		7,014	1,395	8,409	154	0	8,563
	専攻科	MC 1	182	44	226	1	0	227
		2	28	3	31	0	0	31
		小計	210	47	257	1	0	258
		CE 1	32	1	33	1	0	34
		2	6	2	8	0	0	8
		小計	38	3	41	1	0	42
		EC 1	115	14	129	0	0	129
		2	344	61	405	1	0	406
		小計	459	75	534	1	0	535
	合計		707	125	832	3	0	835
教職員等								
	機械電気工学科		25	1	26	0	0	26
	情報電子工学科		37	7	44	3	0	47
	土木建築工学科		50	5	55	0	0	55
	一般科目		104	7	111	3	0	114
	事務官		212	27	239	3	0	242
	一般利用者		293	14	307	0	0	307
	合計		721	61	782	9	0	791

注）時間内は、9:00～17:00とする。

平成23年度

	開館日数	1日平均入館者数	1日平均貸出冊数 図書	1日平均貸出冊数 雑誌
平日	201日（時間外開館は57日）	50人		
土曜	26日（内補足2）	6人		
日曜	日	人	冊	冊
合計	227日			

ILAS入退館システム Ver9.02

出典：図書係資料

資料８－２－①－３－２　図書館貸出統計

教職員・学生別貸出統計（2011.4.1～2012.3.31）

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	その他	貸出冊数計	貸出人数
教員	4	1	7	10	11	50	1	8	1	67	128	288	98
職員	1	3	9	1	2	5	0	45	2	50	37	155	90
機械電気工学科1年	5	0	0	0	9	8	0	7	8	4	10	51	36
機械電気工学科2年	7	0	3	6	5	20	2	5	2	12	6	68	41
機械電気工学科3年	0	1	0	0	5	6	0	0	18	10	1	41	28
機械電気工学科4年	0	1	2	3	7	30	0	38	20	2	34	137	78
機械電気工学科5年	1	1	1	4	35	71	0	0	9	34	10	166	106
情報電子工学科1年	1	3	0	0	1	2	0	1	0	37	1	46	36
情報電子工学科2年	13	0	0	0	1	1	0	0	3	1	3	22	14
情報電子工学科3年	4	3	1	1	0	5	1	8	2	2	0	27	19
情報電子工学科4年	24	0	5	5	8	18	1	0	30	10	17	118	60
情報電子工学科5年	14	1	2	5	49	9	0	6	35	19	11	151	85
土木建築工学科1年	0	0	0	0	1	0	0	2	0	33	4	40	36
土木建築工学科2年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	6	6
土木建築工学科3年	0	0	0	0	0	29	0	0	3	0	14	46	39
土木建築工学科4年	5	6	3	4	4	26	1	5	54	75	3	186	115
土木建築工学科5年	4	0	9	32	39	106	0	12	13	11	56	282	163
機械制御専攻1年	2	3	0	2	11	39	0	2	15	0	4	78	33
機械制御専攻2年	0	0	0	0	4	13	0	0	0	0	0	17	9
情報電子専攻1年	3	1	0	0	1	3	0	0	6	0	1	15	10
情報電子専攻2年	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	2	8	4
環境建設専攻1年	0	2	0	1	3	33	0	3	3	2	10	57	25
環境建設専攻2年	2	2	3	9	6	48	0	1	1	3	6	81	39
一般	41	0	6	2	12	16	0	5	0	4	13	99	36
合計	131	28	52	85	214	544	6	148	225	380	372	2185	1206

出典：図書係資料

資料８－２－①－３－３　図書館利用状況

図書館利用状況(平成19年～平成23年度)

項目／年度			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年間	入館者数	時間内	5,722	5,831	7,644	8,088	8,442
		時間外	1,378	1,556	1,614	1,380	1,747
		計	7,100	7,387	9,258	9,468	10,189
	貸出者数	計	945	1,027	1,388	1,314	1,206
	貸出冊数	計	1,996	2,014	2,572	2,522	2,185
	開館日数	年間	103	225	235	234	227
平均	入館者数(時間内)		73	33	39	40	42
	入館者数(時間外)		14	8	8	7	10
	貸出者数		9	5	6	6	5
	貸出冊数		19	9	11	11	10

(開館時間) 授業期間中　時間内:平　日　9:00～17:00
時間外:平　日　17:00～19:00
土曜日　9:00～12:00
休業期間中　時間内:平　日　9:00～17:00

※H21.7月～12月まで日曜時間外開館を中止(試行期間)
H22.1月から日曜時間外開館を中止し，土曜は12時で閉館。

出典：図書係資料

（分析結果とその根拠理由）

図書館システムでは，教員室の端末から図書の注文，文献複写の依頼が出来る。図書館ホームページには，OPAC，購読雑誌のコンテンツ，電子ジャーナル・DB（Science Direct，JDreamⅡ，MathSciNat，Science，CiNii）の情報サービス等が掲載されているので，文献検索が教員室・卒研室からできる（資料８－２－①－４－１，２）。図書・雑誌のバーコードで貸出・返却が迅速に処理され，貸出情報で返却の督促通知や利用状況の統計処理等を行うことができる。貸出中の図書・雑誌の借出し予約ができる。また，年に１度の蔵書点検のデータ処理が迅速であり，入退館システムの導入により行方不明図書がほとんど無くなった。

現在は，ワンフロアでパソコンも AV 機器も使用しており，図書館が十分な機能を発揮している。

以上のことから，図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されている。

資料８－２－①－４－１　図書の注文等



出典：本校Webサイト

資料８－２－①－４－２　情報サービス



出典：本校Webサイト

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 学内情報ネットワークの高速化，学外接続との高速化がなされている
- スイッチ群を格納する専用のEPS室を設けたことにより，各所にあったスイッチ類が集約され，保守・管理作業の効率化が図られている
- 情報セキュリティ管理規程等の制定を受け，情報セキュリティの対応が確立されている
- スパムフィルター，メールサーバ，クライアントパソコンの３段階でウィルスチェックをしており，ウィルスの侵入やウィルスメールの送信が制限できている
- 図書館システムを通じて，インターネットによるサービスが進んでいる
- 図書館システムによる業務の電算化で，素早い対応やきめ細かいサービスを可能としている

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準８の自己評価の概要

本校の教育目標，教育課程に対応した校地・校舎・教室・図書館・情報処理センター・体育館・運動場等の施設が整備されている。教育用の機械・器具の設備も整備されており，有効に活用している。

また，学内情報ネットワークについても高速化，学外接続の高速化を図っているほか，情報セキュリティ対応についてもウィルス対策体制が確立されており，教育研究および学生のニーズを満たすものとして整備され，有効に活用している。

図書館については，学生および教員のニーズにあった図書，学術雑誌，視聴覚資料などの教育研究上必要な資料が備えられている。また，平日夜間および土曜日の利用にも対応するなど利便性の高い図書館となっており，学生も有効に活用している。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育活動に関するデータや資料の収集・蓄積は，学習・教育レビュー室を中心に各授業科目の成績評価資料（全答案を含む）の管理およびシラバス内容の点検が行われている（資料９－１－①－１）。学習・教育レビュー室は，学生からはオンラインで授業アンケートを収集し，卒業生・修了生学習達成度の点検・評価を行い，徳山高専教育モニターも参加する公開授業とそのレビュー会による評価資料などを蓄積している（資料９－１－①－２）。

各教員は「年間職務の自己評価書」の提出が義務づけられ，自己評価委員会により主要結果は本校Webサイトで公開されている（資料９－１－①－３）。

収集されたこれらの資料・データは，学習・教育レビュー室のみならずＦＤ委員会，顧問会議や自己評価委員会，総合企画室，教務委員会，専攻科委員会，教員会議，教室会議等の連携による点検システムが確立され（資料９－１－①－４），継続的に教育の評価改善に反映されている。また平成２０年度には自己評価委員会規則を改正し，各組織の活動に対する点検・評価に加え，教育点検システム自体の点検もその任務として明記し，それに基づき教育点検システムそのものを点検している（資料９－１－①－５）。

資料９－１－①－１　学習・教育レビュー室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学習・教育レビュー室規則

（設置）

第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学習・教育レビュー室（以下「レビュー室」という。）を置く。

（目的）

第２条　レビュー室は，本校の教育内容、教育手段及び学習環境等について恒常的に点検・評価し、その結果に基づく継続的な教育改善を行うことにより、本校教育の質の向上を図ることを目的とする。

（業務）

第３条　レビュー室は，次の業務を行う。

(1)　シラバスの内容及び活用状況の評価に関すること。
(2)　学習シートの活用状況の評価に関すること。
(3)　公開授業に関すること。
(4)　試験等学習・教育目標の達成度評価方法の点検・評価に関すること。
(5)　その他前条の目的を達成するために必要な業務。

出典：本校規則集

資料９－１－①－２　学習・教育レビュー室ホームページ

学習・教育レビュー室　12/05/14 12:39

学習・教育レビュー室

徳山高専ホームページへ　授業アンケートシステムへ

20121年3月2日

学習・教育レビュー室

はじめに

学習・教育レビュー室は、本校の教育内容、教育手段及び学習環境について恒常的に点検・評価し、その結果に基づく継続的な教育改善を行うことにより、本校教育の質の向上を図ることを目的に設置されました。

お知らせ

New! 平成23年度卒業生・修了学生達成度評価アンケート結果を公開しています。

New! 平成23年度後期授業アンケート結果を公開しています。

平成22年度公開授業資料
平成22年度に実施された公開授業の日程と実施要領です

平成21年度公開授業資料
平成21年度に実施された公開授業の日程と実施要領です

平成20年度公開授業資料
平成20年度に実施された公開授業の日程と実施要領です。

H22年度卒業生・修了生学習達成度評価アンケート（ＰＤＦファイル）
卒業・修了時に答えていただいた、学習達成度評価のアンケート結果です。

H21年度卒業生・修了生学習達成度評価アンケート（ＰＤＦファイル）
卒業・修了時に答えていただいた、学習達成度評価のアンケート結果です。

H20年度卒業生・修了生学習達成度評価アンケート（ＰＤＦファイル）
卒業・修了時に答えていただいた、学習達成度評価のアンケート結果です。

H19年度卒業生・修了生学習達成度評価アンケート（ＰＤＦファイル）
卒業・修了時に答えていただいた、学習達成度評価のアンケート結果です。

「徳山高専教育モニター」　募集中
募集の詳細（htmlファイル）　（募集チラシ：PDFファイル）

http://www.tokuyama.ac.jp/review/index.html　1/2 ページ

出典：本校 Web サイト（学内限定）

資料９－１－①－３　年間職務の自己評価結果の公開



徳山工業高等専門学校　12/05/14 13:11

入試資料請求　交通アクセス　お問い合わせ　サイトマップ
English

サイト内検索　検索
Powered by Google

教育活動
Educational activity

- FD活動
- シラバス
- 授業時間割
- 創造性教育について
- 特許出願・コンテスト受賞実績
- 優秀講演表彰受賞実績
- 自己点検・自己評価
- 授業アンケート結果
- 外部評価
- インターンシップ
- オフィスアワー
- 寄付講座

緊急のお知らせ
高専夢広場
キャリア教育支援室
教職員紹介
産官学連携
教育研究支援センター
学校公開情報
オープンキャンパス
徳山高専を見て知ろう！学校見学会
図書館

自己点検・自己評価

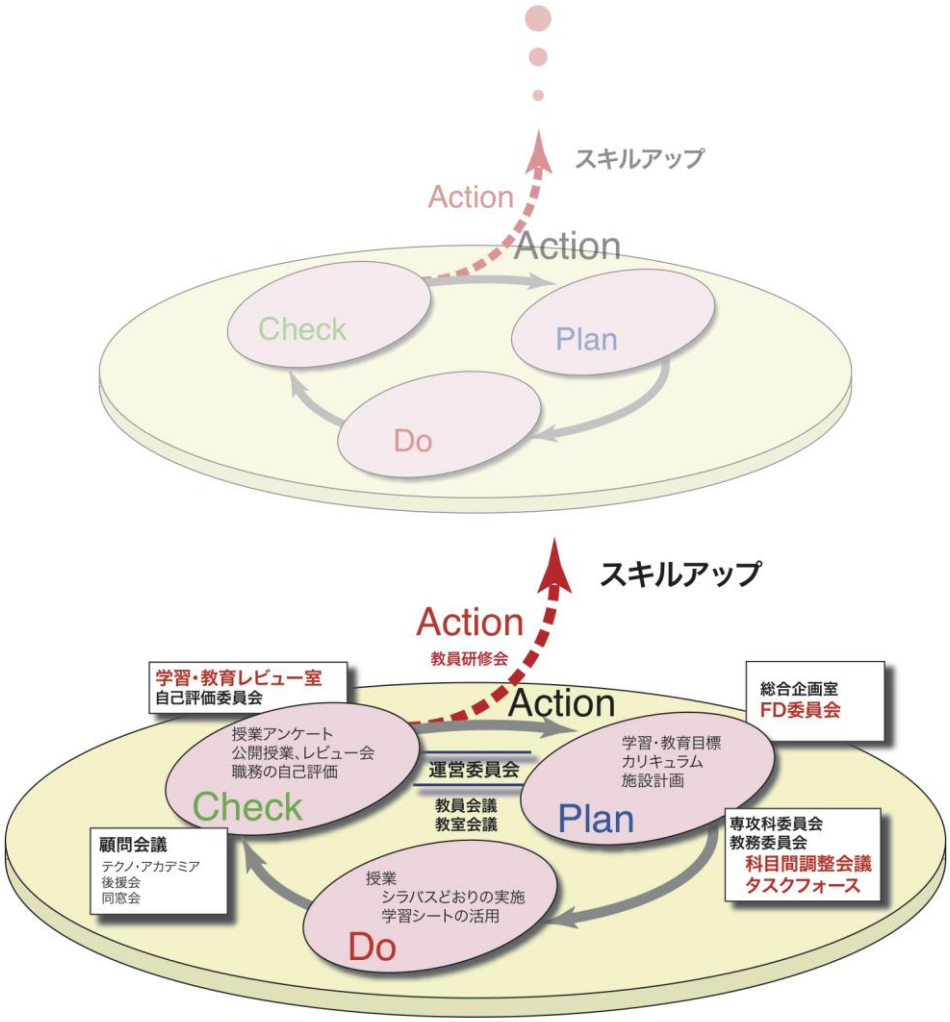
- 平成22年度の職務の自己評価について（結果）
- 平成21年度の職務の自己評価について（結果）
- 平成20年度の職務の自己評価について（結果）
- 平成19年度の職務の自己評価について（結果）
- 平成18年度の職務の自己評価について（結果）
- 平成17年度の職務の自己評価について（結果）
- 年間職務の自己評価－５年間を振り返って－(PDF形式)
- 平成22年度 活動状況報告及び教育点検システムの点検結果報告書(PDFファイル)
- 平成22年度各部署毎の進捗状況PDCA(総括)(Excelファイル)
- 平成21年度教育点検システムの点検結果報告書(PDFファイル)

PDF形式の参照には、Get ADOBE READER が必要です。ダウンロードはこちらから。

http://www.tokuyama.ac.jp/edu/self-evaluation.html　1/2 ページ

出典：本校 Web サイト

資料９－１－①－４　教育点検システム



出典：本校 Web サイト

資料９－１－①－５　自己評価委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校自己評価委員会規則

（設置）

第１条　徳山工業高等専門学校学則第１条の２の規定に基づき、自己点検・評価を行うため自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　委員会は、次の事項を審議し、実施する。

(1) 教員の年間職務の自己評価に関すること。

(2) 各組織の活動に関する点検・評価に関すること。

(3) 教育点検システムに関すること。

(4) その他校長が諮問する事項

出典：本校規則集

（分析結果とその根拠理由）

学習・教育レビユー室を中心として「成績評価資料」，「授業アンケート」等の教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。また，ＦＤ委員会，顧問会議や自己評価委員会においても，各々，教育の状況についての評価を適切に実施できる体制が整備されている。さらに自己評価委員会では，教育点検システム自体が機能しているかどうかを点検・評価している。

以上のことから，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。教育状況に対する継続的な評価システムが十分に整備され，教育点検システム自体の機能も評価され，スパイラルに改善，発展するためにＰＤＣＡ(Plan Do Check Action) が機能している。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

学生による授業アンケートが各科目とも年２回（半期科目は，中間と学期末，通年科目は，前期末と学年末）実施され，集計結果は各教員に通知され授業改善に役立てられている。本校Webサイトで授業評価が公開されている（資料９－１－②－１）。授業アンケートについては学習・教育レビュー室を中心に，学生に対し授業アンケートに関する調査を実施し，項目の検討，改善が行われている（資料９－１－②－２）。また学習シートの活用により，授業ごとの達成度評価および学生の要望の聴取がなされている（資料９－１－②－３）。各教員のオフィスアワーが教員室前およびWebサイトに掲載され，日常の学習等の相談に活用されている（資料９－１－②－４）。さらに学生相談室における学生の要望聴取と指導がなされている（資料９－１－②－５）。

外部有識者の意見は顧問会議により聴取している（資料９－１－②－６）。卒業生，修了生に対するアンケート（資料９－１－②－７）および就職先企業等に対するアンケートが，平成１４年度より５年毎に実施されている（資料９－１－②－８）。また，公開授業により外部モニターの意見を聴取している（資料９－１－②－９）。

教員の意見は，教員の年間職務の自己評価書（資料９－１－②－１０），および年に１回実施される校長による教員面談で聴取している（資料９－１－②－１１）。職員の意見は，年に３回実施される職員面談により聴取している（資料９－１－②－１２）。

平成２２年度より，正面玄関に徳山高専意見箱を設置し（資料９－１－②－１３），教職員，学生および保護者の意見の聴取を行っている（資料９－１－②－１４，１５）。

聴取した意見等をもとに，教務委員会では，教育課程に関する改善を行い，自己評価委員会が，その実施要領に基づき点検・評価を行い報告書としてまとめている（資料９－１－②－１６）。

資料９－１－②－１　学生による授業アンケート

授業アンケート結果外部公開ページ　　12/05/14 19:13

徳山高専ホームページへ　　学習・教育レビュー室ホームページへ　　2011年3月14日

授業アンケート結果外部公開ページ

徳山高専の教員は、学生の学力・技術力を効果的に向上させるため、さまざまな角度から自身の授業方法を点検し、改善して行きます。　学生による授業評価もその一つです。授業方法や授業内容等に関する学生の声をアンケートにより聞くことによって、より学生のためになる授業を模索します。アンケートは、各年度の前期と後期に計2回実施します。

アンケート項目

- 先生の言葉はよく聞き取れる。
- 先生の説明は理解しやすい。
- 授業の到達目標や毎回の説明は適切なレベル（難易度）である。
- 先生の黒板やプロジェクター等の使い方や書き方はわかりやすい。
- 授業はシラバスの内容と一致している。
- 先生は学生の授業への参加意識を高めるようにしている。
- 学習シートなどの副教材は有効に活用されている。
- 授業は到達目標を満足できるよう工夫された構成（内容）である。
- この科目に関する実力が身に付いた。（この科目の到達目標を達成した。）

平成23年度 授業アンケート集計結果

後期

本科

・一般科目	・機械電気工学科	・情報電子工学科	・土木建築工学科

専攻科

・教養科目	・機械制御専攻	・情報電子専攻	・環境建設専攻

前期

本科

・一般科目	・機械電気工学科	・情報電子工学科	・土木建築工学科

専攻科

・教養科目	・機械制御専攻	・情報電子専攻	・環境建設専攻

出典：本校 Web サイト

資料９－１－②－２　授業アンケートに関する調査（抜粋）

授業アンケートに関する調査結果

学生の皆さん、授業アンケートに関する調査に協力いただき、ありがとうございます。

アンケート項目は、以下でした。

１）授業アンケートの実施回数は、２回/一科目としていますが、一科目何回実施するのがよいと思いますか？
　１．　１回　　２．　２回　　３．　３回　　４．　４回以上
２）授業アンケートに回答した学生の名前を書くこと（担当教員には公表しません）について伺います。
　１．　賛成　　２．　反対　　３．　どちらでもよい
３）授業アンケートの集計結果をホームページ上に公表していますが、見たことはありますか。
　１．　はい　　２．　いいえ
４）あなたは、授業アンケートの回答に真剣に記入していますか？
　１．　真剣に記入している　　２．　真剣に記入していない
５）授業アンケートは、授業方法の改善に役立っていると思いますか？
　１．　はい　　２．　いいえ
６）問５に対する回答（はい、いいえ）の理由を教えてください。
７）授業アンケートに対して、要望があれば記入してください。

次ページ以降に集計結果を学年毎にグラフにしたものを示します。

各項目について見てみます。

１）実施回数について

実施回数は、１科目につき２回、または、１回がよいと回答した学生が多く、現在の実施回数がよいようです。

２）記名について

低学年ほど「反対」の意見が多く、高学年では「どちらでもよい」との意見が多くなっています。

３）ＨＰ閲覧について

高学年になるにしたがって、見たことがある人が多いようですが、授業アンケート集計結果の公表を周知する必要があるようです。

４）回答に真剣に記入しているか

大多数の方が、真剣に記入していると答えています。前回調査より、一段と真剣に記入していると答えた学生が多く、授業アンケートの必要性が高いようです。

５）改善に役立っているか

改善に役に立っていると答えた学生が少なく、真剣に記入していると答えている学生の要望に対して、教員の取り組みが不足していると感じているようです。６）の問５に対する回答の理由や７）の自由記述意見にもその傾向が顕れています。

６）、７）の意見には、誹謗と感じられるような記述や落書きのようなものもあり残念です。授業アンケートが教員･学生間の信頼関係を崩すようなものとならないよう､改善が必要と感じています。授業の改善には、授業時間における学生の協力、積極的参加が不可欠です。授業アンケートがその一助となるように願います。

学習・教育レビュー室

出典：学習・教育レビュー室資料

資料９－１－②－３　学習シート（例）

鉄筋コンクリート工学【学習シート No.3】 2012.4.19　CA4　No.　Name

１．らせん鉄筋柱と帯鉄筋柱の違いをまとめよ。

２．鉄筋コンクリート柱部材の設計耐力式を以下のケース別に示せ。（記号説明不要）

１）帯鉄筋柱の場合

N’oud =

２）らせん鉄筋柱の場合

N’oud=

３．設計中心軸圧縮荷重 N’od=3000kN を受ける正方形断面の帯鉄筋柱を設計せよ。ただし、f’ck=24N/mm2、鋼材は全て SD345(fyd=345N/mm2)を使用する。ここで、γi=1.05 とする。

４．コンクリートに関して気づいた社会的話題を記せ。

５．ここまでの本講義の感想

確認	

出典：鉄筋コンクリート工学学習シート

資料９－１－②－４　各教員のオフィスアワー提示（抜粋）



オフィスアワーについて

徳山工業高等専門学校では学生の皆さんの相談に応えるために，オフィスアワーを設けています。日常の学習や生活面での相談事がある場合には，いつでも(オフィスアワーでなくても)，遠慮なく，教員室を訪問してください。先生方が在室されていて，都合が悪くなければ皆さんの相談に応じてもらえます。
特にオフィスアワーでは，学生の皆さんが来室しやすいように，先生方が在室されていて相談に応じてもらえる時間帯を設定しています。勉強や研究の事ばかりでなく学生生活のあらゆる相談にお答えしますので，遠慮なく教員室を訪問してください。
また、オフィスアワーの時間に先生を訪問する際には特に必要ではありませんが，あらかじめ相談事項をメールしておくと，よりスムーズに問題解決ができるかもしれません。電子メールも利用してみてください。

一般科目

教官名	曜日及び時間帯	場所
長戸 喜隆	月～水 12:45～13:10, 16:10～17:00	教員室
大橋 正夫	火・水・木・金 12:30～13:15	教員室
天内 和人	月～金 昼休み	教員室
国重 徹	水・木 昼休み	教員室
一色 誠子	月・火・木・金 昼休み(この時間帯以外での対応については，事前に相談してください。)	教員室前コモンスペース
原田 幸雄	水・金 12:30～13:10	教員室
谷本 圭司	月・火・水・金 16:10～17:00	教員室前コモンスペース
小川 仁志	月・火・金 16:00～17:00	教員室
柏倉 知秀	月・金 昼休み	教員室
荒谷 督司	月・火・金 16:00～17:00	教員室
米田 郁生	木 昼休み	教員室
笠置 映寛	月～金 12:30～13:00	教員室
高橋 愛	火・水 16:10～17:00	教員室
前川 直也	木 昼休み	教員室前コモンスペース
長廣 恭子	月～金の昼休み及び月・火・金の放課後	教員室

出典：本校 Web サイト

資料９－１－②－５　学生相談室における学生の要望聴取と指導

学生相談室について

私たちは毎日の生活の中で、いろいろなことについて悩み、不安を持って暮らしています。勉強のこと、就職・進学のこと、友人・家族との人間関係、異性との問題、生きる目的など・・・。自分で解決することは大切ですが、誰かに話をするだけで気が楽になったり、時には解決の糸口がみつかることもあります。ひとつのアドバイスが別の考え方をあなたに教えてくれるかもしれません。人生の問題の答えはひとつとは限らないからです。



悩みごとや困ったことがあるときは、気軽に学生相談室を訪ねてみませんか？

学生相談室は、図書館の下「保健室」の中にあります。専門カウンセラーの予約は看護師が行っています。相談員は全員、皆さんの話を親身になって聞きますし、相談の秘密は厳守します。

相談できる時間は次のとおりです。

学生相談室担当教員（各教員室にて）
毎週　月・火・水・木　12:30～13:10 及び 16:10～17:00
看護師（保健室にて）
毎週　月・火・水・木・金　8:30～17:00　(12:30～13:15を除く)
専門カウンセラー（保健室内の相談室にて）
毎週 金曜日14:00～18:00



出典：本校 Web サイト

資料９－１－②－６　平成２３年度第１回顧問会議議事概要（抜粋）

平成２３年度 第１回顧問会議議事概要

日　時	平成２３年８月８日（月）　１４：００～１６：００	
場　所	徳山工業高等専門学校管理棟２階大会議室	
司　会	総合企画室長	百田　正広
出席者	小野　英輔	徳山高専テクノ・アカデミア会長 サマンサジャパン(株)代表取締役会長＆ＣＥＯ
	兼清　則行	(株)兼清電子代表取締役
	小泉　達也	(社)山口県技術交流協会会長
	神野　清勝	豊橋技術科学大学理事・副学長
	髙橋　一登	徳山高専同窓会高城会会長
	弘中　大久	(社)周南青年会議所直前理事長 三和産業(株)代表取締役
	堀　憲次	山口大学工学部長
欠席者	重政　徹哉	周南市中学校長会代表 太華中学校長
	森　敏明	山口県商工労働部長

会議進行概要

●開会挨拶　井上校長

●議事　本校の現状と高専を取り巻く状況について

１．徳山工業高等専門学校年度計画の概要について
校長　井上　直樹

２．活動状況点検結果及び今後の課題について
自己評価委員長　機械電気工学科　教授　森野　数博

３．英語力向上タスクフォースⅡの取り組みについて
英語力向上タスクフォースⅡ委員長　一般科目　准教授　髙橋　愛

４．エンジニアリング・デザイン教育の方法と、今後の課題について
専攻科長　一般科目　教授　天内　和人

出典：平成２３年度第１回顧問会議概要

資料９－１－②－７　卒業生・修了生アンケート集計結果（抜粋）

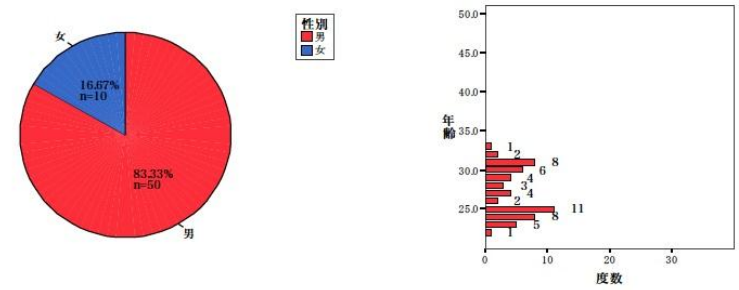
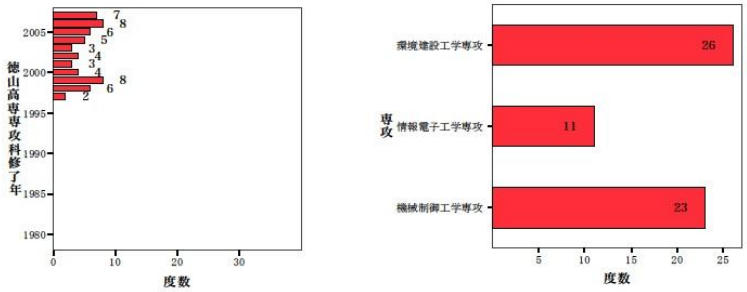


図２．１－１　性別・年齢



出典：専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

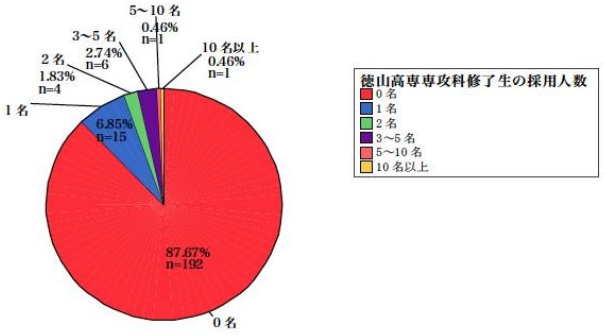
資料９－１－②－８　企業アンケート集計結果（抜粋）

第４章　専攻科修了生に対する社会的評価

４．１　はじめに

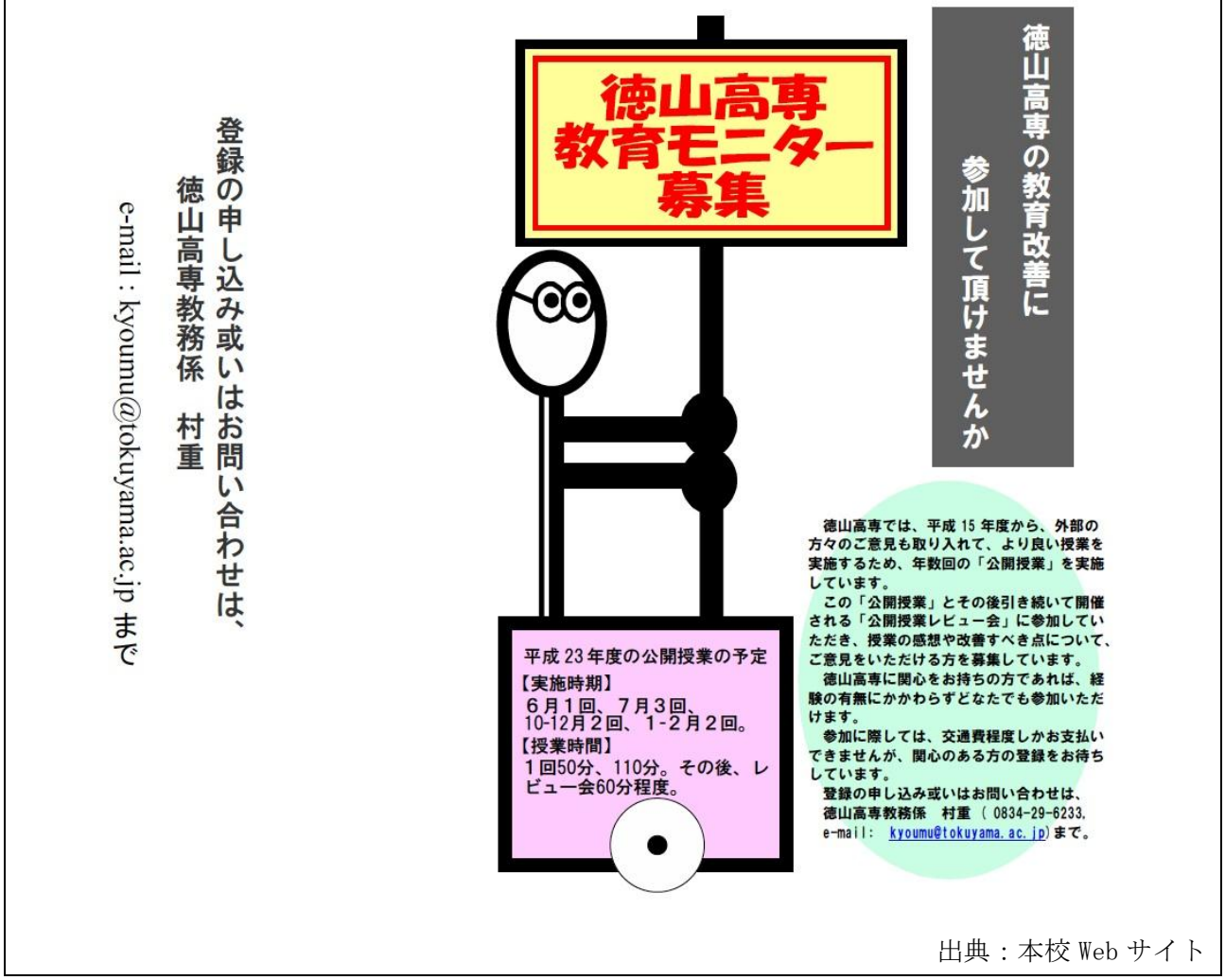
徳山高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生に対する社会的な評価を調査するため，それぞれが就職した企業のうち 233 件，本校に求人票を送付いただいた企業のうち 291 件，県内の各企業 401 件，ならびに地方自治体・官公庁 35 件に対してアンケートを実施した。

本章では，その結果から徳山高専専攻科修了生に対する評価に焦点を絞り，本科卒業生および平成 14 年度実施のアンケート結果と比較を行いながら，企業側から見た専攻科修了生の評価について分析を行った。なお，本アンケートを送付した企業のうち，徳山高専の専攻科修了生を採用している企業は 27 社であり（下図参照），アンケート回答総数に占める割合は約 10.0%（徳山高専以外の専攻科修了生は 80 社，29.9%）であった。以下，各アンケート結果についての分析を行う。



出典：専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料９－１－②－９　外部教育モニター募集要項



出典：本校 Web サイト

資料９－１－②－１０　年間職務の自己評価書（抜粋）

平成２２年度年間職務の自己評価について

所属・職名［ [redacted] ］
氏　　名［ [redacted] ］

０　基本方針　０

本校では従来から研究に加え、教育に対する評価も強く求められています。一方、高専でも設置基準が改正され、教育・研究に対する自己評価が義務化され、外部評価も義務化の方向にあります。高等教育機関としての存在がガラス張りで問われることになったわけです。徳山高専が真の高等教育機関として機能するためには、学生の教育ならびにそれを支える研究活動が社会的に認められるものでなくてはなりません。そのため、本校に所属する教員は厳しい外部評価にも耐え得るように**「いい学生を育て」、「地域に貢献し」、「そのために日々の研鑽を積む」**、これら三つの観点に留意して職務に励むことが必要であります。われわれはこれらの目的に対応する次の３項目の自己評価を行っておくことが必要かと思われます。すなわち、**「学内での教育に対する評価」、「地域等への貢献に対する評価」、「研究活動に対する評価」**がそれであり、１年間努力した内容を項目ごとに自己評価し、年ごとに向上するよう努力する必要があろうかと思われます。以下に年間職務の自己評価項目を示します。

別紙の評価基準を参考に、自分自身が努力してきたことや工夫したことなどを振り返りながら、各項目を１０点満点で評価して下さい。

Ⅰ　学内での教育に対する自己評価

１．教育活動

今年度に行った授業関係の教育活動、正規の授業以外の教育活動、および学生相談・厚生補導関係の指導等について、概要をまとめるとともに、その内容について自己評価を行い、点数を記入して下さい。なおその際、授業アンケートの結果も参考にし、そのように評価した根拠も併せてお書き下さい。また、次年度に向けた取り組み等についても記入して下さい。さらに、担当科目のうち代表的な３科目程度を選び、それらの科目に対する学生の授業評価の結果について説明して下さい。

教育活動等を総括しての自己評価点数	１０　点	努力内訳
授業関係（座学、実験・実習、演習、卒研、等）		60　%
正規の授業以外（補習、資格試験、就職試験、学会発表、コンペ等の指導）		30　%
学生相談（学習・生活・進路）、厚生補導関係の指導等		10　%

概要（成果、問題点、改善策を記入）

本科１年生から専攻科２年生まで多くの正規授業科目を担当した。一般科目教員であるにも関わらず、卒業研究３名（CA３名）、専攻科特別研究２名（EC２名）、研究生１名の研究指導、学会発表指導、生活指導、進路指導等を積極的に行った。専攻科特別研究担当教員として名簿に記載されているが、卒業研究担当教員としての位置付けが曖昧なので、改善をお願いしたい。

学生の授業評価の結果についての説明

「科学基礎」は、難しい科目との認識がある（質問３）ようだが、学生が授業に取組む態度に関して、教員側と学生側の印象に乖離がある（質問９）。平成２３年度からは、クラス別授業にしたので、学生の理解度、取組む姿勢が改善し、この乖離が解消する事を期待したい。「科学基礎」を含め、「化学 III」「生物学」「生命科学」の授業アンケート結果に関しては、特に、問題点は感じない。授業内容のアップデートに、今後も取組み、最新の知識を授業内容に積極的に盛り込みたい。

出典：自己評価委員会資料

資料９－１－②－１１　教員面談記録（抜粋）

22年度業務評価

学科	職階	氏名	教育 授業関係 （×0.35）	課外活動 （×0.15）	研究 論文等 （×0.1）	外部資金 （×0.06）	校務 （×0.18）	地域連携 （×0.16）	計 A>8 8>B>4 4>C	コメント
一般科目	教授	[redacted]	10	8	9	10	10	6	8.96 (A)	■■■長その他多くの委員会の委員として、校務については最大級の貢献。教育にも熱意を持って取り組んでいただいており、学生の信頼も厚いよう。課外活動も■■部、■■部を担当し、多忙の割に参加率大。研究は、論文、口頭発表とも水準以上に行っており、外部資金130万円獲得は、校内で上位。他地域・産業連携は、共同研究2件、イベント参加1件、他の公的機関活動への協力2件と、水準に達しており、バランスも良い。

出典：校長室資料

資料９－１－②－１２　職員面談シート（例）

職員面談シート

(1) 氏　名	■■■■（■■歳）	(2) 所属	■■■■（■■担当）

(3) 担当業務の希望・諸課題について
・会計系が心配（契約係の障害者雇用に対する意見（■■・■■））
→■■・■■に対する指揮命令系統見直し？（補佐付け）
・地域連携係ともう少し連携が必要と思っている。
・総合企画室事務係の業務の見直検討が必要。

(4) 業務改善について
○担当業務

○全般業務

(5) 現在の健康状況について
○本人
・高血圧、糖尿病（投薬治療中）

○家族等
・両親（■■在住）：父親（■■歳）がＯＰ等の後通院が必要。通院にはついて行く必要がある。、母親は耳が聞こえにくくなっている。

(6) 異動に関する希望等
・今のところない。（大島に居る両親の体調によっては希望するかも知れない。）

(7) その他
一人員枠管理に伴う他機関との人事交流を含めた人事計画依頼。

平成２３年　５月２６日（15:50-16:35）　面談者：　■■■■

出典：総務課資料

資料９－１－②－１３　徳山高専意見箱



出典：総務課資料

資料９－１－②－１４　意見箱取扱要領

徳山工業高等専門学校における意見箱取扱要領

平成２２年　７月２３日
校　　長　　裁　　定

（趣旨）
１．徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し，その改善に資することを目的として，教職員，学生及び保護者からの意見を受け付けることのできる体制を整備する。
（目的）
２．この要領は，本校における「徳山高専意見箱」（以下「意見箱」という。）の取扱い及び運用について，必要な事項を定める。
（定義）
３．この要領において意見とは，学校運営上の要望及び指摘等をいう。
意見は誹謗・中傷は厳に謹み，建設的なものとする。
（周知及び意見の提出方法）
４．教職員，保護者及び学生に対する周知，意見の提出方法は以下のとおりとする。
（１）教職員については，本校の学内専用ホームページ上で周知を行い，意見があれば徳山高専意見箱送信フォームに必要事項を入力し送信する。
（２）保護者については，成績通知票送付時に年１回文書（様式１）を同封し，意見があれば総務課受付前に設置の意見箱に投入する。
（３）学生については，年１回メールで周知（様式２）し，意見があれば総務課受付前に設置の意見箱に投入する。
（意見の取扱い）
５．校長は，意見に対して以下のとおり取扱う。
（１）総合企画室長から，回収した意見の報告を受け，必要に応じて関係部署に意見に対する見解を求める。
（２）検討の結果を踏まえ，回答する必要があると判断した意見については，総合企画室長を経て，意見の提出者に文書等により回答する。
（３）改善を要すると判断した意見については，関係部署に改善を指示する。
（個人情報の保護）
６．意見に係る個人情報については，関係規則等に則り，適正な取扱い及び管理を行う。
（雑則）
７．意見箱に関する事務は，総務課総合企画室事務係において行う。

附　則
この要領は，平成２２年７月３０日から施行する。

出典：総務課資料

資料９－１－②－１５　意見箱への投書内容および回答（例）

徳山高専意見箱への投書内容の概要および回答

教職員・学生・保護者の区別（番号）	受付日	ご意見、ご要望、ご指摘等の概要	徳山高専からの回答または本校の考えもしくは対応	処理方法及び処理日
保護者実名（No.5）	2010/9/3	夏休みや春休みを利用した補習授業などで学生の学力向上を図ることを望みます。	教務主事へ回答依頼 夏季休業中にしっかり勉強してもらうことを目的に、9／13(月)－17(金)の間「学習強化週間」を設定し、教科の補習、英語や各種資格試験講座などを実施しています。このことについては夏休み前の合同HRやクラスHRにて学生に伝達しています。このような取組は勉学への意識や能力の向上に有益だと考えています。今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。多くの学生が積極的に参加し、学力向上をめざしてほしいと思っています。 なお、クラスごとに、担任の主導のもと試験前にクラス全体で「勉強会」も実施されたりしています。	総合企画室長より電話にて意見提出者に回答済み 2010/9/15

出典：総合企画室資料

資料９－１－②－１６　自己点検結果報告書（点検手順と日程）

本校の活動状況報告及び
教育点検システムの点検結果報告書(平成 23 年度)

○ 点検手順と日程

点　検　内　容	日　程
1. 平成 23 年度運営委員会の構成メンバー等に、各担当部署の現時点までの活動状況について報告書の提出を依頼	1/12(木)運営委員会で予告 1/13(金)自己委で決定 1/16(月)依頼 2/27(月)〆切
2. 提出された全部署の活動状況報告書をまとめ、当該メンバーに返却。各担当部署の年度末までの活動状況について加筆を依頼。その際、他の部署の記載内容も参考に、実施状況の追記や評価の再確認、未記入欄や誤字脱字等については注意を促すなど、必要な修正を依頼	3/2(金)依頼 3/8(木)〆切
3. 提出された報告書に対し、本校全体の活動状況を主体に、自己評価委員がそれぞれコメントを記入	3/9(金)依頼 3/16(金)〆切
(4. 自己評価委員から提出されたコメントを一覧にまとめ、自己評価委員に送付)	
(5. 他の委員のコメントも参考に、自己評価委員は再度コメントを提出)	
4. 自己評価委員から提出されたコメントをもとに、自己評価委員長が総括の原案を作成し、自己評価委員に送付	3/22(木)送付
5. 自己評価委員会において、本校の活動状況ならびに教育点検システムが機能しているかどうかについて総括の検討	3/26(月)自己評価委員会
6. 活動状況報告ならびにシステムの点検結果報告書をまとめ、公表	5 月の運営委員会にて公表

出典：本校の活動状況報告及び教育点検システムの点検結果報告書

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業アンケート，顧問会議，卒業生，修了生および就職先企業等に対するアンケート，意見箱の設置など，様々な取組みにより，学校の構成員，学外関係者の意見を聴取しており，その結果をもとに自己評価委員会が，作成した基準に基づき，自己点検・評価を行い，点検結果報告書を作成している。

以上のことから，学校の構成員，学外関係者の意見の聴取を行っており，教育の状況に関する自己点検・自己評価を適切に行っている。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

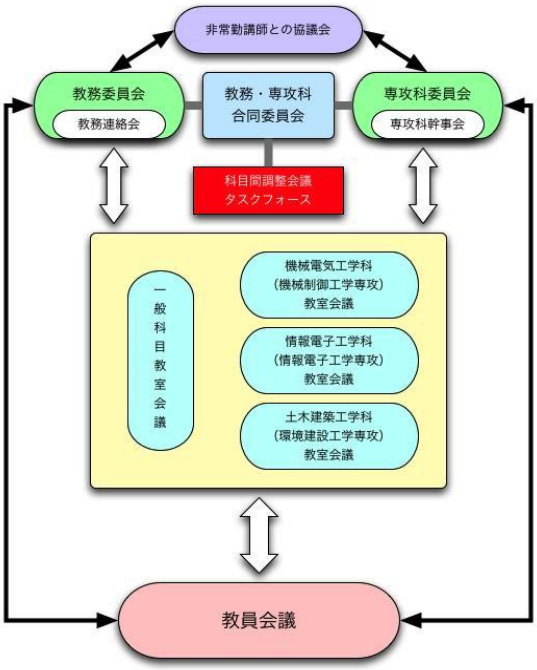
（観点に係る状況）

教務委員会，専攻科委員会を中心に教室会議，科目間調整会議，タスクフォースの密な連携によるカリキュラムの検討が継続的に行われている（資料９－１－③－１）。教育の状況に対する自己点検・自己評価の結果，必要があれば科目間調整会議（資料９－１－③－２）やタスクフォース（資料９－１－③－３）を開催している。平成２２年度には，教員会議における検討をもとに，エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループ（資料９－１－③－４）および高度化改革検討ワーキンググループ（資料９－１－③－５）が設置され，本校の教育の高度化を目指した改革についての検討を行った。また教員研修会において，本校を取り巻く状況やカリキュラムに関する議論が行われている（資料９－１－③－６）。

内部教員と外部の教育モニター参加による「公開授業」（資料９－１－③－７）とその「レビュー会」（資料９－１－③－８）が実施されている（年間１６回）。また，学生に直接インタビューを行うプレレビュー会（公開授業実施前）（資料９－１－③－９）とポストレビュー会（公開授業実施後）（資料９－１－③－１０）により，授業改善が行われたかどうかの確認を行っている。これらの公開授業レビュー会などの議事録は資料室に保管され，閲覧できる。さらに，定期試験の全答案および模範解答，学習シートなどが資料室に保管されており，他の教員も過去の資料を閲覧でき，授業改善に役立てられている。

さまざまな評価や検討の結果を踏まえ，教務委員会，専攻科委員会を中心に教室会議，科目間調整会議，タスクフォースの密な連携によりカリキュラムの改正（資料９－１－③－１１）や授業内容の工夫が行われている（資料９－１－③－１２）。

資料９－１－③－１　教員間連絡ネットワーク組織



出典：本校 Web サイト

資料９－１－③－２　数学科目間調整会議（抜粋）

第一回数学系科目間調整会議議事録

平成 22 年 8 月 31 日
14:00～15:00

出席者　原田幸、藤田、義永、天内、橋本
欠席　米田

１．　本科 1 学年から 5 学年までの数学系科目のフローの有用性
CA5 の線形代数等、フロー表に変更が出ている箇所があるので、確認して再度検討する。

２．　本科 1 学年から専攻科 2 学年までの数学系科目のフローの有用性
CA5 の線形代数等、フロー表に変更が出ている箇所があるので、確認して再度検討する。専攻科 2 年生の数学系科目（離散数学、Engineering　Mathematics）の受講者が最近ないので、専攻科 1 年生に下げ、大学院の受験対策として一般教養数学科目を開講してはどうかという意見が出た。Engineering Mathematics については内容が悪く、廃止してはどうかという意見も出た。

３．3 学年数学到達度試験への対応
現在、2 学年と 3 学年は到達度試験の模擬試験を年に 3 回実施しているが、真剣に取り組む学生が少なく、結果も悪い。到達度試験もその模擬試験も受験に対する学生の姿勢から変えていく必要があるようだ。進級あるいは卒業要件に到達度試験の成績を加味する可能性も検討すべきという意見が学内にはある。

出典：数学科目間調整会議議事録

資料９－１－③－３　英語力向上タスクフォースIIの設置

英語力向上タスクフォースIIの設置について

平成21年 7月 8日
校長　平野　千博

１．趣旨

本校は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を教育目標として掲げ、そのための学習・教育目標のひとつとして「技術者としてのコミュニケーション能力を養うこと」を掲げている。現在および将来に予想される技術の国際的展開の趨勢を考えると、「技術者としてのコミュニケーション能力」を構成するものの中で、英語による国際的なコミュニケーション能力は、不可欠の要素のひとつであることは明らかである。

本校においては、平成14年に英語力向上タスクフォースを設け、本校の学生の英語力を向上させる総合的な方策について検討し、その結果を踏まえて、現在の英語教育体制を整備した経緯がある。以来 7 年間を経過し、技術者が関わる業務はますます国際的な広がりを持つようになっている。

このような状況を踏まえ、現在の徳山高専における英語教育の目標等の有効性を確認し、今後本校がとるべき英語教育の目標等について検討するため、英語力向上タスクフォースII（以下「タスクフォース」という。）を設置する。

２．任務

タスクフォースは、平成21年度内を目途に、以下の諸点について検討し、検討の結果を校長に報告するものとする。

（１）現時点における英語力向上目標の達成度の評価
（２）現時点における英語力向上を目的とした方策の有効性の評価
（３）専攻科学生選抜における学校長推薦基準および専攻科修了要件のうち英語力に関する事項の妥当性の評価
（４）英語力向上のためにとるべき方策と達成目標についての提案
（５）その他英語力向上を図る上で必要な事項

３．構成

タスクフォースは、校長の指名する委員長および委員数名で構成する。必要に応じ、関係者を招請して意見を求めることができる。

出典：英語力向上タスクフォースII諮問

資料９－１－③－４　エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループの設置

エンジニアリング・デザイン教育プログラム
検討ワーキンググループの設置

平成 22 年 7 月 1 日
校　長　裁　定

１．趣旨

本校は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を教育目標として掲げ、そのための学習・教育目標のひとつとして「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること」すなわちエンジニアリング・デザイン能力の涵養を掲げている。

本校においては、平成 19 年度から「ものづくり技術者育成支援事業」による取組みを開始し、専攻科において「総合実験」「総合演習」を中心としたエンジニアリング・デザイン教育プログラムを整備した。しかしながらこの教育プログラムは平成 23 年度以降の JABEE 認定審査に盛り込まれることが決定されている国際的に通用するエンジニアリング・デザイン教育プログラムとしての観点を満たしたものとはなっていない。

このような状況を踏まえ、現在の本校におけるエンジニアリング・デザイン教育の方法等の有効性を確認し、今後、本校がとるべきエンジニアリング・デザイン教育プログラムについて検討するため、エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置する。

２．任務

WG は、平成 22 年度内を目途に、以下の諸点について検討し、検討の結果を校長に報告するものとする。

（１）国際的に通用する観点から、現時点における本校のエンジニアリング・デザイン教育プログラムの達成度の評価
（２）国際的に通用する観点から、今後、エンジニアリング・デザイン教育プログラムを確立するためにとるべき方策と目標についての提案
（３）その他、エンジニアリング・デザイン能力の向上を図る上で必要な事項

３．構成

WG は、校長の指名する委員長および委員数名で構成する。また、必要に応じ、関係者を招請して意見を求めることができる。

４．庶務

WG の事務は、学生課において行う。

出典：エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループ諮問

資料９－１－③－５　高度化改革検討ワーキンググループの設置

高度化改革検討ワーキンググループの設置について

平成 22 年 2 月 23 日
校長　平野　千博

１．趣旨

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画（平成 21 年 4 月決定）は、各国立高専に対し、「産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、各高等専門学校がそれぞれの地域性や特色、立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、学科構成を見直し、地域の要請に即応した新分野の学科の設置や改組・再編・整備を適切に進めるとともに、地域や各高等専門学校の実情に応じ専攻科の整備・充実を行う」ことを求めている。

他方、本校本科の学科構成は、開校後 30 年以上もの間変更がなされておらず、現在及び今後の時代の進展、地域の要請、産業界における人材需要の変化、学生のニーズの変化等に対し、十分に対応できなくなる可能性が懸念される。

このような状況を踏まえ、本校を今後の社会の要請に対応できるより魅力的な高等教育機関とするため、地域の声を積極的に聴き、学科構成等を含め、本校の高度化を目指した改革について検討を行うこととする。

このため、本校に高度化改革検討ワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置して、本校の将来を見据えた議論を行い、必要な改革に関する全校的な議論の基となる提案をまとめることとする。

２．任務

WG は、平成 22 年度のできる限り早い時期を目途に、以下の事項について検討し、検討の結果を校長に報告するものとする。

（１）本校を取り巻く社会情勢の変化と今後の見通し
（２）現時点及び今後予想される本校に対する社会の要請
（３）本校の高度化を目指した改革についての提案

３．構成

WG は、校長の指名する委員長、副委員長および委員数名で構成する。また、必要に応じ、関係者を招請して意見を求めることができる。

４．庶務

WG の庶務は、総合企画室において行う。

出典：高度化改革検討ワーキンググループ諮問

資料９－１－③－６　教員研修会実施要項

平成23年度第１回FD講演会実施要項

目　　的：平成16～19教務主事を務め、H20第4期中央教育審議会大学分科会委員に選ばれ活躍された本校機械電気工学科森野教授により、徳山高専がおかれた状況を分析し、これから何が必要か、教育において大切にすべきことは何かについて提言をしていただき，今後の教育のあり方や徳山高専が進むべき道などについて意見交換を行う。

日　　時：平成23年6月15日（水）14:30～16:00

場　　所：メディアホール

対 象 者：全教職員

講 演 者：機械電気工学科　森　野　数　博　教授

演　　題：「生き残れるか、徳山高専」

出典：教務係資料

資料９－１－③－７　公開授業の案内

平成２３年度 徳山工業高等専門学校 公開授業

第７回実施要領

学習・教育レビュー室

■公開授業

日時：　平成 24 年　**1** 月　**13** 日（金）10:45～12:30（3,4 時限）
科目：　機械電気工学科 2 年　　加工学
教員：　機械電気工学科　　伊藤　尚
場所：　情報処理センター　第１パソコン室
参加者
関連授業担当教員：　森野　数博　　（機械電気工学科）
学科内教員：　鈴木　厚行　　（機械電気工学科）
他学科教員：　西尾　幸一郎　　（土木建築工学科）
学外教育モニター：　藤本　賢司　様
琴山　素行　様

■レビュー会

日時：平成 24 年　**1** 月　**13** 日（金）12:35～（1 時間程度）
場所：管理棟 1F 小会議室（玄関脇）　司会進行　（エグザミナー）鈴木

審議項目

- 授業の進め方
- 学生の理解度
- 板書等の使い方
- 学生の参加意欲の向上のさせ方，など

■評価方法

公開授業参観中は公開授業評価チェックシートに気づいた点を記入

出典：学習・教育レビュー室資料

資料９－１－③－８　公開授業レビュー会結果

2011 年 1 月 13 日

公開授業レビュー会

日時：平成 24 年 1 月 13 日　12:35 ~13:10
場所：管理棟 1F 小会議室
出席者：藤本 賢司 様，琴山 素行 様，森野 数博 先生，西尾 幸一郎 先生
進行：鈴木厚行

内容：

担当者の感想

・ 前半盛り上がるところもあったが、時間が足りなくなり、学習シートの予定までは行けなかった。
・学生はまじめに取り組んでくれ、理解もしてくれたと思う。

授業で良かった点と悪かった点

藤本様
・前半と後半にアクセントがあり退屈しなかった。
・参加意欲も非常に高かった。
・まとめると素晴らしいものができるのでは。
・プレゼンはどんどんやられたらよいと思う。
・効果的にパソコンを使っていた。
・椅子の音が改善できたらよい。

琴山様
・生徒のプレゼンの仕方が下手であった。生徒はわからせる意識を持ったほうがよいのでは。
・プレゼンを聞いている生徒の態度が悪かった。関係のない画面を見ている生徒もいた。
・生徒の質問の声が聞こえない。先生もマイクを使用しないときは声が聞こえなかった。

森野先生
・学生からの質問が多くて良かった。
・学生のパワーポイントの内容はいまひとつであった。
・プレゼンに対する学生の質問については、加工法にもう少し焦点を当てるとよいと思うが、質問が多く出ているため、必ずしも加工法に焦点をあてなくてもよいかもしれない。バランスを取るともっとよくなると思う。
・前半と後半がうまく色分けして飽きさせない工夫がよい。
・答えられなかった質問は次の授業で回答させるのもよいかもしれない。ただし、質問しづらい雰囲気になってしまう恐れもあり、難しいところ。

西尾先生
・学生が積極的に参加し、質問が多いのが良かった。
・学生が質問に答えきれないときにどうするのか気になった。後で再調査させたり、教員がフォローしたりするといいかもしれない。あるいは、答えられないような質問は避けるように学生は質問内容を考える必要があると思う。
・パソコンで調べながらやっているのは良い。
・第 1 パソコン室は後ろから各パソコンの画面が見られるため、関係ない画面を見させないためには良いと思った。

出典：学習・教育レビュー室資料

資料９－１－③－９　公開授業プレレビュー会結果

学生プレレビュー会結果　　実施日 12/12
科目　加工学　　強く肯定→強く否定
講師氏名　伊藤 尚 先生　　４→１

番号	項目	点数(平均点)
1	先生の言葉は良く聞き取れる	3.4
2	先生の説明は理解しやすい	3.0
3	授業の到達目標や毎回の説明は適切なレベルである	2.6
4	先生の黒板やOHPの使い方や書き方はわかりやすい	3.1
5	授業はシラバスと一致している	2.9
6	先生は学生の授業への参加意識を高めるようにしている	3.3
7	学習シートなどの副教材は有効に活用されている	3.1
8	授業は到達目標を満足できるよう工夫された構成である	2.8

コメント

自分で出来た!!と思ってても先生はもっとふかくを教えてくれるのでたすかります。
パワーポイントの作成時間をもう少しもうけてほしい。
学生の1つ1つのプレゼンテーションに対して、より良くするための指摘や改善点などをよく示していただけるので、次へ生かしやすいと思う。
プレゼンの準備時間が短かった。
パワーポイントの発表がつらいです。
いろいろアドバイスしてくれるからありがたい。
パワーポイントでやるのはいい。
プレゼンの準備時間が足りない。
生徒が発表するのに対して、するどい質問をされるので、発表者側も聞いている側もとても勉強になる。

出典：学習・教育レビュー室資料

資料９－１－③－１０　公開授業ポストレビュー会結果

学生ポストレビュー会結果　　実施日1/30
科目　　強く肯定→強く否定
講師氏名　　４→１

番号	項目	点数(平均点)
1	先生の言葉は良く聞き取れる	2.8
2	先生の説明は理解しやすい	2.5
3	授業の到達目標や毎回の説明は適切なレベルである	2.8
4	先生の黒板やOHPの使い方や書き方はわかりやすい	3.1
5	授業はシラバスと一致している	3.0
6	先生は学生の授業への参加意識を高めるようにしている	3.4
7	学習シートなどの副教材は有効に活用されている	3.6
8	授業は到達目標を満足できるよう工夫された構成である	3.0

コメント

様々な分野の知識を得ることができる.
自ら考え発表する等,よく考えられた授業
学習シートとパワーポイントにより,1回1回の授業目標が正確に理解でき,よりスムーズな授業になっていると思う.また,個々のプレゼンテーションに対し,的確なアドバイスや改善点を示して下さるので,次に生かしやすくなっている.
プリントはきちんと配って欲しい.
重要な事はしっかりと伝達して欲しい
OHPを使った説明が分かりやすい.
授業の目的が分かりにくい
パワーポイントの資料が分かりやすい.
全体への説明が聞き取りにくい.

出典：学習・教育レビュー室資料

資料９－１－③－１１　教務委員会議事録（抜粋）

Ｈ２３年度　第７回教務委員会議事概要

日　時　　平成２３年１１月３０日（水）　１６：１０～１６：５２
場　所　　専攻科棟３Ｆ講義室３
出席者　　教務主事、教務主事補（柏倉，杉村，中川）
　　教務委員　（大橋，鈴木，守川，目山），学生課長
欠席者　　教務主事補（森崎）
陪　席　　教務係長

議　題
１．学則の一部改正について
池田教務主事から学則改正に至った経緯，改正理由及び改正内容について資料に添って説明がなされた。第５回教務委員会で既に了承されている改正内容に加えて，英語及び自然科学基礎科目について，科目及び単位の追加等の改正，情報電子工学科の授業内容の見直しによる科目及び単位の追加等の改正，土木建築工学科の開設科目の流れを分かり易くするために科目の並びを変更したこと及び所要の改正を行うことの説明がなされ，原案どおり了承された。

２．外部修得単位及び資格取得等による学修に係る単位修得の認定に関する規則の一部改正について
池田教務主事から海外語学研修による単位認定については，一般科目の特別学修単位として認定すること，及び特別学修単位認定申請書の提出期限を原則として１２月末から１月末に変更することが第５回教務委員会において了承されている。これに併せて同教務委員会で懸案となった英語に係る認定単位数の見直しについて，英語科に検討を依頼し，これを受けて英語科から提案された認定単位数に係る改正案が示された。また，本規則の改正については，平成２３年４月１日適用とし，英語の単位の改正については平成２４年４月１日施行としたいとの提案がなされ，原案どおり了承された。

出典：教務委員会議事録

資料９－１－③－１２　専攻科委員会議事録（抜粋）

専攻科長から『設計情報工学』プログラム全体の流れとして、高専生の弱点でとされている教養に関する科目の一般教養科目（専攻１年での受講が多い）をできるだけ社会へ出る前の２年生後期に履修させるため、併せて学位申請関連専門科目について１０月の学位申請前に受講させるため、開講時期を変更したい旨の提案があり、協議の結果了承された。

（改正案）

① 「生命科学」（専門基礎科目（必修）；１年後期　担当、天内　２年前期へ
② 「技術者の倫理」（教養科目（必修）；１年通期　担当　小川　２年後期へ
　現在論議中のエンジニアデザインのプログラム改正に影響はない。
③ 「国際比較文化論」（教養科目（必修）；１年後期　担当　柏倉　２年後期へ
④ 「科学英語表現法」（教養科目（必修）；２年前期　担当　高橋　２年後期へ
　特別研究の Abstract を書く能力をつけさせたい。
⑤ 「地形情報処理学」環境建設工学専攻　専門科目（選択）；２年後期　担当；工藤、２年前期へ

なお、専攻科履修要覧の改正と学則改正を運営委員会に付議することが確認された。

（２） 教養科目の必修化について（資料なし）

専攻科長から産業論（専攻科１年教養科目）を選択科目から必修科目に変更することが提案され、以下のとおり提案理由の説明があった。

本科目は専攻科１年生前期の唯一の選択科目であるが、地域の経営者等をオムニバス方式で講師に迎え、かつインターンシップ前のマナー講習も取り込んでいるカリキュラムでもあり全員を受講させたく、教養科目必修とする。

協議の結果、了承された。

出典：専攻科委員会議事録

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・自己評価の結果を受け，科目間調整会議，タスクフォース，ワーキングなどが開催され，その議論を経て，教務委員会，専攻科委員会を中心とした教員間連絡ネットワーク組織により，教育の質の向上，改善に結びつけるシステムが整備され,改善に結びつける運用がなされている。

以上のことから，教育の質の向上，改善に結びつけるシステムが整備され，具体的かつ継続的な方策が講じられている。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

学生による授業アンケート結果は，教員の予想点を示し，本校Webサイトで公開している(資料９－１－④－１)。

自己評価委員会が，その実施要領に基づき年度毎に各教員の年間職務の自己評価を報告書としてまとめている（資料９－１－④－２）。各教員の自己評価に関して自己評価委員がコメントをフィードバックしている（資料９－１－④－３）。また各教員の自己評価結果は前年度と比較して評価・公開することとしている(資料９－１－④－４)。

授業アンケートや年間職務の自己評価結果に関して，校長により年に１回実施される教員面談で改善等に関する議論が行われている（資料９－１－②－１１）。

授業アンケートや年間職務の自己評価の結果により授業内容，教材，教授技術等が継続的に改善されている事例を以下に示す。 本校の英語科では，平成２１年度から開始された「英語力向上タスクフォースII」における検討およびその答申（資料９－１－④－５）を受け，平成２２年度からシラバスの改善（資料９－１－④－６）に取組み，その有効性を確認しつつ英語多読教材の授業への導入などの取組みを開始した（資料９－１－④－７）。これらの取組みの有効性は，ACEスコアの推移（資料９－１－④－８）や，専攻科生の入学時におけるTOEIC平均スコアの上昇に現れている（資料９－１－④－９）。

資料９－１－④－１　平成２３年度授業アンケート集計結果（抜粋）

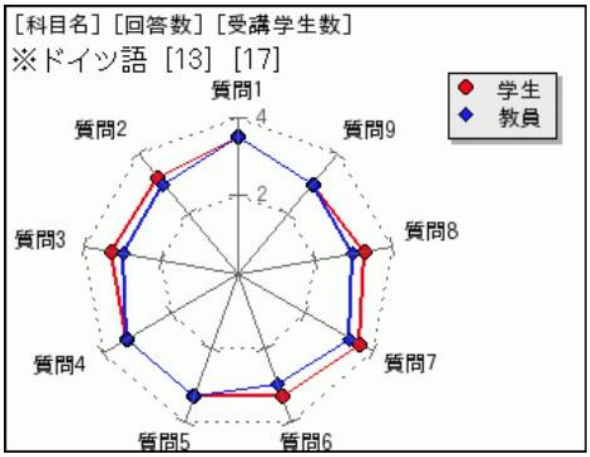
授業評価アンケート 一般科目　　12/05/18 10:17

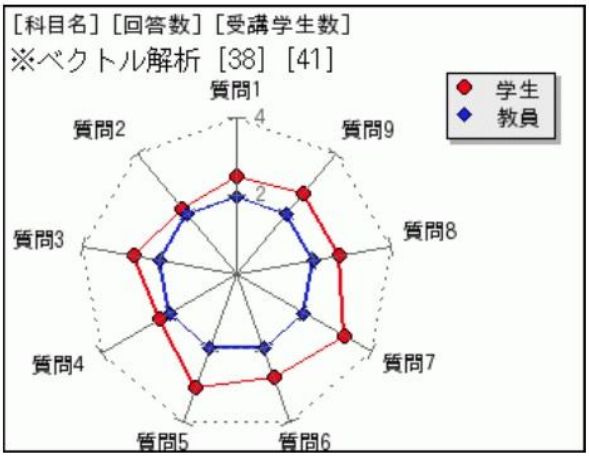
授業評価アンケート集計結果

質問

1. 先生の言葉はよく聞き取れる。
2. 先生の説明は理解しやすい。
3. 授業の到達目標や毎回の説明は適切なレベル（難易度）である。
4. 先生の黒板やOHP等の使い方や書き方はわかりやすい。
5. 授業はシラバスの内容と一致している。
6. 先生は学生の参加意識を高めるようにしている。
7. 学習シートなどの副教材は有効に活用されている。
8. 授業は到達目標を満足できるよう工夫された構成（内容）である。
9. この科目に関する実力が身に付いた。（この科目の到達目標を達成した。）

一般科目





出典：本校 Web サイト

資料９－１－④－２　年間職務の自己評価の提出依頼

差出人: 年間職務（kikaku-nen） <kikaku-nen@tokuyama.ac.jp>
件名: 年間職務の自己評価の依頼について
日時: 2011年5月16日 9:09:26 JST
宛先: gg（一般科） <gg@tokuyama.ac.jp>, me（機械電気工学科） <me@tokuyama.ac.jp>, ie（情報電子工学科） <ie@tokuyama.ac.jp>, ca（土木建築工学科） <ca@tokuyama.ac.jp>
Cc: 井上校長 <inoue@tokuyama.ac.jp>

2 個の添付ファイル、130 KB

教員各位

自己評価委員長

添付しました「H22年度年間職務自己評価基準」に基づき、
「平成22年度年間職務の自己評価」の提出をお願いします。
〆切は6月17日（金）といたします。(総合企画室事務係kikaku-nen)

なお、校務の基準点を見直し、一部変更しました。
変更部分は赤字で示してあります。
変更の趣旨は学級担任の基準点を上げることで、それに付随し、
全体の見直しを行っています。
疑問な点があれば、自己評価委員にお尋ね下さい。

お忙しいところをまことに恐縮ですが、よろしくお願いします。

H22年度年間…oc（44 KB）　平成２２年度…oc（86 KB）

出典：学内メール

資料９－１－④－３　自己評価委員からのコメント（抜粋）

年間職務自己評価書レビューコメント記入様式

学科		氏　名	コメント
一般科目	1	[redacted]	担当する専攻科の授業は無いのでこれに関してはコメントなし。研究活動および外部資金の導入に関しては、ほとんど何も実施していないことに問題を感じる。
	2		専攻科の講義、研究に関する自己評価および総合評価は妥当だと思います。
	3		（本人のためコメント無し）
	4		専攻科の講義、研究に関する自己評価および総合評価は妥当だと思います。
	5		専攻科の講義、研究に関する自己評価は妥当だと思います。クラブ活動や地域貢献が少ないことを考えると総合評価は少し過大ではないかと思います。
	6		専攻科の講義、研究に関する自己評価は妥当だと思います。総合評価は過大ではないかと感じます。
	7		専攻科の講義は担当がありませんのでコメントなし。研究に関する自己評価および総合評価は妥当だと思います。
	8		専攻科の講義は担当がありませんのでコメントなし。研究に関する自己評価および総合評価を出来ていない理由は理解不可能です。
	9		専攻科の講義、研究に関する自己評価および総合評価は妥当だと思います。
	10		専攻科の講義、研究に関する自己評価および総合評価は妥当だと思います。
	11		専攻科の講義は担当がありませんのでコメントなし。研究に関する自己評価は妥当だと思います。総合評価は過大ではないかと感じます。
	12		専攻科の講義、研究に関する自己評価および総合評価は妥当だと思います。
	13		専攻科の講義は担当がありませんのでコメントなし。研究に関する自己評価および総合評価は妥当だと思います。
	14		専攻科の講義は担当がありませんのでコメントなし。研究に関する自己評価は妥当だと思います。総合評価は過大ではないかと感じます。

出典：自己評価委員会資料

資料９－１－④－４　年間職務の自己評価比較結果（抜粋）

徳山工業高等専門学校　12/05/18 11:05

入試資料請求　交通アクセス　お問い合わせ　サイトマップ
English

サイト内検索　検索
Powered by Google

教育活動
Educational activity

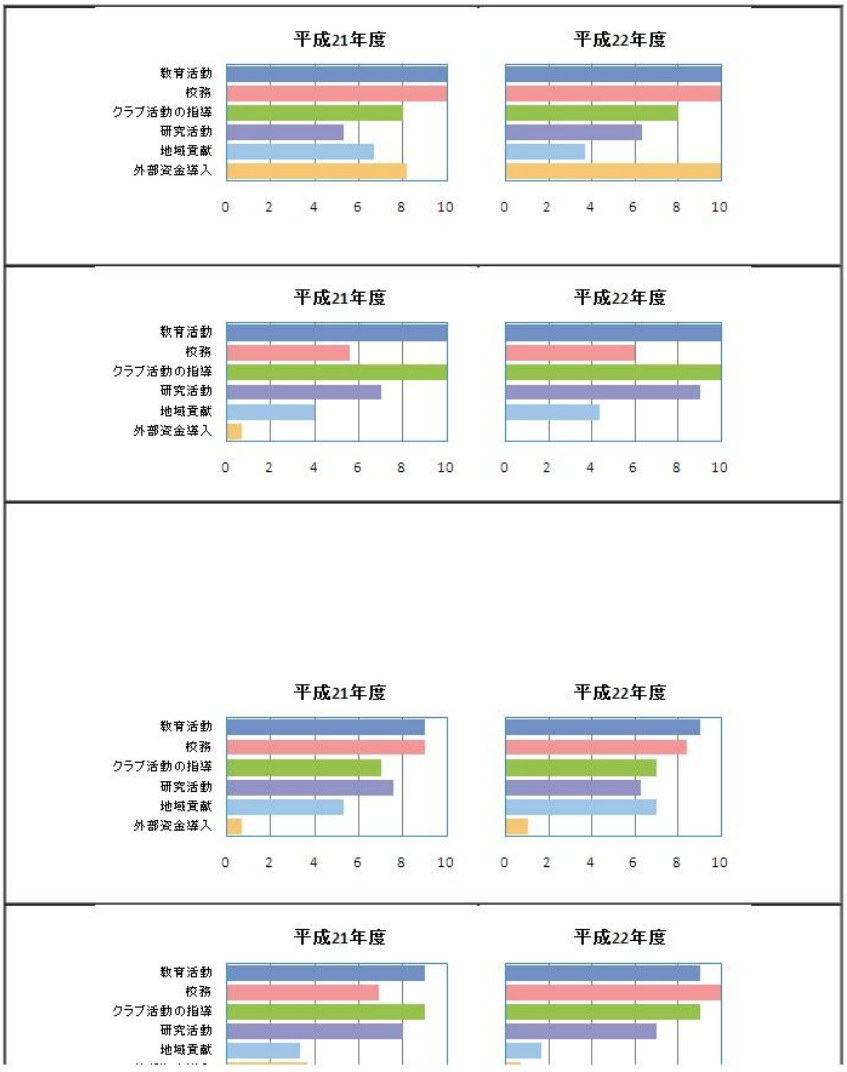
- FD活動
- シラバス
- 授業時間割
- 創造性教育について
- 特許出願・コンテスト受賞実績
- 優秀講演表彰受賞実績
- 自己点検・自己評価
- 授業アンケート結果
- 外部評価
- インターンシップ
- オフィスアワー
- 寄付講座

緊急のお知らせ
高専夢広場
キャリア教育支援室
教職員紹介
産官学連携
教育研究支援センター
学校公開情報
オープンキャンパス
徳山高専を見て知ろう！学校見学会
図書館

年間職務の自己評価を活用したグラフの公開

各教員ごとの２１年度と２２年度のデータを以下に示します。教科により、また、職務によっては、十分に果たし難い項目もあります。従って、絶対値そのものより、本校の教員それぞれが、昨年度１年間、何に力を入れて職務を行ってきたのか、また、一昨年度と比べた各教員の改善努力を示すものと理解して頂ければと思います。

一般科目



http://www.tokuyama.ac.jp/edu/rader-2011ge.html　1/4 ページ

出典：本校 Web サイト

資料９－１－④－５　「英語力向上タスクフォース II」答申（抜粋）

7. 提言

「英語力向上タスクフォースⅡ」の答申として、以下のことを提言する。

- ○ 本科における卒業要件または進級要件の設置
- ○ 専攻科修了要件（TOEIC スコア 470 まで）および専攻科推薦資格（TOEIC スコア 380 まで）の段階的引き上げ
- ○ 現行カリキュラムの改正（本科 4･5 年生における英語未履修の防止）
- ○ 英語関連科目の抜本的見直し（専攻科「英語購読」など）
- ○ 英語関連教育プログラムに対する外部評価の実施
- ○ 英語関連科目担当教員に対する研修の実施
- ○ 習熟度別･少人数制授業の実施
- ○ 英語科教員（特に英語を母語とする外国人の専任教員）の増員
- ○ 短期語学研修の実施体制の改善
- ○ 海外提携校との交流の強化
- ○ 留学生と日本人学生との交流機会の増加
- ○ 英語教育に関わる教材･設備の整備

以上の提言を実現するために最も重要なことは、教職員全体による組織的な取組みである。したがって教員会議等において、本校の英語教育目標を教職員全員で再確認し、それを共有することが必要である。そこでは、「世界に通用する技術者」としてのコミュニケーション能力をどのようにとらえるかを議論し、具体的な目標を明確に設定する必要がある。

出典：英語力向上タスクフォース II 答申

資料９－１－④－６　本科１年生「基礎英語 R」シラバスの改善（抜粋）

平成21年度

基礎英語R(Basic English R)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
一般科目	必修	1年	2	講義	長戸喜隆

【授業の概要】
聞き・話し・読み・書く英語の４技能を総合的に学習する。基礎的・基本的な文法項目と単語を含む英文を理解し、簡単なことは英語で表現できる英語の基礎力を養う。身近な題材が多いので、内容に興味と関心を持って読み、英語力をつける意欲を持って授業に臨んで欲しい。

【授業の進め方】
週２時間では、すべての課を授業で学習するには、時間不足なので、本文を授業で扱う課と長期休暇中の課題とする課に分ける。予習して来ることを前提に授業を進める。教科書は常に２ページ先まで予習しておくこと。その際、「予習・復習ノート」の右頁の「A. 語句の意味を確認しよう」で単語の意味を、教科書本文の意味内容は「B. それぞれの指示に従って答えよう」の設問を用いて尋ねるので、これを予習しておくこと。教師の質問に答えることによって内容理解を図る。初出の文法項目等については説明し、練習問題などで定着を図る。授業内容の理解度などをチェックするために学習シートを利用することもある。教科書の単語・熟語とは別に「ワードマイスター英単語・熟語3000」という単語帳により計画的に語彙力増強を図る。英和辞典は授業前に毎時間、机上に準備しておくこと。

【授業計画】	【授業項目】	【内 容】
1 回	イントロダクション(1)	自己紹介、シラバスの説明、評価法・授業の進め方・英単語テストの説明、辞書の引き方の説明・練習。
2 回	イントロダクション(2) Lesson 1 We Have Hopes and Dreams---Just Like You!	発音記号の導入と基礎的発音練習、筆記体練習。 ５基本文型概説 テキスト使用開始
3 回	Lesson 1の続き	基本文型(S+V / S+V+C / S+V+O)
4 回	Lesson 1の続き	基本文型(S+V+O+O / S+V+O+C) 章末練習問題
5 回	Lesson 2 We Love Ice Cream	現在進行形・過去進行形
6 回	Lesson 2の続き	S+V(+O)+O(=howなど+to+動詞の原形')
7 回	Lesson 2の続き 中間試験の事前指導	現在完了、章末練習問題 中間試験範囲の確認と学習内容の総復習
8 回	中間試験	中間試験までに学習した英文の内容理解と文法、構文、語彙・語句などの理解度を確認する基礎的・基本的な問題を出題。実用英検準２問題集からの出題も含む。
9 回	中間試験のレビュー Lesson 3 We Make Friends throughCambodian Dances	試験の講評。結果から不足な点があれば補足説明。 受け身

平成22年度

基礎英語R(Basic English R)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
一般科目	必修	1年	2	講義	高橋愛

【授業の概要】
英語の読解および英語での発信に必要な基本的な文法項目について学習しながら、さまざまなテーマの文章を読み、理解をしていく。テキストの読解では音読に重点を置き、発信のための訓練をおこなっていく。さらに、単語テストによって語彙の定着を、多読によって語彙の増強と読解力の強化をはかる。

【授業の進め方】
テキストの内容については、予習を前提として授業をおこなう。Workbookの「語句の意味を調べましょう」と「ポイントを確認しましょう」の部分はやっておくこと。
語彙力の強化をはかるため、単語テストを実施する。実施日と各回の範囲はオリエンテーションの際に指示をするので、指示にしたがって計画的に覚えていくこと。英語に親しむとともに語彙の増強と読解力をはかるため、やさしい英語で書かれた洋書を読む多読を月に1回程度実施する。

【授業計画】	【授業項目】	【内 容】
1 回	オリエンテーション	授業の進め方・単語テスト・英語多読のやり方・評価の説明
2 回	イントロダクション	辞書の引き方の説明・練習、発音記号の確認
3 回	Lesson1	単語テスト、基本文型（SV / SVC / SVO)、不定詞
4 回	Lesson1、多読	単語テスト、比較表現
5 回	Lesson2	単語テスト、基本文型(SVOO / SVOC)、不定詞
6 回	Lesson2、多読	単語テスト、比較表現
7 回	中間試験までのまとめ	中間試験までに学習したことのまとめ
8 回	中間試験	中間試験までに学習したことの総復習、応用問題
9 回	答案返却、Lesson3	期末試験の答案返却・解答解説、単語テスト、受け身

平成24年度

基礎英語 R(Basic English R)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
一般科目	必修	1年	2	講義	国重　徹

【授業の概要】
英語力向上に強い関心がある英語多読を通して、易しい英語の大量インプットを行なうとともに、英語を英語として理解せずに、１分間に 100 ～ 120 語程度以上の速度で理解できるようにする。多読も多少取り入れる。

【授業の進め方】
原則として、毎週の授業において、多読と多聴を行い、多読レポートに記録をつけていく。授業準備の１回分は 30 分の授業２回分を想定している。試験は、毎回用いたテキストより英文を用いて多読、速読、内容理解力を測るものとする。ただし、期末中間試験は筆記試験中心に実施する。その成績は A/C/D の成績をもって付ける。試験の解答プリントを定期的に配布し、プリント内の設問を授業時間内に問題演習のために行なうこともある。

【授業の概要】	【授業項目】	【内　容】
1 回	オリエンテーション	授業の進め方・注意事項・評価についての説明。 多読の仕方についての説明。
2 回	多読活動	多読活動、多読レポートの記録
3 回	多読活動	多読活動、多読レポートの記録
4 回	多読活動	多読活動、多読レポートの記録
5 回	多読活動	多読活動、多読レポートの記録
6 回	多読活動	多読活動、多読レポートの記録
7 回	多読活動	多読活動、多読レポートの記録
8 回	中間試験	これまでに当然身につけておくべきレベルの英文の内容把握の問題（全てテキスト以内から）を中心に出題。
9 回	試験返却、多読活動	試験の返却と解説、多読活動、多読レポートの記録。

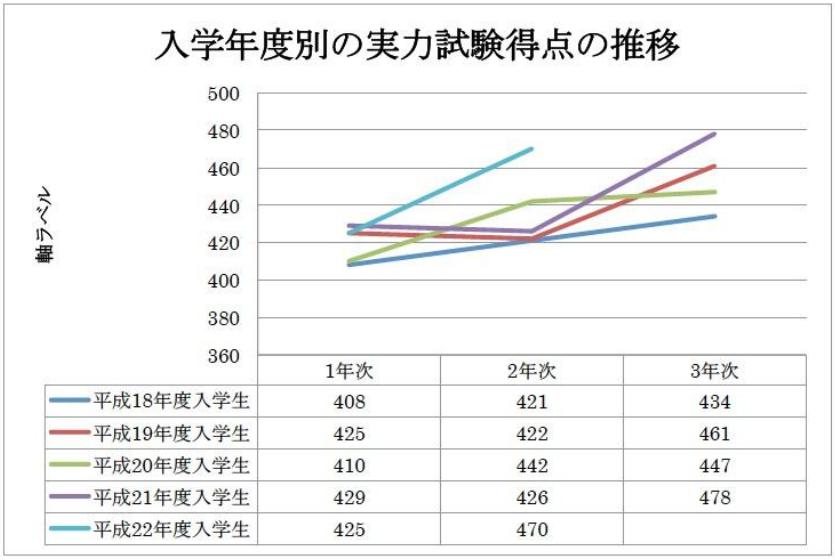
出典：教務係資料

資料９－１－④－７　英語多読授業（本科１年生「基礎英語 R」）



出典：教務係資料

資料９－１－④－８　入学年度別 ACE スコアの推移



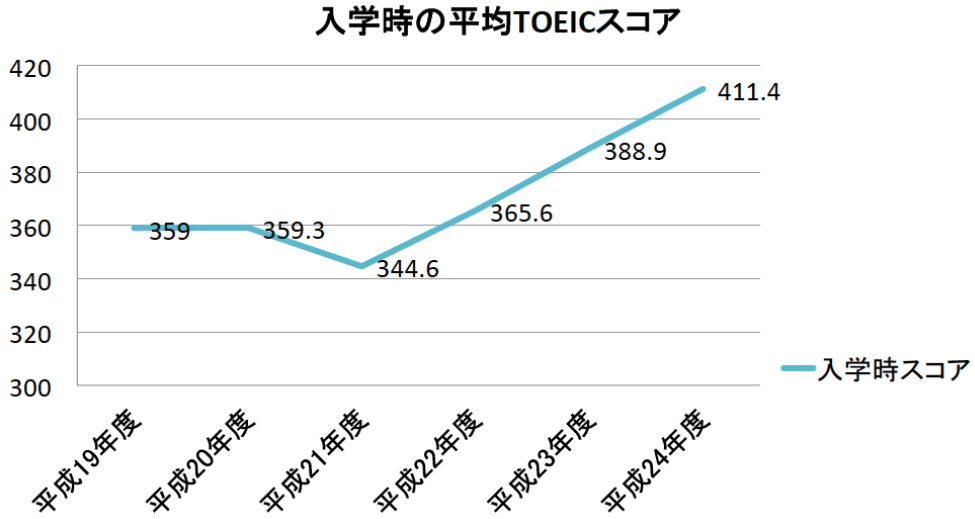
	1年次	2年次	3年次
平成18年度入学生	408	421	434
平成19年度入学生	425	422	461
平成20年度入学生	410	442	447
平成21年度入学生	429	426	478
平成22年度入学生	425	470	

多読授業を全面実施したのは、
平成 20 年度入学生（現 5 年生）の 3 年次［多読実施初年度］
平成 21 年度入学生（現 4 年生）の 3 年次
平成 22 年度入学生（現 3 年生）の 2 年次

現 4 年生は、本校到達目標（450 点）および高校 3 年生の標準スコア（470 点）の両方をこえる得点をはじめて取得。
現 3 年生は、高校 2 年生の標準スコア（450 点）をこえる得点をはじめて取得。

出典：英語科資料

資料９－１－④－９　専攻科入学時における TOEIC 平均スコア



出典：専攻科関連資料

（分析結果とその根拠理由）

個々の教員は，学生の授業アンケートや年間職務の自己評価による評価結果に基づいて，教育の質の向上を図り，本校における英語教育改革に代表されるような教授内容等の具体的かつ継続的な改善を行っている。授業アンケートによる評価結果および授業の改善状況は，Webサイトで公開されている。さらに，毎年自己評価を行い，前年度と比較した改善状況を把握している。

以上のことから，十分な質の向上と継続的改善を行っており，その状況を学校として把握している。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

各教員の研究活動は，５年生の卒業研究，専攻科生の特別研究，低学年の創造演習，創造製作，課題研究などのテーマ選択，および指導に寄与している。具体例として教員の研究活動が寄与している機械電気工学科／機械制御工学専攻（資料９－１－⑤－１），情報電子工学科／情報電子工学専攻（資料９－１－⑤－２），土木建築工学科／環境建設工学専攻（資料９－１－⑤－３）における卒業研究／特別研究のテーマ（黄色タイトル），およびこれに関連した教員による研究活動の例をそれぞれ示す（資料９－１－⑤－４～６）。また特別研究の一環として，専攻科生には学会における発表が推奨され，特別研究発表会における発表が義務づけられており，これによって研究活動の成果が学生のプレゼンテーション能力の向上に寄与している（資料９－１－⑤－７）。さらに英語多読(資料９－１－⑤－８)やエンジニアリング・デザイン教育（資料９－１－⑤－９）に関する教員の研究活動が授業内容の改善に寄与している例をそれぞれ示す（資料９－１－④－６，資料９－２－①－９）。

資料９－１－⑤－１　機械電気工学科／機械制御工学専攻の卒業研究および特別研究のテーマ

平成23年度「卒業研究」「特別研究」テーマ名			
学科	機械電気工学科	専攻	機械制御工学専攻
1	Xbee小型ひずみ計測装置の開発	1	褥瘡軽減ベッド用超音波リニアモータの開発
2	引張りを受ける薄板の弾塑性解析	2	超音波印加時の金属の変形特性および衝撃特性について
3	圧縮荷重を受ける接合板の応力拡大係数	3	ナノインデンテーション試験による各種材料のビッカース硬さ評価
4	ラジカル窒化を施した球状黒鉛鋳鉄の高サイクル疲労強度に及ぼす欠陥寸法の影響	4	ポリエチレンフィルムの高温場特性に及ぼす形状および重力の影響
5	高専における設計教育高度化のための ＰＢＬ 型設計教育手法の検討	5	二層導体の磁気シールド特性
6	アルキメデスポンプの特性評価装置の開発と性能試験	6	一様温度変化を受ける接合有限板の界面き裂の応力拡大係数
7	教育用PIC-F18ボードとテキスト開発	7	複数の長方形切欠を用いた二次元噴流の操縦（二次流れ）
8	直径 25 mm のボルト締めランジュバン型振動子を用いたスクリュ型超音波モータの構成	8	非線形き裂力学による界面き裂の弾塑性挙動の検討
9	超音波を用いた摩擦低減式衝撃吸収装置の開発		
10	長方形噴流の発達に与えるノズル軸端形状の影響		
11	複数の長方形切欠を用いた二次元エアカーテンの製作		
12	直列に配置された円形ノズルから流出する乱流自由噴流の干渉		
13	球状黒鉛鋳鉄の高サイクル疲労強度に及ぼす窒化層厚さの影響		
14	ナノインデンテーション試験機による各種材料のビッカース硬度の評価		
15	FMCWレーダーを用いた電離層プラズマ速度計測システムの構築		
16	光依存磁気感受実験装置の改良		
17	フラックスゲート磁気センサーの特性について		
18	タブレット端末を用いた臨床用振動覚検査システムの開発		
19	脊椎椎間関節包の機械的性質の調査		
20	脊髄実質用高速引張試験装置の開発と機械的性質調査		
21	数値計算を用いた障害物回りの流れとその力の解析		
22	原子力発電の必要性について		
23	再生可能エネルギー利用警発のためのPVシステム開発		
24	PIC制御フルカラーLED表示システムの開発		
25	四面体ランドマークを利用した自律移動ロボットの開発		
26	構造物ヘルスモニタリングを目的とした超音波センサの開発		
27	任意形状コイル間の相互インダクタンス消失		
28	2層導体のシールド特性		
29	導体中の渦電流分布		

出典：教務係資料

資料９－１－⑤－２　情報電子工学科／情報電子工学専攻の卒業研究および特別研究のテーマ

平成23年度「卒業研究」「特別研究」テーマ名			
学科	情報電子工学科	専攻	情報電子工学専攻
1	LabViewを用いた倒立振子制御手法の比較実験システム	1	鉄道模型制御用並行処理言語の設計と実装
2	マスターハンド(グラフィティVer.)の開発	2	FPGAを用いた監視システム向け省電力プロセッサの設計
3	画像処理を用いた組込み監視システムの開発～画像取込み回路記述の作成～	3	WebベースのJavaプログラミング環境の開発
4	SINGLE BOARD マイコンを用いた自律型監視システムの構築	4	ステンレス箔テープヒータによる植物体加温システムの検討
5	ブラウザから利用可能なファイル一元管理システム	5	駐車場内の車両に関する挙動シミュレータの検討
6	フレキシブルシュート製作のための展開図作成システム	6	SURFを用いた類似画像選択時におけるフィルタリング適用効果
7	多段階露出画像の統合による広ダイナミックレンジ画像の生成における有効露光域の決定方法の改良	7	バスケットボール競技映像からのライン抽出
8	スポーツプリンタからの信号変換器の改良	8	モバイル端末によるAJAXを用いたプログラミング学習システム
9	音響信号におけるドラム音の音源同定		
10	楽曲データのビートトラッキング		
11	音声認識のアプローチによる演奏データからの音符列推定		
12	ピアノロールを用いた楽譜生成システムの開発		
13	光センサを用いた鉄道模型用車両検知システムの開発		
14	C--コンパイラのMIPS32への移植		
15	インタラクティブなデジタルサイネージのための映像生成システムの構築に関する研究		
16	非写実的画像の自動生成とその客観・主観評価に関する基礎的研究		
17	KINECTを利用した人物感知・追跡型送風ファンシステムの開発		
18	ステンレス箔テープヒータによる加温鉢の検討		
19	概念ベクトルを用いた検索結果の可視化手法に関する研究		
20	確率的潜在意味解析の並列化に関する研究		
21	AC(Aho Corasik)法を用いた日本語表現の正規化		
22	ニューラルネットワークによる顔表情認識に関する考察		
23	ニューラルネットワークによる文書分類に関する考察		
24	校内LANにおけるIEEE802.1x認証の確立		
25	アンドロイド端末による音楽教室支援システムの作成		
26	プラスチック光ファイバを用いたファイバスコープの製作		
27	.マルチバイブレータにおける電荷分布のアニメーション表示		
28	バスケットボールにおけるゾーンディフェンスのモデル化		
29	OpenCVを用いた手書き文字検出に関する考察		
30	ハイブリッドイメージの作成と考察		
31	昆虫画像の類似度に関する研究		
32	決定木学習を用いたTwitterユーザに関するリツイートの規則性の抽出		
33	Twitterにおけるフォロワのクラスタ分析		
34	数学用視覚補助教材の試作		
35	正規言語の視覚化		
36	SNSを利用した就職・転職支援システムの開発		
37	画像処理による金属丸棒の認識アルゴリズム		
38	ICタグを用いた音声ゲームシステム		

出典：教務係資料

資料９－１－⑤－３　土木建築工学科／環境建設工学専攻の卒業研究および特別研究のテーマ

平成23年度「卒業研究」「特別研究」テーマ名			
学科	土木建築工学科	専攻	環境建設工学専攻
1	高層ビル周囲に形成される流れ構造と流速分布特性	1	水固化材比の異なるマグネシウム系固化材の改良土の強度特性に関する研究
2	実物大試験に基づく木質ラーメン構造の強度分析に関する基礎的研究	2	コンクリート構造物のひび割れ幅に関する基礎的研究
3	集中測量実習におけるGPS活用プログラム	3	The effect of edge beam on stress and deflection of shell
4	マグネシウム系固化材による関東ローム改良土の力学的特性に関する研究	4	破砕性地盤における杭の先端支持力特性
5	家族と共に成長する集合住宅の設計	5	「道の駅」のサービス、防災機能の現状と方向性に関する研究 中国及び東北「道の駅」連絡会へのアンケート調査結果より
6	湯田温泉街の長期計画策定に関する研究	6	フィルターを用いた斜面保護に関する研究
7	周南市の企業社宅の変容と都市形成との関係性に関する基礎的研究	7	超音波による細粒土の減容化に関する研究
8	富永酒造を中心とした櫛ケ浜地区の活性化計画	8	周南市における高齢者支援施設等の立地特性の分析と 高齢者の街なか居住推進に向けた改善提案
9	知的障害者グループホームにおける温熱環境の実態調査	9	錦帯橋の保存活用の方向性に関する研究
10	柔軟植生模型を有する開水路流れの乱流特性	10	マイクロバブルの物理化学的特性と植物活性
11	RC部材における断面中央に軸方向鉄筋を配置した場合の効果に関する研究	11	Structural Optimization Method Using the Level Set Method
12	浸漬試験による鋼材の腐食過程に対するマイクロバブルの影響	12	Steel Connector with Low-Yield-Point-Steel at Column Base
13	周南市の近代化遺産に関する研究～向道ダムについて～	13	カルシウム系固化材を用いたコンクリートの圧縮強度特性に及ぼす自然暴露の影響
14	一社一村運動の動向と評価及び方向性に関する研究	14	Structural Dynamic Behaviors of Hagia Sophia
15	コンクリート部材における軸方向鉄筋の乾燥収縮ひび割れ抑制効果に関する研究	15	構造物隅角部のき裂発生に関する数値解析
16	マグネシウム系コンクリートの圧縮強度特性に及ぼす竹チップの影響	16	中山間地域における新たな生活交通モデルの有効性の検討
17	不織布フィルターを用いた降雨時の法面浸食防止に関する研究		
18	2次元レーザーを用いた腐食表面形状の実用的計測法に関する基礎的研究		
19	防災意識向上を目指した防災教育プログラムの実践と評価		
20	低水路側壁に粗度を有する複断面開水路流れの乱流特性		
21	荷重条件を考慮した鉄筋コンクリートアーチの耐荷力特性の分析に関する基礎的研究		
22	徳山要港防備図に認められる照聴所に関する研究		
23	「道の駅」の防災拠点化に関する研究		
24	層状モリブデン酸塩の合成とシックハウスガスの光分解		
25	滑面開水路乱流における組織構造の水平分布特性		
26	高性能鉄筋コンクリート部材におけるせん断補強に関する研究		
27	周南市熊毛地域における生活交通の再編成に関する研究		
28	景観計画における視点場発見手法の開発～柳井市を事例として～		
29	スヌーズレン空間の心理的効果と個人特性・性格傾向との関連		
30	東日本大震災における石巻市・女川町の構造的被害に関する現地調査と考察		
31	既存住宅ストックとその裏庭を活用したニュータウンの再生計画		
32	開水路段落ち側壁付近の乱流構造		
33	ガラス繊維を用いたコンクリート部材のせん断耐力に関する研究		
34	土壌安定材を用いた竹筋コンクリートの開発		
35	防府市におけるバス交通網再編成に関する研究		
36	旧余部橋梁主桁における腐食現況調査と鋼材の機械的性質に関する研究		
37	設計製図教育における中学校と高専土木・建築系の連携に関する基礎的研究		
38	セメント系固化材とマグネシウム系固化材を用いた地盤改良に関する研究		
39	道路残地型ポケットパークの評価と方向性に関する研究		
40	岩国城下町保存活用計画		

出典：教務係資料

資料９－１－⑤－４　Impact-absorbing Characteristics by Applying Ultrasonic Vibrations

Impact-absorbing Characteristics by Applying Ultrasonic Vibration

Atsuyuki Suzuki, Eiichiro Ueki[a], and Jiromaru Tsujino[b]

[a] *Department of Mechanical and Electrical Engineering, Tokuyama College of Technology, 3538, Gakuendai, Shunan, 745-8585, Japan*
[b] *Faculty of Engineering, Kanagawa University, 3-27-1, Rokkakubashi, Kanagawa-Ku, Yokohama, 221-8686, Japan*

Abstract. An impact-absorbing device that facilitates the application of ultrasonic vibrations was devised. Vibration distributions, springback characteristics, and impact-absorption characteristics were measured. We confirm that the springback amount decreases and the impact is absorbed upon the application of ultrasonic vibrations. When an aluminum alloy plate is crumpled, the maximum output voltage of the attached shock sensor decreases to 65% upon the application of ultrasonic vibrations as compared to when the ultrasonic vibrations are not applied.

Keywords: ultrasonic vibration, impact absorption, impact absorber, Blaha effect, plastic deformation
PACS: 43.35.Ty, 43.35.+d, 62.20.fq

INTRODUCTION

Vehicles such as automobiles are designed to possess crumple zones that absorb the energy of an impact during collision by undergoing deformation so that the least possible energy is transmitted to the occupants of the vehicle and pedestrian traffic victims. However, these crumple zones do not necessarily absorb sufficient energy from the impact in all cases. Furthermore, it is difficult to instantaneously adjust the impact-absorbing characteristics of a crumple zone to the circumstances of an accident. To address these issues, we have developed an impact-absorbing system that induces a large, adjustable plastic deformation by the application of ultrasonic vibrations. If the deformation resistance of a crumple zone is instantly adjustable, it can be easily adapted to various types of traffic collisions. For example, when an automobile collides with pedestrians, the crumple zone should be as soft as possible. On the other hand, when an automobile collides with rigid objects such as a telephone pole, the crumple zone should be hard to a certain extent so as to protect the passenger cabin.

Ultrasonic vibrations are used for various industrial applications such as ultrasonic cleaners, ultrasonic welders, and ultrasonic homogenizers [1, 2]. Furthermore, various investigations have been conducted on the use of ultrasonic vibrations for plastic deformation [3-5]. The stress induced during the plastic deformation of metals decreases with the application of ultrasonic vibrations; this phenomenon is called the Blaha effect. The Blaha effect has been applied to industrial operations such as bending and tube drawing. Further, the springback amount of the deformed specimens has been reported to decrease with the application of ultrasonic vibrations [3]. In the case of a traffic collision, the structure should crumple and not rebound the colliding object. If the decrease in the springback amount is assumed to be effective in preventing the rebound of the colliding object, then the damage from traffic collisions will be reduced. In this study, we fabricated an experimental ultrasonic bender on the basis of the Blaha effect. Furthermore, vibration distributions, springback, and impact-absorption characteristics were measured.

CONFIGURATION

Figure 1 shows the configuration of the experimental equipment that consists mainly of an ultrasonic transducer {a bolt-clamped Langevin type transducer (BLT) with a wedge horn}, a slide guide, a drop weight (4 kg) for impact testing, and anvils. The diameter and resonant frequency of the BLT are 56 mm and approximately 17 kHz, respectively. The wedge horn (JIS A2017) is installed to increase the vibration amplitude. The tip width of the horn is 15 mm. The transducer and an impact weight can be separately moved up and down by attaching them to a slide guide. A shock sensor is bolted to the point which is 105 mm away from the point of collision on the top board. The crumple plate specimens (A6063) are 200 mm in length, 20 mm in width, and 2 mm in thickness, and the crumple pipe specimens (A6063) have a length of 100 mm, outside diameter of 25 mm, and inside diameter of 23 mm.

出典：Proceedings of International Congress on Ultrasonics (2011)

資料９－１－⑤－５　教育システム記述言語 C--の実用化

論文集「高専教育」 第33号　2010.3

教育用システム記述言語 C--の実用化

重村　哲至*1，山田　健仁*1，守川　和夫*1，新田　貴之*1，
柳澤　秀明*1，原田　徳彦*1，宇野　俊夫*2

Practical Use of System Description Language C--

Tetsuji SHIGEMURA, Takehito YAMADA, Kazuo MORIKAWA, Takayuki NITTA,
Hideaki YANAGISAWA, Norihiko HARADA and Toshio UNO

Recent computer systems are too complicated, so these are unsuitable for the teaching material to comprehend the operating principle and the composition of the computer. We consider that it is necessary to develop a simple personal computer (PC) for educational use. Therefore, we are developing an educational PC and its system description language C--(minus minus).

At the first of this paper, we simply describe the educational PC and C--language. At the second, we explain the C--compiler, a linker, an assembler, a loader and library functions for the educational PC. Finally, by making use of these, we show that the IPL and boot program can be described practically, that makes the educational PC in actual use as the teaching material.

KEYWORDS: education of information processing, programming language, system description language, computer architecture, embedded system

1. まえがき

コンピュータの動作原理や計算機システムの全体像を理解することは，学習者が，将来，情報処理や通信・制御分野などで新技術に接したとき，それを理解するための拠り所を形成することになり，意義深いと考える．しかし，現代の計算機システムは高度化・複雑化し，原理や全体像を理解するために授業で用いる教材には適さない．既に筆者らは，ノイマン型コンピュータの動作原理を学習するための教育用マイコンを開発し，高専低学年の授業で使用し，動作原理の理解に関して良好な成果をあげてきた[1)-3)]．しかし，教育用マイコンは，オペレーティングシステム (以下 OS) を備えるにはメモリ空間が小さすぎて，計算機システムの全体像を理解するための教材としては不十分である．

そこで，計算機システムの全体像を学習するための教材として使用できる，シンプルなパーソナルコンピュータ[4)] (以下，教育用 PC) の開発を始めた．教育用 PC は，キーボード，ディスプレイ，ハードディスクなどを備え，また，OS と言語処理系が動作し，学習者が通常の PC と原理的に同じものだと感じる最低限の機能を有したものである．

*1徳山工業高等専門学校情報電子工学科 (Dept. of Computer Science & Electronic Engineering, Tokuyama College of Technology)
〒745-8585 山口県周南市学園台　E-mail:sigemura@tokuyama.ac.jp
*2(有) ハラバン・メディアテック

出典：高専教育(2010)

資料９－１－⑤－６　An enhanced method of predicting effective thickness of corroded steel plates

Steel and Composite Structures, Vol. 12, No. 5 (2012) 000-000

An enhanced method of predicting effective thickness of corroded steel plates

Tatsumasa Kaita[1], J.M. Ruwan S. Appuhamy[2], Mitao Ohga[*2] and Katashi Fujii[3]

[1]*Department of Civil Engineering & Architecture, Tokuyama College of Technology, Japan*
[2]*Department of Civil & Environmental Engineering, Ehime University, Japan*
[3]*Department of Social & Environmental Engineering, Hiroshima University, Japan*

(Received November 09, 2010, Revised February 22, 2012, Accepted February 27, 2012)

Abstract. Many steel bridge infrastructures in the world are getting older, and a large number of these structures are in need of maintenance, rehabilitation or replacement. Most of them are subjected to corrosion due to exposure to aggressive environmental conditions and inadequate maintenance, causing reduction of their carrying capacities. In order to have an adequate bridge management, it is of paramount importance to develop an efficient, accurate and rapid condition assessment method which can be used to make reliable decisions affecting the cost and safety. Therefore, a simple and accurate method of calculating remaining yield and tensile strength by using a concept of representative effective thickness with correlation of initial thickness and maximum corroded depth is proposed in this study, based on the results of many tensile coupon tests of corroded plates obtained from a steel plate girder with severe corrosion, used for about 100 years. Furthermore, a strength reduction diagram which will be very useful for bridge inspection engineers to make rational decisions about the maintenance management of aged steel bridge infrastructures is presented.

Keywords: bridge maintenance; corrosion; effective thickness; remaining strength; tensile test.

1. Introduction

Corrosion is one of the most important causes of deterioration of steel girder bridges and a major problem currently facing the transportation engineering community in the world. The results of this deterioration generally range from progressive weakening of a steel structure over a long time, to rapid structural failure. The consequence of corrosion is a reduction in member cross-sectional area and, in turn, strength; a reduction of carrying capacity and structural safety (Zahrai *et al.* 2003). It has been reported that more than 35% of steel bridges in the USA are structurally deficient because of structural degradations (Chen *et al.* 2009). Over the past few decades there have been many damage examples of older steel bridge structures due to corrosion around the world. The catastrophic collapses of the Silver Bridge (Point Pleasant, WV) in 1967 and the Mianus River Bridge (Connecticut) in 1983, USA (NSBA *et al.* 2006) indicated the paramount importance of attention to the condition of older bridges, leading to intensified inspection protocols and numerous eventual retrofits or replacements.

In recent years, damage due to corrosion is one of the major factors in repair, reinforcement and replacement of steel bridges (Natori *et al.* 2001 and Kitada *et al.* 2006). Since, corrosion will deteriorate

* Corresponding author, Professor, E-mail: ohga@cee.ehime-u.ac.jp

出典：Steel and Composite Structures - An International Journal (2012)

資料９－１－⑤－７　特別研究シラバス

特別研究 (Thesis Work)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
機械制御	必修	1・2年	8	研究	牧野俊昭 伊藤　尚 櫻本逸男　　西村太志 北村健太郎 藤本　浩

【授業の概要】
約2年間にわたりそれぞれの分野で研究を行い、技術者、研究者として直面する問題を解決する能力、創造性等を養う。研究にあたっては最先端の理論、技術、解法などの情報を自主的に収集し、常に新しい取り組みができるよう心がけ、自らの分野の専門知識を深める。最終的には学会発表を通じて得た研究成果を外部で評価できるように努力する。

【学修の進め方】
各研究テーマに対して、特別研究担当教員の指導より計画的に研究を進める。成果を特別研究論文にまとめ、特別研究発表会にてプレゼンテーションを行う。

【授業の概要】

各担当教官の指導のもとに研究計画を立て、特別研究を進める。
機械制御工学専攻の特別研究担当教員が主に実施している研究テーマを以下に挙げる。

材料系
・プラズマ表面改質材を用いた超高サイクル疲労破壊機構の解明　(西村太志)
・疲労および摩耗・腐食特性に優れたプラズマ表面改質材の研究開発　(西村太志)
・広範囲な応力下における疲労現象の統一的解釈に関する研究　(西村太志)
・さまざまな産業機械や構造物の開発研究ならびに問題解決　(西村太志)

エネルギー系
・再生可能エネルギーを応用したものづくり教育に関する研究　(伊藤　尚)
・PIC を用いたメカトロニクス教育に関する研究　(伊藤　尚)
・複数の長方形切欠を用いた二次元噴流の操縦　(藤田重隆・張間貴史)
・中央に配置された長方形切欠による長方形噴流の制御　(藤田重隆・張間貴史)
・噴流中心間距離が異なる２円形自由噴流の混合拡散過程　(藤田重隆・張間貴史)
・弾性体と流体の数値的なシミュレーション　(飛車来人)
・等角写像とリーマンの関数論　(飛車来人)

計測制御系
・高速乗り物の制振・静音化技術に関する研究　(牧野俊昭)
・自立型移動ロボットの走行操舵制御に関する研究　(牧野俊昭)
・船体構造物の弾性振動低減化に関する研究　(牧野俊昭)
・粒状体ダンパーに用いる粒子サイズ特性の研究　(牧野俊昭)
・人工関節の機能高度化に関する研究　(桜本逸男)
・生体組織の機械的性質に関する研究　(桜本逸男)
・うず電流の利用と応用に関する研究　(石田浩一)
・基礎工学教育プログラムの開発と応用に関する研究　(石田浩一)
・工学教育における創造教育に関する研究　(藤本　浩)
・圧電素子を用いた構造物のヘルスモニタリングシステム開発に関する研究　(森崎哲也)
・地上・人工衛星観測を利用した宇宙環境の計測・予測手法の研究　(北村健太郎)
・強力超音波の応用に関する研究　(鈴木厚行)

【到達目標】	専門知識を身につけると同時に、自ら課題を把握・分析でき、解決の道を自主的に探ることができるようになる。併せて、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
【徳山高専学習・教育目標】	C2	【ＪＡＢＥＥ基準 1(1)】	f、h
【評価法】	特別研究指導教員による評価は全体評価の 60%、2 名の査読員による特別研究論文評価は全体の 20%、参加教員全員によるプレゼンテーション評価は全体の 20% とし、総合して評価する。		
【テキスト】	平成 23 年度　特別研究論文集　(第 16 号) など		
【関連科目】	すべての科目		
【成績欄】	前期中間試験　前期末試験　前期成績　後期中間試験　後期末試験　学年末成績 【　　】【　　】【　　】【　　】【　　】【　　】		

出典：シラバス

資料９－１－⑤－８　英語多読を用いた，英語嫌い・英語学習に対する中だるみ解消の取組み（抜粋）

102　英語多読を用いた、英語嫌い・英語学習に対する中だるみ解消の取り組み

国重　徹（徳山工業高等専門学校）

１．はじめに

高専生の唯一の弱点が英語力であると言われて久しいが、本校の学生も例外ではない[注1)]。その主な原因は２つである。一つは、本校入学前から英語が苦手であったり、英語が嫌いであったりすることである[注2)]。もう一つは、入学後、中だるみをし、英語力が伸びなかったり、落ちたりすることである。

学生の英語力を伸ばすために、英語科ではさまざまな取り組みをし、ある程度の成果を上げることはできたが、学生の英語嫌い・英語学習に対する中だるみを解消することはできなかった。

この問題を解決するため、本校では平成 22 年度より３年生に英語多読を導入した。

本稿では、まず、多読の授業をどのように進めているかについての概要を説明する。次に、英語多読を経験した３年生（現４年生）に焦点を当て、アンケート結果の分析等を通して、彼らの英語に対する意識、英語学習に対するモチベーションがどのように変化し、英語力に関してどのような効果が得られたかを明らかにする。また、英語多読指導の課題や今後の展望を論じる。

２．これまでのアンケート調査結果から分かったこと

平成 20 年度及び 21 年度に、本校では３年までの学生を対象とし、英語や英語学習に対する態度に関して 35 項目の質問に答えるアンケート調査を、それぞれの年度に１回ずつ、計２回実施した。その結果、多くの学生が一貫して英語学習の必要性を感じている一方、学年が進むにつれて英語学習に対する態度が悪化していること、２年生、３年生の多くが中だるみを経験していること、英語に対する興味が高まれば英語学習に対するモチベーションが上がることなどが判明した[(1)]。

３．英語多読の導入

上で述べた問題を解決する方策として、英語科は豊田高専電子電機システム工学科で成功している英語多読に着目した。英語多読は、適切に指導すれば英語に対する苦手意識を払拭し、英語学習に対するモチベーションを高め、その結果、英語力を伸ばすことに効果があると言われている[(2)]。

そこで、本校では平成 22 年４月より３年生（現４年生）に対して英語多読の導入を試みた。

多読の授業では、辞書を引かなくても楽しめるものを読む、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として理解するように努め、分かるところをつなげて読む、自分が面白いと思う本を選ぶ、という原則に従い、やさしい英語で書かれた本をたくさん読ませるようにした。多読の授業は、大きい机の設置してある特別教室で実施し、授業前に移動式のカートに約 400 冊の多読用図書を入れて持ち込み、その机の上に分類して置いた。学生には原則として筆者の推薦に従って次に読む本を選ばせ、読み終えたら、語数、読むのにかかった時間、感想などを記入する所定の用紙に読書記録を書かせて提出させた。記録の不備があったり、適切でないものを読んでいたり、疑問や質問が書かれていたりした場合は、個別に口頭で指導したり、答えたり、記録用紙にコメントを記して指導したりした。

授業の評価は、定期試験 70%（3 回の定期試験及び 100 点満点に変換した ACE[注3)] のスコアの平均点×0.7）＋多読した語数の評価 10%、多読した冊数の評価 10%、多読活動への取り組みや多読レポートの評価 10%の合計 100%で行った。

出典：平成２３年度全国高等専門学校英語教育学会講演論文集

資料９－１－⑤－９　複合技術商品を導入したものづくり教育プランの構築（抜粋）

複合技術商品を導入したものづくり教育プランの構築

（徳山工業高等専門学校）○天内和人，森野数博

１．まえがき

人類の歴史を通して，“道具”をつくることは，文明発展の原動力であり続けてきた．ひとつの“道具”を作るにはさまざまな分野の知識が必要とされるが，長い歴史のなかで，それは職人あるいは技術者が自らの経験によって身につけるものであった．しかし，情報技術やナノテクノロジー，バイオテクノロジーなどの高度な科学技術の発展を背景とし，それぞれの分野の融合化・複合化が著しく進んだ現代では，分野横断的な人材の育成が教育そのものに求められている[1)]．

36 年前，我が国の国立高専・大学で最初の複合学科を擁して徳山高専は誕生した．専攻科でも，本科の各学科と専攻が１：１に対応して設けられ，本科における複合教育を専攻科でも継続して行う体制を整えることで掲げた学習・教育目標「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を実現すべく，教育を実践している．本校の大きな特徴は，本科の低学年次から専攻科まで，すべての学科／専攻において組織的かつ体系的に創造教育を行っている点であり，さらに専攻科では，開発現場や製造現場での約３ヶ月間にわたる長期インターンシップを実施して，いっそう実践的な開発型教育を進めてきた．

しかしながら，科学技術の融合化・複合化が著しく進み，社会経済環境が激しく変化する現代社会において，これらの変化に対応し，「高い付加価値を創造するものづくり」ができる技術者を輩出するレベルには到達できていない．それを実現するには，応用がきく知識，すなわち「単なる知識」ではなく「知恵」が必要であり，知恵を得るためには基礎学力は必須で，それらの知識の総合化も必要であり，実体験がきわめて有効で，具現化する実践力も必要であるといわれている．

そこで我々は，「高い付加価値を創造するものづくり」ができる技術者の育成をめざし，専攻科において“複合技術商品”そのものを教材として用い，本科から７年間にわたる複合教育の最終段階として「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」を策定した．

２．教育プランの実施内容

２．１　教育プランの概要

本教育プランは，本科の機械電気，情報電子，土木建築の各学科に１：１に対応する機械制御，情報電子，環境建設の３つの専攻で，それぞれの技術分野を代表する実際の商品に着目し，まずそれらを用いて実験することにより，その商品がもつさまざまな特性を明らかにすることを通し，講義で学んだ知識を生きた教材のなかで確実に理解し，次は，逆にその特性をもとに，企画から設計・制作まで一貫して学ぶことで個々の分野の知識を有機的に結びつけ，応用的内容も加味しつつ商品を作り上げることを通しものづくり過程全体を見渡す経験を積むなかで，修得した知識を知恵に変えようとする高度なものづくり教育プランである．

本取り組みで構築した教育プランは，地域産業界等との連携のもとで，専攻科における従来の実践的教育方法を改善・発展させたものであり，カリキュラムの変更を伴わないまま，教育方法や内容を改善・発展させることで実現した．教育プランの全体像を図１に示す．本取り組みは，文部科学省が公募した「ものづくり技術者育成支援事業」の第１回目に採択されたものであり，平成 19 年度にその準備を開始し，20 年度の試行を経て，平成 21 年度から本格的にプログラムを開始した．

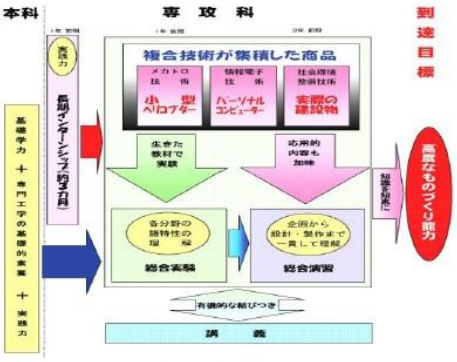


図１　教育プランの全体像

出典：平成２２年度全国高専教育フォーラム講演論文集

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われ，これらの成果が学生の卒業研究や特別研究に反映されている。英語多読やエンジニアリング・デザイン教育などの例に見られるように，教員の教育方法等の研究活動により，授業の実施内容・方法の改善が行われている。

以上のことから，研究活動が教育の質の改善に十分寄与している。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）は，ＦＤ委員会が中心となって実施されている。ＦＤ活動として，ＦＤ委員会あるいは各部署でそれぞれ企画する全学的な活動，各組織での活動，個人での活動などが実施されている（資料９－２－①－１）。

全学および各部署におけるＦＤ活動および活動予定は，年度ごとにＦＤ委員会で報告され，審議・承認される（資料９－２－①－２）。活動内容は，部署ごとあるいは個人のＦＤ活動報告（資料９-２-①-３，４）,および部署ごとあるいは個人の活動計画（資料９－２－①－５，６）としてまとめられ，本校Webサイトにより開示されている（資料９－２－①－７）。他の開示方法としては，電子メールによる教職員への通知，教室会議における報告などが主な手段である（資料９－２－①－８）。

ＦＤ委員会で審議・承認されたＦＤ活動計画に基づき，全学的な学内研修として，「安心・安全の日研修会」，「学位授与制度に関する説明会」，「知的財産セミナー」，「科学研究費講演会」などが，担当する各部署の企画により行われている（資料９－２－①－５）。平成２３年度には，ＦＤ委員会が独自に判断し，全学的ＦＤ活動として学内研修会を企画し，開催した（資料９－２－①－８）。

各部署を構成する教職員は，活動計画に基づき，「日工協セミナー」や「学位授与事業に関する協議会」など，他機関で実施される研修会や講演会へ参加し，担当する各部署における職務能力の向上を図っている（資料９－２－①－３）。

具体的な事例として，「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」の取組み（資料９－２－①－９）では，専攻科担当教員が学外の多くの研修（資料９－２－①－１０）に参加し，学内でも「エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討ワーキンググループ」（資料９－１－③－４）を設置し，専攻科「総合演習」「総合実験」を中心とした教育内容の改善に取組み，エンジニアリング・デザイン能力の涵養に努めている。「英語力向上タスクフォースII」（資料９－１－③－３）では，英語科教員が学外における多くの研修に参加し（資料９－２－①－１１），英語多読を授業へ導入し効果を上げている（資料９－１－④－７～９）。これらの取組みに関して教員会議にて報告・議論された事項が次年度に生かされている（資料９－２－①－１２）。他にも，情報電子工学科では，産業界でニーズの高い組込みソフトウェア関連技術分野で活躍できる技術者の育成をめざし，学外の多くの研修に参加するとともに，学内でも学科独自で研修会（資料９－２－①－１３）を開催し，「高専－大学連携による組込みソフトウェア関連技術教育の高度化」事業を開始し，カリキュラムやシラバスの構築に取組んでいる（資料９－２－①－１４）。

非常勤教員との懇談会も教育の質の向上に役立っている（資料９－２－①－１５）。教育の質の向上や授業の改善については，「成績評価資料」に記載されている担当教員からのコメント（資料

９－２－①－１６）から確認できる。

資料９－２－①－１　ＦＤ委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校に，各部署で取り組まれている教員の資質・職務能力の向上のための活動(以下「ＦＤ活動」という。)に関するまとめ，周知及び方針等の策定を行うことにより，教育水準の質的向上を図ることを目的として，ＦＤ委員会(以下「委員会という。」)を置く。
（任務）
第２条　委員会は，次の事項を審議し，実施する。
(1)　ＦＤ活動の企画に関すること。
(2)　ＦＤ活動の実施に係る総合調整に関すること。
(3)　ＦＤ活動における対外的な連携に関すること。
(4)　ＦＤ活動のまとめ及び周知に関すること。
(5)　その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる職員をもって組織する。
(1)　校長
(2)　教務主事，学生主事及び寮務主事
(3)　専攻科長
(4)　学習・教育レビュー室長
(5)　学生相談室長
(6)　事務部長及び各課長
(7)　その他校長が指名する者
（任期）

出典：本校規則集

資料９－２－①－２　ＦＤ委員会議事録

平成２３年度　第１回ＦＤ委員会議事概要

日時　　平成２３年５月１７日(火)　１６：５０－１７：１５　(運営委員会終了後)
場所　　教室・管理棟２Ｆ大会議室
出席者　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、学生相談室長
　　学習教育レビュー室長、事務部長、総務課長、学生課長
欠席者　　なし

まず、委員長である学校長より副委員長に議事進行が委譲され、教務主事の司会進行のもとで協議がなされた。

議　題
１．平成２２年度ＦＤ活動まとめについて

副委員長（教務主事）より，ＦＤ活動報告書について別紙資料により報告があった。
また，過去のＦＤ活動報告書・計画書を本校ＨＰに掲載していることも併せて報告があった。
田村委員より本委員会におけるＦＤ活動の定義について質問があり，専門分野における研究発表や研究論文はＦＤ活動には該当しないが，教育に関する講演や論文はＦＤ活動に該当することが確認された。

２．平成２３年度ＦＤ活動計画について

副委員長（教務主事）より，ＦＤ活動計画書について別紙資料により報告があった。
また，副委員長よりＦＤ委員会主催で本校機械電気工学科森野教授による教員を対象とした講演を実施したいとの提案があり，了承された。

出典：ＦＤ委員会議事録

資料９－２－①－３　ＦＤ活動報告（部署）（抜粋）

平成２２年度 FD 活動報告書（部署）

部署名：　専攻科

■ 部署企画の活動

各部署において平成２２年度に実施された FD 活動（教員の資質向上のための活動、研修会、講演会など）について記入してください。件数が複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

活動名	「技術士および技術士制度」説明会
実施年月日	平成２２年４月５日　午後１４時００分～
実施場所等	徳山工業高等専門学校　メディアホール
参加対象・参加人数等	徳山工業高等専門学校専攻科生および専攻科担当教員
具体的内容（概略）	技術士会メンバーによる技術士制度に関する説明会を開催した。

活動名	「学位授与制度」説明会
実施年月日	平成２２年８月７日（土）午後１３時３０分～
実施場所等	徳山工業高等専門学校 3F 演習室
参加対象・参加人数等	徳山工業高等専門学校専攻科担当教員
具体的内容（概略）	平成２２年度の学位申請に向け、専攻科担当教員に学位授与制度の概要および、専攻科２年生への指導のため「学修成果」の考え方をパワーポイントを用いて説明した。質疑応答により、専攻科２年生の状況等を説明した。

■ 他機関等の研修会・講演会等への派遣

他機関で実施された研修会や講演会へ、各部署から教員等を派遣された場合について記入してください。欄が不足する場合は追加して記入してください。

研修会名等	実施期日	実施場所	派遣教員
平成２２年度　第一回　全	平成２２年６月１	東京、東京ビックサイト	天内　和人

1

出典：ＦＤ委員会資料

資料９－２－①－４　ＦＤ活動報告（個人）（抜粋）

平成２２年度 FD 活動報告書（個人）

氏名：　天内　和人

平成２２年度に実施、あるいは参加された FD 活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。
※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	平成２２年度　第一回　「全国就職指導ガイダンス」
関連部署	専攻科
実施年月日	平成２２年６月１０日（木）
実施場所等	東京、東京ビックサイト
参加対象・参加人数等	大学、短期大学、高等専門学校の就職指導担当者
具体的内容（概略）	就職・採用に関し、適正な就職・採用活動について周知・徹底するとともに、学校側、企業側の双方が一堂に介して情報交換をおこなう。専攻科修了生に対する、就職時の取り扱いに関して調査し、就職指導の充実に資することを目的とする。

活動名・研修会名など	平成２１年度「海外インターンシッププログラム」報告会
関連部署	専攻科
実施年月日	平成２２年７月１２日（月）
実施場所等	東京、三井物産（株）本店
参加対象・参加人数等	機構「海外インターンシップ」受入企業および受入企業候補、インターンシップ参加学生および教員
具体的内容（概略）	「海外インターンシップ」受け入れ企業６社および三井物産に対し、派遣者から研修成果の報告を行い、本プログラムの改善、充実を図り、今後の受入企業拡大、三井物産と高専機構の協力関係の強化を図る。次年度以降、引き続き本校専攻科生を参加させるため、実施状況を調査する。

活動名・研修会名など	「工学（融合複合・新領域）関連分野」審査講習会

1

出典：ＦＤ委員会資料

資料９－２－①－５　ＦＤ活動計画（部署）（抜粋）

平成２３年度 FD 活動計画書（部署／個人）

（部署／個人）名：専攻科

■ 部署／個人の活動計画（企画等）
各部署あるいは各教員において平成２２年度に実施予定の FD 活動（教員の資質向上のための活動、研修会、講演会など）について記入してください。件数が複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

予定活動名	「技術士および技術士制度」説明会を開催
予定時期	平成２２年４月７日（木）
予定対象	専攻科生および専攻科担当教員
内容（概略）	技術士および技術士制度に関する説明。

予定活動名	「女性技術者による茶話会」を開催
予定時期	平成２２年４月７日（木）
予定対象	専攻科女子学生および女性教職員
内容（概略）	「女性技術士の会」メンバーと、本校女子学生および女性教職員との茶話会を開催。

予定活動名	「学位授与制度に関する説明会」開催
予定時期	平成２２年８月
予定対象	専攻科特別研究担当教員
内容（概略）	大学評価・学位授与機構による学位授与制度への対応方針の説明を、専攻科特別研究担当教員に向けて実施する。１０月の「学修成果」提出に向け、専攻科生に対する指導方針を議論する。

5

出典：ＦＤ委員会資料

資料９－２－①－６　ＦＤ活動計画（個人）（抜粋）

平成２３年度 FD 活動計画書（部署／個人）

（部署／個人）名：天内　和人

■ 部署／個人の活動計画（企画等）
各部署あるいは各教員において平成２２年度に実施予定の FD 活動（教員の資質向上のための活動、研修会、講演会など）について記入してください。件数が複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

予定活動名	平成２３年度「日工教育ワークショップ」参加
予定時期	平成２３年５月２２日（日）
予定対象	日本工学教育協会会員
内容（概略）	「エンジニアリング・デザイン教育」ワークショップ（オーストラリア技術士会、シドニー協定副議長による基調講演）。

予定活動名	「日本工学教育協会「工学（融合複合・新領域）関連分野」審査講習会」参加
予定時期	平成２２年７月下旬
予定対象	日本工学教育協会会員
内容（概略）	JABEE「工学（融合複合・新領域）関連分野」の教育プログラム認定審査にあたる審査員養成のための講習会

予定活動名	「日本工学教育協会　第５９回年次大会」参加
予定時期	平成２３年９月８日ー１０日
予定対象	日本工学教育協会会員
内容（概略）	本校専攻科における英語教育改革について発表予定。

1

出典：ＦＤ委員会資料

資料９－２－①－７　ＦＤ活動の開示

徳山工業高等専門学校　12/05/18 19:34

入試資料請求　交通アクセス　お問い合わせ　サイトマップ
English

サイト内検索　検索
Powered by Google

教育活動
Educational activity

- FD活動
- シラバス
- 授業時間割
- 創造性教育について
- 特許出願・コンテスト受賞実績
- 優秀講演表彰受賞実績
- 自己点検・自己評価
- 授業アンケート結果
- 外部評価
- インターンシップ
- オフィスアワー
- 寄付講座

緊急のお知らせ
高専夢広場
キャリア教育支援室
教職員紹介
産官学連携
教育研究支援センター
学校公開情報
オープンキャンパス
徳山高専を見て知ろう！学校見学会
図書館

ＦＤ活動

▸FD研修会を開催



高専機構の改革推進経費採択事業「中国地区８高専連携高専教育力向上プロジェクト－特別支援教育体制整備を通して－」の一環として川俣理恵先生（名城大学講師）をお招きし，「Q-Uテスト」について研修会を開催しました。

「Q-Uテスト」はクラスの集団分析と要支援学生発見のツールとして，全国の小・中・高校や高専で広く利用されている検査です。

「Q-Uテスト」の仕組みと目的について理解が深まり，有意義な研修会となりました。
H24.1.10　研修会の様子

▸平成23年度FD活動計画一覧（PDF形式）
▸平成23年度FD計画書（部署）（PDF形式）
▸平成23年度FD計画書（個人）（PDF形式）

▸平成22年度 FD活動報告一覧（PDF形式）
▸平成22年度 FD活動報告書(部署)（PDF形式）
▸平成22年度 FD活動報告書(個人)（PDF形式）
▸平成22年度 FD活動計画一覧（PDF形式）
▸平成22年度 FD活動計画書（部署）（PDF形式）
▸平成22年度 FD活動計画書（個人）(PDF形式)

▸平成21年度 FD活動報告一覧（PDF形式）
▸平成21年度 FD活動報告書(部署)（PDF形式）
▸平成21年度 FD活動報告書(個人)（PDF形式）

▸平成19年度・平成20年度 FD活動報告一覧（PDF形式）
▸平成19年度・平成20年度 FD活動報告書(部署・個人)（PDF形式）

学習・教育レビュー室 ホームページ

http://www.tokuyama.ac.jp/edu/fd.html　1/2 ページ

出典：本校 Web サイト

資料９－２－①－８　ＦＤ講演会案内

差出人：学生課教務係 <kyoumu@tokuyama.ac.jp>
日時：2011年5月27日 15:53:18JST
宛先：全員 <kan@tokuyama.ac.jp>
件名：FD講演会のご案内

平成２３年５月　２７日

教職員　各位

校長（FD委員会委員長）

下記要領にてFD講演会を開催しますので、
参加いただきますようご案内いたします。

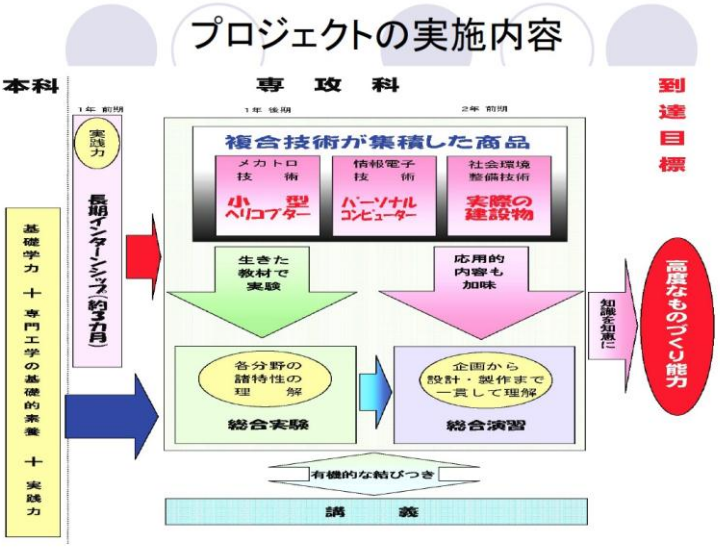
記

平成23年度　第１回FD講演会（FD委員会主催）

１．日　　時　　平成23年6月15日（水）　14：30－16：00
２．場　　所　　メディアホール
３．講演者　　機械電気工学科　森野数博教授
４．演　　題　　「生き残れるか、徳山高専」

出典：学内メール

資料９－２－①－９　複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン



出典：「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」成果報告書

資料９－２－①－１０　平成２２年度学外研修（エンジニアリング・デザイン教育関連抜粋）

活動名・研修会名など	日本工学教育協会　第５８回年次大会　「工学教育の国際化」
関連部署	
実施年月日	平成２２年８月２０日－２２日
実施場所等	東北大学川内キャンパス
参加対象・参加人数等	日本工学教育協会会員
具体的内容（概略）	第５８回工学教育協会年次大会にて、「エンジニアリング・デザイン教育の課題と方法」というタイトルで論文を発表した。

活動名・研修会名など	平成２２年度全国高専教育フォーラム
関連部署	
実施年月日	長岡技術科学大学
実施場所等	平成２２年８月２６日－２８日
参加対象・参加人数等	高等専門学校教職員
具体的内容（概略）	教育研究集会にて、「複合技術商品を導入したものづくり教育プランの構築」と題して研究発表。

活動名・研修会名など	PBL ワークショップ（研究授業）
関連部署	エンジニアリング・デザイン教育プログラム検討 WG
実施年月日	平成２２年９月３０日（木）
実施場所等	鹿児島高専（専攻科棟）
参加対象・参加人数等	高専教員
具体的内容（概略）	リパブリック・ポリテクニク（シンガポール）の Glen O'Grady 氏による PBL 教育の模擬授業に参加

活動名・研修会名など	日本工学教育協会ワークショップ
関連部署	専攻科
実施年月日	平成２３年３月５日
実施場所等	芝浦工業大学芝浦キャンパス
参加対象・参加人数等	日本工学教育協会会員
具体的内容（概略）	第５回ワークショップ「エンジニアリング・デザイン教育」–国際的に通用するエンジニアリング・デザイン教育を目指して–　に参加

出典：平成２２年度ＦＤ活動報告書

資料９－２－①－１１　多読関連の英語科教員学外研修一覧

H20FD活動　一覧　　多読関連　　英語科資料

所属	氏名	活動名	開催日等	開催場所	関連部署
GE	高橋教員	多読・多聴授業研究会	3月7～8日	豊田高専	英語科

H21FD活動　一覧　　多読関連

所属	氏名	活動名	開催日等	開催場所	関連部署
GE	国重教員	関西多読新人セミナー	2月20日	近畿大学	英語科
	高橋教員	日本多読学会年会	8月21～22日	豊田高専	英語科
	高橋教員	関西多読新人セミナー	2月20日	近畿大学	英語科

H22FD活動　一覧　　多読関連

所属	氏名	活動名	開催日等	開催場所	関連部署
GE	国重教員	多読学会総会＆Workshop	7月31日	新宿SEG	英語科
	国重教員	平成22年度全国高専教育フォーラム科目専攻別研究会（一般科目の充実・英語教育）	8月28日	長岡技術科学大学	英語科
	国重教員	英語多読に関する本校GPプロジェクト「多読・多聴による英語教育改善の全学展開」の最終報告会＆外部評価委員会	12月10日	豊田高専図書館ホール	英語科
	高橋教員	多読学会総会＆Workshop	7月31日	新宿SEG	英語科

H23FD活動　一覧　　多読関連

所属	氏名	活動名	開催日等	開催場所	関連部署
GE	国重教員	第１会多読教育国際会議（世界大会）	9月4日、5日	京都産業大学	英語科
	国重教員	多読教育研究会	12月10日	福岡女学院高等学校	英語科
	国重教員	平成23年度中国地区高等専門学校教員研究集会	12月16日	呉工業高等専門学校　広島テクノショップブランチ	英語科
	国重教員	関西多読新人セミナー	2月4日	近畿大学	英語科
	高橋教員	第１会多読教育国際会議（世界大会）	9月4日、5日	京都産業大学	英語科
	高橋教員	多読教育研究会	12月10日	福岡女学院高等学校	英語科
	高橋教員	関西多読新人セミナー	2月4日	近畿大学	英語科

出典：英語科資料

資料９－２－①－１２　教員会議議事録（抜粋）

平成２２年度第４回教員会議議事概要

日　　時　　平成２２年８月４日（水）１５：３０～１７：１０
場　　所　　メディアホール
出 席 者　　５６名（教員５３名、職員３名）
欠 席 者　　（教員１０名）
配付資料　　・事例で考えるハラスメントの防止対策と事後対応
　　－ハラスメントの根絶に向けて　……資料１
　　・徳山高専高度化改革検討WG「中間報告」の概要　……資料２
　　・英語力向上のための方策について　……資料３
　　・平成２２年度　学校ＰＲ計画について　……資料４
　　・欠席統計（H22前期中間試験まで）　……資料５

議　事

1. ハラスメント防止対策等について
髙橋ハラスメント防止委員会委員より、資料１「事例で考えるハラスメントの防止対策と事後対応－ハラスメントの根絶に向けて」に基づき、６月２９日に開催されたキャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク中国ブロックに参加し、そこでの説明内容等について教職員に対し報告があった。

2. 高度化改革検討WGの中間報告について
田村高度化改革検討ＷＧ委員長より、資料２「徳山高専高度化改革検討ＷＧ「中間報告」の概要」に基づき、高度化改革検討ＷＧの検討概要について報告があった。
報告に対し、下記の意見等があった。
・西尾教員より、教育の高度化に関して、外部資金獲得における間接経費の有効的な活用方法等について意見があり、田村委員長から、今後も、具体的な活用等についての意見をお願いしたい旨の発言があった。
・森野教員より、目指すべき本校の将来像について、中学校などの学生を送り出す側、就職先などの受け入れる側の本音を掴み、それらを分析して、本校としてどのような学生を育てていくのか、という観点を盛り込んでいただきたい旨の意見があり、田村委員長から、学内外における意見をどのように集約していくのか、その具体的な方法等については、検討中である旨の回答があった。
・大成教員より、本校の教育目標に対し、立案した計画に係る達成状況の確認や、目標達成における問題点についての議論がなされていないなどの意見があり、田村委員長から、本校の現状の整理にあたっては、今後、教育目標を軸に置いた整理を考慮したい旨の回答があった。
　あわせて大成教員より、報告書に述べられている本校の３学科における方向性について、今後は、日本の産業界の動向に対応できるよう、柔軟に検討していく必要がある旨の意見があった。

3.「英語力タスクフォースⅡ」答申について
髙橋英語力タスクフォースⅡ委員長より、資料３「英語力向上のための方策について」に基づき、本校学生の英語力の現状並びに英語力向上のための提言を校長に答申した旨の説明がなされ、校長から、当該提言についてしかるべき検討を行い、逆に提案をさせて頂くこともあるので、その際には協力願いたい旨の依頼があった。

4. 教務主事室からの報告について
教務主事より以下の報告等があった。
・資料４「平成２２年度　学校ＰＲ計画について（教務関連分）」に基づき、平成２２年度の本校のＰＲ計画等の詳細について説明があり、関係者の協力のもとに進めていきたいこと。

出典：総務係資料

資料９－２－①－１３　情報電子工学科ＦＤ活動一覧

FD活動
FACULTY DEVELOPMENT

研修会名等	実施期日	実施場所
(1) 九州地区ETロボコン	2011年9月 5日	北九州
(2) エンベデッド・システム開発講習会	2011年10月 7日	東京
(3) エンベデッド・ソフトウェア開発講習会	2011年10月28日	東京
(4) Stateflow、モデルベース開発講習会	2011年11月1, 2日	東京
(5) 組込みソフトウェア教育中間報告会	2011年11月2日	熊本
(6) 九州組込みサミット	2011年11月25日	熊本
(7) JaaSSTソフトウェアシンポジウム九州	2011年11月26日	熊本
(8) 組込みシステムキーテクノロジーセミナー	2011年11月30日	山口
(9) ＥＴ２０１０展示会・ETロボコン全国大会	2011年12月 2日	横浜
(10) Andoroid講習会	2012年1月 6日	広島
(11) 組込みシステムキーテクノロジーセミナー	2012年1月 7日	山口
(12) モデルベース開発セミナー	2012年1月24日	東京
(13) FPGAボード講習会	2012年2月9日	東京
(14) 組込みソフトウェア教育最終報告会	2012年3月18日	熊本

徳山高専 情報電子工学科 BLOG ブログ

情報電子工学科 リーフレット PDFダウンロード ▶

TOKUYAMA College of Technology 徳山工業高等専門学校 ▶ WEBサイト

連携先
九州大学大学院 システム情報科学研究院

協力
九州組込みソフトウェアコンソーシアム QUEST

情報電子工学科企画FD活動

名称	教職員向け組込みソフトウェア先端技術講座
実施場所等	徳山高専IE研修室
実施年月日	平成23年3月21-22日, 28-29日
講師	富士ゼロックス コントローラ開発本部 土樋 祐希様 (株)東陽テクニカ ソフトウェア・システム研究部／東海大学専門職大学院組込み技術研究科教授 二上 貴夫 様 (株)アフレル/日本大学生産工学部・早稲田大学理工学術院非常勤講師 久保秋 真 様 九州大学大学院 システムVLSI研究センター 久住 憲嗣 先生 九州技術教育専門学校 副理事長 赤山聖子 様 ネットワーク応用技術研究所/QUEST 芦原 秀一様
参加人数	情報電子工学科教職員
内容概略	本校が九州大学と連携して行っている「高専-大学連携による組込みソフトウェア関連技術教育の高度化」事業において、モデルベース設計を中心とした同技術分野の先端技術に関する教員向け講座を開き、講義・演習・議論を実施した。 (1) モデルベース駆動設計技術に関する講義・演習 (2) 組込みソフトウェア活用に関する事例紹介 (3) 他の教育機関における実施例の紹介 (4) 今後の組込みソフトウェア教育の在り方に関する議論

トップ　事業の概要　事業スケジュール　特別講義・講演会　Web教材　カリキュラム　FD活動

Copyright(c) 2011 Tokuyama College of Technology. All rights reserved.

出典：本校 Web サイト（情報電子工学科ホームページ）

資料９－２－①－１４　高専－大学間連携による組込みソフトウェア関連技術教育の高度化

事業の概要
ABOUT

事業名　高専-大学連携による組込みソフトウェア関連技術教育の高度化

人材養成機能充実，大学-高専連携事業

【概　要】
産業界においてニーズの高い組込みソフトウェア分野に関して，徳山高専および九州大学，および両学術機関に関連する企業群の連携により，実践的な教育の試行を通じて，組込みソフトウェアに関する日本最高水準の教育カリキュラム・シラバスの構築を行う．

事業実施主体　情報電子工学科（情報電子工学専攻）
連携相手先：九州大学大学院 システム情報科学研究院 情報知能工学部門

事業計画期間　平成２２年度～平成２３年度（２年）

徳山高専 情報電子工学科 BLOG ブログ

情報電子工学科 リーフレット PDFダウンロード ▶

TOKUYAMA College of Technology 徳山工業高等専門学校 ▶ WEBサイト

連携先
九州大学大学院 システム情報科学研究院

協力
九州組込みソフトウェアコンソーシアム QUEST

● 事業概要と体制



１．事業の必要性

【目的・目標】
組込みソフトウェア分野で独自の教育を実施してきた徳山高専において，この分野で先端的な研究実績のある九州大学と連携して，同大学および関連する国内有数の企業在職者による講義・実習を学生に受講させることにより，産業界でニーズの高い組込みソフトウェア分野で即時かつ長期間に渡り活躍できる高度な人材の育成を目的とする．本事業の成果として，高専における組込みソフトウェア分野に関する国内最高水準の教育カリキュラム・シラバスの構築を目指す．
【必要性・緊急性】
技術の高度化に伴い，高専学生は就職時に独自性の高い技術の習得が求められている．産業界では，国際的競争力維持のための組込みソフトウェア関連技術者が不足している．在来業種に属する地元企業では新分野進出に対するトリガが必要である．また，高専卒業生の主要な就職先である製造業の競争力強化・信頼性獲得には，組込みソフトウェア関連技術力の向上が喫緊の課題である．
【独創性・新規性等】
本事業は，単なる大学-高専連携に留まらず，産業界や，山口県を中心とした北部九州から広島等にかけての地域連携の要素を含む．大学での取り組み成果の活用，高専卒業生の活用，学生の就業意欲の向上，本校が立地する地元企業在職者の再教育，産業界へのフィードバックを包括的に狙った事業である．また，本事業で構築した組込みソフトウェア関連技術のカリキュラム・シラバスについては，有識者による第三者外部評価を実施し，評価結果に基づく更なる改善策を検討する．
【中期目標及び中期計画との関連性】
技術の高度化に対応するための教育課程充実化のための外部有識者の参画による研究成果活用の具現化である．学校の枠を超え，高専の特性を踏まえた教材や教育方法の改善の一つである．また，理工系大学との有機的な連携による教育課程改善策である．

２．事業の取組内容

〔全体計画〕
(1) 外部講師(大学，大学の指導下にある関連企業，本校OB)によるオムニバス形式の講義実施
(2) 最新組込みソフトウェア関連技術の習得，講義内容企画(22年度)／講義・実験への反映(23年度)
(3) 新規実験教材の設計・試作・製作・活用教育実施，他高専への事業紹介
(4) 組込みソフトウェア開発用設備の整備(22年度)・教材の充実化(23年度)

出典：本校 Web サイト（情報電子工学科ホームページ）

資料９－２－①－１５　非常勤教員との懇談（抜粋）

教育改善に関する懇談記録

日　　時	平成２３年１０月２６日		
非常勤講師氏名	[redacted]	教員氏名	[redacted]

ME4 熱力学および ME5 熱機関担当の[redacted]と懇談を実施しました。以下に、[redacted]生の授業の感想文書を転記します。

"ME5 の前期科目の熱機関については、とっつきにくい熱力学的諸計算に学生たちもすっかりなれて、少々難しいことを言っても付いてきてくれるようになり、一年前とは隔世の感があります。この熱機関については、期末試験で１名欠点を取った子が居ましたが、59 点とぎりぎりだったので、学習シート提出率でカバーできました。

ME4 は、確かに期末試験の平均点などは前年度より低いめでした。その要因を、私なりに見てみると、非常に基礎学力のない数人の子が昨年より多い目であること、それ以外の成績上位、中位のものは昨年と変わらずで楽しみな子もいると思いました。問題は、基礎学力のない連中をどうするかですが、昨年と同じように学習シートの演習問題を無差別に発表させて、それをてこにがんばらせようかと思っています。この無差別攻撃をやると、プライドがあり取り繕おうとするので、少なくともその週の授業は頭に残るのではないかと思います。"

教育改善に関する懇談記録

日　　時	平成２３年１１月２日		
非常勤講師氏名	[redacted]	教員氏名	[redacted]

ME5 機械設計論Ⅱ担当の[redacted]生と懇談を実施しました。
学生に関しては全く問題はありませんでしたが、教育態勢に関しては、全体的にゆとりがないというご指摘がありました。

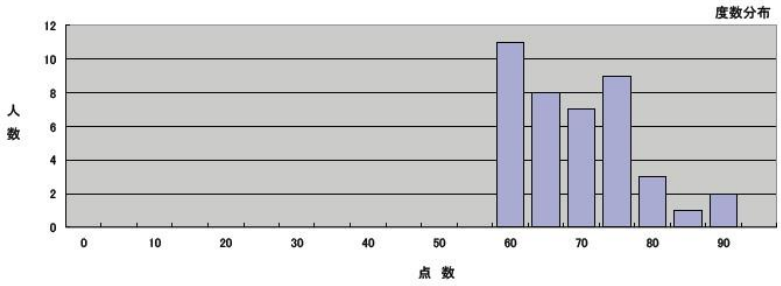
出典：教務係資料

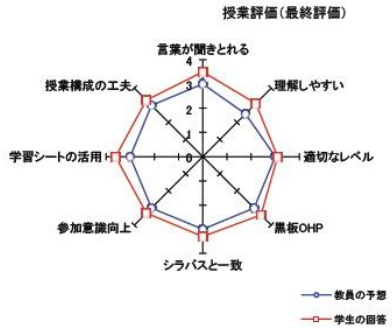
資料９－２－①－１６　成績評価資料教員コメント（抜粋）

成績評価

科目名	化学III		必修	後期
			1単位	
学科	CA		2年	
受講者数	講義回数	学生の総欠席時数	最終成績平均点	
41人	14回	9時間	70.8点	

徳山高専基準	優	良	可	不可
	80点以上	79点～70点	69点～60点	59点以下
人数	6	16	19	0





授業アンケート	最終評価	
	アンケート平均点	学生自身の自己評価
教員の予想	2.9	3
学生の回答	3.3	3.1

特記

1）最終成績評価式

2回の試験の平均点を80%、学習シートの提出・記入状況を20%として100点満点で評価。

2）成績の分析及び本年度の授業自己評価

1年生の化学の基礎知識が身に付いていない学生が多く見られ、授業内容の理解度に大きな差が生じ、成績が二極化した。授業内容は資料等に工夫をこらし、化学にある程度興味を持たせることが出来た。

出典：学習・教育レビュー室資料

（分析結果とその根拠理由）

ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）は，ＦＤ委員会が中心となって実施されている。ＦＤ活動として，ＦＤ委員会あるいは各部署でそれぞれ企画する全学的な活動，各組織での活動，個人での活動などが実施されている。「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」の取組みや，英語多読の授業への導入などに代表されるように，ＦＤ活動が教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

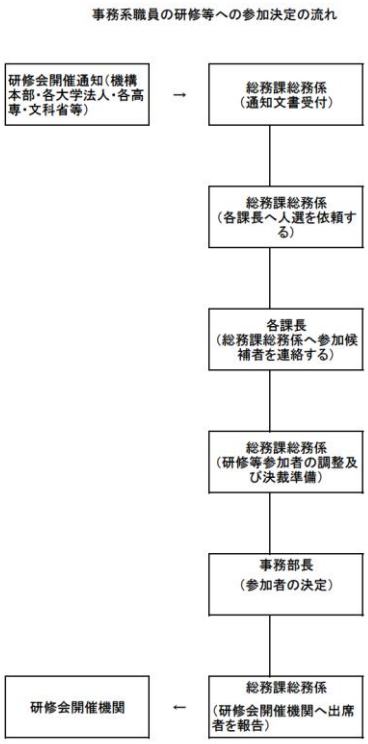
以上のことから，ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施され，教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

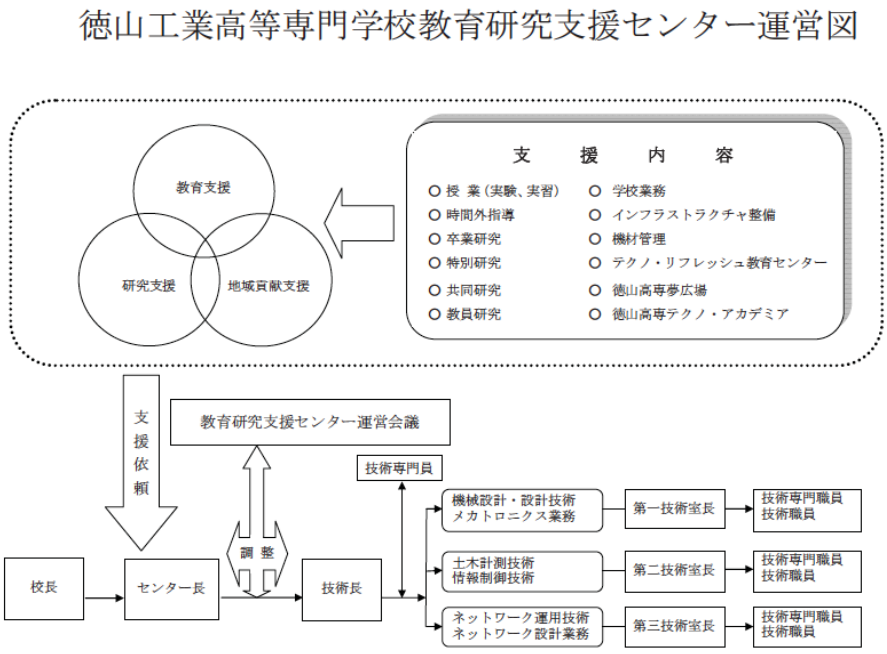
事務職員や技術職員等の教育支援者等に対する研修等は，総務課（資料９－２－②－１）および教育研究支援センター（資料９－２－②－２）が中心となり，それぞれ規則に則り実施している（資料９－２－②－３，４）。事務職員および技術職員は学内外における研修等として，組織での活動，個人での活動などを実施している（資料９－２－②－５，６）。研修の成果は，資格の取得，特許の取得，研究費の取得など，職員の資質の向上につながっている（資料９－２－②－７）。

資料９－２－②－１　事務系職員研修等への参加決定



出典：総務課資料

資料９－２－②－２　教育研究支援センター組織図



出典：教育研究支援センター資料

資料９－２－②－３　教職員の研修に関する規定（抜粋）

徳山工業高等専門学校における教職員の研修等への参加に関する取り扱い

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第２８号「独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則」に基づき、本校における教職員の研修等への参加に関し、以下のとおり取り扱うものとする。

１．教員の研修等
　教員の各種研修等への参加者については、校長、教務主事、その他の関係教員が適任者を選出し、校長が決定するものとする。

２．技術職員の研修等
　技術職員の各種研修等への参加者については、教育研究支援センター長、技術長が適任者を選出し、校長が決定するものとする。

３．事務系職員の研修等
　事務系職員の各種研修等への参加者については、事務部長、総務課長、学生課長が適任者を選出し、事務部長が決定するものとする。

４．研修等に要する経費
　研修等に要する経費については、組織として参加を要請する場合は管理経費で支弁するものとする。

５．教職員の研修等に係る事務は、総務課において処理する。

６．その他
　この取り扱いに定めるもののほか，研修等に関し必要な事項は，校長が別に定めるものとする。

出典：総務課資料

資料９－２－②－４　教育研究支援センター規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校教育研究支援センター規則

（設置）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第１２条の規定に基づき、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。
（目的）
第２条　センターは、技術職員の勤務場所との連絡を緊密に図り、本校の技術に関する専門的業務を組織的、かつ効率的に処理するとともに、技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。
（業務等）
第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。
（1）　教育及び研究に伴う技術支援に関すること。
（2）　地域連携活動に伴う技術支援に関すること。
（3）　技術の習得、継承及び保存に関すること。
（4）　技術研修に関すること。
（5）　教育、研究の支援、その他の業務に関すること。
第４条　センターに、第一技術室（機械工作部門）、第二技術室（計測制御部門）及び第三技術室（ネットワーク部門）の３室を置き、各室は次の各号に掲げる業務を行う。
（1）　第一技術室（機械工作部門）　機械工作・設計技術及びメカトロニクスに関する業務
（2）　第二技術室（計測制御部門）　土木計測技術及び情報制御技術に関する業務
（3）　第三技術室（ネットワーク部門）　ネットワーク運用技術及びネットワーク設計に関する業務
２　センターは、必要に応じて各技術室を超えたプロジェクトを組織し、特別な業務に当たることができる。
（組織）
第５条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。
（1）　センター長
（2）　技術長
（3）　技術室長
（4）　技術専門職員
（5）　技術職員

出典：本校規則集

資料９－２－②－５　職員研修一覧（抜粋）

会議・研修等一覧（幹部・事務・会計・学生・図書）平成16年度以降

幹部

研修等の名称	主催等	受講対象	16	17	18	19	20	21	22	23
国立大学法人等新任部長研修	社団法人国立大学協会	国立大学法人等の新任部長級職員	2/3, 4 東京医科歯科大 欠	7/28, 29 学術総合センター 欠	H18から高専機構部課長研修					
国立大学法人等新任課長研修	社団法人国立大学協会	国立大学法人等の新任課長級職員	2/9, 10 東京医科歯科大 近藤(推×)	8/2, 3 学術総合センター 近藤、空	H18から高専機構部課長研修					
大学マネージメントセミナー	社団法人国立大学協会	国立大学法人等の課長級以上の職員	2/22, 23 東京医科歯科大 山岸, 近藤	10/17～19, 11/15～17 学術総合センター 欠						
国における人事制度等に関する説明会	文部科学省	国立大学法人等の人事担当部課長		9/30 お茶の水女子大 近藤		9/21 学術総合センター 森下	9/12 文部科学省 近藤	9/18 文部科学省 欠席(監事監査)	9/22 文部科学省 久保	
国立大学法人等財務管理等に関する協議会	(独)国立大学財務・経営センター	国立大学法人等の財務担当部課長			5/22, 23 一橋記念講堂 鈴木	5/21, 22 一橋記念講堂 近藤	5/21, 22 一橋記念講堂 近藤	5/28, 29 一橋記念講堂 篠山、久保	5/24, 25 一橋記念講堂 篠山、久保	
国立大学法人等研究協力部課長会議	国立大学法人	国立大学法人等の担当部課長					10/2, 3 岡山大学 近藤	10/8, 9 盛岡市 久保	10/7, 8 鹿児島大学 篠山、久保	
労務に関するセミナー	中国・四国地区国立大学法人	課長職以上の職員	12/9 岡山大学 近藤							
中国・四国地区国立大学法人等労務管理マネージメントセミナー	中国・四国地区国立大学法人	労務管理担当幹部職員		2/15 岡山市 野中						
中国・四国地区国立大学法人等財務担当部課長会議	中国・四国地区国立大学法人	財務担当部課長					9/5 岡山大学 中元		9/3 岡山大学 久保	10/14 岡山大学 梅田
高専機構新任部課長研修会（部長の部）	高専機構	事務部長			11/30～12/1 オリセン 森下	11/27～11/28 オリセン ーーー	9/16, 17 東京(銀鋼会館) 篠山		7/16, 17 CIC 部長なし	7/8 学術総合センター 武田
高専機構新任部課長研修会（課長の部）	高専機構	総務課長、学生課長					9/16, 17 東京(銀鋼会館) 小玉	7/16, 17 CIC 久保	9/2, 3 CIC 兼本	
高専機構総務担当課長会議	高専機構	総務課長、補佐				7/17～19 東京高専 欠		4/23, 24 オリセン 久保、兼本、中元	4/15, 16 オリセン 久保、中元	H23年度
										4/25

出典：総務課資料

資料９－２－②－６　平成２３年度教育研究支援センター研修一覧

平成２３年度 FD 活動報告書（部署）

部署名：　教育研究支援センター

■ 部署企画の活動

各部署において平成２３年度に実施された FD 活動（教員の資質向上のための活動、研修会、講演会など）について記入してください。件数が複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

研修会名等	実施期日	実施場所	派遣教員
平成２３年度 国立高等専門学校機構 情報関連説明会	H23.6.6-7	国立オリンピック記念青少年総合センター	林　嘉雄
普通旋盤講習	H23.7.2	山口県東部高等産業技術学校	井本琢哉
溶接技術講習	H23.7.9	周南地域地場産業センター	石川善丈、井本琢哉
平成２３年度 国立高等専門学校機構 IT 担当研修会	H23.6.6-7	αラーニングセンター水道橋	林　嘉雄
中国地区技術職員研修	H23.8.18-19	広島商船高専	中村金良、石川善丈
2011 年度第 17 回日本高専学会年会口頭発表	H23.8.27-28	鈴鹿工業高等専門学校	山本孝子専門員
平成 23 年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会	H23.9.1-2	広島大学学士会館	鳥居恵子技術長
2011 年度オムロン制御技術セミナー（応用コース）	H23.11.24-25	オムロン株式会社東京事業所（品川フロントビル）	藤本竜也
第 4 回中国地区高専テクノ・マーケット	H23.12.3	津山国際ホテル	福田　靖
技術室の組織・報告集・施設の視察	H23.12.5-6	鹿児島高専・佐世保高専	林　嘉雄、石川善丈、井本琢哉
平成 23 年度国立高専機構ネットワーク管理者研修会	H23.12.26-27	国立オリンピック記念青少年総合センター	林　嘉雄
実験・実習技術研究会	H24.3.14-15	神戸大学	林　嘉雄、石川善丈
第 7 回情報技術研究会	H24.3.6-7	九州工業大学情報工学部（飯塚キャンパス）	山本孝子専門員
安否確認システム（沼津高専職員開発）説明会	H24.3.12	国立オリンピック記念青少年総合センター	鳥居恵子技術長

出典：平成２３年度ＦＤ活動報告書

資料９－２－②－７　教育研究センター実績（抜粋）

免　許　取　得

【2級仕上げ技能士（機械組み立て仕上げ作業）】
井本琢哉
日時：平成22年10月1日
場所：山口県立東部高等産業技術学校
資料：p.20

特　許（発明者）

【土壌固化物製造用の組織物及び土舗装方法】
福田靖
宇部ﾏﾃﾘｱﾙｽﾞ（株），（株）シンヨーが2010年8月12日に共同出願
宇部ﾏﾃﾘｱﾙｽﾞ（株）に譲渡，発明者として

科 研 費 助 成

【平成22～24年度科学研究費補助金基盤研究(C)(1)】
山本孝子
「女性技術者のキャリア形成過程に関する実証的研究」(課題番号)(22510300)
協力内容：会議出席，ロールモデル冊子作成

出典：平成２２年度教育研究支援センター報告書

（分析結果とその根拠理由）

教育支援者等に対する研修等は，総務課および教育研究支援センターが中心となり，それぞれ規則に則り実施している。研修の成果は，資格の取得，特許の取得，研究費の取得など，職員の資質の向上につながっている。

以上のことから，教育支援者に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組みが適切に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

各種の評価や研究，学会発表，研修等のＦＤ活動が，教育の質の向上および改善に結びつけられるような組織がよく整備されている。さらに教育点検システム自体が機能しているかどうかが点検・評価されている。エンジニアリング・デザイン能力の育成や英語力の向上などに向け積極的に教育改善に取り組み，具体的効果を上げている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準９の自己評価の概要

教育活動の点検・改善のための学習・教育レビユー室は，学生による「授業アンケート」，教員による「成績評価資料」等の資料を収集・蓄積し，その評価結果を教務委員会・ＦＤ委員会等の各種委員会に報告している。各種委員会は，学習・教育レビユー室からの報告に加え，顧問会議の結果をもとに教育活動についての改善を実施する体制をとっている。

ＦＤ委員会，顧問会議，自己評価委員会，総合企画室，教務委員会，教員会議，教室会議等の連携による点検システムが確立され，継続的に教育の評価改善に反映されている。また自己評価委員会により教育点検システム自体の点検が行われている。

学生による授業アンケート結果は，本校Webサイト上で公開されており，個々の教員はその評価結果にもとづいて教育の質の向上を図り，教授内容等の継続的改善を行っている。各教員には「年間職務の自己評価」の提出が義務づけられており，それにより個々の教員の改善状況を学校として把握している。

ＦＤ委員会を中心として，教職員の研究や研修などが計画的に行われているとともに，これらの成果が学生の卒業研究や特別研究に反映され，授業内容の改善にも活かされている。また，公開授業や教育に関する科目間調整会議等のＦＤ活動が教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の資産は，文部科学省から出資された土地及び建物・構築物などであり，教育研究活動を将来に渡って適切かつ安定して遂行するため，高等専門学校設置基準に基づいて整備されている。

校地，校舎および設備等の固定資産等並びに債務については，平成１９年度から平成２３年度の本校の貸借対象表（資料１０－１－①－１～２０）および固定資産付属明細（資料１０－１－①－２１～２５）に示すとおりである。

固定資産の平成２４年３月末現在におけるその資産現在額は次のとおりである。

（ａ）固定資産

土地　面積　　128,111㎡　　2,892,200,000円

建物　延面積　 25,017㎡　　1,855,196,759円

構築物　　118,088,010円

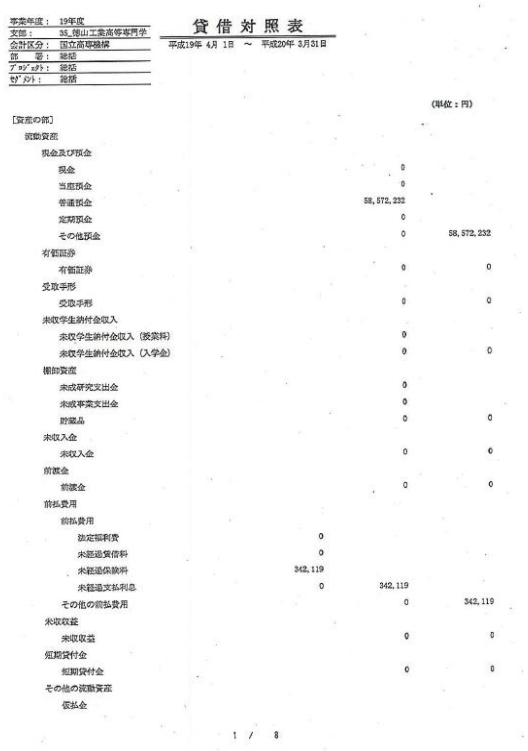
（価格は，すべて減価償却後の期末残高を計上）

（ｂ）所属別工具器具備品資産等一覧　　（点）

所　　属	工具器具備品資産	少額資産	合 計	備　考
一 般 科 目	２６	２９４	３２０	
機械電気工学科	３９	５８１	６２０	
情報電子工学科	１３	３２３	３３６	
土木建築工学科	４９	７０７	７５６	
専　攻　科	２	３２	３４	
情報処理センター	１３	６３	７６	
テクノ・リフレッシュ教育センター	２	３１	３３	
事　務　部	４２	６９３	７３５	
合　　計	１８６	２，７２４	２，９１０	

※工具器具備品資産＝取得価格５０万円以上，少額資産＝取得価格１０万円以上５０万円未満

資料１０－１－①－１　平成１９年度貸借対照表１



貸 借 対 照 表

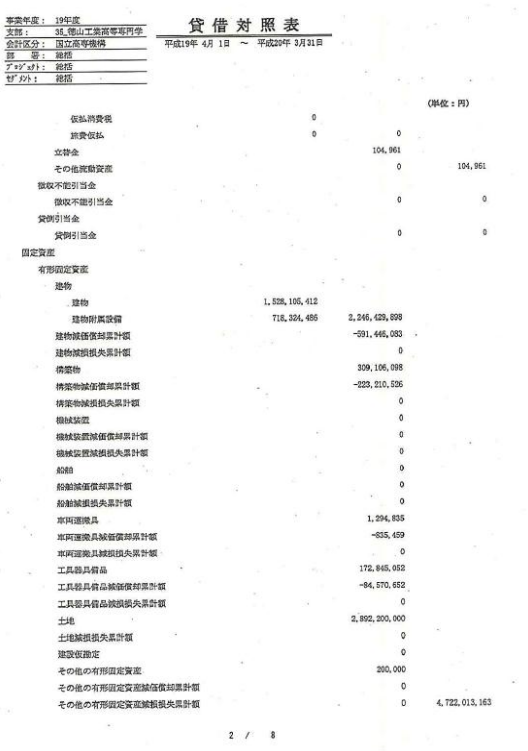
事業年度： 19年度
支部： 35_徳山工業高等専門学
会計区分： 国立高等機構
部　署： 総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ： 総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ： 総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

(単位：円)

[資産の部]		
流動資産		
現金及び預金		
現金	0	
当座預金	0	
普通預金	58,572,232	
定期預金	0	
その他預金	0	58,572,232
有価証券		
有価証券	0	0
受取手形		
受取手形	0	0
未収学生納付金収入		
未収学生納付金収入（授業料）	0	
未収学生納付金収入（入学金）	0	0
棚卸資産		
未成研究支出金	0	
未成事業支出金	0	
貯蔵品	0	0
未収入金		
未収入金	0	0
前渡金		
前渡金	0	0
前払費用		
前払費用		
独定福利費	0	
未経過賃借料	0	
未経過保険料	342,119	
未経過支払利息	0	342,119
その他の前払費用	0	342,119
未収収益		
未収収益	0	0
短期貸付金		
短期貸付金	0	0
その他の流動資産		
仮払金		

1 / 8



貸 借 対 照 表

事業年度： 19年度
支部： 35_徳山工業高等専門学
会計区分： 国立高等機構
部　署： 総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ： 総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ： 総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

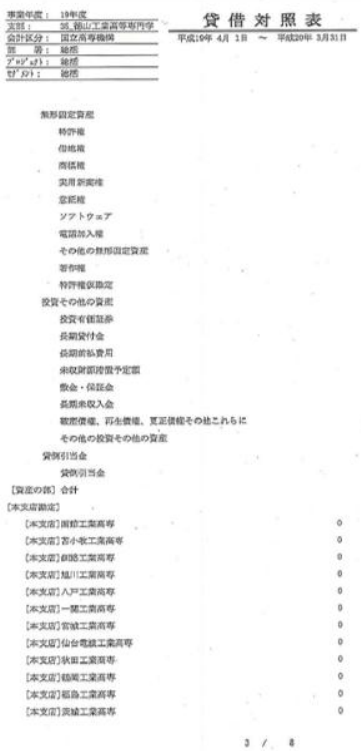
(単位：円)

仮払消費税	0		
旅費仮払	0	0	
立替金		104,961	
その他流動資産		0	104,961
徴収不能引当金			
徴収不能引当金		0	0
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
固定資産			
有形固定資産			
建物			
建物	1,528,105,412		
建物附属設備	718,324,486	2,246,429,898	
建物減価償却累計額		-391,446,093	
建物減損損失累計額		0	
構築物		309,106,098	
構築物減価償却累計額		-223,210,526	
構築物減損損失累計額		0	
機械装置		0	
機械装置減価償却累計額		0	
機械装置減損損失累計額		0	
船舶		0	
船舶減価償却累計額		0	
船舶減損損失累計額		0	
車両運搬具		1,294,835	
車両運搬具減価償却累計額		-835,459	
車両運搬具減損損失累計額		0	
工具器具備品		172,845,052	
工具器具備品減価償却累計額		-84,570,652	
工具器具備品減損損失累計額		0	
土地		2,892,200,000	
土地減損損失累計額		0	
建設仮勘定		0	
その他の有形固定資産		200,000	
その他の有形固定資産減価償却累計額		0	
その他の有形固定資産減損損失累計額		0	4,722,013,163

2 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－２　平成１９年度貸借対照表２



貸 借 対 照 表

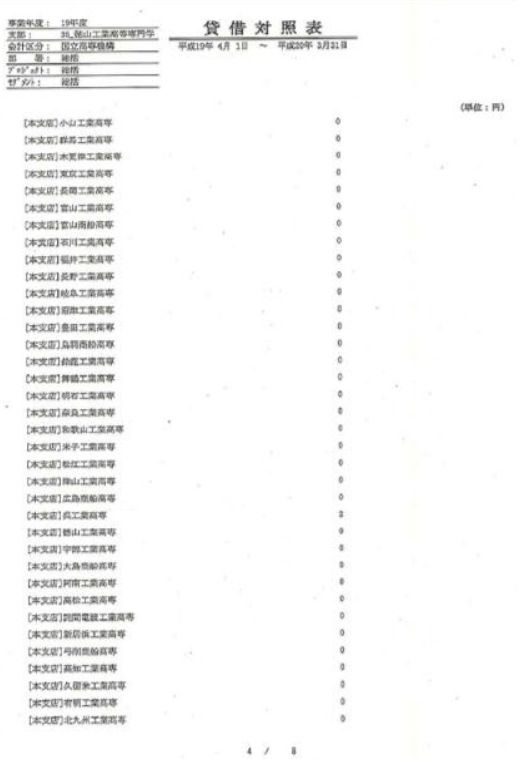
事業年度： 19年度
支部： 35_徳山工業高等専門学
会計区分： 国立高等機構
部　署： 総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ： 総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ： 総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

(単位：円)

無形固定資産		
特許権	0	
借地権	0	
商標権	0	
実用新案権	0	
意匠権	0	
ソフトウェア	0	
電話加入権	78,900	
その他の無形固定資産	0	
著作権	0	
特許権仮勘定	68,520	147,420
投資その他の資産		
投資有価証券	0	
長期貸付金	0	
長期前払費用	10,029	
未収財源措置予定額	0	
敷金・保証金	0	
長期未収入金	0	
職務債権、再生債権、更正債権その他これらに	0	
その他の投資その他の資産	35,950	45,979
貸倒引当金		
貸倒引当金	0	0
[資産の部] 合計		4,781,223,974
[本支店勘定]		
[本支店]函館工業高専	0	
[本支店]苫小牧工業高専	0	
[本支店]釧路工業高専	0	
[本支店]旭川工業高専	0	
[本支店]八戸工業高専	0	
[本支店]一関工業高専	0	
[本支店]宮城工業高専	0	
[本支店]仙台電波工業高専	0	
[本支店]秋田工業高専	0	
[本支店]鶴岡工業高専	0	
[本支店]福島工業高専	0	
[本支店]茨城工業高専	0	

3 / 8



貸 借 対 照 表

事業年度： 19年度
支部： 35_徳山工業高等専門学
会計区分： 国立高等機構
部　署： 総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ： 総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ： 総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

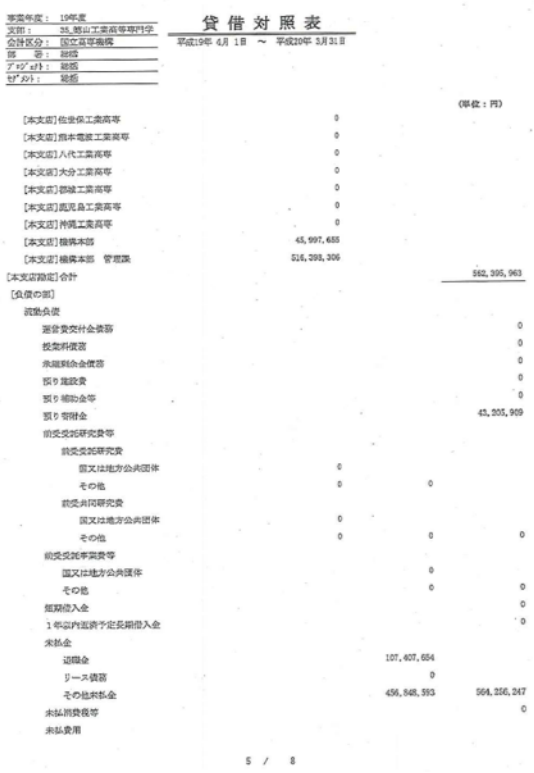
(単位：円)

[本支店]小山工業高専	0
[本支店]木更津工業高専	0
[本支店]木更津工業高専	0
[本支店]高専工業高専	0
[本支店]長岡工業高専	0
[本支店]富山工業高専	0
[本支店]富山商船高専	0
[本支店]石川工業高専	0
[本支店]福井工業高専	0
[本支店]長野工業高専	0
[本支店]岐阜工業高専	0
[本支店]沼津工業高専	0
[本支店]豊田工業高専	0
[本支店]鳥羽商船高専	0
[本支店]鈴鹿工業高専	0
[本支店]舞鶴工業高専	0
[本支店]明石工業高専	0
[本支店]奈良工業高専	0
[本支店]和歌山工業高専	0
[本支店]米子工業高専	0
[本支店]松江工業高専	0
[本支店]津山工業高専	0
[本支店]広島商船高専	0
[本支店]呉工業高専	2
[本支店]普山工業高専	0
[本支店]宇部工業高専	0
[本支店]大島商船高専	0
[本支店]阿南工業高専	0
[本支店]高松工業高専	0
[本支店]詫間電波工業高専	0
[本支店]新居浜工業高専	0
[本支店]弓削商船高専	0
[本支店]高知工業高専	0
[本支店]久留米工業高専	0
[本支店]有明工業高専	0
[本支店]北九州工業高専	0

4 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－３　平成１９年度貸借対照表３



貸借対照表

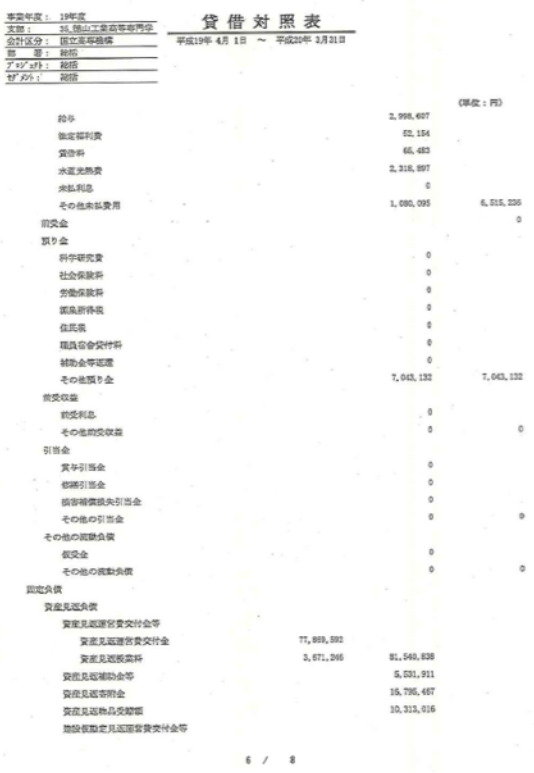
事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

(単位：円)

[本支店]佐世保工業高等	0		
[本支店]熊本電波工業高等	0		
[本支店]八代工業高等	0		
[本支店]大分工業高等	0		
[本支店]都城工業高等	0		
[本支店]鹿児島工業高等	0		
[本支店]沖縄工業高等	0		
[本支店]機構本部	45,997,685		
[本支店]機構本部　管理職	516,398,306		
[本支店勘定]合計			562,395,963
[負債の部]			
流動負債			
運営費交付金債務			0
授業料債務			0
未払剰余金債務			0
預り施設費			0
預り補助金等			0
預り寄附金			43,205,909
前受受託研究費等			
前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
短期借入金			0
１年以内返済予定長期借入金			0
未払金			
通勤費		107,407,654	
リース債務		0	
その他未払金		456,848,593	564,256,247
未払消費税等			0
未払費用			

5 / 8



貸借対照表

事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

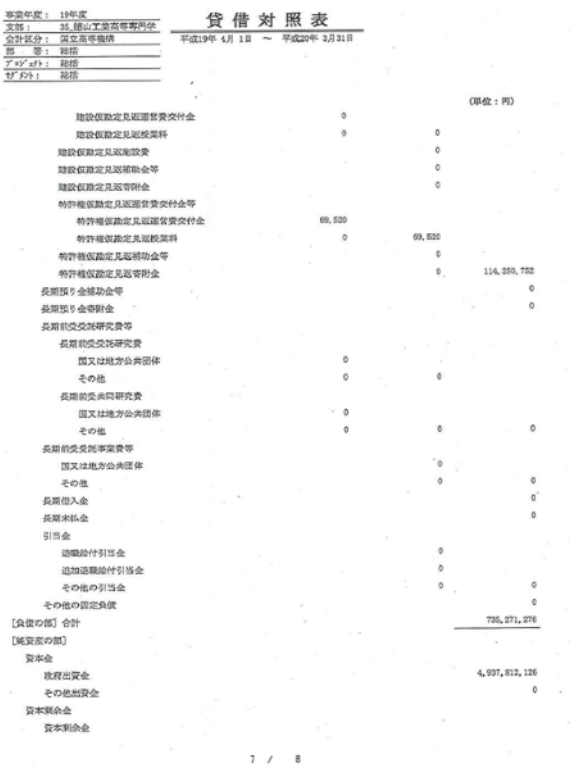
(単位：円)

給与	2,998,607	
法定福利費	52,154	
賃借料	65,483	
水道光熱費	2,316,897	
未払利息	0	
その他未払費用	1,080,095	6,515,236
前受金		0
預り金		
科学研究費	0	
社会保険料	0	
労働保険料	0	
源泉所得税	0	
住民税	0	
職員宿舎貸付料	0	
補助金等返還	0	
その他預り金	7,043,132	7,043,132
前受収益		
前受利息	0	
その他前受収益	0	0
引当金		
賞与引当金	0	
退職引当金	0	
損害賠償損失引当金	0	
その他の引当金	0	0
その他の流動負債		
仮受金	0	
その他の流動負債	0	0
固定負債		
資産見返負債		
資産見返運営費交付金等		
資産見返運営費交付金	77,889,592	
資産見返授業料	3,671,246	81,560,838
資産見返補助金等		5,531,911
資産見返寄附金		15,796,467
資産見返物品受贈額		10,313,016
施設仮勘定見返運営費交付金等		

6 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－４　平成１９年度貸借対照表４



貸借対照表

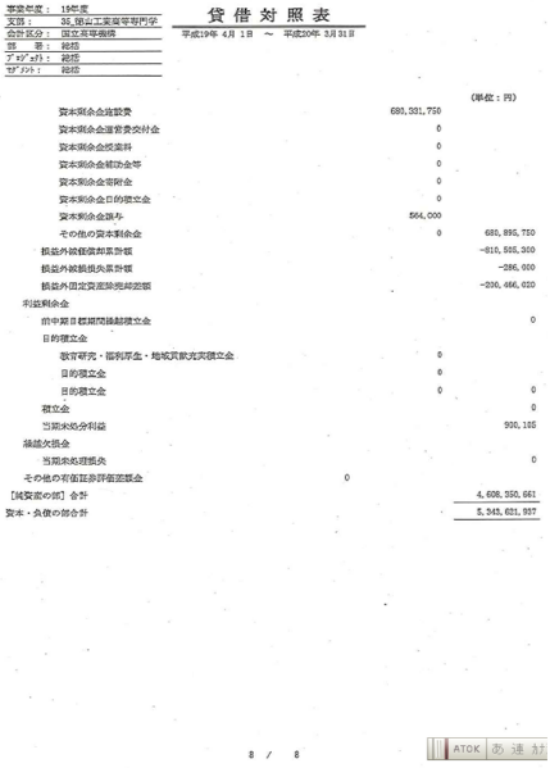
事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

(単位：円)

建設仮勘定見返運営費交付金	0		
建設仮勘定見返授業料	0	0	
建設仮勘定見返施設費		0	
建設仮勘定見返補助金等		0	
建設仮勘定見返寄附金		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等			
特許権仮勘定見返運営費交付金	69,520		
特許権仮勘定見返授業料	0	69,520	
特許権仮勘定見返補助金等		0	
特許権仮勘定見返寄附金		0	114,350,752
長期預り金補助金等			0
長期預り金寄附金			0
長期前受受託研究費等			
長期前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
長期前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
長期前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
長期借入金			0
長期未払金			0
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0
[負債の部]合計			735,271,276
[純資産の部]			
資本金			
政府出資金			4,937,812,126
その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金			

7 / 8



貸借対照表

事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

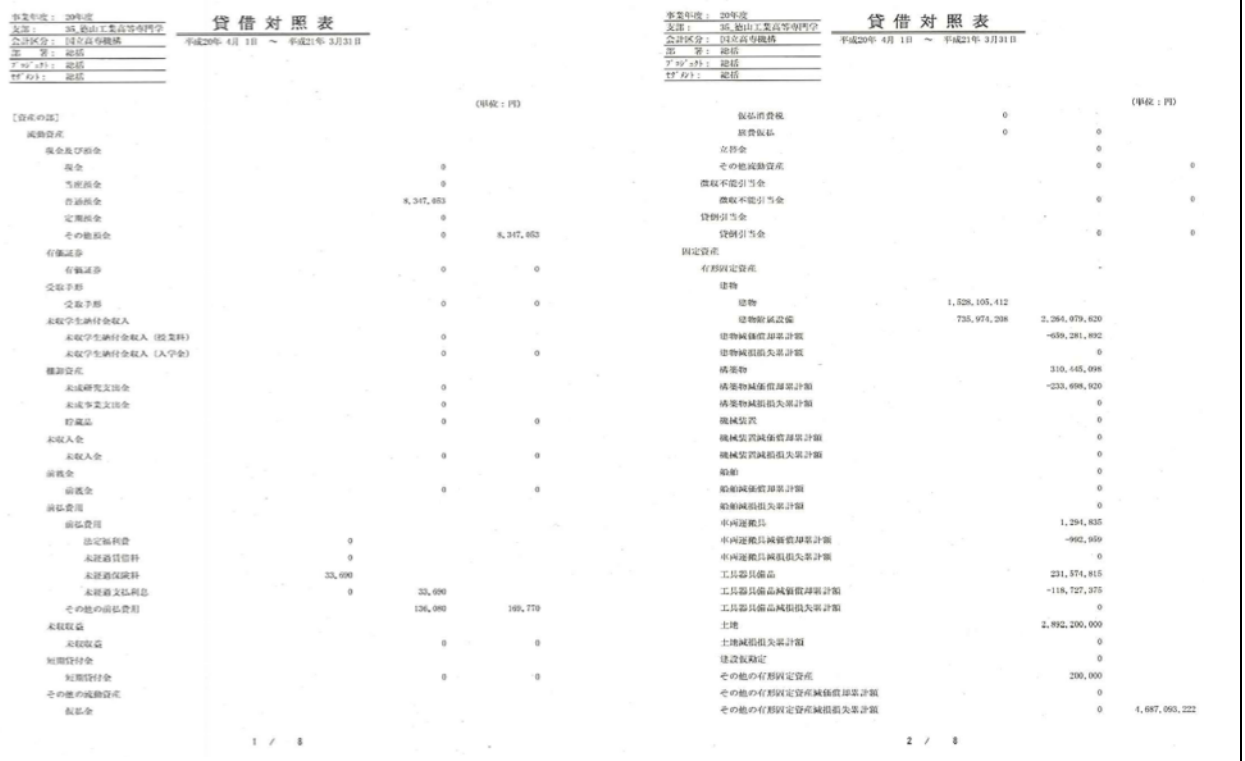
(単位：円)

資本剰余金施設費	693,331,750	
資本剰余金運営費交付金	0	
資本剰余金授業料	0	
資本剰余金補助金等	0	
資本剰余金寄附金	0	
資本剰余金目的積立金	0	
資本剰余金諸外	564,000	
その他の資本剰余金	0	688,895,750
損益外減価償却累計額		-815,565,300
損益外減損損失累計額		-286,000
損益外固定資産除売却差額		-236,466,020
利益剰余金		
前中期目標期間繰越積立金		0
目的積立金		
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0	
目的積立金	0	
目的積立金	0	0
積立金		0
当期未処分利益		930,185
繰越欠損金		
当期未処理損失		0
その他の有価証券評価差額金	0	
[純資産の部]合計		4,608,350,661
資本・負債の部合計		5,343,621,937

8 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－５　平成２０年度貸借対照表１



貸 借 対 照 表

事業年度：　20年度
支部：　35.徳山工業高等専門学
会計区分：　国立高等機関
部　　署：　総括
ｱﾌﾟﾘｾｯﾄ：　総括
ｻﾌﾞｾｯﾄ：　総括

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

[資産の部]			
流動資産			
現金及び預金			
現金		0	
当座預金		0	
普通預金		8,347,653	
定期預金		0	
その他預金		0	8,347,653
有価証券			
有価証券		0	0
受取手形			
受取手形		0	0
未収学生納付金収入			
未収学生納付金収入（授業料）		0	
未収学生納付金収入（入学金）		0	0
棚卸資産			
未成研究支出金		0	
未成事業支出金		0	
貯蔵品		0	0
未収入金			
未収入金		0	0
前渡金			
前渡金		0	0
前払費用			
前払費用			
法定福利費	0		
未経過賃借料	0		
未経過保険料	33,090		
未経過支払利息	0	33,090	
その他の前払費用		136,080	169,170
未収収益			
未収収益		0	0
短期貸付金			
短期貸付金		0	0
その他の流動資産			
仮払金			

1 / 8

貸 借 対 照 表

事業年度：　20年度
支部：　35.徳山工業高等専門学
会計区分：　国立高等機関
部　　署：　総括
ｱﾌﾟﾘｾｯﾄ：　総括
ｻﾌﾞｾｯﾄ：　総括

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

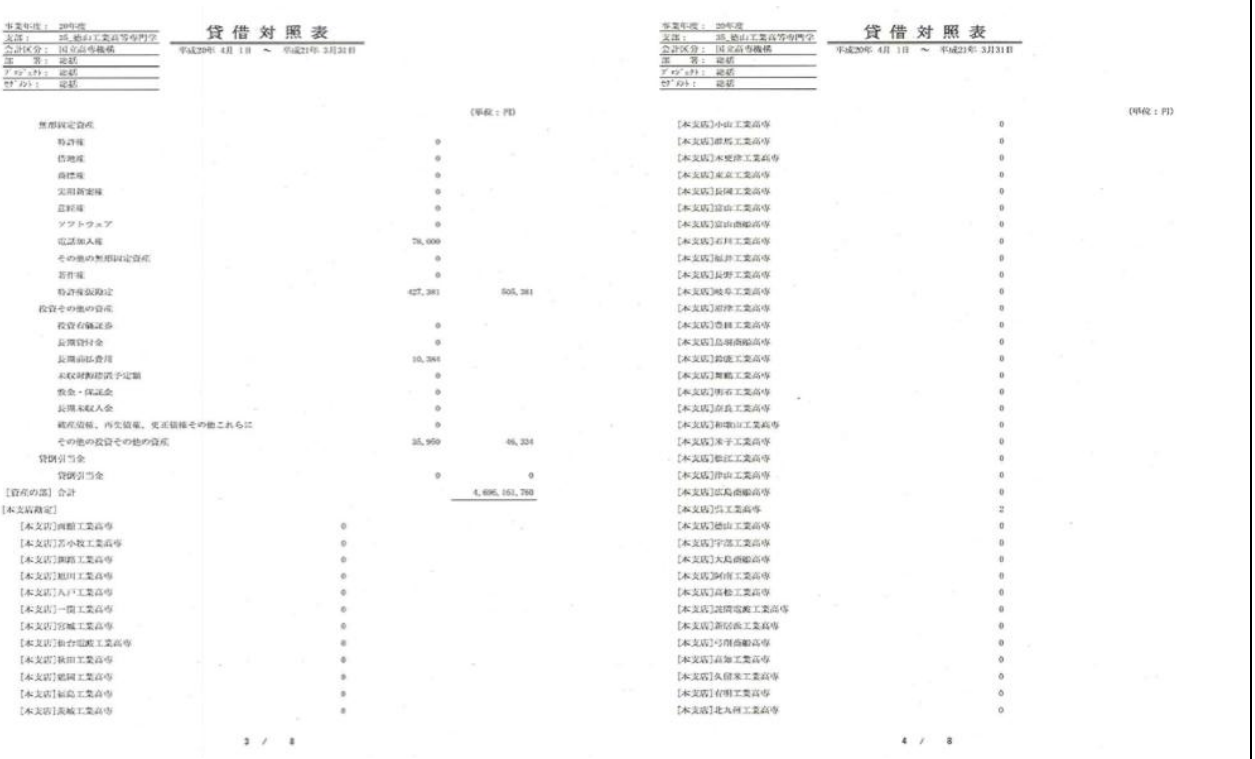
（単位：円）

仮払消費税	0		
旅費仮払	0	0	
立替金		0	
その他流動資産		0	0
徴収不能引当金			
徴収不能引当金		0	0
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
固定資産			
有形固定資産		-	
建物			
建物	1,528,105,412		
建物附属設備	735,974,208	2,264,079,620	
建物減価償却累計額		-639,281,892	
建物減損損失累計額		0	
構築物		310,445,098	
構築物減価償却累計額		-233,698,920	
構築物減損損失累計額		0	
機械装置		0	
機械装置減価償却累計額		0	
機械装置減損損失累計額		0	
船舶		0	
船舶減価償却累計額		0	
船舶減損損失累計額		0	
車両運搬具		1,294,835	
車両運搬具減価償却累計額		-962,959	
車両運搬具減損損失累計額		0	
工具器具備品		231,574,815	
工具器具備品減価償却累計額		-118,727,375	
工具器具備品減損損失累計額		0	
土地		2,892,200,000	
土地減損損失累計額		0	
建設仮勘定		0	
その他の有形固定資産		200,000	
その他の有形固定資産減価償却累計額		0	
その他の有形固定資産減損損失累計額		0	4,687,093,222

2 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－６　平成２０年度貸借対照表２



貸 借 対 照 表

事業年度：　20年度
支部：　35.徳山工業高等専門学
会計区分：　国立高等機関
部　　署：　総括
ｱﾌﾟﾘｾｯﾄ：　総括
ｻﾌﾞｾｯﾄ：　総括

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

無形固定資産			
特許権		0	
借地権		0	
商標権		0	
実用新案権		0	
意匠権		0	
ソフトウェア		0	
電話加入権		78,000	
その他の無形固定資産		0	
著作権		0	
特許権仮勘定		427,381	505,381
投資その他の資産			
投資有価証券		0	
長期貸付金		0	
長期前払費用		10,366	
未収財源措置予定額		0	
敷金・保証金		0	
長期未収入金		0	
破産債権，再生債権，更生債権その他これらに		0	
その他の投資その他の資産		35,959	46,324
貸倒引当金			
貸倒引当金		0	0
[資産の部] 合計			4,696,161,788
[本支店勘定]			
[本支店]函館工業高専	0		
[本支店]苫小牧工業高専	0		
[本支店]釧路工業高専	0		
[本支店]旭川工業高専	0		
[本支店]八戸工業高専	0		
[本支店]一関工業高専	0		
[本支店]宮城工業高専	0		
[本支店]仙台電波工業高専	0		
[本支店]秋田工業高専	0		
[本支店]鶴岡工業高専	0		
[本支店]福島工業高専	0		
[本支店]茨城工業高専	0		

3 / 8

貸 借 対 照 表

事業年度：　20年度
支部：　35.徳山工業高等専門学
会計区分：　国立高等機関
部　　署：　総括
ｱﾌﾟﾘｾｯﾄ：　総括
ｻﾌﾞｾｯﾄ：　総括

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

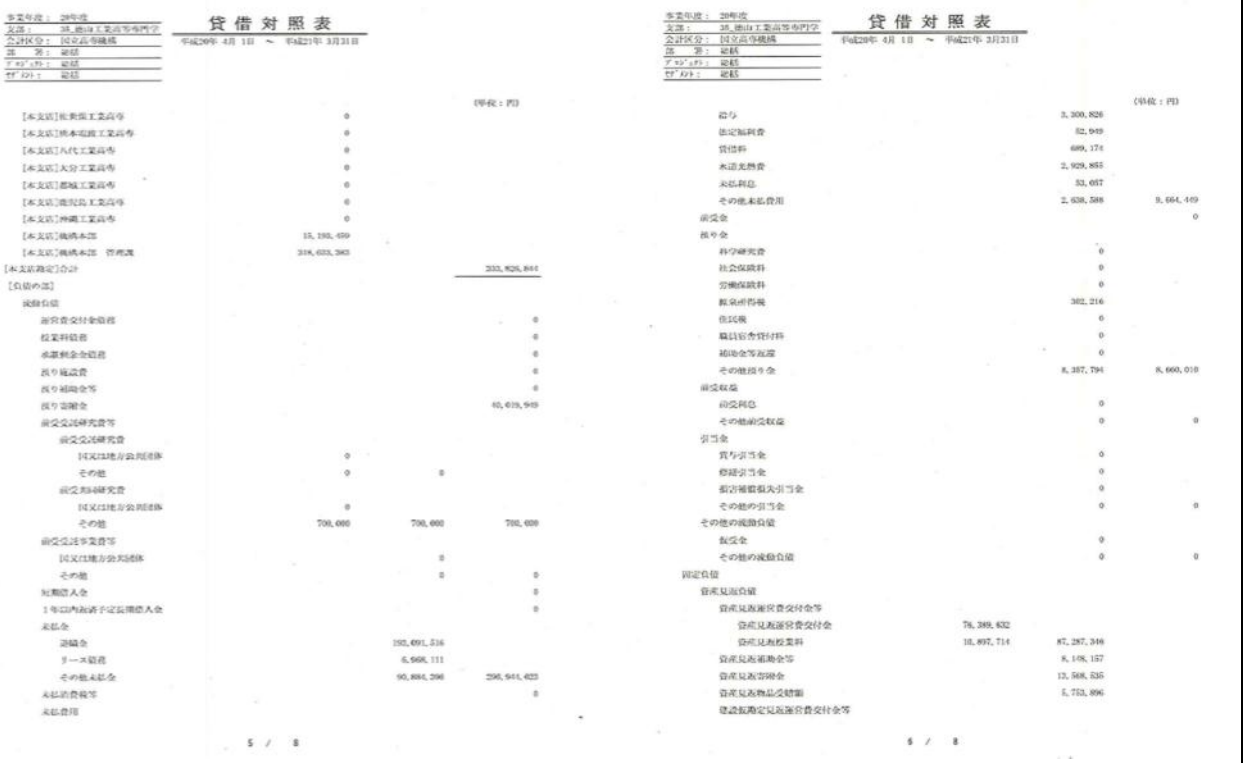
（単位：円）

[本支店]小山工業高専	0
[本支店]群馬工業高専	0
[本支店]木更津工業高専	0
[本支店]東京工業高専	0
[本支店]長岡工業高専	0
[本支店]富山工業高専	0
[本支店]富山商船高専	0
[本支店]石川工業高専	0
[本支店]福井工業高専	0
[本支店]長野工業高専	0
[本支店]岐阜工業高専	0
[本支店]沼津工業高専	0
[本支店]豊橋工業高専	0
[本支店]鳥羽商船高専	0
[本支店]鈴鹿工業高専	0
[本支店]舞鶴工業高専	0
[本支店]明石工業高専	0
[本支店]奈良工業高専	0
[本支店]和歌山工業高専	0
[本支店]米子工業高専	0
[本支店]都城工業高専	0
[本支店]津山工業高専	0
[本支店]広島商船高専	0
[本支店]呉工業高専	2
[本支店]徳山工業高専	0
[本支店]宇部工業高専	0
[本支店]大島商船高専	0
[本支店]阿南工業高専	0
[本支店]高松工業高専	0
[本支店]弓削商船高専	0
[本支店]新居浜工業高専	0
[本支店]弓削商船高専	0
[本支店]高知工業高専	0
[本支店]久留米工業高専	0
[本支店]有明工業高専	0
[本支店]北九州工業高専	0

4 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－７　平成２０年度貸借対照表３



貸 借 対 照 表

事業年度：20年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　門：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

[本支店]佐賀国工業高専	0		
[本支店]熊本電波工業高専	0		
[本支店]八代工業高専	0		
[本支店]大分工業高専	0		
[本支店]都城工業高専	0		
[本支店]鹿児島工業高専	0		
[本支店]沖縄工業高専	0		
[本支店]機構本部	15,193,459		
[本支店]機構本部　管理運	318,633,383		
[本支店勘定]合計			333,826,841
[負債の部]			
流動負債			
運営費交付金債務			0
授業料債務			0
入学料金債務			0
預り施設費			0
預り補助金等			0
預り寄附金			40,619,949
前受受託研究費等			
前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	700,000	700,000	700,000
前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
短期借入金			0
１年以内返済予定長期借入金			0
未払金			
運営費		192,691,316	
リース債務		6,968,111	
その他未払金		90,884,296	290,543,723
未払消費税等			0
未払費用			

貸 借 対 照 表

事業年度：20年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　門：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

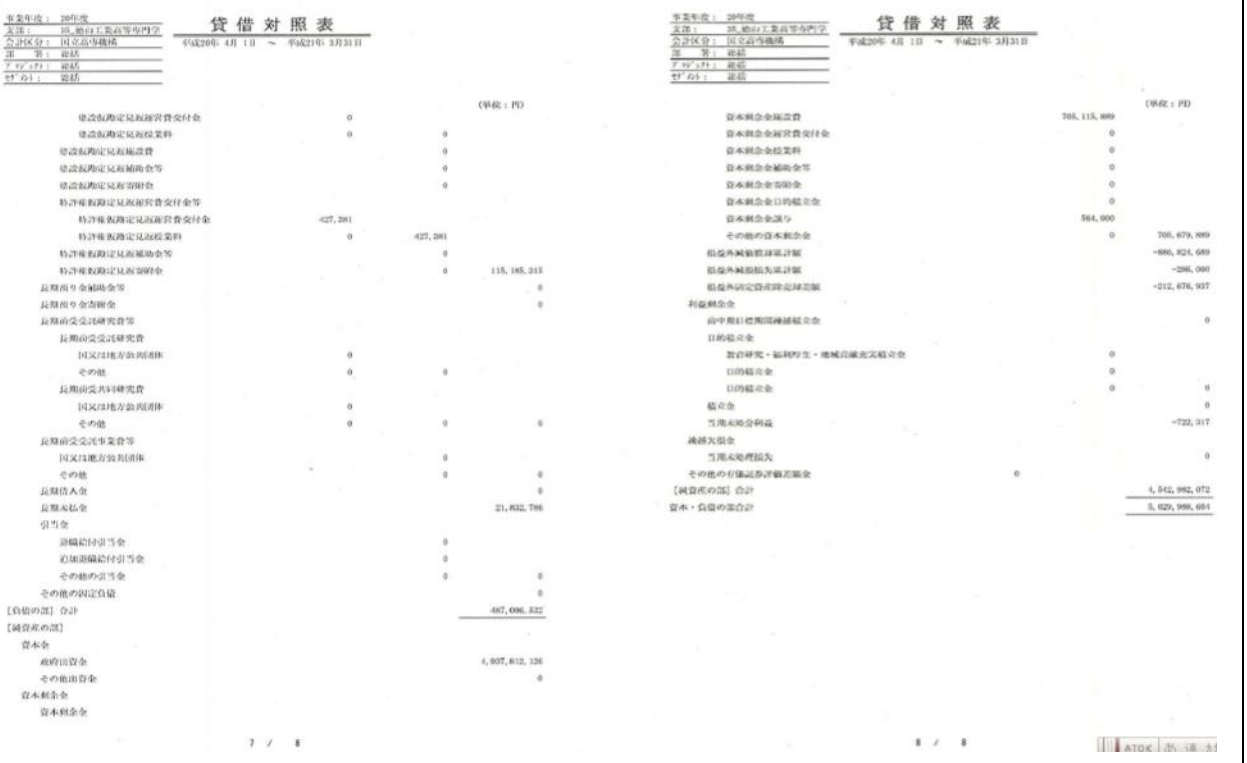
平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

給与		3,300,826	
法定福利費		82,949	
賃借料		689,174	
水道光熱費		2,929,855	
支払利息		53,057	
その他未払費用		2,638,588	9,694,449
前受金			0
預り金			
科学研究費		0	
社会保険料		0	
労働保険料		0	
源泉所得税		302,216	
住民税		0	
職員宿舎貸付料		0	
補助金等返還		0	
その他預り金		8,357,794	8,660,010
前受収益			
前受利息		0	
その他前受収益		0	0
引当金			
賞与引当金		0	
修繕引当金		0	
損害補償損失引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の流動負債			
仮受金		0	
その他の流動負債		0	0
固定負債			
資産見返負債			
資産見返運営費交付金等			
資産見返運営費交付金	76,389,632		
資産見返授業料	10,897,714	87,287,346	
資産見返補助金等		8,148,157	
資産見返寄附金		13,568,535	
資産見返物品受贈額		5,753,496	
建設仮勘定見返運営費交付金等			

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－８　平成２０年度貸借対照表４



貸 借 対 照 表

事業年度：20年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　門：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

建設仮勘定見返運営費交付金	0		
建設仮勘定見返授業料	0	0	
建設仮勘定見返施設費		0	
建設仮勘定見返補助金等		0	
建設仮勘定見返寄附金		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等			
特許権仮勘定見返運営費交付金	427,281		
特許権仮勘定見返授業料	0	427,281	
特許権仮勘定見返補助金等		0	
特許権仮勘定見返寄附金		0	115,185,313
長期預り金補助金等			0
長期預り金寄附金			0
長期前受受託研究費等			
長期前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
長期前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
長期前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
長期借入金			0
長期未払金			21,832,786
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0
[負債の部] 合計			467,086,332
[純資産の部]			
資本金			
政府出資金			4,907,812,126
その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金			

貸 借 対 照 表

事業年度：20年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　門：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

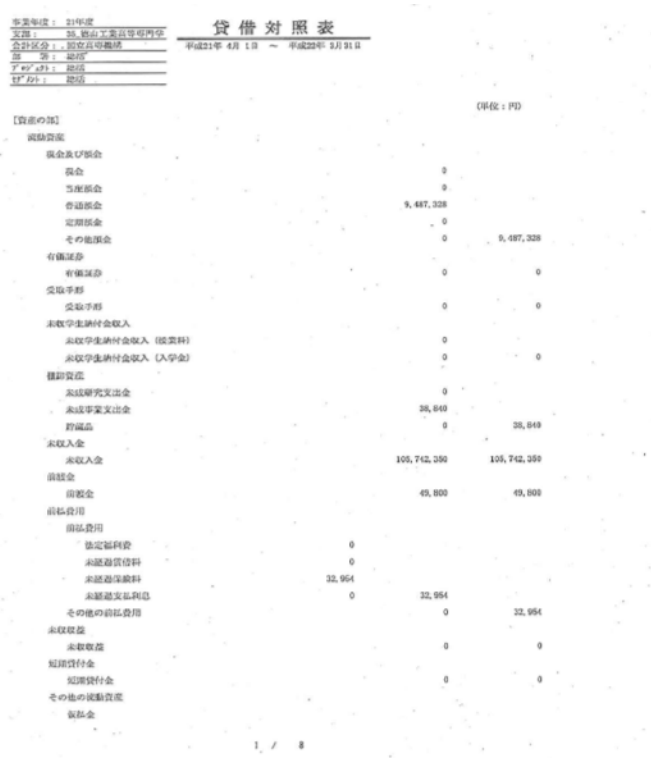
平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

資本剰余金施設費		705,115,889	
資本剰余金運営費交付金		0	
資本剰余金授業料		0	
資本剰余金補助金等		0	
資本剰余金寄附金		0	
資本剰余金目的積立金		0	
資本剰余金譲与		564,000	
その他の資本剰余金		0	705,679,889
損益外減価償却累計額			-886,824,689
損益外減損損失累計額			-286,000
損益外固定資産除却損累積額			-212,476,937
利益剰余金			
前中期目標期間繰越積立金			0
目的積立金			
教育研究・福利厚生・地域貢献充当積立金		0	
目的積立金		0	
目的積立金		0	0
積立金			0
当期未処分利益			-722,317
繰越欠損金			
当期未処理損失			0
その他の有価証券評価差額金	0		
[純資産の部] 合計			4,542,992,072
資本・負債の部合計			5,029,988,404

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－９　平成２１年度貸借対照表１



貸借対照表

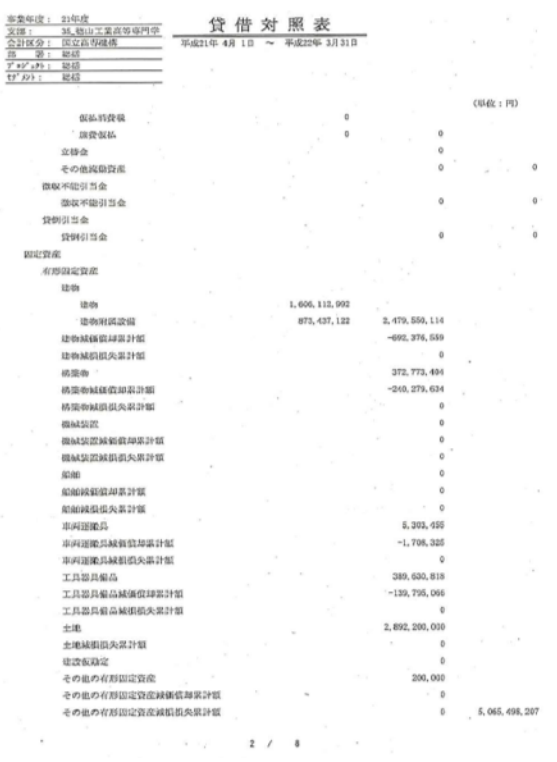
事業年度：21年度
支出：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

(単位：円)

[資産の部]		
流動資産		
現金及び預金		
現金	0	
当座預金	0	
普通預金	9,487,328	
定期預金	0	
その他預金	0	9,487,328
有価証券		
有価証券	0	0
受取手形		
受取手形	0	0
未収学生納付金収入		
未収学生納付金収入（授業料）	0	
未収学生納付金収入（入学金）	0	0
棚卸資産		
未成研究支出金	0	
未成事業支出金	38,849	
貯蔵品	0	38,849
未収入金		
未収入金	105,742,359	105,742,359
前渡金		
前渡金	49,800	49,800
前払費用		
前払費用		
借定福利費	0	
未経過賃借料	0	
未経過保険料	32,954	
未経過支払利息	0	32,954
その他の前払費用	0	32,954
未収収益		
未収収益	0	0
短期貸付金		
短期貸付金	0	0
その他の流動資産		
仮払金		

1 / 8



貸借対照表

事業年度：21年度
支出：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

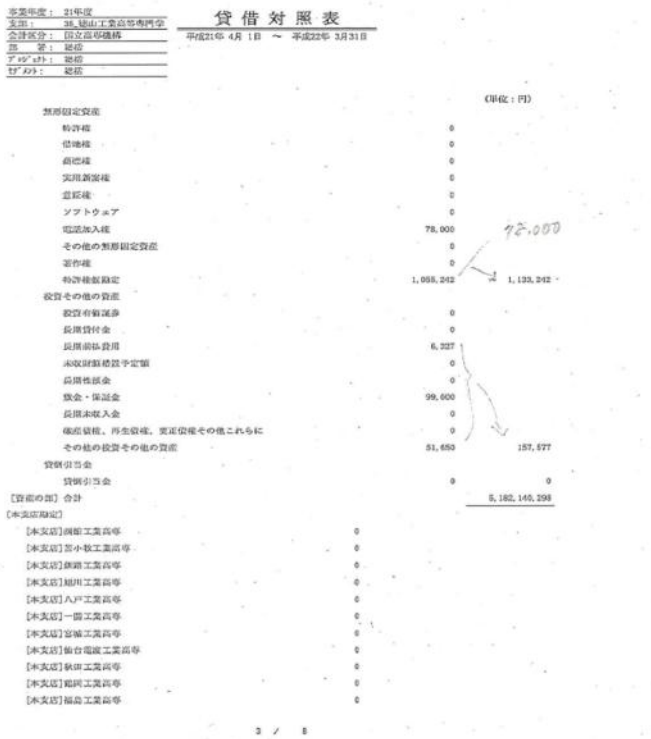
(単位：円)

仮払消費税	0	
前渡仮払	0	0
立替金		0
その他流動資産		0
徴収不能引当金		
徴収不能引当金		0
貸倒引当金		
貸倒引当金		0
固定資産		
有形固定資産		
建物		
建物	1,606,112,992	
建物附属設備	873,437,122	2,479,550,114
建物減価償却累計額		-692,376,559
建物減損損失累計額		0
構築物		372,773,494
構築物減価償却累計額		-240,279,634
構築物減損損失累計額		0
機械装置		0
機械装置減価償却累計額		0
機械装置減損損失累計額		0
船舶		0
船舶減価償却累計額		0
船舶減損損失累計額		0
車両運搬具		5,303,495
車両運搬具減価償却累計額		-1,706,325
車両運搬具減損損失累計額		0
工具器具備品		389,630,818
工具器具備品減価償却累計額		-139,795,066
工具器具備品減損損失累計額		0
土地		2,892,200,000
土地減損損失累計額		0
建設仮勘定		0
その他の有形固定資産		200,000
その他の有形固定資産減価償却累計額		0
その他の有形固定資産減損損失累計額		0 5,065,498,207

2 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１０　平成２１年度貸借対象表２



貸借対照表

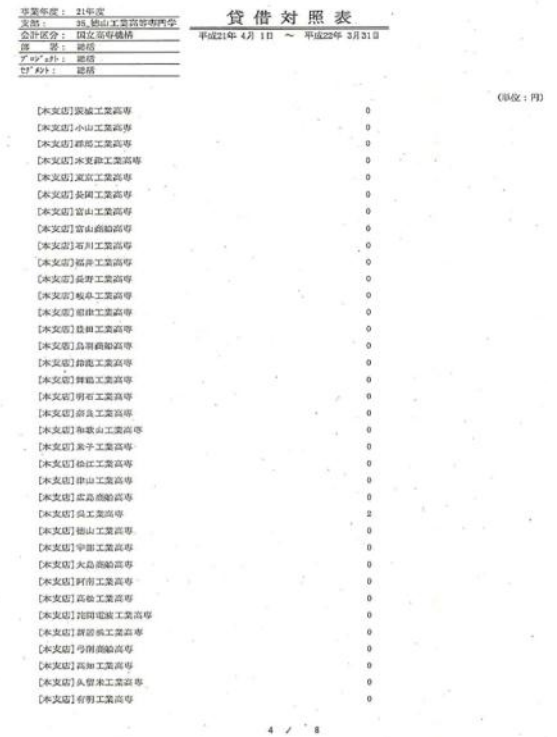
事業年度：21年度
支出：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

(単位：円)

無形固定資産		
特許権	0	
借地権	0	
商標権	0	
実用新案権	0	
意匠権	0	
ソフトウェア	0	
電話加入権	78,000	72,000
その他の無形固定資産	0	
著作権	0	
特許権仮勘定	1,055,242	1,133,242
投資その他の資産		
投資有価証券	0	
長期貸付金	0	
長期前払費用	6,327	
未収財源措置予定額	0	
長期性預金	0	
敷金・保証金	99,600	
長期未収入金	0	
徴収債権、再生債権、更正債権その他これらに	0	
その他の投資その他の資産	51,650	157,577
貸倒引当金		
貸倒引当金	0	0
[資産の部] 合計		5,182,140,298
[本支店勘定]		
[本支店]函館工業高専	0	
[本支店]苫小牧工業高専	0	
[本支店]釧路工業高専	0	
[本支店]旭川工業高専	0	
[本支店]八戸工業高専	0	
[本支店]一関工業高専	0	
[本支店]宮城工業高専	0	
[本支店]仙台電波工業高専	0	
[本支店]秋田工業高専	0	
[本支店]鶴岡工業高専	0	
[本支店]福島工業高専	0	

3 / 8



貸借対照表

事業年度：21年度
支出：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ｱﾄﾞｵﾌﾟｼｮﾝ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

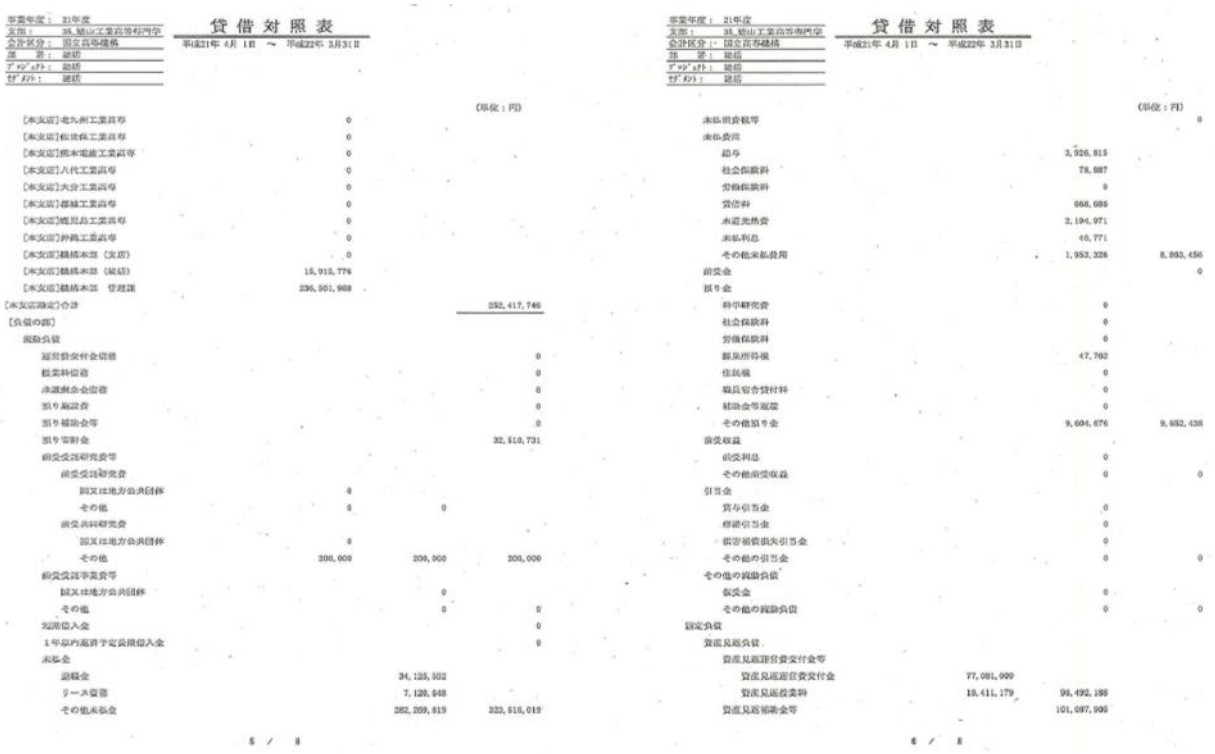
(単位：円)

[本支店]茨城工業高専	0
[本支店]小山工業高専	0
[本支店]群馬工業高専	0
[本支店]木更津工業高専	0
[本支店]東京工業高専	0
[本支店]長岡工業高専	0
[本支店]富山工業高専	0
[本支店]富山商船高専	0
[本支店]石川工業高専	0
[本支店]福井工業高専	0
[本支店]長野工業高専	0
[本支店]岐阜工業高専	0
[本支店]沼津工業高専	0
[本支店]豊田工業高専	0
[本支店]鳥羽商船高専	0
[本支店]鈴鹿工業高専	0
[本支店]舞鶴工業高専	0
[本支店]明石工業高専	0
[本支店]奈良工業高専	0
[本支店]和歌山工業高専	0
[本支店]米子工業高専	0
[本支店]松江工業高専	0
[本支店]津山工業高専	0
[本支店]広島商船高専	0
[本支店]呉工業高専	2
[本支店]徳山工業高専	0
[本支店]宇部工業高専	0
[本支店]大島商船高専	0
[本支店]阿南工業高専	0
[本支店]高松工業高専	0
[本支店]指宿電波工業高専	0
[本支店]都城工業高専	0
[本支店]弓削商船高専	0
[本支店]高知工業高専	0
[本支店]久留米工業高専	0
[本支店]有明工業高専	0

4 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１１　平成２１年度貸借対照表３



貸 借 対 照 表

事業年度：21年度
支部：35.独立高専機構
会計区分：国立高専機構
施　設：連結
ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ：連結
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：連結

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

[本支店]北九州工業高専	0		
[本支店]松江工業高専	0		
[本支店]熊本電波工業高専	0		
[本支店]八代工業高専	0		
[本支店]大分工業高専	0		
[本支店]都城工業高専	0		
[本支店]鹿児島工業高専	0		
[本支店]仲務工業高専	0		
[本支店]機構本部（支店）	0		
[本支店]機構本部（連結）	15,915,776		
[本支店]機構本部　管理課	236,501,969		
[本支店間勘定]合計			252,417,746
[負債の部]			
流動負債			
運営費交付金債務			0
職業科借者			0
承認債務会借者			0
預り施設費			0
預り補助金等			0
預り寄附金			32,510,731
前受受託研究金等			
前受受託研究金			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
前受共同研究金			
国又は地方公共団体	0		
その他	200,000	200,000	200,000
前受受託事業金等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
短期借入金			0
1年以内返済予定長期借入金			0
未払金			
設備金		34,125,502	
リース債務		7,128,648	
その他未払金		282,209,819	323,515,019

5 / 8

貸 借 対 照 表

事業年度：21年度
支部：35.独立高専機構
会計区分：国立高専機構
施　設：連結
ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ：連結
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：連結

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

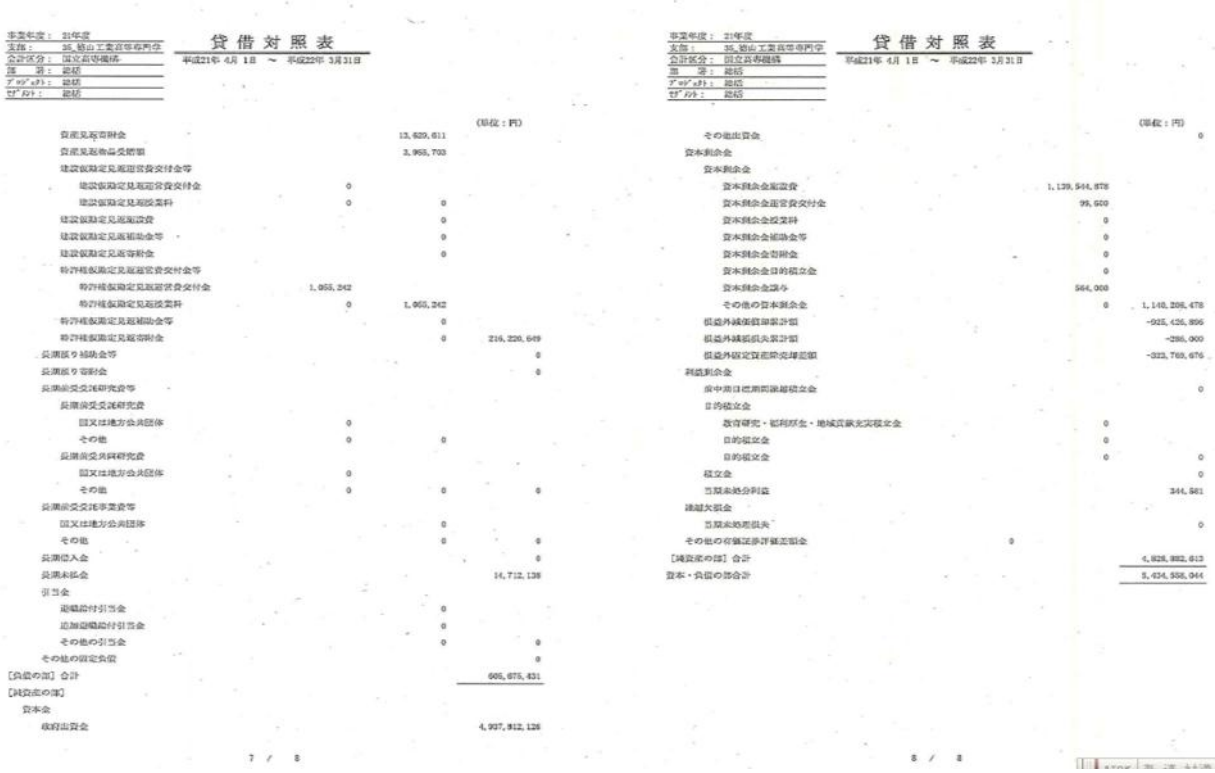
（単位：円）

未払消費税等			0
未払費用			
給与		3,926,813	
社会保険料		78,887	
労働保険料		0	
賃借料		668,686	
水道光熱費		3,194,971	
未払利息		40,771	
その他未払費用		1,953,326	8,863,456
前受金			0
預り金			
科学研究費		0	
社会保険料		0	
労働保険料		0	
源泉所得税		47,702	
住民税		0	
職員宿舎貸付料		0	
補助金等返還		0	
その他預り金		9,604,676	9,652,438
前受収益			
前受利息		0	
その他前受収益		0	0
引当金			
賞与引当金		0	
修繕引当金		0	
損害賠償損失引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の流動負債			
仮受金		0	
その他の流動負債		0	0
固定負債			
資産見返負債			
資産見返運営費交付金等			
資産見返運営費交付金	77,091,999		
資産見返投資科	13,411,179	90,492,188	
資産見返補助金等		101,097,906	

6 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１２　平成２１年度貸借対照表４



貸 借 対 照 表

事業年度：21年度
支部：35.独立高専機構
会計区分：国立高専機構
施　設：連結
ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ：連結
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：連結

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

資産見返寄附金		13,629,611	
資産見返物品受贈額		3,968,703	
建設仮勘定見返運営費交付金等			
建設仮勘定見返運営費交付金	0		
建設仮勘定見返投資科	0	0	
建設仮勘定見返施設費		0	
建設仮勘定見返補助金等		0	
建設仮勘定見返寄附金		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等			
特許権仮勘定見返運営費交付金	1,065,242		
特許権仮勘定見返投資科	0	1,065,242	
特許権仮勘定見返補助金等		0	
特許権仮勘定見返寄附金		0	216,220,649
長期預り補助金等			0
長期預り寄附金			0
長期前受受託研究金等			
長期前受受託研究金			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
長期前受共同研究金			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
長期前受受託事業金等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
長期借入金			0
長期未払金			14,712,138
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0
[負債の部] 合計			605,875,431
[純資産の部]			
資本金			
政府出資金			4,937,812,126

7 / 8

貸 借 対 照 表

事業年度：21年度
支部：35.独立高専機構
会計区分：国立高専機構
施　設：連結
ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ：連結
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：連結

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

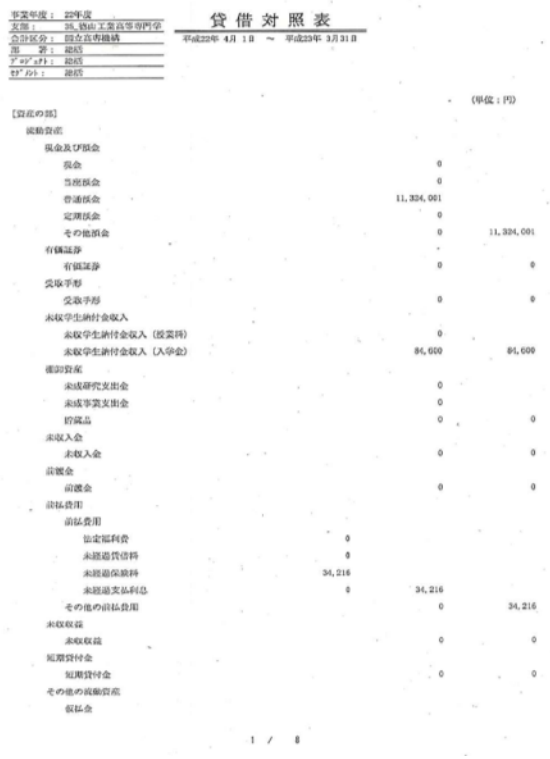
（単位：円）

その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金			
資本剰余金運営費		1,139,544,878	
資本剰余金運営費交付金		95,600	
資本剰余金投資科		0	
資本剰余金補助金等		0	
資本剰余金寄附金		0	
資本剰余金目的積立金		0	
資本剰余金譲与		564,000	
その他の資本剰余金		0	1,140,203,478
損益外減価償却累計額			-925,426,806
損益外減損損失累計額			-286,000
損益外固定資産除売却益額			-322,769,676
利益剰余金			
前中期目標期間繰越積立金			0
目的積立金			
教育研究・都市防生・地域貢献充実積立金		0	
目的積立金		0	
目的積立金		0	0
積立金			0
当期未処分利益			344,561
繰越欠損金			
当期未処理損失			0
その他の有価証券評価差額金	0		
[純資産の部] 合計			4,828,982,813
資本・負債の部合計			5,434,858,244

8 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１３　平成２２年度貸借対照表１



貸借対照表

事業年度：22年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

【資産の部】		
流動資産		
現金及び預金		
現金	0	
当座預金	0	
普通預金	11,324,001	
定期預金	0	
その他預金	0	11,324,001
有価証券		
有価証券	0	0
受取手形		
受取手形	0	0
未収学生納付金収入		
未収学生納付金収入（授業料）	0	
未収学生納付金収入（入学金）	84,600	84,600
棚卸資産		
未成研究支出金	0	
未成事業支出金	0	
貯蔵品	0	0
未収入金		
未収入金	0	0
前渡金		
前渡金	0	0
前払費用		
前払費用		
法定福利費	0	
未経過賃借料	0	
未経過保険料	34,216	
未経過支払利息	0	34,216
その他の前払費用	0	34,216
未収収益		
未収収益	0	0
短期貸付金		
短期貸付金	0	0
その他の流動資産		
仮払金		

1 / 8



貸借対照表

事業年度：22年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

仮払消費税	0	
旅費仮払	0	0
立替金		0
その他流動資産		0
徴収不能引当金		0
徴収不能引当金		0
貸倒引当金		0
貸倒引当金		0
固定資産		
有形固定資産		
建物		
建物	1,622,132,644	
建物附属設備	876,171,322	2,498,303,966
建物減価償却累計額		-778,421,925
建物減損損失累計額		0
構築物		374,764,494
構築物減価償却累計額		-249,041,535
構築物減損損失累計額		0
機械装置		0
機械装置減価償却累計額		0
機械装置減損損失累計額		0
船舶		0
船舶減価償却累計額		0
船舶減損損失累計額		0
車両運搬具		5,301,455
車両運搬具減価償却累計額		-2,522,138
車両運搬具減損損失累計額		0
工具器具備品		468,337,954
工具器具備品減価償却累計額		-205,296,795
工具器具備品減損損失累計額		0
土地		2,892,200,000
土地減損損失累計額		0
建設仮勘定		0
その他の有形固定資産		200,000
その他の有形固定資産減価償却累計額		0
その他の有形固定資産減損損失累計額		0 4,983,825,386

2 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１４　平成２２年度貸借対照表２



貸借対照表

事業年度：22年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

無形固定資産		
特許権	0	
借地権	0	
商標権	0	
実用新案権	0	
意匠権	0	
ソフトウェア	0	
電話加入権	78,000	
その他の無形固定資産	0	
著作権	0	
特許権仮勘定	1,644,931	1,722,931
投資その他の資産		
投資有価証券	0	
長期貸付金	0	
長期前払費用	19,110	
未収附属結債予定額	0	
長期性預金	0	
敷金・保証金	99,600	
長期未収入金	0	
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに	0	
その他の投資その他の資産	51,650	170,360
貸倒引当金		
貸倒引当金	0	0
【資産の部】合計		4,997,161,494
【本支店勘定】		
【本支店】機構本部（総括）	15,571,195	
【本支店】函館工業高専	0	
【本支店】苫小牧工業高専	0	
【本支店】釧路工業高専	0	
【本支店】旭川工業高専	0	
【本支店】八戸工業高専	0	
【本支店】一関工業高専	0	
【本支店】仙台高専	0	
【本支店】秋田工業高専	0	
【本支店】鶴岡工業高専	0	
【本支店】福島工業高専	0	

3 / 8



貸借対照表

事業年度：22年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

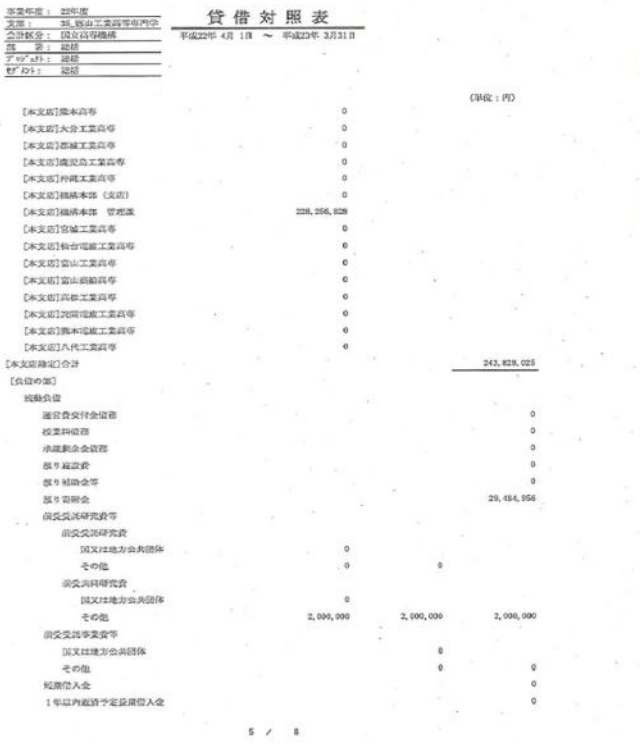
（単位：円）

【本支店】茨城工業高専	0
【本支店】小山工業高専	0
【本支店】群馬工業高専	0
【本支店】木更津工業高専	0
【本支店】東京工業高専	0
【本支店】長岡工業高専	0
【本支店】富山高専	0
【本支店】石川工業高専	0
【本支店】福井工業高専	0
【本支店】長野工業高専	0
【本支店】岐阜工業高専	0
【本支店】沼津工業高専	0
【本支店】豊田工業高専	0
【本支店】鳥羽商船高専	0
【本支店】鈴鹿工業高専	0
【本支店】舞鶴工業高専	0
【本支店】明石工業高専	0
【本支店】奈良工業高専	0
【本支店】和歌山工業高専	0
【本支店】米子工業高専	0
【本支店】松江工業高専	0
【本支店】津山工業高専	0
【本支店】広島商船高専	0
【本支店】呉工業高専	1
【本支店】徳山工業高専	0
【本支店】宇部工業高専	0
【本支店】大島商船高専	0
【本支店】阿南工業高専	0
【本支店】香川高専	0
【本支店】新居浜工業高専	0
【本支店】弓削商船高専	0
【本支店】高知工業高専	0
【本支店】久留米工業高専	0
【本支店】有明工業高専	0
【本支店】北九州工業高専	0
【本支店】佐世保工業高専	0

4 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１５　平成２２年度貸借対照表３



貸借対照表

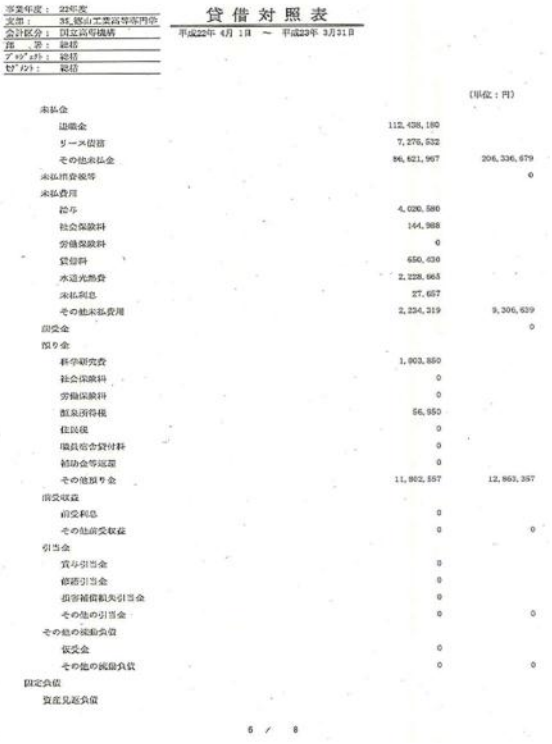
事業年度：22年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

[本支店]熊本高専	0		
[本支店]大会工業高専	0		
[本支店]都城工業高専	0		
[本支店]鹿児島工業高専	0		
[本支店]沖縄工業高専	0		
[本支店]機構本部（支店）	0		
[本支店]機構本部　管理業	228,256,828		
[本支店]宮城工業高専	0		
[本支店]仙台電波工業高専	0		
[本支店]富山工業高専	0		
[本支店]富山商船高専	0		
[本支店]高専工業高専	0		
[本支店]呉岡電波工業高専	0		
[本支店]熊木電波工業高専	0		
[本支店]八代工業高専	0		
[本支店独立]合計			243,828,025
[負債の部]			
流動負債			
運営費交付金債務			0
授業料債務			0
承継剰余金債務			0
預り寄附金			0
預り補助金等			0
預り奨励金			29,484,956
前受受託研究費等			
前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	2,000,000	2,000,000	2,000,000
前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
短期借入金			0
１年以内返済予定長期借入金			0

5 / 8



貸借対照表

事業年度：22年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

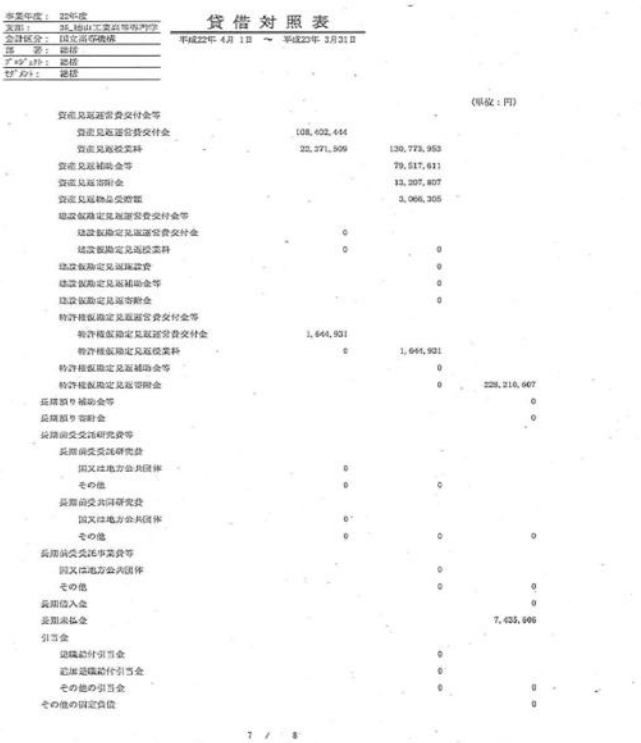
（単位：円）

未払金		
建設仮勘定	112,438,180	
リース債務	7,276,532	
その他未払金	86,621,967	206,336,679
未払消費税等		0
未払費用		
給与	4,020,580	
社会保険料	144,988	
労働保険料	0	
賃借料	650,036	
水道光熱費	2,228,665	
未払利息	27,657	
その他未払費用	2,234,319	9,306,639
前受金		0
預り金		
科学研究費	1,903,850	
社会保険料	0	
労働保険料	0	
個人所得税	56,950	
住民税	0	
職員宿舎貸付料	0	
補助金等返還	0	
その他預り金	11,902,557	12,863,357
前受収益		
前受利息	0	
その他前受収益	0	0
引当金		
賞与引当金	0	
修繕引当金	0	
損害補償相当引当金	0	
その他の引当金	0	0
その他の流動負債		
仮受金	0	
その他の流動負債	0	0
固定負債		
資産見返負債		

6 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１６　平成２２年度貸借対照表４



貸借対照表

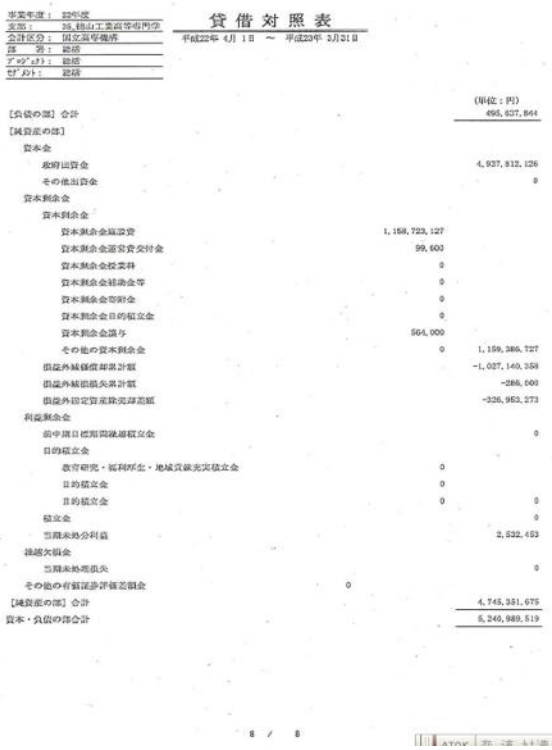
事業年度：22年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

資産見返運営費交付金等			
資産見返運営費交付金	108,402,444		
資産見返授業料	22,271,509	130,773,953	
資産見返補助金等		79,517,611	
資産見返寄附金		13,207,807	
資産見返物品受贈額		3,066,305	
建設仮勘定見返運営費交付金等			
建設仮勘定見返運営費交付金	0		
建設仮勘定見返授業料	0	0	
建設仮勘定見返施設費		0	
建設仮勘定見返補助金等		0	
建設仮勘定見返寄附金		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金等			
特許権仮勘定見返運営費交付金	1,644,931		
特許権仮勘定見返授業料	0	1,644,931	
特許権仮勘定見返補助金等		0	
特許権仮勘定見返寄附金		0	228,210,667
長期預り補助金等			0
長期預り寄附金			0
長期前受受託研究費等			
長期前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
長期前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
長期前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
長期借入金			0
長期未払金			7,435,966
引当金			
退職給付引当金		0	
退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
その他の固定負債			0

7 / 8



貸借対照表

事業年度：22年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：総括

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

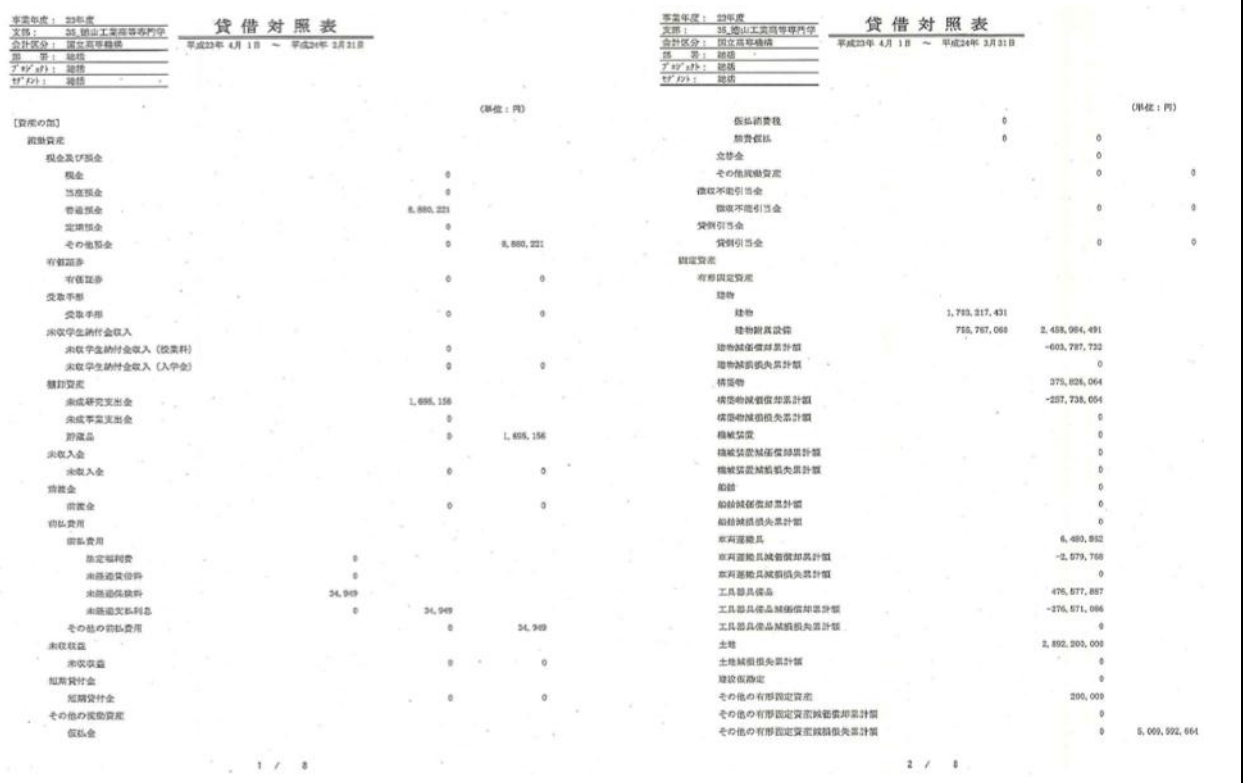
（単位：円）

[負債の部] 合計			495,637,844
[純資産の部]			
資本金			
政府出資金			4,937,812,126
その他出資金			0
資本剰余金			
資本剰余金			
資本剰余金施設費		1,158,723,127	
資本剰余金運営費交付金		99,600	
資本剰余金授業料		0	
資本剰余金補助金等		0	
資本剰余金寄附金		0	
資本剰余金目的積立金		0	
資本剰余金譲与		564,000	
その他の資本剰余金		0	1,159,386,727
偶発外損償却累計額			-1,027,140,358
偶発外損損失累計額			-286,000
偶発外固定資産除売却差額			-326,953,273
利益剰余金			
前中期目標期間繰越積立金			0
目的積立金			
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金		0	
目的積立金		0	
目的積立金		0	0
積立金			0
当期未処分利益			2,532,453
繰越欠損金			
当期未処理損失			0
その他の有価証券評価差額金	0		
[純資産の部] 合計			4,745,351,675
資本・負債の部合計			5,240,989,519

8 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１７　平成２３年度貸借対照表１

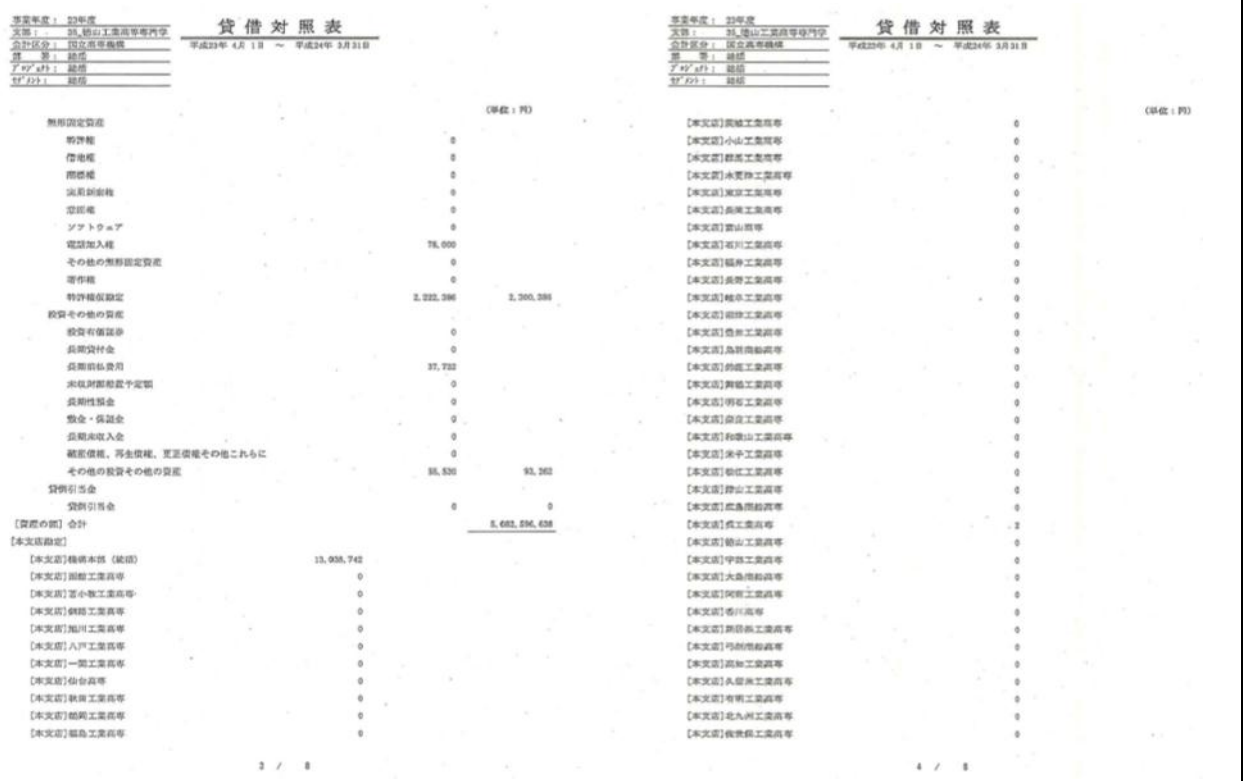


貸 借 対 照 表

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１８　平成２３年度貸借対照表２

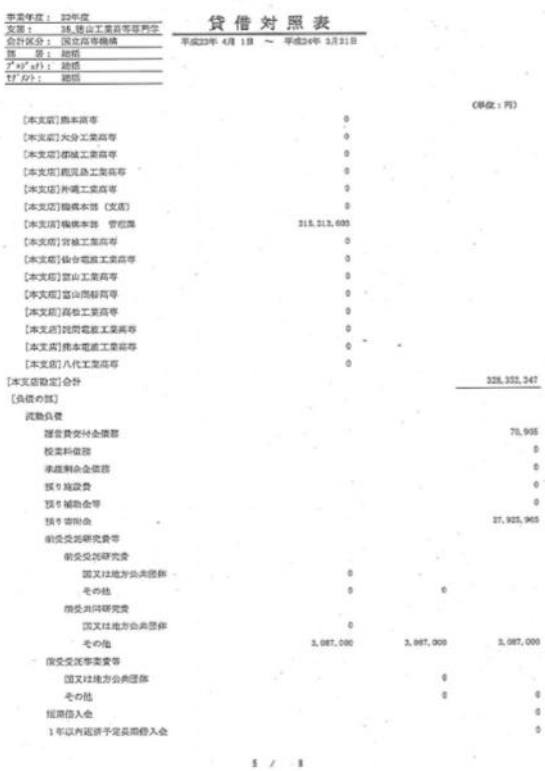


貸 借 対 照 表

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－１９　平成２３年度貸借対照表３



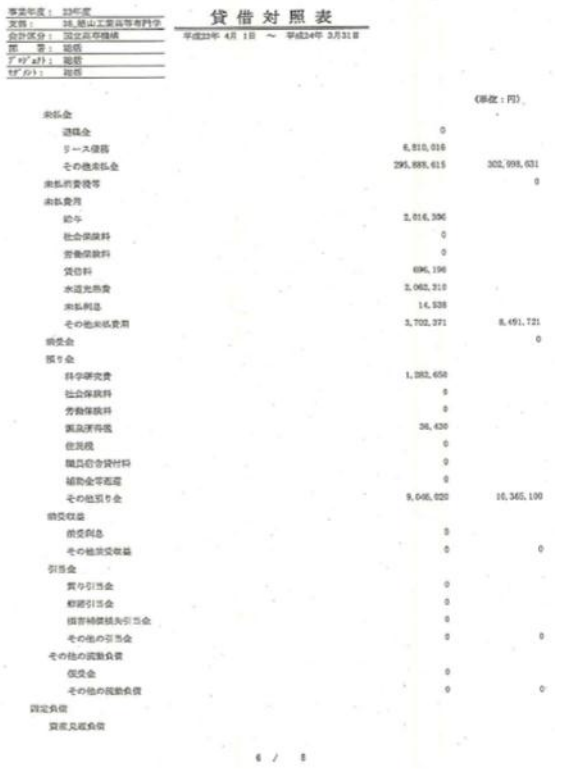
貸 借 対 照 表

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

（単位：円）

[本支店]熊本高専	0	
[本支店]大分工業高専	0	
[本支店]都城工業高専	0	
[本支店]鹿児島工業高専	0	
[本支店]弁護工業高専	0	
[本支店]機構本部（支店）	0	
[本支店]機構本部　管理職	315,313,600	
[本支店]宮崎工業高専	0	
[本支店]仙台電波工業高専	0	
[本支店]富山工業高専	0	
[本支店]富山商船高専	0	
[本支店]高松工業高専	0	
[本支店]苫岡電波工業高専	0	
[本支店]熊本電波工業高専	0	
[本支店]八代工業高専	0	
[本支店勘定]合計		328,333,347
[負債の部]		
流動負債		
運営費交付金債務		70,905
授業料債務		0
準備剰余金債務		0
預り施設費		0
預り補助金等		0
預り寄附金		27,925,965
前受受託研究費等		
前受受託研究費		
国又は地方公共団体	0	
その他	0	0
前受共同研究費		
国又は地方公共団体	0	
その他	3,087,000	3,087,000	3,087,000
前受受託事業費等		
国又は地方公共団体		0
その他		0	0
短期借入金		0
１年以内返済予定長期借入金		0

5 / 8



貸 借 対 照 表

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

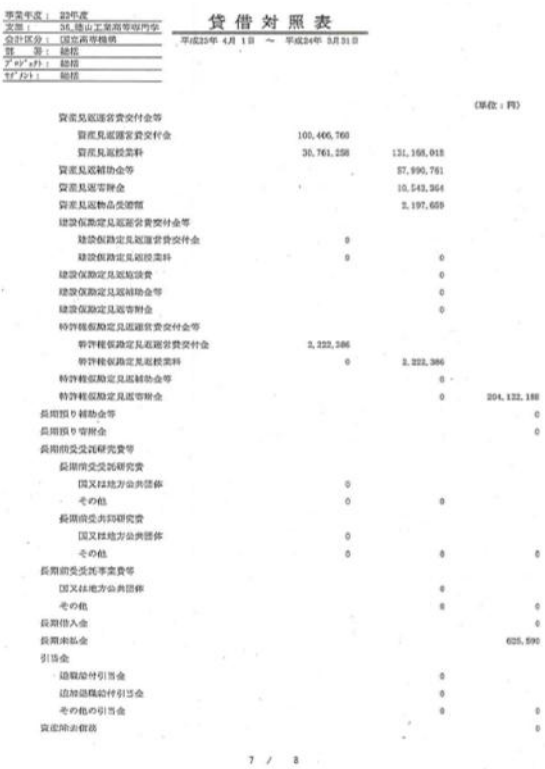
（単位：円）

未払金		
通勤費	0	
リース債務	6,810,016	
その他未払金	295,888,615	302,998,631
未払消費税等		0
未払費用		
給与	2,016,300	
社会保険料	0	
労働保険料	0	
賃借料	696,196	
水道光熱費	2,062,310	
未払利息	14,538	
その他未払費用	3,702,371	8,491,721
前受金		0
預り金		
科学研究費	1,382,658	
社会保険料	0	
労働保険料	0	
源泉所得税	36,430	
住民税	0	
職員宿舎貸付料	0	
補助金等返還	0	
その他預り金	9,046,020	10,365,100
前受収益		
前受利息	0	
その他前受収益	0	0
引当金		
賞与引当金	0	
都退引当金	0	
退職給付引当金	0	
その他の引当金	0	0
その他の流動負債		
仮受金	0	
その他の流動負債	0	0
固定負債		
資産見返負債		

6 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－２０　平成２３年度貸借対照表４



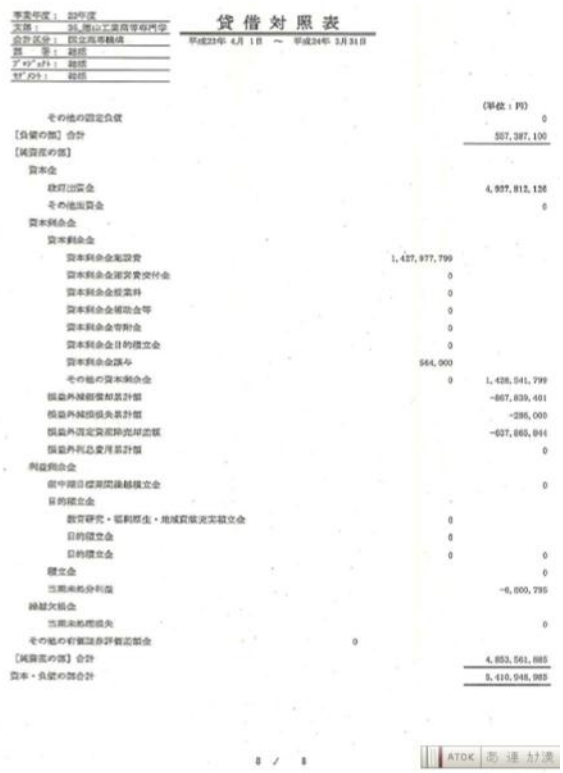
貸 借 対 照 表

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

（単位：円）

資産見返運営費交付金等		
資産見返運営費交付金	100,466,760	
資産見返授業料	30,761,258	131,168,018
資産見返補助金等		57,990,761
資産見返寄附金		10,543,964
資産見返物品受贈額		2,197,669
建設仮勘定見返運営費交付金等		
建設仮勘定見返運営費交付金	0	
建設仮勘定見返授業料	0	0
建設仮勘定見返施設費		0
建設仮勘定見返補助金等		0
建設仮勘定見返寄附金		0
特許権仮勘定見返運営費交付金等		
特許権仮勘定見返運営費交付金	3,222,386	
特許権仮勘定見返授業料	0	3,222,386
特許権仮勘定見返補助金等		0
特許権仮勘定見返寄附金		0	204,132,188
長期預り補助金等			0
長期預り寄附金			0
長期前受受託研究費等			
長期前受受託研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	
長期前受共同研究費			
国又は地方公共団体	0		
その他	0	0	0
長期前受受託事業費等			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
長期借入金			0
長期未払金			625,590
引当金			
退職給付引当金		0	
追加退職給付引当金		0	
その他の引当金		0	0
資産除去債務			0

7 / 8



貸 借 対 照 表

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

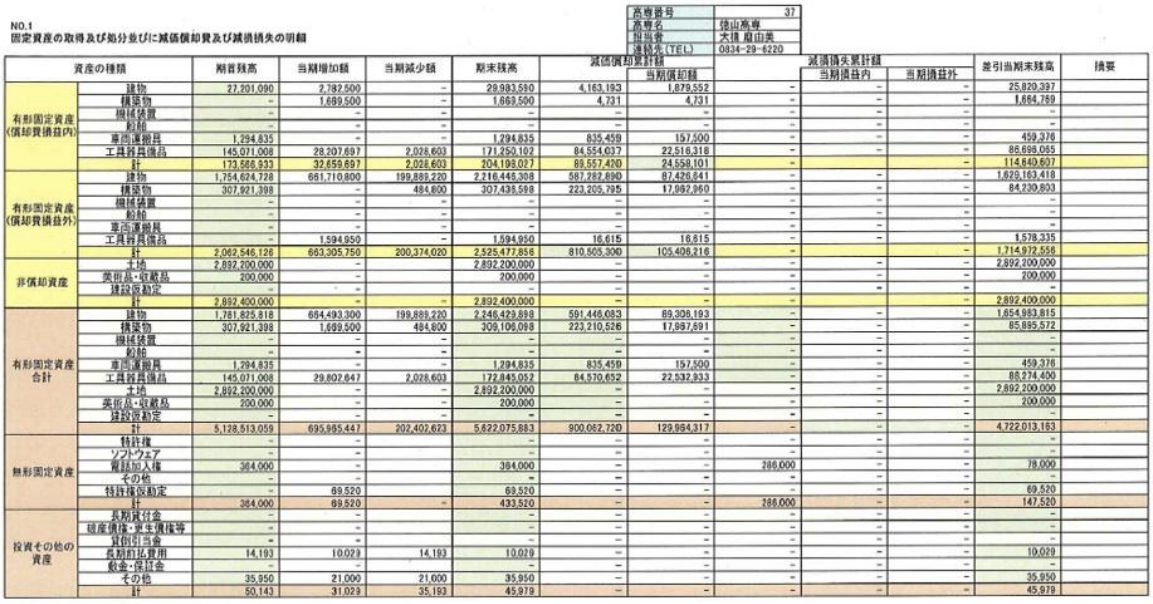
（単位：円）

その他の固定負債		0
[負債の部] 合計		507,387,100
[純資産の部]		
資本金		
政府出資金		4,937,813,136
その他出資金		0
資本剰余金		
資本剰余金		
資本剰余金施設費	1,437,977,799	
資本剰余金運営費交付金	0	
資本剰余金授業料	0	
資本剰余金補助金等	0	
資本剰余金寄附金	0	
資本剰余金目的積立金	0	
資本剰余金譲与	564,000	
その他の資本剰余金	0	1,438,541,799
損益外減価償却累計額		-867,839,401
損益外減損損失累計額		-286,000
損益外固定資産除却損累積額		-637,865,844
損益外利息費用累計額		0
利益剰余金		
前中期目標期間繰越積立金		0
目的積立金		
教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0	
目的積立金	0	
目的積立金	0	0
積立金		0
当期未処分利益		-6,000,795
繰越欠損金		
当期未処理損失		0
その他の有価証券評価差額金	0	
[純資産の部] 合計		4,853,561,885
資本・負債の部合計		5,410,948,985

8 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－１－①－２１　平成１９年度固定資産付属明細



NO.1
固定資産の取得及び処分並びに減価償却費及び減損損失の明細

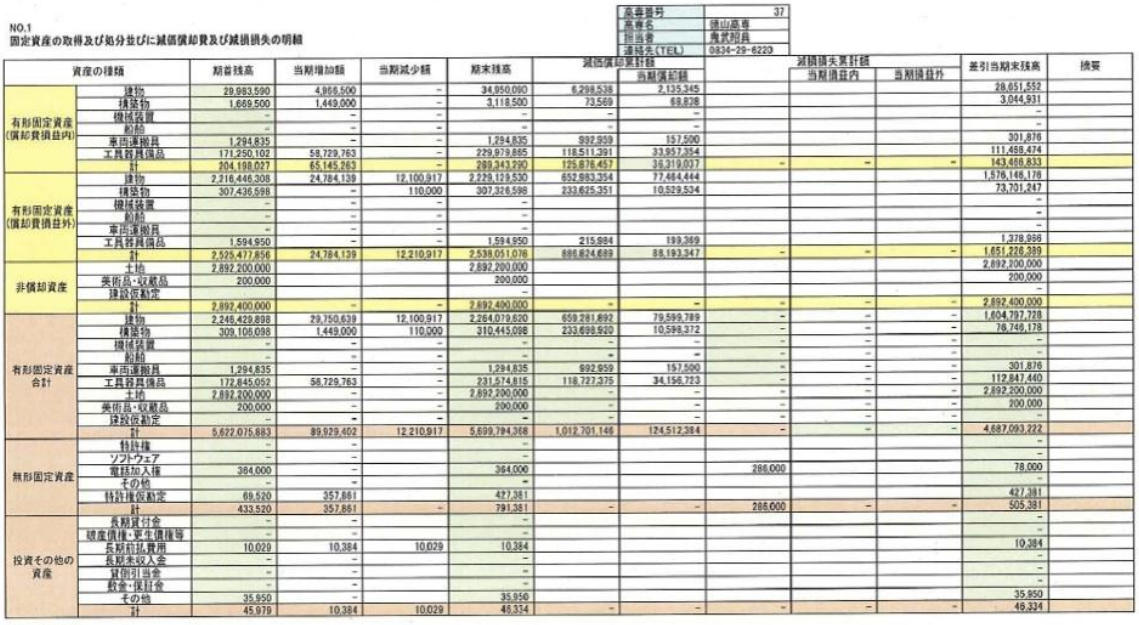
高専番号	37
高専名	徳山高専
担当者	大隈 慶山美
連絡先(TEL)	0834-29-6220

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	27,301,090	2,782,500	－	29,983,590	4,163,193	1,879,552	－	－	－	25,820,397	
	構築物	－	1,669,500	－	1,669,500	4,731	4,731	－	－	－	1,664,769	
	機械装置	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	船舶	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	車両運搬具	1,294,835	－	－	1,294,835	835,459	157,500	－	－	－	459,376	
	工具器具備品	145,071,008	28,207,697	2,028,603	171,250,102	84,554,037	22,516,318	－	－	－	86,696,065	
	計	173,566,933	32,659,697	2,028,603	204,198,027	89,557,420	24,558,101	－		－	114,640,607	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	1,754,624,728	661,710,800	199,889,220	2,216,446,308	587,282,890	87,426,841	－	－	－	1,629,163,418	
	構築物	307,921,398	－	484,800	307,436,598	223,205,795	17,992,960	－	－	－	84,230,803	
	機械装置	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	船舶	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	車両運搬具	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	工具器具備品	－	1,594,950	－	1,594,950	16,615	16,615	－	－	－	1,578,335	
	計	2,062,546,126	663,305,750	200,374,020	2,525,477,856	810,505,300	105,436,216	－		－	1,714,972,556	
非償却資産	土地	2,892,200,000	－	－	2,892,200,000	－	－	－	－	－	2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000	－	－	200,000	－	－	－	－	－	200,000	
	建設仮勘定	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	計	2,892,400,000	－	－	2,892,400,000	－	－	－		－	2,892,400,000	
有形固定資産合計	建物	1,781,825,818	664,493,300	199,889,220	2,246,429,898	591,446,083	89,306,193	－	－	－	1,654,983,815	
	構築物	307,921,398	1,669,500	484,800	309,106,098	223,210,526	17,997,691	－	－	－	85,895,572	
	機械装置	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	船舶	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	車両運搬具	1,294,835	－	－	1,294,835	835,459	157,500	－	－	－	459,376	
	工具器具備品	145,071,008	29,802,647	2,028,603	172,845,052	84,570,652	22,532,933	－	－	－	88,274,400	
	土地	2,892,200,000	－	－	2,892,200,000	－	－	－	－	－	2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000	－	－	200,000	－	－	－	－	－	200,000	
	建設仮勘定	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	計	5,128,513,059	695,965,447	202,402,623	5,622,075,883	900,062,720	129,994,317	－	－	－	4,722,013,163	
無形固定資産	特許権	－	－		－	－	－	－	－	－	－	
	ソフトウェア	－	－		－	－	－	－	－	－	－	
	電話加入権	384,000	－		384,000	－	－	286,000	－	－	78,000	
	その他	－	－		－	－	－	－	－	－	－	
	特許権仮勘定	－	69,520		69,520	－	－	－	－	－	69,520	
	計	384,000	69,520	－	433,520	－	－	286,000	－	－	147,520	
投資その他の資産	長期貸付金	－	－		－	－	－	－	－	－	－	
	破産債権・更生債権等	－	－		－	－	－	－	－	－	－	
	貸倒引当金	－	－		－	－	－	－	－	－	－	
	長期前払費用	14,193	10,029	14,193	10,029	－	－	－	－	－	10,029	
	敷金・保証金	－	－		－	－	－	－	－	－	－	
	その他	35,950	21,000	21,000	35,950	－	－	－	－	－	35,950	
	計	50,143	31,029	35,193	45,979	－	－	－	－	－	45,979	

<チェック項目>
(1)期首残高は、前期の期末残高と一致する。･･･本部同様
(2)期末残高、減価償却累計額、差引当期末残高はBSの各科目と一致する。･･･本部同様
(3)当期償却額(償却費損益内)はPLの減価償却費(受託研究費・受託事業費に計上したものも含む)、当期償却額(償却費損益外)は
No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減価償却累計額当期増加額と一致する。･･･本部同様
(4)減価償却累計額(償却費損益外)はBSの損益外減価償却累計額と一致する。･･･本部同様
(5)有形固定資産(償却費損益外)のうちの建物・構築物・船舶には、現物出資分・施設費購入分のみが記載される。
(6)有形固定資産(償却費損益外)のうちの車両運搬具・工具器具備品には、承継時の前納授業料・NTT借入金見合分及び施設費購入分が記載される。
(7)減損損失累計額(当期損益内)はPLの減損損失と一致する。･･･本部同様
(8)減損損失累計額(当期損益外)はBSの損益外減損損失累計額当期増加額と一致する。･･･本部同様

出典：総務課資料

資料１０－１－①－２２　平成２０年度固定資産付属明細



NO.1
固定資産の取得及び処分並びに減価償却費及び減損損失の明細

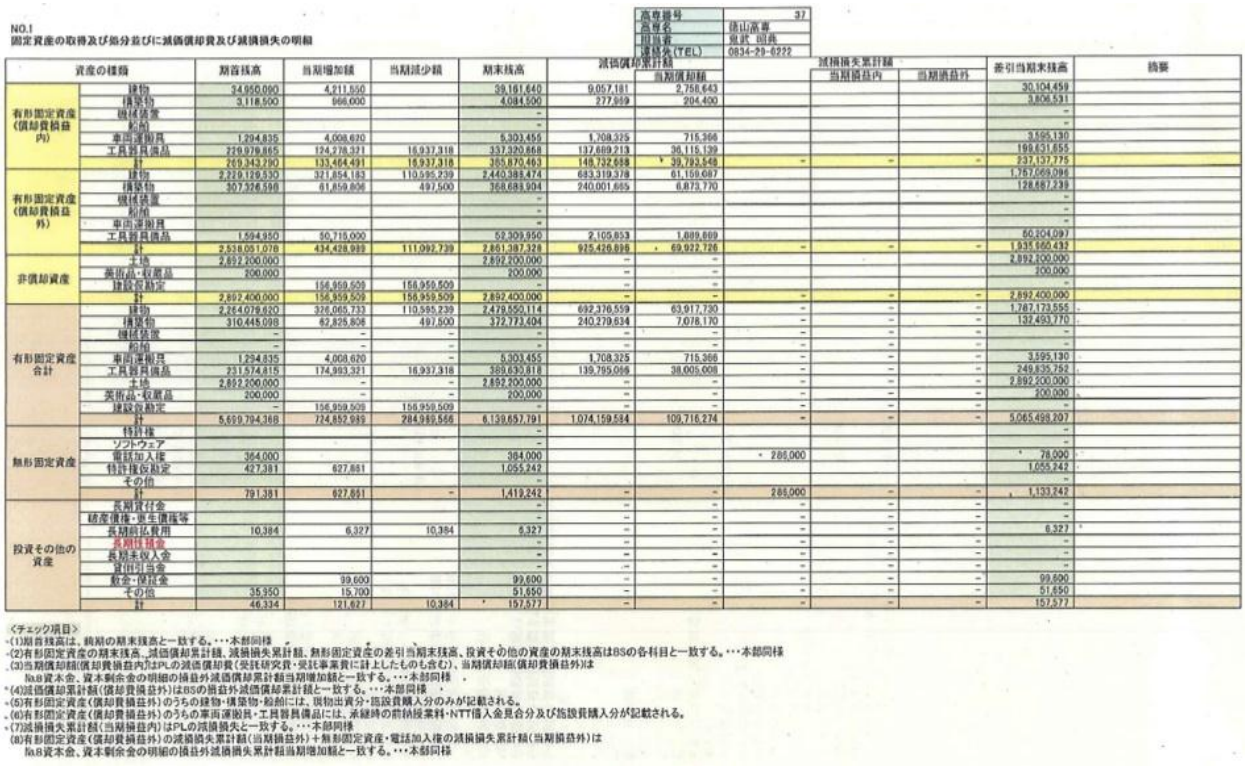
高専番号	37
高専名	徳山高専
担当者	鬼武照員
連絡先(TEL)	0834-29-6220

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	29,983,590	4,866,500	－	34,850,090	6,298,538	2,135,345				28,651,552	
	構築物	1,669,500	1,449,000	－	3,118,500	73,569	69,838				3,044,931	
	機械装置	－	－	－	－	－	－				－	
	船舶	－	－	－	－	－	－				－	
	車両運搬具	1,294,835	－	－	1,294,835	992,959	157,500				301,876	
	工具器具備品	171,250,102	58,729,763	－	229,979,865	118,511,391	33,957,354				111,468,474	
	計	204,198,027	65,145,263	－	269,343,290	125,876,457	36,319,037	－	－	－	143,466,833	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	2,216,446,308	24,784,139	12,100,917	2,229,129,530	652,983,354	77,464,444				1,576,146,176	
	構築物	307,436,598	－	110,000	307,326,598	233,625,351	10,529,534				73,701,247	
	機械装置	－	－	－	－						－	
	船舶	－	－	－	－						－	
	車両運搬具	－	－	－	－						－	
	工具器具備品	1,594,950	－	－	1,594,950	215,994	199,369				1,378,956	
	計	2,525,477,856	24,784,139	12,210,917	2,536,051,078	886,824,689	88,193,347	－	－	－	1,651,226,389	
非償却資産	土地	2,892,200,000			2,892,200,000						2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000			200,000						200,000	
	建設仮勘定	－			－						－	
	計	2,892,400,000		－	2,892,400,000	－	－	－	－	－	2,892,400,000	
有形固定資産合計	建物	2,246,429,898	29,750,639	12,100,917	2,264,079,620	659,281,892	79,599,789	－	－	－	1,604,797,728	
	構築物	309,106,098	1,449,000	110,000	310,445,098	233,698,920	10,599,372	－	－	－	76,746,178	
	機械装置	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	船舶	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	車両運搬具	1,294,835	－	－	1,294,835	992,959	157,500	－	－	－	301,876	
	工具器具備品	172,845,052	58,729,763	－	231,574,815	118,727,375	34,156,723	－	－	－	112,847,440	
	土地	2,892,200,000	－	－	2,892,200,000	－	－	－	－	－	2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000	－	－	200,000	－	－	－	－	－	200,000	
	建設仮勘定	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	計	5,622,075,883	89,929,402	12,210,917	5,699,794,368	1,012,701,146	124,512,384	－	－	－	4,687,093,222	
無形固定資産	特許権	－	－	－	－						－	
	ソフトウェア	－	－	－	－						－	
	電話加入権	384,000	－		384,000			286,000			78,000	
	その他	－	－		－						－	
	特許権仮勘定	69,520	357,861		427,381						427,381	
	計	433,520	357,861	－	791,381	－	－	286,000	－	－	505,381	
投資その他の資産	長期貸付金	－	－		－						－	
	破産債権・更生債権等	－	－		－						－	
	長期前払費用	10,029	10,384	10,029	10,384						10,384	
	長期未収入金	－	－		－						－	
	貸倒引当金	－	－		－						－	
	敷金・保証金	－	－		－						－	
	その他	35,950	－		35,950						35,950	
	計	45,979	10,384	10,029	46,334	－	－	－	－	－	46,334	

<チェック項目>
(1)期首残高は、前期の期末残高と一致する。･･･本部同様
(2)期末残高、減価償却累計額、差引当期末残高はBSの各科目と一致する。･･･本部同様
(3)当期償却額(償却費損益内)はPLの減価償却費(受託研究費・受託事業費に計上したものも含む)、当期償却額(償却費損益外)は
No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減価償却累計額当期増加額と一致する。･･･本部同様
(4)減価償却累計額(償却費損益外)はBSの損益外減価償却累計額と一致する。･･･本部同様
(5)有形固定資産(償却費損益外)のうちの建物・構築物・船舶には、現物出資分・施設費購入分のみが記載される。
(6)有形固定資産(償却費損益外)のうちの車両運搬具・工具器具備品には、承継時の前納授業料・NTT借入金見合分及び施設費購入分が記載される。
(7)減損損失累計額(当期損益内)はPLの減損損失と一致する。･･･本部同様
(8)減損損失累計額(当期損益外)はBSの損益外減損損失累計額当期増加額と一致する。･･･本部同様

出典：総務課資料

資料１０－１－①－２３　平成２１年度固定資産付属明細



NO.1
固定資産の取得及び処分並びに減価償却費及び減損損失の明細

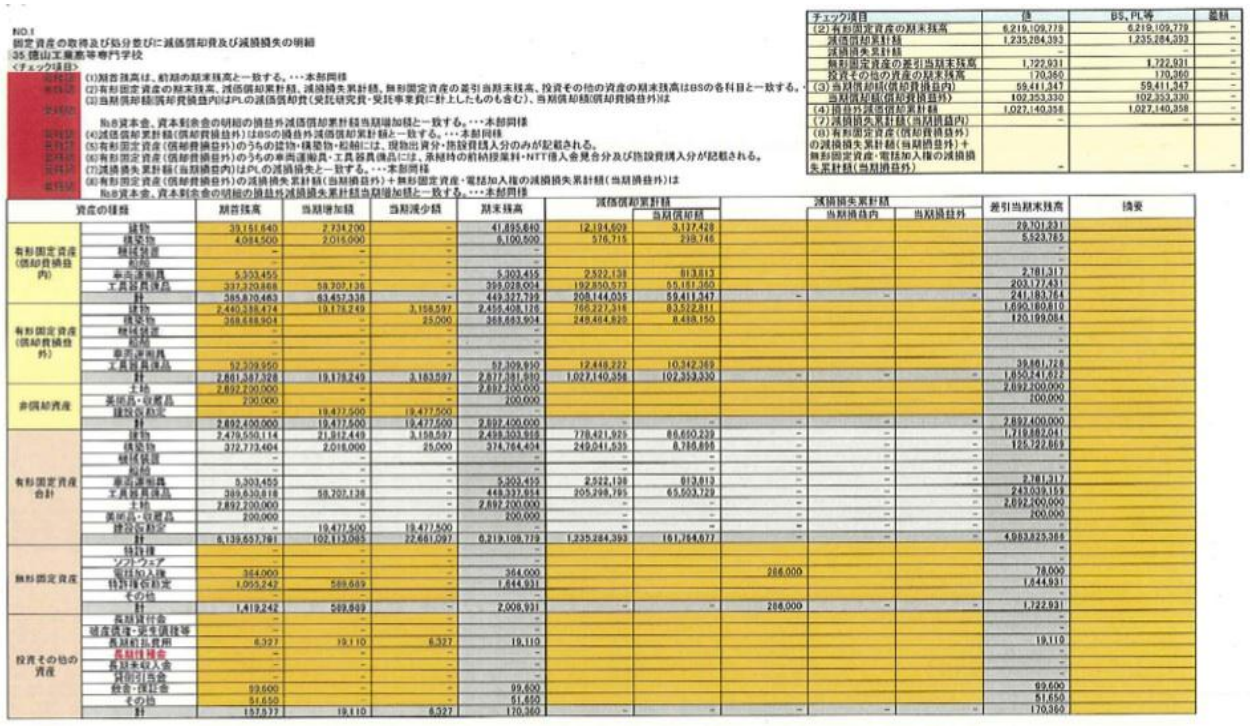
高専番号	37
高専名	徳山高専
担当者	東武 昭義
連絡先(TEL)	0834-29-6222

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額	当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	34,950,090	4,211,550		39,161,640	9,057,181	2,758,643			30,104,459	
	構築物	3,118,500	966,000		4,084,500	277,969	204,400			3,806,531	
	機械装置				-					-	
	船舶				-					-	
	車両運搬具	1,294,835	4,008,670		5,303,455	1,708,325	715,366			3,595,130	
	工具器具備品	229,979,865	124,278,321	16,937,318	337,320,868	137,669,213	38,115,139			199,651,655	
	計	269,343,290	133,464,491	16,937,318	385,870,463	148,732,688	39,793,548	-	-	237,137,775	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	2,229,129,330	321,854,183	110,595,239	2,440,388,474	683,319,378	61,159,087			1,757,069,096	
	構築物	307,526,598	61,859,806	497,500	368,889,904	240,001,665	6,873,770			128,887,239	
	機械装置				-					-	
	船舶				-					-	
	車両運搬具				-					-	
	工具器具備品	1,594,950	50,715,000		52,309,950	2,105,853	1,889,869			50,204,097	
	計	2,538,051,078	434,428,989	111,092,739	2,861,387,328	925,426,896	69,922,726	-	-	1,935,960,432	
非償却資産	土地	2,892,200,000			2,892,200,000	-	-			2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000			200,000	-	-			200,000	
	建設仮勘定		156,959,509	156,959,509	-	-	-			-	
	計	2,892,400,000	156,959,509	156,959,509	2,892,400,000	-	-	-	-	2,892,400,000	
有形固定資産合計	建物	2,264,079,420	326,065,733	110,595,239	2,479,550,114	692,376,559	63,917,730	-	-	1,787,173,555	
	構築物	310,645,098	62,825,806	497,500	372,773,404	240,279,634	7,078,170	-	-	132,493,770	
	機械装置	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	船舶	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	車両運搬具	1,294,835	4,008,670	-	5,303,455	1,708,325	715,366	-	-	3,595,130	
	工具器具備品	231,574,815	174,993,321	16,937,318	389,630,818	139,795,066	38,005,008	-	-	249,835,752	
	土地	2,892,200,000	-	-	2,892,200,000	-	-	-	-	2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000	-	-	200,000	-	-	-	-	200,000	
	建設仮勘定	-	156,959,509	156,959,509	-	-	-	-	-	-	
	計	5,659,794,368	724,852,989	284,989,566	6,139,657,791	1,074,159,584	109,716,274	-	-	5,065,499,207	
無形固定資産	特許権				-					-	
	ソフトウェア				-					-	
	電話加入権	364,000			364,000			286,000		78,000	
	特許権仮勘定	427,381	627,681		1,055,242					1,055,242	
	その他				-					-	
	計	791,381	627,681	-	1,419,242	-	-	286,000	-	1,133,242	
投資その他の資産	長期貸付金				-	-	-	-	-	-	
	破産債権・更生債権等				-	-	-	-	-	-	
	長期前払費用	10,384	6,327	10,384	6,327	-	-	-	-	6,327	
	長期性預金				-	-	-	-	-	-	
	長期未収入金				-	-	-	-	-	-	
	貸倒引当金				-	-	-	-	-	-	
	敷金・保証金		99,600		99,600	-	-	-	-	99,600	
	その他	35,350	15,700		51,650	-	-	-	-	51,650	
	計	46,334	121,627	10,384	157,577	-	-	-	-	157,577	

<チェック項目>
・(1)期首残高は、前期の期末残高と一致する。…本部同様
・(2)有形固定資産の期末残高、減価償却累計額、減損損失累計額、無形固定資産の差引当期末残高、投資その他の資産の期末残高はBSの各科目と一致する。…本部同様
・(3)当期償却額(償却費損益内)はPLの減価償却費(受託研究費・受託事業費に計上したものも含む)、当期償却額(償却費損益外)は
No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減価償却累計額当期増加額と一致する。…本部同様
・(4)減価償却累計額(償却費損益外)はBSの損益外減価償却累計額と一致する。…本部同様
・(5)有形固定資産(償却費損益外)のうちの建物・構築物・船舶には、現物出資分・施設費購入分のみが記載される。
・(6)有形固定資産(償却費損益外)のうちの車両運搬具・工具器具備品には、承継時の前納授業料・NTT債入金見合分及び施設費購入分が記載される。
・(7)減損損失累計額(当期損益内)はPLの減損損失と一致する。…本部同様
(8)有形固定資産(償却費損益外)の減損損失累計額(当期損益外)＋無形固定資産・電話加入権の減損損失累計額(当期損益外)は
No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減損損失累計額当期増加額と一致する。…本部同様

出典：総務課資料

資料１０－１－①－２４　平成２２年度固定資産付属明細



NO.1
固定資産の取得及び処分並びに減価償却費及び減損損失の明細
35:徳山工業高等専門学校

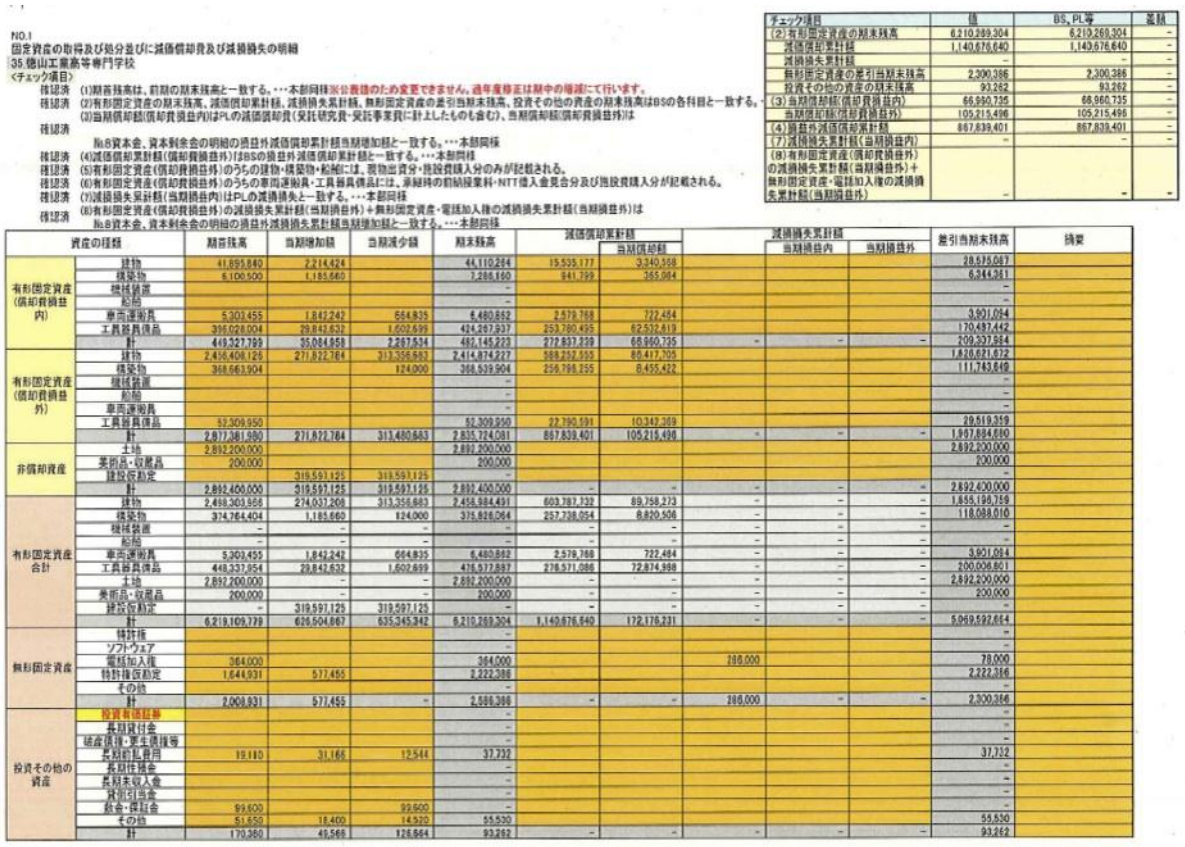
<チェック項目>
(1)期首残高は、前期の期末残高と一致する。…本部同様
(2)有形固定資産の期末残高、減価償却累計額、減損損失累計額、無形固定資産の差引当期末残高、投資その他の資産の期末残高はBSの各科目と一致する。…本部同様
(3)当期償却額(償却費損益内)はPLの減価償却費(受託研究費・受託事業費に計上したものも含む)、当期償却額(償却費損益外)は
No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減価償却累計額当期増加額と一致する。…本部同様
(4)減価償却累計額(償却費損益外)はBSの損益外減価償却累計額と一致する。…本部同様
(5)有形固定資産(償却費損益外)のうちの建物・構築物・船舶には、現物出資分・施設費購入分のみが記載される。
(6)有形固定資産(償却費損益外)のうちの車両運搬具・工具器具備品には、承継時の前納授業料・NTT債入金見合分及び施設費購入分が記載される。
(7)減損損失累計額(当期損益内)はPLの減損損失と一致する。…本部同様
(8)有形固定資産(償却費損益外)の減損損失累計額(当期損益外)＋無形固定資産・電話加入権の減損損失累計額(当期損益外)は
No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減損損失累計額当期増加額と一致する。…本部同様

チェック項目	値	BS、PL等	差額
(2)有形固定資産の期末残高	6,219,109,779	6,219,109,779	-
減価償却累計額	1,235,284,393	1,235,284,393	-
減損損失累計額	-	-	-
無形固定資産の差引当期末残高	1,722,931	1,722,931	-
投資その他の資産の期末残高	170,360	170,360	-
(3)当期償却額(償却費損益内)	59,411,347	59,411,347	-
当期償却額(償却費損益外)	102,353,330	102,353,330	-
(4)損益外減価償却累計額	1,027,140,358	1,027,140,358	-
(7)減損損失累計額(当期損益内)	-	-	-
(8)有形固定資産(償却費損益外)の減損損失累計額(当期損益外)＋無形固定資産・電話加入権の減損損失累計額(当期損益外)	-	-	-

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額	当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	39,161,640	2,734,200	-	41,895,840	12,134,609	3,137,428			29,761,231	
	構築物	4,084,500	2,016,000	-	6,100,500	576,715	298,746			5,523,785	
	機械装置	-	-	-	-					-	
	船舶	-	-	-	-					-	
	車両運搬具	5,303,455	-	-	5,303,455	2,522,138	813,813			2,781,317	
	工具器具備品	337,320,868	58,707,136	-	396,028,004	192,850,573	55,181,360			203,177,431	
	計	385,870,463	63,457,336	-	449,327,799	208,144,035	59,411,347	-	-	241,183,764	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	2,440,388,474	19,178,249	3,158,597	2,456,408,126	766,227,316	83,572,811			1,690,180,810	
	構築物	368,889,904	-	25,000	368,864,904	249,464,820	8,488,150			120,199,084	
	機械装置	-	-	-	-					-	
	船舶	-	-	-	-					-	
	車両運搬具	-	-	-	-					-	
	工具器具備品	52,309,950	-	-	52,309,950	12,448,222	10,342,360			39,861,728	
	計	2,861,387,328	19,178,249	3,183,597	2,877,581,980	1,027,140,358	102,353,330	-	-	1,850,241,622	
非償却資産	土地	2,892,200,000			2,892,200,000					2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000	-	-	200,000					200,000	
	建設仮勘定	-	19,477,500	19,477,500	-					-	
	計	2,892,400,000	19,477,500	19,477,500	2,892,400,000	-	-	-	-	2,892,400,000	
有形固定資産合計	建物	2,479,550,114	21,912,449	3,158,597	2,498,303,966	778,421,925	86,650,239			1,719,882,041	
	構築物	372,773,404	2,016,000	25,000	374,764,404	249,041,535	8,786,896			125,722,869	
	機械装置	-	-	-	-					-	
	船舶	-	-	-	-					-	
	車両運搬具	5,303,455	-	-	5,303,455	2,522,138	813,813			2,781,317	
	工具器具備品	389,630,818	58,707,136	-	448,337,954	205,298,795	65,523,720			243,039,159	
	土地	2,892,200,000	-	-	2,892,200,000	-	-			2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000	-	-	200,000	-	-			200,000	
	建設仮勘定	-	19,477,500	19,477,500	-	-	-			-	
	計	6,139,657,791	102,113,085	22,661,097	6,219,109,779	1,235,284,393	161,784,677	-	-	4,983,825,386	
無形固定資産	特許権	-	-	-	-					-	
	ソフトウェア	-	-	-	-					-	
	電話加入権	364,000	-	-	364,000			286,000		78,000	
	特許権仮勘定	1,055,242	589,689	-	1,644,931					1,644,931	
	その他	-	-	-	-					-	
	計	1,419,242	589,689	-	2,008,931	-	-	286,000	-	1,722,931	
投資その他の資産	長期貸付金	-	-	-	-					-	
	破産債権・更生債権等	-	-	-	-					-	
	長期前払費用	6,327	19,110	6,327	19,110					19,110	
	長期性預金	-	-	-	-					-	
	長期未収入金	-	-	-	-					-	
	貸倒引当金	-	-	-	-					-	
	敷金・保証金	99,600	-	-	99,600					99,600	
	その他	51,650	-	-	51,650					51,650	
	計	157,577	19,110	6,327	170,360	-	-	-	-	170,360	

出典：総務課資料

資料１０－１－①－２５　平成２３年度固定資産付属明細



NO.1
固定資産の取得及び処分並びに減価償却費及び減損損失の明細
35.徳山工業高等専門学校
<チェック項目>
確認済　(1)期首残高は、前期の期末残高と一致する。…本部同様※公表値のため変更できません。通年度修正は財中の増減にて行います。
確認済　(2)有形固定資産の期末残高、減価償却累計額、減損損失累計額、無形固定資産の差引当期末残高、投資その他の資産の期末残高はBSの各科目と一致する。
確認済　(3)当期償却額(償却費損益内)はPLの減価償却費(受託研究費・受託事業費に計上したものも含む)、当期償却額(償却費損益外)は
　　No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減価償却累計額当期増加額と一致する。…本部同様
確認済　(4)減価償却累計額(償却費損益外)はBSの損益外減価償却累計額と一致する。…本部同様
確認済　(5)有形固定資産(償却費損益外)のうちの建物・構築物・船舶には、現物出資分・施設費購入分のみが記載される。
確認済　(6)有形固定資産(償却費損益外)のうちの車両運搬具・工具器具備品には、承継時の前納授業料・NTT借入金見合分及び施設費購入分が記載される。
確認済　(7)減損損失累計額(当期損益内)はPLの減損損失と一致する。…本部同様
確認済　(8)有形固定資産(償却費損益外)の減損損失累計額(当期損益外)＋無形固定資産・電話加入権の減損損失累計額(当期損益外)は
　　No.8資本金、資本剰余金の明細の損益外減損損失累計額当期増加額と一致する。…本部同様

チェック項目	値	BS, PL等	差額
(2)有形固定資産の期末残高	6,210,269,304	6,210,269,304	-
減価償却累計額	1,140,676,640	1,140,676,640	-
減損損失累計額	-	-	-
無形固定資産の差引当期末残高	2,300,366	2,300,366	-
投資その他の資産の期末残高	93,262	93,262	-
(3)当期償却額(償却費損益内)	66,990,735	66,990,735	-
当期償却額(償却費損益外)	105,215,496	105,215,496	-
(4)損益外減価償却累計額	867,839,401	867,839,401	-
(7)減損損失累計額(当期損益内)	-	-	-
(8)有形固定資産(償却費損益外)の減損損失累計額(当期損益外)＋無形固定資産・電話加入権の減損損失累計額(当期損益外)	-	-	-

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額	当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	41,895,840	2,214,424		44,110,264	15,535,177	3,240,358			28,575,087	
	構築物	6,100,500	1,185,660		7,286,160	941,799	365,084			6,344,361	
	機械装置				-					-	
	船舶				-					-	
	車両運搬具	5,303,455	1,842,242	684,835	6,460,862	2,579,788	722,484			3,901,074	
	工具器具備品	396,028,004	29,842,632	1,602,699	424,267,937	253,780,495	62,532,619			170,487,442	
	計	449,327,799	35,084,958	2,287,534	482,145,223	272,837,259	66,860,735	-	-	209,307,964	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	2,416,408,125	271,872,764	313,356,683	2,414,874,227	588,252,555	88,417,705			1,826,621,672	
	構築物	368,663,904		124,000	368,539,904	256,798,255	8,455,422			111,743,649	
	機械装置				-					-	
	船舶				-					-	
	車両運搬具				-					-	
	工具器具備品	52,309,950			52,309,950	22,790,591	10,342,369			29,519,359	
	計	2,877,381,980	271,872,764	313,480,683	2,835,724,081	867,839,401	105,215,496	-	-	1,967,884,680	
非償却資産	土地	2,892,200,000			2,892,200,000					2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000			200,000					200,000	
	建設仮勘定		319,597,125	319,597,125	-					-	
	計	2,892,400,000	319,597,125	319,597,125	2,892,400,000	-	-	-	-	2,892,400,000	
有形固定資産合計	建物	2,498,303,868	274,087,208	313,356,683	2,458,984,491	603,787,732	89,758,273	-	-	1,855,196,759	
	構築物	374,764,404	1,185,660	124,000	375,826,064	257,738,054	8,820,506	-	-	118,088,010	
	機械装置	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	船舶	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	車両運搬具	5,303,455	1,842,242	684,835	6,460,862	2,579,788	722,484	-	-	3,901,074	
	工具器具備品	448,337,954	29,842,632	1,602,699	476,577,887	276,571,086	72,874,998	-	-	200,006,801	
	土地	2,892,200,000	-	-	2,892,200,000	-	-	-	-	2,892,200,000	
	美術品・収蔵品	200,000	-	-	200,000	-	-	-	-	200,000	
	建設仮勘定	-	319,597,125	319,597,125	-	-	-	-	-	-	
	計	6,219,109,779	626,504,867	635,345,342	6,210,269,304	1,140,676,640	172,176,231	-	-	5,069,592,664	
無形固定資産	特許権				-					-	
	ソフトウェア				-					-	
	電話加入権	364,000			364,000			286,000		78,000	
	特許権仮勘定	1,644,931	577,455		2,222,386					2,222,386	
	その他				-					-	
	計	2,008,931	577,455	-	2,586,386	-	-	286,000	-	-	2,300,366
投資その他の資産	投資有価証券				-					-	
	長期貸付金				-					-	
	破産債権・更生債権等				-					-	
	長期前払費用	19,110	31,166	12,544	37,732					37,732	
	長期性預金				-					-	
	長期未収入金				-					-	
	貸倒引当金				-					-	
	敷金・保証金	99,600		99,600	-					-	
	その他	51,550	18,400	14,520	55,530					55,530	
	計	170,260	49,566	126,664	93,262	-	-	-	-	93,262	

出典：総務課資料

（分析結果とその根拠理由）

平成１６年４月に国から現物出資を受けた資産について，時価評価を行い，独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第３１条第３項「固定資産は，その増減及び異動を帳簿によって物件別に管理するものとする。」に基づいて資産管理している。

また，財務会計管理については，貸借対照表，固定資産付属明細などの財務諸表類により財政状態および運営状況を明らかにしており，過大な債務はなく，健全な財政管理および運営となっている。

以上のことから，学校の目的を達成するために，教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤および資産を有しており，債務はない。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

学校の目的に沿った教育研究活動を適切かつ安定して遂行するための経常的収入については，高専機構から配分される運営費交付金が大きな割合を占めている。

その次に学生定数に基づく授業料収入等をはじめとする自己収入となっている。

また，教育研究活動を安定して遂行するために必要な校舎等の改築・改修経費については，本校からの予算要求に基づき高専機構から採択配分される。

（ａ）運営費交付金等関係（自己収入を含む）

予算・決算額（年度別）　（単位：千円）

平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
1,982,944	1,301,430	1,600,449	1,203,056	641,758

※平成２３年度からは，人件費を機構本部事務局に一括配分。

（ｂ）自己収入

授業料・入学料・検定料（年度別）　（単位：千円）

	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
授業料	150,375	153,409	155,851	163,524	161,374
入学料及検定料	22,040	22,707	22,064	21,677	21,022

（分析結果とその根拠理由）

運営費交付金および自己収入を基本的財源として，学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

寄附金，共同研究・受託研究，科学研究費補助金等の外部資金の獲得により経常的収入を確保している。

また，全学的に外部資金獲得に向けた取組として，科学研究費補助金獲得への学内説明会（資料１０－１－③－１）を実施するとともに，関連の助成金情報を受けた場合は，特命教授に通知し，特命教授から応募資格に関連する分野の教員等へ周知（資料１０－１－③－２）を図っている。

資料１０－１－③－１　学内説明会

平成２３年度科学研究費助成事業研修会

日時：９月１日（木）　１４：００～
場所：メディアホール

（進行：総合企画室 主務）

１．校長挨拶

２．特別講演
講　師：東京農工大学大学院工学府 電気電子工学専攻
助 教　田 向　権 氏
演　題：「若手研究者の外部資金獲得作戦」

質疑応答

３．（１）科学研究費助成事業に関する説明（事務担当者）
・科学研究費助成事業について
・申請の流れについて
（２）研究費の適正な管理・執行についての説明
・科学研究費の適正な管理・執行について
・研究費の取扱
・アンケート

質疑応答

出典：総務課資料

資料１０－１－③－２　教員等への周知

差出人：　吉岡
宛先：　tiren; Oohara@Tokuyama. Ac. Jp; yokoyama; 井上校長; 一般科目; 機械電気工学科; 情報電子工学科; 土木建築工学科
Cc：　梅田則好; tiren; 大谷昌弘; 総務課総務係; kikaku@tokuyama.ac.jp; 兼本和枝
件名：　【重要】周南地域地場産業振興センター周南サポート事業テーマ募集に関して
日付：　2012年5月7日 12:40:42

関係者各位
周南地域地場産業振興センターの周南サポート事業テーマの募集が
始まっています。応募期限が５月３１日で、産学枠は２０万円です。
http://www.shunan-ziba.or.jp/jigyonaiyo/monozukuri/images/24suport.pdfを参照ください。

『予算エントリーシート』上では、この周南サポート事業に応募予定の先生方は今年度はいらっしゃいませんが、ポピュラーなものですので、案内しております。
予算エントリーシートに入っていなくとも、検討しようかという方がいらっしゃいましたら、
一報ください。よろしくお願いいたします。

吉岡 健/徳山高専テクノリフレッシュ教育センター/yosioka@tokuyama.ac.jp

出典：学内メール

（ａ）寄付金

寄附金受入件数・受入額(年度別)　　（単位：件，千円）

	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
受入件数	42	36	44	41	42
金　　額	14,084	14,980	8,248	9,293	7,988

（ｂ）共同研究・受託研究

共同研究･受託研究受入件数・受入額(年度別)　　（単位：件，千円）

	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
共同研究受入件数	21	28	24	36	27
金　　額	8,920	9,930	6,590	10,030	9,990
受託研究受入件数	1	1	5	2	7
金　　額	700	1,000	11,347	1,552	13,590

（ｃ）科学研究費補助金

科学研究費補助金申請・採択・交付額(年度別)　　（単位：件，千円）

	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
申請件数	42	43	49	45	41
採択件数	6	7	6	9	12
交付金額	15,190	6,540	6,000	13,090	15,730

（分析結果とその根拠理由）

文部科学省をはじめ日本学術振興会，その他の機関が行っている各種公募型競争的資金などに応募するなど外部資金獲得へ積極的に取り組んでいる。

外部資金の獲得について，特に平成２３年度受託研究の受入金額および平成２２・２３年度科学研究費補助金の採択件数，交付金額が増加傾向にある。また，寄附金・共同研究費等を合わせた外部資金は，全事業費の７％強となっている。

以上のことから，学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行するために，外部資金を活用した経常的収入が継続的に確保されている。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

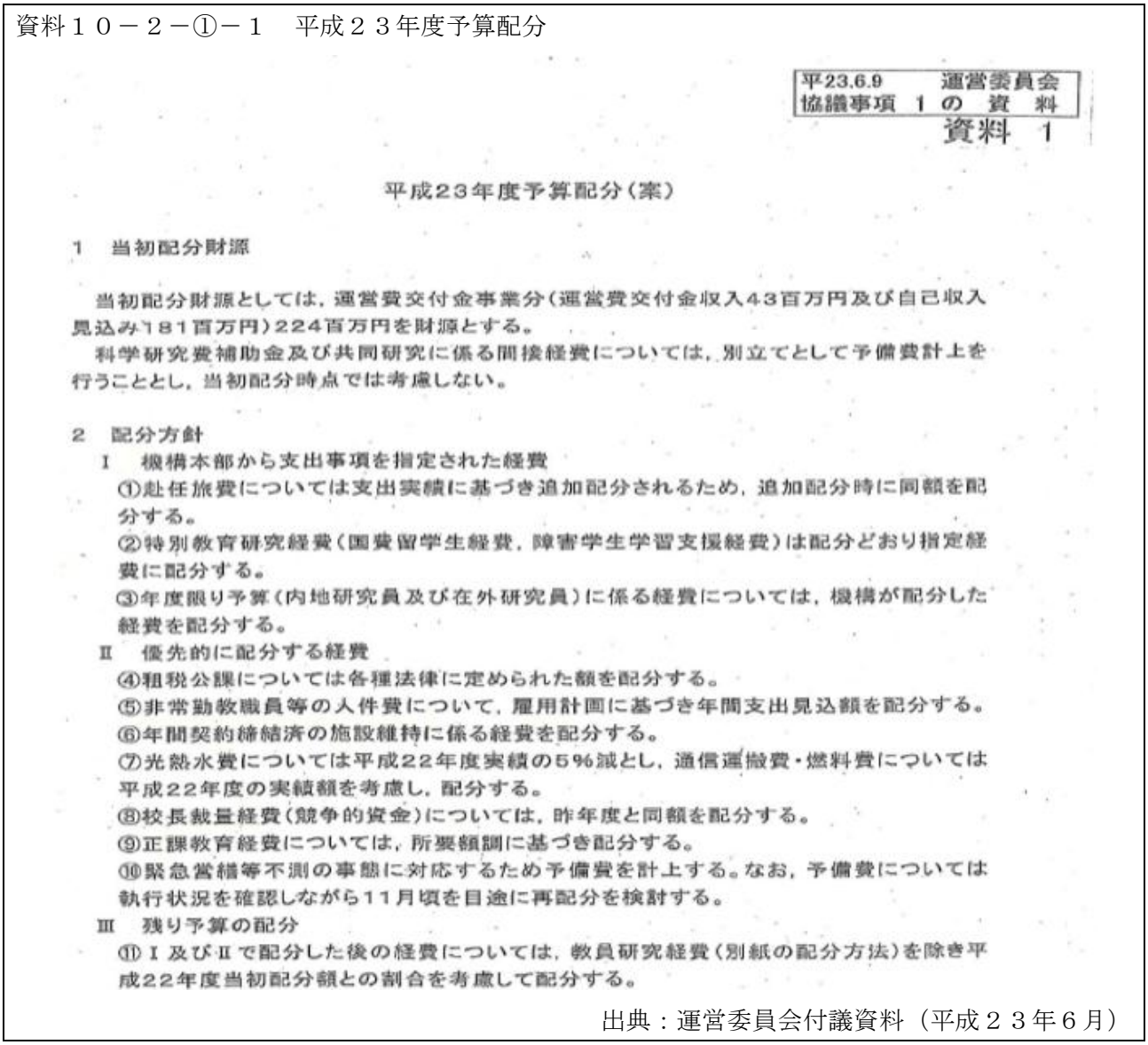
（観点に係る状況）

本校の中期計画の年度計画に基づき，校長のリーダーシップの下，予算配分（案）（資料１０－２－①－１）が立てられる。その予算配分（案）に基づいて予算配分内訳（資料１０－２－①－２）を作成し，運営委員会で審議し決定される。

また，財務内容改善のための具体的施策(外部資金の導入強化，経費の節減，業務の改善および効率化等)を検討している。その審議内容および決定事項については，運営委員会等の諸会議の議事録（資料１０－２－①－３）および会議資料（資料１０－２－①－４）を随時本校WebサイトTCT Info（資料１０－２－①－５）に掲載し，その周知を図っている。

施設の改善計画については，今後「キャンパスマスタープラン」の作成を検討しており，狭隘，老朽化対策に向けて，年次改善計画を策定する予定である。

資料１０－２－①－１　平成２３年度予算配分



平23.6.9　運営委員会
協議事項 1 の 資 料
資料 1

平成23年度予算配分(案)

1　当初配分財源

当初配分財源としては，運営費交付金事業分(運営費交付金収入43百万円及び自己収入見込み181百万円)224百万円を財源とする。
科学研究費補助金及び共同研究に係る間接経費については，別立てとして予備費計上を行うこととし，当初配分時点では考慮しない。

2　配分方針

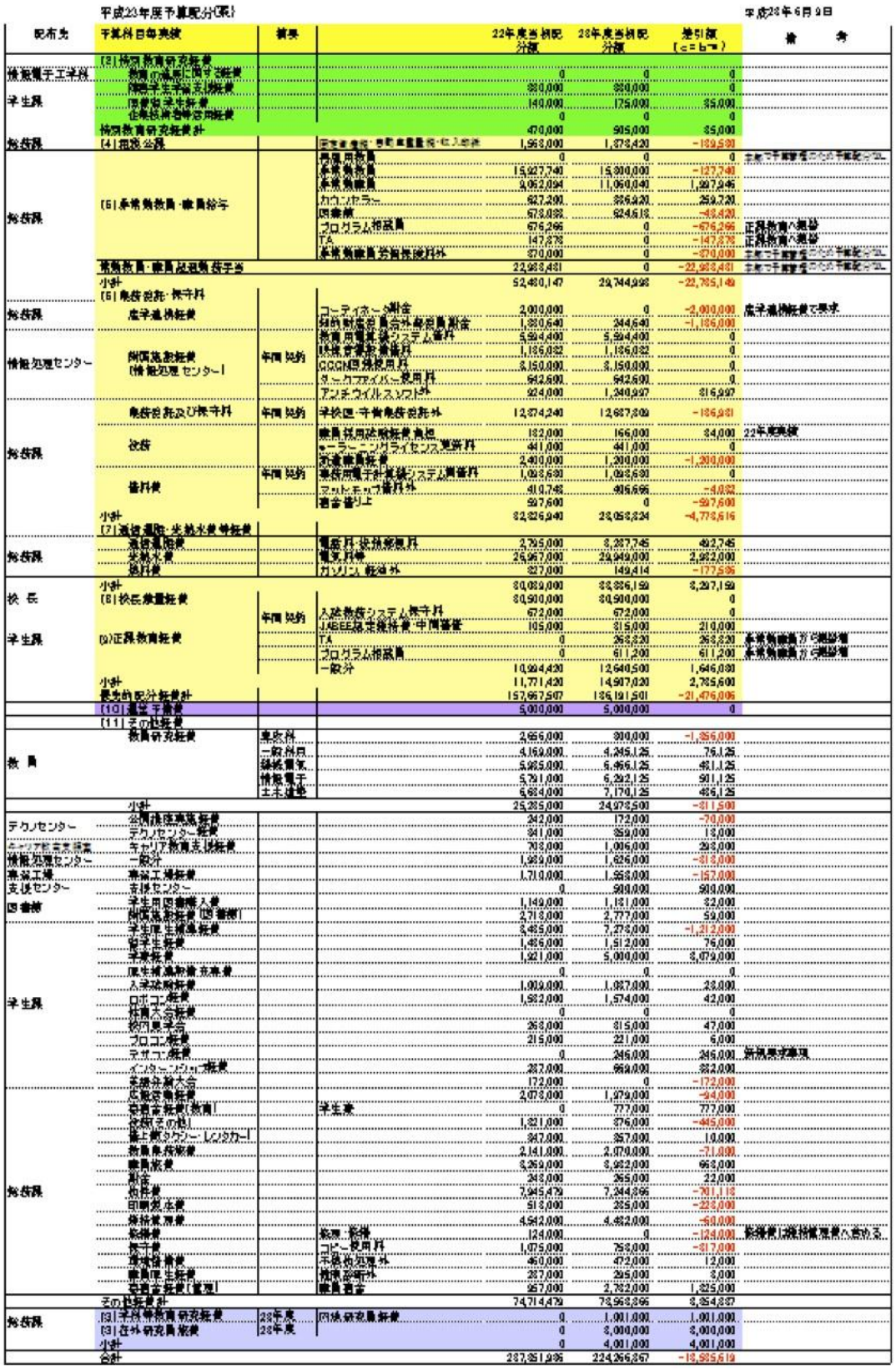
Ⅰ　機構本部から支出事項を指定された経費
①赴任旅費については支出実績に基づき追加配分されるため，追加配分時に同額を配分する。
②特別教育研究経費(国費留学生経費，障害学生学習支援経費)は配分どおり指定経費に配分する。
③年度限り予算(内地研究員及び在外研究員)に係る経費については，機構が配分した経費を配分する。

Ⅱ　優先的に配分する経費
④租税公課については各種法律に定められた額を配分する。
⑤非常勤教職員等の人件費について，雇用計画に基づき年間支出見込額を配分する。
⑥年間契約締結済の施設維持に係る経費を配分する。
⑦光熱水費については平成22年度実績の5%減とし，通信運搬費・燃料費については平成22年度の実績額を考慮し，配分する。
⑧校長裁量経費(競争的資金)については，昨年度と同額を配分する。
⑨正課教育経費については，所要額調に基づき配分する。
⑩緊急営繕等不測の事態に対応するため予備費を計上する。なお，予備費については執行状況を確認しながら11月頃を目途に再配分を検討する。

Ⅲ　残り予算の配分
⑪Ⅰ及びⅡで配分した後の経費については，教員研究経費(別紙の配分方法)を除き平成22年度当初配分額との割合を考慮して配分する。

出典：運営委員会付議資料（平成２３年６月）

資料１０－２－①－２　平成２３年度予算配分内訳



平成23年度予算配分(案)　　平成23年6月9日

配布先	予算科目等表現	摘要		22年度当初配分額	23年度当初配分額	差引額（ｃ＝ｂ－ａ）	備　考
機械電子工学科	[2]特別教育研究経費						
	教育の質に関する経費			0	0	0	
学生課	教育支援者活用経費			880,000	880,000	0	
	障害学生支援経費			140,000	175,000	35,000	
	企業技術者特定用経費			0	0	0	
	特別教育研究経費計			470,000	505,000	35,000	
教務課	[4]施設公課		固定資産税・都市計画税・自動車重量税・収入印紙	1,968,000	1,678,420	-289,580	
教務課	[5]基準教員・職員給与		教員用教員	0	0	0	主税で予算管理のため予算なし
			基準教員費	15,927,740	15,800,000	-127,740	
			基準教職員	9,062,094	11,060,040	1,997,946	
			カウンセラー	627,200	886,420	259,220	
			図書館	673,032	624,612	-48,420	
			プログラム担当員	676,296	0	-676,296	正規教員へ異動
			TA	147,876	0	-147,876	正規教員へ異動
			基準教職員労働保険料外	870,000	0	-870,000	主税で予算管理のため予算なし
	基準教員・職員昇給等予当			22,988,481	0	-22,988,481	主税で予算管理のため予算なし
	小計			52,480,147	29,744,998	-22,735,149	
教務課	[6]電話設置・保守料						
	庶務通信経費		コーディネート料金	2,000,000	0	-2,000,000	庶務通信経費で要求
			財務財産委員会外部委員謝金	1,320,640	244,640	-1,126,000	
情報処理センター	附属施設経費（情報処理センター）	年間契約	教育用電子計算システム借料	5,904,400	5,904,400	0	
			情報管理室借損料	1,136,032	1,136,032	0	
			CCCD回線使用料	3,150,000	3,150,000	0	
			ネームプライバー使用料	642,600	642,600	0	
			アンチウイルスソフト外	924,000	1,240,997	316,997	
教務課	電話設置及び保守料	年間契約	学校医・予備電話設置外	12,374,240	12,687,809	-186,431	
	改修		職員採用試験経費負担	182,000	166,000	-34,000	22年度実績
			ユニバーシアドライセンス更新料	441,000	441,000	0	
			学寮修繕費	2,400,000	1,200,000	-1,200,000	
	借料費	年間契約	事務用電子計算機システム賃借料	1,088,600	1,088,600	0	
			マルチコピー借料外	410,748	406,696	-4,052	
			超過分	927,600	0	-927,600	
	小計			32,226,940	28,058,324	-4,778,616	
教務課	[7]通信運搬・光熱水費等経費						
	通信運搬費		電話料・使用料金	2,795,000	3,287,745	492,745	
	光熱水費		電気料等	26,967,000	29,949,000	2,982,000	
	燃料費		ガソリン・軽油外	327,000	149,414	-177,586	
	小計			30,089,000	33,386,159	3,297,159	
校　長	[8]校長裁量経費			30,900,000	30,900,000	0	
学生課	(9)正課教育経費	年間契約	入試業務システム保守料	672,000	672,000	0	
			JABEE及び生涯学習・中間審査	105,000	315,000	210,000	
			TA	0	268,320	268,320	本校配置がら増加増
			プログラム担当員	0	611,200	611,200	本校配置がら増加増
			一般分	10,994,420	12,640,500	1,646,080	
	小計			11,771,420	14,507,020	2,735,600	
	最先端教育経費計			157,967,507	136,191,501	-21,476,006	
	[10]基盤整備費			5,000,000	5,000,000	0	
	[11]その他経費						
教　員	教員研究経費	事務局		2,656,000	800,000	-1,856,000	
		一般教員		4,150,000	4,345,125	751,125	
		機械電気		5,385,000	5,466,125	481,125	
		情報電子		5,791,000	6,292,125	501,125	
		土木建築		6,684,000	7,170,125	486,125	
	小計			25,285,000	24,073,500	-811,500	
テクノセンター	公開技術実施経費			242,000	172,000	-70,000	
	テクノセンター経費			241,000	259,000	18,000	
キャリア教育支援センター	キャリア教育支援経費			703,000	1,006,000	303,000	
情報処理センター	一般分			1,939,000	1,626,000	-313,000	
専攻工場	専攻工場経費			1,710,000	1,558,000	-152,000	
支援センター	支援センター			0	900,000	900,000	
図書館	学生用図書購入費			1,149,000	1,181,000	32,000	
	附属施設経費（図書館）			2,718,000	2,777,000	59,000	
学生課	学生厚生補導経費			3,485,000	2,273,000	-1,212,000	
	留学生経費			1,436,000	1,512,000	76,000	
	学寮経費			1,921,000	5,000,000	3,079,000	
	厚生補導物資充当費			0	0	0	
	入学試験経費			1,004,000	1,027,000	23,000	
	ロボコン経費			1,532,000	1,574,000	42,000	
	校歌大会経費			0	0	0	
	校内見学会			268,000	315,000	47,000	
	プロコン経費			215,000	221,000	6,000	
	ラコン経費			0	246,000	246,000	新規要求事項
	インターンシップ経費			287,000	569,000	282,000	
	卒業祝賀大会			172,000	0	-172,000	
	広報宣伝経費			2,078,000	1,979,000	-99,000	
教務課	教育支援費（教育）		学生寮	0	777,000	777,000	
	教材（その他）			1,321,000	876,000	-445,000	
	施工機（クラブ・レンタカー）			987,000	997,000	10,000	
	教員集会経費			2,141,000	2,070,000	-71,000	
	職員旅費			3,259,000	3,922,000	663,000	
	賄費			243,000	265,000	22,000	
	他料費			7,945,479	7,244,366	-701,113	
	印刷発注費			513,000	285,000	-228,000	
	特許実用費			4,542,000	4,452,000	-90,000	
	転機費		転機・移機	124,000	0	-124,000	転機費は機械電気へ含める
	施工費		コピー使用料	1,075,000	758,000	-317,000	
	環境整備費		不燃物処理外	460,000	472,000	12,000	
	職員厚生経費		慶弔・祭礼外	287,000	295,000	8,000	
	特殊支援費（管理）		職員賞金	267,000	2,702,000	1,435,000	
	その他経費計			74,714,479	78,968,366	8,254,887	
教務課	[3]学長特別教育研究経費	23年度	附属研究員経費	0	1,001,000	1,001,000	
	[3]在外研究員経費	23年度		0	3,000,000	3,000,000	
	小計			0	4,001,000	4,001,000	
	合計			237,351,986	224,266,367	-13,085,619	

出典：運営委員会付議資料（平成２３年６月）

資料１０－２－①－３　諸会議の議事録

第４１０回運営委員会議事要録

日　時　　平成２４年２月１６日（木）１４：００～１５：３３

場　所　　演習室

出席者　　井上校長、池田(信)教務主事、佐賀学生主事、田村寮務主事、天内専攻科長、国重一般科目主任、櫻本機械電気工学科主任、山田情報電子工学科主任、上土木建築工学科主任、森野（図書館長、教育研究支援ｾﾝﾀｰ長、自己評価委員長）、牧野ﾃｸﾉ・ﾘﾌﾚｯｼｭ教育ｾﾝﾀｰ長、奥本情報処理ｾﾝﾀｰ長、百田総合企画室長、渡辺学習・教育ﾚﾋﾞｭｰ室長、長戸学生相談室長、一色ｷｬﾘｱ教育支援室長、武田事務部長、梅田総務課長、兼本学生課長

欠席者　　なし

配付資料

・平成２４年度 教員選考方針（案）……資料１
・「徳山工業高等専門学校学則」一部改正理由書（案）……資料２
・「徳山工業高等専門学校教務規則」一部改正理由書（案）……資料３
・「徳山工業高等専門学校「ＴＣＴ－ＤＲＥＡＭＳ」委員会規則」一部改正理由書（案）……資料４
・平成２４年度 年間行事予定（案）……資料５
・公的外部資金の計画的獲得のための予算表作成の件……資料６
・「再試験に関する内規」一部改正理由書……資料７
・「徳山工業高等専門学校アドミッションポリシー」一部改正理由書……資料７-１
・「徳山工業高等専門学校内部組織規則」改正箇所……資料８
・平成２４年度 年間行事予定（案）……資料９
・特別研究促進費成果区分一覧……資料１０
・平成２３年度 寄附金受入れ状況……資料１１
・省エネの取組状況について……資料１２
・平成２３年度 第３回学生支援・課外活動委員会　議事次第ほか［当日配布資料］
・第４回学寮課題検討会議事録［当日配布資料］
・平成２４年２月分、３月分行事予定表

協議事項

（１）平成２４年度 教員選考方針（案）について

校長から、資料１の教員選考方針のとおり機械電気工学科、総合設計工学分野の准教授１名を公募することとし、公募要領（案）の説明があり、原案のとおり了承された。

なお、今後の選考予定として、５月上旬に二次試験を行い、面接及び担当する科目に係る授業の進め方等に係るプレゼンにより選考を行い、７月１日以降のできるだけ早い時期に採用を予定したい旨の発言があった。

出典：運営委員会議事録（平成２４年２月）

資料１０－２－①－４　運営委委員会資料

平24.2.16　運営委員
協議事項 6 の 資
資料

各位

2012年2月7日
徳山高専テクノリフレッシュ
教育センター
牧野センター長
日山副センター長(H24年度)
吉岡特命教授(資金担当)

公的外部資金の計画的獲得のための予算表作成の件

首記の件、去る2011年11月24日の教員会議にて提案いたしましたが、公的外部資金への応募を、計画的かつ組織的に進めることで、応募書類の質の向上や、採択率の向上による獲得資金の増加、さらには資金増加による研究活動の質量両面の活性化を達成できればと考えています。つきましては、題記「公的外部資金の計画的取得のための予算表作成の件」をまとめましたので、実施協力方、よろしくお願いいたします。

記

1 実施の目的と概要
全教員の公的外部資金の応募予定を記入した予算表（年間計画表）を作成し、予算化することで、
(1)応募時の書類作成をサポートし、教員業務の効率向上の一助とする、
(2)応募書類の文書完成度の向上による採択率を向上させる
ことを狙います。そのための、年間計画表を2012年3月31日までに作成し、2012年4月1日から運用開始したいと存じます。

2 予算作成時の実施要領
(1)次年度(平成24年度)の期初(4月1日)までに、予算表を作成する。
(2)予算表の作成は、添付予算エントリーシートに記入する。
(3)エントリーシートの作成ルートは
①運営会議で各学科主任に配布　(2月下旬)
②学科主任とりまとめにて学科ごとに作成、(期限3月下旬)
③送付先は　学科主任→教務主事→テクノセンター長（牧野）
→テクノセンター資金担当CD→総務地連係　とする。
④担当CDにて、各学科のシートをとりまとめ、全体予算表を作成し、高専HP(学内専用)に掲示する。

3 期中の応募活動の実施要領
(1) 担当CDは予算表に基づいて、公募開始・公募締切の正式期日をウオッチし、速やかに関係教員に予告・連絡し、注意喚起するものとします。
(2) 各教員は、募集期限の1～2週間前に応募書類原案を作成、CDに査読依頼をする。
CDは、①文章の平易さ、②審査員の立場からポイントが要領よく表現されているか、の観点からアドバイス・文章推敲するものとする。
(3) 上記1～2週間前に書類が作成できなかった場合は、従来ルートと同じく応募書類を直接送付しても構わない。ただし、送付した事実を地連ならびに担当CDにメール連絡ください。

4 予算表の期中および期末メンテナンス要領
(1) 上記応募エントリー済み案件、応募案件採択結果、獲得金額は、CDにて記入メンテナンスする。
(2) 予算表にエントリーされてない予算外案件や、逆に取り下げ案件等が出てくると想定されるが、随時CDに連絡いただくことにより、柔軟に対応する。
(3) 期中に臨時で公募されるような案件も、随時案内するものとする。
(4) 期末が近くなると、その年の予算の実算を集計し、報告すると同時に、次年度予算編成時の参考資料とするものとする。

5 添付資料
(1) 予算エントリー用紙(見本)
(2) 公募資金カレンダー

出典：運営委員会付議資料（平成２４年２月）

資料１０－２－①－５　学内情報共有システム（TCT Info）

徳山工業高等専門学校 学内情報共有システム(TCT Info Database)

--システム選択--	
--下記から選択--	--パスワード種別--
学外・ゲスト	不要
学生・学内一般	メールサーバ(学生・教職員)
教職員限定	メールサーバ(教職員)
メンテナンス	管理者用パスワード

--問い合わせ先--	
--担当内容--	--担当部署--
システムの運用・管理 システムの利用法	総合企画室 (kikaku@tokuyama.ac.jp)
システムの開発・修正 システムの故障時	情報処理センター (center@tokuyama.ac.jp)

このデータベースは、暗号化通信を用いて接続しなければなりません。
そのため、下記の証明書(公開鍵)をインストールする必要があります。
暗号化証明書(徳山高専プライベートCA:Certificate Authority)のインストール

現在、IE(Internet Explorer 6),Netscape(Mozilla1.4:Windows, Mozilla1.1:FreeBSD)で動作確認をしております。
動作チェックは、Windows2000とFreeBSDで行っています。その他NT,98,ME,XPなどの挙動は不明です。

出典：本校 Web サイト（学内限定）

資料１０－２－①－６　光熱水費の節減について

平成２３年７月１日

教　職　員　各　位

総　務　課　長

徳山高専における光熱水の節減について（依頼）

東日本大震災により，東京電力や東北電力管内では１５％以上の節電を求められていることはマスコミ等の報道でご存じの方も多いと思います。

また，機構全体においても平成 23 年 5 月 16 日付け文部科学省通知「夏期の電力需要対策について」に基づき様々な取り組みを行っており，本校におきましても，資源エネルギー庁「節電行動計画」の標準フォーマット等を参考に平成 23 年度年度計画に光熱水費の節減徹底を掲げ学校全体の取組としております。

つきましては，下記実施期間別紙のとおり必要な対策について実施したいので，皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いします。

なお，光熱水の節減実施について必要に応じ見直しも行いますので意見があれば総務課まで申し出ください。

記

実施期間：平成 23 年 7 月 1 日（金）～平成 23 年 9 月 30 日（金）

総務課長補佐　永久
内線　６２１９

（教職員全員で取り組んでいただきたい対策）

1　照明について
①こまめな消灯…昼休みや不在時は消灯する。
②減灯…事務室・教員室・福利教員室等においても可能な限り照明灯を間引く。

2　冷暖房機器
①設定温度，冷房２８℃以上（暖房２０℃以下）厳守。
②フィルターの定期清掃。
③効率的使用のため，冷房時扇風機を併用使用。
④夏季夜間は網戸と扇風機を利用し，冷房を停止する。
⑤機器の切り忘れ等の防止のため，総務課で信号により１８時・２０時・２２時にスイッチ OFF。

3　日射調整
①冷房使用時はブラインドで遮光し室内への日射を調整する。

4　家電・OA 機器
①時間外（土日祝日夜間）等はプリンター・PC 他家電品（ポット等）の電源を OFF とし，待機電力をカットする。
②PC を電源オプション設定やディスプレイ輝度設定等により節電する。
（参考：http://technet.microsoft.com/ja-jp/windows/gg715287）
また，実験室等にある冷蔵庫の温度設定を支障のない限り「中」又は「弱」とする。
③PC の廃熱ファン前付近の空間の確保と冷蔵庫と壁の空間を確保する。

出典：総務課資料

（分析結果とその根拠理由）

財務に係る計画等については，本校の中期計画に示され，その具体的施策について総務課で原案を作成し，学校の全構成員が取組を行うような省エネ対策・経費削減策を策定し，運営委員会等の審議を通じて決定したことを全構成員にメールや掲示で周知および協力を依頼している(資料１０－２－①－６)。

また，適切な収支に係る計画等は，予算配分案に基づき，予算配分内訳等として策定され，運営委員会で検討され，決定されたことは運営委員会議事要録および付議資料として随時本校WebサイトTCT Info（資料１０－２－①－５）に掲載し，その周知を図っている。

以上のことから，学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されている。

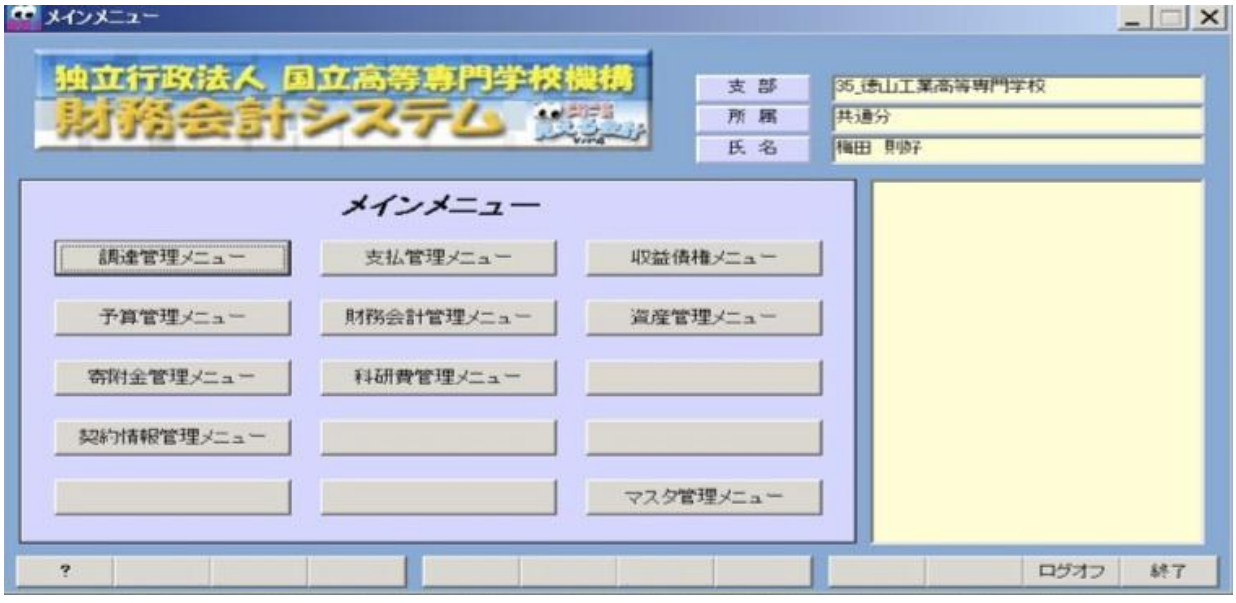
観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

予算に基づく計画的な執行を念頭に置いて，財務会計システム(資料１０－２－②－１)により常に予算を把握しながら執行を行っている。また，教員に対しては，年に数回執行状況を通知することにより，適切な予算計画と経費支出に努めており過大な支出超過は生じていない。

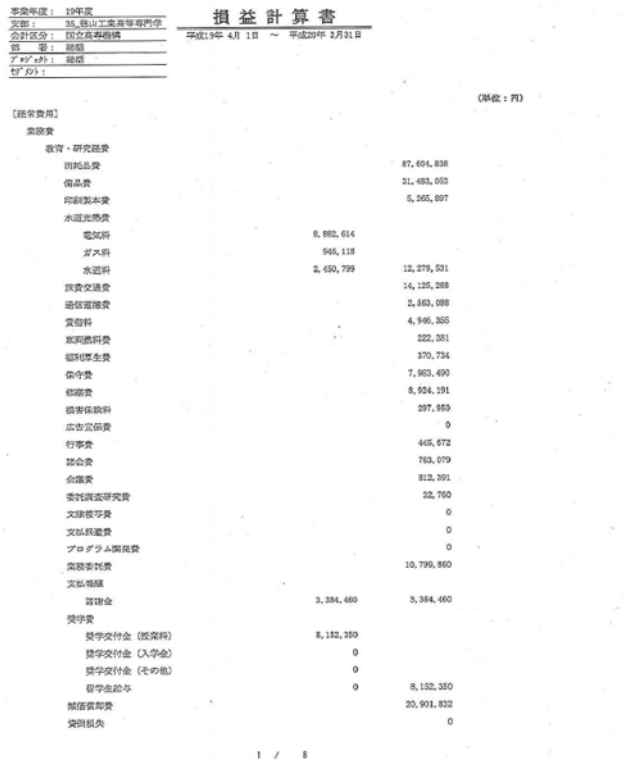
平成１９年度から平成２３年度の本校における損益計算書は，資料１０－２－②－２～２４のとおりである。

資料１０－２－②－１　財務会計システムメニュー画面



出典：財務会計システム

資料１０－２－②－２　平成１９年度損益計算書１



事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総務
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄ：総務
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：

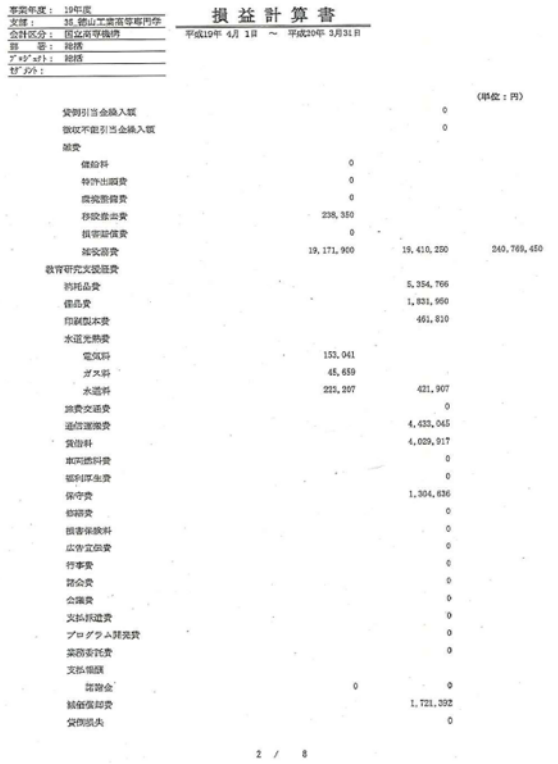
損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

（単位：円）

[経常費用]		
業務費		
教育・研究経費		
消耗品費		87,604,838
備品費		31,483,053
印刷製本費		5,365,897
水道光熱費		
電気料	8,882,614	
ガス料	945,118	
水道料	2,450,799	12,279,531
旅費交通費		14,125,288
通信運搬費		2,563,088
賃借料		4,996,355
車両燃料費		222,381
福利厚生費		370,734
保守費		7,963,490
修繕費		8,924,191
損害保険料		297,955
広告宣伝費		0
行事費		465,672
諸会費		763,079
会議費		812,391
委託調査研究費		32,760
支払報酬費		0
支払手数料		0
プログラム開発費		0
業務委託費		10,799,860
支払補償		
賠償金	3,384,460	3,384,460
奨学費		
奨学交付金（授業料）	8,152,350	
奨学交付金（入学金）	0	
奨学交付金（その他）	0	
留学生給与	0	8,152,350
減価償却費		20,901,832
貸倒損失		0

1 / 8



事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総務
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄ：総務
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：

損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

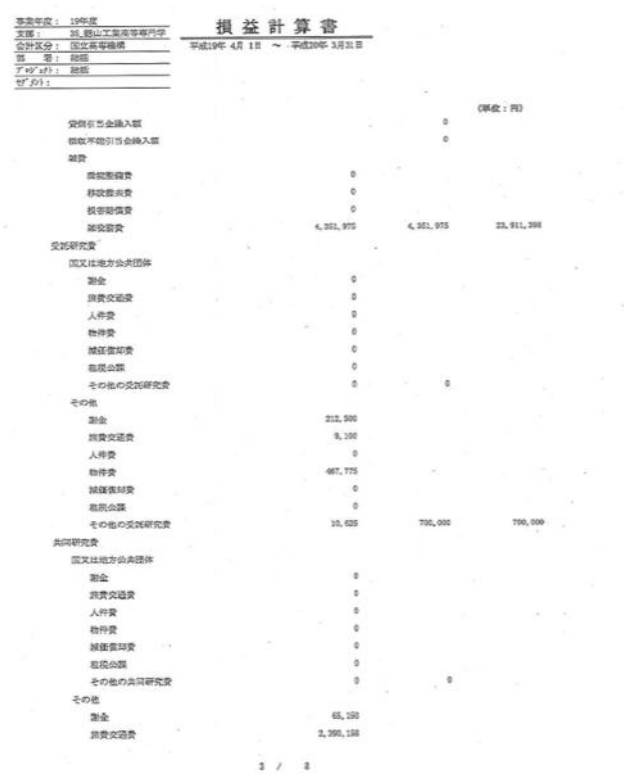
（単位：円）

貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
借給料	0		
特許出願費	0		
廃棄物費	0		
移設費用	238,350		
損害賠償金	0		
雑収益	19,171,900	19,410,250	249,769,450
教育研究支援経費			
消耗品費		5,354,766	
備品費		1,831,960	
印刷製本費		461,810	
水道光熱費			
電気料	153,941		
ガス料	45,659		
水道料	223,307	421,907	
旅費交通費		0	
通信運搬費		4,433,045	
賃借料		4,029,917	
車両燃料費		0	
福利厚生費		0	
保守費		1,304,636	
修繕費		0	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		0	
会議費		0	
支払報酬費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		0	
支払補償			
賠償金	0	0	
減価償却費		1,721,392	
貸倒損失		0	

2 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－３　平成１９年度損益計算書２



事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総務
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄ：総務
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：

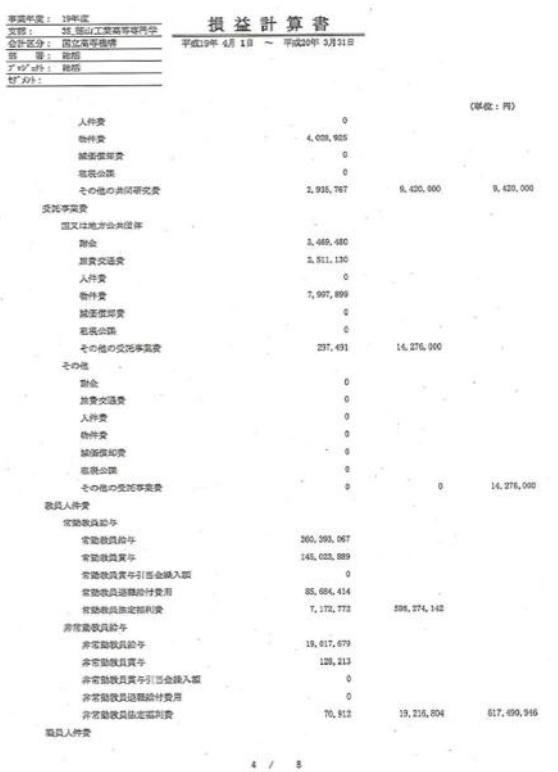
損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

（単位：円）

貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
廃棄物費	0		
移設費用	0		
損害賠償金	0		
雑収益	4,361,975	4,361,975	23,911,398
受託研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託研究費	0	0	
その他			
謝金	212,500		
旅費交通費	9,100		
人件費	0		
物件費	467,775		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託研究費	10,625	700,000	700,000
共同研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の共同研究費	0	0	
その他			
謝金	65,150		
旅費交通費	2,398,158		

3 / 8



事業年度：19年度
支部：35_徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機構
部　署：総務
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄ：総務
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：

損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

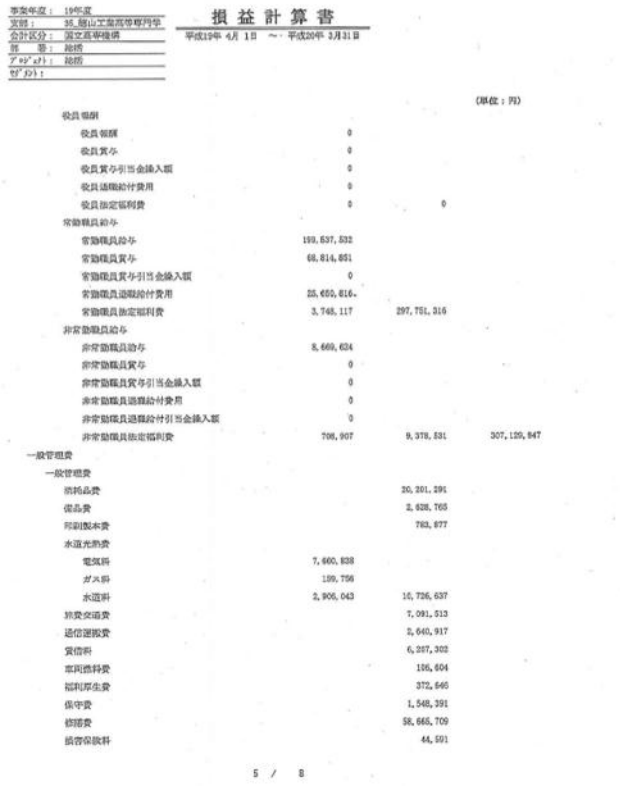
（単位：円）

人件費	0		
物件費	4,038,925		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の共同研究費	2,935,767	9,420,000	9,420,000
受託事業費			
国又は地方公共団体			
謝金	3,469,480		
旅費交通費	2,511,130		
人件費	0		
物件費	7,997,899		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	237,491	14,276,000	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0	0	14,276,000
職員人件費			
常勤職員給与			
常勤職員給与	360,393,067		
常勤職員賞与	145,023,889		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	85,684,414		
常勤職員法定福利費	7,172,773	598,274,142	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	19,817,679		
非常勤職員賞与	128,213		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員法定福利費	70,912	19,216,804	617,490,946
職員人件費			

4 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－４　平成１９年度損益計算書３



損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

（単位：円）

役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	193,537,532		
常勤職員賞与	68,814,851		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	25,650,816		
常勤職員法定福利費	3,748,117	297,751,316	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	8,669,624		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0		
非常勤職員法定福利費	706,907	9,376,531	307,129,847
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		20,201,291	
備品費		2,828,765	
印刷製本費		763,877	
水道光熱費			
電気料	7,660,838		
ガス料	159,756		
水道料	2,906,043	10,726,637	
旅費交通費		7,091,513	
通信運搬費		2,640,917	
賃借料		6,287,302	
車両燃料費		136,604	
福利厚生費		372,646	
保守費		1,548,391	
修繕費		58,665,709	
損害保険料		44,591	

5 / 8



損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

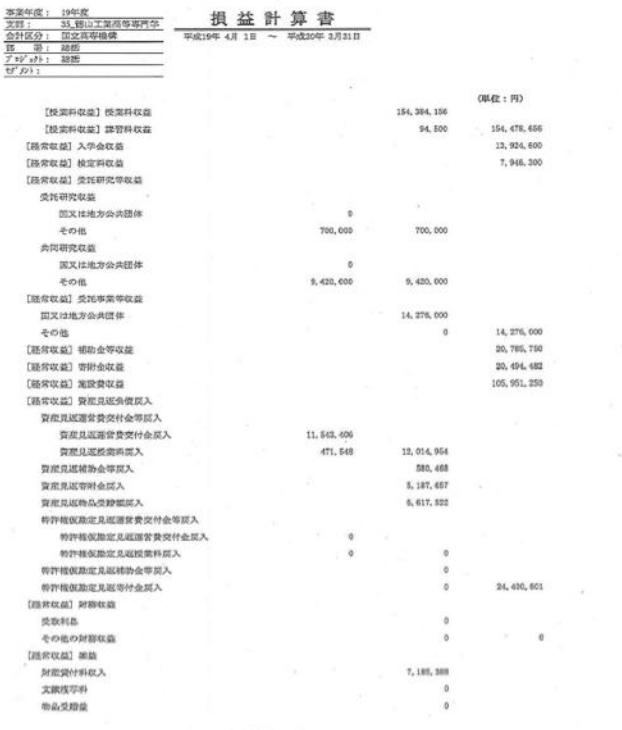
（単位：円）

広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		12,000	
会議費		32,400	
委託調査研究費		134,300	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		0	
諸謝金		1,015,480	
支払手数料			
銀行手数料	118,507		
その他手数料	0	118,507	
租税公課			
自動車重量税	46,000		
固定資産税	1,389,100		
収入印紙代	1,100		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	1,436,800	
補塡償却費		1,934,877	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
保健整備費	1,758,716		
移設撤去費	871,560		
雑役務費	10,735,897	13,366,113	129,068,720
財務費用			
財務費用			
支払利息		0	
その他の財務費用		0	0
雑損			
雑損			0
[経常費用] 合計			1,342,766,361
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			1,007,386,323
[経常収益] 授業料収益			

6 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－５　平成１９年度損益計算書４



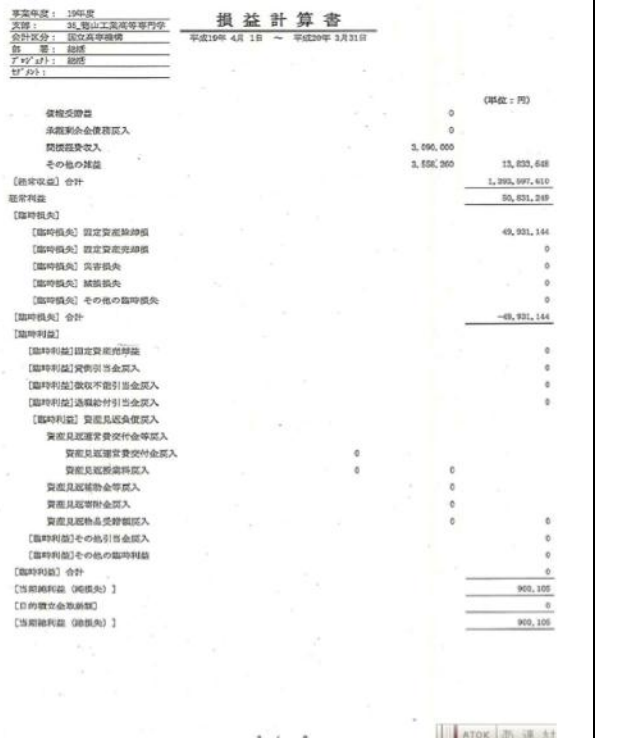
損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

（単位：円）

[検実料収益] 検実料収益		154,384,156	
[検実料収益] 諜管料収益		94,500	154,478,656
[経常収益] 入学金収益			13,924,600
[経常収益] 検定料収益			7,946,300
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	700,000	700,000	
共同研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	9,420,000	9,420,000	
[経常収益] 受託事業等収益			
国又は地方公共団体		14,276,000	
その他		0	14,276,000
[経常収益] 補助金等収益			20,785,750
[経常収益] 寄附金収益			20,494,482
[経常収益] 施設費収益			105,951,250
[経常収益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入			
資産見返運営費交付金戻入	11,543,406		
資産見返授業料戻入	471,548	12,014,954	
資産見返補助金等戻入		580,468	
資産見返寄附金戻入		5,187,657	
資産見返物品受贈額戻入		6,617,322	
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入			
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0		
特許権仮勘定見返授業料戻入	0	0	
特許権仮勘定見返補助金等戻入		0	
特許権仮勘定見返寄付金戻入		0	24,400,801
[臨常収益] 財務収益			
受取利息		0	
その他の財務収益		0	0
[臨常収益] 雑益			
財産貸付料収入		7,185,388	
実験廃等料		0	
物品受贈益		0	

7 / 8



損 益 計 算 書

平成19年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日

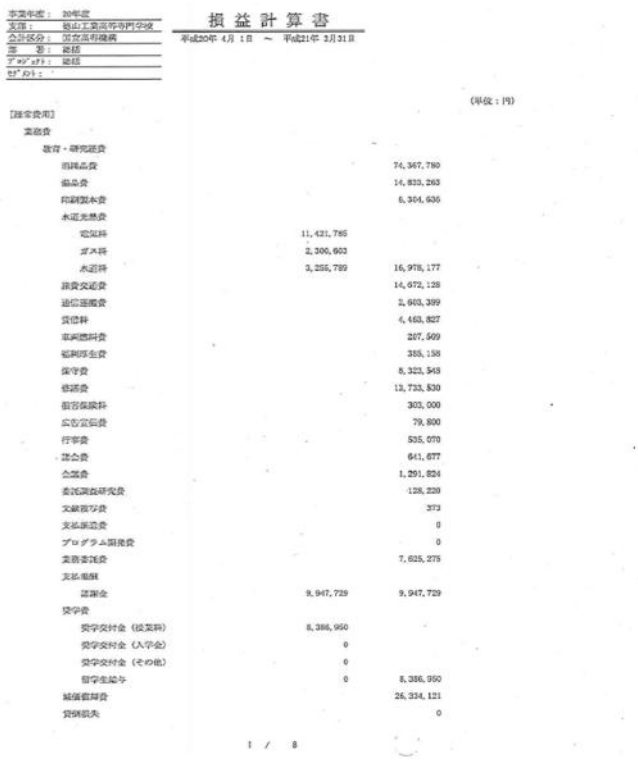
（単位：円）

債権受贈益		0	
承継剰余金債務戻入		0	
関係経費収入		3,090,000	
その他の雑益		3,658,360	13,833,648
[臨常収益] 合計			1,395,997,610
臨常利益			50,831,249
[臨時損失]			
[臨時損失] 固定資産除却損			49,931,144
[臨時損失] 固定資産売却損			0
[臨時損失] 災害損失			0
[臨時損失] 補塡損失			0
[臨時損失] その他の臨時損失			0
[臨時損失] 合計			-49,931,144
[臨時利益]			
[臨時利益] 固定資産売却益			0
[臨時利益] 貸倒引当金戻入			0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入			0
[臨時利益] 退職給付引当金戻入			0
[臨時利益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入			
資産見返運営費交付金戻入	0		
資産見返授業料戻入	0	0	
資産見返補助金等戻入		0	
資産見返寄附金戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		0	0
[臨時利益] その他引当金戻入			0
[臨時利益] その他の臨時利益			0
[臨時利益] 合計			0
[当期純利益（純損失）]			909,105
[目的積立金取崩額]			0
[当期純利益（純損失）]			909,105

8 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－６　平成２０年度損益計算書１



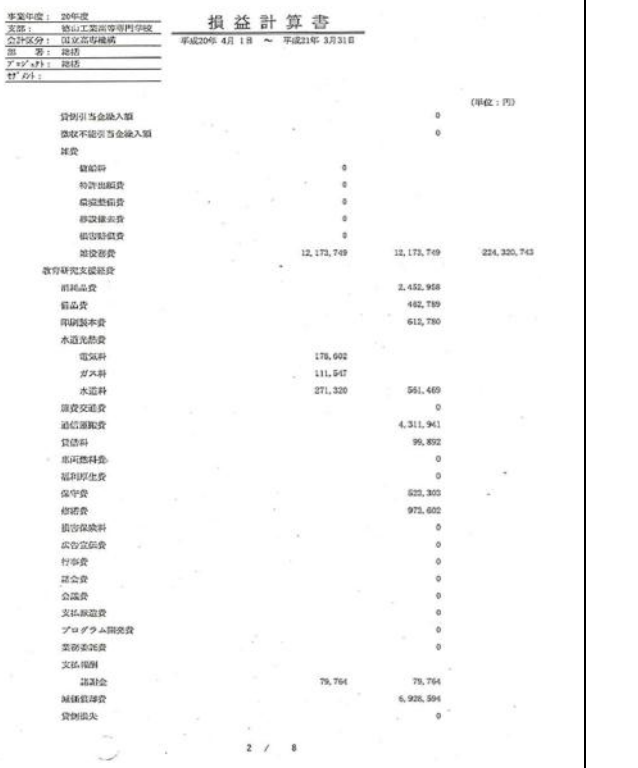
事業年度：20年度
支部：徳山工業高等専門学校
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
アドバイザー：総括
サポート：

損益計算書
平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費			
消耗品費		74,367,780	
備品費		14,833,263	
印刷製本費		5,304,636	
水道光熱費			
電気料	11,421,785		
ガス料	2,300,603		
水道料	3,255,789	16,978,177	
旅費交通費		14,672,128	
通信運搬費		2,603,399	
賃借料		4,463,827	
車両燃料費		207,509	
福利厚生費		353,138	
保守費		8,323,343	
修繕費		12,733,830	
損害保険料		303,000	
広告宣伝費		79,800	
行事費		535,070	
諸会費		641,677	
公課費		1,291,824	
委託調査研究費		128,220	
文献複写費		373	
支払報酬費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		7,625,275	
支払手数料			
諸謝金	9,947,729	9,947,729	
奨学費			
奨学交付金（授業料）	5,386,950		
奨学交付金（入学金）	0		
奨学交付金（その他）	0		
留学生給与	0	5,386,950	
減価償却費		26,334,121	
資産除却損		0	

1 / 8



事業年度：20年度
支部：徳山工業高等専門学校
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
アドバイザー：総括
サポート：

損益計算書
平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

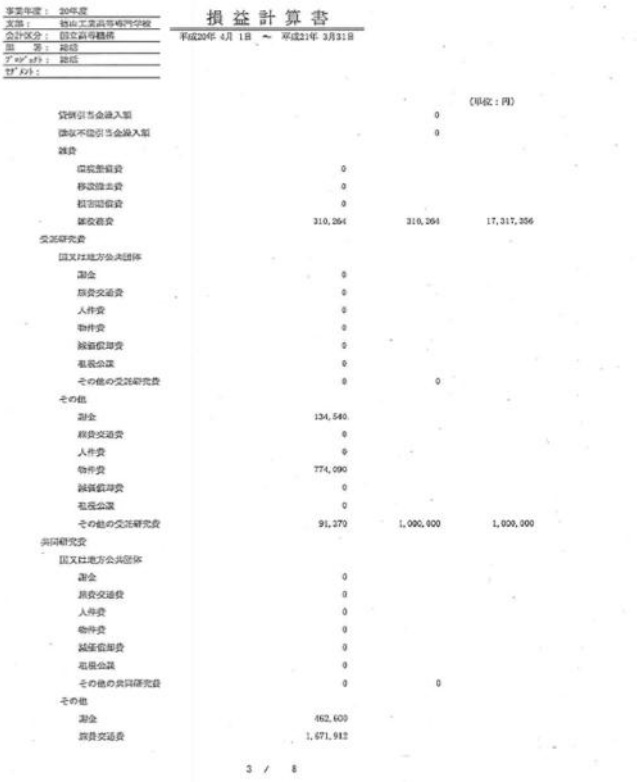
（単位：円）

貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	0		
移設維去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	12,173,749	12,173,749	224,320,743
教育研究支援経費			
消耗品費		2,452,958	
備品費		462,789	
印刷製本費		612,780	
水道光熱費			
電気料	178,602		
ガス料	111,547		
水道料	271,320	561,469	
旅費交通費		0	
通信運搬費		4,311,941	
賃借料		99,892	
車両燃料費		0	
福利厚生費		0	
保守費		523,303	
修繕費		972,602	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		0	
公課費		0	
支払報酬費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		0	
支払手数料			
諸謝金	79,764	79,764	
減価償却費		6,926,594	
資産除却損		0	

2 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－７　平成２０年度損益計算書２



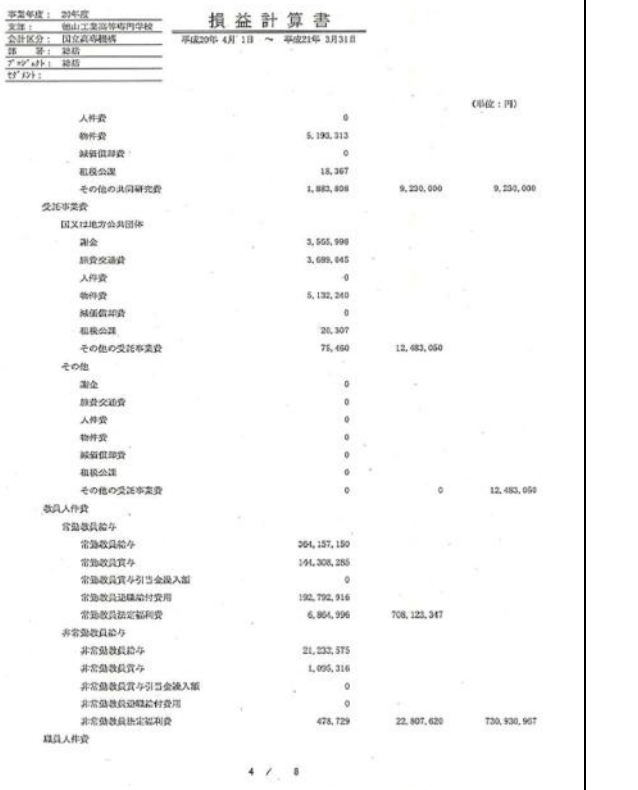
事業年度：20年度
支部：徳山工業高等専門学校
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
アドバイザー：総括
サポート：

損益計算書
平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	0		
移設維去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	310,264	310,264	17,317,356
受託研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託研究費	0	0	
その他			
謝金	134,540		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	774,090		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託研究費	91,370	1,000,000	1,000,000
共同研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の共同研究費	0	0	
その他			
謝金	462,600		
旅費交通費	1,671,912		

3 / 8



事業年度：20年度
支部：徳山工業高等専門学校
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
アドバイザー：総括
サポート：

損益計算書
平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

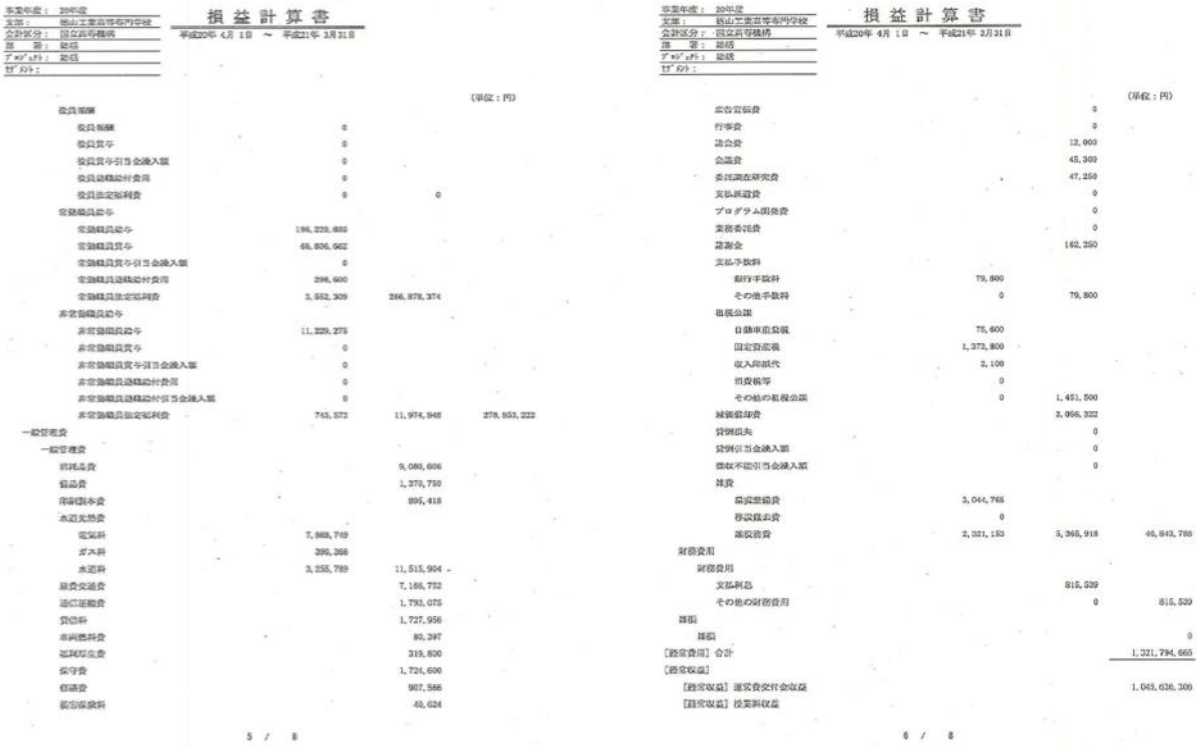
（単位：円）

人件費	0		
物件費	5,193,313		
減価償却費	0		
租税公課	18,367		
その他の共同研究費	1,883,808	9,230,000	9,230,000
受託事業費			
国又は地方公共団体			
謝金	3,555,998		
旅費交通費	3,689,045		
人件費	0		
物件費	5,132,240		
減価償却費	0		
租税公課	20,307		
その他の受託事業費	75,460	12,483,050	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0	0	12,483,050
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	364,157,150		
常勤教員賞与	194,308,285		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	192,792,916		
常勤教員法定福利費	6,864,996	708,123,347	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	21,233,575		
非常勤教員賞与	1,095,316		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	478,729	22,807,620	730,930,967
職員人件費			

4 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－８　平成２０年度損益計算書３



損 益 計 算 書

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員退職慰労金	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	196,228,883		
常勤職員賞与	66,836,962		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	296,600		
常勤職員退職給付引当金繰入額	3,552,309	266,878,374	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	11,229,275		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0		
非常勤職員福利厚生費	765,573	11,974,848	278,853,222
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		9,080,606	
備品費		1,378,750	
印刷製本費		895,418	
水道光熱費			
電気料	7,988,749		
ガス料	390,366		
水道料	3,255,789	11,515,904	
旅費交通費		7,166,752	
通信運搬費		1,793,075	
賃借料		1,727,956	
車両燃料費		80,397	
諸経費		319,830	
保守費		1,726,600	
会議費		907,566	
福利厚生費		46,624	

5 / 8

損 益 計 算 書

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

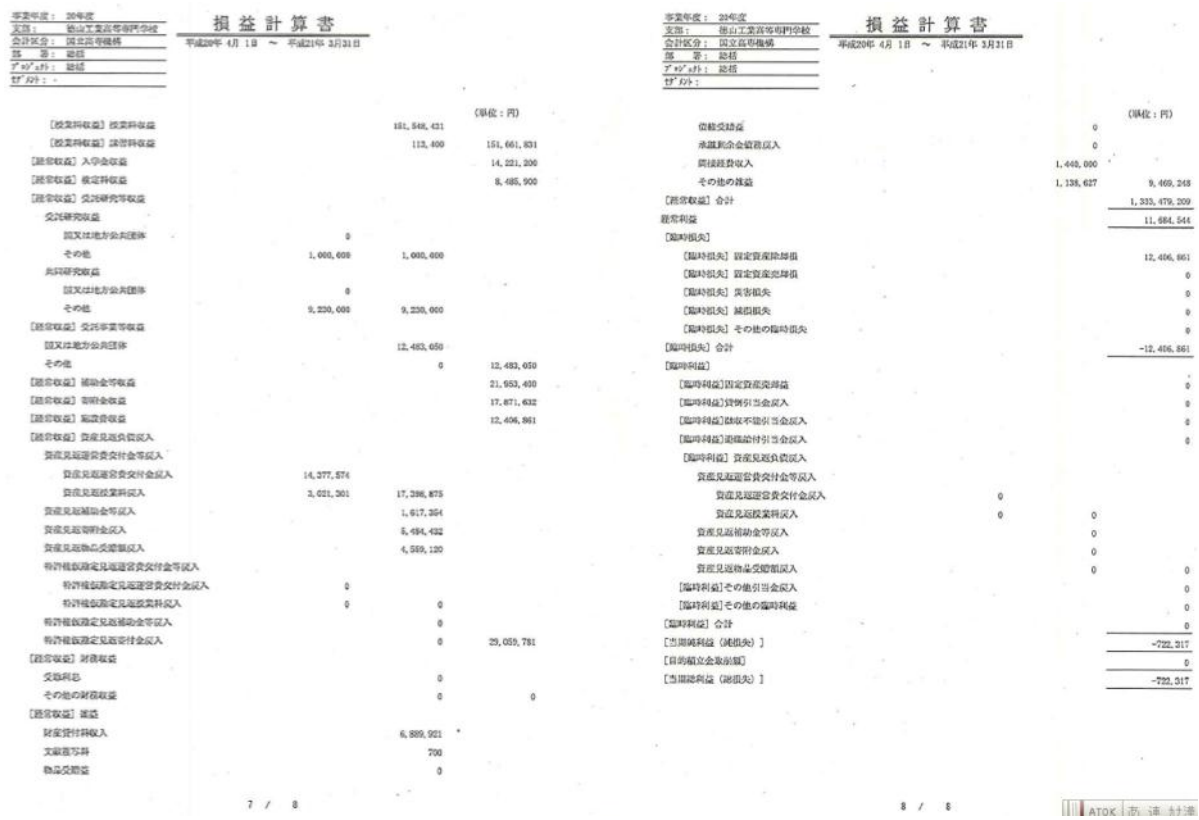
（単位：円）

広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		12,000	
公課費		45,300	
委託調査研究費		47,250	
支払振込費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		0	
雑損金		162,250	
支払手数料			
銀行手数料	79,800		
その他手数料	0	79,800	
租税公課			
自動車重量税	75,600		
固定資産税	1,373,800		
収入印紙代	2,100		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	1,451,500	
減価償却費		3,966,322	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	3,044,765		
移設撤去費	0		
諸経費等	2,321,153	5,365,918	46,843,788
財務費用			
財務費用			
支払利息		815,539	
その他の財務費用		0	815,539
雑損			
雑損			0
[経常費用] 合計			1,221,794,665
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			1,045,636,306
[経常収益] 授業料収益			

6 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－９　平成２０年度損益計算書４



損 益 計 算 書

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

（単位：円）

[授業料収益] 授業料収益		151,548,431	
[授業料収益] 諸管料収益		113,400	151,661,831
[経常収益] 入学金収益			14,221,200
[経常収益] 検定料収益			8,485,900
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	1,000,000	1,000,000	
共同研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	9,230,000	9,230,000	
[経常収益] 受託事業等収益			
国又は地方公共団体		12,483,050	
その他		0	12,483,050
[経常収益] 補助金等収益			21,953,400
[経常収益] 寄附金収益			17,871,632
[経常収益] 施設費収益			12,406,861
[経常収益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入			
資産見返運営費交付金戻入	14,277,574		
資産見返授業料戻入	3,021,301	17,298,875	
資産見返補助金等戻入		1,617,354	
資産見返寄附金戻入		5,494,432	
資産見返物品受贈額戻入		4,569,120	
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入			
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0		
特許権仮勘定見返授業料戻入	0	0	
特許権仮勘定見返補助金等戻入		0	
特許権仮勘定見返寄付金戻入		0	29,059,781
[経常収益] 財務収益			
受取利息		0	
その他の財務収益		0	0
[経常収益] 雑益			
財産貸付料収入		6,889,921	
文献複写料		700	
物品売却益		0	

7 / 8

損 益 計 算 書

平成20年 4月 1日 ～ 平成21年 3月31日

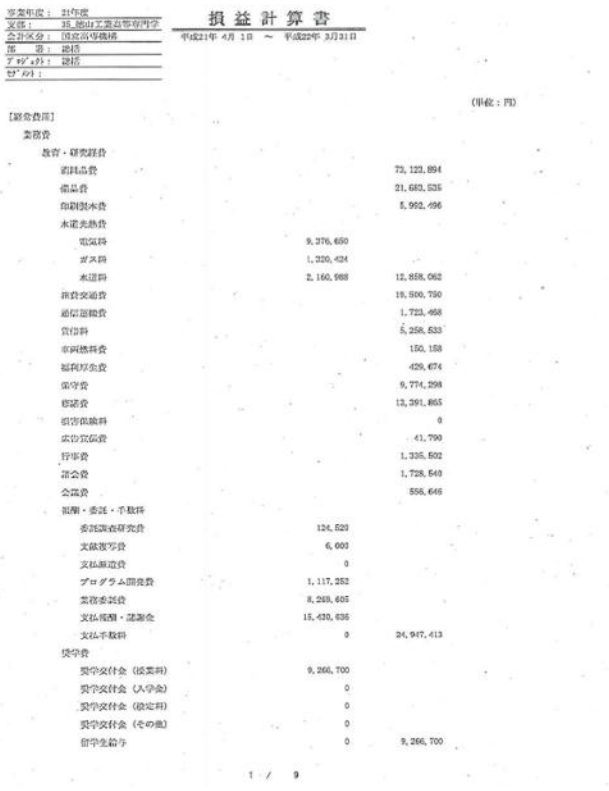
（単位：円）

宿舎受諾金	0		
承諾剰余金振替収入	0		
間接経費収入		1,440,000	
その他の雑益		1,138,627	9,469,248
[経常収益] 合計			1,333,479,209
経常利益			11,684,544
[臨時損失]			
[臨時損失] 固定資産除却損			12,406,861
[臨時損失] 固定資産売却損			0
[臨時損失] 災害損失			0
[臨時損失] 減損損失			0
[臨時損失] その他の臨時損失			0
[臨時損失] 合計			-12,406,861
[臨時利益]			
[臨時利益] 固定資産売却益			0
[臨時利益] 貸倒引当金戻入			0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入			0
[臨時利益] 退職給付引当金戻入			0
[臨時利益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入			
資産見返運営費交付金戻入	0		
資産見返授業料戻入	0	0	
資産見返補助金等戻入		0	
資産見返寄附金戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		0	0
[臨時利益] その他引当金戻入			0
[臨時利益] その他の臨時利益			0
[臨時利益] 合計			0
[当期純利益（純損失）]			-722,317
[目的積立金取崩額]			0
[当期総利益（総損失）]			-722,317

8 / 8

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１０　平成２１年度損益計算書１



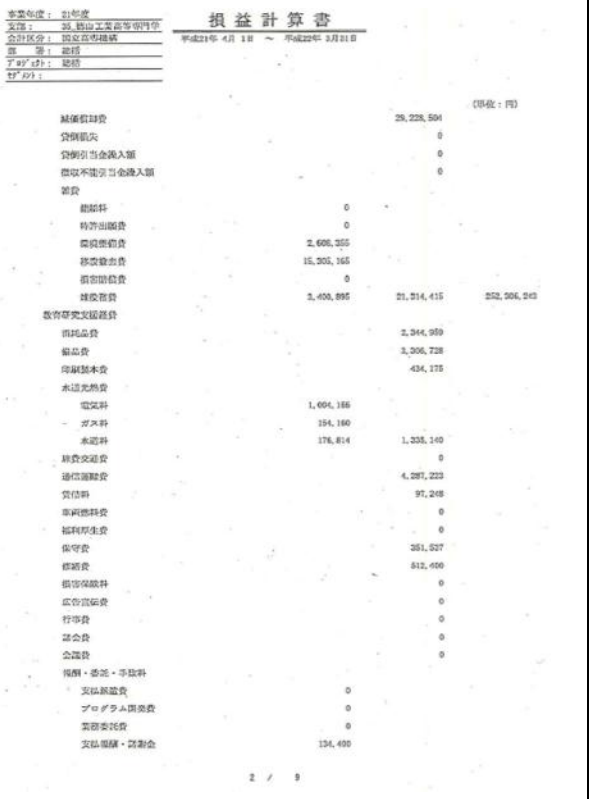
損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

[経常費用]		
業務費		
教育・研究経費		
消耗品費		73,123,894
備品費		21,683,535
印刷製本費		5,992,496
水道光熱費		
電気料	9,376,650	
ガス料	1,220,424	
水道料	2,160,988	12,858,062
旅費交通費		19,500,750
通信運搬費		1,723,458
賃借料		5,256,533
車両燃料費		150,158
福利厚生費		429,474
保守費		9,774,298
修繕費		13,391,865
損害保険料		0
広告宣伝費		41,790
行事費		1,335,502
諸会費		1,728,540
会議費		556,646
報酬・委託・手数料		
委託調査研究費	124,529	
支払報労費	6,000	
支払賠償金	0	
プログラム開発費	1,117,352	
業務委託費	8,269,405	
支払報酬・謝金	15,430,636	
支払手数料	0	24,947,413
奨学費		
奨学交付金（授業料）	9,266,700	
奨学交付金（入学金）	0	
奨学交付金（設定料）	0	
奨学交付金（その他）	0	
留学生給与	0	9,266,700

1 / 9



損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

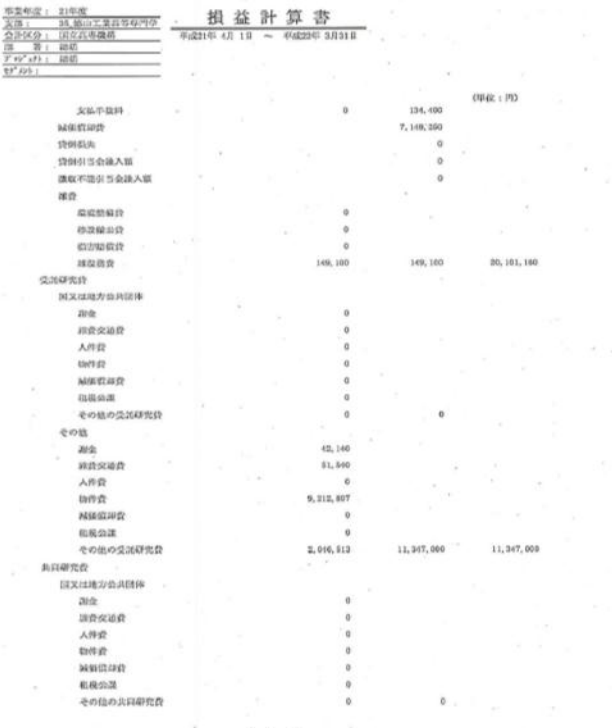
（単位：円）

減価償却費			29,228,594
資例損失			0
資例引当金繰入額			0
徴収不能引当金繰入額			0
諸費			
船舶料	0		
特許出願費	0		
環境整備費	2,606,355		
移転費用費	15,305,165		
損害賠償費	0		
雑損失費	3,400,895	21,314,415	252,306,243
教育研究支援経費			
消耗品費		2,344,959	
備品費		3,306,728	
印刷製本費		434,175	
水道光熱費			
電気料	1,604,186		
ガス料	154,160		
水道料	176,814	1,935,160	
旅費交通費		0	
通信運搬費		4,287,223	
賃借料		97,248	
車両燃料費		0	
福利厚生費		0	
保守費		351,527	
修繕費		812,400	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		0	
会議費		0	
報酬・委託・手数料			
支払賠償金	0		
プログラム開発費	0		
業務委託費	0		
支払報酬・謝金	134,400		

2 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１１　平成２１年度損益計算書２



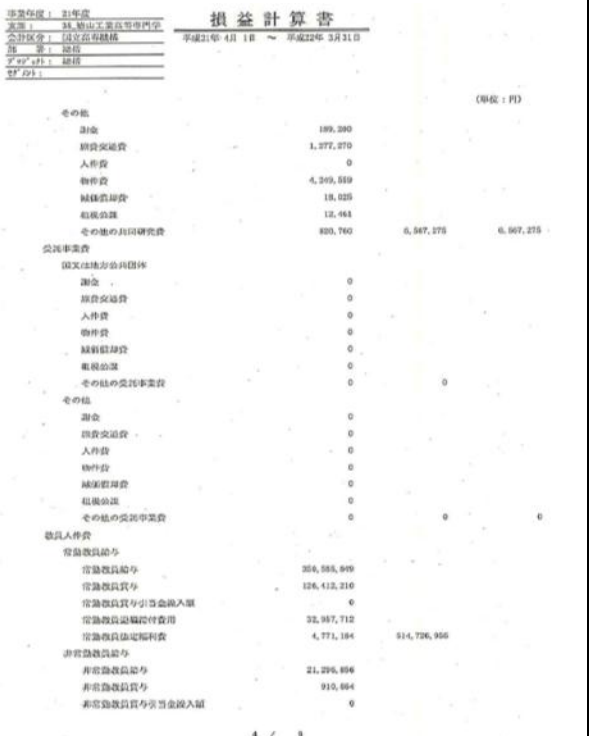
損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

支払手数料	0	134,400	
減価償却費		7,148,260	
資例損失		0	
資例引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	0		
移転費用費	0		
損害賠償費	0		
雑損失費	149,160	149,160	20,161,160
受託研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託研究費	0	0	
その他			
謝金	42,140		
旅費交通費	51,540		
人件費	0		
物件費	9,212,807		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託研究費	2,046,513	11,347,000	11,347,000
共同研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の共同研究費	0	0	

3 / 9



損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

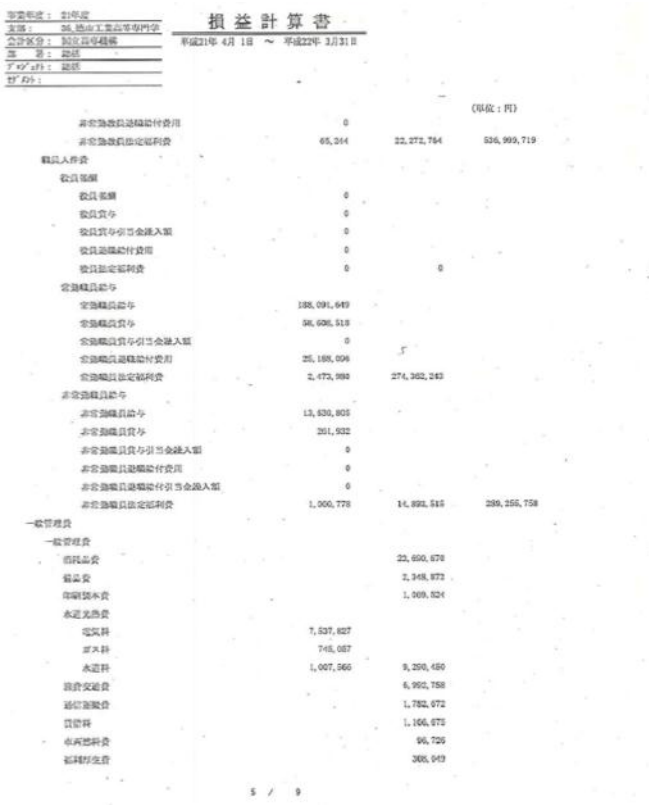
（単位：円）

その他			
謝金	189,390		
旅費交通費	1,277,270		
人件費	0		
物件費	4,349,559		
減価償却費	18,025		
租税公課	12,461		
その他の共同研究費	820,760	6,667,275	6,667,275
受託事業費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0	0	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0	0	0
役員人件費			
常勤役員給与			
常勤役員給与	356,585,909		
常勤役員賞与	126,412,210		
常勤役員賞与引当金繰入額	0		
常勤役員退職給付費用	32,987,712		
常勤役員法定福利費	4,771,184	514,726,955	
非常勤役員給与			
非常勤役員給与	21,296,856		
非常勤役員賞与	910,864		
非常勤役員賞与引当金繰入額	0		

4 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１２　平成２１年度損益計算書３



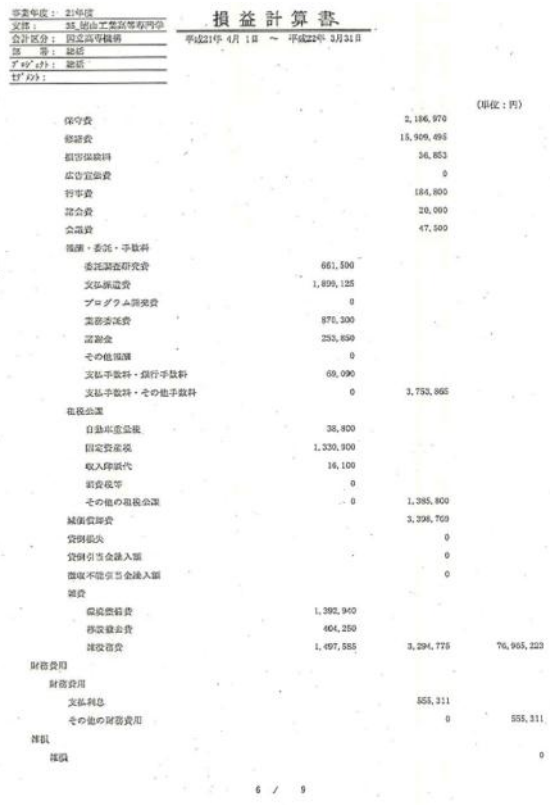
損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	65,244	22,272,764	536,999,719
職員人件費			
教員基頭			
教員基頭	0		
教員賞与	0		
教員賞与引当金繰入額	0		
教員退職給付費用	0		
教員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	188,091,649		
常勤職員賞与	98,606,518		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	25,185,606		
常勤職員法定福利費	2,473,988	274,362,243	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	13,630,805		
非常勤職員賞与	261,932		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0		
非常勤職員法定福利費	1,000,778	14,893,515	289,255,758
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		23,690,670	
備品費		2,348,872	
印刷製本費		1,309,524	
水道光熱費			
電気料	7,537,627		
ガス料	745,087		
水道料	1,007,566	9,290,480	
旅費交通費		6,992,758	
通信運搬費		1,782,672	
賃借料		1,166,675	
車両燃料費		96,726	
福利厚生費		365,949	

5 / 9



損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

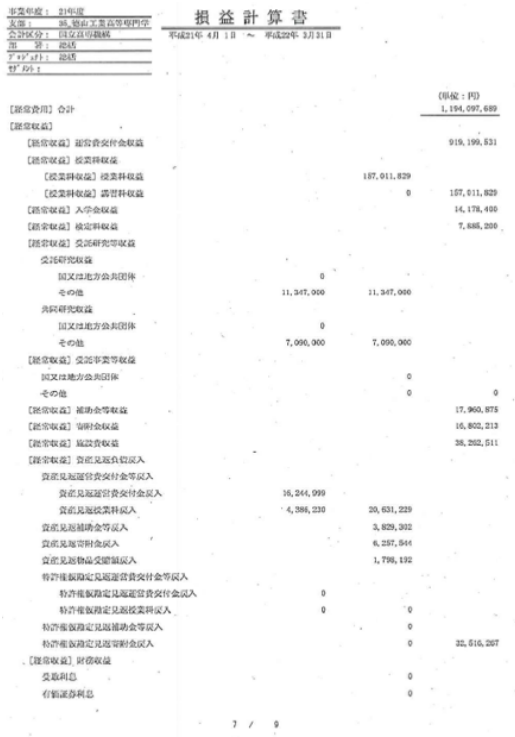
（単位：円）

保守費		2,186,970	
修繕費		15,909,495	
損害保険料		36,853	
広告宣伝費		0	
行事費		184,800	
諸会費		28,000	
会議費		47,500	
報酬・委託・手数料			
委託調査研究費	661,500		
支払報酬費	1,899,125		
プログラム開発費	0		
業務委託費	870,300		
謝金費	253,850		
その他報酬	0		
支払手数料・銀行手数料	69,090		
支払手数料・その他手数料	0	3,753,865	
租税公課			
自動車重量税	38,800		
固定資産税	1,330,900		
収入印紙代	16,100		
罰金税等	0		
その他の租税公課	0	1,385,800	
減価償却費		3,296,769	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
保険料雑費	1,392,960		
移設費雑費	404,250		
雑役務費	1,497,585	3,294,775	76,965,223
財務費用			
財務費用			
支払利息		555,311	
その他の財務費用		0	555,311
雑損			
雑損			0

6 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１３　平成２１年度損益計算書４



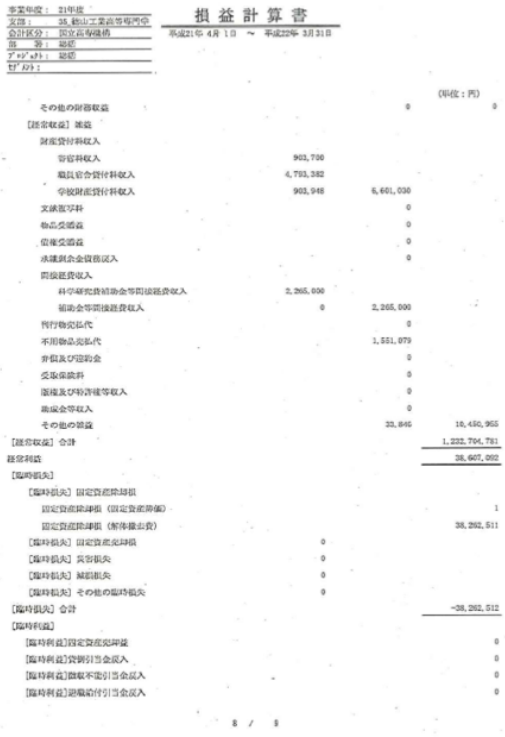
損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

（単位：円）

[財務費用] 合計			1,194,097,689
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			919,199,531
[経常収益] 授業料収益			
[授業料収益] 授業料収益		187,011,829	
[授業料収益] 減免料収益		0	187,011,829
[経常収益] 入学金収益			14,178,400
[経常収益] 検定料収益			7,886,200
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	11,347,000	11,347,000	
共同研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	7,090,000	7,090,000	
[経常収益] 受託事業等収益			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
[経常収益] 補助金等収益			17,960,875
[経常収益] 寄附金収益			16,802,213
[経常収益] 施設費収益			38,262,511
[経常収益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入			
資産見返運営費交付金戻入	16,244,999		
資産見返授業料戻入	4,386,230	20,631,229	
資産見返補助金等戻入		3,829,302	
資産見返寄附金戻入		6,257,544	
資産見返物品受贈額戻入		1,798,192	
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入			
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0		
特許権仮勘定見返授業料戻入	0	0	
特許権仮勘定見返補助金等戻入		0	
特許権仮勘定見返寄附金戻入		0	32,516,267
[経常収益] 財務収益			
受取利息		0	
有価証券利息		0	

7 / 9



損 益 計 算 書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

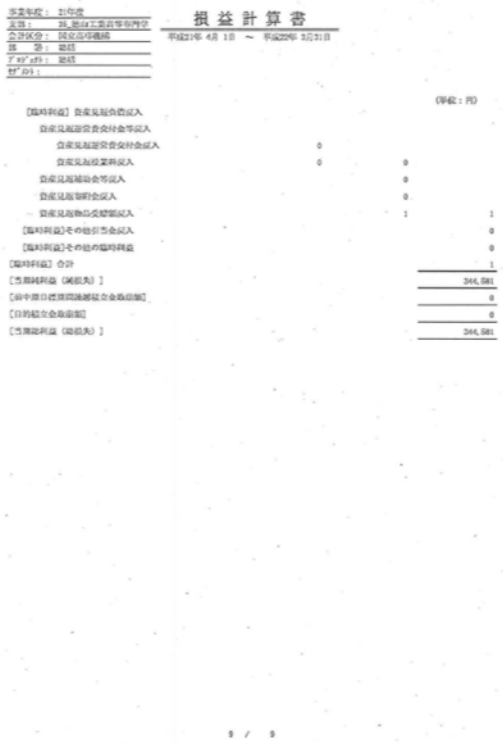
（単位：円）

その他の財務収益		0	0
[経常収益] 雑益			
財産貸付料収入			
寄宿料収入	963,700		
職員宿舎貸付料収入	4,793,382		
学校財産貸付料収入	903,948	6,661,030	
文献複写料		0	
物品受贈益		0	
債権受贈益		0	
承継剰余金償還戻入		0	
間接経費収入			
科学研究費補助金等間接経費収入	2,265,000		
補助金等間接経費収入	0	2,265,000	
刊行物売払代		0	
不用物品売払代		1,551,079	
弁償及び賠償金		0	
受取保険料		0	
版権及び特許権等収入		0	
廃棄物等収入		0	
その他の雑益		33,846	10,450,955
[経常収益] 合計			1,232,704,781
経常利益			38,607,092
[臨時損失]			
[臨時損失] 固定資産除却損			
固定資産除却損（固定資産簿価）			1
固定資産除却損（解体撤去費）			38,262,511
[臨時損失] 固定資産売却損	0		
[臨時損失] 貸倒損失	0		
[臨時損失] 減損損失	0		
[臨時損失] その他の臨時損失	0		
[臨時損失] 合計			-38,262,512
[臨時利益]			
[臨時利益] 固定資産売却益			0
[臨時利益] 貸倒引当金戻入			0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入			0
[臨時利益] 退職給付引当金戻入			0

8 / 9

出典：財務会計システム

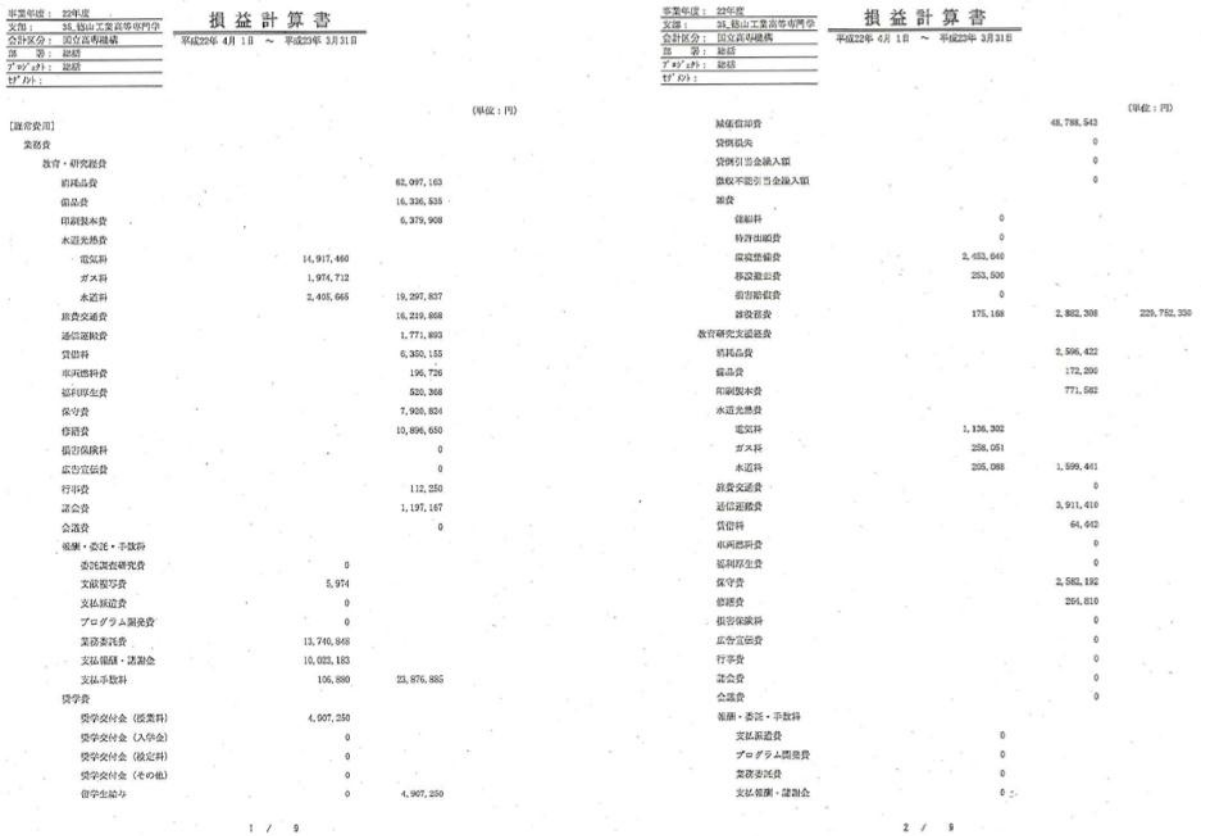
資料１０－２－②－１４　平成２１年度損益計算書５



損 益 計 算 書

出典：財務会計システム

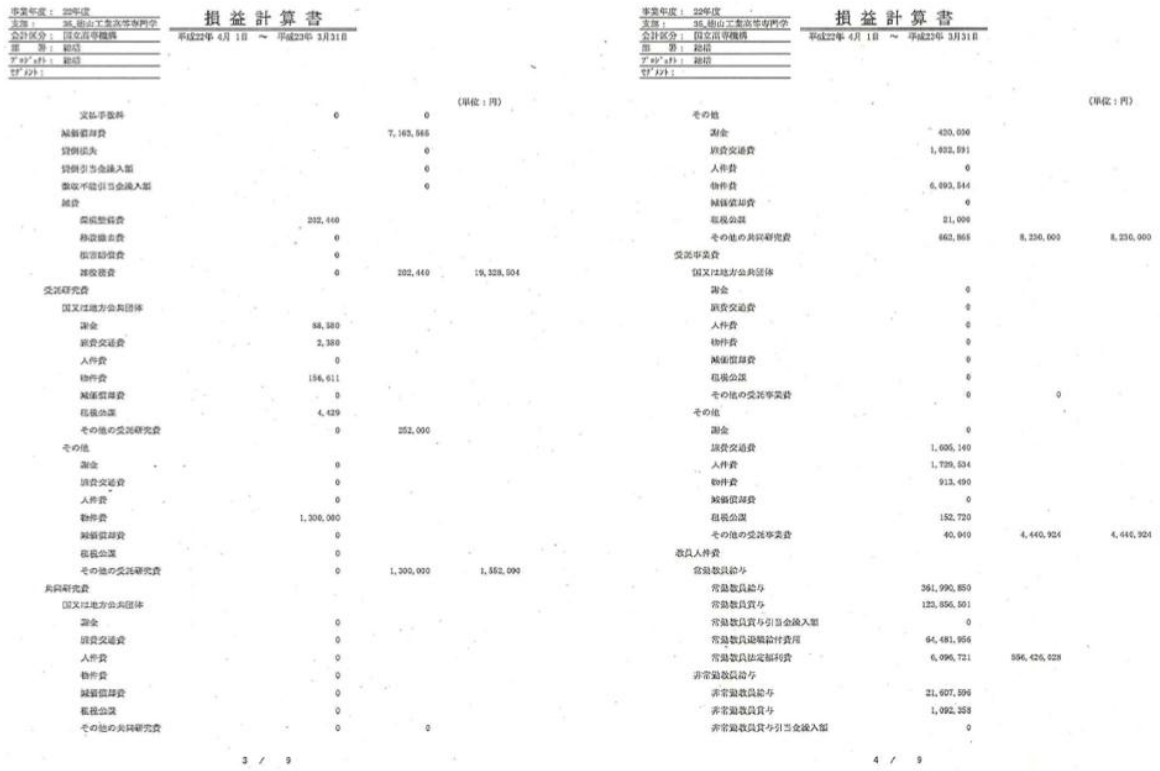
資料１０－２－②－１５　平成２２年度損益計算書１



損 益 計 算 書

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１６　平成２２年度損益計算書２



損 益 計 算 書

事業年度： 22年度
支部： 36_徳山工業高等専門学
会計区分： 国立高等機構
部　署： 総務
ｱｶｳﾝﾄ： 総務
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

支払手数料	0	0	
減価償却費		7,165,565	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
廃棄物処理費	202,440		
移設費用	0		
仮受勘定費	0		
雑役務費	0	202,440	19,328,504
受託研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	88,380		
旅費交通費	2,380		
人件費	0		
物件費	156,611		
減価償却費	0		
租税公課	4,629		
その他の受託研究費	0	252,000	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	1,300,000		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託研究費	0	1,300,000	1,552,000
共同研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の共同研究費	0	0	

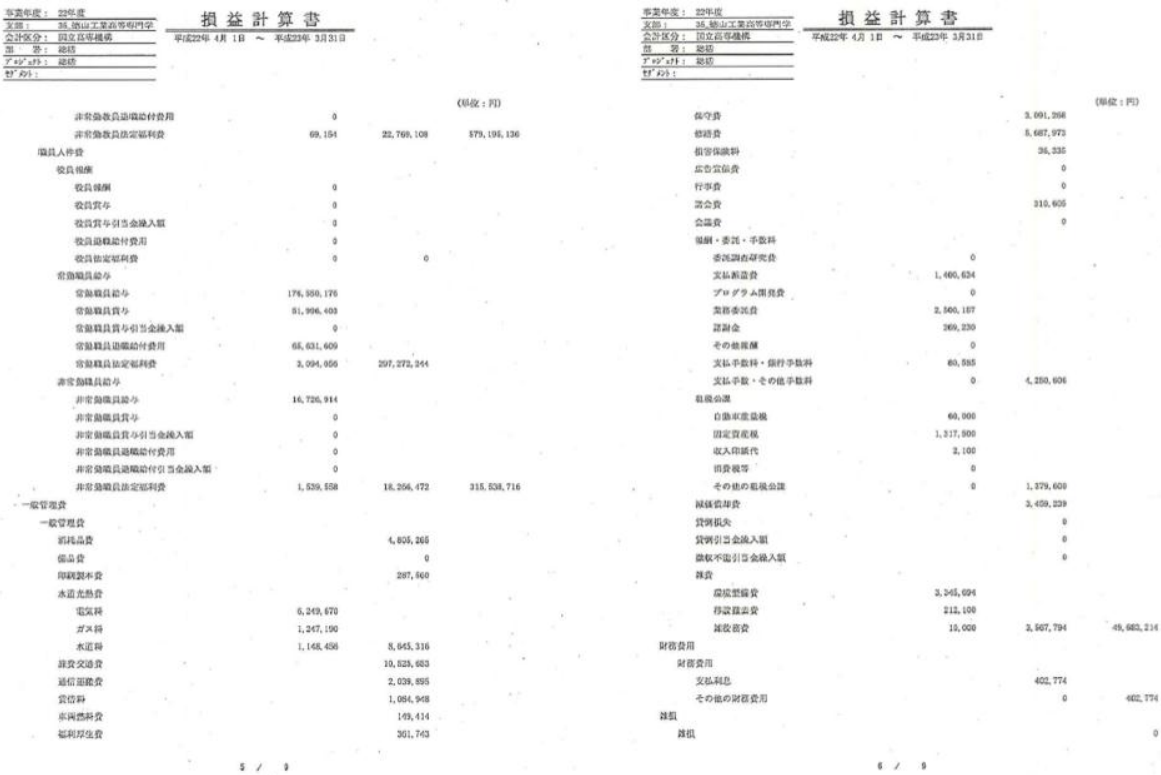
3 / 9

その他			
謝金	420,000		
旅費交通費	1,032,891		
人件費	0		
物件費	6,093,544		
減価償却費	0		
租税公課	21,006		
その他の共同研究費	662,865	8,230,000	8,230,000
受託事業費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0	0	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	1,605,140		
人件費	1,729,534		
物件費	913,490		
減価償却費	0		
租税公課	152,720		
その他の受託事業費	40,040	4,440,924	4,440,924
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	361,990,850		
常勤教員賞与	123,856,501		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	64,481,956		
常勤教員法定福利費	6,096,721	556,426,028	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	21,607,396		
非常勤教員賞与	1,092,358		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		

4 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１７　平成２２年度損益計算書３



損 益 計 算 書

事業年度： 22年度
支部： 36_徳山工業高等専門学
会計区分： 国立高等機構
部　署： 総務
ｱｶｳﾝﾄ： 総務
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	69,154	22,769,108	579,195,136
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	176,950,176		
常勤職員賞与	51,906,403		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	65,631,609		
常勤職員法定福利費	3,094,666	297,272,344	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	16,726,914		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0		
非常勤職員法定福利費	1,539,558	18,266,472	315,538,716
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		4,805,265	
備品費		0	
印刷製本費		297,560	
水道光熱費			
電気料	6,249,670		
ガス料	1,247,190		
水道料	1,148,456	8,645,316	
旅費交通費		10,825,683	
通信運搬費		2,039,895	
賃借料		1,084,948	
車両燃料費		149,414	
福利厚生費		361,743	

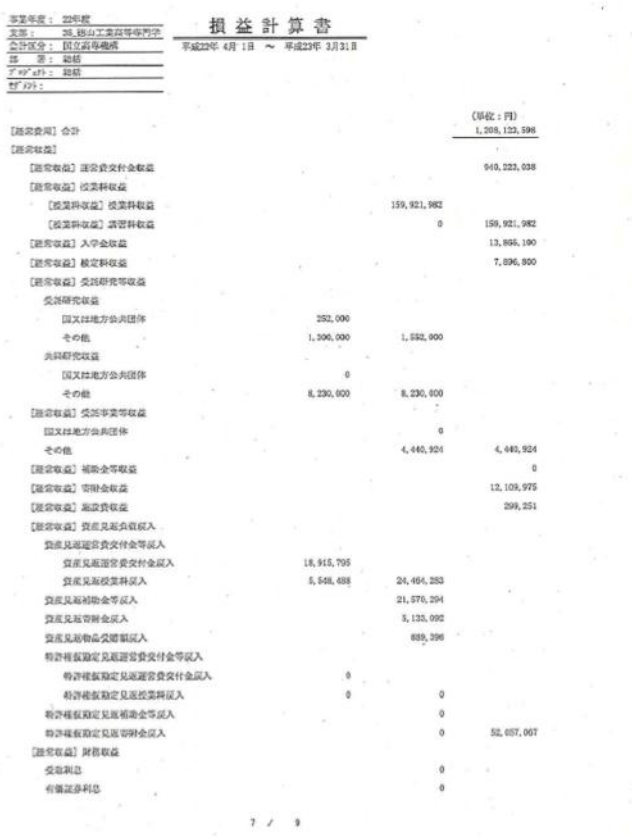
5 / 9

保守費		3,091,268	
修繕費		5,687,973	
損害保険料		36,335	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		310,605	
会議費		0	
報酬・委託・手数料			
委託調査研究費	0		
支払報酬費	1,466,634		
プログラム開発費	0		
業務委託費	2,860,187		
謝金	269,230		
その他報酬	0		
支払手数料・銀行手数料	60,585		
支払手数・その他手数料	0	4,250,606	
租税公課			
自動車重量税	60,000		
固定資産税	1,317,900		
収入印紙代	2,100		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	1,379,600	
減価償却費		3,459,229	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
廃棄物処理費	3,345,694		
移設撤去費	213,100		
雑役務費	10,000	3,567,794	49,683,214
財務費用			
財務費用			
支払利息		402,774	
その他の財務費用		0	402,774
雑損			
雑損			0

6 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１８　平成２２年度損益計算書４



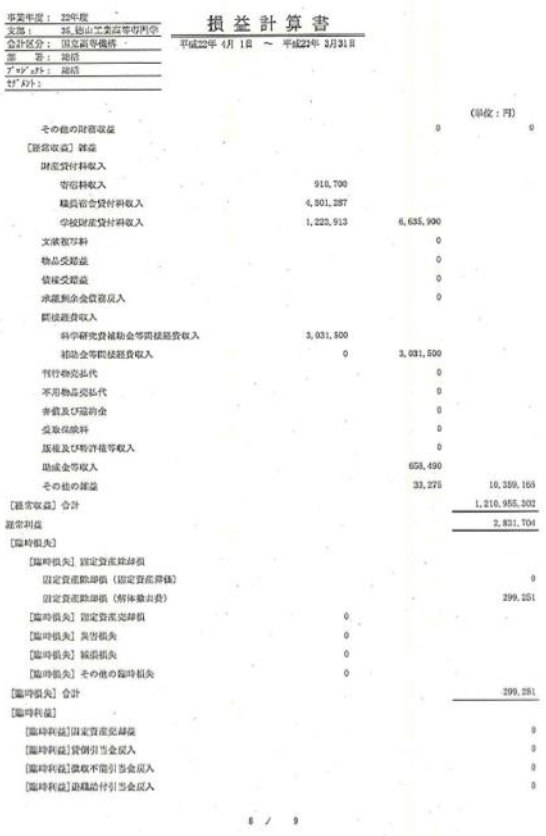
損 益 計 算 書

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

[通常費用] 合計			1,208,123,596
[通常収益]			
[通常収益] 運営費交付金収益			940,223,038
[通常収益] 授業料収益			
[授業料収益] 授業料収益		159,921,982	
[授業料収益] 講習料収益		0	159,921,982
[通常収益] 入学金収益			13,895,190
[通常収益] 検定料収益			7,896,900
[通常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益			
国又は地方公共団体	252,000		
その他	1,300,000	1,552,000	
共同研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	8,230,000	8,230,000	
[通常収益] 受託事業等収益			
国又は地方公共団体		0	
その他		4,440,924	4,440,924
[通常収益] 補助金等収益			0
[通常収益] 寄附金収益			12,109,975
[通常収益] 施設費収益			299,251
[通常収益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入			
資産見返運営費交付金戻入	18,915,795		
資産見返授業料戻入	5,548,488	24,464,283	
資産見返補助金等戻入		21,576,294	
資産見返寄附金戻入		5,135,092	
資産見返物品受贈額戻入		889,396	
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入			
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0		
特許権仮勘定見返授業料戻入	0	0	
特許権仮勘定見返補助金等戻入		0	
特許権仮勘定見返寄附金戻入		0	52,057,067
[通常収益] 財務収益			
受取利息		0	
有価証券利息		0	

7 / 9



損 益 計 算 書

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

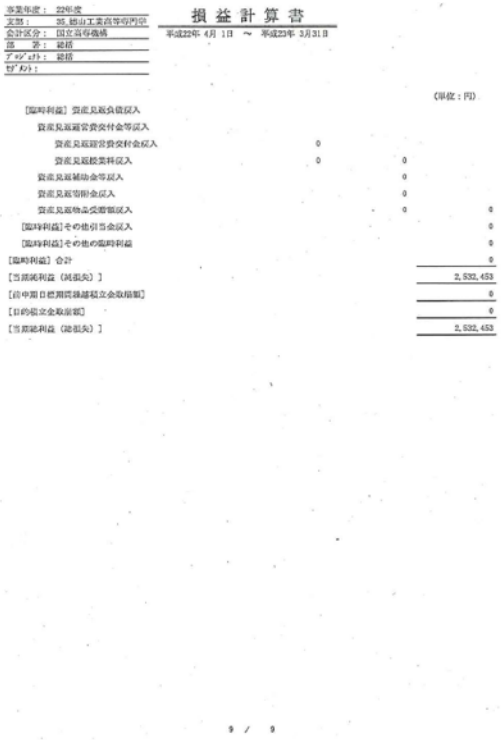
（単位：円）

その他の財務収益		0	0
[通常収益] 雑益			
財産貸付料収入			
寄宿料収入	916,700		
職員宿舎貸付料収入	4,801,287		
学校財産貸付料収入	1,223,913	6,635,900	
文献複写料		0	
物品受贈益		0	
債権受贈益		0	
承継剰余金償還戻入		0	
間接経費収入			
科学研究費補助金等間接経費収入	3,031,500		
補助金等間接経費収入	0	3,031,500	
雑行物売払代		0	
不用物品売払代		0	
賠償及び違約金		0	
受取保険料		0	
版権及び特許権等収入		0	
助成金等収入		658,490	
その他の雑益		33,275	10,359,165
[通常収益] 合計			1,210,955,202
通常利益			2,831,704
[臨時損失]			
[臨時損失] 固定資産除却損			
固定資産除却損（固定資産除籍）			0
固定資産除却損（解体撤去費）			299,251
[臨時損失] 固定資産売却損		0	
[臨時損失] 災害損失		0	
[臨時損失] 減損損失		0	
[臨時損失] その他の臨時損失		0	
[臨時損失] 合計			299,251
[臨時利益]			
[臨時利益] 固定資産売却益			0
[臨時利益] 貸倒引当金戻入			0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入			0
[臨時利益] 退職給付引当金戻入			0

8 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－１９　平成２２年度損益計算書５



損 益 計 算 書

平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日

（単位：円）

[臨時利益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入			
資産見返運営費交付金戻入	0		
資産見返授業料戻入	0	0	
資産見返補助金等戻入		0	
資産見返寄附金戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		0	0
[臨時利益] その他引当金戻入			0
[臨時利益] その他の臨時利益			0
[臨時利益] 合計			0
[当期純利益（純損失）]			2,532,453
[前中期目標期間繰越積立金取崩額]			0
[目的積立金取崩額]			0
[当期純利益（純損失）]			2,532,453

9 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－２０　平成２３年度損益計算書１



事業年度：23年度
文部：35,徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　署：総括
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：総括
ｻﾞﾊﾟﾝ：

損益計算書

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

（単位：円）

[経常費用]		
業務費		
教育・研究経費		
消耗品費		67,688,738
備品費		19,905,646
印刷製本費		5,378,963
水道光熱費		
電気料	14,305,881	
ガス料	3,960,636	
水道料	2,459,902	19,626,419
旅費交通費		27,189,309
通信運搬費		2,133,328
賃借料		5,900,670
車両燃料費		325,981
福利厚生費		834,254
保守費		6,270,355
修繕費		19,071,105
損害保険料		0
広告宣伝費		31,500
行事費		0
諸会費		2,001,458
会議費		0
報酬・委託・手数料		
委託調査研究費	70,000	
支払報酬費	14,902	
支払派遣費	0	
プログラム開発費	0	
業務委託費	14,905,608	
支払報酬・謝金	4,792,200	
支払手数料	323,000	19,905,710
奨学費		
奨学交付金（授業料）	4,983,000	
奨学交付金（入学金）	84,600	
奨学交付金（検定料）	0	
奨学交付金（その他）	0	
留学生給与	0	5,067,600

1 / 9

事業年度：23年度
文部：35,徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　署：総括
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：総括
ｻﾞﾊﾟﾝ：

損益計算書

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

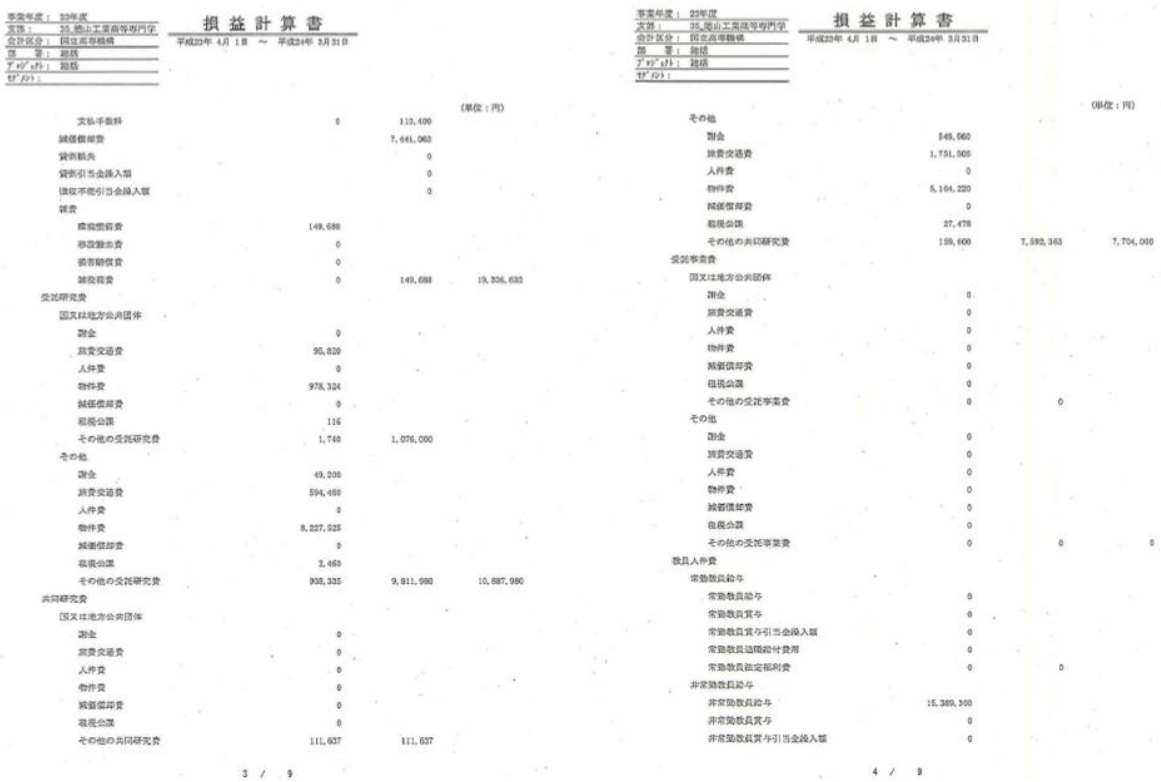
（単位：円）

減価償却費		96,009,245	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
備蓄料	0		
特許出願費	0		
環境整備費	2,226,021		
移設搬出費	18,916,683		
損害賠償費	0		
雑役務費	185,688	21,326,392	277,866,799
教育研究支援経費			
消耗品費		3,322,084	
備品費		1,246,475	
印刷製本費		529,794	
水道光熱費			
電気料	1,046,150		
ガス料	263,960		
水道料	183,579	1,493,689	
旅費交通費		286,160	
通信運搬費		3,852,012	
賃借料		99,839	
車両燃料費		0	
福利厚生費		0	
保守費		551,163	
修繕費		166,950	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		27,915	
会議費		0	
報酬・委託・手数料			
支払派遣費	0		
プログラム開発費	0		
業務委託費	0		
支払報酬・謝金	110,400		

2 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－２１　平成２３年度損益計算書２



事業年度：23年度
文部：35,徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　署：総括
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：総括
ｻﾞﾊﾟﾝ：

損益計算書

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

（単位：円）

支払手数料	0	113,400	
減価償却費		7,441,063	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	149,688		
移設搬出費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	0	149,688	19,836,633
受託研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	95,820		
人件費	0		
物件費	978,324		
減価償却費	0		
租税公課	116		
その他の受託研究費	1,749	1,076,009	
その他			
謝金	49,200		
旅費交通費	594,469		
人件費	0		
物件費	8,227,525		
減価償却費	0		
租税公課	2,469		
その他の受託研究費	938,335	9,811,980	10,887,989
共同研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の共同研究費	111,637	111,637	

3 / 9

事業年度：23年度
文部：35,徳山工業高等専門学
会計区分：国立高等機関
部　署：総括
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：総括
ｻﾞﾊﾟﾝ：

損益計算書

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

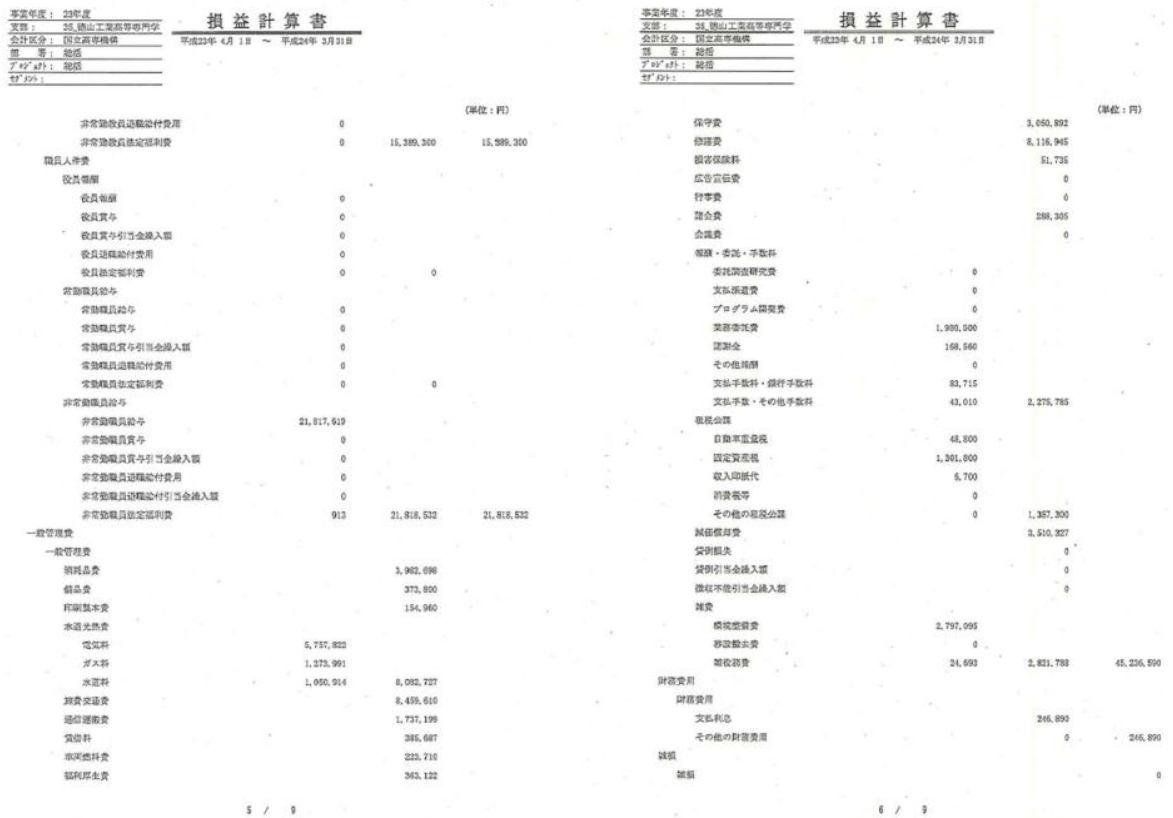
（単位：円）

その他			
謝金	549,960		
旅費交通費	1,751,505		
人件費	0		
物件費	5,104,220		
減価償却費	0		
租税公課	27,478		
その他の共同研究費	159,600	7,592,363	7,704,000
受託事業費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0	0	
その他			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0	0	0
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	0		
常勤教員賞与	0		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	0		
常勤教員法定福利費	0	0	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	15,389,300		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		

4 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－２２　平成２３年度損益計算書３



事業年度：23年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｻﾌﾞｾｸﾄ：

損益計算書
平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

（単位：円）

非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	0	15,389,300	15,389,300
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	0		
常勤職員賞与	0		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	0		
常勤職員法定福利費	0	0	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	21,817,619		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0		
非常勤職員法定福利費	913	21,818,532	21,818,532
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		3,962,698	
備品費		373,800	
印刷製本費		154,960	
水道光熱費			
電気料	5,757,822		
ガス料	1,373,991		
水道料	1,950,914	9,082,727	
雑費支払費		8,459,610	
通信運搬費		1,737,199	
賃借料		385,687	
車両燃料費		223,710	
福利厚生費		363,122	

5 / 9

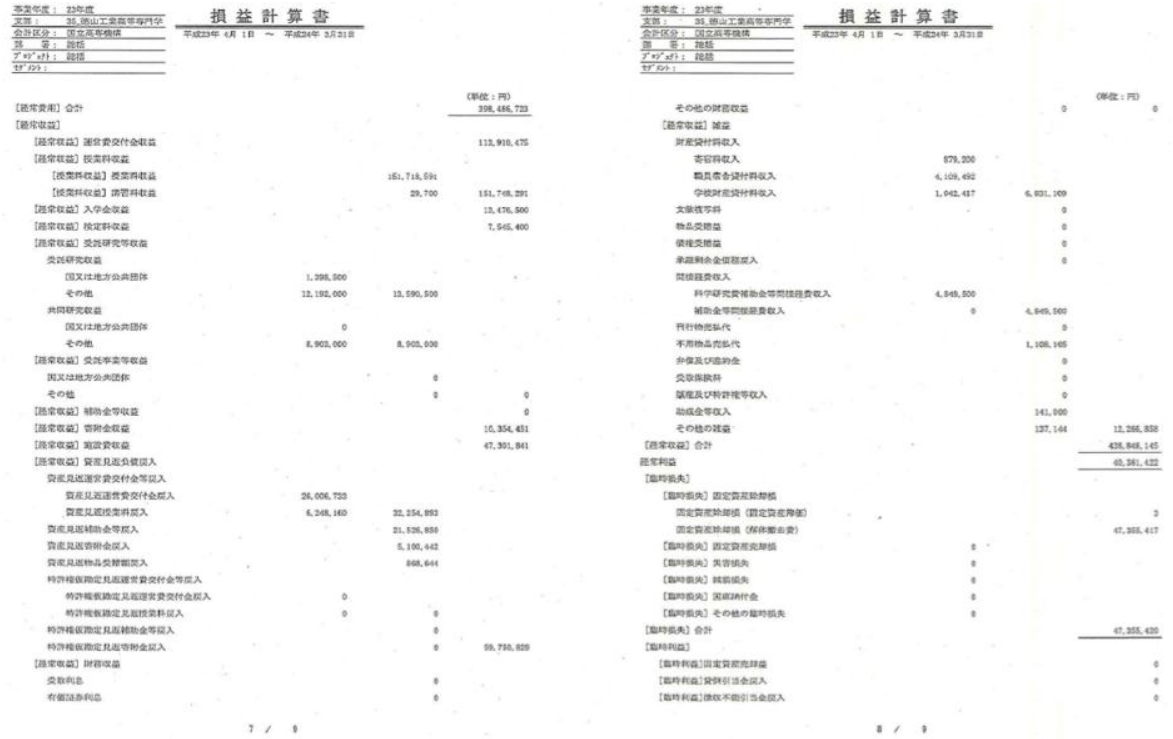
（単位：円）

保守費		3,650,892	
修繕費		8,116,945	
損害保険料		51,735	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		288,305	
会議費		0	
報酬・委託・手数料			
委託開発研究費	0		
支払旅費費	0		
プログラム開発費	0		
業務委託費	1,999,500		
諸謝金	168,560		
その他報酬	0		
支払手数料・銀行手数料	83,715		
支払手数・その他手数料	43,010	2,275,785	
租税公課			
自動車重量税	48,800		
固定資産税	1,301,800		
収入印紙代	5,700		
納貢税等	0		
その他の租税公課	0	1,357,300	
減価償却費		3,510,327	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
機械整備費	2,797,095		
移設撤去費	0		
雑役務費	24,693	2,821,788	45,236,590
財務費用			
財務費用			
支払利息		246,890	
その他の財務費用		0	246,890
雑損			
雑損			0

6 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－２３　平成２３年度損益計算書４



事業年度：23年度
支部：35.徳山工業高等専門学
会計区分：国立高専機構
部　署：総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：総括
ｻﾌﾞｾｸﾄ：

損益計算書
平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

（単位：円）

[経常費用] 合計			398,486,723
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			113,910,475
[経常収益] 授業料収益			
[授業料収益] 授業料収益		151,718,591	
[授業料収益] 徴管料収益		29,700	151,748,291
[経常収益] 入学金収益			13,476,500
[経常収益] 検定料収益			7,545,400
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益			
国又は地方公共団体	1,398,500		
その他	12,192,000	13,590,500	
共同研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	8,903,000	8,903,000	
[経常収益] 受託事業等収益			
国又は地方公共団体		0	
その他		0	0
[経常収益] 補助金等収益			0
[経常収益] 寄附金収益			10,354,451
[経常収益] 施設費収益			47,391,841
[経常収益] 資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入			
資産見返運営費交付金戻入	26,006,753		
資産見返授業料戻入	6,248,160	32,254,893	
資産見返補助金等戻入		21,526,859	
資産見返寄附金戻入		5,100,642	
資産見返物品受贈額戻入		868,644	
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入			
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0		
特許権仮勘定見返授業料戻入	0	0	
特許権仮勘定見返補助金等戻入		0	
特許権仮勘定見返寄附金戻入		0	59,750,809
[経常収益] 財務収益			
受取利息		0	
有価証券利息		0	

7 / 9

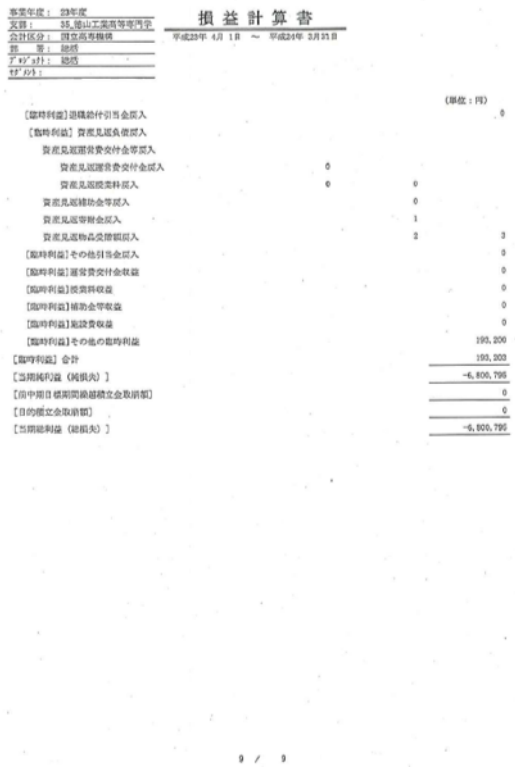
（単位：円）

その他の財務収益		0	0
[経常収益] 雑益			
財産貸付料収入			
寄宿料収入	979,200		
職員寄舎貸付料収入	4,109,492		
学校財産貸付料収入	1,042,417	6,931,109	
文献複写料		0	
物品売払益		0	
債権売却益		0	
承継剰余金償却戻入		0	
間接経費収入			
科学研究費補助金等間接経費収入	4,949,500		
補助金等間接経費収入	0	4,949,500	
刊行物売払代		0	
不用物品売払代		1,108,165	
弁償及び賠償金		0	
受取保険料		0	
国庫及び特許権等収入		0	
助成金等収入		141,000	
その他の雑益		127,144	12,256,858
[経常収益] 合計			435,848,145
経常利益			49,361,422
[臨時損失]			
[臨時損失] 固定資産除却損			
固定資産除却損（固定資産除却）			3
固定資産除却損（解体撤去費）			47,355,417
[臨時損失] 固定資産売却損	0		
[臨時損失] 災害損失	0		
[臨時損失] 減損損失	0		
[臨時損失] 国庫納付金	0		
[臨時損失] その他の臨時損失	0		
[臨時損失] 合計			47,355,420
[臨時利益]			
[臨時利益] 固定資産売却益			0
[臨時利益] 貸倒引当金戻入			0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入			0

8 / 9

出典：財務会計システム

資料１０－２－②－２４　平成２３年度損益計算書５



事業年度：　23年度
会計：　35,徳山工業高等専門学
会計区分：　国立高専機構
部　署：　総括
ｱｶｳﾝﾄ：　総括
ｻﾌﾞｶﾝ：

損益計算書

平成23年 4月 1日 ～ 平成24年 3月31日

（単位：円）

[臨時利益]退職給付引当金戻入		0
[臨時利益]資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入		
資産見返運営費交付金戻入	0	
資産見返授業料戻入	0	0
資産見返補助金等戻入		0
資産見返寄附金戻入		1
資産見返物品受贈額戻入		2
[臨時利益]その他引当金戻入		3
[臨時利益]運営費交付金収益		0
[臨時利益]授業料収益		0
[臨時利益]補助金等収益		0
[臨時利益]施設費収益		0
[臨時利益]その他の臨時利益		193,200
[臨時利益] 合計		193,203
[当期純利益（純損失）]		-6,800,795
[当中期目標期間繰越積立金取崩額]		0
[目的積立金取崩額]		0
[当期総利益（総損失）]		-6,800,795

9 / 9

出典：財務会計システム

（分析結果とその根拠理由）

財務会計システムにより常に予算を把握しながら執行を行っている。予算配分額，執行済額および残額を確認しながら予算執行を行っていることから，収支の状況において，過大な支出超過となっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

学内の予算配分では，限られた資源を効果的に配分するため，競争的資金を確保するとともに各学科，情報処理センター，図書館，事務部等へ事業年度の状況に応じ重点配分している(資料１０－２－①－１，２)。校長裁量経費（特別研究促進費，論文掲載料助成，特別教育設備整備費，学外共同研究推進制度，学会等発表旅費助成制度および在外研究員補助費）（資料１０－２－③－１）により教育研究活動の活性化とその環境の整備を図っている。競争的資金による研究は，本校の目的を達成する有効な手段であると同時に，共同研究への発展や科学研究費補助金への応募が見込まれるなど，外部資金を獲得する上でも有効に機能している。

資料１０－２－③－１　学内競争的資金(校長裁量経費)の概要

学内競争的資金の概要　　2012．1．12現在

名　　称	適　　用	研究期間	申請限度額	申請期限	予算額	備考
特別研究促進費	先端的、独創的な発想により社会の要請に応える研究への助成	1～3年	個人　150万円 共同　300万円	２月末日 （申請書提出後にプレゼンテーションを実施）	２，０００万円	報告書の作成，テクノ年報掲載及び成果発表の義務有り
〃	論文発表を促進するための助成（査読付論文で掲載料等を支払った場合に限る）	単年度	1件　4万円	随　時		
〃	特殊な要因による教育・研究活動助成（先進的な教育・研究活動で，特殊な要因により緊急性及び必要性が高いが，経済的事由により実施に支障が生じる場合）	単年度	要因により適正な額	４月末日とし選考を行うが，申請は当該事由の発生した都度		報告書の作成
特別教育設備整備費	先進的、国際的な教育を推進するための設備整備への助成	単年度	1組織　150万円 複数組織300万円	２月末日 （申請書提出後にプレゼンテーションを実施）	５００万円程度 （当初予算配分時に決定）	報告書の作成
学外共同研究推進制度	民間等外部機関との共同研究への一部助成（当該年度共同研究契約締結者）	単年度	40万円 （受入額の範囲内）	原則当年度の ９月３０日	４００万円	報告書の作成，テクノ年報掲載の義務有り
学会等発表旅費助成制度	代表者として学会等で発表するための出張に対する助成（委任経理金，科学研究費補助金による出張は除く。）	単年度	交通費相当額	随　時 旅行命令簿に，代表者として発表することが確認できる書類を添付	１５０万円	

詳しくは，本校ホームページ→教職員限定→徳山高専事務部初期ページ→研究・寄附金・研究者関係内でご確認下さい。
お問い合わせは，**地域連携推進係（内線６２２７）**へ。

出典：総務課資料

（ａ）学内基礎配分状況　　平成２３年度当初配分

人件費　　機構本部一括

物件費

非常勤人件費	28,371,578円
教育研究費	112,592,469円
教育研究支援経費	16,717,029円
一般管理費	66,585,291円
（合計）	224,266,367円

（ｂ）校長裁量経費の採択状況

平成２３年度　（単位:円）

種　　別	予算額	申請	申請金額	採択	採択金額
特別研究促進費	16,300,000	26	22,577,000	18	12,027,000
論文掲載料助成	500,000	7	253,000	7	253,000
特別教育設備整備費	5,000,000	11	14,541,756	7	10,197,801
学外共同研究推進制度	4,000,000	26	6,718,000	25	4,000,000
学会等発表旅費助成制度	1,500,000	40	2,022,199	40	2,022,199
在外研究員補助費	2,000,000	1	2,000,000	1	2,000,000
予備費	1,200,000				
合　　計	30,500,000	111	48,111,955	98	30,500,000

（分析結果と根拠理由）

学内の予算配分では，教育研究活動の活性化を図るため競争的環境を創出し，その質の向上と充実した教育環境の整備を行い，適切な資源の重点配分を行っている。

以上のことから，学校の目的を達成するため，教育活動に対し，適切な資源配分がなされている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

高専機構全体の財務諸表が，機構本部のWebサイト上で公表されている。

（http://www.kosen-k.go.jp/documents/zaimusyohyoH22.pdf）

（分析結果と根拠理由）

機構本部が法人全体の財務諸表等を公表している。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

支払契約決議，振替伝票，支出伝票により日常監査を行っている。

また，会計監査実施規程（資料１０－３－②－１，２）による財務諸表類の定期監査を毎年１回実施している。科研費ハンドブック(平成２２年５月)１９適正な使用の確保(６)無作為抽出による内部監査の実施に基づく内部監査も実施している（資料１０－３－②－３，４）。

資料１０－３－②－１　機構会計規則

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３４号
制定　平成１６年４月１日
一部改正　平成２０年１２月２４日

目次
第１章　総則（第１条－第１６条）
第２章　予算（第１７条－第１９条）
第３章　出納取引（第２０条－第３０条）
第４章　資産管理（第３１条）
第５章　契約（第３２条－第４２条）
第６章　決算（第４３条－第４４条）
第７章　内部監査及び責任（第４５条－第４６条）
附則

第１章　総則

（目的）
第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の財務及び会計に関する基準を定め，業務の適正かつ効率的な実施を図るとともに，財政状態及び運営状況を明らかにすることを目的とする。

（適用）
第２条　機構の財務及び会計に関しては，独立行政法人通則法（平成１１年法律第１０３号。以下「通則法」という。），独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成１５年法律第１１３号。以下「法」という。），独立行政法人国立高等専門学校機構に関する省令（平成１５年文部科学省令第５８号。以下「省令」という。），その他独立行政法人の財務及び会計に関し適用又は準用される法令等の規定によるほか，この規則の定めるところによる。

（年度所属区分）
第３条　機構の事業年度は，毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。
２　機構の資産，負債及び資本の増減並びに収益及び費用は，その原因となる事実の発生した日の属する年度により所属する年度を区分することとする。ただし，その日を決定することが困難な場合は，その原因となる事実を確認した日の属する年度によるものとする。

者に委託して行わせることができるものとする。

第６章決算

（月次決算）
第４３条　出納命令役は，毎月末日において総勘定元帳を締め切り，月次の財政状況を明らかにするため，合計残高試算表を作成し，翌月１５日までに理事長に提出しなければならない。

（年度末決算）
第４４条　年度末決算に際しては，当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い，資産の評価，債権・債務の整理，その他決算整理を的確に行って，所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。
２　理事長は，前項の整理を行った後，翌事業年度５月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。
一　貸借対照表
二　損益計算書
三　キャッシュ・フロー計算書
四　利益の処分又は損失の処理に関する書類
五　行政サービス実施コスト計算書
六　附属明細書
３　前項各号の書類の様式は，別に定めるものとする。

第７章　内部監査及び責任

（内部監査）
第４５条　理事長は，予算の執行及び会計処理の適正を期するため，必要と認めるときは，特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。２　内部監査について必要な事項は，別に定めるものとする。

（会計機関の義務及び責任）
第４６条　会計機関は，機構の財務及び会計に関し，通則又は準用される法令並びにこの規則に準拠し，かつ，予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって，その職務を行わなければならない。
２　会計機関は，故意又は重大な過失により前項の規定に違反して，機構に損害を与えた場合は，その損害を弁償する責を負わなければならない。

出典：機構本部規則集

資料１０－３－②－２　本校会計監査実施規程

徳山工業高等専門学校会計監査実施規程

（目的）
第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（平成１６年規則第３４号）第４５条第２項の規定に基づき，徳山工業高等専門学校における会計監査（以下「監査」という。）の実施について必要な事項を定め，もって会計経理の適正化を図ることを目的とする。
（実施回数）
第２条　監査は，毎会計年度１回実施する。ただし，高専相互会計内部監査を実施したときは省略できるものとする。
２　校長が必要と認めるときは，その都度実施するものとする。
（実施責任者）
第３条　監査の実施責任者は，校長とする。
（監査員等の選任）
第４条　監査員及び補助監査員は，会計担当職員のほか，必要に応じ会計担当職員以外の職員の中から選任することができる。
（監査事項）
第５条　監査は，次の各号に掲げる事項について実施するものとする。
（１）会計経理に関する法令等の適用に関する事項
（２）予算及び決算に関する事項
（３）収入及び支出に関する事項
（４）債権に関する事項
（５）物品に関する事項
（６）不動産に関する事項
（７）契約に関する事項
（８）旅費に関する事項
（９）委任経理金，科学研究費補助金，受託研究費，共同研究費及び預り金に関すること
（１０）帳簿及び証拠書類に関すること
（実施細目）
第６条　校長は，監査の実施に際しては，あらかじめ実施細目を定めるものとする。
（事前通知及び立会等）
第７条　校長は，監査を実施しようとするときは，あらかじめ期日，監査員の職名・氏名その他必要な事項を関係者に通知するものとする。
２　前項による通知を受けた関係者は，帳簿，証拠書類その他必要事項を整備し，監査時には立ち会わなければならない。
（監査員の責務）
第８条　監査員は，公正かつ厳正に監査に当たらなければならない。
２　監査員は，監査に当たり疑義がある事項については関係者に説明を求め，かつ調書等の提出を求めることができる。

出典：本校規則集

資料１０－３－②－３　高専相互会計内部監査実施報告

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	徳山工業高等専門学校
監査実施日	平成２３年１２月１４日 ～１２月１５日
監査担当者	呉工業高等専門学校　総務課会計室長 総務課財務係長 総務課用度係長

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課 梅田総務課長、永久総務課長補佐、岸本会計係長 他

①監査部署の現状
・総務課には、課長の他、課長補佐２名（庶務・会計担当）と６係が配置されている。
・また、会計を担当する職員は、予算決算、収入支出を担当する会計係（３名）、契約事務を担当する契約係（３名）、施設管理を担当する施設係（２名）の３係、その他に事務補佐員２名の計１２名（課長、課長補佐を含む）となっている。

②監査結果により把握された重要な問題点と所見
・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。

③発見事項及び指摘事項
・特に、財務会計システム権限設定（全権限者が会計係長）となっている点、及び、資産登録時において更新物品（廃棄物品）の廃棄費用を含めて新資産として登録されていた点について、速やかに適切な対応を図るよう要求した。

④指摘事項等（指示、考究）
・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり
　指示（会計処理について改めるよう要求したもの）･･･7件（上記③の指摘事項を含む）
　考究（確認、検討を要求したもの）　　･･･6件

⑤被監査部署の意見等
・上記について、その対応について速やかな検討を図り、適正に処理するとのことであった。

⑥関係資料等（徴収資料等）

会計機関の補助者に関する規則、会計機関の事務の一部委任規則、会計機関の使用する公印に関する規則

出典：総務課資料

資料１０－３－②－４科研費ハンドブック(平成２２年５月)１９適正な使用の確保(６)無作為抽出内部監査実施報告

平成２３年１０月４日

校　　長　殿

監査員　会計係長
会計係主任
会計係主任
地域連携推進係長
地域連携推進係主任

平成２２年度科学研究費補助金に係る内部監査の結果について

科研費ハンドブック（平成２２年５月）１９適正な使用の確保（６）　無作為抽出による内部監査の実施　に基づき実施しました内部監査について，下記のとおり報告します。

記

１．監査年月日　　平成 23 年９月 28 日(水)～平成 23 年９月 30 日(金)

２．監査対象期間　平成 22 年４月１日～平成 23 年３月 31 日

３．監査事項
・証拠書類（見積書，納品書，請求書等）の確認
・納品の状況
・旅行命令・依頼簿，復命書，出張報告書の確認
・取得価格１０万円以上の物品の設置状況・稼働状況及び使用状況
・補助金の使用状況
・学生等への旅費，謝金の支給状況

４．監査の結果
・証拠書類（見積書，納品書，請求書等）は適正に処理されていた。
・物品の契約は，契約担当係より適正に発注されていた。
・物品の納品は，契約担当係において検収し，研究者に引き渡されていた。
・出張申請，出張報告，出勤簿，決議書を照査した結果適正に処理されていた。
・研究者は物品を適正に使用していることを確認した。
・旅行命令・依頼簿，復命書，出張報告書の確認した。
・取得価格１０万円以上の物品の設置状況・稼働状況及び使用状況について確認し，良好に使用されていた。
・補助金の使用状況は適正に使用されていた。
・学生等への旅費，謝金の支給状況について，適正に支給されていることを確認した。

出典：総務課資料

（分析結果と根拠理由）

内部監査に関する規定が制定されており，当該規定に基づいた内部監査が適正に実施されている。このことから，財務に対する会計監査等が適正に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学内の予算配分で，限られた資源を効果的に配分するため，校長裁量経費により教育研究活動の活性化とその環境の整備を図っている。

（改善を要する点）

今後，文部科学省や日本学術振興会の科学研究費補助金あるいは各種財団の教育・研究助成等の申請および採択率を上げるための取組みを強化する必要がある。

（３）基準10の自己評価の概要

本校が中期計画で掲げている教育研究事業を，将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な施設である校地，校舎，各種設備の資産を有するとともに，国立高等学校機構からの運営費交付金並びに自己収入である授業料，入学検定料，入学料などの基盤財源に加えて，外部資金（寄附金，共同研究，受託研究，科学研究費補助金など）獲得に積極的に取り組み，安定して事業を遂行できる財務基盤を有している。

財務に関する将来の収支計画が作成され，予算配分については，限られた予算をより効果的に配分するため，校長のリーダーシップのもとで校長裁量経費を競争的資金として重点配分している。このことは，教育研究活動の活性化とその環境整備の向上を図るとした共同研究や地域社会との連携強化を推進する上でも有効な配分となっている。

また，財務会計処理に関する監査においては，高専相互会計内部監査が実施されており，適正な財務会計処理を行っている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長の役割は，学校教育法第１２０条第３項（資料１１－１－①－１）で明記され，高等専門学校においては，学校の管理運営等についての最終意思決定をすることとなっており，本校においても教学，研究，経営等の最高責任者として，学内コンセンサスに留意しながら，学校の管理運営を行っている。

教務，学生，寮務の３主事については，徳山工業高等専門学校学則第９条（資料１１－１－①－２）によりその役割を規定しており，教務主事は教育計画の立案や教務に関する業務，学生主事は学生の厚生補導に関する業務，寮務主事は学寮における学生の厚生補導に関する業務を掌理し，校長を補佐している。

本校においては，本校の中期計画の目的と目標を達成するための具体的方策として，校長を補佐し機動的な学校運営を行うために総合企画室を設置し，情報収集・分析，学校運営の企画・経営方針等について，長期的視点から総合的に企画・立案，調整を行い，教育・研究活動の経営基盤の強化を図っている（資料１１－１－①－３）。

また，校長の下に専攻科長，各学科等主任，図書館長，テクノ・リフレッシュ教育センター長および情報処理センター長等を置き，それぞれの組織における管理・運営に携わっている（資料１１－１－①－４）。

なお，校長と３主事，専攻科長，総合企画室長，テクノ・リフレッシュ教育センター長，事務部長および各課長で構成する主事連絡会を隔週で定例的に開催し，校長を補佐するとともに意思の統一と情報の共有を図っている。

また，運営委員会をはじめとする１８の委員会を設置するとともに適宜ワーキンググループを設け，専門的分野での立案，検討および調整を図りつつ，校長は学校運営の重要課題等については，運営委員会で意見を聴取しながら管理運営を行っている（資料１１－１－①－５）。

これらの決定事項等（議事録）は，全教職員に迅速に周知するために学内の情報共有システム（TCT-info）（資料１１－１－①－６）を整備し，閲覧できる体制となっている。

資料１１－１－①－１　学校教育法（抜粋）

第百二十条　高等専門学校には，校長，教授，准教授，助教，助手および事務職員を置かなければならない。ただし，教育上の組織編制として適切と認められる場合には，准教授，助教又は助手を置かないことができる。

２　高等専門学校には，前項のほか，講師，技術職員その他必要な職員を置くことができる。

３　校長は，校務を掌り，所属職員を監督する。

４　教授は，専攻分野について，教育上又は実務上の特に優れた知識，能力及び実績を有する者であつて，学生を教授する。

５　准教授は，専攻分野について，教育上又は実務上の優れた知識，能力及び実績を有する者であつて，学生を教授する。

６　助教は，専攻分野について，教育上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて，学生を教授する。

７　助手は，その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。

８　講師は，教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

出典：学校教育法

資料１１－１－①－２　徳山工業高等専門学校学則（抜粋）

第９条　本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
３　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
４　寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
第 10 条　本校に，庶務，会計及び学生の厚生補導に関する事務を処理するため事務部を置く。
第 11 条　前２条に規定するもののほか，本校の内部組織は，別に定めるところによる。

出典：本校規則集

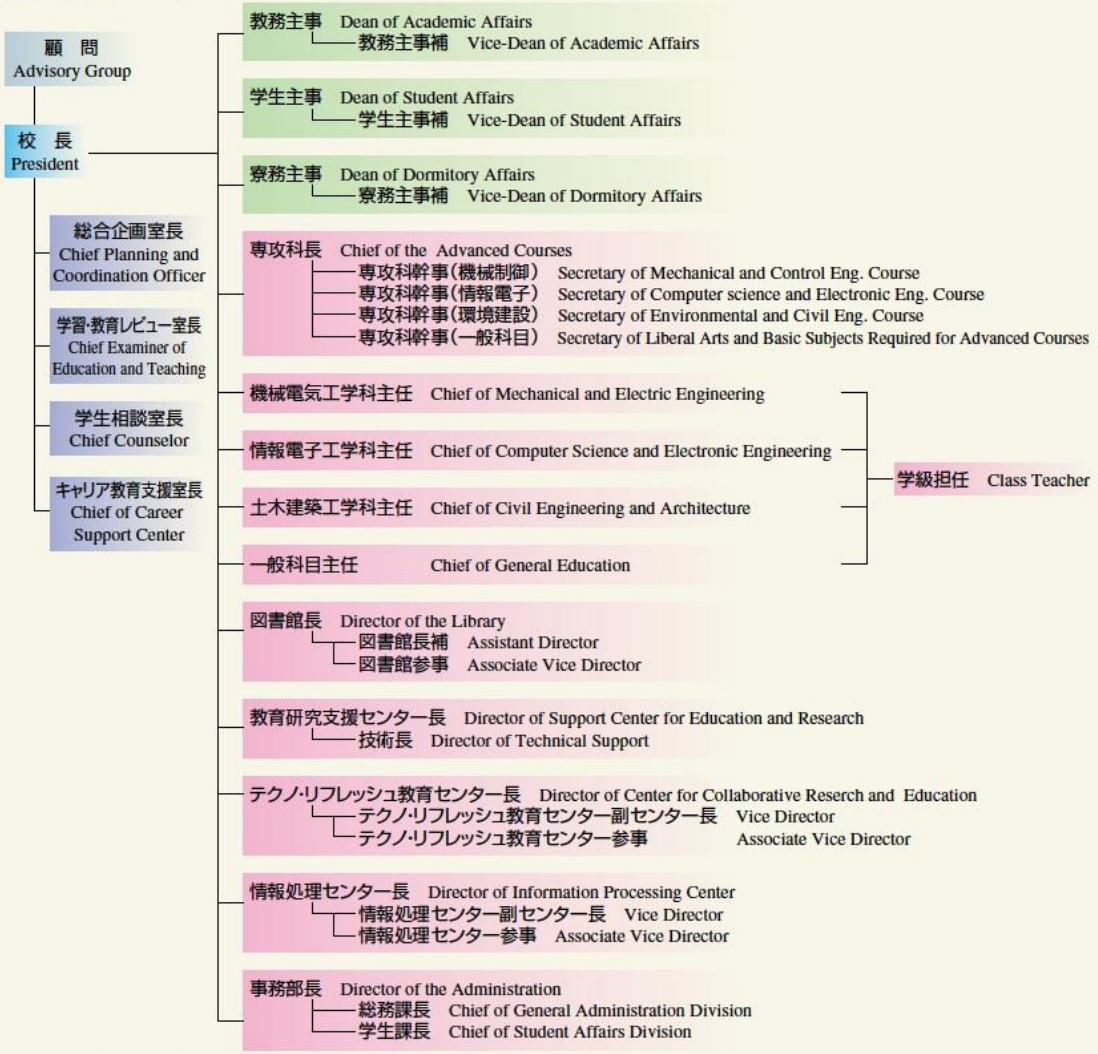
資料１１－１－①－３　徳山工業高等専門学校総合企画室規則（抜粋）

（設置）
第１条　徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に総合企画室を置く。
（目的）
第２条　総合企画室は，本校の運営・経営方針について，長期的視点から総合的に企画・立案することにより，本校の教育・研究活動及び経営基盤の強化を図ることを目的とする。
（業務）
第３条　総合企画室は，次の業務を行う。
(1)　中・長期計画の企画・立案及び管理・評価に関すること。
(2)　教育・研究及び管理業務の総合調整に関すること。
(3)　対外的な業務（広報を含む。）の企画・立案及び調整に関すること。ただし，テクノ・リフレッシュ教育センターの業務に属することを除く。
(4)　その他前条の目的達成に必要な業務。
（組織）
第４条　総合企画室は，次の各号に掲げる職員をもって組織する。
(1)　総合企画室長
(2)　総合企画室事務主査
(3)　総合企画室主務
（総合企画室長）
第５条　総合企画室長（以下「室長」という。）は，教授又は准教授の中から校長が任命する。
２　室長は，総合企画室の業務を掌理する。
（総合企画室事務主査）
第６条　総合企画室事務主査（以下「事務主査」という。）は，本校の事務系職員の中から校長が任命する。
２　事務主査は，総合企画室の業務に従事する。
（総合企画室主務）
第７条　総合企画室主務（以下「主務」という。）は，本校教職員の中から校長が任命する。
２　主務は，総合企画室の業務に従事する。
第８条　この規則に定めるもののほか，総合企画室の運営に関し必要な事項は，別に定める

出典：本校規則集

資料１１－１－①－４　組織図

（5）組織図　Organization Chart



（6）各種委員会　Committees

運営委員会	Steering Committee
教務委員会	Academic Affairs Committee
専攻科委員会	Advanced Course Committee
入学試験委員会	Admissions Committee
専攻科入学試験委員会	Advanced Course Admissions Committee
厚生補導委員会	Student Affairs Committee
学寮運営委員会	Dormitory Affairs Committee
自己評価委員会	Self-Evaluation Committee
ＦＤ委員会	Faculty Development Committee
知的財産委員会	Intellectual Property Committee
情報セキュリティ管理委員会	Information Security Management Committee
情報セキュリティ推進委員会	Information Security Promotion Committee
情報公開委員会	Information Disclosure Committee
安全衛生委員会	School Safety and Hygiene Committee
ハラスメント防止委員会	Harassment Prevention Committee
紀要編集委員会	College Bulletin Committee
「TCT DREAMS」委員会	TCT DREAMS Committee
ロボットコンテスト実行委員会	Robot Contest Committee
サテライト運営委員会	Satellite Campus Committee
広報メディア管理委員会	Public Relations Committee

出典：学校要覧

資料１１－１－①－５　徳山工業高等専門学校内部組織規則（抜粋）

第１章　総則
（目的）
第１条　この規則は，徳山工業高等専門学校学則に基づき，徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織を定めることを目的とする。
（職及び任命）
第２条　本校に，学則第９条に定める教務主事，学生主事及び寮務主事のほか，次の職を置き，校長が任命する。
(1)　専攻科長及び専攻科幹事
(2)　学科主任及び一般科目主任
(3)　図書館長，図書館長補及び図書館参事
(4)　テクノ・リフレッシュ教育センター長，テクノ・リフレッシュ教育センター副センター長（以下「テクノ副センター長」という。）及びテクノ・リフレッシュ教育センター参事（以下「テクノセンター参事」という。）
(5)　情報処理センター長，情報処理センター副センター長（以下「副センター長」という。）及び情報処理センター参事
(6)　教育研究支援センター長
(7)　総合企画室長及び主務
(8)　学習・教育レビュー室長及びエグザミナー
(9)　学生相談室長及び相談員
(10)　キャリア教育支援室長及びキャリアアドバイザー
(11)　教務主事補，学生主事補及び寮務主事補
(12)　学級担任
（任期）
第３条　前条に定める職の任期は，第１号のうち専攻科長，第２号，第４号のうちテクノ・リフレッシュ教育センター長，第６号から第１０号は２年，その他は１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員補充者の任期は，前任者の残任期間とする。

第２章　専攻科長及び専攻科幹事
（資格）
第４条　専攻科長は，専攻科の授業を担当する教授をもって充てる。
２　専攻科幹事は，専攻科の授業を担当する教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。
（職務）
第５条　専攻科長は，専攻科の運営に関することを掌理する。
２　専攻科幹事は，研究，教務及び学生担当を分担する。また，各専攻１，２年生の指導教員を兼務し，授業に関する調整を行う。

第３章　学科主任及び一般科目主任
（資格）
第６条　学科主任及び一般科目主任は，教授をもって充てる。
（職務）
第７条　学科主任及び一般科目主任は，当該学科又は一般科目の運営，教務，及び学生指導等について，代表者として連絡調整に関することを行う。

第４章　図書館長，図書館長補及び図書館参事
（資格）
第８条　図書館長は，教授又は准教授をもって充てる。
２　図書館長補は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることができる。
３　図書館参事は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることができる。
（職務）
第９条　図書館長は，図書館の運営，図書の選定及び図書利用の指導等に関することを行う。
２　図書館長補は，図書館長の職務を補佐する。
３　図書館参事は，図書館の業務を遂行する。

第５章　テクノ・リフレッシュ教育センター長，テクノ副センター長及びテクノセンター参事
（資格）
第10条　テクノ・リフレッシュ教育センター長は，教授又は准教授をもって充てる。
２　テクノ副センター長は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることができる。
３　テクノセンター参事は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることがで

きる。
（職務）
第11条　テクノ・リフレッシュ教育センター長は，テクノ・リフレッシュ教育センターの運営に関することを行う。
２　テクノ副センター長は，テクノ・リフレッシュ教育センター長の職務を補佐する。
３　テクノセンター参事は，テクノ・リフレッシュ教育センターの業務を遂行する。

第６章　情報処理センター長，副センター長及び情報処理センター参事
（資格）
第12条　情報処理センター長は，教授又は准教授をもって充てる。
２　副センター長は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることができる。
３　情報処理センター参事は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることができる。
（職務）
第13条　情報処理センター長は，情報処理センターの管理運営，情報処理教育の充実及び利用計画等に関することを行う。
２　副センター長は，情報処理センター長の職務を補佐する。
３　情報処理センター参事は，センターの業務を行う。

第７章　教育研究支援センター長
（資格）
第14条　教育研究支援センター長は，教授又は准教授をもって充てる。
（職務）
第15条　教育研究支援センター長は，教育研究支援センターの業務を掌理する。

第８章　総合企画室長及び主務
（資格）
第16条　総合企画室長は，教授又は准教授をもって充てる。
２　主務は，教員並びに事務職員及び技術職員をもって充てる。
（職務）
第17条　総合企画室長は，総合企画室の業務を掌理する。
２　主務は，総合企画室の業務を行う。

第９章　学習・教育レビュー室長及びエグザミナー
（資格）
第18条　学習・教育レビュー室長は，教授又は准教授をもって充てる。
２　エグザミナーは，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることができる。
（職務）
第19条　学習・教育レビュー室長は，学習・教育レビュー室の業務を掌理する。
２　エグザミナーは，学習・教育レビュー室の業務に従事する。

第１０章　学生相談室長及び相談員
（資格）
第20条　学生相談室長は，教授又は准教授をもって充てる。
２　相談員は，原則として教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。
（職務）
第21条　学生相談室長は，相談室の業務を掌理する。
２　相談員は，相談室の業務に従事する。

第１１章　キャリア教育支援室長及びキャリアアドバイザー
（資格）
第22条　キャリア教育支援室長は，教授又は准教授をもって充てる。
２　キャリアアドバイザーは，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，助手をもって充てることができる。
（職務）
第23条　キャリア教育支援室長は，キャリア教育支援室の業務を掌理する。
２　キャリアアドバイザーは，キャリア教育支援室の業務に従事する。

第１２章　教務主事補，学生主事補及び寮務主事補
（資格）
第24条　教務主事補，学生主事補及び寮務主事補は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。ただし，学生主事補及び寮務主事補は，助手をもって充てることができる。

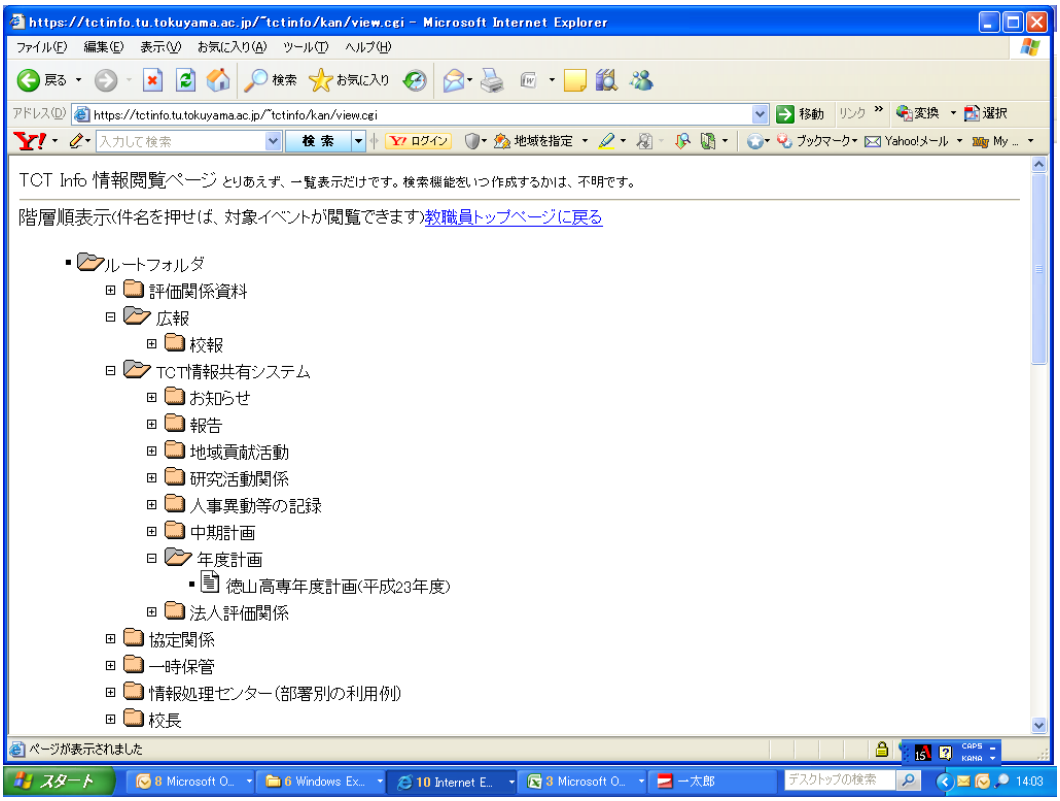
（職務）
第25条　教務主事補，学生主事補及び寮務主事補は，それぞれの主事の職務を補佐する。

第１３章　学級担任
（資格）
第26条　学級担任は，教授，准教授，講師又は助教をもって充てる。
（職務）
第27条　学級担任は，当該学級の運営，学生指導及び特別教育活動等に関することを行う。

第１４章　会議及び委員会
（設置）
第28条　本校に次の会議及び委員会を置く。
(1)　運営委員会
(2)　教員会議
(3)　教務委員会
(4)　専攻科委員会
(5)　入学試験委員会
(6)　専攻科入学試験委員会
(7)　厚生補導委員会
(8)　学寮運営委員会
(9)　自己評価委員会
(10)　ＦＤ委員会
(11)　知的財産委員会
(12)　情報セキュリティ管理委員会
(13)　情報セキュリティ推進委員会
(14)　情報公開委員会
(15)　安全衛生委員会
(16)　ハラスメント防止委員会
(17)　紀要編集委員会
(18)　「ＴＣＴ　ＤＲＥＡＭＳ」委員会
(19)　その他校長が必要と認める会議及び委員会
２　前項各号に定める会議及び委員会に関することは，別に定める。

出典：本校規則集

資料１１－１－①－６　学内の情報共有システム（TCT-info）イメージ



出典：本校 Web サイト（学内限定）

（分析結果と根拠理由）

本校の最高責任者である校長の責務は多岐にわたるため，３主事，専攻科長，総合企画室長等が配置され，各種委員会等の組織も整備されている。校長は校務全体を把握するための運営委員会を定期的に開催し，校長の運営方針等が具体的施策に反映できるよう意見の聴取および情報の共有が行われ，学校の目的を達成するために効果的な意思決定を行える体制となっている。

以上のことから，本校の目的を達成するために校長，各主事および委員会の役割が明確になっており効果的な意思決定がなされている。

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校では，校長が運営委員会で，管理運営に関する重要事項について意見を聴きながら最終決定をしているが，その他管理運営に関する委員会として教務委員会，厚生補導委員会，自己評価委員会等各種委員会を設けて，それぞれの専門的分野について検討し，計画・実施している。各委員会には事務部から事務部長または担当課長が委員として出席し，委員会の決定事項を所掌事務担当係に周知している。

また，委員会とは別に組織された総合企画室は，教員５名および職員２名の計７名で構成し，教育・研究および事務を全校的観点から検討することとしており，校長と総合企画室メンバーで打ち

合わせを行うコアタイム（隔週木曜日）と，総合企画室メンバーで検討を行うミーティング（隔週月曜日）を開催し，必要に応じその検討結果等をさらに所掌する各委員会等で専門的に検討することとしている。

なお，校長と３主事，専攻科長，テクノ・リフレッシュ教育センター長，総合企画室長，事務部長および各課長で構成する主事連絡会（隔週月曜日）を開催し，運営方針の周知や情報の共有を図っている。

事務組織については，平成１９年度に業務の効率化とサービスの向上を目的として，総務課，学生課の２課に再編統合し，事務系職員４１名が教員と緊密な連携・協力体制をとりつつ，全校一体となって運営しており，事務組織の職務内容および事務分掌は「事務組織規則」（資料１１－１－②－１）および「事務分掌内規」（資料１１－１－②－２）に明記されている。

技術系職員については，平成９年度に教育研究支援センターを設置し，第一技術室（機械工作部門），第二技術室（計測制御部門），第三技術室（ネットワーク部門）の３技術室に分かれ，その職務および所掌事項は「教育研究支援センター規則」（資料１１－１－②－３）に規定され，それぞれ教員と協力しながら学生の指導にあたるほか，自主的な研究活動も行うなどその成果を取りまとめた「教育研究支援センター報告集」（資料１１－１－②－４）を毎年刊行している。

また，高等専門学校の第３の活動である「地域貢献」を充実させるため，総務課に地域連携推進係を設置し，地域との連携窓口を統合するとともに教育・研究に対する情報発信の一元化を図った。

平成１８年度には人事，給与および共済業務を一係内に統合し，業務の効率化を図るとともに所掌事務の見直しを行い，活性化のための組織の再編成などを検討している。

学校の管理運営に関する諸規則については，「徳山工業高等専門学校学則」，「顧問規則」，「内部組織規則」，「運営委員会規則」等のほか各種委員会規則等が整備されており，学内の事務部Webサイト（学内限定）（資料１１－１－②－５）で全教職員が閲覧することができる。

危機管理に関しては，「防災マニュアル～災害共通編～」（資料１１－１－②－６）に基づき対処している。また，「危機管理要領」（資料１１－１－②－７）が定められ，リスク管理室（１１－１－②－８）を置き，危機管理を総合的かつ計画的に推進している。教職員，学生に対して緊急連絡網が整備されており，職員に周知されている。緊急連絡に関しては不測の事態に備え，本校 Web サイトを学外のサーバに構築し随時情報発信している（資料11－1－②－9）。これらの情報は Web サイトとともに携帯電話からも情報が得られる体制となっている。さらに，必要に応じて電話・FAX による情報伝達網も行われている。

資料１１－1－②－１　事務組織規則（抜粋）

（目的）
第１条　この規則は，徳山工業高等専門学校学則第１０条に定める徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）事務部の事務組織を定めることを目的とする。
（組織）
第２条　本校に事務部を置き，総務課及び学生課を置く。
第３条　総務課に次の係を置く。
(1) 総務係
(2) 総合企画室事務係
(3) 地域連携推進係
(4) 会計係
(5) 契約係
(6) 施設係
２　学生課に次の係を置く。

(1) 教務係
(2) 学生係
(3) 寮務係
(4) 図書係
（事務部長及び課長）
第４条　事務部に事務部長を，課に課長を置く。
２　事務部長及び課長は，事務職員をもって充てる。
（課長補佐）
第５条　総務課に課長補佐（庶務担当）及び課長補佐（会計担当）並びに学生課に課長補佐を置く。
２　課長補佐は，事務職員をもって充てる。
（専門職員）
第６条　課に専門職員を置くことができる。
２　専門職員は，事務職員をもって充てる。
（係長）
第７条　各係に係長を置く。
２　係長は，事務職員又は技術職員（教育研究支援センターに所属する職員を除く。以下同じ。）をもって充てる。
（主任）
第８条　課及び係に主任を置くことができる。
２　主任は，事務職員又は技術職員をもって充てる。
（職務）
第９条　事務部長は，校長の命を受け，事務部の事務を処理する。
２　課長は，上司の命を受け，課の事務を処理する。
３　課長補佐は，上司の命を受け，課の所掌事務のうち専門的重要事項を処理するとともに課長を補佐する。
４　専門職員は，上司の命を受け，専門的知識若しくは経験を必要とする特定又は一定範囲の分野の事務を直接処理する。
５　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。
６　主任は，上司の命を受け，課又は係の事務を処理する。
（雑則）
第１０条　各課における所掌事務については，別に定める。

出典：本校規則集

資料１１－１－②－２　事務分掌内規（抜粋）

第１条　徳山工業高等専門学校事務組織規則第１２条に基づく各課における所掌事務　については，この内規の定めるところによる。
第２条　総務課課長補佐（庶務担当）は，次の事務をつかさどる。
(1)　総務課庶務事務の総括の補佐に関すること。
(2)　教職員の定員管理計画に関すること。
(3)　その他，総務課庶務事務に係る事項のうち，重要な調査，企画及び連絡調整に関すること。
第３条　総務課課長補佐（会計担当）は，次の事務をつかさどる。
(1)　総務課会計事務の総括の補佐に関すること。
(2)　予算に関すること。
(3)　収入，支払に係る監査に関すること。
(4)　その他，総務課会計事務に係る事項のうち，重要な調査，企画及び連絡調整に関すること。
第４条　総務課総務係においては次の事務をつかさどる。
(1)　本校の事務に関し，連絡調整すること。
(2)　儀式，会議，その他諸行事に関すること。
(3)　学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。
(4)　法人文書等の接受，発送及び整理保存に関すること。
(5)　公印の管守に関すること。（会計機関の公印に関することを除く。）
(6)　宿日直の委託業務に関すること。ただし，学寮に関するものを除く。
(7)　教職員の人事，給与，勤務評定及び服務に関すること。
(8)　教員資格審査に関すること。
(9)　教職員の労働時間及び出張に関すること。
(10)　教職員の衛生管理に関すること。
(11)　教職員の福利厚生に関すること。
(12)　共済組合及び退職手当に関すること。
(13)　栄典及び表彰に関すること。
(14)　教職員の研修に関すること。

(15)　人事記録の作成及び保管に関すること。
(16)　労働組合に関すること。
(17)　総務に係る調査，統計その他諸報告に関すること。
(18)　その他，総務に関すること。
第５条　総務課総合企画室事務係は，次の事務をつかさどる。
(1)　中・長期計画に関すること。
(2)　総合企画室の事務に関すること。
(3)　広報に関すること。
(4)　評価に関する連絡調整に関すること。
(5)　個人情報保護及び情報公開に関すること。
(6)　事務用電子計算機に関する連絡調整に関すること。
(7)　本校全般に係る調査，報告に関すること。
第６条　総務課地域連携推進係は，次の事務をつかさどる。
(1)　地域社会との交流及び連携に関すること。
(2)　科学研究費補助金等の申請及び報告に関すること。
(3)　受託研究及び共同研究に関すること。
(4)　学内競争的資金に関すること。
(5)　研究協力に関すること。
(6)　サテライトオフィスに関すること。
(7)　知的財産に関すること。
(8)　研究集会及び講習会等に関すること。
(9)　テクノ・リフレッシュ教育センターの運営に関すること。
(10)　生涯学習に関すること。
(11)　国際交流に関すること。
(12)　地域連携及び外部資金に関する調査，統計その他諸報告に関すること。
第７条　総務課会計係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　会計事務に関し，連絡調整すること。
(2)　収入，支出に関すること。
(3)　会計に関する諸規則及び内規に関すること。
(4)　会計の監査に関すること。
(5)　職員宿舎に関すること。
(6)　固定資産の管理（不動産の貸付等）に関すること。
(7)　人件費，旅費及び謝金等の支払に関すること。
(8)　債権の管理に関すること。
(9)　科学研究費等外部資金及び寄付金の経理に関すること。
(10)　財務会計システムの運用に関すること。
(11)　会計に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(12)　その他，会計に関すること。
第８条　総務課契約係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　固定資産（備品）の管理等に関すること。
(2)　物品の購入契約，役務契約に関すること。
(3)　光熱水料及び電話料の経理に関すること。
(4)　物品の取得，供用，貸付及び処分に関すること。
(5)　物品の寄附受入，管理換及び譲渡に関すること。
(6)　自動車の維持管理に関すること。
(7)　科学研究費等の予算管理に関すること。
(8)　契約に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(9)　その他，契約に関すること。
第９条　総務課施設係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　施設整備関係の総括及び連絡調整並びに手続きに関すること。
(2)　工事の契約，施工及び検査に関すること。
(3)　安全管理に関すること。
(4)　防火管理に関すること。
(5)　環境マネジメントに関すること。
(6)　不動産の管理に関すること。
(7)　土地，建物等の寄附及び借入に関すること。
(8)　施設，設備の維持保全及び営繕事業に関すること。
(9)　施設及び環境の整備並びに計画（概算要求）に関すること。
(10)　施設，整備に係る関係法の遵守並びに手続に関すること。
(11)　施設，整備に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(12)　その他，施設に関すること。
第10条　学生課専門員は，次の事務をつかさどる。
(1)　キャリア教育支援室に関すること。

(2)　専攻科の入学者の選抜及び教務に関すること。
(3)　その他，学務に係る所掌事務のうち，重要な調査，企画及び連絡調整に関すること。
第 11 条　学生課教務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学生課の事務に関し，総括及び連絡調整すること。
(2)　入学者の選抜に関すること。
(3)　教育課程の編成及び授業並びに評価に関する企画・立案に関すること。
(4)　学生の入学試験改善のための基本方針の企画・立案に関すること。
(5)　学生の修学に関すること。
(6)　年間の授業計画及び年間行事計画に関すること。
(7)　学生の学籍に関すること。
(8)　学生の身分証明書，成績証明書及び卒業証書等に関すること。
(9)　学生の教科書，教具及び教材に関すること。
(10)　学生の校外実習及び工場見学に関すること。
(11)　学生便覧等刊行物に関すること。
(12)　研究生，科目等履修生及び聴講生に関すること。
(13)　教務に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(14)　その他，教務に関すること。
第 12 条　学生課学生係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学生の課外教育及び厚生事業に関すること。
(2)　学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(3)　学生の集会，掲示及び印刷物等に関すること。
(4)　学生の表彰及び懲戒に関すること。
(5)　課外活動施設及び厚生施設の管理に関すること。
(6)　日本スポーツ振興センターに関すること。
(7)　学生の旅客運賃割引証に関すること。
(8)　学生の保健衛生及び相談に関すること。
(9)　学生に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(10)　その他，学生の厚生補導に関すること。
第 13 条　学生課寮務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学寮の管理運営に関すること。
(2)　学生の入退寮に関すること。
(3)　寮生の寮生活に関すること。
(4)　寮費等の経理に関すること。
(5)　寮生の保健衛生に関すること。
(6)　学寮の委託業務に関すること。
(7)　学寮宿日直に関すること。
(8)　学寮の防災警備に関すること。
(9)　寮生の郵便物接受及び配布に関すること。
(10)　外国人留学生の受入等に関すること。
(11)　入学料，授業料の減免，猶予及び奨学金に関すること。
(12)　学寮及び留学生等に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(13)　その他，寮務及び留学生等に関すること。
第 14 条　学生課図書係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
(2)　図書館資料の閲覧，貸出等利用に関すること。
(3)　文献の交換及び複写に関すること。
(4)　図書の検索指導及び読書相談等に関すること。
(5)　紀要の編集及び発行に関すること。
(6)　寄贈図書に関すること。
(7)　図書に係る調査，統計及び諸報告に関すること。
(8)　その他，図書館に関すること。

出典：本校規則集

資料１１－１－②－３　教育研究支援センター規則（抜粋）

（設置）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第１２条の規定に基づき，徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。
（目的）
第２条　センターは，技術職員の勤務場所との連絡を緊密に図り，本校の技術に関する専門的業務を組織的，かつ

効率的に処理するとともに，技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校の教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（業務等）

第３条　センターは，次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　教育及び研究に伴う技術支援に関すること。

(2)　地域連携活動に伴う技術支援に関すること。

(3)　技術の習得，継承及び保存に関すること。

(4)　技術研修に関すること。

(5)　教育，研究の支援，その他の業務に関すること。

第４条　センターに，第一技術室（機械工作部門），第二技術室（計測制御部門）及び第三技術室（ネットワーク部門）の３室を置き，各室は次の各号に掲げる業務行う。

(1)　第一技術室（機械工作部門）　機械工作・設計技術及びメカトロニクスに関する業務

(2)　第二技術室（計測制御部門）　土木計測技術及び情報制御技術に関する業務

(3)　第三技術室（ネットワーク部門）　ネットワーク運用技術及びネットワーク設計に関する業務

２　センターは，必要に応じて各技術室を超えたプロジェクトを組織し，特別な業務に当たることができる。

（組織）

第５条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。

(1)　センター長

(2)　技術長

(3)　技術室長

(4)　技術専門職員

(5)　技術職員

２　センターに，技術専門員を置くことができる。

第６条　センター長は，校長の命を受けセンターの業務を掌理するとともに，センターに所属する職員を指揮監督する。

２　センター長は，教授又は准教授の中から校長が任命する。

３　センター長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員補充者の任期は，前任者の残任期間とする。

第７条　技術長は，上司の命を受け，技術専門員，技術専門職員及び技術職員の業務を統括する。

第８条　技術専門員は，上司の命を受け，極めて高度の専門的な技術をもって，技術に従事する。

第９条　技術室長は，上司の命を受け，各技術室の業務を処理するとともに，技術的な指導・助言を行う。

２　技術室長は，技術長，技術専門員または技術専門職員をもって充てる。

第１０条　技術専門職員は，上司の命を受け，高度の専門的な技術をもって，技術に従事する。

第１１条　技術職員は，技術に従事する。

（センター運営会議）

第１２条　センターの運営を円滑に行うため，センター運営会議を置き，次に掲げる事項を審議する。

(1)　センターの管理運営に関する基本的事項に関すること。

(2)　センター業務の計画，調整，評価に関すること。

(3)　その他必要な事項

第１３条　センター運営会議は次に掲げる者をもって構成する。

(1)　センター長

(2)　教務主事

(3)　学生主事

(4)　各学科主任及び一般科目主任

(5)　テクノ・リフレッシュ教育センター長

(6)　情報処理センター長

(7)　事務部長

(8)　技術長

(9)　技術専門員

(10)　各技術室長

２　センター長は，必要に応じセンター運営会議に構成員以外の者の出席を求め，その意見を聴くことができる。

第１４条　センター長は必要に応じてセンター運営会議を招集し，これを主宰する。

（事務）

第１５条　センターに関する事務は，センターにおいて処理する。

（雑則）

第１６条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，別に定める。

出典：本校規則集

資料１１－１－②－４　教育研究支援センター報告集（目次）

目　　次

新しい革袋に、新しい酒を　　教育研究支援センター長　森野数博 1
徳山工業高等専門学校運営組織図 2
教育研究支援センター運営図・教育研究支援センター　メンバー構成 3
学校行事 4
施設稼働状況 5
【実習工場の現状報告】
第一技術室 6
【情報処理センターの利用状況】
第三技術室　鳥居恵子 8
論文・発表 10
【平成 22 年度（第 61 回）電気・情報関連学会 中国支部連合大会】
第二技術室　藤本竜也 12
地域貢献・講演依頼 14
【キャンドルスタンド製作教室】
第一技術室 西山芳明，中村金良，石川善丈，井本琢哉 17
【「デジタルの仕組み（2 進数）を理解して，音楽を演奏しよう。」】
第二技術室　山本孝子，藤本竜也 18
免許取得・特許（発明者）科学研究費助成 19
【2 級仕上げ技能士（機械組立仕上げ作業）】
第一技術室　井本琢哉 20
研究会（研修）参加 21
【オムロン制御技術セミナー（基礎コース）】
第二技術室　山本孝子 22
第二技術室　藤本竜也 23
【オムロン制御技術セミナー参加報告会】
第二技術室　山本孝子，藤本竜也 24
【平成２２年度中国地区技術職員研修】
第一技術室　井本琢哉，第二技術室　藤本竜也 25
【西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（情報系）】
第三技術室　林嘉雄 26
【第 6 回情報技術研究会】
第三技術室　林嘉雄 27
【熊本大学総合技術研究会】
第二技術室　山本孝子 28
講習会受講 29
【ＮＣトレーニングスクール（マシニングセンタ専門コース）受講】
第一技術室　中村金良，石川善丈，井本琢哉 30
資料 31
【資格一覧表】 32
【教育研究支援センター規則】 33
編集後記 35

出典：平成２２年度　教育研究支援センター報告書

資料１１－１－②－５　本校諸規則一覧

第1章　学　則

1. 徳山工業高等専門学校学則　本文（一太郎）・(PDF)
　別表（Excel）・(PDF)

第2章　組織及び運営

1. 徳山工業高等専門学校顧問規則（一太郎）・(PDF)
2. 徳山工業高等専門学校内部組織規則（一太郎）・(PDF)
3. 徳山工業高等専門学校運営委員会規則（一太郎）・(PDF)
4. 徳山工業高等専門学校教員会議規則（一太郎）・(PDF)
5. 徳山工業高等専門学校図書館規則（一太郎）・(PDF)
6. 徳山工業高等専門学校テクノ・リフレッシュ教育センター規則（一太郎）・(PDF)
7. 徳山工業高等専門学校情報処理センター規則（一太郎）・(PDF)
8. 徳山工業高等専門学校総合企画室規則（一太郎）・(PDF)
9. 徳山工業高等専門学校学習・教育レビュー室規則（一太郎）・(PDF)
10. 徳山工業高等専門学校学生相談室規則（一太郎）・(PDF)
11. 徳山工業高等専門学校キャリア教育支援室規則（一太郎）・(PDF)
12. 徳山工業高等専門学校「TCT　DREAMS」委員会規則（Word）・(PDF)
　［平成24年4月1日施行］（Word）・(PDF)
13. 徳山工業高等専門学校自己評価委員会規則（一太郎）・(PDF)
14. 徳山工業高等専門学校 FD 委員会規則（一太郎）・(PDF)
15. 徳山工業高等専門学校教務委員会規則（一太郎）・(PDF)
16. 徳山工業高等専門学校専攻科委員会規則（Word）・(PDF)
17. 徳山工業高等専門学校入学試験委員会規則（一太郎）・(PDF)
18. 徳山工業高等専門学校専攻科入学試験委員会規則（Word）・(PDF)
19. 徳山工業高等専門学校厚生補導委員会規則（一太郎）・(PDF)
20. 徳山工業高等専門学校学寮運営委員会規則（一太郎）・(PDF)
21. 徳山工業高等専門学校安全衛生委員会規則（一太郎）・(PDF)
22. 徳山工業高等専門学校知的財産委員会規則（一太郎）・(PDF)
23. 徳山工業高等専門学校情報公開委員会規程（一太郎）・(PDF)
24. 徳山工業高等専門学校事務情報化推進委員会規則（一太郎）・(PDF)
25. 徳山工業高等専門学校事務情報化推進室設置要項（一太郎）・(PDF)
26. 徳山工業高等専門学校紀要編集委員会規則（一太郎）・(PDF)
27. 徳山工業高等専門学校教育研究支援センター規則（一太郎）・(PDF)
28. 徳山工業高等専門学校環境建設工学センター規則（一太郎）・(PDF)
29. 技術者教育認定対策会議規程（一太郎）・(PDF)

出典：本校 Web サイト（学内限定）

資料１１－1－②－6 防災マニュアル～災害共通編～ （目次）

目 次

徳山工業高等専門学校防災マニュアルの概要 2

Ⅰ 災害時の防災体制 （災害対策本部・自衛消防団の編成）
1 災害対策本部・自衛消防団の組織図 4
2 災害対策本部・自衛消防団各班・各係の主な業務 5
3 災害対策本部の必要物品等 6
4 支援要請例 8

Ⅱ 災害発生時の通報連絡関係（通報連絡系統図ほか）
1 平日昼間の通報連絡系統図 10
2 災害及び事件事故発生時の情報連絡体制 11
3 教職員の学校への参集基準 12
4 教職員の基本的な行動要領（緊急地震速報発表から地震発生後） 13
5 教職員の基本的な行動要領（震災等発生後の学生対応） 15

Ⅲ 関係機関連絡先及び防災・災害等情報先一覧
1 関係機関連絡先 17
2 防災・災害情報等 19
3 ＮＴＴ 災害用伝言ダイヤル 20
4 ＮＴＴ 災害用ブロードバンド伝言板（ｗｅｂ１７１） 20
5 ＮＴＴドコモ ｉモード災害用伝言板サービス 20
6 ＫＤＤＩ 災害用伝言板 20
7 ソフトバンクモバイル 災害用伝言板 20

Ⅳ 緊急時の応急手当 （AED・人工呼吸等，止血）
1 応急手当の流れ 21
2 AED（自動体外式除細動器）・人工呼吸等 22
3 止 血 23

1

出典：防災マニュアル～災害共通編～

資料１１－1－②－7　危機管理要領(抜粋)

徳山工業高等専門学校危機管理要領

平成２３年５月１７日
校　長　裁　定

（目的）

第１条　この要領は，徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制及び対処方法等を定めることにより，本校の学生・教職員等の安全確保を図るとともに，本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

（危機管理の対象）

第２条　この要領に定める危機管理の対象とする事象（以下「危機事象」という。）は，次の各号に掲げるものとする。

一　学生・教職員等の安全に係わる重大な事態

二　本校の教育研究活動の遂行に重大な支障を及ぼす事態

三　本校の社会的信頼を損なう恐れのある事態

四　施設管理上の重大な事態

五　その他前各号に相当する事態であって，組織的，集中的に対処する必要があると認められる事態

（危機管理のための校長等の責務）

第３条　校長は，本校における危機管理を総括する責任者であり，危機管理を推進するとともに，必要な措置を講じなければならない。

２　教務主事，学生主事，寮務主事及び総合企画室長並びに事務部長は，校長を補佐し，危機管理の推進に努めなければならない。

３　専攻科長，学科主任，一般科目主任，図書館長及び各センター長並びに各課長は，当該部署の危機管理責任者として危機管理を推進するとともに，必要な措置を講じなければならない。

４　教職員は，危機管理意識をもって，その職務の遂行にあたるものとする。

（リスク管理室の設置）

第４条　本校に，危機管理を総合的かつ計画的に推進するため，リスク管理室を置く。

（リスク管理室の構成）

第５条　リスク管理室は，次の各号に掲げる者をもって構成し，リスク管理員とする。

一　校長

二　教務主事，学生主事，寮務主事及び総合企画室長

三　事務部長

四　総務課長及び学生課長

五　その他校長が指名する者

出典:本校規則集

資料１１－1－②－8 リスク管理室協議概要(抜粋)

平成２３年度　第１回リスク管理室協議概要

１．日　　時　　平成２３年７月１３日（水）１６時４０分～１７時００分
２．場　　所　　校長室
３．出 席 者　　井上室長、百田副室長、池田教務主事、佐賀学生主事、天内専攻科長、武田事務部長、久保総務課長
　欠 席 者　　田村寮務主事、牧野テクノリフレッシュセンター長、兼本学生課長
４．配布資料　　資料：「東日本大震災に係るアンケート」
　(高専機構リスク管理本部危機管理室 H23.7.1)
５．議　　事

（１）災害時の緊急連絡体制について

久保総務課長から、資料に基づき緊急時の連絡体制において、今回の東日本大震災時にはある程度スピーディーに安否確認が行えたが、携帯電話が不通になったときの対応に課題があるとの説明があり、以下の意見交換を行った。

・Ｗｅｂを利用して本人から学校へ連絡する体制を構築できないか。
→Ｗｅｂ自体が震災の影響を受けることも考慮すべき。
・学生への連絡体制は、基本的に担任から周知を行うこととしているが、担任自身が被災した場合は、クラス内連絡網が使用できなくなり、安否確認が自宅への連絡のみとなってしまうこと。
→学生課でも緊急時に限ってクラス内連絡網を使用できる体制づくりが必要では。
・強制ではないがメールの登録を行い、一斉送信により学生・教職員に通知を行うこと。
→携帯電話やＰＣを所持していない学生への対応も必要。
・本校ホームページの「緊急のお知らせ」をとおし、本人から学校へ連絡する旨の周知を行うこと。

（２）衛星携帯電話について

久保総務課長から、資料に基づき衛星携帯電話の維持費等について説明があり、続いて、必要性について、以下の意見交換を行った。

・現在、防災専用電話回線が総務課に引かれている。
・電話回線は、電話局が被災したときは不通になる。その際でも衛星電話は通信可能であるが、通信の想定は機構本部との通話がメインとなり、その他の想定は余りできない。
・維持費(年間３０万程度)を勘案して、導入を予定しない。

（３）備蓄物品等について

久保総務課長から、資料に基づき備蓄物品の必要性について、以下の意見交換を行った。

・現在、寮に自家発電装置は所有している。
・ライフラインが寸断されたことを想定した場合、寮生への対応のため水や非常食の備蓄は必要である。
→寮務主事と学生課と非常食の備蓄及び保管場所を検討すること。また、予算要求に関しても検討することとする。

出典:総務課資料

資料１１－1－②－9 緊急のお知らせ(例示)



出典:本校 Web サイト

（分析結果と根拠理由）

本校の目的を達成するために校長の管理・運営方針が的確に示され，各委員会等において諸課題の審議・検討がなされており，教学に係る各種委員会等と管理運営組織等との連携も円滑に行われている。教員組織と事務組織が緊密な協力体制をとり，全教職員が連携協力してその業務を遂行しており，効果的な活動が行われている。また，管理運営に関する諸規則は適切に整備され，全教職員に周知するための方策として事務部 Web サイト（学内限定）が整備されている。

緊急時に際してはマニュアルが整備され，緊急連絡体制も教職員・学生に対しても複数の手法で用意されている。

以上のことから，管理運営に関する各種委員会および教員組織と事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動している。また，危機管理に対する体制も整備されている。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点にかかる状況）

本校の活動の総合的な状況は，自己評価委員会を中心として自己点検・評価が行われている。

自己評価委員会は，平成２０年度に自己評価委員会規則を改正し，教員の年間職務の自己評価，各組織の活動に関する点検・評価に加え，教育点検システム自体の点検もその任務として明記し，それに基づき本校の活動の総合的な状況を点検している（資料１１－２－①－１）。自己評価委員会は，各組織の活動に関する点検・評価として，本校の中期計画に基づく各組織の年度計画の達成状況について，年度毎に確認と検証を行い，その結果を「本校の活動状況報告および教育点検システムの点検結果報告書」としてまとめている（資料１１－２－①－２）。また，この結果は，教育研究分野に精通した大学等教育研究機関の教員，産業界の動向に精通した者，地域関係者で教育に識見を有する者等で組織する「顧問会議」（資料１１－２－①－３）で報告されるとともに，本校Webサイトに公開している（資料１１－２－①－４）。

また，本校の教育プログラムは，平成１５年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）から技術者

教育プログラムとして認定（認定プログラム名：「設計情報工学」，認定分野：「工学（融合複合・新領域関連分野）」）され，平成２１年度には，その認定が継続されている。

さらに，平成１８年度には大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別評価を受審し，その評価結果は，大学評価・学位授与機構のウェブサイトで公開されている。

（http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou/houkoku.pdf）

資料１１－２－①－１　自己評価委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校自己評価委員会規則

（設置）

第１条　徳山工業高等専門学校学則第１条の２の規定に基づき、自己点検・評価を行うため自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　委員会は、次の事項を審議し、実施する。

(1) 教員の年間職務の自己評価に関すること。

(2) 各組織の活動に関する点検・評価に関すること。

(3) 教育点検システムに関すること。

(4) その他校長が諮問する事項

出典：本校規則集

資料１１－２－①－２　本校の活動状況報告および教育点検システムの点検結果報告書（抜粋）

本校の活動状況報告及び
教育点検システムの点検結果報告書（平成 23 年度）

○ 点検手順と日程

点　検　内　容	日　程
1. 平成 23 年度運営委員会の構成メンバー等に、各担当部署の現時点までの活動状況について報告書の提出を依頼	1/12(木)運営委員会で予告 1/13(金)自己委で決定 1/16(月)依頼 2/27(月)〆切
2. 提出された全部署の活動状況報告書をまとめ、当該メンバーに返却。各担当部署の年度末までの活動状況について加筆を依頼。その際、他の部署の記載内容も参考に、実施状況の追記や評価の再確認、未記入欄や誤字脱字等については注意を促すなど、必要な修正を依頼	3/2(金)依頼 3/8(木)〆切
3. 提出された報告書に対し、本校全体の活動状況を主体に、自己評価委員がそれぞれコメントを記入	3/9(金)依頼 3/16(金)〆切
(4. 自己評価委員から提出されたコメントを一覧にまとめ、自己評価委員に送付)	
(5. 他の委員のコメントも参考に、自己評価委員は再度コメントを提出)	
4. 自己評価委員から提出されたコメントをもとに、自己評価委員長が総括の原案を作成し、自己評価委員に送付	3/22(木)送付
5. 自己評価委員会において、本校の活動状況ならびに教育点検システムが機能しているかどうかについて総括の検討	3/26(月)自己評価委員会
6. 活動状況報告ならびにシステムの点検結果報告書をまとめ、公表	5 月の運営委員会にて公表

○ 総　括

自己評価委員会は、本校の教育点検システムそのものが機能していることを点検できるシステムが明確な形で存在しないこと、また学校全体をチェックし改善につなげる部署が明確でないことなどを理由として、平成20年度に自己評価委員会規則を改正し、それまで行っていた各組織の活動における PDCA サイクルの点検・評価に加え、教育点検システム自体の点検もその任務として明記した。すなわち教育点検システムの PDCA サイクル自体が機能している事の検証もその任務とすることとし、新たなシステムによる点検を開始した。平成20年度以来、このシステムの試行を開始し、さらに改善を繰り返した結果、平成22年度までには本校における年間の活動状況が概観でき、教育点検システム自体が機能している事を確認するシステムがほぼ確立した。一方、本校では、学習・教育目標をはじめとして、教育点検システムを含む教育体制がほぼ確立した状況にあり、平成21年度末には第2期中期計画が定められ、この中期計画をベースに、前年度の課題を次年度の PLAN に加え、それを実現すべく Do、Check、Action を行うこととしたことにより、点検・評価の指標が明確になってきた。

次ページ以降に、運営委員会を構成する各部署等から提出された平成23年度における活動状況報告を示す。ここには、各部署の責任者が、自身が関与する項目に対して、PLAN（年度当初の活動

出典：本校の活動状況報告及び教育点検システムの点検結果報告書

資料１１－２－①－３　顧問会議議事録

平成２２年度 第１回顧問会議議事概要

日　時　　平成２２年８月３日（火）　１４：００～１６：２０
場　所　　徳山工業高等専門学校大会議室
司　会　　総合企画室長　百田　正広
出席者　　兼清　則行　　(株)兼清電子代表取締役
　　小泉　達也　　(社)山口県技術交流協会会長
　　神野　清勝　　豊橋技術科学大学理事・副学長
　　髙橋　一登　　徳山高専同窓会高城会会長
　　永松　　強　　周南市中学校長会代表　翔北中学校長
　　弘中　大久　　(社)周南青年会議所理事長
　　堀　　憲次　　山口大学工学部長
　　森　　敏明　　山口県商工労働部長
欠席者　　小野　英輔　　徳山高専テクノ・アカデミア会長

会議進行概要

●開会挨拶　平野校長

●顧問紹介

●議事

（１）「徳山工業高等専門学校の中期計画」について
校長　平野　千博

（２）「教育点検システムの点検結果」について
自己評価委員長　機械電気工学科　教授　森野　数博

（３）「学生相談室の活動」について
学生相談室長　一般科目　教授　長戸　喜隆

（４）「キャリア教育支援室の活動」について
キャリア教育支援室長　一般科目　教授　一色　誠子

出典：平成２２年度　顧問会議議事録

資料１１－２－①－４　自己点検・自己評価



出典：本校 Web サイト

（分析結果とその根拠理由）

本校の総合的な状況に関する自己点検・評価として，本校が定めた中期計画に基づく年度計画を策定し，その達成状況について年度毎に確認と検証を自己評価委員会が中心となって行っている。その結果等は，外部有識者等より構成される「顧問会議」で報告されるとともに，本校 Web サイトで広く公表している。

また，大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の受審や，日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育プログラムの認定など，本校の目的を達成するために外部機関による評価を積極的に受審し，総合的な評価が行われている。

以上のことから，本校の教育研究活動については，総合的な評価が適切に行われ，かつ，その評価結果は公表されている。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

平成１２年度に顧問規則（資料 11－２－②－１）を制定し，教育研究分野に精通した大学等教育研究機関の教員，産業界の動向に精通した者，地域関係者で教育に識見を有する者等で組織する「顧問会議」を開催して外部有識者の意見等を学校の管理運営に反映させている。

顧問会議は，年１，２回定例的に開催され，当該年度ごとにテーマを掲げ，本校の目的を達成す

るための指導・助言を求めている（資料 11－２－①－３）。その意見等は「運営委員会」をはじめとする各種委員会等で検討され，改善を図っている。

資料１１－２－②－１　顧問規則（抜粋）

（設置）
第１条　本校に，徳山工業高等専門学校学則第１条の２第４項の規定に基づき，自己点検・評価の結果について検証を行うため，顧問を置く。
（任務）
第２条　顧問は，校長の諮問に応じ，本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価の結果について意見を述べ，検証を行う。
（委嘱）
第３条　顧問は，次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱する。
(1)　教育研究分野に精通した大学，高等専門学校等教育研究機関の教員等
(2)　産業界の産業動向に精通した者
(3)　本校の所在する地域の関係者で，教育に関し，広く，かつ，高い識見を有する者
(4)　その他高等専門学校に関し，広く，かつ，高い識見を有する者
２　顧問は，若干人とする。
３　顧問の任期は２年とし，再任を妨げない。

出典：本校規則集

（分析結果とその根拠理由）

平成１２年度から設けられた「顧問会議」を定期的に開催し，産官学など各界から広く意見・要望等を求めるとともに，その提言については，「総合企画室」，「運営委員会」，「学習・教育レビュー室」等で実施方法および改善策等を検討し，具体化を図っているなど，外部の意見が反映されている。

以上のことから，外部有識者による検証が適切な形で実施されている。

観点 11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような，システムが整備され，有効に運営されているか。

（観点にかかる状況）

本校の中期計画に基づき，総合企画室が中心となって策定したそれぞれの分野ごとの年度計画の達成状況について，自己点検・評価結果に基づき確認と検証を行っている。自己評価委員会は，その結果を「本校の活動状況報告及び教育点検システムの点検結果報告書」としてまとめ，公開している（資料１１－２－③－１）。中期計画の各分野を担当する部署は，目標達成のため，自己点検・評価の結果を，次年度の年度計画の策定に反映させている（資料１１－２－③－２）。進捗状況については本校 Web サイトに公開している（資料１１－２－①－４）。

具体的な事例として，ＦＤ委員会の改組があげられる。本校の中期計画において「ＦＤ委員会は，教育の質的向上を図ることを目的として，各部署で取り組まれている教員の資質・職務能力の向上のための活動に関するまとめ，周知及び方針等の策定を行う」（資料１１－２－③－３）とされており，日本技術者教育認定機構（JABEE）による指摘事項に基づき，平成２０年度よりＦＤ委員会において自己点検・評価した結果により，その改組を決定した（資料１１－２－③－４）。ＦＤ委員会は，校長を委員長とする組織として改組を行い，その目的を「各部署で取組まれている教職員

の資質・職務能力向上のための活動に関するまとめ，周知及び方針等の策定を行うことにより，教育の質的向上を図る」と定め，平成２１年度に新しい組織としての活動を開始した。平成２１年度には，ＦＤ活動のまとめを行い，平成２２年度以降は，ＦＤ活動の企画，実施に係る総合調整，連携，まとめや周知に関する事を審議し，組織的にＦＤ活動を実施している（資料１１－２－③－５）。全学および各部署におけるＦＤ活動および活動予定は，年度ごとにＦＤ委員会で報告され，審議・承認される。活動内容は，ＦＤ活動報告および活動計画としてまとめられ，本校 Web サイトにより開示されている（資料１１－２－③－６）。

資料１１－２－③－１　各部署の進捗状況ＰＤＣＡ(抜粋)

平成22年度年度計画	平成22年度各部署のPLAN	部署役職名・氏名：		PDCAの自己評価	
		総項目数 229	自己評価の理由 （右の欄に理由を書いてください）		
1．教育に関する事項					
（1）入学志願者の確保		S(年度計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である)の数 22	A(年度計画の達成に向け順調に進捗している)の数 170	B(年度計画の達成に向けやや遅れている)の数 27	C(年度計画の達成に向け大幅に遅れている)の数 5
① 入学志願者数の目標					
（教務主事）		平成22年度PLANの各項目の評価．各項目の横のスペースに S, A, B, Cのいずれかで評価	DO（実際に行った活動） 平成22年度PLANの各項目の横のスペースに実際に行った活動を記入してください。	CHECK（活動のチェック） DOより得られた成果，及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください。	ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し，何らかの対応をした項目について内容を記入してください。
○ 県内外から，優秀で，かつ，意欲のある入学志願者の確保に努める。具体的には，以下の方策を講じることにより，小子化の趨勢の中にあっても，入学者の学力水準の維持に努めるとともに，入学志願者数を維持することを目標とする。	（教務主事） (1)入学志願者の地域別状況等を調査すると共に，全体の拡大方策を検討する。(1．(1)①～④関係)	A(順調に進捗)	・中学校別志願者・合格者・入学者数推移の作成 ・第1志望者数の推移作成 ・学校PRプロジェクトの立ち上げと年間PR計画の立案・実行 ・下関，島根西部，広島西部地区中学校訪問（学校数拡大） ・下関，山口，防府，徳山における山口県内3高専合同説明会の開催（開催地拡大） ・四国地区中学校訪問（新規） ・中学校への出前授業（防災関連）の実施	・入学志願者数は少し減少したものの，県内中学校卒業者に対する比率はわずかではあるが昨年度よりも上昇 ・入学志願者の減少を食い止めるため，傾向等に関する更なる調査・方策検討を行う必要がある	・H23入学志願者の状況調査
○ 県内外から，優秀で，かつ，意欲のある入学志願者の確保に努める。具体的には，以下の方策を講じることにより，小子化の趨勢の中にあっても，入学者の学力水準の維持に努めるとともに，入学志願者数を維持することを目標とする。	（機械電気工学科） (7) 意欲のある入学志願者の確保に向けた効果的な学科PR手法の検討と活動(1．(1)①②③関係)	A(順調に進捗)	■教務主事室と合同で，教務主事補以外の3名が中学校訪問を行った。過去，あまり訪問していなかった広島県東部の中学校を訪問した。 ■校内見学会，公開講座，工作教室，出前授業，校外における学校紹介(山口夢タウンにおけるUFOキャッチャーの実演など)において，小中学生ができるだけ興味を持つような企画を実施した。	■中学校訪問については，大竹や大野付近は距離的にもそう遠くなく，対応の先生も非常に興味を示されていた。今後，中学校の教員や生徒の分析を行い，より効果的な周知活動を行うことが求められる。 ■推薦入試の志願者は29名であり，昨年度よりは減少したものの，まずまずの志願者数であると思われる。 ■本学科は女子学生の志望が他学科と比較して非常に少ない。子供を対象にした工作教室では，女子も男子と同様に興味を示しているので，やり方によっては女子中学生にも機械や電気に興味を持ってもらうことも可能と思われる。	■より効果的な周知活動については，常に模索している。
○ 県内外から，優秀で，かつ，意欲のある入学志願者の確保に努める。具体的には，以下の方策を講じることにより，小子化の趨勢の中にあっても，入学者の学力水準の維持に努めるとともに，入学志願者数を維持することを目標とする。	（土木建築工学科） (3)学科教員一丸となって志願の減少を防ぐための策を常に考え，学科運営を強化する。1.(6)④	A(順調に進捗)	7月上旬に愛媛県松山市，8月下旬に島根県津和野，益田市，10月下旬に下関市の中学校に学校PRのため訪問した。 防災出前授業として県内の中学校6校，小学校1校に出向き，授業および学校PRを行った。 7月の校内見学会では，学科のPRが向上するようにCAカフェ，模型教室など新しい企画を増やした。 学科ホームページを更新し，リアルタイムで学科の状況・情報が閲覧できるように改善した。	残念ながら県外からの志願者はなかったが，志願者数は昨年よりは増加した。 防災出前授業では中学校，小学校からの評判もよかった。 校内見学のアンケートからも新しい企画の評判はよかった。	県外からの志願者獲得には至らなかったが，来年度以降も学校PR，出前授業は継続的に実施する予定である。

出典：総合企画室資料

資料１１－２－③－２　各部署の年度計画案（例）（抜粋）

2010 年 1 月 29 日（木）第 3 案

第２期中期計画　平成２２年度 PLAN　専攻科長担当項目（案）

１.教育に関する事項
（８）教育の質の向上をめざす取組み

①基本方針

PLAN1. 専攻科カリキュラムの改正を検討する。
①. 平成２２年度からの授業時間変更に伴い、専攻科カリキュラム全体の構成を再検討する。
②. 「英語力向上タスクフォース II」の答申（平成２１年度）に基づき、専攻科英語関連科目のシラバス、TOEIC 修了要件の引き上げ等を検討し、英語力向上のための年次計画を策定する。
③. 工学系数学統一試験(EMaT)の受験を促進するとともに、その試験結果を分析し、専攻科における数学系開設科目及びシラバスの内容等を再検討する。
④. 専攻科 HR のあり方を見直し「設計情報工学セミナー」としての必修化を検討する。
⑤. 専攻科の教育プログラムを「長期インターンシップ」を中心とした総合的技術者育成プログラムとして確立するため、「産業論」「経営工学」「安全工学概論」等の必修化を検討する。

PLAN2. エンジニアリング・デザイン教育改善のための検討を開始する。
①. 平成２１年度で終了する「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」の成果を生かし、平成２２年度以降は、学内教員を中心として「総合実験」「総合演習」を継続して実施する。
②. エンジニアリング・デザイン教育に関する JABEE 認定審査基準の変更を視野に、エンジニアリング・デザイン教育体制の整備を開始する。

PLAN3. 専攻科入試基準の見直し
①. 過去３年間の学位授与試験、専攻科修了等の状況を考慮し、専攻科推薦入試および学力入試制度の見直しを検討する。

出典：専攻科資料

資料１１－２－③－３　第２期中期計画（抜粋）

⑤ FD 活動

（FD 委員会）

○ FD 委員会は，教育の質的向上を図ることを目的として，各部署で取り組まれている教員の資質・職務能力の向上のための活動（以下「FD 活動」という。）に関するまとめ，周知及び方針等の策定を行う。

○ 各部署は，FD 委員会が策定した方針に従い，FD 活動に取り組む。

出典：第２期中期計画

資料１１－２－③－４　ＦＤ委員会議事録

平成20年度 第1回 FD 委員会 議事録

日時　　平成21年3月24日(火) 10:00

場所　　教室・管理棟2F 大会議室
出席者　教務主事(池田)、教務主事補(室長、張間、杉村、佐々木)、専攻科長(天内)、専攻幹事(北村)、学習・教育レビュー室長(義永)、エグザイミナー(櫻本、山田、古田)、自己評価委員長(森野)
欠席者　専攻幹事(一色、柳澤、熊野)、エグザイミナー(秋吉)、事務部長(篠山)、総務課長(近藤)、学生課長(小玉)

議題
1. FD 委員会のあり方について
2. その他

まず委員長(教務主事)より、
① 本 FD 委員会は技術者教育認定対策会議をそのままの形で受け継いだ委員会であること。
② 今年度は5回の学内研修会(e-learning・FD、学位審査、クラブ活動、発達障害、安心・安全)が開催されたこと。
③ 今年度 JABEE 継続審査にて、学内研修会の実施や学外研修会への参加など個々の FD 活動は実施されているが、学校全体として組織的な取組みがなされているかどうかについては不十分(W)の指摘を受けたこと。
④ 教員の資質として、教育面(授業、学生指導)と研究面が考えられること。
⑤ 授業については、学習・教育レビュー室によりシラバス、成績評価のチェックや公開授業が実施され、継続的な教育改善が図られていること。
⑥ 学生指導では、最近特に心のケアなど学生相談室に関連することが重要であると思われること。

の説明があったのち、次のような問題提起がなされた。
① FD 活動としてどのようなことを行うべきか。
② 具体的な検討・計画にあたっては、今の FD 委員会のままでよいか。組織(メンバー)を改変する必要はないか。

これに対し、委員から次のような意見が出された。
① FD 活動として教員研修が考えられるが、焦点を絞った研修を行うべき。
② 他の高専等がどのような FD 活動を行っているかの調査が必要。
③ 徳山高専の現状は、学校のポテンシャル(教員の資質)という面(学生の素質を伸ばしきれているか。研究面、資金獲得、地域貢献等はどうか。)では十分とは言い難い。
④ FD 委員会として、次のステップへ向かう体制づくりが必要。
⑤ FD ポイントを導入し、FD 活動の活性化を図っている学校や泊り込みで研修会等を行うことで、FD 活動を大きくアピールしている学校もある。
⑥ 学外研修会への参加者は多いが、そのフィードバックがなされていない。教員会議等で報告の機会を設けたらどうか。その調整等は FD 委員会で。
⑦ 学内研修会についても、FD 委員会にて焦点を絞り、年間のスケジュールを検討するのがよい。
⑧ FD 活動用予算枠を確保するべき。
⑨ 今回の JABEE 審査での指摘は組織的に行うシステムがあり、有効に実行されているかの点での指摘であることから、余り大きく広げず、FD 委員会規則の目的を「各部署で取り組まれている教職員の資質・職務能力の向上及び教育システムの改善(以下、FD 活動)に関する**まとめ、開示及び方針等の策定**を行うことにより、教育の質的向上を図る。」に変更したらどうか。

以上の結果、FD 委員会の方向性については次のような意見で大方の一致をみた。
1. 上記⑨のような形で、FD 委員会の目的を見直す。
2. 構成メンバーを再検討する(校長を委員長とする)。
3. 各部署あるいは教職員からの意見を吸い上げられるような体制を検討する。

出典：ＦＤ委員会資料

資料１１－２－③－５　ＦＤ委員会の規則改正および活動の経緯

FD委員会の規則改正及び活動の経緯

年度	日　　時	審議機関等	検 討 内 容
20	平成21年3月24日	第1回FD委員会	FD委員会の在り方について検討 FD委員会の改組について決定
21	平成21年7月23日	第1回FD委員会	FD委員会の活動内容及び組織について検討
	平成21年8月30日	第2回FD委員会	FD委員会規則改正案の検討
	平成21年9月10日	運営委員会	FD委員会規則改正承認
	平成21年9月10日	第3回FD委員会	FD委員会の今後の活動について検討
	平成21年10月8日	第4回FD委員会	平成21年度前半の活動状況の報告 FD関連研修会参加報告書の提出及び報告会について検討 各部署におけるFD関連活動計画について検討
22	平成22年5月13日	第1回FD委員会	FD委員会及びFD活動の充実に係る方策について FD活動計画書及び活動報告書の様式並びにとりまとめ方法の検討 FD活動方針の確認
	平成22年7月8日	第2回FD委員会	平成21年度活動報告及び平成22年度活動計画の報告 FD活動の対象について検討 FD活動状況の検討と見直しの必要性について確認
	平成22年10月21日	第3回FD委員会	平成21年度活動報告書まとめ及び平成22年度活動計画まとめの修正報告 FD活動状況の周知方法について検討
23	平成23年5月17日	第1回FD委員会	平成22年度FD活動報告書まとめ 平成23年度FD活動計画書報告 FD活動状況のHP掲載について報告 FD活動の定義について確認 FD講演会の実施について
	平成23年6月9日	第2回FD委員会	FD活動状況のHP掲載方法の変更 FD講演会の開催について確認

出典：ＦＤ委員会資料

資料１１－２－③－６　ＦＤ活動報告書の開示

FD研修会を開催



高専機構の改革推進経費採択事業「中国地区８高専連携高専教育力向上プロジェクト－特別支援教育体制整備を通して－」の一環として川俣理恵先生（名城大学講師）をお招きし，「Q-Uテスト」について研修会を開催しました。

「Q-Uテスト」はクラスの集団分析と要支援学生発見のツールとして，全国の小・中・高校や高専で広く利用されている検査です。

「Q-Uテスト」の仕組みと目的について理解が深まり，有意義な研修会となりました。

H24.1.10　研修会の様子

平成23年度FD活動計画一覧（PDF形式）
平成23年度FD計画書（部署）（PDF形式）
平成23年度FD計画書（個人）（PDF形式）

平成22年度 FD活動報告一覧（PDF形式）
平成22年度 FD活動報告書(部署)（PDF形式）
平成22年度 FD活動報告書(個人)（PDF形式）
平成22年度 FD活動計画一覧（PDF形式）
平成22年度 FD活動計画書（部署）（PDF形式）
平成22年度 FD活動計画書（個人）(PDF形式)

平成21年度 FD活動報告一覧（PDF形式）
平成21年度 FD活動報告書(部署)（PDF形式）
平成21年度 FD活動報告書(個人)（PDF形式）

平成19年度・平成20年度 FD活動報告一覧（PDF形式）
平成19年度・平成20年度 FD活動報告書(部署・個人)（PDF形式）

出典：本校 Web サイト

（分析結果と根拠理由）

本校の中期計画に基づき，策定したそれぞれの分野ごとの年度計画の達成状況について，自己点検・評価結果に基づき確認と検証を行い，その結果を報告書としてまとめ，公開している。中期計画の各分野を担当する部署は，目標達成のため，自己点検・評価の結果を，次年度の年度計画の策定に反映させることで，ＰＤＣＡサイクルが具体的に機能している。

以上のことから，評価結果がフィードバックされ，本校の目的を達成するための改善に結びつけられるようなシステムが整備され，有効に運営されている。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

「顧問会議」により外部の有識者より頂いた提言（資料１１－３－①－１）を検討し，管理運営に反映させている。顧問会議からの提言をもとに，「同窓会（高城会）との関係強化」，「中

学校説明会の改善」を年度計画に盛り込み（資料１１－３－①－２），総合企画室においてこれらに関する議論を行った（資料１１－３－①－３）。その結果，平成２２年３月には，高城会のホームページが開設され，現在，本校 Web サイトと相互にリンクし，情報の共有等による連携の強化を図っている（資料１１－３－①－４，５）。また，すべての学科の教員が参加する学校全体の取組みとして，徳山高専ＰＲリストを作成し，現在，様々な形態による，小・中学生と保護者，小・中学校，地域社会等に対する学校ＰＲの活性化を試みている（資料１１－３－①－６）。

他にも，平成２０年度の日本技術者教育認定機構（JABEE）継続認定審査により指摘された事項をふまえ，平成２１年度にはＦＤ委員会の改組を行っている（資料１１－２－③－５）。

資料１１－３－①－１　顧問会議【顧問からの意見・コメント】（抜粋）

高橋顧問

私は徳山高専同窓会の会長です。資料中にＯＢの活用という言葉があり，年度計画にも１２ページに「卒業生との連携」とあり，「卒業生の動向把握，ネットワーク作りおよび活躍支援の仕組みについての検討を高城会に要請する」と書いてあります。私は，ＯＢの力というのを３０年経って初めて認識するようなところもあるのですが，社会に出てＯＢが持っている人間力や技術力というものは，先程の支援室のきゃりＰｉの話にもありましたが，学校に向けて役に立てるべきだろうと思っています。役に立てたいのだけれども３０年経った今なかなか卒業生と学校との絆ができていない，強くなってきていないという現状の中で，あと３０年後には，この状況のままではいけないと強く思っています。その中で，高城会にそれを要請されるのではなく，学校としてどうしたらいいか，それを学校の問題として捉えていただきたいなという気持ちがあります。例えば，きゃりＰｉのカードにＩＤやパスワードの仕組みがありますが，それを生涯ＩＤにして，それを持っていれば学校との相互協力も込み入ったことができるし，同じクラスの仲間との連絡も取り合えるといったことを仕組みとして作っていただけたらと思います。

神野顧問

受験者を増やしたいというお話がありました。中学生に対して高専の勧誘をするのに，ここに書かれたような技術者像というのを説明されていると思いますが，高専の特徴は，例えば完成教育なのか，大学へも行けることなのか，そのあたりのところはどのようなコンセンサスの上で中学校訪問などをされているのか非常に興味があります。高専の学生がたくさんいてくれれば本校もその進学先ですので，直接的に自分たちに関わっていることとして関心を持っています。

出典：平成２２年度顧問会議議事概要

資料１１－３－①－２　徳山工業高等専門学校　平成２４年度年度計画（抜粋）

（１）入学志願者の確保
①　入学志願者数の目標
○　県内外から，優秀で，かつ，意欲のある入学志願者の確保に努める。具体的には，以下の方策を講じることにより，少子化の趨勢の中にあっても，入学者の学力水準の維持に努めるとともに，入学志願者数を維持することを目標とする。

②　中学校への説明会の実施
○　本校のアドミッション・ポリシーを明確に示し，各学科の協力による学校ＰＲ年間計画を策定し，中学校への説明を引き続き実施する。
○　意欲ある学生及び保護者の本校に対する関心を高めるため，校内見学会での説明に在学生を活用する等，校内見学会，体験入学等を充実させる。
○　女子中学生の関心を高めるため，上記取り組みに際して，女子学生の活躍の状況を伝える見地から，校内見学会での説明やＰＲ資料（ビデオレター等）作成への協力を女子学生に依頼する。
○　中学生や保護者を対象とした学校説明会の実施を検討する。

③　広報活動の充実
○　中学生やその保護者を対象とする広報資料を継続して発行する。その際，学校案内については内容を見直し，学科別ＰＲリーフレットを作成する。
○　近隣高専との高専ＰＲ事業を合同で実施する。
○　ＨＰの充実や報道発表を積極的に行い，地域における本校の知名度の向上に引き続き努める。
○　同窓会と連携し，広報活動を行う。

④　複数の入学試験場の確保
○　県内高専と連携し複数の学外入学試験場の合同設置を引き続き行う。

⑤　寮に関する広報活動の充実
○　遠方の志願者の関心を高め，入寮希望者を増加（定員充足）させるため，老朽化した学寮施設を改善すると共に，学寮ホームページ，パンフレット等により寮生活の快適さを積極的に広報するとともに，寮の見学会を寮生会の協力の下に引き続き実施する。

中略

３．社会との連携，国際交流等に関する事項
①　地域社会との連携
○　周南市等の地域自治体や山口県内の大学・高専等との連携・協力関係を維持する。
（テクノ・リフレッシュ教育センター）
○　研究・技術成果のシーズ発表会を年度末(産学交流会)に行う。
○　テクノ・アカデミア会員企業数の増加，共同研究数の増加などを行うため，公的外部資金の期首での予算化を行う。
○　第５回中国地区高専テクノ・マーケット in 山口を行い，拠点校としての最終事業を完遂させる。
○　夏休み体験教室を開講して，多数の小・中学生の参加を得る。
○　科学・技術などの公開講座を実施する。
○　周南市と協力して，地域の小学生，中学生，高校生，高専生，大学生および一般市民が参加できる市民参加型ロボットコンテスト（周南ロボコン）を開催する。
○　周南市街地に開いた徳山高専サテライト「徳山高専夢広場」を活用して，「いんぐりっしゅ☆る～む」，「哲学カフェ」，「英語多読教習所」，「パソコン若葉相談室」，「留学生のふるさと展」を引き続き開催し，本校と地域との交流を促進する。

②　卒業生との連携
○　同窓会「高城会」との連携の下で，卒業生の動向把握，ネットワーク作りおよび活躍支援をすすめる。

出典：平成２４年度年度計画

資料１１－３－①－３　総合企画室 meeting 議事概要

総合企画室 meeting 議事概要（2009-19）

場　所：テクノセンター環境システム室
日　時：平成２２年1月２1日（木）１０：４５ ～１１：３５
出席者：百田、国重、重村、熊野
欠席者：西村

議題

報告事項（企画室長）

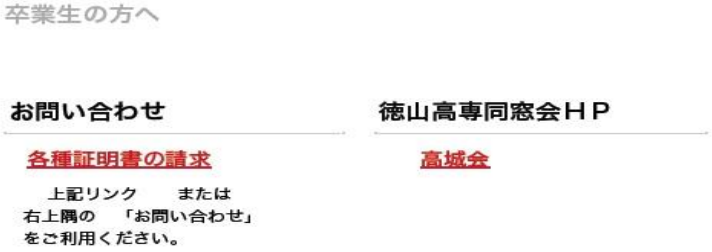
1. 顧問会議が１月１４日に開催
   顧問からは特に指摘事項はなかった旨報告された。
2. 広報誌「高専だより」について
   原稿は大方集まってきており、編集後記は西村先生に依頼することとなった。
   企画室にて校正を行うこととなった。
3. 外部資金について
   文科省関連も応募予定２件、振興調整費に応募打診中であることが報告された。
4. ３高専連携会議（２月開催予定）
   ２月９日、１０日、１２日の何れか１日で３高専連携会議を開催予定であることが報告された。
5. 平成２１年度年度計画実施状況に係る調査
   広報資料の作成、教育課程の再編の検討状況、退職技術者を利用した実践例について提出した
   ことが報告された。
6. 来年度企画室の体制について
   来年度は、企画室長百田、国重主務、北村主務、重村主務、原主務の体制で行うことが報告された。
7. 高度化再編について
   学内の組織の見直しが進められることが報告された。
8. その他
   ＣＡ学科の定員割れの懸念について報告された。

審議事項

1. 特別研究促進費研究成果報告会
   ２月１６日、１７日で特別研究促進費研究成果報告会が開催されることとなり、
   ２月１６日（水）の座長　重村先生、１７日（木）の座長　熊野先生となった。
2. ホームページの改良について
   同窓会と連携することとなり、３月に同窓会ＨＰが立ち上がることとなった。
3. 企画室年次計画作成について（１月２９日締め切り）
   平成２２年度年次計画について意見があれば、次回のミーティングで調整することとなった。
4. その他
   次回は、１月２８日（木）

出典：総合企画室資料

資料１１－３－①－４　本校 Web サイトから同窓会 HP へのリンク



出典：本校 Web サイト

資料１１－３－①－５　同窓会（高城会）ホームページ

高城会トップ　　12/06/18 11:39

徳山高専同窓生のためのコミュニケーションサイト

高城会



カテゴリー

高城会について
- 徳山高専同窓会会長挨拶
- 徳山高専校長挨拶
- 同窓会支部一覧
- 理事会総則

同窓会行事
- 高城会からのお知らせ
- 支部掲示板
- 「つながる・ひろがる」

再就職支援室

コミュニティー
- 先生からの手紙
- 同窓生によるリレー便り

高専ヒストリー
- アルバムでみる高専の歴史
- 高城便り

高城会発足30周年記念

003087

リンク
- 徳山高専ホームページ

最近のトピック

高城会では、東日本大震災により被災された本会会員への支援を検討しています。
該当される方におかれましては、ご連絡・ご相談ください。
また、被災地域にお住まいの卒業生の安否、被災状況情報をお持ちの方は、
ご連絡ください。御協力をお願いいたします。

被災連絡・相談専用アドレス
admin@takajokai.jp

２０１２．２．２８　全国高等学校柔道選手権出場のお知らせ

機械電機工学科2年生の高橋昌也さんが、第34回全国高等学校柔道選手権の男子90kg級個人戦に出場されます。お近くの方は、ぜひ会場まで足をお運びください。熱い応援をお願いいたします。

日本武道館　3月19日（土）　男女個人戦
開会式9時～　試合開始9時20分～

第３４回内閣総理大臣杯争奪全国高等学校柔道選手権大会
組み合わせ表

２０１１．１１．３　被災地への支援

被災地へ家電や物資などを送る活動を続けている周南市のビームクリエイション代表　松原香織さんに、支援金をお渡ししました。11/3当日は、事務所に集まった支援物資をボランティアの皆さんで梱包作業中。受けつけた家電を、通電確認したり、ピカピカに掃除をされています。ボランティアスタッフの中には、本校卒業生の姿もありました。
松原さんは、近く宮城県に入り、現地で家電を購入し、被災地へ届けます。
そのときの模様は、2012年春の高専便りでご報告いたします。

日刊新周南　掲載記事
東日本大震災被災地支援スマイルアクションプロジェクト



２０１１．１０．３０　平成２３年度同窓会理事会



7名の執行委員と7名のクラス理事が集い、同窓会理事会を行いました。
東日本大震災に対する本会の対応について、議論され、今後の長期的な支援活動を決定しました。
今年度の予算や取り組みの他に、本会学生会員の全国高専大会での活躍やロボコン大会の結果が紹介され、その頑張りを讃える声が多数あがりました。

▪理事会議事録（ｐｄｆファイルが開きます）　H２３年度議事録

２０１０．１１．２０　第二回全国高専同窓会連絡会

http://www.takajokai.jp/　　1/2 ページ

出典：高城会 Web サイト

資料１１－３－①－６　徳山高専ＰＲリスト

教務主事室　徳山高専PR リスト(2011年度)

	内　容	担当	実施日	場　所	対象・人数
中学校主催進学説明会	中学3年生及び保護者	教務主事室	6/14～7/11	周南市，光市，防府市，平生町，岩国市　19校	2000
		杉村敏彦	6月15日(水)	大道中学校	
		池田信彦	6月19日(日)	平生中学校	
		藤田重陵	6月21日(火)	牟礼中学校	
		森崎哲也	6月21日(火)	住吉中学校	
		柏倉知秀	7月1日(金)	菊川中学校	
		柏倉知秀	7月1日(金)	桜田中学校	
		杉村敏彦	7月4日(月)	須々万中学校	
		中川明子	7月4日(月)	室積中学校	
		森崎哲也	7月5日(火)	福川中学校	
		森崎哲也	7月5日(火)	桑山中学校	
		池田信彦	7月6日(水)	浅江中学校	
		柏倉知秀	7月6日(水)	富田中学校	
		池田信彦	7月6日(水)	岐陽中学校	
		池田信彦	7月7日(木)	太華中学校	
		中川明子	7月8日(金)	周東中学校	
		中川明子	7月8日(金)	鹿野中学校	
		杉村敏彦	7月8日(金)	周陽中学校	
		森崎哲也	7月8日(金)	島田中学校	
		柏倉知秀	7月14日(木)	華陽中学校	
中学校主催進学説明会	中学2年生	教務主事室	11月7日(月)	和田中学校	20
(進路講話会)	高校・高専の説明	教務主事室他	3月6日(火)	福川中学校1年生	118
本校主催進学説明会	進路担当者への説明	教務主事室	10/25～11/19	県内11箇所　広島県1箇所	57
		杉村敦彦，大谷　幸	10月25日(火)	島田中学校(参加校5校)	
		森崎哲也，大谷　幸	10月26日(水)	長成中学校(参加校2校)	
		中川明子，兼本和枝	10月27日(木)	牟礼中学校(参加校5校)	
		杉村敦彦，兼本和枝	11月1日(火)	岩国中学校(参加校5校)	
		柏倉知秀，大谷　幸	11月2日(水)	小郡中学校(参加校5校)	
		森崎哲也，大谷　幸	11月7日(月)	玖珂中学校(参加校2校)	
		中川明子，兼本和枝	11月8日(火)	山口大学附属山口中学校(参加校4校)	
		池田信彦，大谷　幸	11月9日(水)	柳井中学校(参加校5校)	
		柏倉知秀，大谷　幸	11月10日(木)	東岐波中学校(参加校2校)	
		杉村敦彦，兼本和枝	11月11日(金)	萩東中学校(参加校2校)	
		池田信彦，大谷　幸	11月15日(火)	大竹中学校　(参加校１校)	
		柏倉知秀，兼本和枝	11月9日(水)	徳山工業高等専門学校(参加校6校)	
		池田信彦，兼本和枝	11月19日(土)	徳山工業高等専門学校(参加校12校)	
中学校訪問	出身中学校訪問	教務主事室	7/25～8/10	新入生出身中学校25校－新入生101人	25
	中学校への情報提供等	柏倉　知秀	7月25日(月)	菊川中学校	
		柏倉　知秀	7月25日(月)	福川中学校	
		森崎　哲也	7月26日(火)	由宇中学校	
		森崎　哲也	7月26日(火)	柳井西中学校	
		杉村　敦彦	7月28日(木)	桜田中学校	
		杉村　敦彦	7月28日(木)	秋月中学校	
		森崎　哲也	7月28日(木)	岐陽中学校	
		森崎　哲也	7月28日(木)	住吉中学校	
		池田信彦，米田都生	7月29日(金)	浅江中学校	
		池田信彦，米田都生	7月29日(金)	島田中学校	
		杉村　敦彦	8月　1日(月)	光井中学校	
		杉村　敦彦	8月　1日(月)	附属光中学校	
		杉村　敦彦	8月　1日(月)	平生中学校	
		中川　明子	8月　1日(月)	秋穂中学校	
		中川　明子	8月　1日(月)	牟礼中学校	
		中川　明子	8月　1日(月)	国府中学校	
		池田　信彦	8月　3日(水)	末武中学校	
		池田　信彦	8月　3日(水)	熊毛中学校	
		柏倉　知秀	8月　5日(金)	太華中学校	
		柏倉　知秀	8月　5日(金)	周陽中学校	
		森崎　哲也	8月　5日(金)	鹿野中学校	
		柏倉　知秀	8月　8日(月)	玖珂中学校	
		柏倉　知秀	8月　8日(月)	周東中学校	
		森崎　哲也	8月10日(水)	平川中学校	
		森崎　哲也	8月10日(水)	附属山口中学校	
第1回校内見学会			7月16日(土)		430
第2回校内見学会			11月19日(土)		252
県内3高専合同説明会	一般対象高専周知活動	徳山高専	7月30日(土)	下松市：ザ・モール周南	400
		大島商船高専	8月2日(火)	広島市：広島アルパーク天満屋	500
		宇部高専	8月23日(火)	防府市：ロックシティ防府	
		宇部高専	8月24日(水)	下関市：シーモール下関	
	選別自主研修(高校調)	教務主事室	5月27日(金)	秋月中学校2年生　本校訪問	25
	美祢市PTA連合会研修視察		1月19日(木)	美祢市内中学校8校の育友会会長・副会長，校長・教頭来校	20

一般科目　徳山高専PR　リスト（2011年度）

徳山高専PR リスト(	内　容		実施日	場　所	対象（人数）	備考
中学校訪問	学校案内（進路指導訪問）	大積・国重	6月10日	廿日市市立中中学校	進路指導主事（小形先生）	15:10～16:00
	学校案内（進路指導訪問）	大積・国重	6月10日	廿日市市立七尾中学校	内田校長，進路指導主事（ナガタ先生）	16:30～17:00
出前授業	なし					
工作教室等	大気圧に関する実験・講義	室長・笠置	4月23日	徳山高専	小学校高学年以上（12名）	科学技術週間実験教室
	本物の金で表面をぴっかぴかに	大積	8月9、10日	ソラール	小中学生	
	夏休み子供サイエンス教室	天内	8月10日	周南市立図書館	小中学生（40名）	
	中学校総復習（演習と解説）	国重	1月14日	徳山高専	中学生（先着20名）	
	光およびLEDに関する実験実験・講義①	室長・笠置	6月30日	岐陽中学校	岐陽中学校2年生（175名）	SPP　14:00～16:00
	〃　②	室長・笠置	7月26日	〃	〃（25名）	SPP　14:00～16:00
	〃　③	室長・笠置	8月2日	〃	〃（3名）	SPP　14:00～16:00
	〃　④	室長・笠置	8月3日	〃	〃（8名）	SPP　14:00～16:00
	〃　⑤	室長・笠置	8月23日	〃	〃（25名）	SPP　14:00～16:00
	〃　⑥	室長・笠置	8月26日	〃	〃（16名）	SPP　10:00～16:00
	〃　⑦	室長・笠置	11月17日	〃	〃（175名）	SPP　14:05～
学校PRイベント	なし					

※ 上記のなかには，「徳山高専夢広場」での活動（いんぐりっしゅ☆る～む，多読教習所など）は含んでいない

機械電気工学科　徳山高専PR　リスト

	内　容	担　当	実施日	場　所	対象（人数）	備　考
中学校訪問	高校進路説明会	藤田	6月	防府市立牟礼中学校	3年生全員、保護者30人程度	15分程度
	学校案内（進路指導訪問）	桜本	6月24日	廿日市市立阿品台中学校	生徒指導担当（三宅先生）	14:30～15:00
	学校案内（進路指導訪問）	桜本	6月24日	廿日市市立野坂中学校	進路指導担当（石田先生）	16:30～17:20
	学校案内（進路指導訪問）	張間	6月27日	大竹市立玖波中学校	進路指導担当（鳥田先生）	12:40～13:20
	学校案内（進路指導訪問）	張間	6月27日	大竹市立小方中学校	進路指導担当（根石先生）	14:30～15:10
	学校案内（進路指導訪問）	張間	6月27日	大竹市立大竹中学校	進路指導担当（砂子先生）	16:30～17:20
	学校案内（進路指導訪問）	張間	7月1日	岩国市立岩国中学校	進路指導担当（加本先生）	13:00～13:30
	学校案内（進路指導訪問）	張間	7月1日	岩国市立川下中学校	進路指導担当（平田先生）	14:30～15:30
	学校案内（進路指導訪問）	張間	7月1日	岩国市立平田中学校	進路指導担当（竹本先生）	16:30～17:10

出前授業	体験授業	飛車	11月8日	周陽中学校		
工作教室等	SPP（ロボットに関する講義・実演）	桜本	7月14日	周南市立徳山小学校	小学5・6年生　計7クラス	14:00～15:20、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	周南ロボコン製作教室	藤本	8月27日	徳山高専テクノセンター	小中学生　約30名	9:00～16:00、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	周南ロボコン製作教室	桜本	8月28日	徳山高専テクノセンター	小中学生　約30名	9:00～16:00、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	周南ロボコン製作教室	桜本	8月30日	岐山公民館	小中学生　約30名	9:00～16:00、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	周南ロボコン製作教室	桜本	8月31日	櫛ヶ浜公民館	小中学生　約10名	9:00～16:00、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	SPP（周南ロボコン製作教室）	桜本	9月15日	周南市立徳山小学校	小学5年生　1クラス	9:00～12:00、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	SPP（周南ロボコン製作教室）	桜本	9月16日	周南市立徳山小学校	小学5年生　2クラス	9:00～15:00、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	日本宇宙少年団ものづくり科学教室	伊藤	1月15日	徳山高専		LED・センサーライト電子工作
学校PRイベント	ボーイスカウトミニジャンボリーイベント協	藤本	6月18日	宇部市きららドーム		
	ボーイスカウトミニジャンボリーイベント協	藤本	6月19日	宇部市きららドーム		
	NHKロボコン中国大会	西村・藤本	10月16日	宇部市俵田翁体育館	小中高校生、一般多数	13:00～17:00、メカトロ部協力
	周南ロボコン	桜本・藤本	10月29日	徳山高専体育館	小中高校生、一般多数	8:30～16:00、ME学生、メカトロ部、学生会協力
	3高専合同説明会	藤本	10月30日	ザ・モール周南		
	月刊まるごと周南 取材	藤本	10月	徳山高専		
	志村どうぶつ園　取材（日本テレビ）	藤本	3月7日	徳山高専		

情報電子工学科　徳山高専PR　リスト(2011年度)

	内　容	担当	実施日	場　所	対象・人数
中学校訪問	進路指導担当訪問	山田，重村	6月22日	廿日市の2校(佐伯，四季が丘)	
	進路指導担当訪問	重村	9月5日	柳井市の3校(大和，柳井，田布施)	
公開講座等	公開講座	山田，古賀， 重村，藤本	8月23日	徳山高専「マイコンを使った光る電子オルゴールの製作」	小5～中3　20名
	公開講座	藤本	12月23日	徳山高専「通信・情報を守る仕組みー暗号の基礎ー」	中学生6名
学校PRイベント	夢広場イベント	奥本，高山，山田， 藤本，山本	6月18日	街あい「情報電子工学科　創造演習成果発表」	
	徳小ロボコン2011	柳澤	9月12日	プログラミング講習会	
	徳小ロボコン2011	柳澤	9月13日	プログラミング講習会	
	徳小ロボコン2011	柳澤	11月17日	徳山小学校　コンテスト	

土木建築工学科　徳山高専PR　リスト(H23年度実施分)

	内　容	担　当	実施日	場　所	対象(人数)	備　考
						生徒数(3年生)
中学校訪問	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月4日	松山市立北条北中学校	生徒指導担当	355(114)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月4日	松山市立鴨川中学校	生徒指導担当	565(188)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月4日	松山市立内宮中学校	生徒指導担当	482(150)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月4日	松山市立高浜中学校	生徒指導担当	144(43)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月4日	松山市立北中学校	生徒指導担当	511(189)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月5日	松山市立旭　中学校	生徒指導担当	146(48)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月5日	松山市立湯山中学校	生徒指導担当	259(89)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月5日	松山市立北条南中学校	生徒指導担当	342(115)
	学校案内(進路指導訪問)	目山・桑嶋	7月5日	松山市立道後中学校	生徒指導担当	544(175)
	学校案内(進路指導訪問)	目山	7月5日	松山市立東中学校	生徒指導担当	270(85)
	学校案内(進路指導訪問)	桑嶋	7月5日	松山市立勝山中学校	生徒指導担当	700(231)
	学校案内(進路指導訪問)	目山	7月5日	松山市立雄新中学校	生徒指導担当	708(253)
	学校案内(進路指導訪問)	桑嶋	7月5日	松山市立城西中学校	生徒指導担当	566(193)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月4日	松山市立三津浜中学校	生徒指導担当	603(204)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月4日	松山市立垣生中学校	生徒指導担当	326(121)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月4日	松山市立西中学校	生徒指導担当	644(212)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月4日	松山市立津田中学校	生徒指導担当	539(189)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月4日	松山市立余土中学校	生徒指導担当	680(240)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月5日	松山市立拓南中学校	生徒指導担当	497(158)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月5日	松山市立桑原中学校	生徒指導担当	542(197)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月5日	松山市立小野中学校	生徒指導担当	444(152)
	学校案内(進路指導訪問)	上	7月5日	松山市立久米中学校	生徒指導担当	843(290)
	学校案内(進路指導訪問)	海田	7月5日	松山市立南第二中学校	生徒指導担当	755(244)
	学校案内(進路指導訪問)	上	7月5日	松山市立南中学校	生徒指導担当	652(216)
	学校案内(進路指導訪問)	海田	7月5日	松山市立椿中学校	生徒指導担当	602(198)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月5日	砥部町立砥部中学校	生徒指導担当	625(229)
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月4日	松前町立岡田中学校	生徒指導担当	259
	学校案内(進路指導訪問)	上・海田	7月4日	松前町立松前中学校	生徒指導担当	386
						担当者
出前授業	防災出前授業	渡辺・目山	7月13日	周防大島町立久賀中学校	1～3年生　72人	松田和晃(教頭)
	防災出前授業	海田・目山	6月16日	岩国市立玖珂中央小学校	6年生　38人	大塚健真
	防災出前授業	渡辺・目山	6月15日	岩国市立通津中学校	2年生　28人	福多亮子
	防災出前授業	上・目山	7月11日	萩市立佐々並中学校	1～3年生　10人	岩本眞知子
	防災出前授業	佐賀・目山	7月19日	防府市立富海中学校	1～3年生　39人	上田良夫
	防災出前授業	海田・目山	10月7日	岩国市立装港小学校	5～6年生　18人	阿部一美
	防災出前授業	目山	9月22日	防府市立小野小学校	5～6年　51人	津田敬子(教頭)
	防災出前授業	橋本・目山	9月28日	下松市立久保中学校	2年生　117人	田立雅行(ただつ)
	防災出前授業	渡辺・目山	9月20日	周南市立鼓南中学校	全校　22人	弘田教頭 前任地は須佐中
	防災出前授業	渡辺・目山・桑嶋	10月5日	周南市立大津島小学校	6年生　3人	
	防災出前授業	目山	6月22日	防府市立右田小学校	6年生　69人	
	防災出前授業	目山	6月29日	防府市立右田中学校	2年生　116人	
	防災出前授業	目山	12月16日	防府市立玉祖小学校	6年生　68人	

出典：教務係資料

（分析結果とその根拠理由）

平成１２年から設けられた「顧問会議」を定期的に開催し，産官学各界から広く意見・要望等を求めるとともに，その提言については，主事連絡会，総合企画室，運営委員会等で実施方法および改善策等を検討し，具体化を図っているなど，外部の意見が反映されている。また，JABEE 教育プログラム認定評価，機関別認証評価の評価結果を運営改善に反映している。

以上のことから，外部有識者の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されている。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

国内では徳山大学，広島大学総合科学部，海外ではグリフィス大学（オーストラリア），チェコ工科大学と学術協力協定を結んでいる。徳山大学では，協定に基づく単位互換制度を利用し単位を修得している学生がいる（資料１１－３－②－１）。協定校以外でも，専攻科インターンシップの受け入れ先としてオーストラリア・ワランゴン大学を活用している（資料１１－３－②－２）。また，インターンシップの受け入れ先として多くの企業や官公庁に協力を頂いている（資料１１－３－②－３）。

平成１９年から３年間にわたり取り組んだ全学科／専攻の横断プロジェクト「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」を構成する「総合実験」「総合演習」では，多数の企業技術者との協働教育を実践している（資料１１－３－②－４）。

その他にも，本校では専攻科「産業論」などの講義においても，豊富な経験を持つ実務経験者の講義を通じて，技術者の資質，企業人としてどう生きるべきかなどについて学び，就業意識を高めるための協働教育を実践している（資料１１－３－②－５，６）。

資料１１－３－②－１　徳山大学「自治体学特論」における単位取得



23 年度
科目名：自治体学特論
教員名：斉藤　由里恵

No.	学籍番号	学生氏名	評価
1	S41-301	[redacted]	優
2	S41-302		優
3	S41-303		不可
4	S41-304		優
5	S41-305		優
6	S41-306		不可
7	S41-307		優
8	S41-308		良
9	S41-309		優
10	S41-310		優
11	S41-311		優

上記の成績を修得したことを認めます。

平成 24 年 3 月 2 日

徳山大学教務部教務課　教務部長　三宅　剛

出典：教務係資料

資料１１－３－②－２　オーストラリア・ワランゴン大学におけるインターンシップ

平成２３年度徳山工業高等専門学校
専攻科インターンシップ報告集

Internship in the University of Wollongong

Environmental Construction Engineering　1 grade　Suenaga Yuma

Place: The University of Wollongong
Period: From June 9th to September 5 th

Abstract

The University of Wollongong was established in 1951. The university provides a wide range of courses across nine faculties.

During my stay in Australia for about three months, I had learnt the finite element method, which is one of the ways to analyse structures, and matlab , which is a powerful tool to analyse structures.

During my internship, I had created two algorithms using Matlab based on the finite element method.

1.1 Outline

Some algorithms that I had created are as follows;
(A)An algorithm to seek degrees of freedom for any frames
(B)An algorithm to draw a bending moment diagram and to optimize designs of each beam for up to 5-number elements

1.2 Place

I went to the civil engineering building every day. It is shown in Photo. (1.1).



Photo. (1.1)

I had worked at the computer laboratory in this building. It is shown in photo. (1.2).



Photo. (1.2)

When the computer lab was closed, I went to the library or the lab near the library.

1.3 Algorithms

(A)The first algorithm

In general, there are three types of structures; frames, trusses and beams. The algorithm adopts frames because they cover structurally both trusses and beams.

The first algorithm can solve degrees of freedom for any frames and loads given.

$$Q + E = kD \qquad \cdots \quad (1.1)$$

where
E : Equivalent nodal loads
D : Global displacement
Q: Global loads
k : Global stiffness matrix

I created the algorithm to seek degrees of freedom at any given frames using Eq. (1.1) with Matlab.

出典：専攻科インターンシップ報告書

資料１１－３－②－３　平成２３年度専攻科インターンシップ派遣先一覧

専攻	氏名	区分	派遣先	実施期間 始	実施期間 終	担当教員	誓約書	履歴書	覚書 発送	覚書 受領	通勤方法	郵便番号	住所
機械制御工学専攻	[redacted]	企業	株式会社日立プラントメカニクス	6月15日	8月22日	牧野　俊昭	○	○	5/19	6/3		744-0002	下松市東豊井794番地
		企業	日立交通テクノロジー株式会社	6月6日	8月5日	北村健太郎	○	○	5/19	5/31	アパートで一人暮らし	744-0002	下松市東豊井794番地
		公務員	地方独立行政法人山口県産業技術センター	6月16日	8月16日	伊藤　尚	○	○	5/19	6/2		755-0195	宇部市あすとびあ4丁目1番1号
		企業	ティーエス プレシジョン株式会社	6月20日	9月9日	藤本　浩	○	○	5/26 持参	6/3		740-0014	岩国市日の出町2番36号
		企業	ナカシマメディカル株式会社	7月4日	9月30日	櫻本　浩男	○	○	5/19	5/27		709-0625	岡山県岡山市東区上道北方688-1
		企業	東洋鋼鈑株式会社	6月20日	8月19日	西村　太志	○	○	5/31			744-8611	下松市東豊井1302番地
		企業	マツダ株式会社防府工場	6月6日	8月5日	牧野　俊昭	○	○	5/27	6/1	西浦寮へ入居	745-0835	防府市大字西浦888番地の1
情報電子工学専攻	[redacted]	企業	株式会社日立プラントメカニクス	6月6日	8月5日	柳澤　秀明	○	○	5/31	6/3	先方検討中（自家用車可か否か）	744-0002	下松市大字東豊井794番地
		企業	国際ソフトウェア株式会社	6月6日	8月5日	柳澤　秀明	○	○	5/31	6/3	アパート借り上げ，徒歩で通勤	183-0034	東京都府中市住吉町1-81-12 KSWビル
		大学院	九州大学大学院システム情報科学研究院	6月6日	8月5日	山田　健仁	○	○	5/9		寮（構内）	819-0395	福岡市西区元岡744番地
		大学院	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科	6月13日	8月12日	奥本　幸	○	○	5/31	6/2	下宿	630-0192	奈良県生駒市高山町 8916-5
環境建設工学専攻	[redacted]	公務員	周南市役所	6月6日	8月5日	田村　隆弘	○	○	5/31	6/3		745-8655	周南市岐山通1-1
		企業	有限会社古居構造設計事務所	6月6日	8月5日	橋本・鳥袋	○	○	5/30	6/1	実姉の家に宿泊	460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内一丁目16番8号C-8ビル7階
		企業	株式会社ソイル・プレーン	6月6日	8月5日	上　俊二	○	○	5/31	6/2		745-0802	周南市大字栗屋1035-6
		企業	福山コンサルタント株式会社			目山　直樹	○	○	5/31			812-0013	福岡市博多区博多駅東3-6-18
		企業	パシフィックコンサルタンツ株式会社中国支社	6月6日	7月3日		○	○	5/31	6/2	高速バス	730-0051	広島県広島市中区大手町二丁目1番1号
		企業	中電技術コンサルタント株式会社	6月6日	8月5日	渡辺勝利	○	○	5/31	6/3		734-8510	広島市南区出汐二丁目3番30号
		企業	太平洋セメント株式会社	6月6日	9月6日	渡辺勝利	○	○	5/31			285-8655	千葉県佐倉市大作2-4-2
		企業	株式会社興設計コンサルタント	6月6日	8月12日	吉田　健一	○	○	5/31	6/1		743-0021	光市浅江潮音寺2400番地27
		その他	財団法人山口県建築住宅センター	6月6日	7月8日	西尾幸一郎	○	○	5/31	6/1	鶴盛宅から自動車通勤	753-0072	山口市大手町3-24　パークビル2F
		企業	株式会社安成工務店	7月19日	8月12日		○	○	5/31	6/1	アパートから車	751-0865	下関市綾羅木新町3丁目7-1
		その他	公益財団法人文化財建造物保存技術協会九州事務所	6月6日	8月5日	中川明子	○	○	5/31	6/3	ホテルから徒歩	812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前2-11-26　井門博多駅前ビル4F
		大学院	wollongong大学	6月9日	9月5日	原　隆	○	○					
		企業	株式会社トクヤマ	6月27日		海田　辰将	○	○	6/3			745-8648	周南市御影町 1-1
		企業	株式会社笹戸建築事務所	6月6日	8月5日	橋本　堅一	○	○	5/31	6/1		745-0017	周南市新町1-49
		企業	時盛建設株式会社			海田　辰将	○	○	5/31			743-0063	光市島田2-25-12
		企業	中電技術コンサルタント株式会社	6月6日	8月5日	熊野　稔	○	○	5/31	6/3	叔母の家に宿泊→市電	734-8510	広島市南区出汐二丁目3番30号
		企業	太平洋セメント株式会社	6月6日	9月6日	田村　隆弘	○	○	5/31			285-8655	千葉県佐倉市大作2-4-2
		公務員	周南市上下水道局	6月6日	8月5日	工藤　洋三	○	○	5/31		自宅から車	745-0844	山口県周南市速玉町3番15号
		公務員	光市役所	6月7日	7月1日	上　俊二	○	○	5/31	6/3	家から車	743-8501	光市中央6丁目1番地1号
		企業	多機能フィルター株式会社				○	○	5/31			744-0061	下松市笠山2丁目904番地の16
		大学院	熊本大学 工学部	6月13日	7月12日	中川　明子	○	○	5/31			860-8555	熊本県熊本市黒髪2丁目39番1号
		大学院	都城工業高等専門学校 建築学科歴史意匠研究室	8月1日	8月31日		○	○				885-8567	宮崎県都城市吉尾町473番1
		企業	株式会社 カシワバラ・コーポレーション	6月6日	8月5日	原　隆	○	○	5/31			740-0022	岩国市山手町1丁目5番16号
		企業	有限会社TIME	6月6日	8月5日	鳥袋　淳	○	○	5/31	6/1		745-0851	周南市大字徳山7510-16
		企業	山口菱洋システム株式会社	6月6日	8月5日	工藤　洋三	○	○	5/31	6/1		754-0002	山口市小郡下郷2278番地5

出典：専攻科資料

資料１１－３－②－４　専攻科「総合実験」「総合演習」のカリキュラム構成

表2 総合実験のカリキュラム構成

講義名称	回数	概　要	外部講師
ヘリコプター概論	第１回	ラジコンヘリ概要、システム構成と各部の機能・役割の理解	三川・鈴木
	第２回	大気の性質・ジャイロ効果の理解、ヘリ飛行特性の体感	
ヘリコプターの空気力学と性能・飛行特性	第３回	垂直飛行時のローターの空気力学、ヘリの定常飛行性能	長島・河上
	第４回	前進飛行時のローターの空力性能	長島
	第５回	前進飛行時のヘリコプターの定常飛行性能	田辺
	第６回	模型ローターを用いたFORCE TEST	小曳
ヘリコプターの動力および機器	第７回	ヘリコプターとエンジン、模型用エンジンの性能評価	河上
	第８回	PICによるRCサーボモータの制御	(藤本)
ヘリコプターの飛行制御技術	第９回	ヘリコプターの飛行制御技術、ヨー軸制御実験	上村・田辺
ヘリコプターの構造・強度と材料選択	第１０回	ヘリコプター構造・強度と材料選択	河上
	第１１回	回転ブレードのひずみ測定試験	
ヘリコプターの振動	第１２回	ヘリコプターの振動	河上
	第１３回	回転はりの固有振動数の実験	
ま と め	第１４回	総合実験で得た諸特性のまとめ	齋藤・河上
	第１５回	ヘリコプターの課題	

色つき欄のゴシック文字は実験・実習内容を示す。( )は本校教員のみで実施。

表3 総合演習のカリキュラム構成

講義名称	回数	概　要	外部講師
小型ヘリコプター構造実習	第１回	産業用無人ヘリ概要・R50分解実習・産業用無人ヘリの構成	久富・中山
	第２回	構成部品の技術的背景の理解・R50分解組立実習	
	第３回	構成部品の詳細部品設計例の理解・R50分解組立実習	
商品開発の進め方	第４回	商品開発の手順	中山・久富
基本設計演習	第５回	ペイロード設計	田辺
	第６回	メインローター設計・テールローター設計	小曳
	第７回	操縦機構設計・電装品設計	佐藤
	第８回	動力伝達系設計・胴体構造設計	中山
機体諸元決定と作図	第９回	ラフレイアウト	中村
	第１０回	計画図作成	(四村・ほか)
	第１１回	計画図作成	
	第１２回	計画図作成	
詳細設計演習	第１３回	コンポーネントの詳細設計	久富・中山
	第１４回	デザインシート・計画図	久富・中山
ま と め	第１５回	総合演習のまとめ・小型ヘリコプターの応用	齋藤・砂田

( )は本校教員のみで実施

出典：「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」最終報告書

資料１１－３－②－５　「産業論」シラバス

産業論　(Current Industrial Issues)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
教養	必修	１年前	2	講義	天内和人 宇野俊夫 川井康嗣 小野英輔 森野数博 他

【授業の概要】
豊富な経験をもつ実務経験者の講義を通して、経営の基本、産業構造のしくみ、技術革新、国際化、トップマネージメント、技術者の資質、企業人としてどう生きるべきかなどについて学び、就業意識を高める。

【学修の進め方】
学外から招いた複数の講師に講義を行っていただき、その後、各講義に基づいてレポートを提出する。

【授業の概要】

１．天内　和人：オリエンテーション「技術者に求められる教養とは」
２．宇野　俊夫：(未定)
３．川井　康嗣：外資系企業における英語コミュニケーション能力の重要性について
４．小野　英輔：人を育てる
５．森野　数博：求められる技術者像―専攻科生にもとめられるもの
６．森田　俊一：製造業での経営とは
７．岩崎　正明：(未定)
８．白神　誠一：技術者に求められること
９．久保田　忠義：(未定)
１０．藤本　千鶴：社会人のマナー
１１．井上　直樹：(未定)

☆レポートについて：レポートは次のことに留意して作成し、提出すること。

①毎回のレポートには、必ずA4の用紙を用い、ワープロで打って提出すること。手書きなどのものは一切受け付けない。書式は、横書きで、１行４０文字×３０行の１２００字程度とする。原則として用紙１枚に収めること。
②レポートの最初に「レポートのタイトル」、「専攻」、「氏名」を書くこと。
③講義の内容および講義から得られた知識や情報が簡潔にわかり易くまとめてあること。
④講義から得られた知識をインターンシップを遂行する際や、就職して実際に社会に出る際にどのように生かしていくつもりか等、自分の意見が入っていること。
⑤論旨が明快で、論理的に書かれていること。
⑥表現、漢字、段落分け、句読点などが適切であること。
⑦提出期限を厳守すること。いかなる理由であれ、期限後に出されたものは一切受け付けない。

【到達目標】	社会人となるための必要な知識を得て、インターンシップや就職活動に積極的に取り組むことができること。		
【徳山高専学習・教育目標】	Ｃ２	【ＪＡＢＥＥ基準1(1)】	ｄ－２ｄ
【評価法】	各講師の先生方の講義に基づき提出されたレポートを、それぞれ講師の先生方に評価していただき、レポートの評価の合計点をレポートの回数で割った値を最終評価とする。ただし、提出期限内にレポートの提出がない場合は、その回のレポート点は０点とする。 ※レポートの評価は、以下の評価基準に基づき総合的に行うものとする。 ①書式、スタイル等が指定通りに守られているか。 ②講義の内容および講義から得られた知識や情報が簡潔にわかり易くまとめてあるか。 ③意見が、明快かつ論理的に書かれているか。 ④意見を述べる際の、視点、発想のユニークさ、面白さ、オリジナリティーはどうか。 ⑤表現、漢字、段落分け、句読点などが適切であるか。 ※各講師の先生方には、レポートを以下のA+～F-で評価していただき、以下の変換レンジに従って点数化するものとする。 A+=100, A=95, A-=90, B+=85, B=80, B-=75, C+=70, C=65, C-=60（以上合格） （以下不合格）F+=50, F=40, F-=30,　未提出=0		
【テキスト】	講義ノートや資料を配付する。		
【関連科目】	インターンシップ(専攻科１年生)、経営管理(専攻科１年生)、経営工学(専攻科２年生)		
【成績欄】	前期中間試験【　　】　前期末試験【　　】　前期成績【　　】　後期中間試験【　　】　後期末試験【　　】　学年末成績【　　】		

出典：シラバス

資料１１－３－②－６　平成２４年度　「産業論」講師一覧およびスケジュール

	4月10日(火)	天内和人	あまない　かずひと		本校教員
1		井上直樹	いのうえ　なおき		本校校長
2		宇野俊夫	うの　としお		(有)ハラパン・メディアティック
3		小野英輔	おの　ひですけ		サマンサジャパン(株)会長
					suspend
4		白神誠一	しらが　せいいいち		(株)トクヤマ　顧問
5		久保田　忠義	くぼた　ただよし		出光興産(株)　徳山工場副工場長
6		森田俊一	もりた　しゅんいち		東洋鋼鈑(株)　顧問
7		岩崎正明	いわさき　まさあき		(株)ブラテック
					suspend
8		森野数博	もりの　かずひろ		呉高専校長
9		藤本　千鶴	ふじもと　ちづる		(株)西京銀行　経営企画本部　秘書グループ
10					
予備					
予備					

授業候補日	確定＝○	担当
4月10日(火)	○	天内先生
13日(金)		
17日(火)	○	宇野先生
20日(金)	○	川井先生
24日(火)		
27日(金)	○	小野先生
5月1日(火)	○	森野先生
8日(火)	○	森田先生
11日(金)	○	岩崎先生
15日(火)	○	白神先生
18日(金)	○	久保田先生
22日(火)		
25日(金)	○	藤本先生
29日(火)	○	井上校長

出典：専攻科資料

（分析結果とその根拠理由）

協定校において単位互換制度を利用して学生が単位を取得している。インターンシップの受け入れ先として多くの企業や官公庁に協力を頂いている。実践力のある創造的技術者を養成するために，全学科／専攻の横断プロジェクト「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」では，産業界から専門家を招へいし協働教育を実践している。「産業論」などの講義においても実務経験者との協働教育を実践している。

以上のことから，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校の日常的な活動や，教育研究活動の状況に関しては，本校Webサイトにより情報を発信している（資料１１－４－①－１～３）。また，高専だより（資料１１－４－①－４），テクノ・リフレッシュ教育センター年報（資料１１－４－①－５），ゆめふうせん（資料１１－４－①－６）などの多くの出版物を通じて，読者層に応じてわかりやすく紹介している。これらは本校Webサイトに掲載するとともにその冊子は，サテライトオフィス「高専夢広場」（資料１１－４－①－７）にも配布し広く市民の方に提供している。

資料１１－４－①－１　本校のイベント情報

緊急のお知らせ

高専 夢 広場

キャリア教育支援室

教職員紹介

産官学連携

教育研究支援センター

学校公開情報

オープンキャンパス
徳山高専を見て知ろう！学校見学会

図書館

学生寮

協定校

徳山大学
Griffith University
CZECH TECHNICAL UNIVERSITY
広島大学総合科学部・大学院総合科学研究科

イベント情報

2012. 06. 15 伊藤選手 県高校総体テニス男子シングルスで優勝！
2012. 06. 13 平原地区合同環境美化作業に参加【徳山高専学生会】
2012. 06. 04 情報電子工学科２年生の合宿研修
2012. 05. 28 自分で打ったうどんを堪能―留学生見学旅行in香川
2012. 05. 22 総合優勝機械電気工学科２年！新入生歓迎クラスマッチ！
2012. 05. 16 専攻科生達の祭典！（中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会）
2012. 05. 11 科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞
2012. 05. 08 新入生合宿研修 in 徳地
2012. 05. 02 科学技術週間「放射線の科学～放射線の飛行機雲を見てみよう！～」を開催
2012. 04. 25 スポーツの後のBBQは最高！（新入寮生歓迎マッチ）
2012. 04. 20 周南市とおの山山頂に展望台と東屋が完成
2012. 04. 11 入学おめでとう 本科・専攻科入学式
2012. 04. 04 卒業記念のタイムカプセル
2012. 03. 27 卒業生がロボット向け最新ソフトウェア技術を紹介
2012. 03. 16 春・旅立ち！　はじける笑顔！！　「卒業式＆修了式」
2012. 03. 12 まちなかの小さな卒研発表会を開催
2012. 02. 14 周南市長と徳山高専学生とのまちづくり懇談会を開催
2012. 02. 01 英語プレゼンで特別賞受賞！
2012. 01. 20 留学生のつどい開催
2012. 01. 16 １１年ぶりサッカー部優勝！クラブ対抗駅伝
2011. 12. 20 今日は一日高専生！　第２回校内見学会開催
2011. 12. 14 ＪＩＣＡ青年研修事業で来訪
2011. 12. 08 テニス部 中国高等学校新人テニス大会 シングルス準優勝・ダブルス３位
2011. 12. 02 デザコン2011で優秀賞、審査員特別賞、CADコンで審査員特別賞を受賞
2011. 11. 28 「衛星設計コンテスト」で日本航空宇宙学会賞、最優秀模型賞
2011. 11. 22 英語弁論大会で入賞！
2011. 11. 17 周南まちづくりコンテスト2011で最優秀賞、優秀賞
2011. 11. 09 第37回高専祭『Peeece!!』開催
2011. 11. 04 第2回ＪＰＭ学生コンテストで特別協賛会員賞を受賞
2011. 10. 31 3D-CADプロダクトデザインコンテストで優秀賞、審査員特別賞
2011. 10. 25 機械電気工学科５年が連続優勝！平成２３年度クラスマッチ開催！
2011. 10. 21 福島高専から感謝状
2011. 09. 16 科学研究費助成事業研修会を開催
2011. 09. 08 周南ロボコン２０１１「ロボット製作教室」開催
2011. 09. 02 佐賀教授、国立高等専門学校教員顕彰（理事長賞）受賞
2011. 08. 24 平成２３年度第１回顧問会議を開催
2011. 08. 05 団体５競技が優勝！中国地区高専体育大会
2011. 07. 29 寺本選手　山口国体テニス競技の出場権を得る
2011. 07. 22 校内見学会開催
2011. 06. 29 情報電子工学科５年生が創造演習の作品発表会
2011. 06. 21 徳山高専テクノ・アカデミア総会を開催
2011. 06. 07 「産業論」で専攻科生がマナー講習を受講
2011. 06. 01 情報電子工学科２年生が合宿研修を実施

出典：本校 Web サイト

資料１１－４－①－２　本校の活動状況の公表

地域の方へ

本校への質問等

お問い合わせ

上記リンク　または
右上隅の　「お問い合わせ」
をご利用ください。

学校案内

- What is"高専"?
  - 高専の教育体系
  - 徳山高専の学習・教育目標
  - 専攻科について
  - 徳山高専Q&A
  - 中期目標・中期計画
  - 徳山高専環境への取組
- 校長メッセージ
- 学校紹介
  - 学校の沿革
  - 年間行事予定表
  - 学校組織
  - 教職員紹介
  - 学校要覧
  - 高専だより
  - ゆめふうせん

学科・専攻科

- 機械電気工学科
  - 学科・専攻紹介
  - 教員紹介
  - 学科ホームページ
- 情報電子工学科
  - 学科・専攻紹介
  - 教員紹介
  - 学科ホームページ
- 土木建築工学科
  - 学科・専攻紹介
  - 教員紹介
  - 学科ホームページ
- 一般科目
  - 一般科目紹介
  - 教員紹介
- 専攻科
  - 専攻科ホームページ

入試情報

- 入試案内
  - 募集要項
- 4年次編入試験案内
  - 入試概要
  - 入試日程
- 専攻科入試案内
  - 募集要項
- 入試データ
  - 入学状況
  - 入学志願状況の推移
  - 出身地別学生数
  - 出身学校別学生数

教育活動

- 創造性教育について
- 自己点検・自己評価
- 外部評価
- インターンシップ
- 寄付講座

学校生活

- 学生会
- クラブ活動
- 就学経費・奨学金制度
- 学生便覧

進路・就職

- 就職・進学状況（本科）
- 就職・進学状況（専攻科）

学内施設

- キャンパスマップ
- 施設の開放について
- 周辺地図

出典：本校 Web サイト

資料１１－４－①－３　研究シーズ検索（T-SEARCH）



出典：本校 Web サイト

資料１１－４－①－４　徳山高専だより

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2011年度　No.65











進化する高専
KOSEN 50th
2012
高専制度創設５０周年

徳山工業高等専門学校

出典：徳山高専だより

資料１１－４－①－５　テクノ・リフレッシュ教育センター年報



出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

資料１１－４－①－６　ゆめふうせん



学校行事　平成23年度　2011

前期 First Semester

4月6日　第38回入学式・第17回専攻科入学式
4月7日　始業
4月11日～12日　1年生合宿研修
5月2日　臨時休業（5月14日授業）
5月7日　3高専マッチ
5月19日～20日　情報電子工学科2年生合宿研修
5月21日　専攻科推薦入試
6月7日　開校記念日
6月9日～15日　前期中間試験
6月25日　専攻科学力入試
7月2日　保護者会、後援会総会
7月8日～10日　中国地区高専体育大会（広島高専・津山高専・呉高専）
7月11日　臨時休業
7月16日　校内開学会（第1回）
8月4日～10日　前期末試験
8月9日　専攻科前期授業終了
8月11日　終業
8月15日～31日、9月1日～2日　夏季休業、臨時休業
8月13日～8月14日　全国高専体育大会（茨城高専）

後期 Second Semester

10月3日～6日　補講週間
10月3日～6日　土木建築工学科3年生測量実習
10月7日　クラスマッチ
10月11日　後期授業開始
10月16日　全国高専ロボットコンテスト中国地区大会（宇部高専）
10月22日　専攻科社会人・後期学力入試
10月29日～30日　高専祭
10月29日　保護者会、専攻科説明会
10月31日　臨時休業
11月12日～13日　全国高専デザインコンペティション（鈴鹿高専）
11月19日　校内開学会（第2回）
12月2日～7日　後期中間試験
12月17日　クラブ対抗戦団・クラブリーダー研修会
12月22日～23日　全国高専プログラミングコンテスト（奈良高専）
12月27日～1月4日　冬季休業
1月5日　始業
1月12日　学習到達度試験
1月21日　推薦入試
2月9日～16日　後期末試験
2月19日　学力入試
2月20日　臨時休業
2月21日　専攻科後期授業終了
2月24日　終業
2月27日～3月18日　臨時休業
3月14日　第34回卒業式・第16回専攻科修了式
3月19日～　学年末休業
3月26日～30日　再試験

2011.12.16 No.17

ゆめふうせん
徳山高専の今

徳山工業高等専門学校
Tokuyama College of Technology

〒745-8585　山口県周南市学園台
☎(0834) 29-6200
学生課／TEL (0834)29-6232　FAX (0834)29-6161
経務課／TEL (0834)29-6208　FAX (0834)28-7605
ホームページ　http://www.tokuyama.ac.jp/

発　行／徳山工業高等専門学校研合企画室
発行日／平成23年12月16日

【交通案内】

2012
『進化する高専』

http://www.tokuyama.ac.jp/

出典：本校広報リーフレット　ゆめふうせん

資料１１－４－①－７　高専夢広場

Welcome to 高専夢広場 Tokuyama College of Technology

徳山高専公式HP TCT Official Site　お問い合わせ Infomation　サイトマップ Site Map

夢広場とは　活動記録　参加者の声　ブログ　報道関連　リンク

夢広場とは

夢広場概要

Welcome to Tokuyama College of Technology

高専夢広場

徳山工業高等専門学校サテライト

本校の教育、研究、文化活動に関する情報を発信することにより地域社会に貢献をすることを目的とした徳山高専夢広場をTMO徳山複合コミュニティ施設「ふれあいパーク街あい」とともにオープンしました。

今後は徳山高専の学生や教職員による各種イベントや講座および展示等を行い、徳山高専のPRを行います。

また、夢広場は、本校の学生や教職員だけでなく卒業生、後援会の方でも使用できます。会議や同窓会、イベントなどを行う際に是非ご利用ください。

アクセス

住所：745-0032　周南市銀座2－9　徳山高専夢広場
(周南市銀座一番街ふれあいパーク「街あい」内)



↑クリックで拡大

連絡先：〒745-8585　周南市学園台　徳山工業高等専門学校　総務課
TEL:0834-29-6227 FAX:0834-28-7605
E-mail:tiren@tokuyama.ac.jp

【HOMEへ】

毎週大好評開催中

パソコン若葉相談室
いんぐりっしゅる一む
哲学カフェ
英語多読教習所

まちなかウォッチング

徳山商店街「えびす市」でパクリ！



今回は、徳山商店街が毎月第4土曜日に開催している「えびす市」を訪れ、熱々の焼きイカをいただきました
Satellite委員　村重、徳本

詳細

連絡先

〒745-8585
周南市学園台
徳山工業高等専門学校　総務課
TEL:0834-29-6227
FAX:0834-28-7605
E-mail: tiren@tokuyama.ac.jp

徳山高専公式HP / お問い合わせ / サイトマップ

Copyright (C) 2009 徳山高専夢広場. All Rights Reserved.

出典：本校 Web サイト

（分析結果とその根拠理由）

本校の日常的な活動や，教育研究活動の状況に関しては，本校 Web サイトなどの複数のメディアによりわかりやすく情報が発信されている。

以上のことから，高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

各主事，総合企画室，各種委員会等の管理運営体制および事務組織が整備され，その役割も果たされている。また，活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が適切に実施され，外部有識者の意見が反映されるシステムも整っている。さらに，これらの評価結果については Web サイト等に公表している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準１１の自己評価の概要

学校の目的を達成するため，校長が最高責任者としての意思決定を行っている。

そのための補佐体制として，教育計画，学生の厚生補導，寮生の厚生補導について３人の主事を置くとともに，専攻科長，各学科等主任，図書館長，テクノ・リフレッシュ教育センター長，情報処理センター長および事務部長を配置し，それぞれの組織における体制を整備している。

また，機動的な学校運営を行うために総合企画室を設置し，中長期的視野においての情報収集・分析，経営方針等について企画・立案，調整を行い，教育・研究活動の経営基盤の強化を図っている。

事務組織も教員と緊密な連携・協力体制をとりつつ全校一体となった運営を行っており，平成１９年度に業務の効率化とサービスの向上を目的として，総務課，学生課の２課に再編統合し，業務の見直しを積極的に行っている。

自己点検・評価として，毎年度，自己評価委員会により「本校の活動状況報告及び教育点検システムの点検結果報告書」が作成され公表されている。「顧問会議」や日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定など，外部評価の結果を，具体的に管理運営の改善に反映させている。

本校が実施または受審した自己評価あるいは各種外部機関からの評価については，本校Webサイトにより広く社会に公表されている。

本校の日常的な活動や，教育研究活動の状況に関しては，本校 Web サイトなどの複数のメディアによりわかりやすく情報が発信されている。